渭源秀方收藏
圖書記

# 漢文木柔

# 唐宋家文 上

# 例言

一　本書本文中の評釋及び段落は、總べて文學博士三島中洲先生の說にして、從來二松學舍生獨得のものなりしを、今回博士に請ひて、博く之を江湖に發表することと爲せり。而して博士の令息文學士三島復氏特にこれが校閲の勞を執られしものなり。ここに記して謝意を表す。

一　欄外假名交りの注釋は予の擔當する所なりしが、多忙の故を以て果さず、專ら文學士若木廣良氏の筆に成りしものにして、中洲先生の與り知らるる所に非ざるなり。

一　年譜は富山房編輯局の編纂に係り、解題は予の起草せしものなり。

明治四十三年八月

兒島獻吉郎識

# 解題

唐宋の文人作家は實にその人に匿しからず。而して唐宋の間に八大家を選定せしは朱伯賢の八先生文集に始まりて、唐荊川の八大家文格に顯はれ、茅鹿門の八大家文鈔及び儲同人の八大家類選に定りぬ。則ち八家の選定は明代に昉まり、沈德潛の唐宋八大家文讀本は茅儲二家の選本に基因せるものにして、茅儲二家の選本は沈氏の選本の前身と謂ふべきなり。

然れども八家の選定に就きては、古來學者間に異論なきに非ず。呂東萊の古文關鍵に唐宋の作者八家の文を載せたりと雖も、彼の八家は韓柳歐曾及び三蘇の七家以外に、張耒を取りて王安石を取らざりき、賴山陽の如きは曾鞏を八家中に入るべからずとて、余不レ喜二曾文一、況讀二三蘇一而次至二於此一、如レ與二快友一談罷、更逢二紗帽惡客一、安得レ不二悶悶一と曰ひぬ。顧ふに王安石を排するは、安石の性行に慊焉たらざるものあるによりてのみ、文章家としての彼は優に八家に伍するに足れば、決して其人を以て其言を廢すべからざるなり。曾鞏の文は固より三蘇の文と趣致を殊にせりと雖も、しかも亦三蘇の特色以外に彼の特色なきに非ず。試に八家に就きて、その特色を發揮せん。

## 一　韓退之と柳子厚

漢魏以後隋末に至る八百餘年の文章は、蘇軾の所謂八代の衰なり。故に唐興りてより高祖以後一百六十餘年間の文章は、尙ほ江左の餘風を承けて雕章繪句の弊に陷りしも、貞元元和の際に韓愈柳宗元出でて、先秦の古文を唱道するに及び、皇甫湜季翊等これに應和し、遂に能く八代の衰を挽回し、上は孟莊荀韓の徒に接踵し、下は歐蘇王曾の輩をして風を聞きて興らしむ。蓋し唐宋以降文章復興の氣運は、韓柳の二家實にその端を啓きしものなり。

韓柳以前の唐の文章は、初唐に王勃揚炯あり、能く一代を代表して四六駢儷の美を發揮せり、これ文章上の第一期なり。降りて盛唐の初めに蘇頲張說の文章ありて、時に燕許の大手筆と稱せらる。これ時文の稍變調に屬するものにして、文章上の第二期なり。後ち韓柳二家中唐に出でて、狂瀾を既倒に回するに及びて、文章上の第三期を爲せり。然れども陳子昂の奏疏、元結の奏議が時習に染まずして、能く古文の面目を得たるが如きは、韓柳二家の先驅を爲せるものに庶幾からんか。

韓愈字は退之、文公と謚せらる。人と爲り明敏果銳にして、言を發するに畏避する所なく、操守堅正にして妄りに詭隨せず、慨然として名敎を興起し、節義を弘奬するを以

て己の任と爲し、人と交るに榮枯窮達によりて節を易へず、常に後進を利導して誘掖推援最も懇切を極め、小子後生にして彼の指授を受くるもの、及び一時の名士にして彼と與に詩酒の間に徵逐するもの、皆自ら韓門弟子と稱しぬ。

彼は幼より學を好み、膏油を焚きて晷に繼ぎ、矻矻として日に數百千言を記す。稍長ずるに及びて六經百家の學に通じぬ。しかも彼の成功は、學者たるよりも寧ろ詩人たるに在りて、彼の價値は詩人たるよりも寧ろ文章家たるに在りき。彼の初め文章を學ぶや、戛戛乎として渾身の心血を傾注し、處るときは忘るる如く、行くときは遺る如く、儼乎として思ふ如く、茫乎として迷ふ如く、文章を以て自家の生命と爲し、讀む所のものは三代兩漢の書にして、期する所は聖人の志、仁義の道に在りき。

彼恆に當時の文が排偶の弊に拘束せられて、經誥の指歸、馬班の氣格、復た振起せざるを憂へ、一意專心深く本始を探りて、上は姚姒の渾渾として涯なく、周誥殷盤の佶屈聱牙、春秋の謹嚴、左氏の浮誇、易の奇にして法、詩の正にして葩なるより、下は莊騷太史の錄する所、子雲相如の同工異曲に逮ぶまで、皆取りて己が藥籠中の物となし、しかもこれを筆に託し紙に發するに及びて、務めて陳言を去り、肯て前人の一言一句を踏襲せざりき。特に行文の間に長短錯綜の句法を用ひしが如きは、四六駢儷の宿弊を打破

せんと欲する彼の意氣精神の發現に非ずや。これ彼が唐三百年の第一人として、文學上に無上の光榮と莫大の價値とを有する所以なり。

柳宗元字は子厚、少にして聰慧、能く經史に通達し、最も漢詩楚騷に精しく、童子たりしとき已に成人の風ありき。後ち博學宏辭の科に登り、集賢殿正字となり、儁傑廉悍、議論古今を證據し、經史百子に出入し、踔厲風發、常に一座を屈し、名聲大に振ひ、一時の名士皆慕うて交を彼に求め、諸公要人爭うて我門下に出でしめんと欲しぬ。其文章を作るや、思を構へ筆を拔れば、琤として金玉の如し。晩に罪を得て自ら山水の間に放浪するに當りて、心中の不平鬱勃一にこれを文に發して、汎濫渟蓄、古に近くして壯麗なり。

彼の少時の作は、尙ほ六朝の餘習を帶ぶるものありと雖も、貶謫以後の作は、篇篇精緻奇峭にして、鏗鏘の音あらざるはなし。彼嘗て自ら文章を作るときの工夫を述べて、輕心を以てこれを掉かさず、怠心を以てこれを易へず、昏氣を以て出ださず、矜氣を以て作らず、書に本きて質を求め、詩に本きて直を求め、禮に本きて宣を求め、春秋に本きて斷を求め、易に本きて動を求め、穀梁氏に參してその氣を厲にし、孟荀に參してその文を暢ばし、莊老に參してその端を肆にし、國語に參して趣を博くし、離騷に參して幽を致し、太史公に參して潔を著はすと曰へり。これ彼の抱負にして、また韓愈が八代の

衰を挽回せんとするの意氣と、その揆を一にせる所あるを知るべし。

試に韓柳二家を比較せんに、二家同時に生れて、交誼最も親密なりしに係はらず、その人物性格、その主義本領に於て兩者全く相殊なり。韓が畢生極力佛を排斥せるに反して、柳は浮圖の言を嗜みて易論語に合へりと爲し、韓が周孔孟軻の道統を得たるものと自信して流俗を顧みず、抗顏人の師となり、後學を收召せるに反して、柳は聖人の道を扶翼せんと欲しながら、強ひて人の師たるを避く。韓が連りに貶謫を被るとも、百錬の剛鐵、毫も挫折せずして、晩年の氣焰益高かりしに反して、柳は一たび坐して永州に貶せらるるや、深く自ら氣鋒を藏して、文學辭章以外に復た觀るべきものなかりき。而して二家の文章を比較すれば、韓は高山の雄峙せるが如く、大川の奔洶せるが如く、柳は巉巖の奇峭なるが如く、絕澗の磯激せるが如く、韓は平原曠野に正を以て合する師の如く、柳は間道斜谷に奇を用て交はる兵の如く、韓は天成の美玉の如く、柳は人工の彫金の如く、前者は經に原づきて理を論じ、後者は史に原づきて事を敍べ、前者は局面の宏肆と氣魄の雄大とを以て勝り、後者は敍述の精微と筆致の雋潔とを以て勝りぬ。故に韓の詩は時に有韻の文たることあるに反して、柳の文は時に無韻の詩たることあり。これ韓柳二家の特色各殊なる所に非ずや。

## 二　歐陽永叔

宋が古文の普及時代にして、散文の全盛期なるは、猶ほ唐が律語の普及時代にして、韻文の全盛期なるが如し。唐の韻文界に於ては、李杜以外の詩人にして、李杜の壘を摩すべきもの尠からず。唐詩紀事に唐の詩人一千一百五十家を採輯せりと雖も、一代の名家は猶ほ未だ盡く網羅せられたるに非ず。全唐詩に唐の名家二千二百餘家を採錄せりと雖も、三百年間の詩人は猶ほ遺佚なきに非ず。而して唐の散文界に韓柳の二大家を出だせりと雖も、韓柳以外の古文家にして、二家に接踵すべきもの殆んど一人もなかりき。

然るに宋の散文界に於ては、歐蘇王曾の六大家を出だせるのみならず。六大家以外の古文派にして、能く六大家の壘を摩すべきもの少からず。司馬光、呂祖謙、陳亮、朱熹の如き皆然らざるはなし。故に唐宋詩醇に於て、宋は僅に其二を占めて、唐は其四を占むるが如きは、唐の韻文全盛を證すべしと雖も、唐宋文の八大家を選定するに方りて、唐は僅に其二を占めて、宋は卻つて其六を占むるが如き、亦宋の散文全盛を證すべきに非ずや。

宋初の散文界が、五代の後を承けて駢偶纖儷の弊習に陷りしは、猶ほ唐初の文章が

六朝の餘習を帶びたるが如し。而して宋に歐陽修出でて古文を鼓吹せしは、猶ほ唐に韓愈出でて古文を唱道せしが如し。歐陽修嘗て韓退之の遺稿を獲て、一讀再誦、心竊に仰慕して、志を苦しめ願を探り、一時寢食を忘るるに至りぬ。則ち彼が退之に私淑せることの大なるを知るべし。蘇東坡嘗て彼を稱して今の韓愈なりと曰ひ、韓魏公も亦嘗て彼の爲に墓誌銘を撰して、自二漢司馬遷一沒、幾千年而唐韓愈出、愈之後又數百年、而公始繼之、氣焰相薄、莫二適高下一と曰ひぬ。蓋し彼の文が嘗に退之を祖述せし所あるのみならず、文學上に於ける彼の功が、退之に頡頏すべきものあるを看破したるものに非ずや。況んや三蘇は皆彼の推援によりて其志を得、曾鞏王安石も亦彼の奬引によりて其名を成したるが如きは、實に司馬遷韓愈以上の功績と謂はざるを得ざるなり。

歐陽修字は永叔、醉翁と號し、また自ら六一居士と稱し、文忠と謚せらる。その人と爲り剛勁にして、義を見て爲さざるなく、機穽前に在りと雖も、一たび志を立つれば少しも顧慮する所なし。蓋し彼は氣の人にして、情の人に非ざるなり。故に屢貶謫せらると雖も、志氣少しも撓むことなかりき。而して彼の文章は、最も平淡にして最も溫潤なり。故に彼の文を讀みて彼の人と爲りを想像すれば、彼は情の人にして、溫厚の君子、寬仁の長者たりと謂はしむ。彼の性行を知りて彼の文章を想像すれば、彼の文章は英偉剛

勁にして一氣呵成、翰を揮へば輒ち飛ぶが如きものなるべしと謂はしむ。彼の性かくの如く剛勁にして、彼の文かくの如く溫潤なりし所以は何ぞや、蓋し鍛鍊推敲の功自ら然らしむるのみ。則ち彼の平淡は東坡の所謂絢爛の極なるものならんか。

凡そ人の文章には、少年の作と、中年の作と、晩年の作との三大變化あるものなり。少年の作に英氣あり、霸氣あり、晩年の作に老成の趣あり、圓熟の致あるは必然の數なり。然るに歐陽修の文は、篇篇老成にして、字字圓熟ならざるはなし。これ彼が常に自ら推敲して改竄を加へ、晩年に至りて猶ほ百世の笑を怕れて、自ら舊稿を改むるに苦心せしに由れるのみ。彼は嘗て作文の法を述べて、看多、做多、商量多の三多を稱し、また作文在熟、變化姿態皆自熟處生と曰ひぬ。故に彼自ら文を作るや、その稿を壁に貼して改竄を事とし、終篇一字を留めざることありき。晩年手づから舊稿を改むるに甚だ苦しみしとき、夫人旁より問ひて曰く、先生の嗔を畏るるかと。彼は對へて、先生の嗔を畏るるに非ずして、卻つて後世の笑を怕るるのみと曰ひぬ。これ彼畢生の主義なり、理想なり。

## 三　三蘇

蘇洵字は明允、老泉と號す、蜀の眉山の人なり。年二十七にして始めて憤を發して學を爲し、進士及び茂才の試に應せしも及第せざりしかば、意氣嶸峥の彼は、慨然として

平常爲りし文を悉く焚き、戸を閉ぢ書を讀み、遂に六經百家の説に通じ、嘉祐年間に二子軾轍と倶に京に至りて、翰林學士歐陽修に詣り、權書衡論等二十餘篇を上りぬ。歐陽修これを得て、賈誼劉向不レ能レ過也と曰ひしかば、一時士大夫爭うて之を傳誦し、文人學者競ひて之に模倣し、遂に三蘇の名聲は天下を風靡するに至れり。

老泉は氣の人なり、東坡は才の人なり。故に老泉の文に揣摩縱横の氣習ありと雖も、その筆勢矯矯として波瀾横成せるは、八家中希に覩る所なり。呂東萊嘗て彼の文を稱して、戰國策史記より出づるものと爲し、彼の好處を學ぶべく、彼の不純處を戒むべしと曰へり。亦故なきに非ざるなり。

蘇軾字は子瞻、嘗て黄州に謫せられてより、自ら東坡居士と號せり。幼より穎悟にして識見あり、冠するに及びて博く經史に通じ、嘉祐二年に弟轍と同じく禮部の試に應ず。時に考官歐陽修は子瞻の刑賞忠厚之至論を得て、これを多士に冠せんと欲せしも、その客曾鞏の作ならんと疑ひ、之を第二に置けり。轍も亦選中に在りしかば、仁宗二蘇の對策を讀み、大に喜びて朕今日爲二子孫一得二兩宰相一と曰ひぬ。

彼の文章は老泉を師承せるものなりと雖も、彼の天才は乃父に過ぐるを以て、横説竪説、意の到る所、縱横奔馳復た滯礙なく、その體渾涵、その趣淵深、而してその氣焰光芒

永く百代に雄視せり。もし彼の天才を古人に比すれば、莊周の神才と李白の仙才との間に在るものならんか。彼嘗て自ら文を作る法を述べて、文章は行雲流水の如しと曰ひ、また吾文は萬斛の泉源の如く、地を擇ばずして出で、行くべき所に行き、止まらざるを得ざる所に止まると曰ひぬ。これ彼が古今の文章家中、天才派の泰斗たる所以なり。

天才詩人たりし彼は、固より經義道德を以て束縛せらるることなかりき。故に已に禁林に登れども敢て言語を愼まず、常に綺語を以て時政を謗訕し、時に高才を負みて諸公卿を狎侮せしかば、彼は屢人の慍を蒙りて、往往奇禍を招くことあり。これ蘇轍が彼を戒むるに口舌の禍を以てせし所以にして、嚴峻を以て自ら持する程頤と、天才派の彼とが相容れざりし所以も、亦ここに在るのみ。然れども彼は天下の士を汎愛して、賢と不肖とを問はず、親と疎とを論ぜず、常に歡如として肝膽を輸瀉せざるはなし。彼嘗て汎愛の交を述べて、上可以陪二王皇天帝一下可以陪二悲田院乞兒一と曰へり。これ蘇轍が居常晦默を主として、許可少きと撰を異にせり。故に蘇轍又彼を戒むるに友を擇ぶべきを以てせり。而して彼は對へて、眼前天下に一個の不好人なしと曰ひぬ。蓋し彼の曠懷にして雅量なるや、賢不肖親疎一たび彼の眼に入りて、皆心に逆ふなし、安んぞ好不好を辨ぜんや。街談市語一たび彼の鎔化を經れば、皆詩に入るべし、安んぞ雅俗を知ら

んや。儒道佛仙一たび、彼の剪裁を待ちて、皆己の藥籠中の物と化す、安んぞ獨り孔顏の樂のみを樂まんや。彼の超然臺は莊周達觀の旨にして、大悲閣は佛境界の文字、芙蓉城黃鶴樓は仙境界の文字に非ずや。天才の詩人、口を開けば文を爲し、筆を援れば章を成し、之を左右に取りて其の源に逢ふ。豈區區として是非の判斷に迷ひ、善惡の區別に苦心することあらんや。これ强忮執拗の王安石をして、子瞻は人中の龍なりと贊歎せしめし所以ならずや。

蘇轍字は子由、潁濱と號す、明允の次子にして子瞻の弟なり。然れども彼の性行を察するに、乃父の豪氣なく、乃兄の天才なく、素樸にして沈靜、寡言寡欲にして交友を擇ぶものの如し。故にその文に發するもの、法度整齊にして恬澹淳蓄、その人と爲りに類せり。しかも亦時に大言壯語、痛論切議、殆んど父兄に愧ぢざるものなきに非ずと雖も、彼の長所は此に在らずして寧ろ彼に在るなり。

## 四　王安石と曾鞏

王安石字は介甫、半山と號す。幼より聰慧にして、讀書一遍輒ち終身忘れず、長ずるに及び、博學多聞にして世の宗師と爲り、當時學者その門下に出づるを榮とし、一たび彼に稱譽せらるれば、無上の光榮と爲して、名聲天下に喧傳せらるるに至れり。然れども

彼の人と爲りは、強忮自[redacted]恣にし、執拗にして敢て囘げざること啻に新法のみに非ず。彼の經を治め字を解くや、亦この弊竇に陷れり。これ曾鞏が彼を稱して過を改むるに客なりと曰ひし所以なり。人あり嘗て彼に問ひて、覇の字は何を以て西に從ふと曰ふや、安石對へて、西は方域に在りて殺伐を主とすとて、呶呶數百言を累ねて猶ほ休まざりき、客曰く覇の字は雨に從ふ、西に非ずと、安石輒ち口に隨ひて、時雨化するが如きのみと曰へり。その穿鑿かくの如し。故に晩年に字說を著はすや、頗る牽強附會の說多かりしかば、東坡嘗て詰問するに葬亂の二字を以てして、牛之體壯於鹿、鹿之行速於牛、今積三爲字、而其義皆反之何也と曰ふ、安石答ふる能はざりき。また字說に波は水の皮なりと解くや、東坡乃ち滑は水の骨かと嘲りぬ。

然れども彼の文は純潔なり、雄偉なり。その文を爲るや、初より意を經ざるが如しと雖も、一たび紙に臨めば運筆飛ぶが如し、而して既に成るに及んで、人皆その精妙に心服せざるはなし。蓋し彼も亦非凡の才と氣とを兼有せるものなり。且つ彼の稟性華奢を好まず、自ら奉ずること至儉にして、衣汚るれども澣はず、面垢すれども洗はざりしが如きは、彼が反對黨より姦人と目せられたる所以なりと雖も、亦讀書人たるを證するに餘りあるなり。もし彼の政治家としての資格及び技倆は、世已に定論あれば茲に

贅せざるなり。

曾鞏字は子固、南豐と號す。年十二にして六論を作る、その辭甚だ富偉なり。後ち大學に遊ぶに及んで、歐陽修一見して之を奇とす。これより彼の名天下に聞ゆ、故に彼の文章は六經に原づき、旁ら司馬遷韓愈に私淑せりと雖も、主として歐陽修に親炙せしもの多し、ただ永叔に比して露骨なる所あるのみ。蓋し彼の性矜汰にして傲忽なる所多し。章惇嘗て彼に謂ひて、公の賀明堂禮成表を見るに、眞に天下の奇作なりと曰ひしに、彼少しも辭讓する所なく、卻つて問ひて曰はく、班固の典引に比して如何と。惇答ふる所を知らざりき、これ彼の文が歐陽修に似て、しかも永叔の推敲を缺き、六一の溫潤を失ふ所以ならずや。

明治四十三年八月

兒島獻吉郎識

# 唐宋八大家系圖並年譜

## 韓愈 字退之、鄧州南陽人

- 仁泰 曹州司馬
  - 叡素 桂州長史
    - 仲卿 祕書郎贈尚書右僕射
      - 會 起居舍人
      - 介 率府參軍
        - 愈
          - 昶
    - 少卿
    - 雲卿 禮部郎中
      - 俞 開封令
        - 弇
    - 紳卿 涇陽令

| 皇紀 | 西暦 | 漢暦干支 | 事蹟竝著作 | 年齒 |
|---|---|---|---|---|
| 一四二八 | 七六八 | 代宗大暦三戊申 | 公生ル、仲卿ノ第三子。 | 一 |
| 一四三〇 | 七七〇 | 五庚戌 | 父仲郷卒ス、兄會ニ養ハル。 | 三 |
| 一四三四 | 七七四 | 九甲寅 | 兄ニ從ヒテ洛ヲ去リ、秦ニ居ル。〇克ク書ヲ讀ム。 | 七 |
| 一四三八 | 七七八 | 一三戊午 | 兄會讒ニ遭ヒテ南ニ貶セラル、從ツテ韶州曲江ニ至ル、兄歿ス、嫂鄭氏ニ從ツテ河陽ニ歸葬ス。 | 一一 |
| 一四四〇 | 七八〇 | 德宗建中一庚申 | 能ク文ヲ作ル。 | 一三 |
| 一四四五 | 七八五 | 貞元一乙丑 | 亂ヲ避ケテ江南ニ移ル。 | 一八 |
| 一四四六 | 七八六 | 二丙寅 | 始メテ京師ニ來ル。 | 一九 |
| 一四四七 | 七八七 | 三丁卯 | 進士ノ試ニ應ズ、報アリ、罷メラル。 | 二〇 |
| 一四四八 | 七八八 | 四戊辰 | 「鷹薛公達書」 | 二一 |
| 一四四九 | 七八九 | 五己巳 | 書ヲ賈滑州ニ上ル。 | 二二 |
| 一四五〇 | 七九〇 | 六庚午 | 江南ニ歸省ス。 | 二三 |
| 一四五一 | 七九一 | 七辛未 | 京師ニ至ル。「送齊皡下第序」 | 二四 |
| 一四五二 | 七九二 | 八壬申 | 春進士登第。「明水賦。爭臣論」 | 二五 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一四五三 | 七九三 | 九 癸酉 | 博學宏詞ノ試ニ應ズ、報アリ、罷メラル。「應科目時與人書。上考功崔虞部書」 | 二六 | |
| 一四五四 | 七九四 | 一〇 甲戌 | 博學宏詞ノ試ニ應ズ、報アリ、罷メラル、河陽ニ歸リ、墳墓ヲ省ス、嫂鄭氏卒ス。「答崔之書。李元賓墓銘」 | 二七 | |
| 一四五五 | 七九五 | 一一 乙亥 | 正月書ヲ宰相ニ上リ、仕ヲ求ム、五月京師ヲ去リ、東都ニ往ク、途ニ「感二鳥賦」ヲ作ル、偃師ヲ過ギテ田横ヲ祭ル。「祭田横文。上宰相書。三書。送董邵南序。畫記。送張童子序」 | 二八 | |
| 一四五六 | 七九六 | 一二 丙子 | 秋宣武節度使董晉ノ辟ニ應ジ、汴州觀察推官試祕書省校書郎トナル。 | 二九 | |
| 一四五七 | 七九七 | 一三 丁丑 | 汴ニアリ。「復志賦。毛穎傳或ハ元和初年ノ作トス」 | 三〇 | |
| 一四五八 | 七九八 | 一四 戊寅 | 汴ニアリ。「水門記。楊燕奇碑」 | 三一 | |
| 一四五九 | 七九九 | 一五 己卯 | 二月董晉薨ズ、其喪ニ從ツテ洛ニ至ル、汴軍亂ル、公ノ家圍中ニ在リ、脫レテ彭城ニ趨ル、公洛ヨリ徐州ニ到リ、節度使張建封ニ依ル、建封奏シテ節度推官試協律郎ト爲ス、書ヲ建封ニ上リ、晨入夜歸ノ事ヲ論ズ、冬徐州ノ從事ヲ以テ京師ニ朝ス、時ニ國子監四門助教歐陽詹、其徒ヲ率キテ闕 | 三二 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 下ニ伏シ、先生ヲ擧ゲテ博士ト爲サントス、會〻監ニ獄アリ、遂ニ果サズ。「上張僕射書。掌書記廳石記。太學生何蕃傳。崔評事墓銘」 | | |
| 一四六〇 | 八〇〇 | 一六庚辰 | 五月徐ヲ去リ、洛ニ歸ル、是年建封薨ズ、徐軍亂ル、公難ニ與ラズ。「答李翊書。與孟東野書。答張籍書。與馮宿論文書」 | 三三 | |
| 一四六一 | 八〇一 | 一七辛巳 | 家ヲ挈ヘテ京師ニ入ル。「故貝州司法參軍李君墓誌銘。送孟東野序。與陳給事書。與衞中行書」 | 三四 | |
| 一四六二 | 八〇二 | 一八壬午 | 國子四門博士ニ拜ス。「禘祫議。論今年停擧選狀。送何堅序。施先生墓銘。送陸歙州序」 | 三五 | |
| 一四六三 | 八〇三 | 一九癸未 | 監察御史ニ遷ル、是年京師旱シ、民饑ウ、公張署李方叔ト上疏シテ狀ヲ云フ、幸臣李實ノ讒スル所ト爲リ、連州陽山ノ令ニ貶セラル。「送浮屠文暢序。祭十二郎文。御史臺上論天旱人飢狀」 | 三六 | |
| 一四六四 | 八〇四 | 二〇甲申 | 春陽山ニ到ル、公ノ陽山ニ在ルヤ、民ヲ愛スル子ノ如シ、民之ニ父事シ、子ヲ生メバ多ク公ノ姓ヲ以テ之ニ名ク。「燕喜亭記。送竇秀才序。送區冊序。送楊支使序」 | 三七 | |
| | | | 春恩赦ヲ以テ召回セラレ、夏陽山ヲ去リ、命ヲ郴ニ俟ツ、 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一四六五 | 八〇五 | 順宗<br>永貞一 | 乙酉 | 秋徙ツテ江陵府ノ法曹參事トナル。「上于襄陽書。上兵部李侍郎書。荆潭唱和詩序。知名箴」 | 三八 |
| 一四六六 | 八〇六 | 憲宗<br>元和一 | 丙戌 | 召還セラレテ國士博士ニ權知タリ。「送許郢州序。贈崔復州序。祭十二兄岌文。同墓誌」 | 三九 |
| 一四六七 | 八〇七 | 二 | 丁亥 | 東都ニ分司タリ。「張中丞傳後序。與汝州盧郎中論薦侯喜狀。考功員外盧君墓銘。處士盧君墓誌」 | 四〇 |
| 一四六八 | 八〇八 | 三 | 戊子 | 改メテ眞博士トナル。「釋言。與崔羣書」 | 四一 |
| 一四六九 | 八〇九 | 四 | 己丑 | 六月都官員外郎ニ改メラル。「與少室山人李拾遺書。送幽州李端公序。國子助教河東薛公墓誌銘」 | 四二 |
| 一四七〇 | 八一〇 | 五 | 庚寅 | 河南令ニ拜ス、處士石洪、溫造、盧仝、及故登封尉盧殷ト交ル、殷死ス、爲ニ棺木ヲ買フ。「送石處士序。送溫處士序。送湖南李正字序。河南府同官記。贈司勳員外郎孔君墓誌銘。河中法曹張君墓碣銘」 | 四三 |
| 一四七一 | 八一一 | 六 | 辛卯 | 朝議郎行尚書職方員外タリ。「送窮文。復讎狀。襄陽郡王路公神道碑銘。江西觀察使韋公墓誌銘。王屋縣尉畢公墓誌銘」 | 四四 |

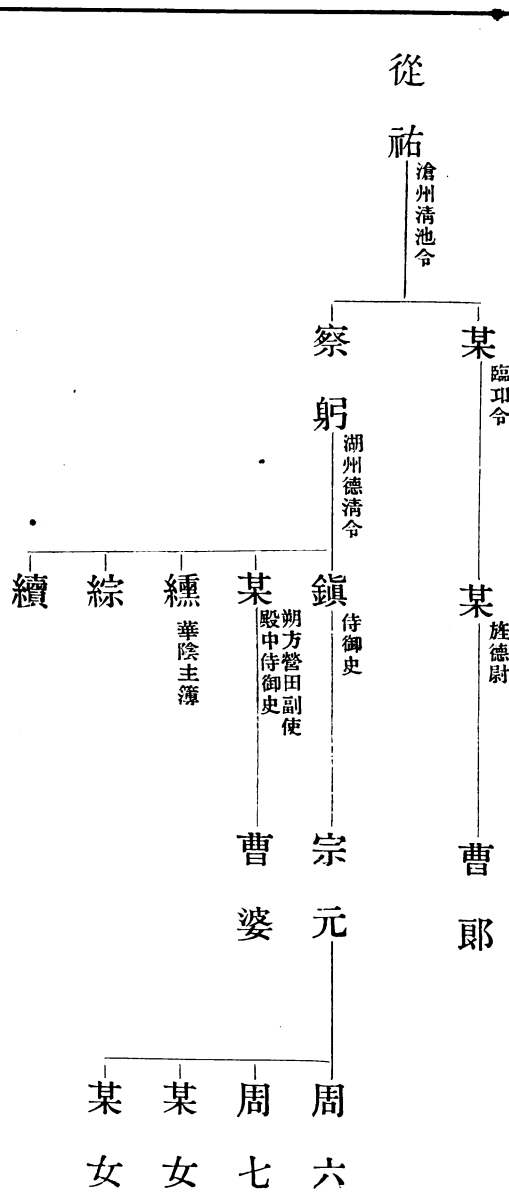
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一四七二 | 八一二 | 七壬辰 | 二月華州刺史、華陰令柳澗ノ罪ヲ奏ス、公上疏シテ曲眞ヲ辨ゼシコトヲ請フ、御史按ジテ澗ノ罪狀ヲ得、公之ニ坐シテ國子博士ニ左遷セラル。「石鼎聯句詩序。進學解。答劉秀才論史書。錢重物輕狀或ハ長慶元年ノ作トス」 | 四五 |
| 一四七三 | 八一三 | 八癸巳 | 宰相進學解ヲ覽テ之ヲ憐ミ、三月改メテ比部郎中史館修撰ト爲ス、公館ニ入リ、史ヲ修メズ、或人書ヲ貽ッテ其筆削ヲ勸ム、公答ヘテイフ、古ヨリ史ヲ爲ス者、人責アラズンバ必ズ天災アリト、柳子厚書ヲ以テ其失ヲ箴ム。「烏氏廟碑。鄭儋神道碑。魏博節度沂國公先廟碑銘。試大理評事王君墓誌銘。答王侍御書」 | 四六 |
| 一四七四 | 八一四 | 九甲午 | 十月考功郎中ニ轉ジ、修撰故ノ如シ、十二月考功郎中ヲ以テ知制誥タリ。「劉統軍碑。貞曜先生墓誌銘。王適、孟郊、扶風郡夫人ノ墓誌」 | 四七 |
| 一四七五 | 八一五 | 一〇乙未 | 「論淮西事宜狀。與鄂州柳中丞書。徐偃王碑。「藍田縣丞廳記」」 | 四八 |
| 一四七六 | 八一六 | 一一丙申 | 正月中書舍人ニ遷ル、緋魚袋ヲ賜ハル、五月太子右庶子ニ拜ス。「曹成王碑。送李愿歸盤谷序。袁氏先廟碑。河南令 | 四九 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 張君墓誌銘」 |
| 一四七七 | 八一七 | 一二丁酉 | | 裴度吳元濟ヲ討ズ、奏シテ公ヲ彰義軍行軍司馬兼御史中丞ト爲ス、度ニ從ツテ淮西ヲ征ス、還ルニ及ビ、功ヲ以テ刑部侍郎トナル。「祭張員外文。送殷員外使回鶻序」 | 五〇 |
| 一四七八 | 八一八 | 一三戊戌 | | 三月敕ヲ奉ジ、平淮西碑ヲ進ム、多ク裴度ノ功ヲ敍ス、李愬不平ナリ、詔シテ段文昌ニ命ジ、重ネテ文ヲ撰シ、石ニ勒セシム。「平淮西碑。權德輿墓碑。李惟簡墓誌」 | 五一 |
| 一四七九 | 八一九 | 一四己亥 | | 正月憲宗佛骨ヲ迎フ、公上疏シテ其弊ヲ極諫ス、遂ニ潮州刺史ニ貶セラル、卽日道ニ上ル、三月潮州ニ至リ、謝表ヲ上ル、潮州ニ鱷魚ノ患アリ、公鱷魚文ヲ作ツテ之ヲ驅ル、鱷終ニ徙リ去ルト云フ、鄉校ヲ建テ、趙德ヲ擧ゲテ敎授トス、僧大顚ト交ル、十月袁州刺史ニ移サル。「諫迎佛骨表。潮州謝表。鱷魚文。祭大湖神文與大顚書。少府監胡良公墓神道碑」 | 五二 |
| 一四八〇 | 八二〇 | 一五庚子 | | 正月袁州ニ到ル、穆宗位ニ卽ク、召サレテ國子祭酒トナル、袁ニ在ルヤ、民ノ奴婢ト爲ル者ヲ贖ヒ、七百餘人ヲ歸ス。「答孟尙書書。南海神廟碑。新修滕王閣記。祭柳子厚文同墓誌銘」 | 五三 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一四八一 | 八二一 | 穆宗長慶一 辛丑 | 秋七月兵部侍郎ニ轉ズ。「黃陵廟碑。韋侍講盛山十二詩序。庫部郎中鄭君墓誌銘。陝府左司馬李公墓誌銘」 | 五四 |
| 一四八二 | 八二二 | 二 壬寅 | 成德軍亂ル、詔ヲ奉ジテ成德鎭ヲ宣撫ス、順逆ヲ諭シ、辭情切ニ至ル、王廷湊畏レテ之ヲ禮ス、穆宗重ク用フルノ意アリ、吏部侍郎ヲ授ケラル。「祭侯主簿文。司業竇公墓誌銘。楚國夫人墓誌」 | 五五 |
| 一四八三 | 八二三 | 三 癸卯 | 六月吏部侍郎ヲ以テ京兆尹兼御史大夫トナル、六軍ノ將士皆相犯サズ、歲旱ニ遇フトモ米價踊ラズ、十月復兵部侍郎トナル、又吏部侍郎ニ遷ル。「送鄭權尚書序。祭馬僕射文。祭女挐文。許國公神道碑。羅池柳侯廟碑。太原王公神道碑銘。幽州判官贈給事中張君墓誌銘」 | 五六 |
| 一四八四 | 八二四 | 四 甲辰 | 子昶進士第ニ登ル、八月疾ヲ以テ官ヲ免ズ、十二月靖安里ノ第ニ薨ズ、天子爲ニ朝ヲ輟メ、禮部尚書ヲ贈リ、文ト謚ス。(明年三月河南孟縣ノ先塋ニ葬ル、宋ノ元豐七年昌黎伯ニ追封ス)。 | 五七 |

# 柳宗元

字子厚、河東解州人



| 皇紀 | 西暦 | 漢干支暦 | 事蹟並著作 | 年齒 |
|---|---|---|---|---|
| 一四三三 | 七七三 | 代宗大暦八癸丑 | 公京師ニ生ル、父名ハ鎮、母ハ盧氏。 | 一 |
| 一四三六 | 七七六 | 丙辰 | 父侍御史柳鎮、亂ヲ避ケ、族ヲ擧ゲテ吳ニ在リ、公母夫人盧氏ト共ニ留リ、京城ノ西、田廬中ニ居ル、家ニ書ナシ、夫人古賦十四首ヲ誦シテ之ヲ敎フ。 | 四 |
| 一四四五 | 七八五 | 德宗貞元一乙丑 | 劉夢得曰フ、子厚、童子ヲ以テ貞元ノ初ニ奇名アリト。「爲崔中丞賀平李懷光表」 | 一三 |
| 一四四九 | 七八九 | 己巳五 | 進士ヲ求ム。「爲文武百官請復尊號表三表」 | 一七 |
| 一四五〇 | 七九〇 | 庚午六 | 「大會議表二表」 | 一八 |
| 一四五一 | 七九一 | 辛未七 | 楊氏ヲ娶ル。 | 一九 |
| 一四五二 | 七九二 | 壬申八 | 京師ニ貢ス、公ノ送苑論詩序ニ、八年冬余馬邑ノ苑論ト京師ニ聯貢スト見エタリ。 | 二〇 |
| 一四五三 | 七九三 | 癸酉九 | 進士第ニ登ル、五月十七日父侍御史君親仁里ノ第ニ卒ス、年五十五。博學宏辭科ヲ求ム。「終南山祠堂碑。太白山祠堂碑。邠寧進 | 二一 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一四五六 | 七九六 | 一二 丙子 | 奏院記。與大理崔小卿啓。叔父殿中侍御史墓版文。殿中侍御史柳公墓表。叔妣陸氏夫人遷祔誌。萬年縣丞柳君墓誌。監察御史周君墓表」 | 二四 |
| 一四五八 | 七九八 | 一四 戊寅 | 博學宏辭科ニ中リ、集賢殿正字唐書ニ校書郎ニ作ル。トナル。 | 二六 |
| 一四五九 | 七九九 | 一五 己卯 | 八月一日夫人楊氏卒ス、年二十三、爲ニ墓誌ヲ作ル。「柳常侍行狀。國子司業陽城遺愛碣。辯侵伐論」 | 二七 |
| 一四六〇 | 八〇〇 | 一六 庚辰 | 「賀嘉瓜白兔等表。溫縣主簿韓君墓誌。伯祖妣李夫人墓誌。亡姉裴氏夫人墓誌」 | 二八 |
| 一四六一 | 八〇一 | 一七 辛巳 | 藍田尉ニ調セラル。「南岳雲峯寺和尙碑。祭六伯母文。姑陳氏夫人墓誌」 | 二九 |
| 一四六二 | 八〇二 | 一八 壬午 | 「武功縣丞壁記。藍屋縣新食堂記。爲京兆府請復尊號表三表。爲耆老等請復尊號表。爲京畿父老上宰相狀。爲京畿父老上尹狀。亡友校書郎獨孤君墓誌」 | 三〇 |
| 一四六三 | 八〇三 | 一九 癸未 | 監察御史裏行トナル、十二月領監察御史ニ進ム。「讓監察御史狀。禘說。朝日說。爲李京兆祭楊郎中文。兵部楊君墓碣。 | 三一 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 宏農令柳府君墳前石表。送文暢上人序」 | |
| 一四六四 | 八〇四 | 甲申　二〇 | 「監察使壁記。南嶽般舟和尚第二碑。祭李中丞文。尚書戸部郎中魏府君墓記」 | 三一二 |
| 一四六五 | 八〇五 | 乙酉　順宗永貞一 | 正月順宗卽位、廣陵郡王ヲ立テテ皇太子ト爲ス、賀立皇太子表ヲ上ル、禮部員外郎ニ擢カル、八月憲宗卽位、永貞ト改元ス、九月王叔文ノ黨ニ坐シテ、邵州刺史ニ貶セラル、十月永州司馬ニ貶セラル、湘江ヲ過ギテ屈原ヲ弔フ。賀改元赦表。卽位禮畢賀。賀冊太上皇后及禮畢表。請聽政表三表。陳給事行狀。戸部侍郎王公夫人劉氏墓誌。弔屈原文」 | 三一三 |
| 一四六六 | 八〇六 | 丙戌　憲宗元和一 | 五月十五日太夫人盧氏、永州零陵縣ノ佛寺ニ卒ス。「賀改元赦表。劍門銘。嚴東川啓。先侍御史府君神道表。東明張先生墓誌。陸文通先生墓表。連州司馬凌君權厝誌」 | 三一四 |
| 一四六七 | 八〇七 | 丁亥　二 | 永州ニ在リ。「懲咎賦。送趙大秀才往江陵序。先太夫人河東縣太君歸祔誌」 | 三一五 |
| 一四六八 | 八〇八 | 戊子　三 | 「貞符。非國語。與呂道州書。與王參元書。答吳武陵書。同吳秀才贈李陸州詩序。龍安海禪師碑。南霽雲睢陽廟碑。 | 三一六 |

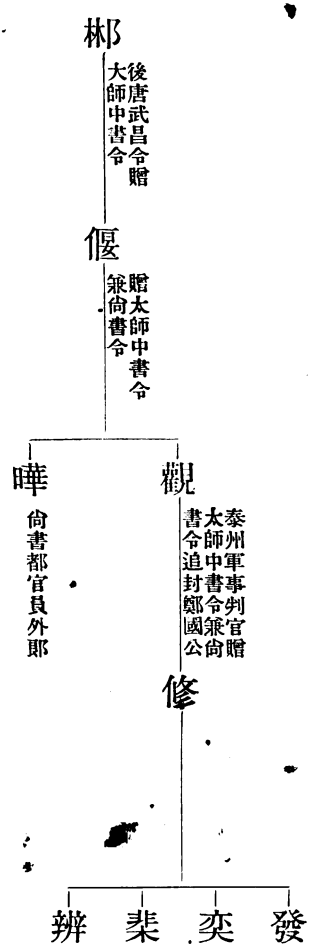
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 凌君墓後碑。送婁圖南遊淮南序」 | |
| 一四六九 | 八〇九 | 四己丑 | 「爲南承嗣請從軍狀。送南涪州量移澧州序。送內弟盧遵遊桂州序。寄李中丞薦盧遵啓。新作法華事西亭記。始得西山燕遊記。鈷鉧潭記。鈷鉧潭西小邱記。邱西小石潭記。小姪女子墓埳記。裴塤、蕭俛、李建、楊憑、許孟容等ニ與フル書」 | 三七 |
| 一四七〇 | 八一〇 | 五庚寅 | 四月庶女死ス。「與楊州李相公第二啓。與楊誨之書。說車贈楊誨之。送從弟謀遊江陵序。讀韓愈所作毛穎傳後題。太府李卿外婦馬淑誌。趙秀才羣墓誌。下殤女子墓埳記」 | 三八 |
| 一四七一 | 八一一 | 六辛卯 | 「上西州武相公啓。再與楊誨之書。爲柳公綽謝上表。祭呂化光文。衡州刺史東平君誄。試大理評事柳君墓誌 | 三九 |
| 一四七二 | 八一二 | 七壬辰 | 「賀皇太子牋。上嶺南鄭相公啓。送崔策序。武岡銘。袁家渴記。石渠記。石澗記。小石城山記。永州刺史崔君權厝誌。祭崔使君文」 | 四〇 |
| 一四七三 | 八一三 | 八癸巳 | 去年春永に火災多ク、日夜數十發、少キモ尙五六發アリ、今年夏亦之ノ如シ、公文ヲ作リ、畢方ヲ逐フ、蓋シ畢方ハ鳥名、見ハルル地火災ヲ爲スト云フ。「逐畢方文。黃溪記。永州鐵鑪步志。答韋中立書。呂侍御墓誌。祭呂敬叔文」 | 四一 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一四七四 | 八一四 | 九甲午 | 「囚山賦。起廢答。段太尉逸事狀。與韓愈書。上河陽烏尚書啓。斥鼻亭神記。文宣王道州廟碑。南岳大明律和尚碑。湘源二妃廟碑。處士段宏古墓誌」 | 四二 |
| 一四七五 | 八一五 | 一〇乙未 | 永州ヨリ召サレテ京師ニ到ル、三月又出デテ柳州刺史トナル、時ニ劉夢得亦播州ニ貶セラル、公、播ノ地ハ遠ク、夢得ノ親老イタルヲ以テ、將ニ拜疏シテ柳ヲ以テ播ニ易ヘントス、會ゝ大臣亦夢得ノ爲ニ言フ者アリ、遂ニ改メテ連州ヲ授ク、六月任ニ到ル。「柳州謝表。柳州舉柳漢自代狀。柳州上中書門下狀。雷塘禱雨文。萬石亭記。記柳州山水近治可遊者。志從弟宗直殯及祭文。先聖文宣王柳州廟碑。大鑒禪師碑」 | 四三 |
| 一四七六 | 八一六 | 一一丙申 | 是ヨリ前、柳ニ井少シ、人皆遠ク江水ヲ酌ンデ之ヲ飲ム、是歲三月始メテ井ヲ城北ノ隍上ニ爲ル、柳人永ク其澤ヲ受クト云フ、周六生ル。「祭井文。井銘」 | 四四 |
| 一四七七 | 八一七 | 一二丁酉 | 「代李愬襄州謝表。復大雲寺記。東亭記。祭楊詹事文。朗州司戸辭君妻崔氏墓誌。箏郭師墓誌」 | 四五 |
| | | | 韓愈羅池廟碑ニ云フ、宗元柳ヲ爲ムル三年、民皆喜悅ス、 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一四七八 | 八一八 | 一三戊戌 | 嘗テ其部將ト酒ヲ驛亭ニ飲ミ、曰ク、明年吾死ナン、死ナバ將ニ神トナラントス、後二年廟ヲ爲ツテ祀レト、期ニ及ンデ死ス、柳人爲ニ之ガ廟ヲ爲ルト、驛亭ニ飲ム、蓋此年 四六 |
| | | | ナリ。「平淮夷雅二首。上裴門下啓。上襄陽李僕射啓。與邕管李中丞啓。爲裴中丞乞討黃賊狀。上李夷簡書。答杜溫夫書。萬年令裴府君墓碣。襄陽丞趙君墓誌」 |
| 一四七九 | 八一九 | 一四己亥 | 十一月八日公柳州ニ卒ス、（舅弟盧遵、明年七月十日ヲ以テ、萬年縣先人ノ墓側ニ歸葬ス）、二男二女アリ、皆幼ナリ。「賀破東平表。爲裴中丞賀破東平表。賀東平赦表。賀分淄青爲三道表。禮部賀冊尊號表。爲裴中丞謝討黃賊表。答鄭員外賀啓。答諸州賀啓。上中書門下狀。上裴相狀。上裴中丞。訾家洲亭記。韋夫人墳記。嶺南鐵李侍御墓誌。邕管李中丞墓誌。處士裴君墓誌。試大理評事裴君墓誌。祕書姜君墓誌」 四七 |

# 歐陽修

字永叔、吉州廬陵人



| 皇紀 | 西暦 | 干支 | 事蹟竝著作 | 年齢 |
|---|---|---|---|---|
| 一六六七 | 一〇〇七 | 眞宗<br>景德四丁未 | 六月二十一日公生ル、父名ハ鎭、母ハ鄭氏。 | 一 |
| 一六七〇 | 一〇一〇 | 大中<br>祥符三庚戌 | 父鎭、泰州軍事判官ヲ以テ卒ス、母夫人鄭氏時ニ年二十九、節ヲ守リ、自ラ誓ヒテ公ヲ攜ヘ、叔父隨州推官曄ニ依ル、遂ニ隨ニ家ス、貧ニシテ資ナシ、夫人荻ヲ以テ地ニ畫シ、書ヲ敎フ、又古人ノ篇章ヲ誦シテ詩ヲ作ルコトヲ學バシム。 | 四 |
| 一六七二 | 一〇一一 | 四<br>辛亥 | 父鄭國公鎭ヲ吉州吉水縣瀧岡ニ葬ル。 | 五 |
| 一六七六 | 一〇一六 | 九<br>丙辰 | 隨ニ在リ、家益〻貧シ、州南ノ大姓李氏、學ヲ好ミ多ク書ヲ藏ス、公韓愈文六卷ヲ得、借リテ之ヲ讀ム、詩賦ヲ作ルニ、筆ヲ下ス成人ノ如シ、都官曰ク、奇童ナリ、他日必ズ重名アラント。 | 一〇 |
| 一六八三 | 一〇二三 | 仁宗<br>天聖一癸亥 | 秋隨州ノ擧子タリ、左氏失之誣論ニ對ス、司者擢イテ第一ト爲ス。 | 一七 |
| 一六八六 | 一〇二六 | 四<br>丙寅 | 隨州ヨリ名ヲ禮部ニ薦ム。 | 二〇 |
| 一六八七 | 一〇二七 | 五<br>丁卯 | 春禮部ノ試ニ對ス、中ラズ。 | 二一 |
| 一六八八 | 一〇二八 | 六<br>戊辰 | 文ヲ攜ヘテ漢陽ニ赴キ、學士胥偃ニ謁ス、遂ニ館下ニ留ル、冬從ッテ京師ニ往ク。 | 二二 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一六八九 | 一〇二九 | 七己巳 | 春國子監ニ試ミラル、第一タリ、廣文館生ニ補ス。 | 二三 |
| 一六九〇 | 一〇三〇 | 八庚午 | 正月禮部ニ試ス、第一タリ、三月崇政殿ノ御試ニ對シ、甲科ヲ得タリ、五月將仕郎試祕書省校書郎ヲ授ケラレ、西京ノ留守推官ニ充ツ。 | 二四 |
| 一六九一 | 一〇三一 | 九辛未 | 三月西京ニ至ル、尹洙梅堯臣ト交リ、日ニ古文詩歌ヲ爲ル、胥氏ヲ娶ル、初メ胥偃女ヲ以テ公ニ妻サンコトヲ許ス、是ニ於テ東武ニ親迎ス。 | 二五 |
| 一六九二 | 一〇三二 | 明道一壬申 | 秋通判謝絳ニ從ヒ、御香ヲ奉ジテ嵩嶽ニ祭ル。「戕竹記」 | 二六 |
| 一六九三 | 一〇三三 | 二癸酉 | 正月吏ヲ以テ京師ニ往ク、途ニ叔父ヲ漢東ニ省ス、三年還ル、夫人胥氏卒ス、十二月承郎ニ進ム。「張堯夫墓銘。李秀才東園記。浙川縣興化寺廊記。上范司諫書」 | 二七 |
| 一六九四 | 一〇三四 | 景祐一甲戌 | 三月秩滿チテ襄城ニ歸ル、六月召サレテ宣德郎試大理評事業監察御史充鎭南軍節度尙書記館閣校勘トナル、諫議大夫楊大雅ノ女ヲ娶ル。「明因大師塔記」 | 二八 |
| 一六九五 | 一〇三五 | 二乙亥 | 九月夫人楊氏卒ス。 | 二九 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一六九六 | 一〇三六 | 三<br>子丙 | 是歲范仲淹事ヲ言フヲ以テ宰相ニ忤フ、貶セラレテ饒州ニ知タリ、公書ヲ司諫高若訥ニ貽リテ切ニ責ム、若訥其書ヲ以テ聞ス、五月降ッテ峽州夷陵縣令トナル、十月母夫人ヲ奉ジテ夷陵ニ到ル。「泗州先亭記。讀李翺文。與高司諫書」 | 三〇 |
| 一六九七 | 一〇三七 | 四<br>丑丁 | 三月薛簡肅奎ノ女ヲ娶ル、叔父都官卒ス、十二月光化軍乾德縣令ニ徙ル。「謝氏詩序。夷陵縣至喜堂記。書春秋繁露後。與尹師魯書」 | 三一 |
| 一六九八 | 一〇三八 | 寶元一<br>寅戊 | 三月乾德ニ赴ク、胥夫人所生ノ子夭ス。「遊儵亭記。送太原秀才序」 | 三二 |
| 一六九九 | 一〇三九 | 二<br>卯己 | 六月舊官ニ復シ、權武成軍節度判官廳公事タリ、母夫人ヲ奉ジテ南陽ニ次ス、冬漸ク襄陽ニ往ク。 | 三三 |
| 一七〇〇 | 一〇四〇 | 康定一<br>辰庚 | 是春滑州ニ赴ク、時ニ范仲淹陝西ニ使タリ、先生ヲ辟ス、辭シテ就カズ、六月召シ還サレ、復館閣校勘ニ充ツ、仍ッテ崇文總目ヲ修ム、十月太子中允ニ轉ズ、子發生ル。「通進司上書」 | 三四 |
| 一七〇一 | 一〇四一 | 慶歷一<br>巳辛 | 五月權同知太常禮院タリ、十二月騎都尉ヲ加フ、崇文總目成ル、集賢校理ニ改メラル。「御書閣記。王彥章畫像記。石 | 三五 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 曼卿墓表」 | |
| 一七〇二 | 一〇四二 | 二壬午 | 三月御試「天以實不以文賦」ヲ擬シテ一首ヲ進ム、勅書奬諭ス、五月詔ニ應ジ、上書シテ弊事ヲ極諫ス、八月外任ヲ請フ、九月滑州ニ通判タリ。「釋祕演詩集序。送張東武歸青州序。張子野墓誌銘」 | 三六 |
| 一七〇三 | 一〇四三 | 三癸未 | 是歲仁宗大臣ヲ更メ、范韓等ヲ用ヒ、言路ヲ廣メ政事ヲ修ム、諫官ヲ增員シ、天下ノ名士ヲ採ル、三月召シ還サレテ太常丞知諫院タリ、九月緋衣銀魚ヲ賜フ、同修國朝勳臣名次、同修三朝典故タリ、十月同修起居注ニ擢カル、十二月旨アリ、試セズシテ右正言、知制誥タリ、諫職故ノ如シ。「章望之字序」 | 三七 |
| 一七〇四 | 一〇四四 | 四甲申 | 兼判登開院タリ、麟州ヲ廢スル害ヲ論ズ、八月保州軍亂ル、龍圖閣直學士ヲ以テ河北都轉運使按察使タリ、發スルニ臨ンデ上面諭ス、久留ノ計ヲ爲ス勿レ、又言ハント欲スル所アラバ言ヘト、既ニ到リ、奏請シテ將帥ニ專任シ、士心ヲ鎭撫ス、軍中乃チ定ル、又奏シテ御河催綱司ヲ置キ、糧餉ヲ督ス、邊州之ニ賴ル、十一月朝散大夫ニ進ミ、信都縣開國子ニ封ゼラル。「吉州學記。詩譜補亡後序。與集賢杜相書。尙書都官員外郎歐陽公墓誌銘。黃夢升墓誌銘」 | 三八 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一七〇五 | 一〇四五 | 五酉 乙 | 是歲杜范韓富黨論ヲ以テ相繼イデ罷メ去ル、公上書シテ之ヲ辨ズ、邪黨公ヲ忌ム、公ノ甥法ヲ犯スニ會ス、言公ニ及ブ、上、中書ヲシテ監勘セシム、他ナシ、然レドモ遂ニ知制誥知滁州ニ左遷セラル、子奕生ル。「論杜衍范仲淹等罷政事狀。外制集序。南陽君謝氏墓誌銘」 | 三九 |
| 一七〇六 | 一〇四六 | 六丙 戌 | 滁州ニ在リ、自ラ醉翁亭記。豐樂亭記。偃虹隄記」 | 四〇 |
| 一七〇七 | 一〇四七 | 七丁 亥 | 十二月上騎都尉ヲ加ヘ、開國伯ニ進封ス、子棐生ル。「梅聖俞詩集序後十五年之ヲ補フ」 | 四一 |
| 一七〇八 | 一〇四八 | 八戊 子 | 正月起居人ニ轉ズ、徙ツテ揚州ニ知タリ、二月郡ニ至ル。「海陵許氏南園記」 | 四二 |
| 一七〇九 | 一〇四九 | 皇祐一己 丑 | 正月移ツテ潁州ニ知タリ、二月郡ニ至ル、西湖ノ勝ヲ樂ミ、將ニ之ニ居ラントス、四月禮部郎中ニ轉ズ、八月龍圖閣直學士ニ復ス、子辨生ル。「湖州長史蘇君墓誌銘」 | 四三 |
| 一七一〇 | 一〇五〇 | 二庚 寅 | 七月改メテ知應天府兼南京留守司事タリ、十月吏部郎中ニ轉ズ、輕車都尉ヲ加フ、是歲梅聖俞ニ約シテ田ヲ潁ニ買 | 四四 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | フ。 | |
| 一七一二 | 一〇五二 | 四辰壬 | 三月母夫人ノ喪ノ爲ニ潁ニ歸ル、四月起シテ官ニ復ス、公固辭ス。「蘇子美文集序」 | 四六 |
| 一七一三 | 一〇五三 | 五巳癸 | 潁ヨリ母ノ喪ヲ奉ジテ歸リ、吉州ノ瀧岡ニ葬ル、胥楊二夫人之ニ祔ス、冬潁ニ歸ル。「胥氏墓誌銘。楊氏墓誌銘。范文正公神道碑」 | 四七 |
| 一七一四 | 一〇五四 | 至和一甲午 | 五月服闋ル、舊官職ニ除ス、六月京師ニ朝ス、郡ヲ乞フ、許サレズ、七月內詮ニ判タリ、羣小ノ譖ニ依リ、同州ニ知タリ、吳充等論救ス、上モ亦悟ル、八月詔シテ唐書ヲ修メシム、九月翰林學士兼史館修撰タリ。「畫錦堂記」 | 四八 |
| 一七一五 | 一〇五五 | 二未乙 | 六月上書シテ宰相ノ陳執中ヲ論ズ、又外ヲ乞フ、翰林侍讀學士集賢殿修撰ニ改メ、蔡州ニ知タリ、七月復舊職ヲ領ス、是歲假右諫議大夫充賀契丹國信使トナリ、遼ニ使ス、遼主厚ク之ヲ禮ス。「大尉文正王公神道碑銘。觀文殿大學士行兵部尚書西京留守晏公神道碑銘」 | 四九 |
| 一七一六 | 一〇五六 | 嘉祐一丙申 | 二月使シテ還リ、北使語錄ヲ進ム、三月判大常寺兼禮儀事タリ、五月知通進銀臺司兼門下封駁事タリ、九月上輕車都 | 五〇 |

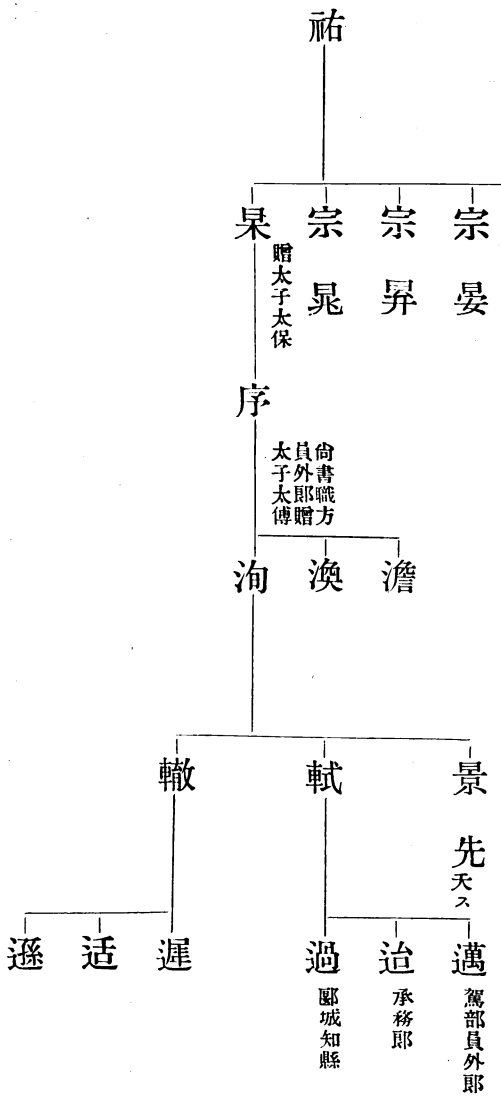
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 尉ヲ加ヘ、樂安郡開國侯ニ進封セラル。「鳴蟬賦。祭程相公文。答宋箴書」 | |
| 一七一七 | 一〇五七 | 二酉 丁 | 正月知禮部貢擧タリ、御書文儒二字ヲ賜フ、右諫議大夫ニ轉ズ、七月兼判尚書禮部、九月兼判祕閣祕書省タリ。「祭極祁公文」 | 五一 |
| 一七一八 | 一〇五八 | 三戌 戊 | 六月龍圖閣學士ヲ加ヘ、知開封府タリ。「浮槎山水記。河南府司張君墓表」 | 五二 |
| 一七一九 | 一〇五九 | 四亥 己 | 二月給事中ニ轉ズ、御試進士詳官ニ充ツ、四月兼充羣牧使タリ、六月景祐廣樂記ヲ刪定ス。「秋聲賦」 | 五三 |
| 一七二〇 | 一〇六〇 | 五子 庚 | 七月新修唐書ヲ上ル、推賞禮部侍郎兼翰林侍讀學士ニ拜ス、十一月樞密副使ニ拜シ、同修樞密院時政記タリ。「記舊本韓文後」 | 五四 |
| 一七二一 | 一〇六一 | 六丑 辛 | 三月後苑ニ侍シ、花ヲ賞ス、八月戶部侍郎參知政事ニ轉ズ、開國公ニ進ム、公轉官ヲ辭ス、九月同修中書時政記タリ。「廖氏文集序。內制集序。胡先生墓表。梅聖俞墓誌銘」 | 五五 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一七二二 | 一〇六二 | 七壬寅 | 四月嘉祐編勅ヲ上ル、九月正奉大夫ニ進ミ、杜國ヲ加フ。「三琴記」 | 五六 |
| 一七二三 | 一〇六三 | 八癸卯 | 四月戶部侍郎ニ轉ズ、金紫光祿大夫ニ進ム。「跋杜祁公書。跋永城縣學記」 | 五七 |
| 一七二四 | 一〇六四 | 英宗治平一甲辰 | 五月吏部侍郎ニ轉ズ。「跋觀文王尚書書。跋學士院御書」 | 五八 |
| 一七二五 | 一〇六五 | 二乙巳 | 春外ヲ乞フ、八月位ヲ避クルヲ乞フ、共ニ許サレズ、十一月光祿大夫上柱國ニ進ム。「論議濮安懿王典禮箚子」 | 五九 |
| 一七二六 | 一〇六六 | 三丙午 | 三月濮ノ議ヲ以テ邪說ト爲スモノアリ、公去ルヲ求ム、允サレズ。「徂徠石先生墓誌銘。憎蒼蠅賦」 | 六〇 |
| 一七二七 | 一〇六七 | 四丁未 | 神宗卽位シ、尚書左丞特進ニ進ム、第三子棐進士登第ス、御史彭思永等飛語ヲ以テ劾ス、上之ヲ斥ク、公退罷ヲ求ム、三月觀文殿學士ニ除シ、刑部尚書知亳州ニ轉ズ、五月任ニ到ル。「仁宗飛白記。思潁詩後序。歸田錄序。仲氏文集序。祭胡太傅文。蘇老泉墓誌銘」 | 六一 |
| 一七二八 | 一〇六八 | 神宗熙寧一戊申 | 是年連リニ上表シテ致仕ヲ乞フ、允サレズ、八月兵部尚書知青州充京東東路安撫史ト爲ル、九月青ニ至ル。 | 六二 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一七二九 | 一〇六九 | 二<br>酉己 | 三月新校定前漢書ヲ遞賜ス、公ノ嘗テ刊定セル所ナリ、冬壽州ヲ得テ私計ニ便セント乞フ、允サレズ。「瀧岡阡表。有美堂記」 | 六三 |
| 一七三〇 | 一〇七〇 | 三<br>戌庚 | 七月改メテ知蔡州タリ、九月蔡ニ至ル、是歳始テ六一居士ト號ス。「言靑苗錢箚子二書。峴山亭記。續思潁詩序。六一居士傳」 | 六四 |
| 一七三一 | 一〇七一 | 四<br>亥辛 | 蔡ニ在リ、累章老ヲ告グ、六月觀文殿學士太子少師ヲ以テ致仕ス、七月潁ニ歸ル。「江鄰幾文集序。薛簡肅公文集序」 | 六五 |
| 一七三二 | 一七三二 | 五<br>子壬 | 詔シテ公ノ撰スル所ノ五代史ヲ求ム、七月庚午薨ズ、八月太子太師ヲ贈ル。「跋三絕帖」。(七年八月文忠ト謚ス、八年九月開封新鄭縣旌賢鄕ニ葬ル、元豐三年十二月大尉ヲ贈ル、八年太師ヲ贈リ、康國公ニ追封ス、紹聖三年兗國公ニ、崇寧三年秦國公ニ、政和三年楚國公ニ追封ス)。 | 六六 |

# 蘇洵

字明允、眉州眉山人


祐
宗善
宗晏
宗昇
宗晁
杲
贈太子太保
序
尚書職方員外郎贈太子太傅
渙
澹
洵
轍
軾
景先天ス
遜
适
遲
過
郿城知縣
迨
承務郎
邁
駕部員外郎

| 皇紀 | 西曆 | 漢干支 | 事蹟竝著作 | 年齒 |
|---|---|---|---|---|
| 一六六九 | 一〇〇九 | 眞宗大中祥符二 己酉 | 眉山ニ生ル、父ハ職方員外郎序、母ハ史氏。（公二兄アリ、澹ト云ヒ、渙ト云フ、皆文學ヲ以テ進士ニ擧グラル、公少ヨリ獨リ學ヲ好マズ、日ニ羣兒ト戲ル、父序放縱シテ問ハズ、鄉閭親戚皆之ヲ怪ム、或ハ其故ヲ問フ、父笑ツテ答ヘズ、公亦自若タリ）。 | 一 |
| 一六九二 | 一〇三二 | 仁宗明道一 壬申 | 母夫人史氏卒ス。 | 二四 |
| 一六九五 | 一〇三五 | 景祐二 乙亥 | 是歲（歐陽修ニ上ツル第一書ニ洵少年ヨリ學バズ、生レテ二十五歲ニシテ、始メテ書ヲ讀ムヲ知リ、士君子ニ從ツテ遊ブト見ユ、今歐陽修撰スル蘇君墓誌銘ニ從フ）前非ヲ改メ、始メテ大ニ發憤シ、其平生交ル所ノ少年ト絕チ、戶ヲ閉ヂテ書ヲ讀ミ、文辭ヲ作ル。 | 二七 |
| 一六九六 | 一〇三六 | 丙子 | 子軾生ル。 | 二八 |
| 一六九七 | 一〇三七 | 丁丑 | 長子景先夭ス、是歲進士ニ擧グラル、中ラズ、後又茂材ニ擧グラル、亦中ラズ、退イテ而シテ歎ジテ曰ク、此レ吾學ヲ爲スニ足ラザルナリト、舊作ル所ノ文百餘篇ヲ取ツテ悉ク之ヲ焚キ、益〻戶ヲ閉ヂテ書ヲ讀ミ、筆ヲ絕チテ文辭ヲ爲ラザルモノ五六年、遂ニ六經百家ノ說ニ通ズ、是ニ於テ | 二九 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 筆ヲ下スニ、頃刻數千言立ロニ成ル、縱橫馳驟、深微ニ入ル。 | | |
| 一六九九 | 一〇三九 | 寶元二己卯 | 子轍生ル。 | 三一 |
| 一七〇七 | 一〇四七 | 慶歷七丁亥 | 父序卒ス、是ヨリ先、公四方ニ宦遊ス、此年父ノ憂ニ丁ルヲ以テ江南ヨリ歸ル。 | 三九 |
| 一七一二 | 一〇五二 | 皇祐四壬辰 | 幼女死ス。 | 四四 |
| 一七一三 | 一〇五三 | 五癸巳 | 長女死ス。 | 四五 |
| 一七一五 | 一〇五五 | 至和二乙未 | 「上張侍郎書」 | 四七 |
| 一七一六 | 一〇五六 | 嘉祐一丙申 | 京師ニ來ル、書ヲ翰林學士歐陽修ニ上ル、又其著ス所ノ洪範論史論七篇ヲ上ル、又田樞密ニ書ヲ上リ、審勢審敵權書十篇ヲ進ム、歐陽公之ヲ得テ其文辭ヲ愛シ、賈誼劉向モ之ニ過ギズト爲ス、書既ニ出ス、士大夫爭ツテ之ヲ傳フ、一時ノ學者競ツテ蘇子ニ倣ツテ文章ヲ作ル、其父子共ニ名ヲ知ラルルヲ以テ、號シテ老蘇ト爲ス、歐陽公又之ヲ天子ニ薦ム。「上歐陽公第一書。張益州畫像記」 | 四八 |
| 一七一七 | 一〇五七 | 二丁酉 | 四月夫人程氏卒ス、武陽ノ安鎭山ニ葬ル。「上歐陽公第二第三書」 | 四九 |
| | | | 紫微閣ニ召試ス、病ト稱シテ就カズ、是時王安石名漸ク盛 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一七一八 | 一〇五八 | 三戊戌 | ナリ、黨友一時ヲ傾ク、歐陽修公ニ勸メテ之ト遊バシム、安石モ亦友タランコトヲ願フ、公曰ク吾、其人ヲ知ル、是レ人情ニ近カラザルモノ、天下ノ患ヲ爲サザルコト鮮シト、遂ニ進見セズ。「上歐陽公第四第五書。上皇帝書」 | 五〇 |
| 一七一九 | 一〇五九 | 四己亥 | 十二月二子軾轍ト共ニ、舟ヲ買ツテ南楚ニ行ク、舟中唱和ノ作アリ、南行集ト云フ、大蘇コレガ序ヲ作ル。「丹陽楊君墓誌銘」 | 五一 |
| 一七二〇 | 一〇六〇 | 五庚子 | 朝廷屢、召セドモ就カズ、乃チ試校書郎ニ除ス、書ヲ韓魏公ニ移シテ官ヲ改ムルヲ乞フ、乃チ文安縣主簿ヲ授ケ、項城令姚闢ト同ジク建隆以來ノ禮書ヲ修纂セシム。「祭姪位文」 | 五二 |
| 一七二一 | 一〇六一 | 六辛丑 | 二子軾轍同ジク制擧登第。 | 五三 |
| 一七二二 | 一〇六二 | 七壬寅 | 八月兄渙病ナクシテ暴ニ卒ス、年六十二。 | 五四 |
| 一七二三 | 一〇六三 | 八癸卯 | 是歲王安石ノ母死ス、士大夫皆行イテ弔フ、公獨リ往カズ、遂ニ辨姦論一篇ヲ作ル。「辨姦論」 | 五五 |
| 一七二四 | 一〇六四 | 英宗治平一甲辰 | 四月書ヲ韓照文ニ上リ、喪事ヲ薄ウセンコトヲ乞フ。「上韓照文論山陵書」 | 五六 |

| | | |
|---|---|---|
| 一七二六 | 一〇六六 | 三丙午 |

公ノ勅修スル太常因革禮一百卷成ル、未ダ報ゼズ、四月戊申病ヲ以テ卒ス、英宗之ヲ傷ミ、光祿寺丞ヲ贈リ、有司ニ命ジテ舟ヲ具ヘ、其喪ヲ載セテ蜀ニ歸葬ス。（四年十月彭山ノ安鎭鄉可龍里ニ葬ル。）　五八

# 蘇軾

字子瞻一字和中、眉州眉山人

（系圖ハ老蘇ニ付ス）

| 皇紀 | 西曆 | 漢干支 | 曆 | 事蹟竝著作 | 年齒 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一六九六 | 一〇三六 | 仁宗景祐三 | 丙子 | 十二月十九日公生ル、老蘇ノ長子、母ハ程氏。 | 一 |
| 一六九九 | 一〇三九 | 寶元二 | 己卯 | 弟子由生ル。 | 四 |
| 一七〇二 | 一〇四二 | 慶歷二 | 壬午 | 書ヲ讀ムヲ知ル。 | 七 |
| 一七〇三 | 一〇四三 | 三 | 癸未 | 小學ニ入ル、張易簡ヲ師トス。 | 八 |
| 一七〇五 | 一〇四五 | 五 | 乙酉 | 父洵四方ニ宦學ス、太夫人程氏親カラ授クルニ讀書ヲ以テス、古今ノ成敗ヲ問ヘバ輒チ其要ヲ語ル。 | 一〇 |
| 一七〇七 | 一〇四七 | 七 | 丁亥 | 祖父蘇序卒ス。 | 一二 |
| 一七一四 | 一〇五四 | 至和一 | 甲午 | 王氏ヲ娶ル。 | 一九 |
| 一七一五 | 一〇五五 | 二 | 乙未 | 成都ニ游ビ、張安道ニ謁ス、張待ツニ國士ヲ以テス、鼂美叔ト交ル。 | 二〇 |
| 一七一六 | 一〇五六 | 嘉祐一 | 丙申 | 進士ニ擧ゲラル。 | 二一 |
| 一七一七 | 一〇五七 | 二 | 丁酉 | 禮部ノ試ニ赴ク、殿試ニ對シ、乙科ヲ得タリ、四月太夫人程氏鄉里ニ卒ス。「上梅直講書。稼說」 | 二二 |
| 一七一九 | 一〇五九 | 四 | 己亥 | 服除ス、父洵ニ侍シテ舟行楚ニ適ク。 | 二四 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一七二〇 | 一〇六〇 | 五庚子 | 河南府福昌縣ノ主簿トナル。 | | 二五 |
| 一七二一 | 一〇六一 | 六辛丑 | 制策ニ對シ、第三等ニ入ル、大理評事ヲ授ケラル、鳳翔府僉判タリ、十二月鳳翔ニ赴ク。「應制科上兩制書。上富丞相」「謝應中制科啓。鳳翔八觀。鳳鳴驛記。喜雨亭記」 | | 二六 |
| 一七二二 | 一〇六二 | 七壬寅 | 鳳翔ニアリ。 | | 二七 |
| 一七二三 | 一〇六三 | 八癸卯 | 「思治論」 | | 二八 |
| 一七二五 | 一〇六五 | 英宗治平二乙巳 | 鳳翔ヨリ罷メ還リ、登聞鼓院ニ判タリ、夫人王氏京師ニ卒ス。 | | 三〇 |
| 一七二六 | 一〇六六 | 三丙午 | 四月父洵卒ス、扶護シテ蜀ニ歸葬ス。「亡妻王氏墓誌銘」 | | 三一 |
| 一七二七 | 一〇六七 | 四丁未 | 八月老蘇ヲ眉州ニ葬ル。 | | 三二 |
| 一七二八 | 一〇六八 | 神宗熙寧一戊申 | 喪ヲ免ズ、先君ノ爲ニ捨施シテ大閣ヲ作ル。「四菩薩閣記」 | | 三三 |
| 一七二九 | 一〇六九 | 二己酉 | 朝ニ還リ、官告院ヲ監ス。 | | 三四 |
| 一七三〇 | 一〇七〇 | 三庚戌 | 范景仁先生ヲ擧ゲテ諫官ニ充ツ。 | | 三五 |
| 一七三一 | 一〇七一 | 四辛亥 | 監官告院兼判尚書祠部ニ任ズ、王安石科擧ヲ變ゼント欲ス、上、兩制三館ヲシテ之ヲ議セシム、公三言ヲ獻ズ、出デテ | | 三六 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 開封府推官ヲ攝ス、尋イデ杭州ニ通判タリ、十一月任ニ到ル。「罷買燈疏」 | | |
| 一七三二 | 一〇七二 | 五壬子 | 杭州ニ在リ、「牡丹記。送杭州進士詩序」 | 三七 | |
| 一七三三 | 一〇七三 | 六癸丑 | 「仁宗皇帝飛白記。錢塘六井記」 | 三八 | |
| 一七三四 | 一〇七四 | 七甲寅 | 侍妾朝雲ヲ納ル、弟子由濟南ニ在ルヲ以テ、東州ニ守タルヲ求ム、五月密州ニ移ルノ命アリ。「彪繹先生文集序」 | 三九 | |
| 一七三五 | 一〇七五 | 八乙卯 | 密州ニ到ル。「上韓丞相論災傷書。論密州鹽稅書。後祀菊賦」 | 四〇 | |
| 一七三六 | 一〇七六 | 九丙辰 | 「刻秦篆記。超然臺記。祭常山神文。山堂銘。書膠西蓋公堂照壁。表忠觀碑或ハ云フ明年ノ作ト。」 | 四一 | |
| 一七三七 | 一〇七七 | 一〇丁巳 | 四月密州ヨリ徙ツテ徐州ニ知タリ、徐州水患大ニ作ル、公治水ノ功アリ、朝廷詔シテ奬諭ス。 | 四二 | |
| 一七三八 | 一〇七八 | 元豐一戊午 | 徐州外小城ヲ改築ス、熙寧防河錄ヲ作ル。日喻放鶴亭記。滕縣公堂記。鹿鳴燕詩序」 | 四三 | |
| 一七三九 | 一〇七九 | 二己未 | 三月徙ツテ湖州ニ知タリ、四月任ニ到ル、謝表ヲ上ル、讒者ノ中ツル所トナリ、八月臺獄ニ下ル、死ニ處セラレント | 四四 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | ス、弟子由上書シテ官職ヲ以テ罪ヲ贖ハント請フ、上、亦之ヲ憐ミ、十二月黄州團練副使ニ謫セラル。「送通敎大師杭州序。思堂記。三槐堂記。歐陽公家書後跋。文與可畫篔簹谷偃竹記」。 | |
| 一七四〇 | 一〇八〇 | 三庚申 | 二月黄州ニ到ル、定惠院ニ居ル、遷ツテ臨皐亭ニ居ル、八月乳母王氏（一本任氏ニ作ル。）卒ス。「嘯軒記。答秦太虛書。讀戰國策」 | 四五 |
| 一七四二 | 一〇八二 | 五壬戌 | 「東坡ニ就キ、雪堂ヲ築キ、東坡居士ト號ス、是年赤壁ニ遊ブ、賦二篇アリ。 | 四七 |
| 一七四三 | 一〇八三 | 六癸亥 | 黄州ニアリ。爲孟亨之跋子由君子泉銘。承天夜遊記。夢中祭春牛文」 | 四八 |
| 一七四四 | 一〇八四 | 七甲子 | 四月汝州ニ移ルノ命アリ、十二月泗州ニ至リ、上書シテ常州ニ住センコトヲ請フ。「師中庵題名。定惠寺海棠記。安國寺記。廬山遊記」 | 四九 |
| 一七四五 | 一〇八五 | 八乙丑 | 南京ニ到ル、命アリ、遂ニ常州ニ居ル、哲宗位ニ卽キ、朝奉郎ニ復シ、登州ニ知タリ、又禮部郎ヲ以テ召サル、省ニ到リ、半月、起居舍人ニ除セラル。「題楞伽跋多寶院文。題登州蓬萊閣。跋起居錢公文後」 | 五〇 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一七四六 | 一〇八六 | 哲宗元祐一 | 丙寅 | 入ツテ延和ニ侍ス、銀緋ヲ賜ヒ、中書舍人ニ除セラル、復翰林學士知制誥ニ遷ル。「法雲寺鐘銘。眞相院釋迦舍利塔銘。明堂赦文。遷神奉安祝文。祈雪祝文。擧黃魯直自代狀。乞校正陸贄奏議進御箚子」 | 五一 |
| 一七四七 | 一〇八七 | 二 | 丁卯 | 兼侍讀ニ拜ス。「書石舍人北使序後。祭王宜甫文。興國寺六祖畫贊。遷神祝文。祈雨祝文。司馬溫公神道碑」 | 五二 |
| 一七四八 | 一〇八八 | 三 | 戊辰 | 貢擧ノ事ヲ領ス。「德音赦文。樂論。與王晉卿論雪堂義墨。字說」 | 五三 |
| 一七四九 | 一〇八九 | 四 | 己巳 | 累リニ上章シテ郡ヲ請フ、龍圖學士ニ除シ、再ビ杭州ニ知タリ、七月任ニ到ル、上表恩ヲ謝ス。「告太一眞君祝文。謁文宣王廟祝文。范文正公文集序」 | 五四 |
| 一七五〇 | 一〇九〇 | 五 | 庚午 | 杭州ニ在リ、朝ニ請ウテ上供米三分ノ一ヲ免ジ、飢ヲ救ヒ病ヲ治ス、茅山鹽橋ノ二河ヲ浚ヒ、堰ヲ作リ、餘力ヲ以テ六井ヲ完ウス。「論西湖狀。論高麗公案。遊南屏寺記。點茶試墨說。書朱象先畫後。問淵明說」 | 五五 |
| 一七五一 | 一〇九一 | 六 | 辛未 | 三月翰林承旨ニ除セラル、弟ノ嫌ヲ以テ外任ヲ乞フ、乃チ龍圖閣直學士ヲ以テ潁州ニ知タリ、此冬汝陰久雪民大ニ饑 | 五六 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ウ、穀ト柴炭トヲ散ジテ之ヲ賑濟ス、又奏シテ黄河ノ夫役萬人ヲ罷メ、本州ノ溝瀆ヲ開カンコトヲ乞フ、朝廷之ニ從フ。「上清儲祥宮碑。祭歐陽文忠公文。祭辯才文。跋張乖崖文後。與歐陽叔弼季默夜坐記。道人問眞說」 | |
| 一七五二 | 一〇九二 | 七壬申 | | 三月楊州ニ移ル、八月召サレテ兵部尚書兼侍讀ニ拜ス、尋イデ禮部尚書ニ遷リ、端明殿翰林侍讀兩學士ヲ兼ヌ。論積欠狀。讀朱暉傳。題文潛語後。薦趙德麟狀」 | 五七 |
| 一七五三 | 一〇九三 | 八癸酉 | | 繼室王氏京師ニ卒ス、外任ヲ乞フ、九月復二學士ヲ以テ定州ニ知タリ、軍政ヲ更張ス。「祭韓魏公文。書定州學生硯蓋。杜與子師字說。論子方蟲。夢南軒語」 | 五八 |
| 一七五四 | 一〇九四 | 紹聖一甲戌 | | 御史公ノ嘗テ掌ル所ノ制命ヲ以テ、先朝ヲ謗ルト論ジ、兩學士ノ職ヲ落シ、英州ニ謫ス、更ニ寧遠軍節度副使惠州安置ニ貶ス、十月任ニ到リ、喜祐寺ニ居ル。「辭宣聖文。記眞君鐵說。題天竺樂天石刻。與吳秀才書。記仙帖。雪浪石盆銘」 | 五九 |
| 一七五五 | 一〇九五 | 二乙亥 | | 三月遷ッテ合江亭ニ居ル。「思無邪齋書。記外祖程公逸事。朝斗記。讀管幼安傳。與陳季常書。跋遠景圖。書光明經後。祭妹德化縣君文。葬枯骨銘」 | 六〇 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一七五六 | 一〇九六 | 三 丙子 | 惠州ノ東西新橋ヲ修ス、子由亦資ヲ助ク、七月姬朝雲死ス、詩及墓誌アリ、聖禪寺大聖塔葬處ニ六如亭ヲ作ル。「書東皐子傳後。祭寶月大師文。食芋說。白鶴峯上梁文」 | 六一 |
| 一七五七 | 一〇九七 | 四 丁丑 | 二月長子邁、韶州仁化令ヲ得、家ヲ挈ゲテ此ニ至ル、白鶴峯新居成ル、五月瓊州別駕昌化軍安置ニ貶セラル、家ヲ惠州ニ留メ、幼子過ヲ攜ヘテ任ニ赴ク、子由モ亦雷州ニ謫セラレ、滕ニ遇フ、同行雷ニ到ッテ別ル、七月儋州(昌化)ニ到ル、上表シテ謝ス。「題劉景文詩後。三馬圖。陸道士墓誌。天慶觀乳泉賦」 | 六二 |
| 一七五八 | 一〇九八 | 元符一 戊寅 | 儋ニ在リ、九月天慶觀ニ游ブ、吳子野來訪ス、詩ヲ贈ル。「讀晉書隱逸傳。嶺南氣候說。記筮卦。藷說。海漆說。 | 六三 |
| 一七五九 | 一〇九九 | 二 己卯 | 上元夜老書生數人ト城西ニ步ス、己卯夜ヲ作ル、瓊州進士姜唐佐來リ從學ス。「蒼耳說。墨說。題程全父詩卷後。辟穀說。與姜唐佐簡」 | 六四 |
| 一七六〇 | 一一〇〇 | 三 庚辰 | 三月姜君弼瓊州ニ還ル、五月廉州安置ニ移ル、六月任ニ到リ、謝表ヲ上ル、又舒州節度副使永州居住ニ移ルノ命アリ、 | 六五 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 英州ニ至ル、朝奉郎ニ復シ、提擧成都玉局觀ニ拜ス、居ハ其便ニ任ス、廣韶二州ヲ經テ歲除嶺ヲ過グ。「五穀耗地說。記唐村老人言。養黃中說。峻靈王廟碑。廣慶寺題名。九成臺銘」 |
| | | | |
| 一七六 | 一一〇一 | 徽宗建中靖國一 辛巳 | 嶺ヲ越エテ北ニ歸ル、安南ヲ過ギ、安南軍ノ爲ニ學紀ヲ作ル、舟行彭蠡ニ至ル、程夫人ノ忌日ニ遇フ、迺圓通偈ヲ寫ス、五月眞州ニ至ル、瘴毒ニ罹リ暴ニ病ム、常州ニ止ル、六月上表シテ老ヲ請フ、本官ヲ以テ致仕ス、七月二十八日常州ニ卒ス。(明年六月汝州郟城縣釣臺鄉上端里ニ葬ル、高宗位ニ卽キ、資政殿學士ヲ贈ル、後太師ヲ贈リ、文忠ト謚ス)。 |
| | | | 六七 |

# 蘇轍

字子由、眉州眉山人

(系圖ハ老蘇ニ付ス)

| 皇紀 | 西暦 | 漢干支 | 事蹟竝著作 | 年齢 |
|---|---|---|---|---|
| 一六九九 | 一〇三九 | 仁宗 己卯<br>寶元二 | 公生ル、老蘇ノ次子、母ハ程氏。(幼ニシテ兄軾ト同ジク母ノ教ヲ受ク、兄弟友愛甚ダ篤シ)。 | 一 |
| 一七〇七 | 一〇四七 | 慶歷七 丁亥 | 祖父序卒ス。 | 九 |
| 一七一七 | 一〇五七 | 嘉祐二 丁酉 | 兄軾ト同ジク進士ニ擧ゲラレ、共ニ登第ス、是歳母夫人卒ス。「上樞密韓太尉琦書」 | 一九 |
| 一七一九 | 一〇五九 | 四 己亥 | 服除ス、十二月父洵ニ從ヒ、兄ト共ニ舟行楚ニ往ク、此行父子三人舟中ノ作アリ、輯メテ南行集ト云フ。 | 二一 |
| 一七二〇 | 一〇六〇 | 五 庚子 | 「上富丞相書」 | 二二 |
| 一七二一 | 一〇六一 | 六 辛丑 | 閏八月、兄軾ト同シク直言極諫ノ制擧ニ對策シ、得失ヲ極言シ、禁廷ノ祕事ニ於テ最モ切ナリ、公自ラ謂フ、必ズ黜ケラレント、考官胡宿以テ不遜ト爲シ、之ヲ黜ケント乞フ、上獨コレヲ許サズ、遂ニ第四等ニ寘ク、商州ノ軍事推官トナル、時ニ老蘇禮書ヲ敕修シ、京師ニ在ルヲ以テ、留ツテ親ニ奉侍センコトヲ乞フ、既ニシテ大名府ノ推官ニ改メラル。 | 二三 |
| 一七二六 | 一〇六六 | 英宗 丙午<br>治平三 | 父洵ノ憂ニ丁リ、峽ヲ泝リ、蜀ニ歸ル、途、仙都山下ニ道 | 二八 |

士ト金丹訣ヲ語ル。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 一七二八 | 一〇六八 | 神宗熙寧一 | 戊申 | 服闋ル。 | 三〇 | |
| 一七二九 | 一〇六九 | 二 | 己酉 | 神宗位ニ即キ、治ヲ求ムルニ急ナリ、公書ヲ上リ、事ヲ言フ、即日召サレテ延和殿ニ對ス、擢イテ三司條例司檢詳文字ニ拜ス、會〻八使ヲ四方ニ遣シテ遺利ヲ求メシム、公書ヲ王安石ニ抵シ、極力其不可ヲ陳ブ、安石大ニ怒リ、將ニ罪ヲ加ヘントス、陳升之コレヲ止ム、八月奏シテ河南府ノ推官ト爲ス。「上皇帝書」 | 三一 | |
| 一七三〇 | 一〇七〇 | 三 | 庚戌 | 改メテ著作佐郎トナル。蓋シ此年ナルベシ。 | 三二 | |
| 一七三二 | 一〇七二 | 五 | 壬子 | 洛陽ニ於テ舉人ヲ考試ス。 | 三四 | |
| 一七三三 | 一〇七三 | 六 | 癸丑 | 「京西北路轉使題名」 | 三五 | |
| 一七三四 | 一〇七四 | 七 | 甲寅 | 齊州ニ知タリ。蓋シ此年ナルベシ。「洛陽李氏園池詩記」 | 三六 | |
| 一七三五 | 一〇七五 | 八 | 乙卯 | 齊州ニアリ。「齊州閔子祠堂記。齊州澠源石橋記。祭靈惠汪公文。自齊州回論寺事書」 | 三七 | |

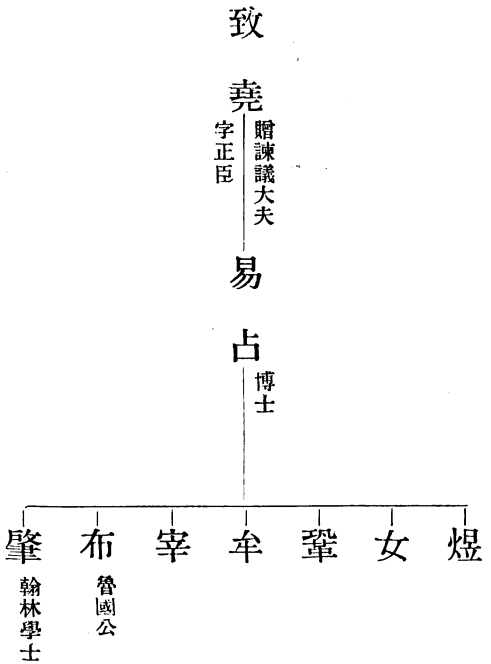
二月兄軾ト澶濮ノ間ニ會ス、蓋シ公久シク淮陽濟南ニ滯留シテ、相見ザルコト七年、時ニ大蘇、密州ヨリ徐州ニ改マ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一七三七 | 一〇七七 | 一〇 巳 | 丁 | ル、是ニ於テ相携ヘテ彭城ニ赴ク、留ルコト百餘日、逍遙 | 三九 |
| | | | | 堂ニ宿ス。「黃樓賦」幷序。王氏清虛堂記。南京祭文（七首）。 | |
| | | | | 「徐州漢高帝廟祈晴文」 | |
| 一七三八 | 一〇七八 | 元豐一 午 | 戊 | 「祭永嘉郡夫人馬氏文。代張公安道祭李宥侍郎文」 | 四〇 |
| 一七三九 | 一〇七九 | 二 未 | 己 | 兄軾ノ獄ニ下ルヲ聞キ、上書シテ見任ノ官職ヲ以テ其罪ヲ贖ハンコトヲ乞フ、遂ニ坐シテ筠州ノ鹽酒官ニ謫セラル。 | 四一 |
| | | | | 「古今家誡序。祭文與可學士文」 | |
| 一七四〇 | 一〇八〇 | 三 申 | 庚 | 筠州ニ在リ、大蘇ノ黃州ニ貶セラルルヲ聞キ、陳州ニ來ツテ | 四二 |
| | | | | 相見ル、是歲東軒ヲ創立シ、自ラ東軒長老ト號ス。「東軒記」 | |
| 一七四一 | 一〇八一 | 四 酉 | 辛 | 「筠州聖祖堂記。筠州聖壽院法堂記。棲賢寺新修僧堂記。吳 | 四三 |
| | | | | 氏浩然堂記。黃州師中庵記」 | |
| 一七四二 | 一〇八二 | 五 戌 | 壬 | 「上高縣學記」 | 四四 |
| 一七四三 | 一〇八三 | 六 亥 | 癸 | 「黃州快哉亭記。光州開元寺重修大殿記」 | 四五 |
| 一七四四 | 一〇八四 | 七 子 | 甲 | 移ツテ績溪縣ニ知タリ。 | 四六 |
| 一七四五 | 一〇八五 | 八 丑 | 乙 | 績溪縣ニ在リ。「南康直節堂記。全禪師塔銘。閑禪師碑。祭 | 四七 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 歐陽少師文」 | | |
| 一七四六 | 一〇八六 | 哲宗元祐一　丙寅 | 哲宗位ニ即キ、祕書省校書郎ヲ以テ召ス、未ダ至ラズ、右司諫ニ除セラル、蔡確、韓縝、章惇ヲ論ジテ之ヲ去ル、呂惠卿亦公ニ論ゼラレテ竄セラル。「論臺諫封事留中不行狀。論蜀茶五害狀。乞選用執政狀。論差役五事狀」 | 四八 |
| 一七四七 | 一〇八七 | 二　丁卯 | 起居郎中書舍人ニ遷ル。 | 四九 |
| 一七四八 | 一〇八八 | 三　戊辰 | 尚書戶部侍郎ニ拜ス。「伯父墓表」 | 五〇 |
| 一七四九 | 一〇八九 | 四　己巳 | 兄軾ニ代リ、翰林學士トナル、尋イデ權吏部尚書トナル。「祭范蜀公景仁文。歐陽文忠公夫人蒲氏墓誌銘」 | 五一 |
| 一七五〇 | 一〇九〇 | 五　庚午 | 契丹ニ使ス、遼人侍讀士王師儒、能ク公ノ茯苓賦及其父兄ノ文ヲ誦ス、既ニ歸ル、御史中丞ニ進ム。「祭韓忠獻公文」 | 五二 |
| 一七五一 | 一〇九一 | 六　辛未 | 二月尚書右丞ニ拜ス。 | 五三 |
| 一七五二 | 一〇九二 | 七　壬申 | 六月門下侍郎ニ進ム。 | 五四 |
| 一七五三 | 一〇九三 | 八　癸酉 | 「祭靈惠汪公文」 | 五五 |
| | | | 中書李清臣、廷試進士策ヲ發シ、元祐ノ政ヲ黜ク、公上疏シテ之ヲ諫メテ曰ク、先帝ノ聖算ハ、元祐以來上下奉ジテ | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一七五四 | 一〇九四 | 紹聖一甲戌 | | 未ダ嘗テ失墜アラズ、今若シ輕ロシク九年來已ニ行ハルルノ事ヲ變ジテ、累歲用ヒザルノ人ヲ擢スルトキハ、人各〻私忿ヲ懷キテ、先帝ヲ以テ辭ト爲シ、大事去ラント、上其疏ヲ見テ悅バズ、三月職ヲ落サレテ汝州ニ知タリ、又再ビ貶セラレテ袁州ニ移ル、未ダ到ラズ、更ニ降シテ朝議郎試小府監分司南京筠州安置ト爲ス。 | 五六 |
| 一七五七 | 一〇九七 | 四丁丑 | | 化州別駕雷州安置ニ貶セラル。「子瞻和陶淵明詩集引」 | 五九 |
| 一七六〇 | 一一〇〇 | 元符三庚辰 | | 南荒ヨリ歸リ、潁川ニ客タリ、移ッテ循州ニ知タリ。蓋シ是年ナルベシ。 | 六二 |
| 一七五一 | 一一〇一 | 徽宗建中靖國一辛巳 | | 永州ニ移ル、又岳州ニ移サル、已ニシテ太中大夫ニ復ス。 | 六三 |
| 一七六三 | 一一〇三 | 崇寧二癸未 | | 是年蔡京相ト爲ル、又降ッテ朝請大夫ト爲リ、許州ニ居ル。 | 六五 |
| 一七六四 | 一一〇四 | 三甲申 | | 是歲太中大夫ニ復シテ致仕ス、室ヲ許州ニ築イテ潁濱遺老ト號シ、自ラ傳ヲ作ル、終日默坐シテ人ト相見ズ、此ノ如キモノ殆ンド十年。「遺老齋記」 | 六六 |
| 一七七二 | 一一一二 | 政和二壬辰 | | 公卒ス、三子遲、适、遜アリ、皆顯レズ。（後端明殿學士ニ追復ス、淳熙三年文定ト謚ス）。 | 七四 |

# 曾鞏 字子固、南豐人



| 皇紀 | 西暦 | 干支 | 事蹟竝著作 | 年齢 |
|---|---|---|---|---|
| 一六七九 | 一〇一九 | 眞宗天禧三己未 | 公生ル、父名ハ易占、母ハ吳氏。 | 一 |
| 一六八二 | 一〇二二 | 乾興一壬戌 | 弟牟生ル。（王荊公ノ博士易占墓誌ニ、子男六人ト見ユ。） | 四 |
| 一六八四 | 一〇二四 | 仁宗天聖二甲子 | 父易占、進士第ヲ得タリ。 | 六 |
| 一六八六 | 一〇二六 | 四丙寅 | 父易占、越州節度推官トナル、母夫人吳氏卒ス。 | 八 |
| 一六九〇 | 一〇三〇 | 八庚午 | 公資性警敏ニシテ、書ヲ授クレバ數百言口ヲ脫シテ誦ヲ爲ス、語已ニ人ヲ驚カス、是年試ニ六論ヲ作ラシム、筆ヲ援ツテ立ロニ成ル。 | 一二 |
| 一六九四 | 一〇三四 | 景祐一甲戌 | 學舍記ニ云フ、公十六七ノ時、六經ノ言ヲ閱ヒ、古今文章ノ人ニ過ギタルモノアレバ、之ヲ好ミ、銳意之ト竝ビ馳センコトヲ欲スト。 | 一六 |
| 一六九六 | 一〇三六 | 三丙子 | 「上齊工部書」 | 一八 |
| 一六九八 | 一〇三八 | 寶元一戊寅 | 始テ太學ニ遊ブ、歐陽公其文ヲ一見シテ之ヲ奇トス、是ヨリ名聲四方ニ聞ユ。 | 二〇 |
| 一七〇〇 | 一〇四〇 | 康定一庚辰 | 南康ニアリ、李不志ニ云フ、康定ノ初、先人（子固）南康ニ寓シ、 | 二二 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 李君ト舍ヲ竝ベテ居ルト。 | | |
| 一七〇一 | 一〇四一 | 慶歴一辛巳 | 太學ニ入ル、居ル數月、始テ書ヲ歐陽公ニ上ル、云フ、仲尼歿シテ聖人ノ道ヲ觀ルベキハ、孟荀楊韓四君子ノ書ニ如クハナシト。 | 二二 | |
| 一七〇二 | 一〇四二 | 二壬午 | 撫州ニ居ル、劉伯聲墓誌ニ云フ、慶歴ノ初、余撫州ニ家ス、州ノ掾張文叔、其内弟劉伯聲ト專意學問ヲ以テ事ト爲ス、居ル三年乃チ歸ルト。 | 二四 | |
| 一七〇三 | 一〇四三 | 三癸未 | 「分寧雲峯院記。禿禿記」 | 二五 | |
| 一七〇四 | 一〇四四 | 四甲申 | 祖母萬年太君黃卒ス、年九十餘、書ヲ歐陽公ニ上リ、王安石ヲ薦ム。「上祭學士書。上歐陽學士書」 | 二六 | |
| 一七〇五 | 一〇四五 | 五乙酉 | 「送劉希序」 | 二七 | |
| 一七〇六 | 一〇四六 | 六丙戌 | 祖父贈諫議大夫致堯ノ碑文ヲ歐陽公ニ求ム。「送趙宏序。送王希序。僊都觀三門記。上歐陽舍人書」 | 二八 | |
| 一七〇七 | 一〇四七 | 七丁亥 | 父博士易占ノ疾ニ南京ニ侍ス、博士卒ス、是年博士ヲ葬ル。「與王介甫書第一。上杜相公書。醒心亭記。繁昌興造記。上 | 二九 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一七〇八 | 一〇四八 | 八戊子 | 「墨池記。菜園院佛殿記。金山寺水陸道記」 | 三〇 |
| 一七〇九 | 一〇四九 | 皇祐一己丑 | 「宜黄縣學記。思軒詩序。送周屯田序」 | 三一 |
| 一七一三 | 一〇五三 | 五癸巳 | 兄煜、江州ニ卒ス。 | 三五 |
| 一七一四 | 一〇五四 | 至和一甲午 | 晁夫人ヲ娶ル。「學舍記。先大夫集序」 | 三六 |
| 一七一六 | 一〇五六 | 嘉祐一丙申 | 「撫州顔魯公祠堂記。上杜相公書」 | 三八 |
| 一七一七 | 一〇五七 | 二丁酉 | 進士登第、夏南ニ歸ル。「關景暉妻墓表。與王介甫書（是介甫提點刑獄ニ移ルノナリ。）擬峴臺記。與孫司封書。 | 三九 |
| 一七一八 | 一〇五八 | 三戊戌 | 「思政堂記。新建縣廳記」 | 四〇 |
| 一七一九 | 一〇五九 | 四己亥 | 大平州司法參軍トナル、第二妹王補之ニ嫁ス。 | 四一 |
| 一七二〇 | 一〇六〇 | 五庚子 | 召サレテ編校史館書籍ニ拜シ、館閣校勘集賢校理ニ遷ル。「與王深甫書」 | 四二 |
| 一七二一 | 一〇六一 | 六辛丑 | 是年京師ニ至ル、十一月壬申女慶老死ス。 | 四三 |
| 一七二二 | 一〇六二 | 七壬寅 | 二月晁夫人卒ス、繼イデ李氏ヲ娶ル、禹卿ノ女ナリ。（其年月ヲ詳ニセズ、今此ニ付ス）。「送王子直序。送李材叔序。 | 四四 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 清心亭記」 | | |
| 一七二三 | 一〇六三 | 八癸卯 | 「陳書目錄序。仁壽縣太君吳氏墓誌銘」 | 四五 |
| 一七二五 | 一〇六五 | 英宗治平二己巳 | 「與王介甫書」 | 四七 |
| 一七二六 | 一〇六六 | 三丙午 | 九月女與老死ス。「筠州學記。蘇明允哀辭。相國寺維摩院聽琴序」 | 四八 |
| 一七二七 | 一〇六七 | 四丁未 | 「贈黎安二生序」 | 四九 |
| 一七二八 | 一〇六八 | 神宗熙寧一戊申 | 「瀛州興造記。尹公亭記。張文叔文集序。廣德鼓角樓記。 | 五〇 |
| 一七二九 | 一〇六九 | 二己酉 | 英宗實錄檢討官ト爲ル、月ヲ踰エズシテ出デテ越州ニ通判タリ、曾子開行狀ニ云フ、編校書籍タルコト積ム九年、自ラ外任ニ補セラレンコトヲ求ムト。「廣德湖記。送傅向老序。越州鑑湖序」 | 五一 |
| 一七三〇 | 一〇七〇 | 三庚戌 | 越州ニ在リ、歲飢ウ、公富人ヲ召シテ、畜フル所ノ米粟ノ實數ヲ陳セシメ、總ベテ十五萬ヲ得タリ、平常ノ價ニ視ヘテ以テ民ニ與フ、民便ニ從ツテ粟ヲ受クルコトヲ得、是ニ於テ、民田里ヲ出デズシテ食ニ餘アリ、粟價モ爲ニ平ナリ。「送錢純老知婺州序」 | 五二 |
| 一七三二 | 一〇七二 | 五壬子 | 越州ヨリ移ツテ齊州ニ知タリ。（或ハ云フ、事去年ニ在リト）。 | 五四 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 「齊州北門水記」 | |
| 一七三三 | 一〇七三 | 六 癸丑 | 齊州ヨリ襄州ニ遷ル。「齊州二堂記。齊州雜詩序」 | 五五 |
| 一七三五 | 一〇七五 | 八 乙卯 | 「襄州宜城縣長渠記」 | 五七 |
| 一七三六 | 一〇七六 | 九 丙辰 | 遷ッテ洪州ニ知タリ。「王容季文集序。强幾聖集序（幾聖九年ヲ以テ卒ス、序或ハ此年ノ後ニアランカ。）」 | 五八 |
| 一七三七 | 一〇七七 | 一〇 丁巳 | 二月晁夫人ヲ建昌軍南豐縣龍池ノ源頭ニ葬ル、是年又移ッテ福州ニ知タリ。「徐孺子祠堂記」 | 五九 |
| 一七三八 | 一〇七八 | 元豐一 戊午 | 福州ニ在リ、十月召シ還サル、便道先人ノ墓ヲ展ス。「王平甫集序。上執政書」 | 六〇 |
| 一七三九 | 一〇七九 | 二 己未 | 召未ダ至ラズ、徙ッテ明州ニ知タリ、正月二十五日明州ニ至ル、又徙ッテ亳州ニ知タリ。「越川越公救菑記。明州謝表。徙亳州狀」 | 六一 |
| 一七四〇 | 一〇八〇 | 三 庚申 | 是歲又滄州ニ移ル、闕ヲ過グ、神宗召シ見テ勞問甚寵ス、遂ニ留リ、三班院ニ判タリ、是ニ依ッテ亳州ニ赴カズ、上疏シテ經費ヲ議ス、神宗曰ク 輦節用ヲ以テ理財ノ要トス、世ノ理財ヲ論ズル者、未ダ此ニ及バズト。「洪州東門記。過 | 六二 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 滄州上闕疏。移滄州狀」 | | |
| 一七四一 | 四 辛酉 | 史館修撰ト爲リ、專史事ヲ典ル、初メ神宗三朝二朝各〻書ヲ爲スヲ以テ、將ニ合シテ一ト爲サントス、乃チ公ヲ以テ史館修撰ト爲シ、太祖ヨリ英宗ニ至ル、五朝ノ史事ヲ典ラシム、近世國史ヲ修ムルニ、必ズ衆ク文學ノ士ヲ選ミ、大臣ヲ以テ監總ト爲ス、今五朝ノ大典ヲ以テ、擧ゲテ獨リ一人ニ付スル公ノ如キ者、前例ニ見ザル所ナリ。 | 六三 |
| 一七四二 | 五 壬戌 | 四月擢イテ中書舍人ニ拜ス、入リテ謝スルヲ待タズシテ職ニ就カシム、九月母ノ憂ニ丁リ、江寧ニ歸ル。（公性孝友ナリ、父歿シ、繼母ニ奉ズルコト益〻至ル、四弟九妹ヲ委養單弱ノ中ニ撫育シ、官學婚嫁ニ至ルマデ、皆爲ニ大ニ力ヲ盡セリ）。 | 六四 |
| 一七四三 | 六 癸亥 | 四月丙辰江寧府ニ在リ、病ンデ卒ス。（初メ呂申公神宗ニ云フ、輩人ト爲リ行爲ハ政事ニ如カズ、政事ハ文章ニ如カズト、是ヲ以テ大ニ用ヒズト云フ）。 | 六五 |

# 王安石

字介甫、撫州臨川人

明之 贈太師中書令

用之 贈太師中書令兼尚書令

益 贈太師中書令兼尚書令康國公

- 安仁
- 安道
- 安石
  - 雱
- 安國 字平甫
- 安世
- 安禮 字和甫
- 安上

| 皇紀 | 西暦 | 漢暦干支 | 事蹟並著作 | 年齢 |
|---|---|---|---|---|
| 一六八一 | 一〇二一 | 眞宗天禧五辛酉 | 清江縣臨江ニ生ル、父名ハ益、母ハ吳氏。 | 一 |
| 一六八八 | 一〇二八 | 仁宗天聖六戊辰 | 叔祖王貫之卒ス。 | 八 |
| 一六九〇 | 一〇三〇 | 八庚午 | 父益、殿中丞ヲ以テ韶州ニ知タリ。 | 一〇 |
| 一六九三 | 一〇三三 | 明道二癸酉 | 祖父贈太師中書令兼尚書令用之卒ス、父益韶州ヨリ歸リ、喪ニ居ル。 | 一三 |
| 一六九六 | 一〇三六 | 景祐三丙子 | 親ニ從ツテ京國ニ赴ク。 | 一六 |
| 一六九七 | 一〇三七 | 四丁丑 | 父益江寧府ニ通判タリ、公亦遊宦江寧ニ至ル、此年ヨリ稷契ヲ以テ自ラ期ス。 | 一七 |
| 一六九九 | 一〇三九 | 寶元二己卯 | 二月父贈太師中書令兼尚書令康國公王益卒ス、年四十六、江寧府牛首山ニ葬ル、子孫遂ニ此ニ家ス。 | 一九 |
| 一七〇二 | 一〇四二 | 慶歷二壬午 | 進士登第、淮南節度判官トナル。「送孫正之序」 | 二二 |
| 一七〇三 | 一〇四三 | 三癸未 | 三月臨川ニ告歸ス。「張刑部詩序。傷仲永同學一首別子固。上徐兵部書」 | 二三 |
| 一七〇四 | 一〇四四 | 四甲申 | 「外祖母黃夫人墓表」 | 二四 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一七〇六 | 一〇四六 | 六 丙戌 | 秩滿チテ歸リ、京師ニアリ。 | | 二六 |
| 一七〇七 | 一〇四七 | 七 丁亥 | 鄞縣ニ知タリ、舊制秩滿ツレバ文ヲ獻ジテ館職ニ試ムルヲ求ムルコトヲ許ス、安石ハ獨否ラズ。「與馬運判書。鄞縣經游記。上相府書告葬ヲ乞フナリ。」 | | 二七 |
| 一七〇八 | 一〇四八 | 八 戊子 | 鄞ニ在リ、書ヲ杜運轉使ニ上ッテ水利ヲ論ズ。「先大夫述。答韶州張殿丞書。上杜學士言開河書。上運使孫司陳書。 | | 二八 |
| 一七〇九 | 一〇四九 | 皇祐一 己丑 | 鄞州ニ在リ、堤堰ヲ起シ、陂塘ヲ決シ、水陸ノ利ヲ爲ス、又穀ヲ民ニ貸シ、息ヲ立テテ之ヲ償ハシム、民之ヲ便トス。「善救方後序」 | | 二九 |
| 一七一〇 | 一〇五〇 | 二 庚寅 | 臨川ニ歸ル。「撫州祥符觀三清殿記」 | | 三〇 |
| 一七一一 | 一〇五一 | 三 辛卯 | 舒州ニ通判タリ、初仕ヨリ是ニ至ル十年、未ダ嘗テ一牘以テ貴權ニ干メズ、文彥博相ト爲リ、召シテ館職ニ試ミントス、家貧シク親老スルヲ以テ之ヲ辭ス。「乞免就試狀」 | | 三一 |
| 一七一二 | 一〇五二 | 四 壬辰 | 舒州ニ在リ。「老杜詩後集序。祭范潁州文。亡兄王常甫墓誌銘」 | | 三二 |
| 一七一三 | 一〇五三 | 五 己巳 | 六月祖母夫人謝氏卒ス。 | | 三三 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一七一四 | 一〇五四 | 至和一 甲午 | | 三月集賢校理ニ召サル、辭シテ就カズ。「通州海門興利記。游褒禪山記。金谿吳君墓誌銘。辭集賢校理狀二首」 | 三四 |
| 一七一五 | 一〇五五 | 二 乙未 | | 「上曾參政書」 | 三五 |
| 一七一六 | 一〇五六 | 嘉祐一 丙申 | | 文彥博再ビ召シテ羣牧判官ト爲ス、書ヲ歐陽公ニ上リ、外任ヲ乞フ。「桂州新城記。上執政書。上歐陽永叔書三首」 | 三六 |
| 一七一七 | 一〇五七 | 二 丁酉 | | 出デテ常州ニ知タリ、尋イデ提點江東刑獄ニ移ル。「與劉原父書。廣西轉運使蘇君墓誌銘」 | 三七 |
| 一七一八 | 一〇五八 | 三 戊戌 | | 二月常州ヨリ提點刑獄ニ移ル。「上仁宗言事書」 | 三八 |
| 一七一九 | 一〇五九 | 四 己亥 | | 二月權茶ヲ罷ム、公茶法ヲ議スルノ文アリ、禁茶ノ民害ヲ爲スヲ論ズ。「茶法議。王逢原墓誌銘。與崔伯易書」 | 三九 |
| 一七二〇 | 一〇六〇 | 五 庚子 | | 五月召サレテ三司度支判官ト爲ル。「上富相公書。度支副使廳壁題名記。河南府福昌縣主簿蘇軾大理評事制。相度牧馬所擧辭向箚子。唐百家詩選序」 | 四〇 |
| 一七二一 | 一〇六一 | 六 辛丑 | | 六月知制誥タリ、是ヨリ先館閣ノ命屢〻下ル、辭シテ受ケズ、是ニ於テ遂ニ知制誥ニ除ス、上疏シテ法度ヲ明ニシ、 | 四一 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一七〇 | 二七〇 | 八〇 | | 賢才ヲ建ツルノ大指ヲ云フ、三月弟安禮進士登第ス、是年歐陽公ノ介ヲ得テ呂惠卿ト交ル。「除知制誥謝表。上時政疏」 | |
| 一七二三 | 一〇六三 | 癸卯 | 八 | 八月母夫人吳氏京師ニ卒ス、十月江寧府ノ蔣山ニ葬ル。 | 四三 |
| 一七二四 | 一〇六四 | 英宗治平一 | 甲辰 | 江寧ニ在リ、母ノ喪ニ居ル。「虔州學記。答韓求仁書」 | 四四 |
| 一七二五 | 一〇六五 | 二 | 乙巳 | 江寧ニ在リ、七月服除ス、英宗召ス、狀ヲ上リ、之ヲ辭スルニ病ヲ以テス。「辭赴闕狀三書。上富相公書。王深父墓誌銘。祭王深父文」 | 四五 |
| 一七二七 | 一〇六七 | 四 | 丁未 | 閏三月江寧府ニ知タリ、九月翰林學士トナル。「辭知江寧府狀。知制誥知江寧府謝上書。廟議箚子。除翰林學士謝表。賀韓魏公啓。 | 四七 |
| 一七二八 | 一〇六八 | 神宗熙寧一 | 戊申 | 四月詔シテ越次入對セシム、七月弟安國進士登第ヲ賜フ。「賜弟安國及第謝表。論孫覺令吏人寫章疏箚子」 | 四八 |
| 一七二九 | 一〇六九 | 二 | 己酉 | 二月參知政事タリ、同月制置三司條例司ヲ設クルヲ乞ヒ、知樞密院事陳升之ト同シク之ヲ領ス、程明道ヲ條例司官トス、四月始テ新法ヲ行フ、先ヅ靑苗法ヲ興ス、六月呂誨、公論ズルヲ以テ罷メラレテ、鄧州ニ知タリ。「辭免參知政事 | | 四九 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 表。除參知政事謝表。進戒疏。與趙尚書」 | |
| 一七三〇 | 一〇七〇 | 三<br>庚戌 | 二月韓琦青苗法ヲ罷メンコトヲ乞フ、公病ト稱シテ朝セズ、詔諭シテ起タシム、五月程明道議ノ合ハザルヲ以テ司官ヲ去ル、十二月同中書門下平章事監脩國史知制誥タリ。「答吳孝宗書同論先志書。答手詔封還乞罷政事表箚子。謝手詔慰撫箚子。辭免平章事監脩國史表二書。除平章事監脩國史謝表。答司馬陳議書。答曾公立書」 | 五〇 |
| 一七三一 | 一〇七一 | 四<br>辛亥 | 公ノ議ニ依リ、詩賦、明經諸科ヲ罷メ、經義論策ヲ以テ士ヲ試ム、八月子雱太子中允崇政殿說書トナル。「除第安國館職謝表。辭男雱說書箚子。除雱中允崇政殿說書謝表」 | 五一 |
| 一七三二 | 一〇七二 | 五<br>壬子 | 公ノ議ニ依リ保馬法ヲ行フ、王韶河湟ヲ開クノ策ヲ公ニ呈ス、公以テ奇謀ト爲シ、乃チ熙河ノ役ヲ興ス。「祭歐陽文忠公文。與王子醇書第一。上五事箚子」 | 五二 |
| 一七三三 | 一〇七三 | 六<br>癸丑 | 三月經局ヲ置キ、公ニ命ジテ提擧ス、九月詔シテ水利ヲ興ス、十月上玉帶ヲ解キ、公ニ賜フ。「與王子醇書第二第三。賜玉帶謝表」 | 五三 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一七三四 | 一〇七四 | 七甲寅 | 三月方田法ヲ行フ、此春天下久シク旱ス、神宗新法ノ不便ヲ疑フ、公自ラ安ゼズ、位ヲ去ルヲ求ム、六月遂ニ觀文殿大學士ヲ以テ知江寧府ニ拜ス、八月弟安國卒ス、上表シテ賜藥慰撫ヲ謝ス。「與王子醇第四書。乞解機務箚子。答手詔留居京師箚子。觀文殿學士知江寧府謝上表。 | 五四 |
| 一七三五 | 一〇七五 | 八乙卯 | 二月入ツテ再ビ同中書門平章事タリ、六月尚書左僕射ヲ加ヘ、門下侍郎ヲ兼ヌ、九月脩國史ヲ兼ヌ。「三經義序。辭左僕射箚子三書。辭男雱授龍圖箚子三書」 | 五五 |
| 一七三六 | 一〇七六 | 九丙辰 | 春、相ヲ免ゼンコトヲ乞フ、得ズ、七月男雱卒ス、十月判江寧府ヲ罷ム。「與參政王禹玉書二書」 | 五六 |
| 一七三七 | 一〇七七 | 一〇丁巳 | 六月使相ヲ以テ集禧觀使ト爲ル。「相鶴經。辭免相判江寧府表二書。除集禧觀使乞免使相表。寶文閣待制常公墓表。洪範傳卷。書洪範傳後。進洪範表」 | 五七 |
| 一七三八 | 一〇七八 | 元豐一戊午 | 正月尚書左僕射觀文殿大學士集禧觀使ニ拜シ、舒國公ニ封ゼラル、上表シテ之ヲ謝ス、又上表シテ使相ヲ免ズルヲ乞フ、遂ニ集禧觀使ヲ以テ鐘山ニ居ル。「封舒國公謝表。除依前左僕射觀文殿大學士集禧觀使謝表。已除觀使乞免使相箚 | 五八 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 子。附與陳和叔內翰簡。廬山文珠像現瑞記」 | |
| 一七四〇 | 一〇八〇 | 三庚申 | 三月特進ヲ授ケ、改メテ荊國公ニ封ズ、上表之ヲ謝ス。「祭吳侍中沖卿文。王平甫墓。祭北山元長老文。答手詔改經義事箚子。進字說箚子同表。熙寧字說序。答呂吉甫書」 | 六〇 |
| 一七四二 | 一〇八二 | 五壬戌 | 五月和叔ト同ジク齊安ニ游ブ、此年鐘山ニ半山園ヲ營ム、弟安禮尙書右丞トナル。 | 六二 |
| 一七四三 | 一〇八三 | 六癸亥 | 八月弟安禮左丞ト爲ル。「答曾子固書」 | 六三 |
| 一七四四 | 一〇八四 | 七甲子 | 七月弟安禮罷ム。「回蘇子瞻簡。乞以所居園屋爲僧寺開乞賜額箚子同謝表。 | 六四 |
| 一七四五 | 一〇八五 | 八乙丑 | 三月哲宗位ニ卽キ、司空ニ進ム。 | 六五 |
| 一七四六 | 一〇八六 | 哲宗元祐一丙寅 | 四月薨ズ、太傅ヲ贈ル。（紹聖ノ初謚シテ文ト云ヒ、神宗ノ廟庭ニ配享ス、大觀三年舒王ニ追封セラル）。 | 六六 |

# 唐宋八大家系圖竝年譜終

漢文大系第三卷

# 唐宋八家文讀本上目次

## 韓愈 退之

### 卷一


原道 一
原性 八
原人 一〇
原鬼 三
原毀 三
對禹問 七
伯夷頌 三
師說 九
讀荀子 二
雜說一 三
雜說一 五

雜說四　二六
獲麟解　二七
進學解　二八
愛直贈李君房別　三三

## 卷一一

論佛骨表　一
潮州刺史謝上表　五
爲裴相公讓官表　九
論今年停舉選狀　一三
復讐狀　一四
禘祫議　一六
爭臣論　二〇
諱辯　二六
張中丞傳後序　二八

釋言 三三

卷三

上宰相書 一
應科目時與人書 七
上兵部李侍郎書 九
與少室李拾遺書 一二
答元侍御書 一三
與孟尚書書 一五
與鄂州柳中丞書 一九
再與鄂州柳中丞書 二二
與孟東野書 二四
上襄陽于相公書 二五
與衞中行書 二七
答崔立之書 三〇

與崔羣書　三四
答李翊書　三八
答劉正夫書　四二
答尉遲生書　四四
答呂盤山人書　四五
與汝州盧郎中論薦侯喜狀　四七

## 卷四

送鄭尚書序　一
送幽州李端公序　四
送水陸運使韓侍御歸治所序　五
送殷員外序　八
送區册序　九
送石處士序　一二
送溫處士赴河陽軍序　一四

送楊少尹序　一六
送李愿歸盤谷序　一八
送王塤序　二二
送王秀才序　二三
送許郢州序　二四
贈崔復州序　二六
送孟東野序　二八
送董邵南序　三二
送齊暐下第序　三三
送浮屠文暢師序　三五
送高閑上人序　三八
送廖道士序　四一
鄆州谿堂詩序　四二
荆潭唱和詩序　四五

# 卷五

河南府同官記 一
新修滕王閣記 四
燕喜亭記 六
藍田縣丞廳壁記 九
畫記 一〇
太學生何蕃傳 一四
圬者王承福傳 一六
毛穎傳 一九
平淮西碑 三
南海神廟碑 元
黃陵廟碑 三
柳州羅池廟碑 三六
曹成王碑 三九

烏氏廟碑銘　四四
魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘　四七
唐故相權公墓碑　五〇

## 卷六

唐故江西觀察使韋公墓誌銘　一
司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘　六
唐正議大夫尚書左丞孔公墓誌銘　一三
故幽州節度判官贈給事中清河張君墓誌銘　一八
施先生墓銘　二二
貞曜先生墓誌銘　二三
南陽樊紹述墓誌銘　二五
柳子厚墓誌銘　二六
殿中少監馬君墓誌銘　三三
河南少尹李公墓誌銘　三四

祭馬僕射文　三八
祭柳子厚文　四〇
祭河南張員外文　一一
祭十二郎文　四四
鱷魚文　五〇

## 柳宗元　子厚

### 卷　七

獻平淮夷雅表　一
駁復讐議　六
桐葉封弟辯　九
晉文公問守原議　一二
捕蛇者說　一三
觀八駿圖說　一五

箕子碑 一七
封建論 一九
劒門銘 二七
寄許京兆孟容書 三〇
與蕭翰林俛書 三六
與韓愈論史官書 四〇
答韋中立論師道書 四四

## 卷八

送澥序 一
送婁圖南秀才遊淮南將入道序 二
同吳武陵贈李睦州詩序 五
送薛存義之任序 七
愚溪詩序 八
序飲 一一
陪永州崔使君遊讌南池序 一三

嶺南節度饗軍堂記 一四
興州江運記 一七
四門助教廳壁記 二一
道州毀鼻亭神祠記 二三
零陵郡復乳穴記 二五
零陵三亭記 二七
永州龍興寺東邱記 二九
永州新堂記 三三
桂州訾家洲亭記 三三
游黃溪記 三六

## 卷九

始得西山宴遊記 一
鈷鉧潭記 二
鈷鉧潭西小邱記 三
至小邱西小石潭記 五

袁家渴記 六
石渠記 八
石澗記 九
小石城山記 一〇
柳州山水近始可遊者記 一二
邕州馬退山茅亭記 一四
唐故御史周君碣 一五
唐故萬年令裴府君墓碣 一七
陸文通先生墓表 二二
先侍御史府君神道表 二三
段太尉逸事狀 二六
梓人傳 三三
種樹郭橐駝傳 三八
宋清傳 四〇
童區寄傳 四二

# 歐陽修　永叔

## 卷十

論選皇子疏　一
論議濮安懿王典禮劄子　四
論澧州瑞木乞不宣示外廷劄子　一二
論刪去九經正義中讖緯劄子　一四
論臺諫官唐介等宜早牽復劄子　一五
論杜衍范仲淹等罷政事狀　二三
論修河第三狀　二七
本論中　三三
春秋論上　三八
春秋論中　四一
春秋論下　四四
朋黨論　四九

縱囚論　五三
卷十一
上范司諫書　一
與高司諫書　五
答吳克秀才書　一〇
答祖擇之書　一三
與張秀才第二書　一六
帝王世次圖序　二〇
後序　二三
蘇氏文集序　二四
梅聖俞詩集序　二六
江鄰幾文集序　三〇
釋祕演詩集序　三三
釋惟儼文集序　三四

內制集序 三七
刪正黃庭經序 三八
集古錄目序 四一
送徐無黨南歸序 四四
送田畫秀才寧親萬州序 四七
送楊寘序 四九

## 卷十二

吉州學記 一
豐樂亭記 四
偃虹隄記 六
有美堂記 九
峴山亭記 一三
眞州東園記 一四
王彥章畫像記 一七

樊侯廟災記　二
記舊本韓文後　三
太尉文正王公神道碑銘　六
觀文殿大學士行兵部尚書西京畱守贈司空兼侍中晏公神道碑銘　三六
資政殿學士戶部侍郎文正范公神道碑銘　四五

## 卷十三

徂徠石先生墓誌銘　一
尹師魯墓誌銘　六
張子野墓誌銘　九
湖州長史蘇君墓誌銘　一三
故霸州文安縣主簿蘇君墓誌銘　一七
黃夢升墓誌銘　二一
尚書都官員外郎歐陽公墓誌銘　二四
南陽縣君謝氏墓誌銘　二八

## 卷十四


胡先生墓表 一
石曼卿墓表 四
河南府司錄張君墓表 八
瀧岡阡表 一二
禮樂志論 一六
食貨志論 二二
藝文志論 二三
伶官傳敍論 三三
宦官傳論 三七
周臣列傳贊 四二
一行傳敍論 四三
唐六臣傳後論 四三


唐宋八家文讀本上目次終

# 序

唐宋八家文始於茅氏鹿門撰次。後儲氏同人病其疎漏。因增益之。倍有加矣。予賦性謬陋。少時誦習秖十之三四。年既長。亦嘗綜覽兩家選本幷八家全文。而精神貫注。仍在少時誦習者。既因門弟子請。出向時讀本。粗加點定。俾讀者視爲入門軌塗。志發軔也。或謂八家之文。果皆以言載道。有醇無駁者乎。應之曰。文之與道爲一者。理則天人性命。倫則君臣父子。治則禮樂刑政。欲稍增損而不得者。六經四子是也。後

此宋五子庶能表章之。餘如賈董匡劉馬班。猶且醇駁相參。奈何於唐宋八家。遽求其備乎。今就八家言之。固多因事立言。因文見道者。然如昌黎上書時相。不無踸急。柳州論封建。挾私意窺測聖人。廬陵彈狄青。以過激沒其忠愛。老泉雜於霸術。東坡論用兵。潁濱論理財。前後發議。自相違背。而南豐半山於揚雄之仕莽。一以爲合於箕子之明夷。一以爲得乎聖人無可無不可之至意。此尤繆戾之顯然者。然則八家之文。亦醇駁參焉者也。或謂如子言。後之學者。唯應於宋五子書是求。而迺問途於唐宋八家之文。則何也。應之曰。宋五子

書秋實也。唐宋八家之文春華也。天下無厭春華而棄秋實者。亦卽無舍春華而求秋實者。惟從事於韓柳以下之文而熟復焉。而深造焉。將怪怪奇奇。渾涵變化。與夫紆餘深厚。清峭遒折。悉融會於一心一手之間。以是上窺賈董匡劉馬班。幾可縱橫貫穿。而摩其壘者夫。而後去華就實。歸根返約。宋五子之學。行且徐驅而轢其庭矣。若舍華就實。而徒倣倣焉。約取夫樸學之指歸。窮其流弊。恐有等於獸皮之鞮者。吾未見獸皮之鞮。或賢於虛車之飾者也。文删存三十卷。鉤畫點讀。稍分眉目。初學者熟讀深思。有得於心。由此以覽茅氏儲

氏所蒐并窺八家全文。更有曠然心目開者。治經義者有得於此。治古文者。亦未必不有得於此。外此。唐則有李習之杜牧之孫可之。宋則有李泰伯司馬文正公王梅溪陳同甫文信國諸公文。俱當蒐討畋漁者。學者尚究心焉。

乾隆十五年歲次庚午仲冬月　長洲後學沈德潛撰

# 唐宋八家文讀本總目錄

## 韓愈退之


卷一

原道　原性
原人　原鬼
原毀　對禹問
伯夷頌　師說
讀荀子　雜說一
雜說四　獲麟解
進學解　愛直贈李君房別

卷二

論佛骨表　潮州刺史謝上表
爲裴相公讓官表　論今年停舉選狀

復讐狀
爭臣論
張中丞傳後序
卷三
上宰相書
上兵部李侍郎書
答元侍御書
與鄂州柳中丞書
與孟東野書
與衛中行書
與崔羣書
答劉正夫書
答呂毉山人書
卷四
送鄭尚書序
禘祫議
諱辯
釋言
應科目時與人書
與少室李拾遺書
與孟尚書書
再與鄂州柳中丞書
上襄陽于相公書
答崔立之書
答李翊書
答尉遲生書
與汝州盧郎中論薦侯喜狀
送幽州李端公序

送水陸運使韓侍御歸治所序
送區册序
送溫處士赴河陽軍序
送李愿歸盤谷序
送王秀才序
贈崔復州序
送董邵南序
送浮屠文暢師序
送廖道士序
荆潭唱和詩序
送殷員外序
送石處士序
送楊少尹序
送王塤序
送許郢州序
送孟東野序
送齊皡下第序
送高閑上人序
鄆州谿堂詩序

卷五

河南府同官記
燕喜亭記
畫記
坊者王承福傳
新修滕王閣記
藍田縣丞廳壁記
太學生何蕃傳
毛穎傳

平淮西碑　南海神廟碑
黃陵廟碑　柳州羅池廟碑
曹成王碑　烏氏廟碑銘
魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘
唐故相權公墓碑

## 卷六

唐故江西觀察使韋公墓誌銘
司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘
唐正議大夫尚書左丞孔公墓誌銘
故幽州節度判官贈給事中清河張君墓誌銘
施先生墓銘　貞曜先生墓誌銘
南陽樊紹述墓誌銘　柳子厚墓誌銘
殿中少監馬君墓誌銘　河南少尹李公墓誌銘
祭馬僕射文　祭柳子厚文
祭河南張員外文　祭十二郎文

鱷魚文

柳宗元 子厚

卷七

獻平淮夷雅表
桐葉封弟辯
捕蛇者說
箕子碑
劍門銘
與蕭翰林俛書
答韋中立論師道書

第八

送濬序
同吳武陵贈李睦州詩序
愚溪詩序
駁復讐議
晉文公問守原議
觀八駿圖說
封建論
寄許京兆孟容書
與韓愈論史官書
送婁圖南秀才遊淮南將入道序
送薛存義之任序
序飲

陪永州崔使君遊讌南池序
興州江運記
道州毀鼻亭神祠記
零陵三亭記
永州新堂記
游黃溪記

## 卷九

始得西山宴遊記
鈷鉧潭西小邱記
袁家渴記
石澗記
柳州山水近始可遊者記
唐故御史周君碣
陸文通先生墓表
段太尉逸事狀
種樹郭橐駝傳
嶺南節度饗軍堂記
四門助教廳壁記
零陵郡復乳穴記
永州龍興寺東邱記
桂州訾家洲亭記
鈷鉧潭記
至小邱西小石潭記
石渠記
小石城山記
邕州馬退山茅亭記
唐故萬年令裴府君墓碣
先侍御史府君神道表
梓人傳
宋清傳

童區寄傳

# 歐陽修永叔

## 卷十

論選皇子疏
論澧州瑞木乞不宣示外廷劄子
論刪去九經正義中讖緯劄子
論杜衍范仲淹等罷政事狀
本論中
春秋論中
朋黨論

## 卷十一

上范司諫書
答吳克秀才書
與張秀才第二書
論議濮安懿王典禮劄子
論臺諫官唐介等宜早牽復劄子
論修河第三狀
春秋論上
春秋論下
縱囚論
與高司諫書
答祖擇之書
帝王世次圖序

後序　蘇氏文集序
梅聖俞詩集序　江鄰幾文集序
釋祕演詩集序　釋惟儼文集序
內制集序　刪正黃庭經序
集古錄目序　送徐無黨南歸序
送田畫秀才寧親萬州序　送楊寘序

卷十二

吉州學記　豐樂亭記
偃虹隄記　有美堂記
峴山亭記　眞州東園記
王彥章畫像記　樊侯廟災記
記舊本韓文後　太尉文正王公神道碑銘
觀文殿大學士行兵部尚書西京留守贈司空兼侍中晏公神道碑銘
資政殿學士戶部侍郎文正范公神道碑銘

卷十三

徂徠石先生墓誌銘　尹師魯墓誌銘
張子野墓誌銘　湖州長史蘇君墓誌銘
故霸州文安縣主簿蘇君墓誌銘
黃夢升墓誌銘　尚書都官員外郎歐陽公墓誌銘
南陽縣君謝氏墓誌銘

## 卷十四

胡先生墓表　石曼卿墓表
河南府司錄張君墓表　瀧岡阡表
禮樂志論　食貨志論
藝文志論　伶官傳敍論
宦官傳論　周臣列傳贊
一行傳敍論　唐六臣傳後論

## 蘇洵　明允

## 卷十五

議修禮書狀　上歐陽內翰書
上田樞密書　上韓樞密書
上韓昭文論山陵書　禮論
易論　樂論
詩論　書論
春秋論
卷十六
史論上　史論中
史論下　六國
高帝　明論
諫論上　諫論下
譽妃論　管仲論
辨姦論
卷十七
審勢　審敵

任相　御將
養才　送石昌言爲北使引
蘇氏族譜引　張益州畫像記
木假山記　仲兄字文甫說
名二子說

蘇軾子瞻

卷十八

議學校貢舉箚子　諫買浙燈狀
上神宗皇帝書　再上皇帝書

卷十九

乞校正陸贄奏議進御劄子　論積欠狀
杭州召還乞郡狀　狄山論匈奴和親
張九齡不肯用張守珪牛仙客　到黃州謝表
謝量移汝州表　到昌化軍謝表

乞常州居住表
代滕甫辨謗乞郡書

卷二十
正統論上
正統論下
大臣論下
既醉備五福論
論周東遷
宋襄公論

卷二十一
屈到嗜芰論
荀卿論
論養士
論范增
賈誼論
代張方平諫用兵書
正統論中
大臣論上
刑賞忠厚之至論
伊尹論
論魯隱公里克李斯鄭小同王允之
范文子
論商鞅
韓非論
論始皇漢宣
留侯論
鼂錯論

卷二十二
策略一　策略四
策略五　決壅蔽
無沮善　敦敘化
敎戰守　蓄材用
倡勇敢　擬進士對御試策一道

卷二十三
上梅直講書　答李端叔書
答張文潛縣丞書　與謝民師推官書
與李公擇　范文正公文集序
六一居士集序　鼂君成詩集序
韓魏公醉白堂記　李氏山房藏書記
寶繪堂記　眉州遠景樓記
凌虛臺記　超然臺記
放鶴亭記　石鐘山記

卷二十四

潮州韓文公廟碑
司馬溫公神道碑
稼說送張琥
書李伯時山莊圖後
書蒲永昇畫後
亡妻王氏墓志銘
表忠觀碑
日喻
剛說
書吳道子畫後
方山子傳
祭歐陽文忠公文

蘇轍子由

卷二十五

陳州爲張安道論時事書
自齊州回論時事書
乞責降韓縝第七狀
乞牽復英州別駕鄭俠狀
六國論
爲兄軾下獄上書
乞罷左右僕射蔡確韓縝狀
乞誅竄呂惠卿狀
商論
三國論

隋論
卷二十六
臣事策一
民政策二
古今家誡序
武昌九曲亭記
上樞密韓太尉書
唐論
臣事策四
元祐會計錄序
齊州閔子廟記
黃州快哉亭記
代三省祭司馬丞相文
曾鞏 子固
卷二十七
移滄州過闕上殿疏
寄歐陽舍人書
戰國策目錄序
陳書目錄序
先大夫集後序
福州上執政書
與孫司封書
列女傳目錄序
禮閣新儀目錄序
范貫之奏議集序

卷二十八
送江任序
宜黃縣學記
越州趙公救菑記
墨池記
分寧縣雲峯院記
送李材叔知柳州序
撫州顏魯公祠堂記
思政堂記
道山亭記
書魏鄭公傳

王安石　介甫

卷二十九
上仁宗皇帝言事書
原過
進戒疏
性情

卷三十
周公論
莊周論上
答韶州張殿臣書
禮論
上田正言第一書
與趙卨書

周禮義序
桂州新城記
遊襄禪山記
讀孟嘗君傳
給事中孔公墓誌銘
祭范潁州文
傷仲永
慈谿縣學記
芝閣記
楊州龍興講院記
讀孔子世家
泰州海陵縣主簿許君墓誌銘
祭歐陽文忠公文

# 唐宋八家文讀本總目錄 終

# 唐宋八家文讀本卷一

清 沈德潛 確士 撰
日本 三島毅 中洲 評

## 原道

主意　明聖道根源。欲明聖道根源。不得不先闢老佛。故第一第二大段闢老佛。至第三大段。始論原道主意。而主意止仁義。仁義之實用。在養一字。○仁義道德四字一篇字眼。

博愛之謂仁。行而宜之之謂義。由是而之焉之謂道。足乎己無待於外之謂德。仁與義爲定名。道與德爲虛位。故道有君子小人。君子暗伏聖道。小人暗伏老佛。而德有凶有吉。第一小段釋仁義道德之名義冒一篇。卽揭一篇主意也。老子之小仁義。非毀之也。其見者小也。坐井而觀天。曰天小者。非天小也。彼以煦煦爲仁。子子爲義。其小之也亦宜。其所謂

原道トハ原（モト）ノ道ニシテ、老佛ニ對シテ聖人ノ道ヲ云フ、淮南子ニ原道篇アリ、文體明辨ニ、原ハ本ナリ、其本原ヲ推論スルナリト見ユ。

此外ニ原性、原人、原鬼、原毀ノ篇アリ、名ケテ五原ト云フ。

博愛云云、仁ハ二人ナリ、我ト他トノ關係ヨリ出ヅ、孟子ハ仁ヲ人心ナリト解ケリ、汎愛衆ニ及ボスナイフ、義ハ宜ナリ、人ノ正シク踏ムベキ路ニシテ、心ニ制アリテ事ノ宜シキニ適ヘルナイフ。

由是云云、是トハ假定ノ詞、仁義ニテモ、不仁義ニテモ、ソレニ由リ率ヒテ行フヲ道トイ

フ、德ハ得ナリ、十分滿足シテ更ニ外ノ助ヲ待タザルチイフ。

老子名ハ聃、春秋ノ時ノ人、道德經ヲ著ス、其說、虛無自然ヲ以テ道德ノ本義トナシ、孔孟ノ所謂仁義道德ハ、區區タル小仁義、瑣瑣タル小道德ナレバ、之ヲ行フトモ世ニ益ナキノミナラズ、反テ害アリト痛ク非難攻擊セリ。

煦煦ハ寒氣ノ爲ニ凍エタル者ニ、息氣ヲ吹キカケテ暖ムルコトニシテ、恩惠ノ小ナルモノ、子子ハ單獨孤立ノ貌ニシテ、片意地ヲ張リテ我ノ量見ノミヲ立ツルチイフ。

火於秦ハ、秦始皇三十四年、李斯ノ議ニヨリ、詩書百家ノ書ヲ燒棄シ、又儒ヲ坑ニシタルチイフ。

楊ハ楊氏名ハ朱、墨ハ墨氏名ハ翟、共ニ戰國ノ人ナリ、孟子ニ、楊氏ハ我ガ爲ニス、是レ君無キナリ、墨氏ハ兼愛ス、是レ父無キナリ、父無ク君ナキハ是レ禽獸ナリトアリテ、楊氏ハ假令毛髮一本タリトモ利ヲ與ヘテ天下ヲ治ムルトモ爲サザルベシトイヘリ。

道ハ道トス二其所レ道ヲ一非ニ吾所レ謂道ニ一也。其所レ謂德ハ德トス二其所レ德ヲ一非ニ吾所レ謂德ニ一也。凡吾所レ謂道德云者ハ、一回顧。合二仁與レ義言一レ之ヲ也。天下之公言也。老子之所レ謂道德云者ハ、去二仁與レ義言一レ之ヲ也。一人之私言也。」第二小段闢二老子一。周道衰。孔子沒。火ニ於秦一。黃老於レ漢。佛於二晉魏梁隋之間一。其言ニ道德仁義一者。不レ入ニ於楊一。則入レ於レ墨。不レ入ニ於老一。則入レ於レ佛。入ニ於彼一。必出ニ乎此一。入者主レ之。出者奴レ之。入者附レ之。出者汙レ之。主奴附汙押韻。嚄。後之人。其欲レ聞二仁義道德之說一。二回顧。孰從而聽レ之。第三小段合二闢老佛楊墨一陪客耳。老者曰。孔子吾師之弟子也。佛者曰。孔子吾師之弟子也。爲二孔子一者習聞二其說一。樂二其誕一而自小也。亦曰。吾師亦嘗師レ之云爾。不レ惟舉レ之於其口一。而又筆レ之於其書一。嚄。後之人雖レ欲レ聞二仁義道德之說一。三回顧。其孰從而求レ之。甚矣人

之好怪也。不求其端。不訊其末。惟怪之欲聞。』第四小段闢吾儒之陷老佛者。一層深一層。○以上第一大段揭聖人眞道德。以闢老佛僞道德。卽一篇大意。然猶是理論。

古之爲民者四。今之爲民者六。古之教者處其一。今之教者處其三。農之家一。而食粟之家六。工之家一。而用器之家六。賈之家一。而資焉之家六。奈之何。民不窮且盜也。」有妨于民之生養。

古之時。人之害多矣。有聖人者立。然後教之以相生養之道。爲之君。爲之師。驅其蟲蛇禽獸。而處之中土。寒然後爲之衣。饑然後爲之食。木處而顚。土處而病也。然後爲之宮室。爲之工。以贍其器用。爲之賈。以通其有無。爲之醫藥以濟其夭死。爲之葬埋祭祀以長其恩愛。爲之禮以次其先後。爲之樂以宣其湮鬱。爲之政以率其怠勸。爲之刑以鋤其强梗。相欺也。爲之符璽斗斛權衡以信之。相

モ、人ノ爲ニハセズトイフ甚ダシキ利己主義ヲ守リ、墨氏ハ兼愛トテ、我親モ他人ノ親モ同樣、我子モ他人ノ子モ同樣ニテ、愛情ニ於テ更ニ自他ノ區別ヲ立テズトイフ說ナリ。古之爲民者四云云、四トハ士農工商ナリ、之ニ老佛ノ學者ヲ加ヘテ六トイフ。處其一ノ一トハ聖人ノ教ヲサス、之ニ老佛ヲ加ヘテ卽チ今ノ教ハ三ナルナリ。

爲之樂——塞リタル心、鬱鬱トシテ樂マザル情ヲ宣揚セシムルニ音樂ヲ以テス。

符璽ノ符ハわりふ、璽

奪也。爲之城郭甲兵以守之。害至而爲之備。患生而爲之防。二句結一節。今其言曰。聖人不死。大盜不止。剖斗折衡。而民不爭。嗚呼。其亦不思而已矣。如古之無聖人。人之類滅久矣。何也。無羽毛鱗介以居寒熱也。無爪牙以爭食也。」第二小段論聖人生養斯民。而老子之言反是。故。君者出令者也。臣者行君之令而致之民者也。民者出粟米麻絲。作器皿。通貨財。以事其上者也。君不出令。則失其所以爲君。臣不行君之令而致之民。則失其所以爲臣。民不出粟米麻絲。作器皿。通貨財。以事其上。則誅。今其法曰。必棄而君臣。去而父子。禁而相生養之道。以求其所謂清淨寂滅者。第三小段論四民皆有用。于生養。而老佛欲棄之去之。嗚呼。其亦幸而出於三代之後。不幸而不出於三代之見黜於禹湯文武周公孔子也。其亦不幸而不出於三代之

（ハ實印　斗斛ハます、權ハはかりノ錘、衡ハはかりノさをナリ。）
（今其法――佛法ニ曰ク、汝君臣ノ義父子ノ情ヲ去リ、汝ノ相生ジ相養フ事、卽チ生計ノ道ヲ捨テ、無欲（清淨）無心（寂滅）ナルコトヲ求メヨト。）
（帝之於――夏殷周三代以前ノ天子ハ大概皆帝トイフ、黃帝、炎帝ノ類ナリ、王ハ禹王、湯王、文王ノ類ナリ、帝ト云ヒ王ト云フ、其名ハ異レドモ、其聖人タル所以ハ同樣ナリ、之ヲ譬ヘバ、夏ニハ葛（かたびら）ヲ著、冬ニハ裘（けごろも）ヲ著、渴ケバ水ヲ飮ミ、飢ウレバ食フ、其事柄ハ異レドモ、時ニ因リテ智慧ヲ用ヰルヲ以ノ所以ハ同一ナリ。）
（今其言――老子ノ說ニ、湯王文王ナド世ヲ治ムル方法ヲ一切廢シテ、太古ノ黃帝ナドノ時ノ自然ニ任セ、無爲ニシテ化スルノ治メ方ヲ爲スベシト曰フ、是レ上ニ譬ヘタル裘ヲ著

ル者ニ、輕便ナル葛ヲ衣ルノ易キヲ爲スベシ、饑者ノ食フヲ貴メテ、水ヲ飲ムノ易キヲ爲セヨト責ムルト同樣ニシテ、老子ハ時ニ應ズルノ務ヲ知ラズト謂フベシ。

傳曰ハ禮記大學篇。

春秋ハ魯國ノ史官ノ記錄ナリ、孔子之ヲ訂正筆削シテ褒貶黜陟ノ義ヲ寓シ、亂臣賊子ヲ筆誅セル書ナリ。

用夷禮——中國ノ諸侯ニシテ夷狄ノ禮儀ヲ行ヘバ、春秋ノ法ニ於テ之ヲ貶シテ夷狄同樣ニ書シ、夷狄ニシテ中國ノ禮儀ヲ學ブ者ハ進メテ中國同樣ニ書セリ。

經曰云——論語八佾篇ニ見ユ、諸夏ハ中國ナリ、夷狄ニハ君長アレドモ暴虐ヲ以テ下ヲ御シ、下モ亦強梗ニテ君長ヲ凌ギ、更ニ上下君臣ノ道德禮義ナシ、中國ハ上下ノ道立チ、禮法備レリ、故ニ夷狄ハ君長アリテモ到底中國ノ君ナキニモ及バズ。

詩曰云云魯頌閟ノ篇ノ詞ナリ、戎狄ハ西北方ノ夷、膺ハ擊ナリ、荊ハ

前ニ不レ見レ正サ於禹湯文武周公孔子ニ也」。第四小段中間一正一反。咏歎結。前起レ後。○嗚呼云云。一事生二兩意一。

筆尖如レ躍、何等靈活。點二禹湯七人一帝之於レ王ルニ。其號各殊ナレドモ、其所レ以ハ爲レ聖ル一名。實ニ上文聖人ヲ。又起二下文傳授一。

也。夏葛而冬裘ス。渴シテハ飲ミ而饑エテハ食フ。其事殊レドモ。其所レ以ハ爲レ智ル一也。今其言曰ヒテ。曷ゾ不レ爲サ太古之無事ニ。是亦責メテ冬之裘スルヲ者ニ曰ヒテ。曷ゾ不レ爲サ葛ニスルヲ之易キヲ也。責メテ饑エタル之食フ者ニ曰ヒテ。曷ゾ不レ爲サ飲ムヲ之ヲ易キヲ也」。第五小段論二老子無爲一。

傳曰ヒテ。古之欲スルハ明ニセント明德ヲ於天下ニ者ハ。先ヅ治ム其國ヲ。欲スルハ治メント其國ヲ者ハ。先ヅ齊フ其家ヲ。欲スルハ齊ヘント其家ヲ者ハ。先ヅ修ム其身ヲ。欲スルハ修メント其身ヲ者ハ。先ヅ正シクス其心ヲ。欲スルハ正シクセント其心ヲ者ハ。先ヅ誠ニスト其意ヲ。然ラバ則古之所レ謂正心而誠レ意者ハ。將二以テ有レ爲スコト也。今也欲シテ治メント其心ヲ而外ニシ天下國家ヲ。滅ス其天常ヲ。子トシテ爲而不レ父トセ其父ヲ。臣トシテ爲而不レ君トセ其君ヲ。民トシテ爲而不レ事トセ其事ヲ。」第六小段引二傳關佛氏一。

孔子之作ルヤ春秋ヲ也。諸侯用フレバ夷ノ禮ヲ則夷ニスレ之ヲ。進メバ於中國ニ。則中國ニスレ之ヲ。經曰。夷狄之有レ君。

楚ノ本號、舒ハ楚ノ同盟國、共ニ南夷ナリ、懲ハ艾（こらす）ナリ、此等夷狄ノ中國ニ妨害ヲ爲ス者ヲ周公ノ擊チ懲ラシタルヲ詠ゼル詩ナリ。

幾何其——夷狄ノ佛法ガ聖人ノ教ノ上ニ立タバ、天下ノ人相率キテ皆夷狄トナラン、夷狄ト爲ラザル人ハイカホドモナカルベシ。

是故以——聖人ノ教ヲ以テ己一身ヲ修ムレバ順當ニシテ吉祥、他ニ交レバ仁愛アリテ公平、心ヲ修ムレバ和ギテ順ニ天下國家ヲ治レバ、何事ヲ處置スルニモ、道理ニ當ラザル事ナシ。

是故生云云、郊ハ祭ノ名、天ヲ郊ニ祀ルヲイフ、冬至ニハ南郊ニ、夏至ニハ北郊ニ祀ル、假ハ格ト音通ニテいたるナリ、生キテハ日用ノ事皆人情ノ欲スル所ヲ得、死シテハ喪葬ノ常禮ヲ盡シ、郊祭ニハ天神其ノ誠ニ感シテ降リ至リ、宗廟ニテ先祖ヲ祭レバ靈魂來リ承ク。

不レ如ニ諸夏之亡一。詩曰。戎狄是膺。荊舒是懲。今也。擧ニ夷狄之法一。而加ニ之先王之教之上一。幾何其不レ胥而爲レ夷也。』第七小段論ニ佛是夷狄之法一〇以上第二大段論ニ實事一闢ニ老佛一〇此段中七小段反覆闢ニ老佛一。主意言ニ聖人貴ニ生養一。老佛不レ貴ニ生養一。生養卽仁義之實。夫所謂先王之教者何也。博愛之謂レ仁。行而宜之之謂レ義。由レ是而之レ焉之謂レ道。足ニ乎己一無レ待ニ於外一之謂レ德。其文詩書易春秋。其法禮樂刑政。其民士農工賈。其位君臣父子師友賓主昆弟夫婦。其服麻絲。其居宮室。其食粟米果蔬魚肉。其爲レ道易レ明。而其爲レ教易レ行也。是故以レ之爲レ己。則順而祥。以レ之爲レ人。則愛而公。以レ之爲レ心。則和而平。以レ之爲ニ天下國家一。無レ所レ處而不レ當。是故生則得ニ其情一。死則盡ニ其常一。郊焉而天神假。廟焉而人鬼饗。」第一小段明ニ言聖人之道及其效驗一。

曰斯道也。何道也。曰斯吾所謂道也。非ニ向所謂老與佛之道一

荀與——荀名ハ況、戰國ノ人ナリ、時人荀卿ト稱ス、書ヲ著シ、荀子ト名ク、揚名ハ雄、前漢ノ人ナリ、書ヲ著シ法言ト名ヅク、荀卿ト揚雄トハ共ニ聖賢ノ道ヲエラビタレドモ純粹ナラズ、書ヲ著シテ聖賢ノ道ヲ論ジタレドモ詳明ナラズ、故ニ聖道ノ傳受中ニ加ヘ數フベカラズ。

由周公——周公ヨリ以前ナル堯舜禹湯文武ハ、上位ニアリテ人君タルヲ以テ、其道ヲ事業ノ上ニ實行シ得タレドモ、周公ヨリ以後ナル孔子孟子ハ、下位ニ居リテ臣タリシヲ以テ、書物ナド著シ、其說明ヲ長クセザルヲ得ザリシナリ、其說長シトイフ中ニ、暗ニ韓退之モ亦孔孟ニ繼ギテ此ノ原道ヲ作リ、聖人ノ道德ヲ說キ、世道ヲ維持スルノ意味ヲ含ム。

不塞不流云云、佛老ノ道ヲ塞ガザレバ聖人ノ道ノ天下ニ流傳セザルヲイフ。

人其人云云、民其人ト書クベキヲ、唐ノ太宗

也。堯以是傳之舜。舜以是傳之禹。禹以是傳之湯。湯以是傳之文武周公。文武周公傳之孔子。孔子傳之孟軻。軻之死不得其傳焉。荀與揚也。擇焉而不精、語焉而不詳。由周公而上。上而爲君。故其事行。由周公而下。下而爲臣。故其說長。」第二小段論聖道之傳授盛衰。然則如之何而可也。曰。不塞不流。不止不行。人其人。火其書。廬其居。明先王之道。以道之。鰥寡孤獨廢疾者有養也。其亦庶乎其可也。』第三小段論今日實際處置。結第三大段。兼結全篇。○以上第三大段始發揮原道主意。主意止于仁義道德四字。○兩可字前後呼應。○不塞以下結前二大段。明先王以下結第三大段。○養字應中段數生養字。卽仁義之實。○此篇結穴處置。在鰥寡一句。猶孟子牽牛章結穴處置。止于五畝之宅一節。平平實實。非高妙不可行之說。眞是有用大文字。

皇帝ノ名世民ナルヲ以テ諱ミ避ケタルナリ、佛老ヲ修ムル者ヲ還俗セシメテ尊通ノ人民トスルナリ。

盧其居云云、佛老ヲ修ムル者ノ住居ナル寺觀ヲ毀チテ、普通人民ノ廬舍トスルナリ。

原性ノ原ハ原道ノ原ト同ジ、人ノ性ノ本源ヲ尋ネ求メテ論ズ

性也者云云、天ヨリ命セラレ、之ヲ心ニ有スル者ナ性トイフ、中庸ニモ天命之ヲ性ト謂フトアリ、性ノ字ハ心ニ从ヒ生ニ从フ、即チ生キタル心トイフ義、之ハ生ルル時此身體ト倶ニ生ズルモノナリ。

情也者——情ナル者ハ性ガ物ニ接シテ感ジ動ク所ヲイフ。

可導而——中品ノ性ハ教導ニヨリテ善ニナスベク亦惡ニモナスベシ、即チ上ニモ下ニモ誘ハルルモノナリ。

主於一云云、一トハ仁義禮智信ノ五者ノ一ヲイフ、五者ノ一ヲ心ニ主持シ、他ノ四者竝ビ行ハレテ缺點ナキナリ。

# 原性

主意　言ヽ性有ニ三品一而上下二品不レ移。

性也者與レ生俱生也。情也者接レ於レ物而生也。性之品有レ三而其所以爲レ性者五。情之品有レ三而其所以爲レ情者七。」第一小段概ニ言性情一。是曰何也。曰性之品有ニ上中下三一。上爲者善焉而已矣。中爲者可ニ導而上一下一也。下爲者惡焉而已矣」。四句一篇主意。其所以爲レ性者五。曰仁。曰禮。曰信。曰義。曰智。上爲者之於レ五也。主ニ於一一而行ニ於四一。中爲者之於レ五也。一不ニ少有一レ焉。則少反レ焉。其於レ四也混。下爲者之於レ五也。反ニ於一一而悖ニ於四一。性之於レ情。視ニ其品一。」第二小段性之目。情之品。有ニ上中下一三。其所以爲レ情者七。曰喜。曰怒。曰哀。曰懼。曰愛。曰惡。曰欲。上爲者之於レ七也。動而處ニ其中一。中爲者

一不少——五者ノ一完全ニ具有セザル時ハ、少シク反ク所アリテ缺ク點アリ、故ニ他ノ四者モ亦過不及アリテ混雜チナスナリ。

視其品——視ハ比例スルナリ、性ノ品ニ比例シテ、情ノ品ニモ上中下ノ三等アリ。

動而處——七情發動シテ、喜ブベキニ喜ビ、怒ルベキニ怒リテ、皆其中正ノ道ニアタルナリ。

有所甚——七情ノ發スルコト、中正ヨリ過ギテ甚シキコトアリ、又中正ニ及バズシテ無キコトアリ。

直情而——過ギタルモ及バザルモ更ニ思慮分別ナク、七情チ其ママニ行フナリ。

性善ハ孟子ノ說、性惡ハ荀子ノ說、始也混ハ揚子ノ說ナリ、揚子ハ原道篇ニ在ル荀與揚ノ揚ニテ、前漢ノ揚雄チイフ。

叔魚ハ國語ニ見ユ、叔魚トイヘル人生レシキ、其母之チ視テ曰ク、此子ハ虎ノ如キ目ニシテ、豕ノ如キ啄、之於七也。有所甚。有所亡。然而求合其中者也。下焉者之於七也。亡與甚。直情而行者也。情之於性。視其品。』第三小段情之目。○以上第一大段言性情有三品。性是主。情是客。故第二大段以下言性而不言情。

孟子之言性。曰人之性善。荀子之言性。曰人之性惡。揚子之言性。曰人之性善惡混。夫始善而進惡。與始惡而進善。與始也混而今也善惡。皆擧其中而遺其上下者也。得其一而失其二者也。」第一小段合駁三子之失。

叔魚之生也。其母視之。知其必以賄死。楊食我之生也。叔向之母。聞其號也。知必滅其宗。越椒之生也。子文以爲大戚。知若敖氏之鬼不食也。人之性果善乎。后稷之生也。其母無災。其始匍匐也。則岐岐然。嶷嶷然。文王之在母也。母不憂。既生也。傅不勤。既學也。師不煩。人之性果惡乎。堯之朱。舜之均。文王之管蔡。習非

鳶ノ如キ肩ニシテ、牛ノ如キ腹ナレバ、大食慾ニシテ必ズ賄賂ノ爲ニ死セント、成長ノ後果シテ然リキ。

楊食我ハ左傳ニ見ユ、叔向トイヘル人、伯石トイフ子ヲ生ミタルトキ、叔向ノ母之ヲ視ントテ堂ニ至リ、其子ノ泣聲ヲ聞キテ曰ク、是ハ豺狼ノ如キ聲ナリ、ソノ一族ヲ滅ス者ナラント、果シテ然リキ、伯石ハ食我ノ字ナリ、楊ハ地名、其地ヲ采食ス、故ニ楊食我トハイフナリ。

越椒ハ左傳ニ見ユ、司馬子反トイフ人、越椒トイフ子ヲ生ミシトキ、子文トイフ人曰ク、必ズ之ヲ殺セ、コノ子ハ熊虎ノ狀ニシテ豺狼ノ聲アリ、殺サザレバ、必ズ若敖氏ヲ滅スナラント、子反聽カズ、子文大ニ憂戚シタリシガ、後果シテ子文ノ言當レリ。

其母無災ハ、安產ニシテ難ミナキナリ。

岐岐然ハ意ニ知ル所アルナリ、嶷嶷然ハ識別スル所アルナリ、共ニ

不レ善也。而卒爲レ奸。瞽瞍之舜。鯀之禹。習非レ不レ惡也。而卒爲レ聖人。人之性善惡果混乎。故曰。三子之言レ性也。擧レ其中一而遺レ其上下一者也。得レ其一一而失レ其二一者也。』第二小段引レ典證二三子之失一。○以上第二大段駁二諸子言レ中而遺二上下一。

曰然則性之上下者。其終不レ可レ移乎。曰上之性就レ學而愈明。下之性畏レ威而寡レ罪。是故上者可レ教。而下者可レ制也。其品則孔子謂不レ移也。」第一小段問答。曰今之言レ性者異二於此一。何也。曰今之言者。雜レ佛老一而言也。雜二佛老一而言也者。奚言而不レ異。』第二小段餘波。○以上第三大段設二或問一。論二上下不レ移。兼及佛老不レ足レ論。是補缺法。

## 原人

主意　言二人者夷狄禽獸之主一。

小兒ノ知識アルナ形容ス。
文王在――文王ノ母ノ胎内ニ在リシトキ、母親健康ニシテ病ナク、更ニ苦痛ナカリシナリ、且ツ生來聖智ナル人故ニ、守リ役モ、師匠モ、別ニ保護教育ニ骨折リ世話スル面倒ナカリキ。
堯之朱――堯ニハ朱トイフ子、舜ニハ均トイフ子、文王ニハ管蔡トイフ二子アリ、皆親ハ聖人、子ハ不肖ナリ、サレバ其子タルモノノ平生ノ家庭教育ニ於テモ、聞見習慣善ナリシナルベケレド、卒ニ奸ヲ爲ス悪人トナレリ。
瞽瞍之――頑固奸悪ナル瞽瞍及ビ絲ニハ、舜トイヒ禹トイフ子アリ、平素ノ習慣悪ナリシナルベケレド、卒ニ舜禹ハ聖人トナレリ。孔子謂云云、論語ノ陽貨篇ニ、子曰ク上智ト下愚トハ移ラズトアリ。
原人トハ、人ノ根元ヲ推論スルナリ。
兩間ハ天地ノ間ナリ。

形於上者謂之天。形於下者謂之地。命於其兩間者謂之人。形於上。日月星辰皆天也。形於下。草木山川皆地也。命於其兩間。夷狄禽獸皆人也。』二句提大意。○以上第一大段略言大意。曰然則吾謂禽獸人可乎。曰非也。指山而問焉曰。山乎。曰山可也。山有草木禽獸。皆擧之矣。指山之一草而問焉曰。山乎。曰山則不可。』以上第二大段設問答。解前段。是概言。非詳言。故天道亂而日月星辰不得其行。地道亂而草木山川不得其平。人道亂而夷狄禽獸不得其情。天者日月星辰之主也。地者草木山川之主也。人者夷狄禽獸之主也。一句主意。主而暴之。不得其爲主之道矣。是故聖人一視而同仁。篤近而擧遠』末句是處置。非主意。近是人。遠是夷狄禽獸。○以上第三大段發揮主意。遂及處置。

謂禽獸云云ハ、禽獸ヲ指シテ人ト稱スルナリ。

㊀人一――聖人ハ天下ノ人物ヲ一樣ニ見テ、更ニ偏頗ナク、公平ニ仁惠ヲ施ス、卽チ博愛之謂仁ノ意ナリ、然レドモ、墨氏ノ所謂差等ナキ兼愛ニハ非ズ、先ヅ近親ヨリ手厚クシ、順次ニ疎遠ニ及ボス、卽チ行而宜之之謂義ノ意ナリ。

原鬼ハ、鬼ノ根元ヲ推論スルナリ、鬼ハ列子ニ、精神形ヲ離レテ各其眞ニ歸ス、故ニコレヲ鬼トイフ、鬼ハ歸ナリ、其眞宅ニ歸スト見ユ、乃チ眞ノ鬼ハ鬼神ノ鬼ニシテ、世俗ノ鬼ハ物怪ニ屬ス、此篇コノ二者ヲ辨別ス。

嘯ハ口ヲ蕭(すぼ)メテ聲ヲ發スルナリ、口笛ヲ吹クガ如キナイフ。

梁ハ屋梁(うつばり)ナリ。

有爽ノ爽ハ差フニシテ、又忒(たが)フナリ、物ニ從ハザルナリ。

# 原鬼

主意　言鬼與物怪異。

有嘯於梁。從而燭之。無見也。斯鬼乎。曰非也。鬼無聲。有立於堂。從而視之。無見也。斯鬼乎。曰非也。鬼無形。有觸吾躬。從而執之。無得也。斯鬼乎。曰非也。鬼無聲與形。安有氣。」第一小段說人招之鬼。

曰鬼無聲也。無形也。無氣也。果無鬼乎。曰有形而無聲者。物有之矣。土石是也。有聲而無形者。物有之矣。風霆是也。有聲與形者。物有之矣。人獸是也。無聲與形者。物有之矣。鬼神是也。』二句主意。○第二小段說眞鬼神。○以上第一大段設疑問。論鬼神無形聲氣。

曰然則有怪而與民物接者何也。曰是有二。有鬼有物。漠然無形與聲者。鬼之常也。民有忤於天。有違於民。有爽於物。逆於倫。而感於氣。於是乎。鬼有形

有形於形トハ、左傳莊公八年ニ、齊ノ彭生ノ冤魂ガ大豕ニ憑リ移リ人ノ如ク二足立チニナリテ泣キタルガ如キヲイフ。

有憑於聲トハ、左傳僖公三十二年ニ、晉ノ文公ノ尸、牛ノ如キ聲ヲ發シタル類ヲイフ。

有動於民トハ、周語ニ、惠王十五年神莘ニ降ル、王之ヲ內史過ニ問ヘルニ、對ヘテ曰ク、神ヲ得テ興ルモアリ、亦亡ブルモアリ云云トアル類ナリ。

適丁民——禍福ノ有無ハ、タマタマ民ノ其時アルニ當レバナリ、是ハ禍福ヲ指ス。

原毀ハ、毀ノ由リテ來ル所以ヲ推論スルナリ。

重以周云云、周ハ周密ナリ、聖賢ノ如クナラント責ムルハ重キコトニテ、一藝一善ミナ能クセントスルハ周密ナリ。

於形。有憑於聲。以應之而下殃禍焉。皆民之爲之也。其既也。又反乎其常。」說鬼神。曰何謂物。曰成於形與聲者。土石風霆人獸是也。反乎無聲與形者。鬼神是也。不能有形與聲。不能無形與聲者。物怪是也。故其作而接於民也無恆。故有動於民而爲禍。亦有動於民而爲福。亦有動於民而莫之爲禍福。適丁民之有是時也。作原鬼。』第二小段說物怪。○以上第二大段辨鬼神物怪之異。物怪辨而鬼神之說明。

## 原毀

主意　言毀之原。在忌與忌。○此篇主意。在戒毀者。故主毀者客見毀者。○此篇。篇中有雙關。段中有雙關。小段中有雙關。首尾大小皆雙關。孟子已有此法。

古之君子。其責己也重以周。其待人也輕以約。重以周故不怠。輕以約故人樂爲善。」第一小段一段綱領。暗插主意。聞古之人有舜

者。其爲レ人也。仁義ノ人也。求下其所以ノ爲レ舜者上責於己一曰。彼人也。予人也。彼能レ是。而我乃不レ能レ是。早夜以思。去二其不一レ如レ舜者一。就二其如レ舜者一。」第二小段說二聞古之人有二周公者一。其爲レ人也。多レ才與レ藝人也。求下其所以ノ爲二周公者一上責於己一曰。彼人也。予人也。彼能レ是。而我乃不レ能レ是。早夜以思。去二其不一レ如二周公者一。就二其如一レ周公者一。」第三小段說二周公藝。右扇。舜大聖人也。後世無レ及焉。周公大聖人也。後世無レ及焉。是人也。乃曰不レ如レ舜。不レ如二周公一。吾之病也。是不レ亦責二於身一者重以周乎。」總收上二字眼。○第四小段合二說舜周公一。收二責己之目一。闢。其於レ人也。曰彼人也。能有レ是。是足レ爲二良人一矣。第一節左扇。能善レ是。是足レ爲二藝人一矣。第二節右扇。取二其一一。不レ責二其二一。即其新。不レ究二其舊一。恐恐然。惟懼二其人之不一レ得レ爲レ善之利一。」第三節闢。○第五小段說二人之德與レ藝。一善易レ修也。第一節左扇。一藝易レ能也。

輕以約——聖賢ノ如キヲ求メズ、一善一藝ニテ足レリトス、即チ輕ク儉約ナリ。

責於己曰ハ古ノ君子ガナリ、次ノモ同ジ。

早夜ハ朝早クヨリ夜遲クマデナリ。

是人ハ古ノ君子ヲ指ス。

即其新——人ノ新ナル善行ヲ愛敬シ、舊惡ヲバ告メ追究セヌナリ。

一善易——一善ヲナスハ易ク、一藝ヲ能クス

ルハ易シ、一善一藝アル人ヲ見テ君子ハ乃曰ク、此人此善アリ、以テ善人トナスニ足ル、此人此藝アリ、以テ藝人トナスニ足ルト、其人ニ難キヲ責メズシテ、期待スル所甚ダ手輕（輕以約）ナラズヤ。

未少有云云ハ、道德藝術ヲ少シモ修得セズシテ、一生ヲ終ルナリ。

舉其一云云ハ、人ノ一惡ヲ口ニアゲテ刺リ、其他ノ多キ善行ヲバカゾヘ褒メザルナリ。有聞ハ名譽ノ世間ニ聞エルコト。不以衆——衆人ハ尋常平凡ノ人、己ヲアシラフニハ薄クシテ尋常ノ

第二節　其於人也。乃曰能有是。是亦足矣。曰能善是。是亦足矣。右扇。第三　不亦待於人者輕以約乎。』繳收下二字眼。○第四節繳收。○第六小段節關。古人無怠與忌。是客。○第二第三第四小段實論。第五第六小段虛論。前後段皆變。○第二第三第四小段以小段爲雙關。第五第六小段以節爲雙關。今之君子則不然。其責人也詳。其待己也廉。詳故人難於爲善。廉故自取也少。第一小段二段綱領。己未有善。曰我善是。是亦足矣。第二節右扇。外以欺於人。內以欺於心。未少有得而止矣。不亦待其身者已廉乎。第一節左扇。己未有能。曰我能是。是亦足矣。第二節右扇。舉其一不計其十。究其舊不圖其新。恐恐然惟足稱也。第一節左扇。彼雖能是。其人不足稱也。第二節右扇。彼雖善是。其用不於人也。曰彼雖能是。其人不足稱也。第三節關。○第三小段說責人之目。又以節爲雙關。懼其人之有聞也。是不亦責於人者已詳乎。第三節關。○第三小段說責人之目。又以節爲雙關。夫是之謂不以衆人待其身。而以聖人望於人。吾未見其

人ニ及バズ、他人ヲ責ムルニハ聖人ノ如クアレト云フモノニテ、サ様ナル人ハ、己自身ヲ卑下シテ大切ニ尊クスルモノニアラザルナリ。

與ハ徒黨ナリ。

說於言說於色ノ說ハ悅ト同ジク、言語顏色ニ發シテ悅ブナリ。

將有作——上位ニ立チ天子ヲ佐ケ、功業ヲ成サントスルモノハ、此

尊己也』字眼。前四字眼、此二字眼、變化。○前大段說目五小段。本大段說目三小段。又變化。雖然爲是者有本有原。怠與忌之謂也。自毀者言之。其本原在怠與忌。自見毀者言之。其本原在事修德高。然毀者主。見毀者客。故曰本原在怠與忌。怠者不能修而忌者畏人修。第一小段吾嘗試之矣。嘗試語於衆曰。某良士。某良士。其應者必其人之與也。不然則其所疎遠不與同其利者也。不然則其畏也。不若是。强者必怒於言。懦者必怒於色矣。二句忌。○第二小段就譽說忌。是反說。左扇。又嘗語於衆曰。某非良士。某非良士。其不應者必其人之與也。不然則其所疎遠不與同其利者也。不然則其畏也。不若是。强者必說於言。懦者必說於色矣。二句忌。○第三小段就毀說忌。是正說。右扇。是故事修而謗興。德高而毀來。第四小段結上二小段。說君子之所以有毀。關。嗚呼。士之處此世。而望名譽之光。道德之行。難已。將有作於上者。得吾說而存之。

原毀ノ說ヲ心ニ留メテ爲サバ、國家ハ治平ナルニ近カラン。

對問ハ問答體ノ文章ナリ、文體明辨ニ云フ、對問ノ文格ハ文人假設ノ詞ニシテ、其義ヲ反復縱橫シ、憤悱ヲ舒ベテ其志慮ヲ見スナリ、其他難ト曰ヒ諭ト曰ヒ答ト曰ヒ應ト曰フ、皆對問ノ類ナリト。

傳之賢ノ賢ハ舜ト禹トヲイヒ、傳之子ノ子ハ禹ノ子啓ヲイフ、傳之ハ天子ノ位ヲ繼ガシムルナリ。

堯舜之——堯ト舜トノ子ニ傳ヘズシテ賢ニ傳ヘタルハ、天下ノ人民ガ皆ソレゾレニ其安ンズベキ所ヲ得テ、艱難ノ苦ナカラシメント思ハレシニ由ル、又禹ノ賢ニ傳ヘズシテ子ニ傳ヘタルハ、後世ニ至リテ、互ニ天子ノ位ヲ得

其國家可幾而理歟』第五小段感慨暗歸于己。收全局。○上段反說被毀者根原。然後入己感慨。文巧而情無限。○以上第三大段言毀原于怠與忌。怠忌二字。一段字眼。又一篇字眼。○第二第三第四小段。以小段爲雙關。○原毀二字點來出于自然使人不覺。

## 對禹問

主意　言禹之傳子。出慮後世。而無私心。

或問曰。堯舜傳之賢。禹傳之子。信乎。曰然。然則禹之賢不及於堯與舜也歟。曰不然。堯舜之傳賢也。欲天下之得其所也。禹之傳子也。憂後世爭之之亂也。堯舜之利民也大。禹之慮民也深。第一小段論禹憂後世。是大意。○憂而後慮。有深淺先後之差。曰。然則堯舜何以不憂後世。曰。舜如堯。堯傳之。禹如舜。舜傳之。得其人而傳之。堯舜也。無其人。慮其患。而不傳者禹也。舜不能以傳禹。堯爲不知人。禹不

ンガ爲ニ爭亂ノ起ランコトヲ憂ヘタルナリ。

不淑ノ淑ハ善ナリ、和ナリ、不肖ト云フニ同ジ。

能以傳子。舜爲不知人。堯以傳舜爲憂後世。禹以傳子爲慮後世。』第二小段論堯舜亦非不憂後世。○以上第一大段論堯舜之傳賢。禹之傳子。皆出于憂慮後世之心。堯舜是客。禹是主。曰。禹之慮也則深矣。傳之子。而當不淑。則奈何。曰。時益以難理。傳之人。則爭。未前定也。傳之子。則不爭。前定也。前定雖不當賢。猶可以守法。不前定。而不遇賢。則爭且亂。」第一小段論。○難理下加故字看。天之生大聖也。不數。其生大惡也。亦不數。傳諸人。得大聖。然後人莫敢爭。傳諸子。得大惡。然後人受其亂。禹之後四百年。然後得桀。亦四百年。然後得湯與伊尹。湯與伊尹。不可待而傳也。與其傳不得聖人而爭且亂。孰若傳諸子。雖不得賢。猶可守法。』二小段證。○以上第二大段詳論禹憂後世。○此段專說禹事。始有主客之辨。曰。孟子之所謂天與賢則與賢。天與子則與子者何也。曰。孟子之心。以爲聖人不苟私於其子。

曰孟子之心——韓子曰ク、是ハ孟子ノ心中ニ以爲ラク、聖人ハ其子

ノ爲ニスル私情ヲ以テ天下ヲ害スルモノニ非ズ、然ルニ、禹ハ何故ニ子ニ與ヘシカトイフニ、孟子ハ之ヲ天命ニ歸シタリ、予其說ニ從ツテ之ヲ說明セントシテ得ズ、依リテ更ニ辭ヲ設ケテ說ヲ立テタリ

伯夷叔齊兩人ノ頌、獨リ伯夷ヲ以テ題シタルハ、兩人ノ行事相同ジキヲ以テ之ヲ略シタルナリ、文體明辨ニ云フ、詩ノ六義中ニ頌アリ、頌ハ容ナリ、盛德ノ形容ヲ美メテ其成功ヲ神明ニ告グル辭ト、詩ノ商頌周頌之ナリ、是チ正體トス、後世ノ作ル所ハ皆變體ナリ、其ノ詞散文韻文兩ナガラ行ハルト。

昭乎ハ明ナル形容、舉乎ハ高ク聳ユル貌、巍乎ハ高大ナル貌、此數

以害天下。求其說而不得。從而爲之辭。』以上第三大段引孟子證禹無私心。而辨孟說不盡。

## 伯夷頌

主意　獨行適義四字。一篇表面主意。蓋一向趨君臣之義一途。而不顧救天下之仁。是伯夷長處。又短處。故不及武王周公權道理輕重大小。寧取救天下重大之仁。舍君臣輕小之義。是聖人與豪傑有等差處。文中措語。極有分寸。然文公頌意。在裏面全君臣之義。

士之特立獨行。適於義而已。不顧人之是非。第一小段特立獨行。皆豪傑之士。文公許伯夷以豪傑。不以聖。○聖賢反應。信道篤。而自知明者也』第二小段信道篤。自知明。○以上第一大段大意。含兩意。

一家非之。力行而不惑者寡矣」段一層。至於一國一州非之。力行而不惑者。蓋天下一人而已矣」第二小段二層。若至於舉世非之。力行而不惑者。則千百年乃一人而已耳」第三小段三層。若伯夷者。窮天地。亙萬世。而不顧者也。昭乎日月不足爲明。巍乎泰

句ハ、韓非子ノ所謂頌語ニシテ、伯夷叔齊ノ美ヲ極言シタルナリ。

宗周トハ天下ノ民皆周ノ武王ヲ宗主トシテ、其ノ命令ニ從フナリ。餓死云云ハ、首陽山ニ遁レ、終身周ノ祿ヲ食マズ、老死セシナイフ、直ニ食ヲ絶チテ死セルニ非ザルナリ。豈有求——名譽ヲ求ムル野心アリテ斯クスルモノニアラズ、畢竟、道ヲ信ズル篤クシテ、自ラ知ル明ナレバナリ。彼獨非云云、彼ハ夷齊ヲ指シ、聖人ハ武王ヲ指ス、彼ノ兩人ハ武王ノ行爲ヲ非トシテ、自分ノ思フ所ヲ是（よし）トナシ、餓死シテ悔イザルコト斯樣ノ次第ナリ。夫聖人云云、聖人ハ武

山不レ足レ爲レ高。巍乎天地。不レ足レ爲レ容也』。第四小段更進二一層一。入二伯夷實事一。○以上第二大段層層進說伯夷窮二天地一。亙二萬世一。一人獨行。以實二前段虛論一。當二殷之亡一。周之興一。微子賢也。抱二祭器一而去レ之。武王周公聖也。從二天下之賢士一與二天下之諸侯一。而往攻レ之。未レ嘗聞レ有レ非レ之者一也』。第一小段敍二當時聖賢事一。起二下節一。又伏二下段一。是客。彼伯夷叔齊者。乃獨以爲不可。殷既滅矣。天下宗レ周。彼二子乃獨恥レ食二其粟一。餓死而不顧。由レ是而言。夫豈有レ求而爲哉。信道篤而自知明也』。第二小段敍二伯夷信レ道自知之實一。○以上第三大段詳說信レ道一節。今世之所謂士者。一凡人譽レ之。則自以爲レ有レ餘。一凡人沮レ之。則自以爲不レ足』。第一小段言二凡人常情一。是客。彼獨非二聖人一。而自是如レ此。夫聖人乃萬世之標準也。予故曰。若二伯夷一者。特立獨行。窮二天地一。亙二萬世一。而不レ顧者也』。第二小段說二特立獨行一。○二子背二聖人標準一。卽詳說特立二子長處一。又所二以不一レ免二豪傑一。○以上第四大段獨行一節。雖然微二二子一。亂臣賊子。接レ迹於後世一矣』。以上第五大段餘波言雖レ背二聖人一。而

王周公ヲ指ス、標ハ表ナリ、準ハ的ナリ、卽チ武王周公ハ、萬代ニ渡リテ、人間修德ノ模範手本タルヲ失ハズト云フ義ナリ。雖然微——聖人ヲ非トスル特立獨行ノ士トハ云ヘ、若シ兩人ノ行事ナカリシトキハ、亂臣賊子ガ公然ト武王ノ紂ヲ殺セシヲ口實トシテ、君ヲ弑虐スル者後世ニ跡ヲ接シ、續續ト起ルナルベシ、然ラバ兩人ノ人心世道ヲ維持スル亦大ナリト謂フベシ。

師說、子弟ノ關係ヲ論ジテ時弊ヲ匡正シタルモノナリ、說ハ文體ノ一、文體明辨ニ云フ、說ノ文體ハ論ト大異ナシ、說トハ解ナリ、述ナリ、義理ヲ釋シテ己ガ意ヲ以テ之ヲ述ブルモノナリト。傳道トハ聖人仁義ノ道ヲ傳フルナリ。受業トハ文ト行トノ業ヲ受クルナリ、受一本授ニ作ル。解惑トハ無知蒙惑ヲ啓發スルナリ。

人間不レ可レ無二此人一。○末段是裏面主意。文公頌意全在レ此。

## 師說

主意　言二吾師レ道。○道第一字眼。師第二字眼。惑第三字眼。古今第四字眼。師道之道第五字眼。業第六字眼。

古之學者必有レ師。師者所以傳二道受一レ業解一レ惑也」。第一小段先立二傳道授一レ業解一レ惑三大綱一。然道字是主。他二字帶說。故下文一一無二照應一。

人非二生而知一レ之者一。孰能無レ惑。惑而不レ從レ師。其爲レ惑也。終不レ解矣」。第二小段先說二解レ惑不一レ可レ無レ師。

生乎吾前一。其聞レ道也。固先乎吾一。吾從而師レ之一。第一節　一扇。

生乎吾後一。其聞レ道也。亦先乎吾一。吾從而師レ之一。第二節　一扇

吾師道也。揭二主意一。

夫庸知二其年之先後生於吾一乎。第三節關。

是故。無レ貴無レ賤。無レ長無レ少。道之所レ存。師之所レ存也。』第四節小束。○第三小段說二道之所一レ存。卽師之所一レ存。以レ節爲二雙關一。○以上第一大段說二古之師道一。

嗟乎。師道之不レ傳也久矣。

欲(ストモ)人之無惑也難矣(シ)。第一小段慨歎起レ下。古之聖人。伏二孔子一。其出(ヅルヤ)人也遠矣(シ)。猶且從(ツテ)師而問焉(フ)。第一節一扇。結二上段一。今之衆人。其下(ルヤ)聖人也亦遠矣(シ)。而恥(ヂ)學於師(ニ)。第二節一扇。起二下段一。是故(ニ)。聖益(ヽ)聖。愚益(ヽ)愚(ナリ)。聖人之所以爲(ル)聖。愚人之所以爲(ル)愚。其皆出於此(ニ)乎(ヤ)。』遂成二古今聖愚之懸隔一。以レ節爲二雙關一。○以上第二大段合論古今。結上起レ下。上下過渡處。

愛其子(テ)。擇(シデ)師而教之(テ)。於其身也。則恥(ヂ)師焉(トスルテ)。惑(ヘリ)矣(シ)。第一節言二擇レ師一。師不レ取二己師一。

彼童子之師(ハ)。授之(ケテ)書(ニ)而習(ハシムル)其句讀者(ル)。非吾(ガ)所謂傳(ヘ)其道(テ)。解(ク)其惑者(ヲ)也(ニ)。第二節言二師之大小一。句讀之不レ知(ル)。惑之不レ解(ケ)。或(ハ)師焉(トシ)。或不焉(シカラズ)。小學而大遺(ス)。吾未(ダ)見(レ)其明(ヲ)也(ト)。』小段敍二不レ知二師道之惑一。

師(ハ)百工之人。不レ恥(ヂ)相師(トスルテ)。士大夫之族。曰師曰弟子云者(ハ)。則羣聚(シテ)而笑之(テ)。問(ヘバ)之(テ)。則曰。彼與(ト)彼年相若(シケリ)也。道相似(タリト)也。位卑(ケレバ)則足(リ)羞(ヂルニ)。官盛(ナレバ)則近(シ)諛(フニ)。嗚呼。師道之不レ復(セ)可(シ)レ知(ル)矣(シ)。第一節本意。○年相若也數句。反映主意。

句讀、讀音豆、凡ソ文章、語ノヨミキリヲ句ト謂ヒ、語ノ未ダ絶エザル間ニ點ヲ施シ、誦讀ニ便スルヲ讀トイフ。

或師焉――吾ガ子ニハ師ニ就カシムルコトヲ爲セドモ、己ハ恥ヂテ一生師ニ就カズ。

小學而――子弟ヲシテ句讀ノ爲ニ師ニ就カシムルハ小學ナリ、己ガ惑ヲ解カザルハ大遺忘ナリ。

位卑則――我ヨリ位卑キ人ヲ師トスレバ外聞

無貴無――貴賤少長ノ別ナク、道義ヲ修得セル所ガ吾ガ師トスル所ナリ。

恥ヅベシト謂ヒ、官ノ盛ナル人ヲ師トセバ、媚ビテ利ヲ釣ル爲ニ弟子トナルト謂フ。無常師ハ論語子張篇ニ見ユ、是ト一定セル師ナシ、卽チ道ノ存スル所ガ師ノ存スル所ナレバナリ。郯子ノ郯ハ國名、子ハ爵名、此人魯ニ來朝セルトキ、孔子其古官ヲ知レルヲ聞キ往イテ之ヲ問ヘルコト、左傳昭公十七年ニ見ユ。萇弘ハ周ノ樂師ナリ、孔子周ニ適キ、禮ヲ老子ニ問ヒシトキ、又此人ニ就キテ樂ヲ問ヘリ。師襄ハ魯ノ樂官ナリ、孔子嘗テ琴ヲ學べリ。老聃ハ老子ナリ。三人行云云、上ノ無常師ノ義、論語述而篇ニ見ユ、三人ノ一人ハ我ナリ、一人ノ一人ハ我之ニ倣ヒ、惡ハ我之ヲ戒トス、是レ皆我師トナルナリ。六藝トハ詩書易禮樂春秋ノ六經ナイフ、經ハ聖人ノ書、傳ハ賢人ノ

醫樂師百工之人。君子不齒。今其智。乃反不能及。其可怪也歟。』第二節結束。○第二小段說士大夫不若賤工。○以上第三大段說今之無師道之惑。聖人無常師。孔子師郯子。萇弘。師襄。老聃。郯子之徒。其賢不及孔子。孔子曰。三人行則必有我師。』孔子無常師。是故。弟子不必不如師。師不必賢於弟子。聞道有先後。術業有專攻。如是而已。』第二小段結一段。兼結全篇。○以上第四大段引孔子。證第一二段師道虛論。收一篇。前虛說。故此以實說補更確。

李氏子蟠。年十七。好古文。六藝經傳。皆通習之。不拘於時。學於余。余嘉其能行古道。作師說。以貽之。』以上第五大段說所以作此篇。○古道二字。照應全局兩師道。到底文理一貫。

## 讀荀子

主意　言荀在孟揚之間。○道字字母。○全篇以孔子爲鑑。以孟揚荀三子寫之。

三子醇疵判然。

始吾讀孟軻書。然後知孔子之道尊。聖人之道易行。王易王。霸易霸也。以爲孔子之徒沒。尊聖人者。孟氏而已。晩得揚雄書。益尊信孟氏。因雄書而孟氏益尊。則雄者亦聖人之徒歟。」第一小段言孟揚尊孔子不入邪路。聖人之道。不傳於世。周之衰。好事者。各以其說干時君。紛紛籍籍相亂。六經與百家之說錯雜。然老師大儒猶在。火於秦。黃老於漢。其存而醇者。孟軻氏而止耳。揚雄氏而止耳。」第二小段論孟及得荀氏書。於是又知有荀氏者也。考其辭。時若不粹。要其歸。與孔子異者鮮矣。抑猶在軻雄之閒乎。』第三小段論荀子亦宗孔子。不誤正路。然不粹。故在孟揚之閒。○以上第一大段先自孟揚說起。漸歸著荀子。荀是主。孟揚是客。孔子刪詩書。筆削春秋。合於道者著之。離於道者。黜去之。故詩書春秋無疵。余欲削荀氏之不合者。附於聖人之籍。亦孔子之志歟。』以上第二大段專說荀子。

書ナリ。
不拘ハ、時俗師道ヲ捨テ賤ム弊習アルニモ拘ハラザルチイフ。
荀子ノ解原道ニ見ユ。
孔子之徒トハ曾子子思等ヲイフ。
孟氏名ハ軻、字ハ子輿。揚雄字ハ子雲、揚子法言ヲ著ス。
其存而醇者トハ、其書世ニ殘リ、而シテ純粹無疵ノモノ。
要其歸——其旨意ノ歸著スル所ヲ求ムルニ、孔子ノ說ニ粗ボ合ヒ、違ヘル所ハ些少ナリ。
刪詩書——孔子詩ヲ刪リ、上商ヲ取リ、下魯ヲ取ル、凡ソ三百十一篇、秦時六篇ヲ亡フ、又書ヲ刪リ、唐虞ヨリ斷チ子周ニ至ル迄凡百篇、春秋ノ事、原道ニ見ユ。
合於道——六經中聖道ニ合フモノハ、存シテ世ニ著シ、離レ違フ者ハ黜ケ去ル。

大醇而——十中八九分ハ純粋ニシテ、一二分ノ疵アリ。

龍噓氣云云、龍氣ヲ吹キ出セバ、結ンデ雲トナル、聖主爵祿ヲ賢臣ニ與ヘ、賢臣因ツテ功勳ヲ奏スルニ喩フ。莊洋窮——玄閒ハ大空ナリ、聖君賢相ヲ得テ大事業ヲ起スニ喩ヘ、賢臣ハ一タビ志ヲ得テ聖君ニ從ヘバ、此ノ如キ大功ヲ爲スヲイフ。憑依、憑ハ凭ルコト、依ハ依賴スルナリ。

易曰云云ハ易ノ文言傳ノ語、賢臣必ズ聖君ニ從フ喩。

有主客之辨。孟氏醇乎醇者也。荀與揚大醇而小疵。』以上第三大段總括全篇大意。

## 雜說一

主意　言明君賢相相須成功業。而賢相由明君用之。歸重於君。寓意言退之之德不得明君則不成功。○靈字一篇眼目。○一篇六段。每段結處助字多變。

龍噓氣成雲。雲固弗靈於龍也。』第一段先揭主意。然龍乘是氣。茫洋窮乎玄閒。薄日月。伏光景。感震電。神變化。水下土。汩陵谷。雲亦靈怪矣哉。」段抑。第二雲龍之所能使爲靈也。若龍之靈。則非雲之所能使爲靈也。」第三段揚。然龍弗得雲。無以神其靈矣。失其所憑依信不可歟。」第四段抑。異哉。其所憑依。乃其所自爲也。」第五段揚。應龍噓成雲。主意發揮。易曰雲從龍。既曰龍雲從之矣。」第六段引易證聖君賢相本不相離。

伯樂、姓ハ孫名ハ伯揚、秦穆公ノ時ノ人、善ク馬ヲ相ス、天ニ伯樂星アリ、天廐星ノ旁ニアリ、時人孫揚ノ相馬ノ術ニ長ゼルヲ以テ伯樂ト呼べリ、此レ明君ノ善ク人ヲ見ルニ喩フ。駢死於云云、槽ハ飼料桶、櫪ハ廐ノ踏板、名馬モ凡馬モ一ツ廐ニ繫ガレ、頭ヲ竝べテ斃ル、名士世ニ知ラレズシテ、徒ニ老死スルヲイフ。食不飽云云、祿重カラザレバ、才カヲ顯ハスニ足ラザルニ喩フ。策之不云云、賢臣ヲ待遇スルニ其宜シキヲ得ズ、又適當ニ祿ヲ與ヘテ其材能ヲ働カシメズ、且意見抱負ヲ述ブレドモ、君愚ニシテ之ヲ覺ラザルニ喩フ。

# 雜說四

主意　喩有明君而有賢臣。○此篇層層進說。至末段發其妙。如抑揚之妙。則讓前說。

世有伯樂。然後有千里馬。」第一段　揭主意。千里馬常有。而伯樂不常有。故雖有名馬。祇辱於奴隸人之手。駢死於槽櫪之閒。不以千里稱也」。第二段　反說。馬之千里者。一食或盡粟一石。食馬者。不知其能千里而食也」。第一節說馬之多食。喩名臣之須禮養。是馬也。雖有千里之能。食不飽。力不足。才美不外見。且欲與常馬等。不可得。安求其能千里也」。第二節說名馬缺食。則不致能。喩名臣缺禮養。則不致才。○第三段　論無伯樂之弊。策之。不以其道。食之。不能盡其材。鳴之。不能通其意。執策而臨之曰。天下無馬」。第一節　第二節不識馬之歎。○第四段　承前段。發不識良馬之歎。收主意。然用不了語。不明說。妙。

獲麟解、——左傳哀公十四年ノ春、魯西ニ狩シテ麟ヲ得タリ、其異獣ナルヲ以テ不祥トナシ、虞人ニ賜フ、仲尼曰クコレ麟ナリト、解ハ文體明辨ニ人ノ疑惑紛雜アルニアタリ、其理ヲ解釋スルナリ、陳騤文則ニ云フ、經解王言解ノ類ヲ以テ解文ノ祖トスト。

麟ハ古文眞寶ノ題注ニ云、麟ハ仁獣ナリ、麕身牛尾、一角アリ、角上肉アリ、生物ヲ食ハズ生草ヲ踐マズ、王者道アレバ則出ヅ、毛蟲三百六十、麟之ガ長タリ、四靈ノ一タリト見ユ。不類トハ、麟ノ形狀、尋常一般ノ獣ト相類似セザルナリ。

# 獲麟解

主意　言麟仁獣。故仁人在レ位則出。是爲レ祥無レ疑。是本論。然仁人不レ在レ位而出。似レ失二仁獣之德一。或爲二不祥一亦宜。是餘論。餘論卻主意。靈德第一字眼。祥不祥第二字眼。知不知第三字眼。○此篇四段。段末皆用二祥字一。似二古詩一韻到底體。故有二音節響和之妙一。

麟之爲レ靈昭昭也　第一節　主意。詠二於詩一書二於春秋一。雜出於傳記百家之書。第二節　證二上句一。雖婦人小子。皆知二其爲一レ祥也。』第三節結二昭昭一。○以上第一大段說二麟之祥一。然麟之爲レ物。不レ畜二於家一。不恆有二於天下一。第一節　言二希有一。其爲レ形也。不レ類。非レ若二馬牛犬豕豺狼麋鹿一然。第二節　言二異形一。然則雖レ有レ麟。不レ可レ知二其爲一レ麟也。」第三節小束。○第一小段略說。角者。吾知二其爲一レ牛。鬣者。吾知二其爲一レ馬。犬豕豺狼麋鹿。吾知二其爲一レ犬豕豺狼麋鹿一。第一節說二他獣可レ知。惟麟也。不レ可レ知。不レ可レ知。則其謂二之不祥一也亦宜。』第二節以レ不レ可レ知疑二不祥一。○第二小段詳說。○以上第二大段疑二麟之不祥一。是波瀾。雖レ然。麟之出。必有二聖人在一レ乎位一。麟爲二聖人一出也。第一節說爲二聖

以德不——麟ハ至治ノ世ニ出デ、亂世ニ隱ル、其出處進退聖人ニ從ン、是レ麟ハ德ヲ以テ稱スベク、形ヲ以テ言フベキ者ニ非ラズ。

人ハ聖人者必知レ麟。麟之果不レ爲レ不レ祥也。』第二節決二其祥一。○以上第三大段以レ麟爲二聖人出一決二其祥一。是表面主意。又曰。麟之所以爲レ麟者。以レ德不レ以レ形。第一節說二麟有一レ德。若麟之出不レ待二聖人一。則謂之不レ祥也亦宜。』第二節疑二其不一レ祥。○以上第四大段附別說備二後人參考一。表面似二餘波一。卻裏面主意在處。○若麟之出云云。孔子不レ在レ位而麟出。是不祥。蓋歎二孔子不遇一。卽所以歎二退之不遇一也。

## 進學解

主意　言二諸生當一レ精レ業成レ行而不レ顧二有司用舍一。○有韻文。

國子先生晨入二太學一。招二諸生一立二館下一。誨レ之曰。業精於勤。荒於嬉。行成於思。毀於隨。」第一小段就二諸生一言。方今聖賢相逢。治具畢張。拔二去兇邪一。登二崇俊良一。占二小善者一。率以錄。名二一藝者一。無レ不レ庸。爬羅剔抉。刮レ垢磨レ光。蓋有二幸而獲一レ選。孰云多而不レ揚。」第二小段就二有司一言。諸生

國子ハ國子監ノ大學校ナリ、天子ノ太子以下爵位アル人ノ長子皆入リテ學ブ、韓公博士トナリテ教授セリ、故ニ國子先生トイフ。
咬ハ俊ト同ジ、
爬羅云云、爬ハ爪ニテ垢ヲ搔ク、羅ハ網羅スルナリ、剔ハ垢ヲケヅル、抉ハ挑ナリ、此ノ二句人材ヲ成就スルヲ

イフ。
執云多――タトヒ僥倖ニ選用セラルル者ハ有リトモ、誰カ多才多藝ニシテ拔擢セラレザル者アランヤ、決シテ左樣ノコトハ無キナリ。
紀事者――古今ノ事迹チ記スル歷史ハ、肝要ノ點チ抽キ取リ、聖賢ノ言辭チ纂メタル經書ハ、其意義ノ深玄ナル所マデ究メ盡ス。
兀兀ハ矻矻ト同ジ、勤苦スル貌。
舐排異云云ノ數句、異端チ排シ、聖道チ守ルチイフ、聖人ノ道ニアラザル異端ノ學ハ排斥シ、佛老チハラヒ去リ、聖道ノ缺ケ漏レタルチ補足シ、聖道ノ隱レテ微ナルチ鋪張シテ廣大ニシ、聖道ノ墜チ廢レタルモノハ其端緒チ求メテ、獨リ先生一人ノ力ニテ旁ク搜索シ、遠ク絕斷セルチ繼續スルナリ。
障百川云云二句、亦異端チ斥ケ聖道チ守ルニ喩フ。
姚姒ノ姚ハ虞舜ノ姓、姒ハ夏禹ノ姓、卽チ書經ノ二典三謨チイフ。

業患不能精。無患有司之不明。行患不能成。無患有司之不公。』第三小段結諸生有司。○以上第一大段言諸生宜下精業成行而勿上願有司用舍。是一篇大意。業成字眼。言未既。有笑於列者。曰先生欺予哉。弟子事先生。於茲有年矣。先生口不絕吟於六藝之文。手不停披於百家之編。記事者必提其要。纂言者必鉤其玄。貪多務得。細大不捐。焚膏油以繼晷。恆兀兀以窮年。先生之業可謂勤矣。」言勤學。舐排異端。攘斥佛老。補苴罅漏。張皇幽眇。尋墜緒之茫茫。獨旁搜而遠紹。障百川而東之。廻狂瀾於既倒。先生之於儒。可謂勞矣。」言衞道。沈浸醲郁。含英咀華。作爲文章。其書滿家。上規姚姒。渾渾無涯。周誥殷盤。佶屈聱牙。春秋謹嚴。左氏浮誇。易奇而法。詩正而葩。下逮莊騷太史所錄。子雲相如。同工異曲。先生之於文。可謂閎其中。而

下逮莊云云、逮ハ及ナリ、莊ハ莊子、騷ハ屈原ノ離騷經、太史ハ司馬遷ノ史記、子雲ハ揚雄、相如ハ司馬相如ナリ。

閎其中云云ハ、胸中ニ古文チ大ニ充テ、ソレチ腹ヨリ出シテ、自由ニ文章チ作レルナリ。頭童齒云云、山ニ草木ナキチ童トイフ、豁ハ落ナリ、頭髮脫ケ、齒モ落チテ老年ニ及ブチイフ。

茅(うつばり)椳(たるき)樽櫨(ますがた)侏儒(つかばしら)楹(くろろ)闑(としきみ)扈(とざし)楔(ほうだて)。

肆其外矣。」第三小段言文章。○以上三小段精業。少始知學。勇於敢爲。長通於方。左右具宜。先生之於爲人。可謂成矣。」第四小段言行成。然而公不見信於人。私不見助於友。跋前躓後。動輒得咎。暫爲御史。遂竄南夷。三爲博士。冗不見治。命與仇謀。取敗幾時。冬暖而兒號寒。年豐而妻啼饑。頭童齒豁。竟死何裨。不知慮此。而反教人爲』第五小段言不遇。○以上第二大段疑先生業精行成。而不見用。先生曰。吁子來前。夫大木爲杗。細木爲桷。樽櫨侏儒。楹闑扈楔。各得其宜。施以成室者。匠氏之工也。」第一小段喩匠。玉札丹砂。赤箭青芝。牛溲馬勃。敗鼓之皮。俱收並蓄。待用無遺者。醫師之良也。」第二小段喩醫。登明選公。雜進巧拙。紆餘爲妍。卓犖爲傑。較短量長。惟器是適者。宰相之方也。」第三小段有司。昔者孟軻好辯。孔道以明。轍環天下。卒老於行。荀卿守正。大論是弘。

逃讒於楚。廢死蘭陵。是二儒者。吐辭爲經。擧足爲法。絶類離倫。優入聖域。其遇於世何如也。第四小段言古賢不遇。由時相之不明。○此篇含蓄之妙。在此一小段。○孟軻云云。言孟荀之學行且不遇于世。況於愈乎。假孟荀漏己不平。○退之自解之正意在此處。卻爲古人歎不遇。己則於後段安於分之宜。何等婉曲。

是二儒——孟子荀子ノ二人ハ、一言發スレバ萬世ノ定規トナリ、一足擧グレバ天下ノ法則トナリテ、尋常ノ學者ニスグレ、優ニ聖人ノ區域ニ入ルベキ大學者ナルニ、世ニ用ヒラレズシテ不遇ナルコト此ノ如シ。

而不繇其統。言雖多而不要其中。文雖奇而不濟於用。行雖修而不顯於衆。猶且月費俸錢。歲糜廩粟。子不知恥。婦不知織。乘馬從徒。安坐而食。踵常途之促促。窺陳編以盜竊。然而聖主不加誅。宰臣不見斥。茲非其幸歟。動而得謗。名亦隨之。投閑置散。乃分之宜。」第五小段自解。今先學雖勤云云。學字承中段業字。言字承中段文字。行字承中段爲人字。要之言文儒皆屬業。○分之宜三字。一篇歸宿處。

動而得謗云云、誹謗ニ逢フ毎ニ、名聲亦隨テ起リ顯ハルルナリ。投閑置——博士ノ如キ閑散ナル職務ニ在ルハ、身分相應ノコトニテ、決シテ宰相ノ不明不公ナルニ非ズ。昌陽ハ菖蒲、味辛溫ニシテ毒ナシ、之ヲ常ニ服用スレバ長壽ヲ保ツトイフ藥品ナリ。豨苓ハ猪苓ナリ、俗ニぬのくそぐさト云フ。

若夫商財賄之有亡。計班資之崇庳。忘己量之所稱。指前人之瑕疵。是所謂詰匠氏之不以杙爲楹。而訾醫師以昌陽引年。欲進其豨苓也。』第六小段反說。反應起手。收全篇。○詰匠氏云云。言業不精行不成。而望有司大用重任。

自不ㇾ知ニ其量一。反ニ應第一段主意一。爲ㇾ結。匠氏醫師喩ニ宰相一。朽豕芥喩ニ不賢一。楹昌陽喩ニ賢者一。○以上第三大段言我業未ㇾ精行未ㇾ成不ㇾ爲ニ世所ㇾ用。是分之宜也。然而咎ニ有司之不ㇾ用。適見ニ不ㇾ知ニ己量一已。

## 愛直贈李君房別

主意　愛ニ惜李生之直而去一。

左右前後皆正人也。欲其身之不正。烏可得邪」。第一小段冒頭。虛說。吾觀ニ李生在一南陽公之側一。有ㇾ所ㇾ不ㇾ知。知之未ㇾ嘗不ㇾ爲ㇾ之思一。有ㇾ所ㇾ不ㇾ疑。疑之未ㇾ嘗不ㇾ爲ㇾ之言一。勇不ㇾ動ニ於氣一。義不ㇾ陳ニ乎色一。南陽公舉措施爲。不ㇾ失ニ其宜一。天下之所ㇾ窺觀稱道洋洋者。抑亦左右前後有ㇾ其人ニ乎」。第二小段先主後客。實說。勇不動於氣義不陳乎色。二句一篇頭腦。凡在ㇾ此趨ニ公之庭一。議ニ公之事一者。吾既ニ從而遊矣。言而公信ㇾ之者。謀而公從ㇾ之者。四方之人。則既聞而知ㇾ之矣。李生南陽公之甥也。人不ㇾ知者將

愛直贈——李君房、妻父南陽公(張建封)ノ幕下ニ在リシガ、他ニ適キ仕ヘントス、韓公其直ヲ愛惜シ、別ニ臨ミテ此文ヲ贈リタリ。

勇不動——勇氣アリ而モ沈着ナルヲ以テ、血氣ニ驅ラレヌナリ、義心アルモ而モ顏色ニ見ハレヌナリ。

洋洋ハ盛ナル貌。

趨公之庭ハ、南陽公ノ幕下ニアル屬官ヲ指シテイフ。

甥ハ甥ナリ、壻ナリ。

曰。李生之託婚於貴富之家。將以充其所求而止耳。故吾樂爲天下道其爲人焉』。第三小段先客後主。實說。○以上第一大段言李生之直。今之從事於彼也。吾爲南陽公愛之」。第一小段爲公愛之。又未知人之擧李生於彼者何辭。彼之所以待李生者何道。擧不失辭。待不失道。雖失之此足愛惜而得之彼。爲歡忻。於李生道猶若也』。第二小段一反。不愛。擧之不以吾所稱。待之不以吾所期。李生之言不可出諸其口矣。吾重爲天下惜之』。第三小段一正。愛。○以上第二大段惜李生以直人去。

擧不失云云、擧用スルニ其當ヲ得、待遇スルニ其宜シキヲ得タリトイフナリ。道猶若也トハ李生ノ直ニシテ勇義ナル、此ニ在リテモ彼ニ往キテモ同樣ニシテ易ラザレバ、サマデ惜ムニ足ラズトナリ。

唐宋八家文讀本卷一終

論佛骨表　一本ニハ諫迎佛骨表トアリ、法翔ノ法門寺ニ護國眞身塔アリ、塔内ニ佛骨即チ釋迦ノ指ノ骨一節ヲ安置セリ、其法ニ、三十年毎ニ一度開ク、開ケバ豐年ニシテ人民安泰也トイフ、憲宗佛法ヲ崇信シ、勅使ヲ遣シ香花ヲ持シ、之ヲ禁中ニ迎ヘ留ムル事三日、韓文公此時刑部侍郎ノ官タリ、此表ヲ上リテ之ヲ諫ム、表ハ文體明辨ニヨルニ、上表ノ名目ハ天子ニ限ル、表ハ標也明也、事緒ヲ標著シテ明白ニ告グル也、其體散文アリ四六文アリ。佛者云云、佛ハ中天竺摩伽陀國王ノ子、而シテ佛法ハ其唱ヘシ教法ナリ、印度ニ教法多クシテ波羅門教ノ類九十九種アリ、故ニ一法トイフ。自後漢云云、後漢孝明

# 唐宋八家文讀本卷二

## 論佛骨表

主意　言佛夷狄之一法。而非中國先王之法。故有禍而無福。宜排絕之。○此篇本書無逸。

臣某言。伏以佛者夷狄之一法耳。先揭大意。自後漢時流入中國。起第四小段。上古未嘗有也。」起第二第三小段。○第一小段揭主意。且作一大段綱領。昔者黃帝在位百年。年百一十歲。少昊在位八十年。年百歲。顓頊在位七十九年。年九十八歲。帝嚳在位七十年。年百五歲。帝堯在位九十八年。年百一十八歲。帝舜及禹。年皆百歲。此時天下太平。百姓安樂壽考。然而中國未有佛也。」第二小段言舜禹前無佛而有福。其後殷湯亦年百歲。湯孫太戊在位七十五年。武丁在位五十九年。書

皇帝ノ永平年中ニ天竺ヨリ始メテ渡來セリ。黃帝ハ軒轅氏、少典ノ子、神農氏ニ代ツテ立ツ、五帝ノ一人ナリ（或ハ三皇中ニ數フ）、少昊ハ金天氏、名ハ玄囂、黃帝ノ子（或ハ五帝中ニ數フ）、顓頊ハ高陽氏、黃帝ノ孫、昌意ノ子、黃帝ニ次イデ立ツ、五帝ノ一人ナリ、帝嚳ハ高辛氏、玄囂ノ子、黃帝ノ曾孫、顓頊ニ代リテ立ツ。中國ハ夷狄卽チ野蠻國ニ對シテイフ、恰モ本國トイフガ如シ。運祚ノ運ハ國運ト天子ノ位。年代尤促ハ天子在位ノ年間ヤ世代ノ極メテ短少ナルヲ云フ。三度捨身施佛云云、捨ハすつるナリ、身ヲ寺ニ捨ツトハ佛徒ト爲ルヲイフ、通鑑ノ梁紀ニ、中大通元年九月癸巳ニ、上（武帝）同泰寺ニ幸シ、無遮大會ヲ設ク、上御服ヲ釋キ法衣ヲ持チ、淸淨ノ大捨ヲ行ヒ、素牀瓦器、小車ニ乘リ、私人役ヲ執ル、甲午帝親ラ涅槃經ヲ講ズ、羣

史不レ言二其年壽所一レ極。推二其年數一。蓋亦俱不レ滅二百歲一。周ノ文王年九十七歲。武王年九十三歲。穆王在レ位百年。此時佛法亦未レ入二中國一。非レ因レ事レ佛而致レ然也」。第三小段言ヒ殷周無レ佛而有レ福、漢明帝ノ時。始有レ佛法。明帝在レ位纔十八年耳。其後亂亡相繼。運祚不レ長。宋齊梁陳元魏以下。事レ佛漸謹。年代尤促。惟梁武帝在レ位四十八年。前後三度捨レ身施レ佛。宗廟之祭。不レ用二牲牢一。晝日一食。止於菜果。其後竟爲二侯景所一レ逼。餓死臺城。國亦尋滅。事レ佛求レ福。乃更得レ禍。由レ此觀レ之。佛不レ足レ事。亦可レ知矣。』第四小段言ヒ漢後佛入而有レ禍。○以上第一大段論ヒ過去無佛而有レ福。有レ佛而有レ禍。

高祖始受二隋禪一。則議除レ之。當時羣臣。材識不レ遠。不レ能下深知二先王之道一。古今之宜上。推二闡聖明一。以救二斯弊一。其事遂止。臣常恨レ焉。第一小段言ヒ高祖欲レ除レ佛而不レ果。

伏惟。睿聖文武皇帝陛下。神聖英武。數

臣錢億萬ヲ以テ皇帝ヲ贖ヒ、表シテ宮ニ還ラン事ヲ請ヒ、三度ニシテ始メテ之ヲ許セリ。牲牢トハ牛羊豕ヲ牲トイヒ、三牲ヲ具フルヲ牢トイフ、宗廟ノ祭祀ニ牲牢ヲ供スルハ古ヨリノ禮ナルニ、武帝ハ佛ヲ崇信シテ此等ノ禮ヲ擧ゲザルナリ。

爲景侯云云、此事通鑑梁紀ニ見ユ、反臣侯景武帝ヲ幽シ、人ヲ遣ケ飲食物ヲモ贈ラズ、帝病ミ、死ニ臨ミ、蜜ヲ求ムレドモ侯景與ヘザリシカバ、帝遂ニ禁中ニ饑死セリ、臺城ハ晉宋ノ時代ニ、朝廷禁內ヲ臺ト稱ス、故ニ禁城ヲ臺城ト謂フ。

推闡ハ廣メテ大ナラシムルコト、卽チ天子ノ聰明ヲ奉ジテ之ヲ實行セシムル樣ニナスナリ。

度人ノ度ハ度牒ト云ヒテ、僧尼道士トナル免許狀。

道士ハ道家ノ教ヲ奉ジ、祈禱シテ人ノ吉福ヲ乞フ者。

昇入大內、昇ハ輿ト同ジク共ニ擧ゲルナリ、

千百年已來。未有倫比。卽位之初。卽不許度人爲僧尼道士。又不許創立寺觀。臣常以爲高祖之志必行於陛下之手。今縱未能卽行。豈可恣之轉令盛也」。第二小段言憲宗不能行高祖之志。今聞陛下令羣僧迎佛骨於鳳翔。御樓以觀。舁入大內。又令諸寺遞迎供養。臣雖至愚。必知陛下不惑於佛。作此崇奉。以祈福祥也。直以年豐人樂。狥人之心。爲京都士庶。設詭異之觀。戲玩之具耳。安有聖明若此。而肯信此等事哉」。第三小段言憲宗雖然百姓愚冥。易惑難曉。苟見陛下如此。將謂眞心事佛。皆云。天子大聖。猶一心敬信。百姓何人。豈合更惜身命。焚頂燒指。百十爲羣。解衣散錢。自朝至暮。轉相倣效。惟恐後時。老少奔波。棄其業次。若不卽加禁遏。更歷諸寺。必有斷臂殘身。以爲供養者。傷風

使者共佛骨ヲカツギテ禁中ニ入ルナリ。豈合更ノ合ハ當ト同義、天皇一心ニ敬信シ給フカラハ、百姓等如何ニシテ身命ヲ惜ム道理アランヤ。

焚頂燒指トハ、頂上ニテ香ヲ燒キ、掌中ニ油ヲ盛リテ火ヲ點ズ、皆佛法信者ノ爲ス苦行ナリ。

奔波ハ、カケ走ルニテ、事ニ趣キテ後ルルヲ恐ルルノ狀ナイフ、業次ハ生業ナリ、卽チ老幼男女佛ニ歸依シ、只其後レンコトヲ恐レ、生業ヲモ顧ミザルナリ。

宣政ハ見云云、宣政ハ宮殿ノ名、唐ノ時、四夷ノ使者入朝セバ、宣政殿ニ於テ謁見ヲ賜ヒ、禮賓院ニ於テ宴會ヲ設クルコト例タリ、故ニ斯ク云フ。

孔子曰云云、論語雍也篇ニ見ユ。

古之諸侯云云、禮記檀弓篇ニ見ユ、古ノ諸侯ハ弔喪ノ禮ヲ行フスラ、巫(ミコ)祝(カンナギ)ヲシテ、先ヅ桃苅ヲ以テ棺ノ不淨ヲ淸メシメ、然後ニ弔ヲ行フ

敗俗。傳笑四方。非細事也。』第四小段言起ニ惑民之妄信。○以上第二大段論唐代佛害。

夫佛本夷狄之人。應起手。與中國言語不通。衣服殊製。口不言先王之法言。身不服先王之法服。不知君臣之義。父子之情。」第一小段回顧起手。收主意。

假如其身至今尚在。奉其國命來朝京師。陛下容而接之。不過宣政一見。禮賓一設。賜衣一襲。衞而出之於境。不令惑衆也。」第二小段言佛雖生猶不足貴。以起下文。

況其身死已久。枯朽之骨。凶穢之餘。豈宜令入宮禁。孔子曰。敬鬼神而遠之。古之諸侯。行弔於其國。尙令巫祝先以桃苅。祓除不祥。然後進弔。今無故取朽穢之物。親臨觀之。巫祝不先。桃苅不用。羣臣不言其非。御史不擧其失。臣實恥之。」第三小段言佛死後穢骨。最不足貴。

乞以此骨付之有司。投諸水火。永絕根本。斷天下之疑。絕後代之惑。使天下之人。知大

トイフ、桃ハ鬼ノ悪ム木、荊ハ不祥ヲ祓フ草ナリ。

使天下—大聖至明ノ天子ノナサルコトハ、凡人ノ到底企及スベカラザル所ニシテ、非常甚大ノ懸隔アルコトヲ天下ノ人民ニ知ラシメン。

無任感云云、悃ハ誠ナリ、眞ニ誠心ヨリ感慨奮激シテ殆ド勝フル能ハズトナリ。

憨愚ノ憨ハ愚直ナリ。

正名定—假借ナク法律ニ照シテ罪ヲ定メバ、萬タビ死刑ニ處セラルトモ尚輕シ。

言雖可—不敬ノ言語ハ實ニ罪スベキモノナレドモ、其心中ヲ察セバ、亦一片ノ忠義心ヨリ出デタルモノニシテ寧ロ憐ムベキナリ。

特屈刑—特別ニ刑法

聖人之所作爲。出於尋常萬萬也。豈不盛哉。豈不快哉」段言投棄之處置。佛如有靈。能作禍崇。凡有殃咎。宜加臣身。上天鑒臨。臣不怨悔。無任感激懇悃之至。謹奉表以聞』。第五小段言佛禍不足畏。以收首段禍福。○以上第三大段發揮一篇主意。及未來處置。

## 潮州刺史謝上表

主意　謝免刑恩是主。哀訴是附表。然韓公意所注。卻在附表。

臣以狂妄戇愚。不識禮度。上表陳佛骨事。言涉不敬。正名定罪。萬死猶輕。陛下哀臣愚忠。恕臣狂直。謂臣言雖可罪。心亦無他。特屈刑章。以臣爲潮州刺史。既免刑誅。又獲祿食。聖恩弘大。天地莫量。破腦刳心。豈足爲謝。臣某誠惶誠恐。頓首頓

ノ文章ナマゲテ、寛大ナル處置ヲ得タリ。
聖恩弘――恩澤ノ弘ク大ナルコトハ、天地ノ廣大ナルニモ較量スベカラズ、頭腦ヲ破リ心ヲ割キ、死ヲ以テ報ユトモ謝ヲ爲スニ足ラズ。
州上ハ潮州ナリ。
子養ハ子ノ如ク養フナリ、撫育スルナリ。
遠邇ハ遠近ナリ。
嶺海之陬トハ、五嶺、海濱ノ片隅マデノ意、後漢書ニ、五嶺ヲ踰越シテ遠ク海濱ニアリトアリ、
畿甸ハ畿内ノ地、畿ハ王城ノ周圍千里、甸ハ五百里ナリ。
聾轂ハ天子ノ車輿ニシテ、聾轂之下トハ、亦おひざもと云フ意。
兢兢ハ戒愼ノ貌。
業業ハ恐懼ノ貌。
蠻荒トハ、荒服ト云ヒテ九州ノ外ノ蠻夷、四海ニ至ル地、王城ノ周圍五千里、五服ノ最外ナルモノ。
聞臣所――其所ノ百姓共ハ、予ガ天子ノ恩德ノ盛ナルヲ頌スルヲ聞キテ、大喜ビシテ居ル

首。』以上第一大段謝恩。臣以正月十四日蒙恩除潮州刺史。卽日奔馳上道。經涉嶺海。水陸萬里。以今月二十五日到州上訖。與官吏百姓等相見具言。朝廷治平。天子神聖。威武慈仁。子養億兆人庶。無有親疎遠邇。雖在萬里之外。嶺海之陬。待之一如畿甸之閒。輦轂之下。有善必聞。有惡必見。早朝晚罷。兢兢業業。惟恐四海之內。天地之中。一物不得其所。故遣刺史面問百姓疾苦。苟有不便得以上陳。國家憲章完具。爲治日久。守令承奉詔條。違犯者鮮。雖在蠻荒。無不安泰。聞臣所稱聖德。惟知鼓舞讙呼。不勞施爲。坐以無事。臣某誠惶誠恐。頓首頓首。』以上第二大段報州治。臣所領州。在廣府極東界上。去廣府雖云纔二千里。然來往動皆經月。過海口下惡水。濤瀧壯猛。難計程期。

位ナレバ、私ハ少シモ苦勞モ心配モセズトモ、無爲ニシテ治マル。

濟瀧云云、濟ハ大浪、瀧ハ奔湍ナリ、風浪非常ニ猛クシテ、一日ノ里程モ、又何日ニ著スルカモ豫メ定メ難シ。

颶風ハ海中ノ大風。

瘴氣ハ瘴熱ノ氣ナリ、瘴ハ癘ト云フ疫病ニシテ、南方ニハヨク流行ス。

理不久——道理上ヨリ推シ考フルモ、此ノ如キ衰弱ノ身ナレバ、長壽ハ覺束ナシ。

慚悸、慚ハ恥ナリ、悸ハ懼ナリ。

朝無親云云、朝廷ニハ別ニ親ミ黨援スルモノ無ク、(暗ニ朋黨ニ關係ナキコトヲ見ル)此蠻夷ナル潮州ニ居リテ、魑魅ト同ジク住居ス、魑魅ハ山林ノ異氣ヨリ生ズル怪物ニシテ、人ニ害ヲ爲スモノ。

與詩書——詩經ヤ書經ト、表トナリ裏トナリ、詩ヤ歌ヲ作リテ以テ郊廟即チ天地宗廟ノ祭ノ時ニ薦ム。

泰山之封トハ、天子泰山ニ封禪ノ祭ヲナシ、



颶風鱷魚。患禍不レ測。州南近レ界。漲海連レ天。毒霧瘴氣。日夕發作。臣少多病。年纔五十。髮白齒落。理不レ久長。加以罪犯至重。所レ處又極遠惡。憂惶慚悸。死亡無レ日。單立一身。朝無親黨。居レ蠻夷之地。與二魑魅一爲レ羣。苟非二陛下哀而念レ之。誰肯爲レ臣言者」。

第一小段言遠竄困苦。

臣受性愚陋。人事多レ所レ不レ通。惟酷好二學問文章一。未レ有レ過レ人者。至於論述陛下功德。與二詩書一相表裏。作爲詩歌。薦二之郊廟一。紀二泰山之封一。鏤二白玉之牒一。鋪張對レ天之閎休。揚厲無レ前之偉績。編二之乎詩書之策一。而無レ愧二措之乎天地之閒一。而無レ虧。雖レ使二古人復生一。臣亦未レ肯多讓。第二小段言文章不レ讓レ古。

伏以大唐受レ命有レ天下。四海之內。莫レ不レ臣レ妾。南北東西。地各萬里。自レ天寶之後。政

其功德ヲ文章ニ作リテ白玉ノ飾アル牒（ふだニシテ封禪ニ用フルスル廣大ナル美德（閔休）ヲ陳ベ、前代ニナキ大功ヲ揚ゲカガルナリ、封ハ土ノ壇ヲ築キテ祭ルナイヒ、禪ハ墠ニテ、土ヲ除キテ祭ルナリ、古來天子巡狩シテ四嶽ニ至レバ、大山ニ封シテ天ヲ祭リ、小山ニ禪シテ山川ヲ祭ル例ナリ。

天寶ハ玄宗ノ年號、此開揚貴妃寵アリ、多ク其族ヲ登用シ、大臣寃死多シ、十四年安祿山反ス。

文致云云、文德ヲ以テ四方ヲ招キ來スコト未ダ足ラズ、威武ヲ以テ勝チ抑フルコトモ强カラズ、尉ハ勝ナリ。

擊臣姦隷トハ、禍ヲ爲ス姦惡ナル臣隷、安祿山、史思明等、其他節度使ナル地方官ノ驕傲ナルモノナイフ

蠭居碁處トハ、蠭トイフ蟲ガ木ノ中ニ居リ、碁石ヲ局面ニ散布スル如ク、處處方方ニ於テ災害ヲナスヲイフ。

治少懈。文致未優。武尉不剛。孽臣姦隷。蠭居碁處。搖毒自防。外順內悖。父死子代。以祖以孫。如古諸侯。自擅其地。不貢不朝。六七十年。四聖傳序。以至陛下。陛下卽位以來。躬親聽斷。旋乾轉坤。闢機闔開。雷厲風飛。日月淸照。天戈所麾。莫不寧順。大宇之下。生息理極。高祖創制天下。其功大矣。而治未太平也。太宗太平矣。而大功所立。咸在高祖之代。非如陛下承天寶之後。接因循之餘。六七十年之外。赫然興起。南面指麾。而致此巍巍之治功也。宜定樂章以告神明。東巡泰山。奏功皇天。具著顯庸。明示得意。使永永年代。服我成烈」。第三小段言憲宗武功無前。宜制樂章。○以上三小段。皆末段乞哀伏案。收第三小段。

而臣負罪嬰纍。自拘海島。戚戚嗟嗟。日與死迫。收第一小段。曾當此之時。所謂千載一時。不可逢之嘉會。

外順内悖トハ、外面柔順ヲ裝ヒ、内心反逆ヲ懷クヲイフ。
四聖ハ、肅宗、代宗、德宗、順宗ノ四天子。
旋乾轉坤ノ乾坤ハ天地ナリ、文武ヲ振起シ、六七十年ノ舊弊ヲ一洗シテ改革セラルルコト、天地ヲ旋轉スルガ如シ。
關機闔開ノ關ハ門關、機ハ戸軸（くるる）ナリ、舊法ヲ改メ新令ヲ布キ、施設ノ方法門關ノ開閉スル如ク、悉ク宜シキヲ得ルナリ。
天戈ハ官兵ヲイフ、官兵ノ向フ所歸服セザルナキナリ。
大宇ノ宇ハ四方上下ヲ云フ、卽チ天下ノ生民悉ク安息シテ、極メテ太平ナルナリ。
因循ハ舊ニ據リテ遷ラザルナリ。
巍巍ハ高大ノ貌。
樂章ハ頌歌。
嬰釁ノ嬰ハ罹ナリ、釁ハ罪ナリ。
戚戚ハ憂慮ノ貌、嗟嗟ハ歎息ノ貌。
薄技ハイササカナル技藝、卽チ詩歌文章ヲイフ。

不得奏薄技於從官之內。隸御之閒。窮思畢精。以贖罪過。附表主意歸宿。收第二小段。懷痛窮天。死不閉目。瞻望宸極。魂神飛去。伏惟皇帝陛下。天地父母。哀而憐之。收第一小段。無任感恩戀闕。慚惶懇迫之至。謹附表。陳謝以聞。』第四小段總收附表。乞作樂章贖前罪。○以上第三大段附表哀訴。

## 爲裴相公讓官表

主意　言雖蒙天子獎待。不協羣小之心。是由己之菲才。故乞罷。

臣某言。伏奉今日制書。以臣爲朝議大夫守中書侍郎同中書門下平章事。承命驚惶。魂爽飛越。俯仰天地。若無所容。臣某誠惶誠恐。頓首頓首。』以上第一大段謝恩。臣少涉經史。粗知古今。天與朴忠。性惟愚直。知事君以道。無憚殺身。慕當官而行。不求利

瞻望震極ハ、首チアゲテ帝室ヲ望ミ慕フ也。

淮西ノ亂ニ刺客裴度ヲ傷ク、當時ノ大臣皆度ガ官ヲ罷メ、以テ賊ノ心ヲ安ンゼント請フ、憲宗皇帝聽カズ、遂ニ征討ニ決シ、元和十年六月、度ヲ以テ宰相トス、度諸臣ノ讒譖ヲ懼レ、相位ヲ辭セントス、韓退之代リテ此表ヲ書ス、故ニ臣シテ爲裴云云ト云フ。

制書ハ宰相ニ拜命セラルル辭令書。

魂爽飛云云、爽ハ字書ニ神ノ魄ナリ、陽ヲ神ト曰ヒ陰ヲ爽ト曰フトアリテ、精神トイフニ同ジ、恐懼ノ餘リ精神モ落附カヌヲイフ。

天與朴忠ハ、天性實樸忠直ナルヲイフ。

移官府云云、河南府ノ功曹參軍トナリ、其ヨリ四川ノ節度使ノ掌書記ト爲レルヲイフ。

絲綸ハ、禮記ニ王言如絲、其出如綸トアリテ詔勅ノコト、元和六年知制誥ノ官ニ拜セラレタルヲイフ。

涓埃ハ一滴ノ水、一本

已。人以爲拙。臣行不疑」。第一小段虛論。元和之初。始拜御史。旋以論事過切。爲宰臣所非。移官府廷。因佐戎幕。陛下恕臣之罪。憐臣之心。拔居侍從之中。遂掌絲綸之重。受恩益大。顧已益輕。苟耳目所聞知。心力所迨及。少關政理。輒以陳聞。於裨補無涓埃之微。而讒謗有邱山之積。陛下知其孤立。賞其微誠。獨斷不謀。奬待踰量。』一句已含後段拔擢之事。○第二小段實論。○以上第二大段略論。自己言及君。臣誠見。陛下具文武之德。有神聖之姿。啓中興之宏圖。當太平之昌歷。勤身以儉。與物無私。威怒如雷霆。容覆如天地。實羣臣盡節之日。才智效能之時」。第一小段贊君。聖君難逢。重德宜報。苦心焦思。以日繼夜。苟利於國。知無不爲。徒欲竭愚。未免妄作。陛下不加罪責。更極寵光。既領臺綱。又毗邦憲。臺綱是御史。邦憲是侍從。蓋重言前段所述。聖君

ノ塵ナリ、微小ノ義。奨待踰量ハ奨勵待遇ノ我身分ニ過ギタルナイフ。昌歴ノ歴ハ暦ニ通ズ、盛時、昭代ナドイフニ同ジ。容覆ノ覆ハ敷救切、地ノ物ヲ容レ天ノ萬物ヲ覆フ如ク、徳ノ宏大無邊ナルナイフ。領臺綱ハ内閣ノ綱紀ヲ執ルナリ、裴度元和九年御史中丞トナレルヲ云フ。毗邦憲ハ國ノ憲法ヲ輔整スルナリ、毗ハたすく訓ム、元和十年度刑部侍郎トナリシナイフ。聖君云云、聖君ノ重ンズル所ノ臣ハ、小人輩悪ノ譬トスル所ナリ、不意討ニ遭ヒテ殆ド兇人ノ手ニ斃レントセリトナリ、元和十年六月王承宗李師道等刺客ヲ遣リテ宰相武元衡ヲ殺シ、度ヲ撃ツ、刃三タビ進ミ、靴ヲ斷チ背ヲ刺リ、中單ヲ裂キ又首ヲ傷ク、度溝中ニ墜落シテ死セザルヲ得タリ。玷塵ハ汚スナリ、玷ハ

所厚兇逆所警缺於防虞幾至斃踣恩私所被性命獲全忝累祖先玷塵班列未知所措祇自内慙」第二小段慙己。豈意陛下擢臣於傷殘之餘委臣以燮和之任忘其陋汗使佐聖明此雖成湯擧伊尹於庖厨高宗擧傅説於版築周文用呂望於屠釣齊桓起甯戚於飯牛雪恥蒙光去辱居貴以今準古擬議非倫陛下有四君之明行四君之事微臣無四子之美獲四子之榮豈可叨居以彰非據」第三小段君有四君之明臣無四子之美。○以上第三大段詳論自君言及己。方今干戈未盡戡夷狄未盡賓麟鳳龜龍未盡游郊藪草木魚鼈未盡被雍熙當大有爲之時得非常人之佐然後能上宣聖徳以代天工如臣等類實不克堪」第一小段言不堪有爲之時。伏願博選周行旁及巖穴天生聖主必有賢臣得而授之乃可致理乞廻

點ニ同ジ。
燮和之任トハ、書經ニ茲三公論レ道經レ邦燮ニ和陰陽、注燮和者調ニ和之一也トアリテ宰相ノ職務ナイフ。
成湯擧――殷ノ湯王伊尹ヲ料理人中ヨリ擧ゲ、殷ノ高宗ハ傅說ヲ道路曾請ニ從事セル役徒中ヨリ擧ゲ、周ノ文王ハ太公望呂尙ヲ漁釣シツツアリシ所ヨリ擧ゲタリ、此等ノ事史記ニ見ユ、齊ノ桓公ハ寧戚ガ牛ヲ畜ヘル所ヨリ擧ゲタリ、三齊紀略ニ見ユ。
豈可叨――如何シテ拙者如キ非才ナル者ガ、妄リニ不相應ノ高官ニ居ルヲ表ハシ知ラシムベケンヤ。
雍熙ハ和樂ノ恩德也。
代天工ハ、上天造化ノ萬物ヲ成育スル事ニ代ランノ義。
周行ノ行ハ列ナリ、廣ク百官列位ノ中及ビ山林ニ隱レタル君子マデ擇ビ採用スルナイフ。
德宗ノ貞元十九年正月ヨリ五月マデ雨フラズ、乃チ命ジテ山川ニ

レ所レ授。以叶ニ羣情一。主意歸レ宿。無レ任ニ懇款之至一。』第二小段乞レ讓レ官。○以上第四大段言レ大有レ爲之時。非ニ臣等所レ堪。故讓レ官叶ニ羣情一。

## 論今年停擧選狀

主意　言レ不レ停ニ擧選一。進用人才。反レ足レ消レ旱。

右臣伏見ニ今月十日勅一。今年諸色擧選。宜レ權停レ者。」段勅旨。道路相傳皆云。以ニ歲之旱一。陛下憐ニ憫京師之人一。慮ニ其乏レ食。故權停ニ擧選一。以絕ニ其來者一。所ニ以省レ費而足レ食也。』第二小段道路之說。○以上第一大段提ニ勅旨及道路說一。是立案。

臣伏思之。竊以爲十口之家。益レ之以ニ一二人一。於レ食未レ有レ所レ費。今京師之人。不ニ啻百萬一。都計擧者。不レ過ニ五七千人一。幷其僮僕畜馬。不レ當ニ京師百萬分之一一。以ニ十口之家一計レ之。誠未レ爲レ有

祈禱ス、其年七月畿内飢ユ、由ツテ吏部省禮部省ニ於テ進士ノ試驗ヲ罷ムルノ詔勅アリ、韓退之時ニ四門博士タリ、此狀ヲ上リテ其利害得失ヲ論ズ。右臣ノ右ハ題目ヲ指シテイフ。諸色擧選ハ、選擧ノ途諸種アリ、或ハ禮部省或ハ吏部省ニ於テ學生ヲ選ビ擧グルナリ。絕其來者ハ、四方ノ學生京師ニ來ルヲ止ムルナリ。百萬分云云、百萬ニ對スル五七千人ナラバ百分一ト謂フベク、百萬ノ字術ナルベシ。古之求雨云云、殷ノ湯王ノ時ニ大旱ス、王六事ヲ以テ自ラ責メテ桑林ノ野ニ禱ル、其第二ニ民失職歟トアルナイフ。骨鯁之臣、鯁ハ魚骨ナリ、骨喉內ニ塞リテ嚥下シ難シ、以テ直言ノ容レ難キニ比ス、强直剛毅ノ臣ナイフ。寃戚ハ衞人、人ノ爲ニ車ヲ挽キテ齊國ニ至リ、牛角ヲ扣イテ歌フ、

所レ損レ益。第一小段言レ京師無二損益一。又今年雖レ旱。去レ歲大豐。商賈之家。必有レ儲蓄。擧選者皆齎レ持資用。以レ有レ易レ無。有指儲蓄。無指資用。未レ見其弊。』言擧者有資用。○以上第二大段論選擧之利。今若暫停二擧選一。或恐所レ害實深。一則遠近驚惶。二則人士失レ業。臣聞。古之求レ雨之詞曰。人失レ職與。然則人之失レ職。足レ以致レ旱。今緣レ旱而停二擧選一。是使二人失一レ職而召レ災也。」第一小段自レ臣說。臣又聞。君者陽也。臣者陰也。獨陽爲レ旱。獨陰爲レ水。今者陛下聖明在レ上。雖二堯舜一無レ以加レ之。而羣臣之賢。不レ及二於古一。又不レ能レ盡レ心於國。與二陛下一同レ心。助二陛下一爲レ理。有レ君無レ臣。是以久旱。』第二小段自レ君說。○以上第三大段論停二選擧一之害。以レ臣之愚。以爲宜レ求二純信之士一。骨鯁之臣。憂レ國如レ家。忘レ身奉レ上者。超二其爵位一。置在二左右一。如二殷高宗之用一レ傅說。周文王之擧二太公一。齊桓公之拔二甯戚一。漢武帝之取レ公

桓公聞イテ之ヲ異トシ、迎ヘテ上卿トナシ、後相國ニ拜セラル。公孫弘ハ淄川ノ人、海上ニ豕ヲ牧ス、武帝ノ時賢良ニ擧ゲラレ、對策第一タリ、博士ニ拜セラレ、後丞相トナル。朝官云云、韓公此ノ時ニ四門博士ニシテ、朝廷納言ノ職ニ居ラズ、故ニイフ。

元和六年富平ノ梁悅トイフ者父ノ爲ニ讐ヲ報ジテ人ヲ殺シ、縣ニ投ジテ罪ヲ請フ、乃チ鄠臣ニ勅シテ議ヲ定ム、文公此狀ヲ上リ、經律竝行スベキヲ論ズ、後梁悅ヲ循州ニ配流ス、蓋シ公ノ議ヲ用ヒタルナリ。禮經ハ春秋、禮記、周禮等ヲ云フ。義不同天云云、不俱戴天トイフニ同ジ、君父ノ讎ト同一ノ天ノ下ニ生活ス可カラザル義ニシテ、換言スレバ此世ニ生存セシム可カラザルナリ、禮經ノ義ニヨレバ、讐ヲ報ジテ人ヲ殺スハ臣子ノ責務ニシ

孫弘。清閒之餘。時賜召問。必能輔宣王化。銷珍旱災。」此二句。○主意歸宿。第一小段　臣雖非朝官。月受俸錢。歲受祿粟。苟有所知。不敢不言。』第二小段言所以上書。○以上發主意。第四大段論選擧反銷旱災。

## 復讐狀

主意　言斷于法。而酌于經。

右伏奉今月五日、敕。復讐據禮經。則義不同天。徵法令。則殺人者死。禮法二事。皆王教之端。有此異同。必資論辯。宜令都省集議聞奏者。』第一大段以勅旨爲案。朝議郎行尚書職方員外郎上騎都尉韓愈議曰。伏以子復父讐。見於春秋。見於禮記。又見周官。又見諸子史。不可勝數。未有非而罪之者也。最宜詳於律。

テ無罪ナリ、而シテ法律ニヨルニ、人チ殺ス者ハ死刑ニアタル、禮經法律共ニ王教ノ一ニシテ、猥リニ之チ曲ゲ可カラズ、宜シク論辯集議シテ、禮法兩者チ竝行セシメザル可カラズトナリ。

都省ハ、尚書省チイフ。

見於春秋ハ、春秋ノ公羊傳ニ、父誅チ受ケザレバ子讐チ復シテ可ナリトアルチイフ。

見於禮記ハ、禮記ノ檀弓上篇ニ、子夏孔子ニ問ウテ曰ク、父母ノ讐ニ居ル之チ如何、夫子曰ク苫(とま)ニ寢ネ干チ枕ニシ、仕ヘズ、與ニ天下チ共ニセズ、之ニ市朝ニ遇ヘバ兵チ反サズシテ鬪フトアルチイフ。

見於周官、周官ハ周禮ニ同ジ、同調人ニ、凡ソ人チ殺シテ、義アル者ハ讐スル勿ラシム、之チ讐スレバ死ストアルチイフ。

殺人而義云云、殺ス可キ正當ノ理(義)アリテ殺シタル下手人チ讐トシテ報復スルモノハ死ニ處ス。

而律無其條。非闕文也」揭經律。蓋以爲不許復讐。則傷孝子之心。而乖先王之訓。許復讐。則人將倚法專殺。無以禁止其端矣」經律兩意。第二小段論夫律雖本於聖人。然執而行之者有司也。經之所明者。制有司者也。丁寧其義於經。而深沒其文於律者。其意將使法吏一斷於法。而經術之士得引經而議也。』第三小段論法吏經士相濟。〇以上第二大段略論大意。

周官曰。凡殺人而義者。令勿讐。讐之則死。義宜也。則殺人而不得其宜者。子得復讐也。此百姓之相讐者也。公羊傳曰。父不受誅。子復讐可也。不受誅者。罪不當誅也。誅者。上施於下之辭。非百姓之相殺者也。又周官曰。凡報仇讐者。書於士。殺之無罪。言將復讐。必先言於官。則無罪也。」一小段詳解經意。第一

今陛下垂意典章。思立定制。惜有司之守。憐孝子之

罪不當——犯罪ノ事ガ法律ニ於テ誅戮ノ科條ニ相當セザルナリ。

書於士——讐ヲ復スル者ガ、前以テ其旨ヲ司法官ニ訴ヘ置カバ、仇ヲ殺ストモ其身ニ罪ハ受ケザルナリ、士トハ司法官ナイフ。

禘祫議ノ禘祫ハ大祭ノ名、禮ニ三年一祫、五年ニ一禘ストアリ、祫ハ合ナリ、昭穆ヲ以テ太祖ノ廟ニ合祀ス、禘

指ハ旨ナリ。

心。示不自專。訪議羣下。臣愚以爲復讐之名雖同。而其事各異。或百姓相讐。如周官所稱。可議於今者。或爲官所誅。如公羊所稱。不可行於今者。又周官所稱。將復讐。先告於士。則無罪者。若孤稚羸弱。抱微志而伺敵人之便。恐不能自言於官。未可以爲斷於今也。」第二小段論經可行于今。與不可行于今。然則殺之與赦不可一例。宜定其制曰。凡有復父讐者。事發具其事申尚書省。尚書省集議奏聞。酌其宜而處之。則經律無失其指矣。』二句主意歸宿。酌時宜經律不竝失。○以上第三大段詳論。

## 禘祫議

主意　言獻祖宜居東向之位。景皇帝宜從昭穆之列。

ハ諦ナリ、其尊卑ノ位チ審諦シテ之ヲ祀ルヲ謂フ、廟ノ制タル、天子七廟、中央ニ太祖、左右ニ三昭三穆アリ、今唐中宗ニ至ツテ、世祖景皇帝ヲ追尊シ、別ニ太祖ノ廟ヲ立テテ興聖トイヒ、開元十年又景皇帝ノ祖父ノ廟ヲ立テテ獻懿トス、卽チ更ニ九廟ヲ立ツ、禮文繁褥、羣議一定セズ、文公議シテ之ヲ申明ス、議ハ論ノ稍輕キモノ。厥中ハ中道中庸中正ノ義ナリ、一方ニ偏セザル方式。

建中ハ德宗ノ年號。

夾室ハ太廟ノ東西ニアリ、大室ノ兩旁ヲ夾ム故ニ云フ。

毀廟之主トハ五世以上ノ祖チイフ、五世後ノ孫ハ五世以上ノ祖ノ廟チ毀チ、神主ヲ太祖ノ廟ニ合祀ス。

壇ハ祭庭ナリ、靈時。

祧廟トハ、遠廟ヲ祧ト爲ス、禮記ノ注ニ、遷

右今月十六日勅旨。宜令百僚議限五日內聞奏者。』以上第一大段勅旨。

將仕郎守國子監四門博士臣韓愈謹獻議曰。伏以陛下追孝祖宗。肅敬祀事。凡在擬議。不敢自專。聿求厥中。延訪羣下。然而禮文繁漫。所執各殊。自建中之初。迄至今歲。屢經禘祫。未合適從。臣生遭聖明。涵泳恩澤。雖賤不及議。而志切效忠。今輒先擧衆議之非。然後申明其說。』以上第二大段先提。一曰。獻懿廟主。宜永藏之夾室。臣以爲不可。夫祫者合也。毀廟之主。皆當合食於大祖。獻懿二祖。卽毀廟之主也。今雖藏於夾室。至禘祫之時。豈得不食於太廟乎。名曰合祭。而二祖不得祭焉。不可謂之合矣。」第一小段一非。二曰。獻懿廟主。宜毀之瘞之。臣又以爲不可。謹按禮記。天子立七廟。一壇一墠。其毀廟之主。皆藏於祧廟。雖

廟ノ主ハ皆昭穆ヲ以テ祧廟ノ中ニ合藏ストアリ。

創立九廟、開元十年ニ太廟九室ヲ立ツ、獻祖、懿祖、太祖、世祖、高祖、大祖、高宗、中宗、睿宗。

眷顧依遲、依遲ハ除行ナリ、神靈久シク留リ、眷戀顧望徐行シテ去ルニ忍ビズ、陵所ニ就キ祭ヲ享ケザルナリ、京師ニ對シテ陵所ヲ下國トイフ。傳曰云云、論語八佾篇ニ見ユ。

百代不毀。祫則陳於太廟而饗焉。自魏晉已降。始有毀瘞之議。事非經據。竟不可施行。今國家德厚流光。創立九廟。以周制推之。獻懿二祖。猶在壇墠之位。況於毀瘞而不祫乎」。第二小段二非。三曰。獻懿廟主。宜各遷於其陵所。臣又以爲不可。二祖之祭於京師。列於太廟也二百年矣。今一朝遷之。豈惟人聽疑惑。抑恐二祖之靈。眷顧依遲。不即饗於下國也」。第三小段三非。四曰。獻懿廟主。宜附於興聖廟。而不祫祫。臣又以爲不可。傳曰。祭如在。景皇帝雖太祖。其於屬乃獻懿之子孫也。今欲正其子東向之位。廢其父之大祭。固不可爲典矣」。第四小段四非。五曰。獻懿二祖。宜別立廟於京師。臣又以爲不可。夫禮有所降。情有所殺。是故去廟爲祧。去祧爲壇。去壇爲墠。去墠爲鬼。漸而之

魯立煬宮云云、煬宮ハ魯ノ始祖伯禽ノ子、其廟已ニ毀テルヲ、季氏再ビ之ヲ立テシコト春秋經ニ見ユ。

求其折中トハ、折衷スト云フガ如シ、折ハ斷ナリ、中ハ當ナリ。玄王ハ殷ノ先祖契ノ諡ナリ。

昭穆之列トハ、禮記ニ、天子ハ七廟、三昭三穆、太祖ノ廟ト合シテ七廟ナリ、夫レ祭ニ昭穆アリ、昭穆ハ父子遠近長幼親疏ノ序ヲ別チテ、亂ナカラシムルナリトアリ。傳曰云云、左傳文公二年ニ見ユ。

遠。其祭益稀。昔者魯立二煬宮一。春秋非レ之。以爲不レ當レ取二已毀之廟一。既藏之主一而復築レ宮以祭。今之所レ議。與レ此正同。又雖レ違レ禮立レ廟。至於禘祫一也。合食則禘無二其所一。廢レ祭則於レ義不レ通。此五說者。皆所二不可一。』上第三大段非衆議。故臣博采二前聞一。求二其折中一。以爲二殷祖一玄王一。周祖二后稷一。太祖之上。皆自爲レ帝。又其代數已遠。不復祭之。故太祖得レ正二東向之位一。子孫從二昭穆之列一。禮所レ稱者。蓋以紀二一時之宜一。非二傳於後代之法一也。傳曰。子雖齊聖。不先レ父食。蓋言二子爲一レ父屈一也。景皇帝雖二太祖一也。其於二獻懿一則子孫也。當二禘祫之時一。獻祖宜レ居二東向之位一。景皇帝宜レ從二昭穆之列一。二句一篇主意。祖以レ孫尊。孫以レ祖屈。求二之神道一。豈遠二人情一。又常祭甚衆。合祭甚寡。則是太祖所レ屈之祭至少。所レ伸之祭至多。比

非所失禮也、蔣注ニ、所ノ字疑フラクハ衍ナラントアリ。
天心ハ天子ノ心ナリ。

爭臣ハ諫臣ナリ、爭ハ諍ニ同ジク、いさむるナリ、孝經ニ、天子ニ爭臣七人アリ、亡道ト雖天下ヲ失ハズトアリ、陽城ハ德宗ノ諫議大夫タリ、五年諫メズ、文公爭臣論ヲ作リテ之ヲ駁ス、陽子後諫ヲ以テ名アリ、陽城字ハ亢宗、性學ヲ好ム、貧ニシテ書ヲ得ル能ハズ、乃チ集賢寫書吏トナリ、官書ヲ竊ミテ之ヲ讀ム、晝夜外ニ出デザルコト六年、乃チ通ゼザルナシ、進士ニ第シ、中條山ノ柳谷ニ隱ル、德宗於伸孫之尊。廢祖之祭。不亦順乎。事異殷周。禮從而變。非所失禮也」。第一小段主意。臣伏以制禮作樂者。天子之職也。陛下以臣議有可采。粗合天心。斷而行之。是則爲禮。如以爲猶或可疑。乞召臣對。面陳得失。庶有發明謹議』。第二小段乞陛下斷行。以上第四大段申自說。

## 爭臣論

主意　言陽子不盡爭臣之職。不可謂有道之士。但可謂善人。○四出有道之士。是一篇四大柱。

或問諫議大夫陽城於愈。可以爲有道之士乎哉。學廣而聞多。不求聞於人也。行古人之道。居於晉之鄙。晉之鄙人薰其德。而善良者幾千人。大臣聞而薦之。天子以爲諫議大夫。人皆以爲華。陽子不色喜。居於位五年矣。視其德如在野。伏守道而不變。

皇帝召シテ諫議大夫トナス。
華ハ榮譽ナリ。
視其德如在野トハ、朝ニ在ルト野ニ在ルトヲ以テ其德ヲ易ヘザルチイフ。
恆其德云云、易ノ恆ノ卦ノ語、其德ヲ恆ニ守リテ易ヘザルハ貞操ナルヲ以テ、婦人ニハ吉ナレドモ、男子(夫子)ハ時ニ因リテ變化スベキモノナレバ凶ナリ、陽城ノ在官在野恆ニ其德ヲ易ヘザルヲ駁シタルナリ。
蹇蹇ハ勤メテ怠ラザル貌、王臣トテ官途ニ在ル臣ハ、蹇蹇トシテ君國ノタメニ勤メ勵ムベキモノニシテ、己自身ノ爲ニ事ヲ爲スニアラズ。
志不可則云云、蠱ノ上九ノ象ニ志可レ則トアリ、陽城ハ出デテ官ヲ冒ス、故ニ其志則ル可カラズ、蹇ノ六二ノ象ニ无尤トアリ、陽城ハ官ヲ曠シクシテ勤務セズ、草野ニ在ルガ如シ、是レ尤ナキニアラザルナリ。
越人云云、越ト秦トハ

彼豈以富貴移易其心哉」第一小段問不レ移二易其心一似有道之士。愈應レ之曰。是易所謂恆其德貞。而夫子凶者也。惡得爲有道之士乎哉。一喝挫折。然後徐徐辨之。在易蠱之上九云。不事王侯。高尚其事。蹇之六二則曰。王臣蹇蹇。匪躬之故。夫不以所居之時不一。而所蹈之德不同也。若蠱之上九。居無用之地。而致匪躬之節。以蹇之六二。在王臣之位。而高不事之心。則冒進之患生。曠官之刺興。志不可則。而尤不終无也。第一節引易。是虛說。今陽子在位。不爲不久矣。聞天下之得失。不爲不熟矣。天子待之。不爲不加矣。而未嘗一言及於政。視政之得失。若越人視秦人之肥瘠。忽焉不加喜戚於其心。問其官。則曰諫議也。問其祿。則曰下大夫之秩也。問其政。則曰我不知也。有道之士固如是乎哉。第二節實說。一篇貶陽城大意。全在

土地遠隔セリ、故ニ更ニ心ニカケザルニ喩フ。
不得其職トハ其職トスル所ノ事務ナキ時ハ其官ヲ去ルナリ。
言責云云、諫言ス可キ職責アル者ニシテ諫言ス可キ事件ナキトキハ其官ヲ去ル。
祿仕ハ祿ヲ得ンガ爲ニ君ニ仕フルコト。
古之人云云、孟子萬章篇ニ見ユ、抱關ハ關(くわんのき)ヲ抱クニテ門番ノコト、擊柝ハ柝(ひやうしぎ)ヲ擊ツニテ夜廻リノコト、共ニ卑賤ノ役人ナリ、又委吏ハ租稅ヲ主ドル吏、乘田ハ牧場ヲ主ドル吏、亦卑シキ官職ナリ。
書曰云云、尚書君陳ノ篇ニ見ユ、猷モ亦謀ナリ、順ハ奬順ナリ、爾(なんぢ)大臣宰相ニ於テ善謀アレバ、内廷ニ入リテ爾ノ天子(后)ニ

此段。故曰。有道之士。固如ㇾ此乎。他段則無ㇾ之。

且吾聞ㇾ之。有ㇾ官守ㇾ者。不ㇾ得ㇾ其ㇾ職ㇾ則去。有ㇾ言責ㇾ者。不ㇾ得ㇾ其ㇾ言ㇾ則去。今陽子以爲ㇾ得ㇾ其ㇾ言ㇾ乎哉。得ㇾ其ㇾ言ㇾ而不ㇾ言。與不ㇾ得ㇾ其ㇾ言ㇾ而不ㇾ去。無ㇾ一可ㇾ者ㇾ也。』第三節責不ㇾ去。是徐意。陽子將ㇾ爲ㇾ祿仕ㇾ乎。古之人有ㇾ云。仕不ㇾ爲ㇾ貧。而有ㇾ時乎爲ㇾ貧。謂ㇾ祿仕者ㇾ也。宜乎辭尊而居ㇾ卑。辭富而居ㇾ貧。若抱關擊柝者ㇾ可也。蓋孔子嘗爲ㇾ委吏ㇾ矣。嘗爲ㇾ乘田ㇾ矣。亦不ㇾ敢曠ㇾ其職ㇾ。必曰會計當而已矣。必曰牛羊遂而已矣。若陽子之秩祿。不ㇾ爲ㇾ卑且貧ㇾ。章章明矣。而如ㇾ此。其可乎哉。』第四節責陽子非ㇾ祿仕。亦徐意。○第二小段答ㇾ恆ニ其德ㇾ。卽非有道之士。○以上第一大段貶ㇾ陽子恆ニ其德ㇾ。非有道之士。或曰否。非ㇾ若ㇾ此也。夫陽子惡ㇾ訕ㇾ上者ㇾ。惡爲ㇾ人臣ㇾ招ㇾ其君之過ㇾ。而以爲ㇾ名者。故雖ㇾ諫且議。使ㇾ人不ㇾ得而知ㇾ焉。書曰。爾有ㇾ嘉謀嘉猷。則入告ㇾ爾后於內。爾乃順之於外。曰。斯謀斯猷。惟我后之

具申シ、爾ハ外廷ニ出デテ其事ヲ奬順（譽めはやす）シテ、斯樣ノ善謀ハ皆天子ノ美德ヨリ出デ、決シテ吾意志ニ出デタルニアラズト云ヒテ、善ハ君ニ歸シ、惡ハ臣民ニ知ラザラシムベシ。

布衣ハ庶人ノ服、轉ジテ無位無官ノ平民ノ義トス。

蓬蒿ハよもぎノ類。

骨鯁之臣ハ前ノ論令年停擧選狀ノ文ニ注ス。

僭賞ハ詐リ褒ムルコト。

巖穴之士ハ隱君子。

束帶ハ裝束ヲ著クルコト。

結髮ハ冠ヲ著クルコト。

熙ハ廣ムルナリ。啓之トハ、惡ニ導クコト、乃チ人君チシテ其過ヲ聞クヲ惡マシムルナイフ。

德。夫陽子之用レ心。亦若レ此者」用レ心不レ招二君之過一愈應レ之曰。若陽子之用レ心如レ此。滋所謂惑者矣。入則諫二其君一。出不レ使二人知一者。大臣宰相者之事。非二陽子之所一レ宜レ行也。夫陽子本以布衣。隱二於蓬蒿之下一。主上嘉二其行誼一。擢在二此位一。官以諫爲レ名。誠宜有以奉二其職一。使四方後代。知朝廷有二直言骨鯁之臣一。天子有不レ僭賞。從諫如流之美。庶巖穴之士。聞而慕レ之。束帶結髮。願進於闕下一。而伸二其辭說一。致二吾君於堯舜一。熙鴻號於無窮一也。若書所レ謂則大臣宰相之事。重複提醒。非二陽子之所一レ宜レ行也。第一節正意。且陽子之心。將レ使二君人者一。惡聞二其過一乎。是啓レ之也。』第二節餘意。○第二小段答不レ招二君過一非二陽子所一レ宜レ行。○以上第二大段辨陽子不レ招二君過一之非。○以下二大段。設二或問一。補二前論不足一。

或曰。陽子之不レ求レ聞。而人聞レ之。不レ求レ用。而君用レ之。不レ得レ已而起。守二其道一而不レ變。應其德如在レ野。何子

孜孜ハ勉強スル貌、矻矻ハ努力スル貌。
禹過家、禹ハ洪水ヲ治メ人民ノ苦ヲ救ハン爲ニ、八年ノ間外ニ在リ、三度己ノ家門ヲ過グレドモ入リテ休息セザリキ、孔子ハ道ヲ天下ニ行ハン爲、各國ニ周流シテ坐席ノ暖マル暇ナク、墨子ハ道ヲ說カン爲、四方ノ國國ニ奔走シテ、竈ノ煙突ノ黑クナルマデ一所ニ滯在セザリキ。
二聖ハ禹ト孔子、一賢ハ墨子ナリ。

暇逸ハ閒暇安逸ナリ。
君子不——君子ハ人ヲ凌グコトヲ欲セズ、且ツ他人ノ隱私過失ヲ摘

過之深也」第一小段問陽子不好仕。愈曰。自古聖人賢士。皆非有求於聞用也。閔其時之不平。人之不又。得其道。不敢獨善其身。而必以兼濟天下也。孜孜矻矻。死而後已。故禹過家門不入。孔席不暇暖。而墨突不得黔。彼二聖一賢者。豈不知自安逸之爲樂哉。誠畏天命。而悲人窮也。第一節說悲人窮。夫天授人以賢聖才能。豈使自有餘而已。誠欲以補其不足者也。耳目之於身也。耳司聞。而目司見。聽其是非。視其險易。然後身得安焉。忙中挿喩。聖賢者時人之耳目也。時人者聖賢之身也。第二節說且畏天命。且字異用。陽子之不賢。則將役於賢以奉其上矣。若果賢。則固畏天命。而閔人窮也。惡得以自暇逸乎哉。第三節合說人窮天命。○第二小段以畏天悲人。駁其不好仕。○以上第三大段貶陽子不得已而仕。

此處且字轉語耳。與上文數箇且字同。

或曰。吾聞。君子不欲加諸人。而惡訐以爲直。

發スルヲ以テ正直ト爲スヲ悪ム、今韓公ノ如ク陽城ヲ攻撃セバ、韓公ノ徳ヲ傷ツケ、又徒ニ言論ヲ費ストイフモノナリ。

好盡言云云、己ノ思フ所ヲ存分ニ述ベ、人ノ過失ヲ擧(招)ゲテ意トセザル者ハ、必ズ怨ヲ受ケ禍ヲ蒙ル、齊人國武子ノ殺サレタルモ此理ナリ、齊靈公ノ母聲孟子慶克ニ通ズ、國武子慶克ヲ責ム、後武子齊侯華免ニ内廷ニ殺サル、左傳成十六年ニ見ユ。

傳曰云云、周語ニ、柯陵之會、單襄公見ニ國武子ニ、其言盡、襄公曰、立ニ于淫亂之國ニ、而好ニ盡言ニ、以招ニ人過ニ、怨之本也、唯善人能受ニ盡言ニ、齊其有乎云云、齊人殺ニ國武子ニトアリ。

今雖不ニ能ハ及ハ有道ノ士ニハ及ハザレドモ、善人タル人格ハ許サルベシ、既ニ善人ニシテ盡言ヲ受クベクンバ、韓公ノ諫言モ受ケテ、職務ヲ勉勵スベシ。

者。若吾子之論。直則直矣。無乃傷於德而費於辭乎。第一節詰ニ傷ニ德費ニ辭。好盡言以招人過。國武子之所以見殺於齊也。吾子其亦聞乎。第二節詰ニ盡言之禍。○第一小段以ニ傷德費辭。盡言三者難ニ退之。愈曰。君子居其位。則思死其官。未得位。則思修其辭以明其道。讀此一句。文章之業。果不可ニ輕視。我將以明道也。非以爲直而加人也。第一節以ニ修辭答ニ費辭。以ニ明道答ニ傷德。且國武子不能得善人。而好盡言於亂國。是以見殺。傳曰。惟善人能受盡言。謂其聞而能改之也。第二節辨ニ國武子盡言不ニ得善人。遂起ニ陽子善人。子告我曰。陽子可以爲有道之士也。今雖不能及已。陽子將不得爲善人乎哉。』不及ニ有道之士。是一篇歸宿處。○結末是不窮ニ追敵之法。○第三節決ニ陽子非有道之士。以ニ徐筆許其爲善人。啓ニ一活路。○第二小段辨ニ前段。遂決ニ陽子善人。而非ニ有道之士。○以上第四大段設ニ或問。辨ニ己之所以盡ニ言。遂繳ニ還起手。結ニ一篇。翻ニ徐筆。開ニ一活路。導ニ其改ニ過。無限之妙味。

李賀字ハ長吉、七歲辭章ヲ能クシ、二十歲長短ノ製ヲ以テ名京華ニ聞ユ、他日進士ニ擧ゲラル、賀ノ父ノ名ハ晉肅、晉進音通ズ、賀ト名ヲ爭フ者之ヲ難ジテ曰ク、賀進士ニ擧ゲラルルハ諱法ニ違ヘリト、文公之ガ爲ニ辯ヲ作リテ難者ヲ駁ス、辯ハ論體ノ一、文體明辨ニ辯ハ判別ナリ、蓋其言行ノ是非眞僞ヲ執リ、大義ヲ以テ之ヲ斷ズルナリトアリ。

律トハ禮記ノ曲禮ナイフ、其上篇ニ云、卒哭乃諱、禮不レ諱レ嫌名、二名不レ偏諱ニ云ト。釋之者トハ鄭玄ナリ、鄭玄禮記ニ注ス。二名云云、二名ハ二字ノ名ナリ、二名中一名ハ諱マザルナイフ。言徵云云ハ二名偏諱セザル例證ナリ、親ノ名徵在ナラバ、子其一名徵ノ徵ヲ諱ミテ在ヲ諱マズ、或ハ在ヲ諱ミテ徵ヲ諱マザル類ナイフ。嫌名トハ音聲相近キ名ナリ、禹ト雨ト同音、丘ト蓋ト同音ナル類、嫌名ヲ諱マズトハ、父ノ

# 諱辯

主意　辨二毀者惑一。

愈與二李賀書一。勸レ賀擧二進士一。賀擧進士有レ名。」第一小段敍愈勸二李賀擧一進士一。與レ賀爭レ名者毀レ之曰。賀父名二晉肅一。賀不レ擧二進士一爲レ是。勸レ之擧者爲レ非。聽者不レ察也。和而唱レ之。同然一レ辭。」第二小段敍二毀者言一。皇甫湜曰。若不二明白一。子與レ賀且レ得レ罪。』第三小段敍二湜言一。○以上第一大段立案。愈曰然。律曰。二名不レ偏レ諱。釋レ之者曰。謂レ若言レ徵不レ稱レ在。言レ在不レ稱レ徵是也。律曰。不レ諱二嫌名一。釋レ之者曰。謂レ若禹與レ雨。丘與レ蓋之類是也。」第一節解レ律。今賀父名二晉肅一。賀擧二進士一。爲レ犯二名律一乎。爲レ犯二嫌名律一乎。」第二節正辨。父名二晉肅一。子不レ得レ擧二進士一。若父名仁。子不レ得レ爲レ人乎。」第三節餘辨。○第一小段質二于律一。

夫諱始二於何時一。作二法制一以教二天下一者。非二周公孔子一歟。周

名禹ナル時、子雨チ諱ムニ及バザルナイフ。周公作詩云云、文王ノ名ハ昌、武王ノ名ハ發、而シテ周公詩チ作ツテ克昌ニ厥後ト云ヒ、駿發ニ爾私ト言ヘルナイフ。

孔子不偏諱云云、孔子ノ母ノ名ハ徵在、而シテ孔子偏諱セズ、論語八佾篇ニ、子曰云云、杞不レ足レ徵云云、又衞靈公篇ニ、子告レ之曰、某在レ斯某在レ斯ノ如シ。

春秋不——衞桓公ノ名完ナレバ、之チ桓公ト言フハ嫌名チ諱マザルナリ、而シテ春秋ニ之チ譏ラズ、康王ノ名ハ釗ニシテ其孫ニ同聲ノ昭王アリ、曾子ノ父名ハ皙ナルニ、曾子同聲ノ昔チ諱マズ、論語泰伯篇ニ、曾子曰云云、昔者昔友嘗從ニ事於斯ノ類ナリ。

徹爲通云云、徹侯チ通侯ト云ヒ、剔徹チ剔通ト云ヘルノ類ナリ。

浒勢乘機ハ、皆現今上章及詔ニ通用セル字、然ルニ太祖ノ諱ハ虎、浒ニ近シ、太宗ノ諱ハ世民、勢ニ近シ、世祖

公作詩不諱。孔子不偏諱二名。春秋不レ譏不諱嫌名二。第一節正辨。

康王釗之孫。實爲昭王。曾參之父名皙。曾子不レ諱レ昔。周之時有二朞期一。漢之時有二杜度一。此其子宜如何諱。將諱其嫌。遂諱其姓乎。將不諱其嫌者乎」。疑問。不二直說破一甚妙。○第二節補辨。○第二小段考二于經一。漢諱武帝名徹爲レ通。不レ聞又諱車轍之轍爲某字也。諱呂后名雉爲二野雞一。不レ聞又諱治天下之治爲某字也」。第一節補辨。蓋以漢典補二國典一也。今上章及詔。不レ聞レ諱浒勢乘機也。惟宦官宮妾乃不敢言諭及機。以爲觸犯。士君子言語行事。宜何所法守一也」。第二節正辨。○自二周公作詩一至此凡十事。變作八樣句法。○第三小段稽于國典。○段中四也字。承上五乎字。疑詞漸歸二斷詞一。

今考之於經。質之於律。稽之以二國家之典一。賀舉進士。爲可邪。爲不可邪』。又設疑。不二說破一。何等婉曲。○第四小段結第二大段。○以上第二大段辨明。凡事得如曾參。可以無譏矣。作レ人得如周公孔子。亦可以止

ノ諱ハ丙、秉ニ近シ、玄宗ノ諱ハ隆基、機ニ近シ。諭及機云云ハ、代宗諱ハ豫、諭ニ近ク、隆基ハ機ニ近ケレバイフ。經ハ詩、春秋等ヲ云ヒ、律ハ法律ヲ云フ。

矣。第一節顧上文。揭三聖賢。今世之士。不レ務レ行二曾參一。周公。孔子之行。而諱二親之名一。則務レ勝二於曾參一。周公。孔子。亦見二其惑一也」。第二節斷毀者惑。收主意。○第一小段斷案。○段中二矣字。一也字。承上段二邪字。疑詞始斷定。夫周公。孔子。曾參卒不レ可レ勝。勝二周公。孔子一。曾參。乃比二於宦官宮妾一。則是宦官宮妾之行。孝二於其親一。賢於周公。孔子。曾參者耶』。第二小段餘波。○上段既下レ斷。猶二結レ繩緊切一。此段更及二餘論一。不レ下レ斷。猶二繩尾卷然颺レ風。妙不レ可レ言。○以上第三大段斷案。

## 張中丞傳後序

主意　敍二逸事一。

元和二年四月十三日夜。愈與二吳郡張籍一。閱二家中舊書一。得二李翰所レ爲張巡傳一。第一小段閱舊書得二張巡傳一。翰以二文章一自名。爲二此傳一頗詳密。然尚恨有レ闕者。不レ爲二許遠一立レ傳。又不レ載二雷萬春事一。首尾』。第二小段

張中丞ハ張巡ナリ、巡ハ鄧州南陽ノ人、身長七尺、志氣高邁、文武ヲ兼ヌ、開元ノ末進士ニ第シ、淸河令トナリ、後眞源令ニ調ス、祿山ノ亂、苦戰大小三百餘合、奇計ヲ以テ賊將令狐潮ヲ走ラス、後睢陽ニ入リ、許遠ト兵ヲ合シ、共ニ睢陽城ヲ固守ス、偶〻賊將尹子奇來ツテ之ヲ陷ル、巡遠皆執ヘラル。元和ハ憲宗ノ年號。

許遠ハ許敬宗ノ孫、杭州鹽官ノ人、祿山反ス、玄宗ニ召サレテ睢陽ノ太守トナル、張巡ト共ニ城ヲ固守スルコト數月、食盡キテ城陷リ、擒ハレテ死ス。

雷萬春ハ巡ノ裨將タリ、令狐潮ノ雍丘ヲ圍ムヤ、萬春城上ニ立ツ、賊之ヲ射ル、六矢面ニ中ル、萬春少シモ動カズ、潮其刻木ノ人ナルカヲ疑フ。

先後異耳、張巡ハ直チニ殺サレ、許遠ハ洛陽ニ生致セラレ、屈セザルヲ以テ殺サル、張巡ガ死ハ先ニシテ、許遠ガ死ハ後ナリ。

食其所云云、兵飢エ食盡キタレバ、遠奴ヲ殺シテ其肉ヲ食ハシメタルナリ。

蚍蜉ハ大蟻ナリ。

詬遠ノ詬ハ詈ナリ。

恨有ㇾ闕。○以上第一大段提綱。遠雖ㇾ材若ㇾ不ㇾ及ㇾ巡者。開ㇾ門納ㇾ巡。位本在ㇾ巡上。授ㇾ之柄。而處ㇾ其下。無ㇾ所ㇾ疑忌。竟與ㇾ巡俱守ㇾ死。成ㇾ功名。城陷而虜與ㇾ巡死。先後異耳。兩家子弟。材智下。不ㇾ能ㇾ通ㇾ知二父志。以爲巡死而遠就ㇾ虜。疑畏ㇾ死而辭ㇾ服於賊。遠誠畏ㇾ死。何苦守ㇾ尺寸之地。食ㇾ其所ㇾ愛之肉。以與ㇾ賊抗而不ㇾ降乎。當ㇾ其圍守ノ時。外無ㇾ蚍蜉子之援。所ㇾ欲ㇾ忠者。國與ㇾ主耳。而賊語以ㇾ國亡主滅。遠見ㇾ救援不ㇾ至而賊來益衆。必以ㇾ其言爲ㇾ信。外無ㇾ待。而猶死守。人相食且盡。雖愚人。亦能數ㇾ日而知ㇾ死處矣。遠之不ㇾ畏ㇾ死亦明矣。烏有城壞。其徒俱死。獨蒙ㇾ媿恥ㇾ求ㇾ活。雖至愚者不ㇾ忍爲。嗚呼。而謂ㇾ遠之賢而爲ㇾ之耶。」第一小段辨ㇾ遠不ㇾ畏ㇾ死。說者又謂。遠與ㇾ巡分ㇾ城而守ㇾ城之陷。自ㇾ遠所ㇾ分始。以ㇾ此詬ㇾ遠。此而與ㇾ兒童之見無ㇾ異。

臟腑ハ體内ノ機關也、卽チ肝、心、脾、肺、腎ノ五臟、及膽、胃、大腸、小腸、膀胱、三焦ノ六腑ナイフ。

引繩云云、今人アリ繩チ引ク、繩絶ツ、コレ繩ニ切ルル局部アツテ切ル、繩チ引ク者ノ如何ニ依ラザルナリ、城ノ陷ル亦正ニ斯ノ如シ、其陷ル可キ所ヨリ落チ始ムルノミ、前後チ以テ論ズ可カラズ。

巡遠之——張巡許遠ノ成シシ所、功績高大顯著ナリ、此ノ如クニシテ、而カモ猶後人ノ議チ免ルル能ハズ、其他ノ小功者ニ至ツテハ知ル可キノミ。

逆遁ノ逆ハ豫ニ同ジ。

見其自——自分ニ進ンデ逆亂國賊ニ比肩シ、猥ナル口實チ設ケテ國賊チ助ケ、忠義無二ノ二公チ攻ムルガ如キモノナリ。

用而字。學檀弓仲憲言於曾子章字法。而則通。〇而一本作亦。似是。人之將死。其臟腑必有先受其病者。引繩而絕之。其絕必有處。觀者見其然。從而尤之。其亦不達於理矣。小人之好議論。不樂成人之美。如是哉。如巡遠之所成就。如此。卓卓。猶不得免。其他則又何說。〔自遠所分陷。〕第二小段辨城當二公之初守也。寧能知人之卒不救。棄城而逆遁。苟此不能守。雖避之他處。何益。及其無救而且窮也。將其創殘餓羸之餘。雖欲去。必不達。二公之賢。其講之精矣。守一城。捍天下。以千百就盡之卒。戰百萬日滋之師。蔽遮江淮。沮遏其勢。天下之不亡。其誰之功也。當是時。棄城而圖存者。不可一二數。擅強兵坐而觀者相環也。不追議此。而責二公以死守。亦見其自比於逆亂。設淫辭而助之攻也。』第三小段辨二公死守。〇以上第二大段敍遠逸事。愈嘗從事於

汴徐二府。屢道於兩府。聞親祭於其所謂雙廟者。其老人往往說巡遠時事云。南霽雲之乞救於賀蘭也。賀蘭嫉巡遠之聲威功績出己上。不肯出師救。愛霽雲之勇且壯。不聽其語。強留之。具食與樂。延霽雲坐。霽雲慷慨語曰。雲來時。睢陽之人不食月餘日矣。雲雖欲獨食。義不忍。雖食且不下咽。因拔所佩刀斷一指。血淋漓。以示賀蘭。一座大驚。皆感激爲雲泣下。雲知賀蘭終無爲雲出師意。即馳去。將出城。抽矢射佛寺浮圖。矢著其上甎半箭。曰吾歸破賊。必滅賀蘭。此矢所以志也。愈貞元中。過泗州。船上人猶指以相語。第一小段敘南乞救之事。城陷賊以刃脅降巡。巡不屈。即牽去將斬之。又降霽雲。雲未應。巡呼雲曰。南八男兒死耳。不可爲不義屈。雲笑曰。欲將以有爲也。

從事ハ官名。
雙廟ハ睢陽ニ在リ、一ハ贈揚州大都督張巡ノ廟、一ハ贈荊州大都督許遠ノ廟ナリ。

淋漓ハ、流レ滴ル貌。
浮圖ハ寺塔、佛陀ノ轉語ナリト云フ。

甎ハ瓦ナリ。
志ハ誌スナリ、他日ノ忘失ニ備フルナリ。
貞元ハ德宗ノ年號。
南八トハ、南霽雲南家ノ排行ニテ第八ニ當ルヲ以テ云フ。

大歷ハ代宗ノ年號。

以巡初云云ノ十五字、或ハ錯誤アラントノ説アリ。

鬚髯ハひげナリ、其頤ニアルヲ鬚ト云ヒ、頬ニアルヲ髯ト云フ。

公有レ言。雲敢不レ死。卽不レ屈。』第二小段敍二南不レ屈於賊一。○以上第三大段敍二南逸事一。張籍曰。有レ于嵩者。少依二於巡一。及二巡起一レ事。嵩常在二圍中一。籍大歷中。於二和州烏江縣一見レ嵩。嵩時年六十餘矣。以二巡初一レ嘗得二臨渙縣尉一好レ學。無レ所レ不レ讀。籍時尙小。粗問二巡遠事一。不レ能レ細也」。第一小段敍二籍問一巡遠事於于嵩一云。巡長七尺餘。鬚髯若レ神。嘗見二嵩讀一レ漢書一。謂レ嵩曰。何爲久讀レ此。嵩曰。未レ熟也。巡曰。吾於レ書讀不レ過二三遍一。終身不レ忘也。因誦二嵩所一レ讀書一。盡レ卷不レ錯一字一。嵩驚以爲巡偶熟二此卷一。因亂抽二他帙一以試。無レ不二盡然一。嵩又取二架上諸書一。試以問レ巡。巡應レ口誦無レ疑。嵩從レ巡久。亦不レ見二巡常讀一レ書也。爲二文章一。操二紙筆一立書。未レ嘗起レ草。第一節敍二巡讀書作文一。初守二睢陽一時。士卒僅萬人。城中居人。戶亦且數萬。巡因一見問二姓名一。其後無レ不レ識レ者。第二節敍二巡記性一。巡怒鬚髯輒張。及

城陷。賊縛シテ巡等數十人ヲ坐シ。且將ニ戮セント。巡起旋ツテ。其衆見テ巡ノ起ツテ。或起チ或泣ク。巡曰。汝勿レ怖ルル死ヲ。命也ト。衆泣イテ不レ能ハ仰ギ視ル。巡就レ戮ニ時。顏色不レ亂レ。陽陽トシテ如シ平常ノ。第三節敍巡就死從容。遠寬厚長者。貌如シ其心ノ。與レ巡同年ニ生レ。月日後ル於巡ニ。呼テ巡ヲ爲レ兄ト。死スル時年四十九」。第四節帶敍遠性貌年齒。○第二小段敍嵩言。嵩貞元ノ初。死ス於亳宋ノ間ニ。或ヒト傳フ。嵩有レ田ツテ在リ亳宋ノ間ニ。武人奪ツテ而有レ之チ。嵩將ニ詣ツテ州ニ訟ル理セントル。爲レ所レ殺ス。嵩無シ子張籍云フ。第三小段幷敍嵩事。猶是籍言。○以上第四大段因張籍言。合敍巡遠二人逸事。

## 釋言

主意　言今宰相聰明公正。必不レ信レ讒。故不レ足ニ懼慎一。然其實懼レ讒而作。○讒第一字眼。懼慎第二字眼。傲第三字眼。

元和元年六月十日。愈自リ江陵ノ法曹ニ。詔シテ拜セラレ國子博士ニ。始テ進見ス

巡起旋ノ旋ハ振リ向クナリ、巡ガ座ヲ起チテ刑戮ノ場所ニ至ラントスルヤ、其部下之ヲ見テ悲哀愁傷ニ勝ヘザル樣ナリ、一說ニ旋ヲ旋洩ノ義トス。

陽陽ハ意ニ介セザル貌。

貌如其心トハ、容貌モ亦其心ノ如ク溫厚ナルコト。

或傳嵩——或ハ傳フル所ニヨレバ、嵩ハ田地ヲ所有シテ亳ト宋トノ間ニ住居セリ、後、世亂レ、其田地モ武人ニ奪ハレダレバ、嵩ハ州府ニ出デ、上ニ訴ヘテ公平ナル裁判ヲ仰ガントセシガ、遂ニ殺サレタリ、子無シト、此モ張籍ガ物語ナリ。

法曹ハ法刑ヲ司ル官。

公賜之——相國鄭公韓愈ニ座ヲ賜（對坐スルコト）ヒテ曰ク、吾麾ニ御身ノ作レル某詩ヲ見タリ、當時予翰林學士院ニアリ、職務親シク（手ノ放サレザル義）繁激ナルガ上ニ、身宮中（禁次）ニ供奉シテ、擅ニ進退スルコト難ク、依テ御身ト音ヲ通ズルコト能ハズシテ今日ニ至レリ。一通トハ書ノ首末全キヲ云フ。同遷於——予（愈）ト共ニ南方ニ左遷セラレタルモノ凡ソ三人アリ、而シテ他ノ二人ハ野ニ在レドモ、予獨リ官ニ採用セラレタルハ、是レ偏ニ宰相鄭公ノ恩惠ナリ。立語トハ立チナガラ物語ルナリ、辱賜坐語トハ、上ノ公賜之坐ヲ指ス。禮過矣トハ、宰相鄭公ガ韓愈ヲ遇スルコトノ破格ナルヲイフ。四海九——天下ノ人、諸役人ヨリ以下ノ者モ、己ノ得意ノ學業ヲ以テ宰相ニ面會ヲ願フ者甚ダ多シ、然レドモ

今相國鄭公。公賜之坐。且曰。吾見子某詩。吾時在翰林。職親而地禁。不敢相聞。今爲我寫子詩書。爲一通以來。愈再拜謝。退錄詩書若干篇。擇日時以獻』。以上第一大段敍讒原。於後之數月。有來謂愈者。曰子獻相國詩書乎。曰然。曰有爲讒於相國之座者曰。韓愈曰。相國徵余文。余不敢匿。相國豈知我哉。子其愼之」。第一小段敍或言。愈應之曰。愈爲御史。得罪德宗朝。同遷於南者凡三人。獨愈爲先收用。相國之賜大矣。百官之進見相國者。或立語以退。而愈辱賜坐語。相國之禮過矣。四海九州之人。自百官以下。欲以其業徹相國之左右者多矣。皆憚而莫之敢。獨愈辱先索。相國之知至矣。賜之大。禮之過。知之至。是三者於敵以下受之。宜以何報。況在天子之宰乎」。第二小段敍宰相知吾。人莫不自

其威勢ニ憚リ畏レテ敢テスルモノナシ。
先索ハ、最前ニ人ニ先チテ詩書ヲ求メタルコト。
相國之知、知之至ノ知ハ知己ノ義ナリ。
敵以下云云、敵ハ匹敵ノ義ニテ、同等ノ地位ニアル者ナイフ、同輩以下ノ者ヨリ斯ル禮遇チ受ケタル時ヲラ、猶ホ之ニ報ユルノ術チ知ラズ、況ヤ天子ノ宰相ヨリ此恩寵チ受クルニ於テヲヤ。
敖於言トハ傲謾不遜ノ言チ發スルコト、前ノ相國豈知我哉チ指ス、讒者ノ言タルコトチ辨明セルナリ。
無扳嶙ノ扳ハ攀ト同ジク援ナリ、引ナリ、能ク引立テクルル者ナキチ云フ。
相先相死ハ、禮記儒行篇ニ、有二爵位相先一、患難相生一トアリ。
腐於力トハ、何ノ力モナク用ニ堪ヘザルチ云フ。
乘機抵巇ハ、揚子法言重黎篇ニ巇可抵乎トアリ、注ニ、巇ハ釁隙ナリ、抵ハ擠ナリトアリ、

知。凡適於用之謂才。堪其事之謂力。愈於二者。雖日勉焉而不迨。束帶執笏。立士大夫之行。不見斥以不肖幸矣。其何敢敖於言乎。夫敖雖凶德。必有恃而敢行。愈之族親鮮少。無扳聯之勢。於今不善交人。無相先相死之友。於朝無宿資蓄貨以鈞聲勢。弱於才而腐於力。不能奔走乘機。抵巇以要權利。夫何恃而敖。若夫狂惑喪心之人。蹈河而入火。妄言而罵詈者則有之矣。而愈人知其無是疾也。雖有讒者百人。相國將不信之矣。愈何懼而愼歟。』第三小段言吾不傲、故不ヤ足ニ懼愼一。○以上第二大段就ニ鄭綱一釋ニ或說一。既累月。又有來謂愈曰。有讒子於翰林舍人李公與裴公者。子其愼歟。」第一小段敍ニ或言一。

愈曰。二公者吾君朝夕訪焉。以爲政於天下。而階太平之治。居則與天子爲心膂。出則與天子爲股肱。四海九州

機會ヲ利用スルコトナリ。

何懼而愼歟ハ上ノ子其愼之ニ對シテイフ。

心胥ノ胥ハ脊骨ナリ、書經ノ君牙篇ニ作ニ股肱心胥一トアリ。

病風ノ風ハ風癲ニシテ狂氣ナリ。

咄ハ叱咄ノ聲ト云ヒテ、あきれまし〳〵しトモ聲ヲ發シテ歎クナリ。

市有虎云云ハ戰國策魏策ニアル故事ニシテ、曾參云云ハ秦策ニアル故事ナリ、共ニ讒言ハ初ノ程ハ信ゼラレザレド、屢〻ナレバ遂ニ信ゼラルト云フ實例ナリ、龐葱、太子ト邯鄲ニ質タリ、魏王ニ謂ツテ曰ク、今一人市ニ虎アリト云ハバ王之ヲ信ズルカト、王曰ク否、曰ク若シ二人市ニ虎アリト云ハバ王之ヲ信ズルカト、王曰ク之ヲ疑フト、曰ク三人市ニ虎アリト云ハバ如何ト、王曰ク之ヲ信ズト、又人アリ曾參ノ母ニ告ゲテ曰ク、曾參人ヲ殺スト、母信ゼス、告グル者三人ニ及ビテ、母杼ヲ投ジテ奔ル。

之人。自百官以下。其孰不願忠而望賜。愈也不狂不愚。不蹈河而入火。病風而妄罵。不當有如讒者之說也。雖有讒者百人。二公將不信之矣。愈何懼而愼。』第二小段言二公不信讒一不レ足レ懼愼一。○以上第三大段就李裴二公一釋或說一。

既以語應客。夜歸。私自尤曰。咄。市有虎。而曾參殺人。讒者之效也。詩曰。取彼讒人。投畀豺虎。豺虎不食。投畀有北。有北不受。投畀有昊。傷於讒。疾而甚之之辭也。又曰。亂之初生。僭始既涵。亂之又生。君子信讒。始疑而終信之之謂也。孔子曰。遠佞人。夫佞人不能遠。則有時而信之矣。今我恃直而不戒。禍其至哉。第一小段自徐又自解之曰。市有虎。聽者庸也。曾參殺人。以愛惑聰也。巷伯之傷。亂世是逢也。今三賢。方與天子謀所以施政於天下。而階太平之治。聽聰而視明。公正而敦大。

疑二讒或行一。

詩曰云云、小雅巷伯篇ニ見ユ、有北ハ極北ノ地、有昊ハ夏ノ天ナリ、畀ハ與フルコト。又曰亂云云、小雅巧言篇ニ見ユ。孔子曰云云、論語ノ衞靈公篇ニ見ユ。巷伯之傷云云、詩ノ序ニ巷伯刺ニ幽王一也、寺人傷ニ於讒一故作ニ是詩一也トアリ。予前被――先生前ニハ一相鄭公ニ讒言セシモノアリキ、今李公宰相トナレリ、又李公ニ先生チ讒言スルモノアラン、然ラバ殆ンド免ルル所ナケン、實ニ今ノ先生ノ境遇ハ危險ナリ。吾乃今云云、予此ニ於テ知ル、幸ニ讒言ノ禍チ免レ得ベキコトチトナリ、蓋シ二公會同セバ、愈ノ宰相翰林ニ敎スル謂ハレ無キコト益〻明白トナル可ケレバナリ。

夫レ聰明ナレバ則チ聽視不レ惑ハ。公正ナレバ則チ不レ邇ニ讒邪一。敦大ナレバ則チ有リ以テ容レテ而思フコト。彼ノ讒スル人ヲ者。孰カ敢テ進ンデ而爲レ讒ヲ哉。雖レ進ンデ而爲スト之ヲ。亦莫カラン之ヲ聽クコト矣。我何ヲ懼レナ而愼マン。』第二小段言ニ三公之賢不レ足ニ懼愼一。○以上第四大段自說自釋。變化妙。裏面主意。卻在ニ此段一。既ニシテ累月。上命ジテ李公ニ相タラシム。客謂ツテ愈ニ曰。子前ニ被レ言ハ於一相ニ。今李公又相タリ。子其レ危イカナ哉」。第一小段敍ニ或言一。愈曰。前之謗ニ我ヲ於宰相ニ者ハ。翰林不レ知ラ也。後之謗ニ我ヲ於翰林ニ者ハ。宰相不レ知ラ也。今二公合シテ處而會ス。言若シ及ババ愈ニ必ズ曰ハン。韓愈モ亦人耳。彼敎シ宰相ニ。又敎ス翰林ニ。其レ將タ何カ求メン。必ズト不レ然ラ。吾乃チ今知レリ免ルルコトヲ矣」。表面主意。歸ニ宿于此一句一。○第二小段言ニ二公不レ信レ讒。既ニシテ而讒言果シテ不レ行ハレ。』第三小段言ニ釋言果中一。○以上第五大段就ニ李公一釋ニ或說一。○此篇。鄭綱是主。李裴是陪。故此段再點ニ鄭相一。

唐宋八家文讀本卷二一終

# 唐宋八家文讀本卷三

## 上宰相書

主意　言長育人才。

正月二十七日。前鄉貢進士韓愈。謹伏光範門下。再拜獻書。相公閣下。第一小段　獻書例言。詩之序曰。菁菁者莪。樂育材也。君子能長育人材。則天下喜樂之矣。二句提　主意。其詩曰。菁菁者莪。在彼中阿。既見君子。樂且有儀。說者曰。菁菁者盛也。莪微草也。阿大陵也。言君子之長育人材。若大陵之長育微草。能使之菁菁然盛也。既見君子。樂且有儀云者。天下美之之辭也。其三章曰。既見君子。錫我百朋。說者曰。百朋多之之辭也。言君子

韓文公三タビ宰相ニ書ヲ上ル、此ハ最初ニ上リシ文ニシテ、第二書ハ二月十六日、第三書ハ三月十六日ニ上ル。

正月二十七日ハ貞元十一年ニシテ、韓愈時ニ年二十八ナリ。

前鄉貢進士、前ハ蔣注ニ、國史補ヲ引キテ、進士第ヲ得ル、之ヲ前進士トイフトアリ、已ニ登第シタル進士ノ自稱ナリ、鄉貢トハ州縣ヨリ推擧セラレテ試科ニ應ズル者、進士ハ周ノ造士ニシテ隋大業年中ニ始メテ此稱ヲ設ク。

光範門ハ長樂門ノ正門ナリ。

相公閣下ハ當時ノ宰相趙景、賈耽、盧邁等ヲイフ。

菁菁者莪ハ詩ノ小雅ノ篇名、莪ハ蒿(よもぎ)ノ類ナリ。

說者ハ詩ノ毛傳ヲサシ

テ云フ。
其第三章曰云云、詩小雅第三章ニ、菁菁者莪、在ニ彼中陵ニ、既見ニ君子ニ、錫我百朋ニ、注ニ五貝爲レ朋トアリ、五貝ハ漢書ノ貨志ニ、貝五種アリ、大貝、壯貝、幺貝、小貝、不成貝トイフ、古昔貝ヲ以テ通貨トス、後世ノ錢ノ如シ。
其卒章——菁菁者莪篇ノ末章ニ云フ、楊ノ木ニテ作レル舟ハ水上ニタダヨヒ(汎汎)、重(沉)キヲ載セ輕(浮)キヲ載セテ泛ベリ、君子ニ値フコトヲ得テ我心安シト、此詩ヲ解釋スレバ載ハ舟ニ載スルコト、沉浮ハ其載スル物品ナリ、意義ハ君子ノ人材ヲ登用スルコト、才能ノ長短ヲ問ハズシテ皆之ヲ取ル、猶舟ノ物ヲ載スルニ其輕重ヲ問ハザルガ如キヲイフノミ、既ニ君子ヲ見レバ我心則チ休ストイフハ、斯ノ如クニシテ天下擧ツテ之ヲ稱美スルノ意ナリ。
孟子曰云云、孟子盡心上篇ニ見ユ、云ク、孟子曰、君子有ニ三樂一、而

既長育人材。又當爵命之。賜之厚祿。以寵貴之云爾。其卒章曰。汎汎楊舟載沉載浮。沉謂重。浮謂輕。既見君子。我心則休。說者曰。載載也。沉浮者物也。言君子之於人材。無所不取。若舟之於物。浮沉皆載之云爾。既見君子。我心則休云者。言若此則天下之心美之也。君子之於人也。既長育之。又當爵命寵貴之。而於其才無所遺焉。」第二小段引詩。孟子曰。君子有三樂。王天下不與存焉。其一曰。樂得天下之英才而教育之。此皆聖人賢士之所極言至論。古今之所宜法者也。」第三小段引孟子。然則孰能長育天下之人材。將非吾君與吾相乎。孰能教育天下之英才。將非吾君與吾相乎。幸今天下無事。小大之官。各守其職。錢穀甲兵之問。不至於廟堂。論道經邦之暇。捨此宜無大者焉。』四第

王二天下一不二與存一焉、父母俱存、兄弟無レ故、一樂也、仰不レ愧二於天一、俯不レ怍二於人一、二樂也、得二天下英才一而教二育之一、三樂也。

錢穀甲——世平ニシテ國富ミ、錢穀ヲ賦スルノ必要ナク、甲兵ヲ出スノ苦勞モナシ。

論道經——天下太平無事ナレバ道義ヲ論ジ、邦家ヲ經營スル暇ニハ、天下ノ英才ヲ得デ之ヲ教育スルコトヲ措イテ他ニアルナシ。

今有人ハ退之自ライフ、退之大曆三年戊申ヲ以テ生ル。

版ハ戸籍簿ナリ。

雞鳴而云云、孟子盡心上篇ニ見ユ、云ク雞鳴而起、孳孳爲善者、舜之徒也、雞鳴而起、孳孳爲レ利者、跖之徒也ト、孳孳ハ孜孜ト同ジ、勉強ナリ。

居窮守約トハ、窮厄ノ地ニ立チテモ毫モ節操ヲ亂スコトナク、儉約ノ義ヲ守ルコト。

怨懟ノ懟ハ怨ナリ。

譴張ノ譴ハ誑、張ハ誕ナリ、卽チ人ヲ欺キ、口ヨリ出マカセヲ云フコ

小段結詩孟子言君相宜二教育人才一。○以上

第一大段引詩孟子言君相宜二教育人才一。

今有レ人。生二十八年矣。名不レ著二於農工商賈之版一。其業則讀レ書著レ文。歌頌堯舜之道一。雞鳴而起。孜孜焉亦不レ爲レ利。其所レ讀皆聖人之書。楊墨釋老之學。無レ所レ入二於其心一。其所レ著。皆約二六經之旨一而成レ文。抑レ邪與レ正。辨レ時俗之所レ惑。居レ窮守レ約。亦時有二感激怨懟奇怪之辭一。以求レ知二於天下一。亦不レ悖二於教化一。妖淫詖佞譎張之說。無レ所レ出二於其中一。四舉於禮部一。乃一得。三選於吏部一。卒無レ成。九品之位。其可レ望。一畝之宮。其可レ懷。遑遑乎四海無レ所レ歸。恤恤乎饑不レ得レ食。寒不レ得レ衣。濱二於死一而益固。得二其所一者爭笑之。忽將二棄其舊一而新是レ圖。求二老農老圃一而爲レ師。悼二中志之變化一。中夜涕泗交レ頤。雖不レ足レ當二詩人孟子之謂一。抑長二育之一使レ成レ材。其亦可矣。教二育之一使

ト。
四擧於――四タビ禮部ニ奉職シタレド皆失敗ニ終リ、只一タビ幸ニ職ヲ盡スヲ得タルノミ。
一畝之宮云云、禮記儒行ノ語、注ニ、宮ハ牆垣ナリトアリ。
遑遑ハ皇皇ト同ジ、四方ヲサマヨフ貌。
恤恤乎ハ憂患ノ貌。
濱於死ノ濱ハ瀕ニ同ジ、死ニカカルナイフ。
悼中志之變化トハ、本ノ目的即チ素志ヲ更フルヲ悲ムナリ。
材ハ材器ニシテ、オハ才能ト見ルベシ。
古之君子相其君云云、君子ハ伊尹ナイフ、孟子萬章上篇ニ見ユ。
抑又聞――又愈聞ケルコトアリ、昔伊尹ノ湯ニ相タルヤ、一人ノ逆境ニ立テル者アルヲ見テモ、己ガ手ヅカラ之ヲ溝中ニ擠シタルガ如ク痛心シタリトイフ。仁人ハ今退之ノ書ヲ上レル宰相ヲ指シテイフ、往告ハ上書ノコト、果於自棄ハ斷念ノ早キコト、命ハ天命ナリ。

成レ才。其亦可矣。』以上第二大段暗言二己之宜一。抑又聞。古之君子相二其君一也。一夫不レ獲二其所一。若二己推而內一之溝中一。今有レ人。生七年。而學二聖人之道一。以修二其身一。積二二十年一。不レ得レ已。一朝而毀レ之。是亦不レ獲二其所一矣。」就レ上言。第一小段伏念。今有二仁人在一レ上位一。若不レ往告レ之。而遂行。是果於自棄。而不レ以二古之君子之道一待二吾相一也。其可乎。寧往告焉。若不レ得レ志。則命也。其亦行矣。」第二小段就レ下言。洪範曰。凡厥庶民。有レ猷有レ爲有レ守。汝則念レ之。不レ協二於極一。不レ罹二於咎一。皇則受レ之。而康而色。曰二予攸レ好德一。汝則錫二之福一。是皆與レ善之辭也。」第三小段就レ上言。抑又聞。古之人有二自進者一。而君子不レ逆レ之矣。曰二予攸レ好德一。汝則錫二之福一之謂也。」第四小段就レ下言。抑又聞。上之設レ官制レ祿。必求二其人一而授レ之者。非二苟慕一其才一而富貴其身一也。蓋將用二其能一

洪範曰——周書ノ洪範ノ篇ニ云フ、人民ノ中ニテ謀慮(猷)アルモノ、施設(爲)スル所アル者、又守操アル者ハ、汝之ヲ顧念シテ忘ルルコト勿レ、善(極)ニ合(協)ハズ、悪(皆)ニ陥(罹)ラザル者、卽チ中人ニシテ、一進一退ニヨリテ善人トモナリ悪人トモナル者ハ、皇則モテ之ヲ受入レ、拒ム所アル可カラズ、汝汝ノ容色ヲ柔ラゲテ、予ガ好ム所ハ德ナリト曰ハバ、彼其善ヲ成シ其才ヲ就スベシ、汝則チ之ニ福祿ヲ與ヘヨト、コレ皆善ニシテ人ノ善ヲ成スノ辭ナリ。

沒於利云云、晉語ニ重ル沒ニ於利ト注ニ、沒ハ耳貪ナリトアリ。

將推己——自分ノ餘リアル才能ヲ振ツテ、社會ノ弊害缺點ヲ補ハントス。

一其致——名ハ異ナレド其實全ク同一ナリ。

可擧而——擧用ス可クシテ擧用センニハ、自ラ擧用シタリトテ何ノ責(讓)カアラン、進仕ス可クシテ進仕センニ

理不能用其明理。不明者耳。下之修己立誠。必求其位而居之者。非苟沒於利而榮於名也。蓋將推己之所餘。以濟其不足者耳。然則上之於求人。下之於求位。交相求而一其致焉耳。苟以是而爲心。則上之道不必難其下。下之道不必難其上。言上不難求下之道。下不難求上之道。可擧而擧焉。不必讓其自擧也。可進而進焉。抑又聞。上之化下。得其道。則勸賞不必偏加乎天下。而天下從焉。因人之所欲爲。而遂推之之謂也。今天下。不由吏部而仕進者幾希矣。主上感傷山林之士。有逸遺者。屢詔內外之臣。旁求於四海。而其至者蓋闕焉。豈其無人乎哉。亦見國家不以非常之道禮之。而不來耳。彼之處隱就閒者亦人耳。其耳目鼻

ハ、自ラ進仕シタリトテ廉チ必トスルノ要ナキナリ。
吏部ハ、官名、漢初ノ常侍曹、後漢ノ選部ナリ、魏ニ始テ吏部ト云フ。
麋ハ說文ニ鹿ノ屬、冬至ニ其角ヲ解ク、釋名ニ澤獸ナリ、一ニ水牛ニ似タリト見ユ、猨ハ玉篇ニ獼猴ニ似テ大ニ、能ク嘯クトアリ、狖ハ玉篇ニ黑猿ナリ、廣韻ニ猿ニ似タリト見ユ。
固自以——疏衣麤食、麋鹿猨狖ト雜處シテ困窮セルハ、畢竟其身時俗ニ從順スル能ハズ、人ト俯仰チ與ニスル能ハザルチ以テ、終身進仕チ斷念シテ後悔セザルニ出ヅルノミ。
聲勢ハ文章ノ聲律氣勢。
昧昧ハ暗キ貌、楚辭懷沙ニ云フ、昧昧トシテ其レ將ニ暮レントスト。
枯槁ハ形容ノ衰弱セルモノ、沉溺ハ沉ミテ返ラザル者、卽チ厭世悲觀シテ再ビ世ニ出デザルモノチ云フ。

口之所レ欲。其心之所レ樂。其體之所レ安。豈有レ異二於人一乎哉。今所下以惡二衣食一。窮二體膚一。麋鹿之與レ處。猨狖之與レ居。固自以二其身一不レ能レ與二時從順俯仰一。故甘心自絕而不レ悔焉。而方聞。國家之仕進者。必擧於州縣。然後升於禮部吏部。試之以二繡繪雕琢之文一。考之以二聲勢之逆順一。章句之短長。中二其程式一者。然後得レ從二下士之列一。雖レ有二化俗之方一。安邊之策一。不レ由レ是而稍進。萬不レ有一得焉。彼惟恐二入レ山之不深一。入レ林之不密一。其影響昧昧。惟恐聞二於人一也」。第一小段言上不レ得レ道則人才退。
今若聞有以書進二宰相一而求レ仕者。而宰相不レ辱焉。而薦之天子。而爵命之。而布其書於四方。枯槁沉溺。魁閎通達之士。必且洋洋焉動其心。戔戔焉纓其冠。于于焉而來矣。此所謂勸賞不二必偏加一乎天下一。而天下從焉者

魁閎ノ魁ハ大ナリ、閎ハ寛ナリ、卽チ心胸寛大ノ人。

小子不——若シ此ノ如クナラバ、是レ決シテ私一人ノ幸福ノミニアラズ、士君子一同ノ幸福ナリ、又天下ノ慶事ナルベシ。

此書ハ貞元九年、文公博學宏詞ニ應ズル時ノ作ナリ、全篇怪物(龍)ノ衆ニ異ナル所ヲ述ベ、以テ暗ニ自ラ比ス、龍ニシテ水ヲ得バ、能ク風雨ヲ變化シ天ニ昇降スルノ力アリ、然レドモ其窮涸シテ自ラ水

也。因人之所欲爲。而遂推之之謂者也。』第二小段言上得道則人才進。勸賞不得道也。○以上第四大段言上勸賞得道則下爭從。蓋諷

伏惟覽詩書孟子之所指。念育才錫福之所以。考古之君子相其君之道。而忘自進自擧之罪。思設官制祿之故。以誘致山林逸遺之士。庶天下之行道者。知所歸焉。小子不敢自幸。』第一小段結局。○伏惟二句收一二大段及三大段中書。考古三句收二三大段。以誘致二句收四大段。長育人材之術在此二句。二句是全篇歸宿處。

其嘗所著文。輒采其可者若干首。錄在異卷。冀辱賜觀焉。干瀆尊嚴。伏地待罪。愈再拜。』第二小段附言。○以上第五大段總收。

應科目時與人書

主意　昌黎試呈書乞韋舍人哀。猶龍試仰首一鳴號。然哀不哀在天命。非吾所知。唔委命于舍人。

月日愈再拜。天池之濱。大江之濱。曰有怪物焉。天地大江喩己近制舉怪物龍也。

ニ其身ヲ致ス能ハザルニ至リテハ、賓獺ナホ之ヲ嘲笑ス、今水ヲ距ル僅ニ尺寸ノ間ニ在リ、行人其窮ヲ憫ンデ、一擧手一投足ノ勞ヲ忘レ、之ヲ清波ニ移轉スルアラバ、コゝニ龍ハ其特色ヲ發揮シテ、天地ニ雄飛セン、然ルニ此怪物、其靈物ナルヲ恃ミテ、肯テ行人ニ諂諛哀願セザルガ故ニ、行人願ミズシテ過グ、今有力ノ者前ニ在リ、聊カ試ニ一タビ首ヲ上ゲテ鳴號ストナリ。天池ハ海ナリ、濱、濆ハ、共ニ水厓ナリ。尋ハ八尺、丈ハ十尺、尺ハ一尺、寸ハ一寸、距離ノ甚ダ近キヲイフ。獺ハ共ニかはをそナリ、サレド賓ハ獺ヨリ小サキモノヲ云フ。爛死ハ燒ケタダレテ死スルナリ、水ヲ得ザルニ由リテナリ。俛首帖耳ノ俛ハ俯スナリ、帖ハ垂ルルノ義、共ニ媚ヲ呈スル狀。命ハ天命。

蓋非常鱗凡介之品彙匹儔也。其得水而變化風雨。喩功業。上下於天不難也」。第一小段喩己才能不凡。○一揚。其不及水。蓋尋常尺寸之閒耳。無高山大陵曠途絶險。爲之關隔也。然其窮涸不能自致乎水。爲獷獺之笑者。蓋十八九矣」。第二小段喩近制擧。而或落第。○一抑。如有力者喩主試指韋舍人。哀其窮而運轉之。蓋一擧手一投足之勞也」。第三小段喩主業者。暗者哀之。○二揚。然是物也。負其異於衆也。且曰。爛死於沙泥。吾寧樂之。若俛首帖耳。搖尾而乞憐者。非我之志也。是以有力者遇之。熟視之若無覩也。其死其生。固不可知也」。第四小段喩負才能不爲主者所哀。○二抑。今又有有力者當其前矣。聊試仰首一鳴號焉。庸詎知有力者不哀其窮而忘一擧手一投足之勞。而轉之清波乎」。第五小段喩試呈書。乞韋舍人哀。○三揚。其哀之命也。其不哀之命也。知其在命。而且鳴號之者

有是說トハ、意見ヲ述ベタリトイフコト。

此書ハ兵部侍郎李巽ニ上リテ仕路ヲ干ムル書ナリ、李巽性刻薄、終ニ顧ミズ。

十二月九日ハ永貞元年。

愈少鄙——予少キ時ヨリ鄙賤魯鈍、時事ニ習ハズ、世俗ニ合ハズ、貧ニシテ生計ニ困ミ、仕官ヲ求ムルコト既ニ二十年ニ及ベリ、然レドモ不幸ニシテ屢讒謗ニ遭ヒ、寸善尺魔、終ニ成ル所ナシ、一度ハ御史ト爲リシガ、即チ陽山ニ貶セラレ、僅ニ江陵ノ掾ニ遷レリ。無所告語トハ苦痛ヲ訴

亦命也』第六小段總結。〇一段多少譬喩。委之一命字。無限感慨。四個命字。一篇眼目。六個哀憐字次之。謂之第二字眼。〇以上第一大段譬喩。〇凡六小段。每段長短不同。句法錯落。姿致不可言。自家私事。難著筆。故譬喩言之。文公慣手段。愈今者實有類於是。此一句。始爲實說。以上第二大段實說。是以忘其疎愚之罪。而有是說焉。閣下其亦憐察之』。

## 上兵部李侍郎書

主意　言遇知己進文求采用。

十二月九日。將仕郎守江陵府法曹參軍韓愈。謹上書侍郎閣下。第一小段上書例言。愈少鄙鈍。於時事都不通曉。家貧不足以自活。應舉覓官。凡二十年矣。薄命不幸。動遭讒謗。進寸退尺。卒無所成。第二小段言不通時事。性本好文學。因困厄悲愁。無所告語。遂得究窮於經傳史記百家之說。沈潛乎訓義。反復乎句讀。礱磨

フルニ所ナキナリ、卽チ縋リテ憐チ請フノ手便ナキナイフ。

磨磨ハ學業ヲ練磨修養スルコト、磨ハ粗礪（もみうすノナリ。

河海、山嶽、日月、鬼神、珠璣華實、雷霆風雨ハ皆文章ヲ形容スルノ辭ナリ、廣大、昭明、靈妙、纖美、雄壯ノ義、纖ハ說文ニ細ナリトアリ、璣ハ玉ノ圓ナラザルモノナイフ。

髮禿齒——髮ノ毛ハヌケ、齒ハ落チ、老衰ノ身トナリタレドモ、尙ホ一人ノ知己ヲ得ズ。

牛角之歌ハ、琴操ニ寧戚飯ニ牛車下ニ叩ニ牛角一而歌曰、南山矸、白石爛、生不レ逢二堯與一レ舜禪二短布單衣纔至一レ骭、長夜漫漫何時旦、齊桓公聞レ之、擧以爲レ相トアルモノナリ。

堂下之言ハ、左傳昭二十八年一、叔向適レ鄭、饋蹙醜惡、欲レ觀二叔向一、叔向使レ器者一而往、從二使之收一器者一、而往立二于堂下一、一言而善、叔向將レ飮レ酒、聞レ之曰、必饋明也、下執二其手一以上、曰子若無レ言、吾幾失レ之矣トアルモ

乎事業。而奮發乎文章。第三小段言レ凡自二唐虞一已來。編簡所レ存。大之爲二河海一。高之爲二山嶽一。明之爲二日月一。幽之爲二鬼神一。纖之爲二珠璣華實一。變之爲二雷霆風雨一。奇辭奥旨。靡レ不レ通達一。第四小段言二專力精到一。惟是鄙鈍。不通二曉於時事一。學成而道益窮。年老而智益困。私自憐悼。悔二其初心一。髮禿齒豁。不レ見二知己一。』第五小段言レ不レ遇二知己一。○以上一大段述レ己不レ通二時事一。故專用二力文章一。而久不レ遇二知己一。

夫牛角之歌。辭鄙而義拙。堂下之言。不レ書二於傳記一。齊桓擧以相レ國。叔向攜レ手以上。然則非レ言之難。爲レ聽而識レ之者難レ遇也。』以上第二大段引二古典一。承二前起一後。伏以。閣下內仁而外義。行高而德鉅。尙レ賢而擧レ能。哀レ窮而悼レ屈。自二江而西一。既化而行矣。今者入守二內職一。爲二朝廷一。大臣。當二天子新卽一レ位。汲汲於理化之日。出言擧レ事。宜レ必施設。既有二聽レ之之明一。又有二振レ之之力一。審戚之歌。曖明

ノナリ。
鉅ハ大ナリ。
天子新卽位ハ、是歲八月庚子、憲宗位ニ卽ケルナイフ。
理化ハ國ヲ治メ民ヲ化スルナリ、說文注ニ玉ヲ治ムルモ、民ヲ治ムルモ、皆理トイフトアリ。
南行詩ハ愈陽山令ニ遷ル時作ル所。
瓌怪ノ瓌ハ瑰ト同ジ、珍奇ナリ。
干黷、干ハをかす、黷ハけがすナリ。
少室ハ山ノ名、嵩山ニ大室少室ノ二山アリ、山ニ石室アルヲ以テ名ヅク。
李拾遺、李名ハ渤、字ハ潛之、少室山ニ隱レテ出デズ、元和ノ初右拾遺ヲ以テ徵サル、辭シテ行カズ、退之コレニ此書ヲ與ヘテ仕官ヲ勸ム、渤其言ヲ容レテ始テ出デ仕フ。
敦諭ハ、反覆丁寧ニ諭スヲ云フ、敦ハ厚ナリ。
景星ハ德星、鳳皇ハ靈鳥、天下道アレバ見ハ

之言。不發於左右。則後而失其時矣」。第一小段言遇知己。○則後而失其時矣。反應二十年。謹獻舊文一卷。收前文一章一段。扶樹教道。有所明白。南行詩一卷。舒憂娛悲。雜以瓌怪之言。時俗之好。所以諷於口而聽於耳也。如賜覽觀。亦有可采。干黷尊嚴。伏增惶恐。愈再拜。第二小段求文章采納。○以上第三大段喜遇知己而進文章。以求其采用。

## 與少室李拾遺書

主意　惜遇時而不仕。勸其出如孔子。○孔子第一眼目。時字第二眼目。

十二月某日。愈頓首。伏承。天恩詔河南。敦諭拾遺公」。言天恩敦諭。第一小段朝廷之士。引頸東望。若景星鳳皇之始見也。爭先覩之爲快』。第二小段朝士望覩之。○以上第一大段述上下望其出。方今天子仁聖。小大之事。皆出宰相。

レ、道ナケレバ隘ルトイフ。天子仁聖云云、憲宗ヲ指ス。

熟衍ノ衍ハ溢ナリ、豐ナリ。符貺委至ノ符貺ハ甘露醴泉等ノ瑞祥ヲ云フ。委至ノ委ハ積ミ重ヌルナリ、委伏ノ委ハ隨フナリ。干紀之姦ハ紀綱ヲ干犯スル姦佞ノ徒。拘纍ノ纍ハ縲ナリ、捕縛セラルルナリ。強梁ハ跋扈ト同ジ、あばるるナリ。銷鑠縮栗ノ鑠モ亦銷ナリ、栗ハ慄ト同ジク竦縮ナリ。牢關云云ノ牢ハ堅キコト、距ハ拒ニ同ジ。惠然肯來ハ詩經ノ邶風終風篇ノ辭、惠ハ順ナリ。

樂善言。如不久聞。自卽大位以來。於今四年。凡所施者。無不得宜。勤儉之聲。寬大之政。幽閨婦女。草野小人。皆飽聞而厭道之」。第一小段言天子仁聖。愈不通於古。（讒語。伏孔子。）請問先生。世非太平之運與。加又有非人力而至者。年穀熟衍。符貺委至。若干紀之姦。不戰而拘纍。強梁之兇。銷鑠縮栗。迎風而委伏。其有一事未就正。自視若不成人。四海之所環。無一夫甲而兵者。若此時也。拾遺公不疾起。與天下之士君子。樂成而享之。斯無時矣。」第二小段言時運太平。〇以上第二大段言時之可出。昔者孔子知不可爲而爲之。不已。足跡接於諸侯之國。卽可爲之時。自藏深山。牢關而固距。卽與仁義者異守矣」。第一小段言孔子爲於不可爲之時。想拾遺公冠帶就車。惠然肯來。舒所蓄積。以補綴盛德之有闕遺。利加於時。名垂於將來。踴躍

悚企ノ企ハ踵ヲ擧グルコト。

河南必繼至トハ、尹必ズ自ラ來ランノ義。徵君、正字通ニ朝廷辟召、或去或就、皆曰二徵君聘君一トアリ。

倘ハ儻ト同ジク、或ハ然ラントイフ辭ナリ。衆善人云云、斯人ハ拾遺公ヲ指ス、朱子ハ、此句疑ラクハ脫誤アラントロヘリ、斯人出デテ施爲スル所アラズンバ、衆人其利ニ與ルコトヲ得ザルナリ。

韓文公比部郎中史館修撰ニ拜セラレシトキ、元侍御(名ハ稹、字ハ微之、侍御ハ官名)書ヲ以テ甄濟父子ノ事ヲ言ヒ、公ノ之ヲ史ニ筆セ

悚企。頃刻以冀。」第二小段。冀二拾遺公出一。又竊聞。朝廷之議。必起二拾遺公一。使者往若不レ許。卽河南必繼以行。拾遺徵君若不レ至。必加二高秩一。如レ是則辭少就レ多。傷二於廉一而害二於義一。拾遺公必不レ爲也。」第三小段。言二公不一レ傷レ廉害レ義。善人斯進二其類一。皆有レ望二於拾遺公一。拾遺公倘不レ爲二起一レ使。衆善人不レ與二斯人一施也。」第四小段。言二公不一レ出。失二衆善人望一。○衆善人。應二天下之士君子一。由二拾遺公一。而使天子不レ盡レ得二良臣一。君子不レ盡レ得二顯位一。人庶不レ盡レ被二惠利一。其害不レ爲レ細。必望審察而遠思之。務使合二於孔子之道一。幸甚。愈再拜。』第五小段。總收。○不盡二句。結二第三四小段一。人庶一句。結二第二小段一。孔子之道。結二第一小段一。○以上第三大段。專就二拾遺公一。勸レ如二孔子一。

## 答二元侍御一書

主意　言二濟逢稹三人一。皆可レ書二於史一。○書字眼目。

ンコトヲ乞フ、是ニ於テ公此書ヲ以テ答フ、此書蓋シ元和九年史館ニアル時ノ作ナリ。

安祿山ハ營州柳城ノ雜胡、本姓康、幼字阿犖山、母阿史德安延偃ニ嫁ス、依テ安氏ヲ冒ス、玄宗ノ天寶十四年叛シ、東京ヲ陷レテ大燕皇帝ト僭號ス、是ヨリ先、甄逢ノ父濟、祿山ノ必ズ叛クベキヲ知リ、詐ツテ喑(おし)トナリテ逃避ス、祿山大燕皇帝ノ名號ヲ僭シテヨリ、濟ニ逼リテ臣トセントス、濟死ヲ以テ固執シテ應セズ、卒ニ祿山父子ニ汚サルルコトヲ免レタリ。

祿山父子ハ安祿山ト其子安慶緒トナリ。

勤已取足トハ勤儉主義ヲ取ルコト。

斥其餘云云、資用ノ剩餘ヲ除ケテ用ヒザルナリ。

幸於方云云、方州ハ一方ノ州ナリ、元和中袁滋表シテ曰ク、濟ノ節行樞皐ト同ジ、宜シク國史ニ載スベシト、即チ逢、袁滋ノ表ニ由テ幸福ヲ得、文學ノ掾ト

微之足下。前歲辱書。論甄逢父濟。識安祿山必反。卽詐爲喑。棄去。祿山反。有名號。又逼致之。濟死執不起。卒不汙祿山父子事。」第一小段敍濟。又論逢知讀書。刻身立行。勤已取足。安窮。末段伏案。不干州縣。斥其餘以救人之急。足下由是與之交。欲令逢父子名迹存諸史氏。」第二小段敍逢。足下以抗直喜立事。斥不得立朝。失所不自悔。喜事益堅。微之乎。子眞安而樂之者。』第三小段敍稿。○以上第一大段案。謹詳足下所論載。校之史法。若濟者固當得附書。今逢又能行身。幸於方州大臣。以標白其先人事。載之天下耳目。徹之天子。追爵其父第四品。赫然驚人。逢與其父俱當得書矣」。第一小段言濟逢父子二人可書。濟逢父子自吾人發。吾人猶吾子。春秋美君子樂道人之善。夫苟能樂道人之善。則天下皆去惡爲善。善人得其所。

ナレリ。牽連得書、人ノ善ヲ道フヲ樂ムヲ美トセル春秋ノ筆法ヨリ言ハバ、足下モ濟逢ト併セテ史ニ書ス可キ人物ナリトノ義。

終始其——其窮迫ヲ忍ビシメ、刻身苦行其名ヲ落サズ、永ク世ニ傳ヘシムベシ。彊ハ强ニ通ズ、强ハ禮ノ曲禮ニ、四十ヲ强ト曰フトアリ、四十歲ナリ。

孟簡字ハ幾道、德州平昌ノ人、最モ佛ヲ嗜ミ、內典ニ通ズ、嘗テ梵語ヲ譯次セリ、元和十四年文公ノ潮州ニ貶セラルルヤ、僧大顚ト游ブ、世文公ヲ以テ佛氏ヲ信奉セリトナス、是ニ於テ簡、書ヲ贈リテ之ヲ言フ、文公乃チ此書ヲ以テ答フ。

愈白行——韓愈敬白、飛脚南ヨリ廻ツテ我ガ吉州ヲ過ギ、足下ノ寄セラレタル二十四日附ノ手簡ヲ拜受セリ、繰返シテ讀ムコト數回、喜憂交ゝ至リヌ、知ラズ(未審)足下、秋ニ入リ。

其功實大。足下與濟父子。俱宜牽連得書」。第二小段　言稿可書。足下勉逢。令終始其窮。而足下年尚彊。嗣德有繼。

嗣德嗣前德也。有繼猶言不斷。將大書特書屢書。不一書而已也。愈既承命。又執筆以俟。』第三小段　勉稿將來可書。○二小段出意表。況至三小段。更出意表。妙甚。○以上第二大段斷。○段中當宜將三字用虛字有分寸。

## 與孟尚書書

主意　第一大段卽一篇主意。

愈白。行官自南廻過吉州。得吾兄二十四日手書。數番。忻悚兼至。未審入秋來。眠食何似。伏惟萬福」。第一小段常語。來示云。有人傳愈近少信奉釋氏。此傳之者妄也。大綱。潮州時。伏末段歸宿處。有一老僧。號大顚。頗聰明。識道理。遠地無可與語者。故自山召至州

リテ以來安否（眠食）如何、定メテ萬福ナルベシト推察ス。行官ハ節鎮州府ニ置キタル官、行役シテ四方ニ出ヅル役人ナリ數番ノ番ヲ或ハ枚ト解ク、然ラバ手書數番ヲ得タリト讀ムベシ、忻悚ハ手書ヲ得テ厚情ヲ忻（よろこ）ブト同時ニ、愈ノ佛ヲ信ゼリトイフ世評アル由ヲ聞キテ悚（おそ）ルルナリ。潮州時トハ潮州ノ刺史タリシ時ナリ。福田利益トハ佛氏ノ語ニシテ、幸福ト云フコトナリ。孔子曰云云、論語述而篇ニ見ユ。方册、方ハ版ナリ、册ハ策ト同ジク竹ナリ、書物ト云フコト。仰不愧云云、孟子盡心下篇ニ見ユ、同篇ニ仰不レ愧ニ於天一俯不レ怍ニ於人一二樂也トアリ。積善云云、易ノ文言傳ニ見ユ、云、善積之家、必有ニ餘慶一、積不善之家、必有ニ餘殃一トアリ。詩不云云云、大雅旱麓ノ篇ニ見ユ、同ハ邪ナリ、愷悌ハ樂シク且ツ

郭ニ留十數日一。實能外ニ形骸一、以レ理自勝一。不レ爲ニ事物一侵亂一。與レ之語一。雖レ不レ盡ニ解要一、自胸中無ニ滯礙一。以爲難レ得。因與來往一。及レ祭レ神至ニ其廬一。及來ニ袁州一。留衣服爲レ別。乃人之情。非ニ崇信其法一。求ニ福田利益一也」。第二小段論ニ與大顛交一。非ニ求福利一。孔子云。丘之禱久矣。凡君子行レ己立レ身。自有ニ法度一。聖賢事業。具在ニ方册一。可レ效可レ師。仰不レ愧ニ天俯一不レ愧ニ人。內不レ愧ニ心。積善積惡。殃慶各自以。其類至。何有ニ去聖人之道一。舍ニ先王之法一。而從ニ夷狄之教一。以求ニ福利一也」。第三小段論ニ不去聖道一而求ニ佛氏福利一。詩不レ云乎。愷悌君子。求レ福不レ回。傳又曰。不レ爲レ威レ惕。不レ爲レ利レ疚。假如釋氏能與レ人爲ニ禍崇一。非ニ守レ道君子之所一レ懼也。況萬萬無ニ此理一」。第四小段論ニ不レ畏レ佛。且彼佛者果何人哉。其行事類ニ君子一耶。小人耶。若君子也。必不レ妄加ニ禍於守レ道之人一。如小人也。

康ラカナル貌、君子ハ文王ヲ指ス、文王ノ德盛ニシテ福祿荐リニ至ル、然レドモ其福祿ハ正當ニ得タルモノニシテ、邪マニ求メタルニ非ズトナリ。傳又曰云云、左傳昭公二十年ニ見ユ。與人ノ與ハ爲ト訓ズ。三綱淪云云、敎育衰微ヲ極メ、道德全ク地ヲ拂ヘリトイフ義ナリ、三綱トハ、君ハ臣ノ綱タリ、父ハ子ノ綱タリ、夫ハ妻ノ綱タリノ三綱ヲ云フ、九法トハ書經洪範篇ニアル九疇ヲ云フ、卽チ天下ヲ治ムル大法九種ナリ。故曰能言云云、孟子公孫丑下篇ニ見ユ。揚子法言君子篇ニ見ユ。

除挾書云云、書籍ヲ藏スルモノハ族スト云フ、秦朝ノ酷薄ナル法律ナリ、漢ノ惠帝四年ニ至リテ之ヲ除ク。故學士——申公夏侯氏

其身已死。其鬼不靈。天地神祇。昭布森列。非可誣也。又肯令其鬼行胸臆。作威福於其閒哉。進退無所據而信奉之。亦且惑矣。』第五小段論佛不能禍人。○惑字受妄字言信之則惑矣。故曰傳之者妄也。○以上第一大段論己不信佛辨孟尙書疑。卽一篇大意。且愈不助釋氏。而排之者。其亦有說。孟子云。今天下不之楊則之墨。楊墨交亂。而聖賢之道不明。則三綱淪而九法斁。禮樂崩而夷狄橫。幾何其不爲禽獸也。故曰。能言距楊墨者。皆聖人之徒也。揚子雲云。古者。楊墨塞路。孟子辭而闢之廓如也。」第一小段敍孟子排楊墨之功。夫楊墨行正道廢。且將數百年。以至於秦。卒滅先王之法。燒除其經。坑殺學士。天下遂大亂。及秦滅漢興。且百年。尙未知修明先王之道。其後始除挾書之律。稍求亡書。招學士。經雖少得。尙皆殘缺。十亡二三。故學士多老死。新者不見

毛韓ノ如キ宿儒ハハヤ物故シ、新進ノ學者ハ未ダ完全ナル經書ヲ見ル能ハザレバ、先王ノ道ヲ知ル能ハズ。無所尋逐ハ、其理ヲ尋繹シテ、其道ヲ追究スルコトナキナリ。泯泯ハ湮滅ノ貌。楊墨ハ楊朱ト墨翟トノ教派、儒家ノ異端トシテ排斥スル所ナリ。不得位——位ヲ得テ朝ニ立テバ己ノ信ジタル抱負ヲ天下ニ施行スルコトヲ得レド、孟子ハ轗軻不遇ニシテ位ヲ得ザレバ、東奔西走、徒ラニ道ヲ說キ仁義ヲ言フトモ、只空理空論ニナリテ、實際人ヲ利シ世ヲ益スル能ハズ。宗孔子トハ孔子ノ教ヲ尊信スルナリ。侏儒ハ後漢書南蠻傳ニ衣裳斑剌、語言侏離トアリ、而シテ其注ニ、侏儒ハ語分明ナラザルナリトアリ。綿綿ハ絶エントシテ絶エザル貌。鼓天下トハ、太鼓ヲナラシテ人ヲ誘ヒ出ス如ク、天下ノ衆人ヲ煽動シテ佛教ヤ道教ヲ信仰

全經。不能盡知先王之事。各以所見爲守。分離乖隔。不合不公。二帝三王羣聖人之道。於是大壞。後之學者。無所尋逐。以至於今。泯泯也」。第二小段敍孟子以後聖道益壞滅。其禍出於楊墨肆行而莫之禁故也。孟子雖賢聖不得位。空言無施。雖切何補。然賴其言。而今學者尙知宗孔氏。崇仁義。貴王賤霸而已。其大經大法。皆亡滅而不救。壞亂而不收。所謂存十一於千百。安在其能廓如也。然向無孟氏。則皆服左衽。而言侏儒矣。故愈嘗推尊孟氏。以爲功不在禹下。者爲此也』。第三小段論孟子之功。不在禹下。○段中二抑二揚。文有姿態。○以上第二大段論孟子排楊墨明聖道。

漢氏已來。羣儒區區修補。百孔千瘡。隨亂隨失。其危如一髮引千鈞。綿綿延延。寖以微滅。於是時也。而唱釋老於其閒。鼓天下之衆而從之。嗚呼。其亦不仁甚矣」。第一小段敍老佛之害。

セシメントナリ。

釋老之——佛教ヤ老子教ノ人倫ヲ害スルコトハ、楊子ヤ墨子ノ學派ガ道德ヲ害スルヨリモ甚シ。

又安得——佛骨ヲ論ジテ潮州ニ貶セラレタル一頓挫ノ爲ニ、豈予ガ持スル所ノ聖道ヲ自ラ毀卻シテ、佛ノ邪道ニ從フコトヲ得ンヤ。

籍湜輩云云、門人等ニハ此主旨ヲ以テ屢〻指教シタリト雖モ、彼等果シテ善ク之ヲ遵奉シテ叛離セザルヤ否ヤ、ソハ予ノ知ル所ニ非ズ、籍湜ハ張籍ト皇甫湜トノ二人ニシテ文公ノ門人。

辱吾兄——足下ノ懇切丁寧ナル書簡ヲ寄セテ信佛ヲ勸告セラレタルヲ謝ス、然レドモ予ハ卒ニ貴命ニ從フコトヲ得ズ、恐懼ニ堪ヘズ、死罪死罪。

鄂州柳中丞ハ、鄂岳觀察使御史中丞柳公綽字ハ孝寬、華原ノ人ナリ、元和十年正月朝廷吳元濟ヲ淮西ニ討ツ、柳公綽書生ノ身ヲ以テ、奏

釋老之害過於楊墨。韓愈之賢不及孟子。二句與第二大段接續。筆力萬鈞。孟子不能救之於未亡之前。而韓愈乃欲全之於已壞之後。嗚呼。其亦不量其力。且見其身之危。莫之救。以死也。」第二小段論愈雖然使其道由愈而粗傳。雖滅死萬萬無恨。天地鬼神。臨之在上。質之在傍。又安得因一摧折自毀其道。以從於邪也。」第三小段論保護聖道。死無恨。況從佛道乎。以結全篇。

○又安得云云主意歸宿。摧折應潮州。

籍湜輩雖屢指教。不知果能不叛去否。辱吾兄眷厚。而不獲承命。惟增慚懼。死罪死罪。愈再拜。』第四小段餘波。○以上第三大段論已次孟子排斥老佛。明聖道。因歸宿于不信佛之本意。答來書。

## 與鄂州柳中丞書

主意　言大將之要。不在武在文。因勸其立功。此篇雙關法。

シテ自行イテ軍ニ加ラン ト請フ、文公稱揚シテ之ニ書ヲ與フ。
淮右殘孽ハ吳元濟ヲ指ス、孽ハ妖害ナリ。
瞋目語難ハ莊子說劍篇ノ句ニシテ、切齒扼腕シテ相難詰スルナリ。
頡頏ハ勢相ラザルコト、飛ンデ上ルヲ頡ト云ヒ、飛ンデ下ルヲ頏ト云フ。
桴ハ鼓ヲ擊ツ柄。
書生ハ文人ナリ。
陳師鞠旅ハ詩經ノ小雅采芑篇ノ句ナリ、戰ハントスル時、先ヅ士卒ヲ陳列シテ誓約ノ辭ヲ告グルナイフ、師ハ二千五百人、旅ハ五百人ナリ、陳ハ列ブルニシテ、鞠ハ告グルナリ。
二州之牧ハ鄂州安州ノ長官ナリ。
祭踶死——公綽ガ乘ル所ノ馬圉人ヲ踶(け)テ之ヲ殺ス、公綽命ジテ其馬ヲ殺シテ以テ祭ル。
鬱於中——忠孝ノ至誠心中ニ鬱結シ、遂ニ行爲トナツテ外ニ見ル。
聽於下風トハ、下風ニ在リテ聞クノ義ニシテ卑下ノ辭ナリ。

淮右殘孽。尙守巢窟。環寇之師。殆且十萬。瞋目語難。自以爲武人不肯循法度。頡頏作氣勢。竊爵位。自尊大者。肩相摩。地相屬也。不聞有一人援桴。鼓誓衆而前者。但日令走馬來求賞給。助寇爲聲勢而已。』第一大段言武人之暴。

閣下書生也。詩書禮樂是習。仁義是修。法度是束。一旦去文就武。鼓三軍而進之。陳師鞠旅。親與爲辛苦。慷慨感激。同食下卒。將二州之牧。以壯士氣。斬所乘馬。以祭踶死之士。雖古名將。何以加茲。此由天資忠孝。鬱於中而大作於外。動皆中於機會。以取勝於當世。而爲戎臣師。豈常習於威暴之事。而樂其戰鬬之危也哉。』第二大段言文人之勇。

愈誠怯弱。不適於用。聽於下風。竊自增氣。誇於中朝稠人廣衆會集之中。所以羞武夫之顏。令議者知將國兵而

人之司命。孫子ニ將ハ人ノ司命トアリ。死生ノ命ヲ司ルモノナリ。稠人ハ衆人ナリ。不在彼ハ彼ノ武人ニアラズシテ此ノ忠孝ニアリトノ義。艮用自愛、艮ク働キ、且自重スルナリ、艮用ヲ或ハまことにもつてト訓ム。

前書ニ對スル復書ヲ得テ再ビ同人ニ與ヘタル書ナリ。

靡弊困頓、禮記少儀篇ニ國家靡敝トアリ、靡ハ糜ニシテ敗物糜散スルヲ云ヒ、弊ハ敝ト通ジ頓ハ委頓ナリ。三州ハ申光蔡ノ三州ナリ。蚊蚋蟻蟲ハ惡蟲、兇豎ハ兇惡ナル小人、吳元濟ノ徒ヲ指ス、咻濡ノ咻ハ煦ニ同ジ、溫ムルナリ、濡ハ潤スナリ、惠恤スルノ義。童子トハ童蒙ヲ指ス、貿ハ吳元濟ノ謀主

爲人之司命者。不在彼而在此也。』第三大段言爲司命者。不在武而在文。○不在彼而在此也一句。一篇歸宿處。臨敵重愼。誡輕出入。良用自愛。以副見慕之徒之心。而果爲國立大功也。幸甚幸甚。』第四大段望其自重立大功。

## 再與鄂州柳中丞書

主意　言徵兵不若募兵。○此篇眞箇尺牘任筆吐露胸臆耳。

愈愚。不能量事勢之可否。比常念。淮右以靡弊困頓。三州之地。蚊蚋蟻蟲之聚。感兇豎咻濡飲食之惠。提童子之手。坐之堂上。奉以爲帥。出死力以抗逆明詔。戰天下之兵。乘機逐利。四出侵暴。屠燒縣邑。賊殺不辜。環其地數千里。莫不被其毒。洛。汝。襄。荊。許。潁。淮。江爲之騷然。丞相公卿士大夫勞於圖議。握

ナリ。

畏懦蹴踖、蹴ハ蹙ト同ジ、踖ハ足迫ナリ、おそれちゞむヲ云フ。

關其口ノ關ハ塞グナリ。

角逐ハ競爭スルコト。

夫一衆——復書中ノ御說ノ如ク、士卒共ノ心力耳目ヲ我ト統一ニシ、時雨ノ至ルガ如ク不偏平等ナラシムルコトハ、至極ノ名說ニシテ、夏殷周三代ノ時ノ用兵法モ此ニ外ナラズ、閣下果シテ能ク其

兵之將。熊羆貙虎之士。畏懦蹴踖莫肯杖戈爲士卒前行者。』以上第一大段言武人驕暴無功。獨閣下。奮然率先揚兵界上。將二州之守。親出入行閒。與士卒均辛苦。生其氣勢。見將軍之鋒穎。凜然有向敵之意。用儒雅文字章句之業。取先天下武夫。鬬其口而奪之氣。」第一小段稱文德。愚初聞時。方食。不覺棄匕箸起立。豈以爲閣下眞能引孤軍單進。與死寇角逐。爭一旦僥倖之利哉。就令如是。亦不足貴。其所以服人心。在行事適機宜。而風采可畏愛故也。是以。前狀輒述鄙誠。眷惠手翰遠答。益增忻悚。』第二小段戒勸。○行事適宜四字。第二大段主意。第三大段區畫暗線。○以上第二大段言中丞有文德。與他武人驕暴異。因戒其輕戰。勸行事適宜。夫一衆人心力耳目。使所至如時雨。三代用師不出是道。閣下果能充其言。繼之以無倦。得形便之地。甲兵足用。雖國家故所失地。旬

言ヲ實行シ、之ニ繼グニ倦ム無キヲ以テセバ、有利ノ地ヲ得テ、甲兵用フルニ足ラン云云、吳元濟輩ノ小寇ノ如キハ、殆ド論ズルニ足ラザルナリ。

怨曠ハ孟子梁惠王下篇ノ怨女曠夫ヨリ出ヅ、閨怨ノ婦、空シキ夫ノ義。

姑息形云云、姑息ハ休ナリ、可成粗略ニスルナリ、形迹ハ主客間ノ禮義形迹ヲ存スルナリ、遠征兵士ノ過グル所、又陣スル所ノ、地主ノ形迹ヲ姑息スルヲイフ。

浮寄孤懸トハ、遠ク本土ヲ離レ、軍ヲ他鄉ニ懸ルナリ。

諳委ハ諳識ナリ、卽チそらんずるナリ。

儻ハ或ハ然ラントイフ辭。

歲可坐而得。況此小寇。安足置齒牙閒。勉而卒之。以俟其至。幸甚。』以上第三大段因來書勸成功。夫遠徵軍士。行者有羈旅離別之思。居者有怨曠騷動之憂。本軍有饋餉煩費之難。地主多姑息形迹之患。急之則怨。緩之則不用命。浮寄孤懸。形勢銷弱。又與賊不相諳委。臨敵恐駭。難以有功。若召募土人。必得豪勇。與賊相熟。知其氣力所極。無望風之驚。愛護鄉里。勇於自戰。徵兵滿萬。不如召募數千。主意歸宿。閣下以爲何如。儻可上聞行之否。」第一小段言召募兵之利。計已與裴中丞相見。行營事宜。不惜時賜示幸甚。不宣。』第二小段待來書。○以上第四大段勸募兵。募兵是行事適宜。

孟東野名ハ郊、湖州武康ノ人、少ウシテ嵩山ニ隱レ、年五十ニシテ始テ漂陽ノ尉トナル、日ニ詩ヲ賦シ、韓愈ト忘年ノ交チナス、卒シテ貞曜先生ト云フ。與足下——一別以來足下ト相逢ハザルコト久シ、我心常ニ足下ヲ思ウテ忘ルル能ハズ、知ル足下モ亦予ニ戀戀タルモノアラン、足下モ予モ俗事ニ牽カレテ遠隔ノ地ニ在リ、合併同處スルヲ得ズ、同處スル所ノ人人トテハ、足下ノ見識ヲ爲スニ足ル者ニ非ズ、而シテ日日ニ之ト雜處ス、我心慰ミ得ベキヤ否ヤ、足下之ヲ察セヨ。

脫汴州云云、貞元十五年二月文公董晉ノ喪ニ從ツテ汴州ヲ出デシニ、四日ニシテ軍亂レ、留守陸長源殺サル。

## 與孟東野書

主意　敍相別之悲。幸相逢之樂。蓋尺牘體。

與足下別久矣。以吾心之思足下。知足下懸懸於吾也。各以事牽。不可合幷。其於人人。非足下之爲見。而日與之處。足下知吾心樂否也」。第一小段　吾言之。而聽者誰歟。吾唱之。而和者誰歟。言無聽也。唱無和也。獨行而無徒也。是非無所與同也。足下知吾心樂否也」。第二小段　詳敍上意。足下才高氣清。行古道處今世。無田而衣食。事親左右無違。足下之用心勤矣。足下之處身。勞且苦矣。混混與世相濁。獨其心追古人而從之。足下之道。猶言足下之行。其使吾悲也』。第三小段　就東野言。〇以上第一大段　言兩人牽事不合幷。故吾心不樂。去年春。脫汴州之亂。幸不死。無所於歸。遂來於此。主人與吾有故。哀其窮。

主人ハ張建封ナリ、故ハ舊交ナリ。符離睢上、符離ハ國名ニシテ睢ハ川ノ名ナリ。

吾之望也ノ下、原文ニハ春且レ盡、時氣向レ熱、惟侍奉吉慶、愈眼疾比劇甚無聊、不レ復ニ一一ー愈再拜ノ二十七字アリト云ノ。

襄陽于相公ハ于頔ナリ、襄陽大都督タルヲ以テ又于襄陽トイフ、性驕奢不法、人物稱スルニ足ラズ、後其子敏ノ事ニ坐シテ囚死ス、此書ハ文公ノ之ニ答フル書ナリ。文武順云云、唐德宗以後方鎭多ク樂舞ヲ制シテ以テ獻ズ、于頔順聖樂ノ曲ヲ獻ズ。天保樂詩、保或ハ寶ニ

居吾於符離睢上。及秋。將辭去。因被留以職事。默默在レ此。行一年矣。行猶將。到今年秋。聊復辭去江湖。余樂也。聊猶僅。與足下終幸矣」。第一小段幸相共終之樂。李習之娶吾亡兄之女。期在後月。朝夕當來此。張籍在和州。居喪。家甚貧。恐足下不知。故具此白」。第二小段更告他友消息。冀足下一來相視也。自彼至此雖遠。要皆舟行可至。速圖之。吾之望也』。第三小段望東野之來遊如他友。

○以上第二大段幸相逢之樂。

## 上襄陽于相公書

主意　贊稱于公文。

伏蒙示文武順聖樂辭。天保樂詩。讀蔡琰胡笳辭詩。移族從。竝與京兆書。第一小段言示文。自幕府至鄧之北境。凡五百餘里。自

庚子至甲辰。凡五日。手批目視。口詠其言。心惟其義。且恐且懼。忽若有亡。不知鞍馬之勤。道途之遠也。」第二小段言觀文。夫溯谷之水。深不過咫尺。邱垤之山。高不能踰尋丈。人則狎而翫之。及至臨太山之懸崖。窺巨海之驚瀾。莫不戰掉悼慄。眩惑而自失。所觀變於前。所守易於內。亦其理宜也。』第三小段言眩惑。○以上第一大段先言眩惑其文之妙。閣下負超卓之奇材。蓄雄剛之俊德。渾然天成。無有畔岸。而又貴窮乎公相。威動乎區極。天子之毗。諸侯之師。」第一小段先述相公才德威望。故其文章言語。與事相侔。憚赫若雷霆。浩汗若河漢。正聲諧韶濩。勁氣沮金石。盈而不餘一言。約而不失一辭。其事信其理切。」次稱其文。第二小段孔子之言曰。有德者必有言。信乎其有德且有言也。揚子雲曰。商書灝灝爾。灝灝猶漫漫。水勢遠也。周書嘔嘔爾。嘔嘔

作ル、天寶ハ玄宗ノ年號ナリ。蔡琰ハ後漢ノ人、字ハ文姫、興平中南匈奴ニ降リ、胡笳詞ヲ作ル、笳ハ胡ノ笛、或ハ蘆葉ヲ捲キテ吹クモノトモイフ、聲甚ダ悲シ。移ハ移文ナリ、蓋シ初メ故郷ヲ去リシ故ニ、移文ヲ以テ其宗族ヲ召ス。曉セルナリ。與京兆書ハ京兆尹李實ニ與フルノ手紙。自幕府云云。時ニ公江陵ノ掾ヨリ召サレテ、國子博士ト爲リ、行イテ鄧州ノ北境ニ至ル、幕府トハ衙署ヲ稱スルモノニシテ、將軍外ニ在ルノ稱ニハアラザルナリ。心惟其義ノ惟ヲ一ニ維ニ訛ル。邱垤ハ土ノ高キモノヲ云フ。戰掉ハ搖顫、悼慄ハ恐懼。區極ハ四方ノ極。毗ハ輔佐。憚赫ハ驚キ恐ルルナリ。浩汗ハ大水ノ貌、莊子ノ逍遙游ニ、吾驚ク怖其言猶ニ河漢一而無ク極

也トアリ、河ハ黄河、漢ハ楊子江ノ支流ノ名。韶ハ虞舜ノ樂、濩ハ殷湯ノ樂。沮ハ止ムルナリ。孔子之云云、論語憲問篇ニ見ユ。揚子雲云云ハ揚子法言問神篇ニ見ユ、灝灝ハ遠大。皛皛ハ明正。管子云云ハ韓非子説林篇ニ見ユ、管子ハ管仲ナリ。樊遲云云ハ論語子路篇ニ見ユ。尼父ハ孔子。夷吾ハ管仲ノ字。

嚴肅

信乎其能灝灝而且皛皛也』第三小段引孔揚言證之。○昔者貌。

齊君行而失道。管子請釋老馬而隨之。樊遲請學稼。孔子使問之老農。夫馬之智不賢於夷吾。農之能不聖於尼父。然且云爾者。聖賢之能多。農馬之知專故也』第一小段引典今愈雖愚且賤。其從事於文。實專且久。則其贊王公之能。而稱大君子之美。不爲僭越也。伏惟詳察。愈恐懼再拜』第二小段言評論不僭越。以謝僭越。○以上第三大段謝評論之僭越。

## 與衛中行書

主意　言退之以道德爲己任。不汲汲于富貴。

大受足下。辱書。爲賜甚大。然所稱道過盛。豈所謂誘之而欲

衛中行字ハ大受、貞元九年ノ進士、文公汴州ノ亂ニ遭ヒテ禍ヲ脱スルヲ得タリ、大受祝シテ書ヲ寄ス、公後東都ニ在ルトキ此書ヲ以テ大受ニ答フ。大受足下ヨリ書ヲ寄セラレシヲ謝スルコ

ハ予ノ爲ニ甚ダ大ナル賜ナリ、書中予ノ德ヲ過賞セラレタルハ、予ヲ奬勵シテ德ヲ爲サシメントノ御意ナラン歟、ナカ〳〵思ヒモ寄ラズ思ヒモ寄ラズ。

汲汲ハ促急ノ情ナリ、あせるナリ、速カナランコトヲ欲スルノ義ナリ、漢書ノ揚雄傳ニ少ニ嗜欲ニ不レ汲ニ汲於富貴ニ不レ戚ニ戚於貧賤ニトアリ。

豐約百倍、豐約ハ多寡ト云フガ如シ、收入前時ニ比スレバ百倍ナルヲ云フ、豐ハ現時ヲイヒ、約ハ前ノ貧時ヲ指ス。

其至於是歟。不敢當。不敢當。」第一小段　謝辱書。　其中擇其一二近似者。而竊取之。則於交友忠。而不反於背面者。少似近焉。亦其心之所好耳。行之不倦。則未敢自謂能爾也。不敢當。不敢當。至於汲汲於富貴。以救世爲事者。皆聖賢之事業。知其智能謀。力能任者也。如愈者又焉能之。」第二小段列論來書當否。　始相識時。方甚貧衣食於人。其後相見於汴徐二州。僕皆爲之從事。日月有所入。比之前時。豐約百倍。足下視吾飲食衣服。亦有異乎。然則僕之心。或不爲此汲汲也。其所不忘於仕進者。亦將小行乎其志耳。微露主意。」此未易遽言也。』第三小段更詳論來書中切於己者。○以上第一大段列舉來書中語。一一論當否。最後汲汲於富貴。以救世爲事一語。最切于退之身。故就事實。詳論己不汲汲於富貴。而以救世爲志。　凡禍福吉凶之來。似不在我。惟君子得禍爲不幸。而小人得禍爲恆。君子得福爲恆。而

小人得福爲幸。以其所爲似有以取之也。必曰君子則吉。小人則凶者。不可也」。第一小段論禍福有常理氣數。賢不肖存乎己。貴與賤。禍與福存乎天。名聲之善惡存乎人。存乎己者。吾將勉之。存乎天存乎人者。吾將任彼而不用吾力焉。其所守者。豈不約而易行哉」。第二小段論勉存於己者。不用力於存於天與人者。足下曰。命之窮通。自我爲之。置衞書中語于段末。見文章變化。吾恐未合於道。足下徵前世而言之則知矣。若曰以道德爲己任。窮通之來。不接吾心。則可也』。第三小段論以道德爲己任。○以上第二大段先揭我論。以駁來書不當。文法變化。然其意則一意。言以道德救世爲己任。而不汲汲于貧富窮通。窮居荒涼。草樹茂密。出無驢馬。因與人絕。一室之內。有以自娛。足下喜吾復脫禍亂。不當安而居。遲遲而來也』。以上第三大段望中行來訪。

足下曰——足下ノ御說ニヨレバ、人ノ運命ノ貧富禍福ハ、人人ノ自ラ招ク所ナリト言ハル、サレド恐ラクハ道理ニ合ハザラン、足下試ニ之ヲ前世ノ事實ニ徵セバ自ラ明ナラン、何トナレバ、往往善ヲナシテ窮厄ニ陷ル者アリ、惡ヲ行ヒテ榮達スル者アレバナリ、故ニ只道德ヲ以テ自ラ任ジ、窮達ハ吾心ト關係セザルモノトシテ、天ニ一任セバ則チ可ナラン。脫禍亂ハ汴州ノ亂ヲ脫シタルナイフ。

崔立之字ハ斯立、貞元四年ノ進士、文公時ニ吏部ニ試ミラレテ得ズ、斯立書ヲ寄セテ之ヲ勵マシシカバ、公之ヲ以テ答ヘシナリ」

顚頓ハ倒ルルナリ。狼狽ハ周章ナリ。

君子小——再三ノ失敗ニ、君子小人等ニハ憫笑セラレ、天下ノ衆人ニハ嫩ハレ、皆顔ヲ背ケテ馳走ル、然ルニ足下獨予ヲ見捨テズ、ナホ教フ可キ見込アリトナシ、己ノ貴尊ヲ毀損スルモ顧ズシテ、卑賤無名ノ予ニ直筆ノ書ヲ寄セテ問フ所アルニ至ル。扳援ハ皆引クナリ。

非故欲——故意ニ余ノ志氣ヲ奮起セシムルニアラザルカ。

## 答崔立之書

主意　言來書所謂擧業求衣食。是小得耳。余亦曾學今之博學宏辭。以求衣食。而不得。更欲學古之博學宏辭。以立言立功。是大得也。足下乃勸余小得。非知己者。立言立功。雖幷論。退之亦知時之不可。故本志在立言。以立功爲陪耳。

斯立足下。僕見險不能止。動不得時。顚頓狼狽。失其所操持。困不知變。以至辱於再三。君子小人之所憫笑。天下之所背而馳者也。」第一小段先述己之困頓。足下猶復以爲可教。貶損道德。乃至手筆以問之。扳援古昔。辭義高遠。且進且勸。足下之於故舊之道得矣。雖僕亦固望於吾子。不敢望於他人者耳。」第二小段一轉謝立之敎書。然尙有似不相曉者。非故欲發余乎。不然何子之不以丈夫期我也。」微露主意。不能默默聊復自明。』第三小段二轉疑立之不知己。以上第一大段說所以作答書。○僕始年十六七時。未知人事。讀聖人之書。以爲人之仕者。皆爲

博學宏辭ハ選擧ノ科目。

中書ハ中書省ナリ、漢武帝ノ時之ヲ置キ、尚書ノ事ヲ領ス。

俳優ハ雜戲ナリ。

忸怩ハ慙ヅル色アルナリ。

書所謂ノ書ハ立之ガ贈リシ所ノモノ。

人耳」第一小段敍窮冠前志仕進。非有利乎己也。及年二十時。苦家貧衣食不足。謀於所親。然後知仕之不唯爲人耳。及來京師見有擧進士者。人多貴之。僕誠樂之。就求其術。或出禮部所試賦詩策等以相示。僕以爲可無學而能。因詣州縣求擧。有司者好惡出於其心。四擧而後有成。亦未卽得仕。聞吏部有以博學宏辭選者。人尤謂之才且得。美仕。就求其術。或出所試文章。亦禮部之類。私怪其故。然猶樂其名。因又詣州府求擧。凡二試於吏部。一旣得之。而又黜於中書。雖不得仕。人或謂之能」焉。退自取所試讀之。乃類於俳優者之辭。顏忸怩而心不寧者數月。旣已爲之。則欲有所成就。書所謂恥過作非者也。因復求擧。亦無幸焉。乃復自疑。以爲所試與得之者。不同其程

度。及得觀之。余亦無甚愧焉。』

第二小段敍弱冠後擧選屢落第。○以上第二大段敍汲汲仕進履歷。卽下文所謂小得。

夫所謂博學者。豈今之所謂者乎。夫所謂宏辭者。豈今之所謂者乎。誠使古之豪傑之士若屈原。孟軻。司馬遷。相如。揚雄之徒。進於是選。必知其懷慙。乃不自進而已耳。設使與夫今之善進取者。競於蒙昧之中。僕必知其辱焉。然彼五子者。且使生於今之世。其道雖不顯於天下。其自負何如哉。肯與夫斗筲者。決得失於一夫之目。而爲之憂樂哉。

第一小段先敍古之豪傑不屑小得。

凡僕之汲汲於進者。其小得。蓋欲以具裘葛。養窮孤。其大得。蓋欲以同吾之所樂於人耳。其他可否。自計已熟。誠不待人而後知。

第二小段言己有志於大得。

今足下乃復比之獻玉者。以爲必俟工人之剖。然後見知於天下。雖兩刖足不爲病。且無使勍者再

斗筲者ハ器量ノ小ナル者ナイフ、斗ハ量名、十升ヲ容ル、筲ハ竹器ニシテ一斗二升ヲ容ル。

獻玉者ハ卞和ノ故事、卞和ハ楚人、璞ヲ楚山ニ得テ厲王ニ獻ズ、王人ヲシテ此玉ヲ相セシム、曰ク石ナリト、乃チ和ヲ以テ誑レリトシ

テ其左足ヲ刖ル、武王位ニ卽ク、和又之ヲ獻ズ、又相シテ石ナリトシ、其右足ヲ刖ル、文王位ニ卽ク、和氏玉ヲ抱イテ楚山ノ下ニ泣クコト三日三夜、文王之ヲ聞キ、人ヲシテ其故ヲ問ハシム、答ヘテ曰ク、刖ラレタルヲ悲ムニ非ズ、玉ヲ以テ石トナシ、貞士ヲ目スルニ詐ヲ以テス、コレ吾悲ム所以ナリト、王乃チ玉人ヲシテ其璞ヲ理セシム、果シテ寶玉ナリ、和氏ノ璧トイフ、韓非子和氏篇ニ見ユ。

勍ハ彊ナリ、勍者ハ試官ヲ指ス、剋ハ殺スナリ。

誠足下——誠ニ足下ガ予チ勉メ予ヲ勵マサルハ、厚意謝スルニ餘アレドモ、如何セン進仕ヲ得ルハ此一途アルノミニシテ、他ニ盡スベキ手段アランヤ。

取一障ハ漢武帝ノ時、博士狄山匈奴和親ヲ辯ズルノ語ニ見ユ、邊塞上ノ一城ナリ。

信於知己トハ我ガ心ヲ知レル人ニノミ心中ヲ

剋誠足下相勉之意厚也。然仕進者。豈舍此而無門哉。足下謂我必待是而後進者。尤非相悉之辭也。僕之玉。固未嘗獻。而足固未嘗刖。足下無爲爲我戚戚也。』以上第三小段言立之不知己志。○大得。方今天下風俗。尚有未及於古者。邊境尚有被甲執兵者。主上不得怡。而宰相以爲憂。僕雖不賢。亦且潛究其得失。致之乎吾相薦之乎吾君。上希卿大夫之位。下猶取一障而乘之。』第一小段言立功之志。若都不可得。猶將睥於寬閑之野。釣於寂寞之濱。求國家之遺事。考賢人哲士之終始。作唐之一經。垂之於無窮。誅奸諛於既死。發潛德之幽光。二者將必有一可。」小段言立言之志。○主意在足下以爲僕之玉凡幾獻。而足凡幾刖也。又二者。二者立言立功也。所謂勍者。果誰哉。再剋之刑。信何如也。士固信於知己。微足

下。無以發吾之狂言。』第三小段言落選不足挫己志。○第四大段論大得。

## 與崔羣書

主意　言樂天知命。

自足下離東都。凡兩度枉問。尋承已達宣州。主人仁賢。同列皆君子。雖抱羈旅之念。亦且可以度日。」第一小段賀崔羣得賢主人良同列。無入而不自得。樂天知命者。固前修之所以禦外物者也。況足下度越此等。百千輩。豈以出處近遠。累其靈臺耶。」第二小段言羣樂天知命。宣州雖稱清涼高爽。然皆大江之南。風土不竝以北。將息之道。當先理其心。心閑無事。然後外患不入。風氣所宜。可以審備。小小者亦當自不至矣。」第三小段望羣攝生。足下之賢雖在窮約。猶能不

崔羣字ハ敦詩、清河ノ人、貞元八年ノ進士、宣州ノ判官タリ、公時ニ四門博士ニシテ徐州ノ幕ニアリ。

自足下――足下ト東都ニ別レシヨリ、枉ゲテ(謙辭)芳書ヲ賜ハルコト二回ニ及ベリ、尋イデ承レバ、足下宣州ノ判官トナリテ、已ニ州ニ赴達セラレタリト、宣州ノ主人(觀察使崔衍)ハ仁賢ノ人ニシテ、足下ノ同僚ハ皆君子人ナリ、假令當座ハ羈旅ノ念ニ打タルルコトアリトモ、功成リテ歸ルノ樂ハ、日ヲ計ヘテ待ツベキナリ。前修ハ前世名ヲ修メタルノ人ナリ。靈臺トハ心ナリ、莊子庚桑楚篇ニ見ユ、同篇ニ不レ可レ内ニ於靈臺ト、アリ。

陳ブトノ義。

將息之道トハ養生ノ方法ナリ、將ハ養ナリ。

尤ハ過失ナリ。閫ハ入口ノしきみナリ、閫奥ハ家内ナリ、コヽニハ中心、心底ノ義ニ用フ。畛ハ限リナリ。

改レ其樂一況地至近。官榮祿厚。親厚盡在二左右一者耶。所レ以如レ此云云者。以爲二足下一賢者。宜レ在二上位一。託二於幕府一。則不レ爲レ得二其所一。是以及レ之。乃相親重之爾。正非二所以一待二足下一者也。（第四小段慰二不レ得二其所一。○以上第一大段揭二大意一。）僕自レ少至レ今。從レ事於往還朋友間一。十七年矣。日月不レ爲レ不レ久。所二與交往一相識者千百人一。非不レ多。其相與如二骨肉兄弟一者。亦且不レ少。或以二事同一。或以レ藝取。或慕二其一善一。或以二其久故一。或初不レ甚知一。而與レ之已密。其後無二大惡一。因不レ復決捨一。或其人雖レ不レ皆入二於善一。而於レ己已厚。雖レ欲レ悔レ之不レ可。凡諸淺者固不レ足レ道。深者止如レ此。至於心所二仰服一。考二之言行一。而無二瑕尤一。窺二之閫奥一。而不レ見二畛域一。明白淳粹。輝光日新者。惟吾崔君一人。（第一小段言二交遊中最仰レ羣。）僕愚陋。無レ所二知曉一。然聖人之書。無レ所レ不レ讀。其

出羣拔萃ハ孟子公孫丑上篇ニ出ニ於其類一拔ニ乎其萃一トアリ、注ニ出高出也、拔特起也、萃聚也ト見ユ。

不置黑白トハ善惡ヲ擇バザルチイフ。

比ハこのごろナリ。

好惡ハすききらひナリ。

清河ハ崔ノ居ル所、廣平縣ニ在リ。

鳳皇ハ靈鳥、國道アレバ則チ見ハル、芝草ハ靈芝、王者者老ニ敬事スレバ則チ生ズ。

遐方ハ遠方ナリ。

豈ハ炙ニ同ジ。

精粗巨細。出入明晦。雖レ不レ盡レ識。然不レ可レ謂レ不レ涉ニ其流一者也。以レ此而推レ之。以レ此而度レ之。誠知ニ足下出レ羣拔レ萃。無レ謂ニ僕何從而得レ之也。與ニ足下一情義。寧須レ言而後自明邪。所以言者。懼レ足下以爲吾所レ與深者。多不レ置ニ白黑於胸中一耳。既謂ニ能粗知一ニ足下一。而復懼レ足下之不レ我知。亦過也。」第二小段言讀書眼力。知ニ羣出レ羣拔レ萃。比亦有レ人說。足下誠盡レ善盡レ美。抑猶有レ可レ疑者。僕謂レ之曰。何疑疑者曰。君子當レ有ニ所好惡一。好惡不レ可レ不レ明。如清河者。人無ニ賢愚一無レ不レ說ニ其善一。服ニ其爲一レ人。以レ是而疑レ之耳。僕應レ之曰。鳳皇芝草。賢愚皆以爲ニ美瑞一。青天白日。奴隸亦知ニ其清明一。譬之食物。至ニ於遐方異味一。則有レ嗜者。有不レ嗜者。至ニ於稻也。粱也。膾也。炙也。豈聞レ有不レ嗜者一哉。疑者乃解レ解不レ解。於ニ吾崔君一無レ所ニ損益一也。』第三小段釋ニ或疑一稱

省ハ識ト同ジ、物心ツキテヨリ以來トイフコト。
青紫ハ卿大夫ノ服ナリ。
眉壽ハ眉秀デテ命長キコト。
伊潁ハ二水ノ名、河南府ニ屬ス。
近者尤云云、德ハ福困ナリ、公時ニ年三十四。
左車ノ車ハ牙下ノ骨ナリ。



羣盡善盡美、○以上第二大段分二小段。說己所以推服崔羣。一段深一段。

自古賢者少。不肖者多。自省事已來。又見賢者恆不遇。不賢者比肩青紫。賢者恆無以自存。不賢者志滿氣得。賢者雖得卑位。則旋而死。不賢者或至眉壽。不知造物者意竟如何。無乃所好惡與人異心哉。又不知。無乃都不省記。任其死生壽夭耶。未可知也。人固有薄卿相之官。千乘之位。而甘陋巷榮養者。同是人也。猶有好惡如此之異者。況天之與人。當必異其所好惡無疑也。合乎天而乖於人。何害。況又時有兼得者耶。崔君崔君。無怠無怠。』以上第三大段發揮樂天知命之主意。

僕無以自全活者。從一官於此。轉困窮甚。思自放於伊潁之上。當亦終得之。近者尤衰憊。左車第二牙。無故動搖脫去。目視昏花。尋常閉便不分人顏色。兩鬢半白。頭髮五分

目視昏花、昏花ハ眼花ナリ、白樂天ノ詩ニ獨有ニ病眼花一、春風吹不レ落、トアリ、卽チ日カすむコト。

能不顧念ハ、兒女ノ將來ヲ顧念セザル能ハザルヲ云フ、羣崔ニ託セントス欲スルノ意見ユ。

當下ハ當山ノ麓ナリ。不可去ハ宣州ヲ去ツテ崔君ヲ訪フ能ハザルナリ。

李翊貞元十八年陸傪ニ據ツテ登第ス、文公ノ薦ムル所ナリ。

道德之——恭敬能ク人ニ下ルコト足下ノ如クンバ、天下道德ニ歸スルコト近キニアルベシ、況ヤ文ノ古ノ盛大

亦白二其一一。鬚亦有レ一一莖兩莖白者。僕家不幸。諸父諸兄。皆康強早世。如レ僕者。又可以圖於久長一哉。以レ此忽忽。思下與二足下一相見。一道其懷。小兒女滿レ前。能不二顧念一。足下何由得レ歸レ北來。僕不レ樂二江南一。官滿便終老嵩下。足下可レ相就。僕不可レ去矣。珍重自愛。愼飲食。少二思慮一。惟此之望。愈再拜。」以上第四大段述二己衰憊一。表二慕二崔羣一之情一。

## 答二李翊一書

主意　言立言當レ本二道德一。故道德仁義第一字眼。立言第二字眼。○文當レ載レ道。人人皆能言レ之。似二陳腐一。然方二此時一。六朝餘習未レ除。華レ詞而遺二道者一。舉世皆然。故在二韓文一。非二陳腐之言一。

六月二十六日。愈白。李生足下。生之書辭甚高。而其問何下而恭也。能如レ是。誰不レ欲レ告レ生以二其道一。道德之歸也有レ日矣。況其外之文乎」。第一小段　就レ生言。抑愈所謂望二孔子之門一。牆而不レ入於

其宮者爲足以知是且非邪。雖然不可不爲生言之。』第二小段就己言。○以上第一大段答書常語。然揭道德及文字。已胚胎一篇主意。生所謂立言者是也。生所爲者與所期者。甚似而幾矣。」姑揚之。第一小段抑不知生之志。蘄勝於人而取於人邪。將蘄至於古之立言者邪。蘄勝於人而取於人。○言取用於人上也。故下文曰用於人。則固勝於人而可取於人矣。將蘄至於古之立言者。則無望其速成。無誘於勢利。養其根而竢其實。加其膏而希其光。四句說立言方法之大意。根之茂者其實遂。膏之沃者其光曄。仁義之人。仁義字自上段道德來。其言藹如也。』第二小段疑問入主意。○以上第二大段綱領。抑又有難者。愈之所爲。不自知其至猶未也。雖然學之二十餘年矣。始者非三代兩漢之書不敢觀。非聖人之志不敢存。處若忘。行若遺。儼乎其若思。茫乎其若迷。當其取於心而注於手也。惟陳

ニ復スルナヤ。
抑愈所――予ノ如キハ所謂聖人ノ道ヲ學ベリト雖、未ダ其蘊奥ヲ究メザル者ナリ、焉ゾ是非ヲ辨別スルノ明アランヤ、然レドモ足下ノ爲ニ一言セザル可カラザルモノアリ。
蘄ハ求ムルナリ。
取於人トハ試ニ中ランガ爲ニ、人ニヨリテ言ヲ立ツルナイフ。
光曄ノ曄ハ光明ナリ。
藹如ハ衆盛ノ貌。
陳言ハ陳腐ナル言語ナリ。

言之務去。戛戛乎其難哉。其觀於人。不知其非笑之爲非笑也。如是者亦有年。猶不改。」第一小段敍文之初進。　然後識古書之正僞與雖正而不至焉者。昭昭然白黑分矣。而務去之。乃徐有得也。當其取於心而注於手也。汩汩然來矣。其觀於人也。笑之則以爲喜。譽之則以爲憂。以其猶有人之說者存也。如是者亦有年。」第二小段敍文之二進。　然後浩乎其沛然矣。吾又懼其雜也。迎而距之。平心而察之。其皆醇也。然後肆焉。』第三小段敍文之三進。○以上第三大段言無望速成。以下三段皆用雖然字。一段深一段。　雖然不可以不養也。行之乎仁義之途。游之乎詩書之源。無迷其途。無絶其源。終吾身而已矣。」第一小段言以道德養文氣。　氣水也。言浮物也。水大而物之浮者。大小畢浮。氣之與言猶是也。氣盛則言之短長與聲之高下者皆宜。雖如是其敢自謂幾

戛戛乎ハ齟齬ノ貌。
汩々然ハ水ノ流ルル貌。
人之說ノ說ハ悅ブナリ。
浩乎ハ大水ノ貌。
沛然ハ盛大流行ノ貌。

肖ハ似ルナリ。

志乎古云云、古文今ニ重ンゼラレズ、故ニ古ニ志ス者ハ今ノ世ニ用ヒラレズ、サレバ古學ニ志ス者ハ、誠ニ樂ム可クシテ亦悲ムベキナリ。

於成乎。雖幾於成。其用於人也奚取焉』。第二小段言養氣已盛。文有法。○氣言之說。蓋取孟子養氣來而用之文。卽化腐成新手段。○以上第四大段言養根而實遂。加膏而光曄。仁義根膏也。氣言實光也。雖然。待用於人者。其肖於器耶。用與舍屬之人。君子則不然。處心有道。行己有方。用則施諸人。舍則傳諸其徒。垂諸文而爲後世法。第一小段言君子立言。異○垂諸文一句立言能事畢矣。是結穴。如是者其亦足樂乎。其無足樂也。有志乎古者。希矣。志乎古。必遺乎今。吾誠樂而悲之。亟稱其人。所以勸之。非敢褒其可褒。而貶其可貶也。問於愈者多矣。念生之言不志乎利。聊相爲言之』。第二小段自問自答。感慨今人趨勢利。不樂古之立言。遂歸到李生言生不志于勢利。故言古之言以答之。○有所以勸之云云數句。首段褒生之立言。亦知非眞褒。諷刺冷然。○以上第五大段說立言不爲勢利。在傳之後世。是立言本意。

牋ハ箋ニ同ジ、手紙ナリ。

教以所不及トハ、愈ニ教フルニ愈ノ未ダ思ヒ及バザル所ヲ以テストノ義、貴問ニ接ストイフヲ婉曲ニ言廻ハシタルナリ。

文ヲ作ルニ經營結構シテ力ヲ用フルヲ、難トシ、易易トシテ意ノ赴ク所ニ筆ヲ馳スルヲ易トス、夫作文ハ難易ヲ

## 答劉正夫書

主意　言ヲ文宜ハ師ニ古聖賢ニ而師ハ古聖賢ニ在リ自樹立ニ。○文公接ニ後輩ニ答ニ其問ヲ文ニ必ラズ師ニ古聖賢ニ正夫疑ヒ好ク爲ニ異說ヲ故ニ有ニ此答ニ。

愈白ス。進士劉君足下。辱レ牋ヲ。教以所レ不レ及ブ。既ニ荷ヒ厚賜ヲ。且ツ愧ヅ其誠ニ然ルテ。幸甚幸甚』。以上第一大段起手套語。凡ソ擧ゲラルル進士ニ者ハ。於テ先進之門ニ。何ノ所レ不レ往カ。先進之於ニ後輩ニ。苟モ見ハ其至ルヲ。寧ロ可ケンヤ以テ不レ答ヘ其意ニ邪。來ル者ハ則チ接スレ之ヲ。擧城士大夫。莫レ不ニ皆然ルニ。而愈不レ幸ナラ。獨リ有テ接スルノ後輩ニ名ヲ。名之所レ存スル。謗之所レ歸スル也」。第一小段言名之所レ存。謗之所レ歸。

有ニ來問フ者ニ。不ニ敢テ不ニ以テ誠ヲ答ヘ。或ハ問ハン。爲ル文ヲ宜シク何ノ師ニ。必ズ謹ンデ對ヘテ曰ハン。宜シク師ニ古聖賢人ヲ。曰ハン古聖賢人所レ爲ル書具ニ存ス。辭皆不レ同ジカラ。宜シク何ノ師ニ。必ズ謹ンデ對ヘテ曰ハン。師ニ其意ヲ。不ザレト師ニ其辭ヲ。又問ハン。曰ハン文宜シク易カルシク宜シク難カルシ。必ズ謹ンデ對ヘテ曰ハン。無シ難易ト。惟其是レ爾ノミト。如ケレ是而已ト。非ル固ヨリ開イテ其ノ爲ニ此ヲ。而禁ズルニ其ノ爲ニ彼ヲ也』。第二小段言文宜師ニ古聖賢之意。○以上第二大段辨疑。

夫レ百物ノ朝夕所

論セズ、唯文理ヲ正スニ在リ、愈ガ問者ニ答フルハ是ノ如キ數語ニ過ギズ、敢テ此ヲ爲セ彼ヲ爲スヿ勿レト、具體ノ答辭ヲ與フルコトヲセズ。

循常之徒トハ尋常ノ法ニ因循スル者。

有文字來ハ文字出來シヨリ以來ナリ。



見レ者。人皆不レ注レ視レ也。及レ觀二其異者一。則共觀而言レ之。夫文豈異二於是一乎。漢朝人莫レ不レ能レ爲レ文。獨司馬相如。太史公。劉向。揚雄爲レ之最然。則用レ功深者。其收レ名也遠。若レ皆與レ世沉浮。不二自樹一立。雖レ不レ爲二當時所一レ怪。亦必無二後世之傳一也。足下家中百物。皆賴而用也。然其所二珍愛一者。必非二常物一。夫君子之於レ文。豈異二於是一乎」。第一小段言作レ文宜二自樹立一。

今後進之爲レ文。能深探而力取レ之。以二古聖賢人一爲レ法者。雖レ未レ必皆是。要若レ有二司馬相如。太史公。劉向。揚雄之徒出一。必自於レ此。不レ自於循常之徒一也。若聖人之道。不レ用レ文則已。用則必尚二其能者一。能者非レ他。能自樹立不二因循一者是也。主意歸宿。

有二文字一來。誰不レ爲レ文。然其存二於今一者。必其能者也。顧常以レ此爲レ說耳」。第二小段言作レ文不レ自二於循常之徒一。○以上第三大段論レ所レ以法二古聖賢一在二自樹立一。

愈於二足下一。

賢尊給事ハ劉伯芻ナリ。

尉遲生、名ハ汾。

本深末茂ハ樹木ヲ以テ言ヒ、形大聲宏ハ樂器ヲ以テ言フ、皆辭足成文ノ形容。

優游ハ閑暇ノ貌。

謙謙然ハ敬讓ノ貌。

忝同レ道而先進者。又嘗テ從シ遊於賢尊給事。既厚賜テ。又安得レ不レ進二其所一レ有。以テ爲二答也一。足下以テ爲二何如一。愈白ス。』以上第四大段結末套語。

## 答二尉遲生一書

主意　言レ文愼レ實、實卽古之道也。

愈白ス。尉遲生足下。夫所レ謂文者。必有二諸其中一。是故君子愼二其實一。實之美惡。其發也不レ揜。本深而末茂。形大而聲宏。行峻而言厲。心醇而氣和。昭晰者無レ疑。優游者有レ餘。體不レ備。不レ可レ以爲二成人一。辭不レ足。不レ可レ以爲二成文一。人內有レ心而外有レ體。文內有レ實而外有レ辭。愈之所レ聞者如レ是。有レ問二於愈一者。亦以レ是對。』以上第一大段　言レ文愼二其實一。今吾子所レ爲皆善矣。謙謙然若レ不レ足。而以レ徵二於愈一。愈又敢有レ愛二於言一乎。」第一小段　言二愈不一レ愛

於言。抑所能言者。皆古之道。古之道。不足以取於今。吾子何其愛之異也」。第二小段言愈所言皆古之道。賢公卿大夫。在上比肩。始進之賢士在下比肩。彼其得之。必有以取之也。言彼上下之賢得仕進者。必有時文以取之。子欲仕乎。其往問焉。皆可學也。若獨有愛於是。而非仕之謂。則愈也嘗學之矣。請繼今以言。第三小段言子愛古文。則愈繼言之。○以上第二大段言生果有志于古之道。則繼今教之。

愛於是ノ是ハ古文古道ヲ指ス。

呂毉山人文公ニ書ヲ贈リテ、公ノ信陵君ガ礬ヲ執リシ如クナラザルヲ貴ム、公即チ此返書ヲ以テ之ヲ擯ク。

信陵執礬云云、史記信陵君傳ニ見ユ、云ク、公子無忌昭王少子、安釐王異母弟也、安釐王即レ位、封二公子一爲二信陵君一、魏有二隱士侯嬴一、爲二大梁夷門監者一、公子從二車騎一、虛レ左自迎、侯生攝二弊衣冠一、直上載二公子一、上坐、欲レ以觀二公子一、公子執レ礬愈恭ト。

## 答呂毉山人書

主意　取二山人朴茂趨レ死不レ顧二利害一。

愈白。惠書。責以不レ能レ如二信陵執レ礬者一」。第一小段揭二山人責一韓愈之言一。夫信陵。戰國公子。欲以取二士聲勢一傾二天下一而然耳。如レ僕者。自度若二世無一孔子。不レ當レ在二弟子之列一。第二小段言レ愈非レ孔子一不レ就二弟子之列一」。子以吾子始自レ山出。有

朴茂之美トハ、修飾セザル美ナリ、質朴ニシテ自ラ優レタル才知アルチイフ。
磨磨共ニ礎（うす）ナリ。
聖人之宗ノ宗ハ本ナリ、主ナリ。

六國公子、六國ハ齊、楚、燕、韓、趙、魏ナリ、公子ハ齊ノ孟嘗君、楚ノ春申君、趙ノ平原君、魏ノ信陵君ノ輩ヲ云フ。
市於道云云、相要スルニ利ヲ以テスルコト市道ノ如キヲ云フ。
卿大夫之世トハ、卿大夫ノ世ヲ繼ギテ爵位ヲ襲グヲ云フ。
靡靡ハ相隨從スル貌。
率然ハ輕遽ノ貌。

朴茂之美意。揭主意。恐未磐磨以世事。又自周後文弊。百子爲書。各自名家。亂聖人之宗。後生習傳。雜而不貫。故設問以觀吾子。其已成熟乎。將以爲友也。其未成熟乎。將以講去其非而趨是耳。不如六國公子有市於道者也。』第三小段言愈獨取山人朴茂耳。不能如信陵事侯嬴。○以上第一大段答方今天下入仕。惟以進士明經及卿大夫之世耳。其人率皆習熟時俗。工於語言。識形勢。善候人主意。故天下靡靡。日入於衰壞。恐不復振起。務欲進足下趨死。不顧利害去就之人於朝。以爭救之耳。非謂當今公卿閒無足下之輩。文學知識也。不得以信陵比。』以上第二大段言所取于朴茂之實。然足下衣破衣。繫麻鞋。率然叩吾門。吾待足下。雖未盡賓主之道。不可謂無意者。足下行天下。得此於人蓋寡。乃遂能責不足於我。此

灼灼ハ明ナル貌。

三浴三熏ハ身ヲ清ムルコト、熏ハ香ヲ薫ズルナリ。

郎中名ハ虔、侯喜字ハ叔起、共ニ文公ノ知己ナリ。

右其人ハ侯喜ノコトナリ。

迍邅坎坷、迍邅ハ行キ難クシテ進マザルノ貌、坎坷ハ不運ニシテ

眞僕所汲汲求者。議雖未中節。其不肯阿曲以事人者。灼灼明矣。方將坐足下。三浴而三熏之。聽僕之所爲。少安無躁。』上第三大段言山人之責不足於我。亦朴茂之失。我所取在于此。不足深咎。

## 與汝州盧郎中論薦侯喜狀

主意　言侯喜以盧公爲知己。盧公亦當以知己大用之。○知字。一篇字眼。

右其人。爲文甚古。立志甚堅。行止取捨。有士君子之操。家貧親老。無援於朝。在擧場十餘年。竟無知遇。愈常慕其才。而恨其屈。與之還往。歲月已多。嘗欲薦之於主司。言之於上位。名卑官賤。其路無由。觀其所爲文。未嘗不掩卷長歎。」第一小段歎喜久無知遇。去年愈從調選。本欲攜持同行。適遇其人自有家事。迍邅坎

意ノ如クナラザルナイフ。

鬱ハ茂盛ノ貌。

市道之事トハ利ヲ爭フコト。

坷。又廢一年。及春末自京還。怪其久絕消息。」久絕消息。五月初至此。自言爲閣下所知。辭氣激揚。面有矜色。曰侯喜死不恨矣。喜辭親入關。羈旅道路。見王公數百。未嘗有如盧公之知我也。比者分將委棄泥塗。老死草野。今胸中之氣。勃勃然復有仕進之路矣。』第三小段敍喜得知己。○以上第一大段敍侯喜初不遇。後得盧公知遇。愈感其言。賀之以酒。謂之曰。盧公天下之賢刺史也。未嘗有所推引。蓋難其人。而重其事。今子鬱爲選首。其言死不恨。固宜也。古所謂知己者。正如此耳。身在貧賤。爲天下所不知。獨見遇於大賢。乃可貴耳。若自有名聲。又託形勢。此乃市道之事。又何足貴乎。子之遇知於盧公。眞所謂知己者也。主意在此二句。士之修身立節。而竟不遇知己。前古已來不可勝數。或日接膝而不相知。或

士爲知己者死ハ晉ノ豫讓ノ語ナリ、史記刺客傳ニ、士ハ己ヲ知ル者ノ爲ニ死シ、女ハ己ヲ說ブ者ノ爲ニ容ヅクルト見ユ。

異レ世而相慕。以二其遭逢之難一。故曰。士爲二知レ己者一死。不二其然一乎。不二其然一乎』第二大段賀二閣下一得二知遇一。閣下既已知二侯生一。而愈復以二侯生一言於閣下一者。非爲二侯生一謀也。感二知己之難レ遇。大二閣下之德一。而憐二侯生之心一。故因二其行一而獻二於左右一焉。謹狀。』以上第三大段暗薦二侯喜一。

唐宋八家文讀本卷三終

# 唐宋八家文讀本卷四

## 送鄭尚書序

主意　言能知嶺南往事。革其弊。成善政而歸。

嶺之南。其州七十。其二十二隸嶺南節度府。其四十餘分四府。府各置帥。然獨嶺南節度爲大府。第一節鉞。大府始至。四府必使其佐啓問起居。謝守地不得即賀。以爲禮。歲時必遣賀問。致水土物。大府帥。或道過其府。府帥必戎服。左握刀。右屬弓矢。帕首袴韈迎郊。及既至。大府帥先入據館。帥守屏。若將趨入拜庭之爲者。大府與之爲讓至一再。乃敢改服。以賓主見。適位執爵。皆興拜。不許乃止。庱若小侯之事大國。有大事。諮

嶺之南ハ、五嶺ノ南ノ地、湖南省ト廣東省トノ境界ニアリ、五嶺ハ後漢書注ニ、大庾、始安、臨賀、桂陽、揭陽トアリ。

隸ハ附屬ナリ。

節度府ハ節度使ノ府、唐代邊境ニ節度使ヲ置キテ戎寇ニ備フ。

四府トハ邕管經略使、容管經略使、桂管經略使、鎭守經略使ナイフ。

即賀ノ即ハ就ナリ。

水土物ハ、其水土出ス所ノ產物ノコト。

戎服ハ軍服ナリ。

屬弓矢ノ屬ハ著ナリ。

帕首袴韈ノ帕ハ額首ノ飾、韈ナリ、袴ハ脛衣ナリ、韈ハ革履ナリ、皆軍服ナリ。

帥守屏ノ屏ハ小牆、
虔ハ恭敬ナリ。

岸大海ハ大海ニ濱スルコト。
颿ハ帆ト同ジク、踔ハ疾行ナリ。
漫瀾ハ大水ノ貌。
控御ノ控ハ馬ヲ止ムルナリ、御ハ制スルナリ。
機毒矢ハ毒矢ヲ仕掛クルナリ。
撞搪ノ撞ハ突ナリ、撃ナリ、搪ハ觸ナリ、距ナリ。
蜂屯蟻雜ハ蜂ノ如ク屯(あつま)リ、蟻ノ如ク雜ハルニテ、撃衆ヲ嘯聚スルヲ云フ、柳子厚ノ晉問ニアル蟻雜蜂集ノ句ト同意味。
不可爬梳ハ驅除收拾スベカラザルヲ云フ、爬ハ掻ナリ、梳ハ髮ヲ理ムルナリ。
薄其征入ノ征ハ取ナリ、徵稅ヲ輕クスルナリ。
節節粗目トハ法制ノ節目ヲ簡單ニスルナリ。
以兒子トハ小兒視スルヿ。



而後行。」第二節目、第一小段敍威權之盛。諷其不可失體。隸府之州。離府遠者至三千里。懸隔山海。使必數月而後能至。蠻夷悍輕易怨以變。其南州皆岸大海。多洲島。颿風一日踔數千里。漫瀾不見蹤跡。第一節敍統轄之廣。起下段。控御失所。依險阻結黨仇。機毒矢以待將吏。撞搪呼號。以相和應。蜂屯蟻雜。不可爬梳。好則人。怒則獸。故常薄其征入。簡節而疎目。時有所遺漏。不究切之。長養以兒子。至紛不可治。乃草薙而禽獮之。盡根株。痛斷乃止。」第二節敍控御之難。○第二小段敍統御之難。諷其不可苛細。其海外雜國。若舡浮羅。流求。毛人。夷亶之州。林邑。扶南。眞臘。于陀利之屬。東南際天地。以萬數。或時候風潮朝貢。蠻胡賈人。舶交海中。」廣。伏後段貨物之多。第三小段更敍外交之若嶺南帥。得其人。則一邊盡治。不相寇盜賊殺。無風魚之災。水旱癘毒之患。外國之貨

ナリ、其無知ヲ憐ムナリ。

草薙禽獮ハ草ヲ刈ルガ如ク、假借スル所ナク之ヲ擒(禽)ヘ、之ヲ殺(獮)スナリ、順ヲ待ツニ恩惠ヲ以テシ、頑兇ヲ懲スニ峻嚴ヲ以テスルナリ。

虬浮羅ハ卽チ虬維ニシテ、高麗ノ與國ナリ。流求ハ山海經ニ、毛民ノ國人、皆身ニ毛ヲ生ズトアリ。

夷亶之州ハ夷州ト亶州トナリ。

林邑ハ交州ノ南ニアリ。

扶南ハ林邑ノ西南ニアリ。

眞臘ハ林邑ノ西北ニアリ。

干陀利ハ南海ノ洲上ニアリ。

風魚之災ハ颶風鰐魚ノ災ヲ云フ、潮州謝表ニ、颶風鰐魚、患禍測ラレズトアルコレナリ。

玳瑁ハ正字通ニ、瑇瑁、南海ニ生ズ、介ノ屬、狀龜鼈ニ似タリ、殼稍長ク、背ニ甲アリ十二片云云、足無クシテ四翼アリト見エ、玳ハ瑇

日至珠香象犀玳瑁奇物溢於中國不可勝用故選帥常重于他鎭非有文武威風知大體 三字大可畏信者則不幸往長慶三年四月以工部尚書鄭公爲刑部尚書兼御史大夫往踐其任 第一小段入題、鄭公嘗以節鎭襄陽又帥滄景德棣歷河南尹華州刺史皆有功德可稱道 暗應文武威風句。入朝爲金吾將軍散騎常侍工部侍郎尚書家屬百人無數畝之宅僦屋以居可謂貴而能貧爲仁者不富之效也」 第二小段過去。○無數畝之云云第一段諷規中廉潔爲最故下此數句。及是命朝廷莫不悅將行公卿大夫士苟能詩者咸相率爲詩以美朝政以憫公南行之思韻必以來字者所以祝公成政而來歸疾也」 第三小段見在未來。○成政二字主意歸宿。○第二大段始入鄭公赴任通敍過去見在未來期其成政。

ノ俗字ナリ。
長慶ハ穆宗ノ年號。
節ハモチヲ編ミテ作リ、上下相重ル、象ヲ竹節ニ取ル、因テ名トナス、長一尺二寸、大將ノ擁スルモノ、秦漢以下改メテ旌幢ノ形トナス、後長サ增シテ數尺ニ及ブ。
爲仁者不富ノ語ハ陽貨ノ語ニシテ孟子公孫丑ノ上篇ニ見ユ。
李端公、名ハ益、字ハ君虞、大曆四年ノ進士、幽州節度使劉濟ノ從事タリ、歸ツテ其親ヲ壽ス、文公此序ヲ作ツテ之ヲ送ル。
元年ハ元和元年ナリ。
今相國李公ハ李藩。
吏部員外郎ハ、六典ニ、隋文帝開皇六年、倘書二十四曹、各員外郎一人ヲ置ク、第六品タリ、曹郎本員ノ外、復タ郎ヲ置クトアリ。
幽州司徒公ハ節度使劉濟ナリ。
某前年云云、李藩ノ文公ニ語ル辭ナリ、某ハ自ライフ、前年德宗崩御ノ時、告哀ノ詔ヲ奉ジテ幽州ニ使シタリ、

# 送幽州李端公序

主意　欲李端公佐劉濟勤王、○借李益諷勉劉濟。

元年今相國李公爲吏部員外郎。愈嘗與偕朝。道語幽州司徒公之賢曰。某前年被詔告禮幽州。入其地。迓勞之使里至。每進益恭。及郊。司徒公紅帨首。韤袴握刀。左右雜佩。弓韔服。矢插房。俯立迎道左。某禮辭曰。公天子之宰。禮不可如是。及府又以其服即事。某又曰。公三公。不可以將服承命。卒不得辭。上堂即客階。坐必東向。」第一小段　敍勤禮。

愈曰。國家失太平。于今六十年。夫十日十二子相配。數窮六十。其將復平。平必自幽州始。亂之所出也。今天子大聖。司徒公勤於禮。庶幾帥先河南北之將。來覲奉職。如開元時乎。李公曰然。」第二小段　敍愈答語。

今李公

既ニ其地ニ入レバ、迎勞ノ使一里毎ニ次ギ至リ、府ニ近ヅクニ從ツテ益〻鄭重ナリキトナリ、迓ハ迎ナリ。

帨ハ帕ト同ジク額首ノ飾ナリ。

弓韔服トハ、弓ヲ服ニ納ムルコト。

房ハ箭舍ナリ。

某禮辭曰云云、禮記ノ疏ニ、禮ニ三辭アリ、初ヲ禮辭ト云ヒ、再ビスルヲ固辭、三度スルヲ終辭ト云フトアリ。

三公ハ太尉、司徒、司空ノ三官ナリ。

東向ハ天子ノ方ヲ背ニセザルナリ。

失太平ハ安史ノ亂以來ヲ指ス、卽チ范陽（幽州）節度使安祿山ノ反シタル天寶十四年ヨリ、元和九年ニ至リテ六十年トナル。

今天子ハ憲宗。

開元ハ玄宗ノ年號。

數數焉ノ數ハ音朔ニシテ頻ナリ。

壽ハ觴ヲ奉シテ壽ヲ上ルコト。

韓侍御ハ韓重華ナリ、憲宗ノ元和六年水陸運使トナル。

既朝夕左右。必數數焉。爲上言。元年之言殆合矣。』第三小段期元年問答之效。〇以上第一大段敍李韓問答。

端公歲時來壽其親東都。東都之大夫士。莫不拜于門。其爲人佐甚忠。意欲司徒公功名流千萬歲。主意歸宿請以愈言爲使歸之獻。』以上第二大段送序。

## 送水陸運使韓侍御歸治所序

主意　希韓侍御營田之策、有成功。

六年冬。振武軍吏走驛馬。詣闕告饑。公卿廷議。以轉運使不得其人。宜選才幹之士往換之」第一小段敍廷議。吾族子重華。適當其任。至則出贓罪吏九百餘人。脫其桎梏。給耒耜與牛。使耕其傍便近地。以償所負。釋其粟之在吏者四十萬斛。不徵。吏得

去罪死。假耕種。齒平人。有以自效。莫不涕泣感奮。相率盡力。以奉其令。而又爲之奔走經營。相原隰之宜。指授方法。故連二歲大熟。吏得盡償其所亡失四十萬斛。而私其贏餘。得以蘇息。軍不復飢。」第二小段言君曰。此未足爲天子言。請益募人爲十五屯。屯置百三十人。而種百頃。令各就高爲堡。東起振武。轉而西。過雲州界。極於中受降城。出入河山之際六百餘里。屯堡相望。寇來不能爲暴。人得肆耕其中。少可以罷漕輓之費。朝廷從其議。秋果倍收。歲省度支錢千三百萬。』第三小段言建議屯田。○以上第一大段敍過去營田之功績。

八年。詔拜殿中侍御史。錫服朱銀。其冬來朝。奏曰。得益開田四千頃。則盡可以給塞下五城矣。田五千頃。法當用人七千。臣令吏於無事時。督習弓矢。爲戰守備。因可

六年ハ元和六年。
振武軍吏ハ朔方ノ節度使ナリ。
饑ハ饑饉ナリ、漕運供給ノ斷絕セルニ基因ス。
才幹ノ幹ハ事ニ堪フルチ云フ、才幹ノ士チ選ンデ、之チ換フルノ議ハ、時ノ宰相李絳ノ提出セル所ナリ。
族子ハ從子ト同ジク兄弟ノ子チ云フ。
贓罪ノ贓ハ、正字通ニ、凡ソ非理ニシテ得ル所ノ財賄チ贓ト云フトアリ。
桎梏ハ械、足ニ在ルチ桎ト云ヒ、手ニアルチ梏ト云フ。
粟ハ韻會小補ニ、陸種ノ首ニシテ米ノ甲アルチ云フ、又說文ニ、米ハ粟ノ實ナリトアリ、もみナリ。
齒ハ列ナリ、亦齡ナリ、年齒チ以テ相次列スルナリ。
相原隰ノ相ハ視ナリ、高平チ原ト云ヒ、下濕チ隰ト云フ。
頃ハ田百畝チ云フ、凡ソ一町程ナリ。
中受降城云云、受降城ハ雲州ニアリテ、東西

中ノ三城アリ、皆唐ノ張仁愿ノ築ク所。
漕輓ノ漕ハ水轉、輓ハ陸運。
度支ハ唐書百官志ニ、度支ハ天下ノ租賦、物産豐約ノ宜、水陸道途ノ利ヲ掌ル、歲毎ニ出ヅル所ヲ計ツテ之ヲ支調スト。
朱銀ハ、朱衣ト銀魚袋トニシテ、高貴ノ人ノ天子ヨリ賜ハル物。
吾以爲——吾(愈)惟フニ、邊塞ノ守兵耕作スルコトヲ知ラズ、唯口ヲ開イテ他ヨリノ供給ヲ待ツノミ、有司(役人)ハ常ニ人ヲ雇ウテ食糧ヲ輸入スルニ勉メ、船車沙漠ヲ越エ河流ヲ遡リ、遠キハ數千里ヨリ至ル、勞多クシテ運轉ノ人畜道ニ斃レ、人踵獸蹄道途ニ交錯ス、其費用殆ド計算ス可カラズ、而シテ中國ハ坐食シ、邊吏ハ食糧ノ繼續セザルニ苦ム、今君(重華)ノ請ウテ五城ニ給セントスル所ノ田地ハ、モト秦漢ノ時ノ郡縣ノ地ニシテ、耕シテ以テ課績ヲ得ベキヤ明白(驗白、

以制虜。庶幾所謂兵農兼事。務一而兩得者也」第一小段奏議。○兵農兼事云云。提主意。大臣方持其議。吾以爲邊兵皆不知耕作。開口望哺。有司常僦人。以車船自他郡往輸。乘沙逆河。遠者數千里。人畜死。蹄踵交道。費不可勝計。中國坐耗。而邊吏恆苦食不繼。今君所請田。皆故秦漢時郡縣地。其課績又已驗白。若從其言。二句一篇關鎖。上句鎖第一大段。下句鎖第二大段。其利未可遽以一二數也』第二小段惜大臣不用。○以上第二大段敍奏營田。而大臣不用。今天子方舉羣策。以收太平之功。寧使士有不盡用之歎。懷奇見而不得施設也。君又何憂」天子之意。第一小段而中臺士大夫。亦同言。侍御韓君。前領三縣。紀綱二州。奏課常爲天下第一。行其計於邊。其功烈又赫赫如此。使盡用其策。西北邊所沒地。可指期而有也」第二小段士大夫之論。○使盡用其策云云。期成功結一篇。聞其歸。皆相

驗ハ驗ノ俗字）ナリ。中壘ハ尚書省ヲ云フ。西北邊云云、代宗ノ時、吐蕃ノ侵害ニヨリテ沒取セラレタル河西隴右ノ故地モ、期日ヲ指定シテ恢復領有スベキヤ必セリトナリ。

殷侑ハ陳州ノ人、經術ニ長ズ、元和八年回鶻ニ使ス、可汗驕傲ナリ、侑詰責シテ虜ノ膽ヲ奪フ、虜部員外郎ニ拜セラル。

水土百物ハ水產陸產ノ諸品ナリ。

附集ハ小國自ラ致スコト能ハズ、大國ニ賴リ行イテ朝貢スルナリ。元和ハ年號、睿聖文武ハ憲宗ノ尊號。

方內ハ四方ノ內卽チ宇內ナリ。

回鶻ハ匈奴ノ別族、舊國ハ薛延陀ノ北地、元魏ノ時高部トイヒ、又勅勒（訛リテ鐵勒ト稱ス、隋ノ時突厥ニ屬シ、韋紇又畏兀兒、回紇トイフ、唐ノ貞觀二

勉爲レ詩。以推二大之一而屬レ余爲レ序。』第三小段言レ爲レ序。○以上第三大段敍二天子之意一。士大夫之論一。以希二其成功一。蓋諷而惜レ之也。

## 送二殷員外一序

主意　言二使命得一其人一。其人謂下知二輕重一大丈夫上。○通篇敍事。語語莊重謹嚴。不レ負二臺閣體一。蓋以レ品勝之文。高品之文。如二有德君子一。多巧之文。如二利口才子一。熟讀知レ之。

唐受二天命一爲二天子一。曰唐。曰天命。曰天子。起得莊大。凡四方萬國。不レ問二海內外一。無二小大一。咸臣二順於朝一。時節貢二水土百物一。大者特來。小者附集。』以上第一大段敍二萬國臣順之盛一。元和睿聖文武皇帝。旣嗣レ位。悉治二方內一。就二法度一。』一小段先敍二今上內治一。起二下文外交一。十二年詔曰。四方萬國。惟回鶻於レ唐最親。奉レ職尤謹。丞相其選二宗室四品一人一。持レ節往賜二君長一。告二之朕意一。又選二學有一レ經。法通二知時事一者一人一。與レ之爲レ貳。』外使之詔。由レ是殷

十一年唐ニ內附ス、玄宗ノ時安史ノ亂ニ功アリ、册シテ國王チ英武威遠可汗トナシ、皇女寧國公主チ降シテ之ニ妻ハス（殷侑ガ可汗チ貴メテ唐ノ壻トイヒシハ之ニ因ツテナリ）、憲宗ノ元和年間回紇チ改メテ回鶻トイフ、敏捷ナルコト鶻ノ如キニ取ル。

象笏ハ、唐ノ制度ニ、五品以上ハ象笏チ執リ、六品以下ハ竹木チ執ル。

庶子ハ官名。

憫憫ハ失意ノ貌。

刺刺ハ多言ノ貌。

幾微ノ幾モ亦微ナリ。

祓ハ宿直ニ用フル衣ノ名ナリ。

三省ハ中書省、尚書省及ビ門下省ナリ、一ニ云ク中書令、尚書令、侍中之政事堂ト。

知輕重ハ公事チ重シトシ、私事チ輕シトスルナリ。

區音歐。

侯侑自太常博士遷尚書虞部員外郎兼侍御史。朱衣象笏。四字行裝在承命以行。』第三小段敍奉命出使。○以上第二大段敍使命之事。朝之大夫。莫不出餞。酒半。右庶子韓愈執盞言曰。殷大夫。今人適數百里。出門惘惘有離別可憐之色。持被入直三省。丁寧顧婢子語。刺刺不能休。」第一小段引世人醜態爲客。○一段醜態。與全篇莊重反映。今子使萬里外國。獨無幾微出於言面。豈不眞知輕重大丈夫哉。」○第二小段敍殷侑當其任。是主。○知輕重大丈夫。一篇主意。蓋知輕重由經學。故前後點出二經字。相照應。非偶然。丞相以子應詔。眞誠知人。士不通經。果不足用。」第三小段總收。於是相屬爲詩。以道其行云。』第四小段終餞宴之事。不然朝大夫無落著。○以上第三大段敍送別。

## 送區册序

主意　稱册信聖人之道。不喜聲利。

陽山ハ縣名ニシテ連州ニ屬ス、貞元十九年冬、文公御史ヨリ出デテ陽山令トナル。虞ハ慮ナリ、廉利ノ廉ハ嚴ナリ。丞尉共ニ官名ナリ。篁ハ竹田ナリ。鳥言ハ言語鳥ノ囀ルガ如クニシテ通ジ難キナリ、夷面ハ蓬髮垢面ニシテ夷狄ノ相アルナリ。爲而至ハ、爲ニスル所アツテ其地ニ行クナリ。待罪云云ハ、愈窮チ茲ニ忍ブコト半歲トイフ程ノ義、罪字ハ形容ノ辭ニ過ギズ。相好ハ好ミチ交ハスナリ。挈舟ノ挈ハ擧ト同ジ、牽クナリ。儀觀甚偉ノ儀觀ハ風儀容觀ナリ、偉ハ奇ナリ、大ナリ。莊周云云、莊子徐無鬼篇ニ、夫レ空虛ニ逃ルル者、黎藜罷鼠ノ逕チ柱フ、其空ニ跟位スレバ、人ノ足音跫然タルチ聞イテ喜ブトアリ、空虛ハ空谷ナリ、跫然ハ人ノ步スル音ス

陽山天下之窮處也。陸有邱陵之險。虎豹之虞。江流悍急。橫波之石。廉利侔劒戟。舟上下失勢。破碎淪溺者往往有之」。第一小段敍窮陋。

縣郭無居民。官無丞尉。夾江荒茅篁竹之閒。小吏十餘家。皆鳥言夷面。始至言語不通。畫地爲字。然後可告以出。租賦奉期約。是以賓客遊從之士。無所爲而至。』第二小段敍無賓客。○無所爲而至。伏遺外聲利句。○以上第一大段敍陽山窮陋無賓客來從者。

言相好。自南海挈舟而來。升自賓階。儀觀甚偉。坐與之語。文義卓然。莊周云。逃空虛者。聞人足音跫然而喜矣。況如斯人者。豈易得哉。」第一小段喜區生來訪。

入吾室。聞詩書仁義之說。欣然喜。若有志於其閒也。與之翳嘉林。坐石磯。投竿而漁。陶然以樂。遺外聲利。而不厭乎貧賤也。』第二小段言區生喜詩書仁義之說。○以上第二大段稱區生信詩書仁義之說。不慕名利。故來從。

ルナリ。
翳嘉林云云、翳ハ蔭ナリ、嘉林ニ蔭ハルルヲ云フ。
陶然ハ和樂ノ貌。
歲之初吉ハ歲首ノ吉日ナリ。

石處士、名ハ洪、字ハ濬川、洛陽ノ人、洛ニ退隱ス、河陽軍節度御史烏公ノ參謀ニ聘セラル、處士ハ居士ト同ジク士ノ出仕セザル者、史記滑稽傳ニ、近世ノ處士ハ、時ニ用ヒラレズト雖嶢然トシテ獨立シ、塊然トシテ獨處スト見ユ。
嵩邙ハ二山ノ名、瀍穀ハ二水ノ名ナリ。
冬一裘以下清貧廉潔ヲイフ。

東注、漢土ノ水、皆東流ス。
王良造父ハ共ニ古ノ御ヲ善クスルモノ、周ノ穆王ノ御者ナリ。
龜ハ、古昔ノ卜法、龜

歲之初吉。歸拜(リテ セントス)其親(ヲ)。酒壺既傾(ニ ク シテ)。序以識別(レ ス ヲ)』。以上第三大段敍別。

## 送石處士序

主意　言烏公石處士賢良相遇。必能成事功。故一篇文字。歸著結末相與以有成也一句。成字眼目。○此篇不著一議論。敍文正體。

河陽軍節度御史大夫烏公。爲節度之三月。求士於從事之賢者。有薦石先生者。第一小段先提大夫先生二人。公曰。先生何如。曰。先生居嵩邙瀍穀之閒。冬一裘夏一葛。食朝夕飯一盂蔬一盤。人與之錢則辭。請與出遊。未嘗以事免。勸之仕不應。坐一室。左右圖書。與之語道理。辯古今事當否。論人高下。事後當成敗。若河決下流而東注。若駟馬駕輕車就熟路。而王良造父爲之先後也。若燭照數計而龜卜也」。第二小段言先生之賢。○此段。句句長短既不同。句中敍法。一

ノ甲ヲ灼キテ、其裂痕ニヨリテ占フモノ。
大夫曰——烏公薦者ニ對ヘテ曰ク、石先生ハ自ラ老シテ隱ルル所ノ士ナリ、故ニ出仕ヲ人ニ求ムルノ意志ナシ、其レ肯テ予ガ爲ニ來リ仕フルコトヲ爲ンヤ。
寇ハ元和四年承宗ノ叛亂ヲ指ス、恆ハ州名。
歸輸ハ漕運ヲ云フ。
治法征謀ハ政治ノ法、征伐ノ謀ナリ。
委重ハ重要ナル職務ヲ委任スルナリ。
不告於妻子云云ハ決心ノ快速ナルヲイフ。
行李ハ使人ヲ云フ、左傳ノ襄公八年ニ、一介ノ行李ヲシテ寡君ニ告ゲシムトアリ、注ニ、行李ハ行人ナリトアリ、李一ニ理ニ作ル、李理共ニ吏ノ字ノ義ナリトス、然ルニ後世誤テ旅人ノ荷物ヲ指シテ云フニ至レリ。
常所來往ハ平日相往來親交スル所ノ知己朋友

一變化無二同樣一。如二良工細二彫器玩一。如名手密畫山水一。細讀熟覽一。其妙不レ可レ言。可レ謂二敍事絕品一矣。

大夫曰。先生有レ以自老一。無二求於人一。其肯爲レ某來耶。第一節問。從事曰。大夫文武忠孝。求レ士爲レ國。不レ私二於家一。方今寇聚二於恆一。師環二其疆一。農不レ耕收一。財粟殫亡。吾所レ處地。歸輸之塗。治法征謀。宜レ有レ所レ出。第二節就二大夫一而答。先生仁且勇。若以レ義請。而强委重焉。其何說之辭。第三節就二先生一而答。○第三小段敍二求先生之議一。

大夫曰。諾。書詞。具二馬幣一。卜レ日以授二使者一。求二先生之廬一而請焉。』第四小段敍二聘禮一。○以上第一大段敍二烏公求一先生一。

先生不レ告二於妻子一。不レ謀二於朋友一。冠帶出見レ客。拜二受書禮於門內一。第一節受レ禮。宵則沐浴戒行。載二書冊一。問二道所一由。告行於二常所一來往一。第二節戒レ行。○宵則沐浴云云。敍レ戒レ行。簡而不レ遺。如二目睹一。○第一小段敍二應聘戒裝一。晨則畢至。張二上東門外一。酒三行。且起有レ執レ爵而言者。曰大夫眞能以レ義取レ人。先生眞能以レ道自任。決二去就一。爲二先生一別一。第一節合二祝烏公先生二人一。又

チイフ。張ハ幕ヲ張ルナリ、訣別ノ筵ヲ設ケ、祖道シテ行者ヲ祝スルナリ。上東門ハ洛陽城門ノ名。爵ハ杯ナリ。去就出處云云、去ハ官ヲ去ルナリ、就ハ官ニ就クナリ、出ハ出デテ仕フルナリ、處ハ退隠シテ野ニ處ルナリ、苟モ去ラズ苟モ仕ヘズ、只義ニ因ツテコレ決スルノミ。爲先生壽トハ、酒杯ヲ尊者ニ進メテ無疆ノ壽ヲ獻ズルヲ云フ、萬歳ヲ呼ブコト。外敬トハ陽ニ尊ブナリ。敢不敬——夙ニ興キ夜ニ寢ネ、今諸君ガ興ヘラレタル奨勵ノ祝辭ニ背カザランコトヲ期ス。

酌而祝曰。凡去就出處何常。惟義之歸。遂以爲先生壽。第二節別祝先生一人。又酌而祝曰。使大夫恆無變其初。無務富其家。而飢其師。無甘受佞人。而外敬正士。無味於諂言。惟先生是聽。以能有成功。保天子之寵命。第三節規大夫。又祝曰。使先生無圖利於大夫。而私便其身。第四節規先生。先生起拜祝辭曰。敢不敬蚤夜以求從祝規。第五節拜祝辭。○第二小段敍祝辭。○四祝。皆出于一人。蓋退之自言也。○四祝。其二規也。而送者皆曰祝。行者從其實曰祝規。語有斟酌。○此段祝辭實議論也。然敍之祝詞中。則非議論。敍事中行議論者。當法之。於是。東都之人士。咸知大夫與先生。果能相與以有成也。第三小段結全篇。言。遂各爲歌詩六韻。退。愈爲之序云。第四小段附敍贈遺詩文。○以上第二大段敍先生應烏公之求。

烏公ノ河陽ヲ鎭スルヤ、曩ニ石生ヲ取リ、續キテ今又溫生ヲ取ル、退之爲ニ送別ノ序ヲ作ル。

伯樂ハ秦ノ穆公ノ時ノ人、姓ハ孫、名ハ陽、善ク馬ヲ相ス、天上ニ伯樂星アリ、天廐星ノ旁ニ在リ、人孫陽ガ馬ヲ識ルヲ見テ、號シテ伯樂トイフ。

冀北ハ冀州ノコト、北方ノ州ナルヨリ云フ、支那ニテハ南船北馬ト云ヒテ、北方ニハ良馬ヲ出ス。

馬多天下、冀州ハ天下何處ヨリモ馬ヲ多ク產スルヲイフ。

伯樂一——伯樂ト云フ能ク馬ヲ知ル者ガ、一度冀北ノ野ヲ過グル時ハ、幾千匹ト云フ馬羣ガ、遂ニ空シクナルト、古キ語ニアリ、冀北ハ天下ニ於テ最多ク馬ヲ產スル地ナレバ、假令伯樂善ク馬ヲ知ルト雖モ、安ゾ能ク其馬羣ヲ空シウスルヲ得ン、然ルニ此古語ヲ解スル者

## 送溫處士赴河陽軍序

主意　言烏公一鎭河陽盡取東都名士一爲天下賀一爲吾怨○此篇議論中行敍事敍文變體。

伯樂一過冀北之野而馬羣遂空」第一小段立案○起句天來驚人。夫冀北馬多天下伯樂雖善知馬安能空其羣耶」第二小段疑案。解之者曰吾所謂空非無馬也無良馬也伯樂知馬遇其良輒取之羣無良焉苟無良雖謂無馬不爲虛語矣』第三小段決案○以上第一大段譬喩。東都固士大夫之冀北也」第一節承前喩。恃才能深藏而不市者洛之北涯曰石生其南涯曰溫生」第二節敍二兩生才能一。大夫烏公以鈇鉞鎭河陽之三月以石生爲才以禮爲羅羅而致之幕下」第三節敍取石生是客。未數月也以溫生爲才於是以石生爲媒以禮爲羅又羅而致之幕下」段中市字。涯字。羅字。皆帶獸意一來。正喩竝敍者。宜取法。東都雖信多

第四節敍取溫生是主○第一小段敍大夫網羅兩生○

ノ云フニハ、吾ガ謂フ空トハ、馬無キコトニアラズシテ、良馬ナキコトヲ云フ、伯樂ハ馬ノ善惡ヲ知ル故ニ、良馬ニ遇ヘバ、直ニ之ヲ取ル、羣馬中ニ良馬ヲ留メズ、苟モ良馬ナケレバ、馬ナシト謂フト雖モ、虛言トハスベカラズ。

不市トハ自ラ己ノ才能ヲ賣ラザルナリ。

鉄鋮ハなのトまさかりトナリ、鉄ハ小ニシテ鋮ハ大ナルモノ、以鉄鋮鎭ハ生殺ノ權力ヲ以テ、其地方ヲ鎭撫スルナリ。

石生ハ石先生ヲ云フ、前篇ニアリ、先生ヲ略シテ生ト云ヒシナリ。

羅ハあみナリ、禮ヲ羅トナシテ、烏公ノ幕下ニ致スナリ、卽チ石、温兩處士ヲ聘スルヲ云フ。

東都トハ河南府ノコト、寶應元年京兆府ヲ上都トナシ、河南府ヲ東都、鳳翔府ヲ西都、江陵府ヲ南都、太原府ヲ北都トナス。

餘守河南尹ハ東都留守鄭居慶ヲ指ス。

才士。朝取一人焉拔其尤。暮取一人焉拔其尤。第一節敍拔尤。自居守河南尹。以及百司之執事。與吾輩二縣之大夫。政有所不通。事有所可疑。奚所諮而處焉。第二節敍有司無所諮問。士大夫之去位而巷處者。誰與嬉遊。第三節敍隱士無同遊者。小子後生於何考德而問業焉。第四節敍後進無師。縉紳之東西行過是都者。無所禮於其廬。第五節敍過客無所訪。○第二小段敍東都無人。若是。而稱曰大夫烏公一鎭河陽。而東都處士之廬無人焉。無人卽前段馬羣空意、以無字代空字。見變化。豈不可也。』喩始落著。○以上第二大段正說。夫南面而聽天下。其所託重而恃力者。惟相與將耳。第一節雙提將相。相爲天子得人於朝廷。第二節分敍宰相。將爲天子得文武士於幕下。第三節分敍將軍。求內外無治。不可得也。」第四節合敍相將。○第一小段爲天下賀得人。卽前所稱。愈縻於茲。不能自引去。資一生以待老。第一節敍既往。今皆爲有力

吾輩云云、吾等ドモ洛陽河南二縣ノ大夫ト云フコトナリ、當時文公河南ノ令タレバシカ云フ、サテ河南尹以下、百司ノ執事、及吾輩二縣ノ大夫ニ及ブマデ、政治ニ於テ疑ヒ通ゼザル場合ニハ、イヅコニ諮問シテ處スベキカ、諮フ人ナシ、又士大夫ノ職ヲ退キテ巷ニ居ル者ハ、誰ト共ニ遊嬉センカ、遊ブベキ人ナシ、後進ノ輩ハ、誰ニ就キテ道德ヲ考ヘ、學業ヲ問フベキカ、問フ人ナシ、縉紳ノ此都ヲ過グル者ハ、其廬ニ禮スル所ナク、訪フベキ人ナシ。南面ハ人主ノ正坐ナリ、將モ亦幕中ニアリテハ南面スルヲ常トス、南面而聽天下ハ天子ヲ云フナリ。託重ハ相ニ對シテ云ヒ、恃力ハ將ニ對シテ云フナリ。求內外云云ハ、內モ外モ、治マラザランヲ欲スト云モ、得ベカラズノ義ナリ。愈縻於——愈ハ官ニ縻ガレ、此地ニアリテ、

者奪之。其何能無介然於懷耶。」第二節敍現今。○第二小段爲我怨盡取。卽後所稱。生既至拜公於軍門。其爲吾以前所稱爲天下賀。以後所稱爲吾致私怨於盡取也。」第三小段結一大段。幷結全篇。○盡取二字。主意歸宿。留守相公。首爲四韻詩歌其事。愈因推其意而序之。」第四小段敍所以爲序。○以上第三大段敍送別之情。以結一篇主意。

## 送楊少尹序

主意　言楊侯善思本歸其鄉。故一朝辭位去。去歸其鄉。不去其鄉。三處相照應。

主意一貫。○此篇議論中行敍事。亦變體。

昔疏廣受二子。以年老。一朝辭位而去。於時公卿設供帳。祖道都門外。車數百兩。道傍觀者。多嘆息泣下。共言其賢。」第一小段敍當時。漢史既傳其事。而後世工畫者。又圖其迹。至今照人耳目。赫赫若前日事。」第二小段敍後事。○以上第一大段敍二疏思本去位。是客。國子司業楊君巨

自カラ他所ヘ引去ル能ハズ、サレバ石溫二生チ賴トシテ、老チ送ラントセリ、然ルニ今有力者ノ爲ニ此二人チ奪ハル、何ゾ心ニ介然タル無カランヤ。介然ハ耿耿ト同ジク、おもひきれぬコト。前所稱ハ烏公ノ人チ得タルコト、後所稱ハ愈ノ資ル二人チ奪ヒ去ラレタルチ云フ。致私怨云云、知己チ奪ヒ去ラレタル怨チ我カ爲ニ言ヘヨ。置守相公ハ卽チ前ノ河南尹ナリ。

楊少尹、名ハ巨源、字ハ景山。

疏廣受ハ疏廣疏受ノ二人ナリ、漢書疏廣傳ニ、廣ハ東海蘭陵ノ人、字ハ仲翁、宣帝ノ時仕ヘテ太子太傅ニ至ル、兄ノ子ノ受、字ハ公子、同ジク太子少傅ニ至リ、位ニ在ルコト五年、廣、受ニ謂ツテ曰ク、足ルチ知レバ辱メラレズ、止マルチ知レバ殆カラズ、官成リ名立ツ、此ノ如クニシテ去ラズンバ、將ニ何ヲ待タンヤト。

源方以能詩訓後進。一旦以年滿七十。亦白丞相去歸其鄉。

第一節 世常說古今人不相及。今楊與二疏。其意豈異也」。第二節議論。○意既同。跡之同不同不足論。下文之意出於此一意字。可謂一篇字母。○第一小段客主打合。說楊疏同意。

予忝在公卿後。遇病不能出。不知楊侯去時。城門外送者幾人。車幾兩。馬幾疋。道傍觀者。亦有嘆息知其爲賢與否。第一節想送時。而太史氏又能張大其事。爲傳繼二疏蹤跡。否。不落莫否。第二節想送後。見今世無工畫者。而畫與不畫。固不論也」。第三節言無畫之者。○第二小段言楊不及疏之迹。然吾聞楊侯之去。丞相有愛而惜之者。白以爲其都少尹不絕其祿。又爲歌詩以勸之。京師之長於詩者。亦屬而和之。第一節敍楊去時。又不知當時二疏之去。有是事否」。第二節想疏去時。○第三小段言疏不及楊之迹。古今人同不同。未可知也』。第四小段結大段。言楊疏去時之迹異。而思本去位之意同。古今人同異。前後反應。妙。○以上第二大段敍少尹思本歸鄉。是主。中世

バ、後悔アルヲ懼ルト、乃チ上疏シテ骸骨ヲ乞フ、上之ヲ許シ、黄金二十金ヲ賜フ、太子五十斤ヲ贈ル、公卿、大夫、故人、邑子、祖道ヲ設ケテ、東都門外ニ供張ス、送ル者車数百輛云云ト見ユ。供帳ハ具ヲ供ヘテ餞飲ヲ設クルヲ云フ。祖道ハ行祭ナリ、道中安全ヲ祈ルナリ、即チかどでのまつり。後世工云云、畫伯晉顧顗子、梁張僧繇ガ畫公二疏ヲ祖スル圖ヲ畫ケリト云フ。年滿七十云云、禮記曲禮ニ、大夫七十ニシテ致仕ストアリ。其郷ハ河中ナリ。在公卿後云云、文公時ニ吏部侍郎タリ。不論也ハ畫クト畫カザルトハ今ヨリ後ノ事ナレバ必ズシモ論セズ。少尹ハ官名、唐河中府ヲ以テ中都ト爲シ、大尹小尹ヲ置キ、楊ヲ以テ小尹ト爲シシナリ。歌鹿鳴云云、唐ノ貢士、仲冬郡縣ニ於テ課試シ、是ニ及第セバ郷飲酒ノ禮ヲ行ヒ、鹿鳴ノ

士大夫以レ官爲レ家。罷則無レ所二於歸一。第一節敍二中世士大夫一。是客。楊侯始冠。擧二於其郷一。歌二鹿鳴一而來レ也。第二節敍二出時之榮一。今之歸。指二其樹一曰。某樹吾先人之所レ種也。某水某邱。吾童子時所二釣遊一也。第三節敍二不レ忘二其本一。○某樹吾先人云云數句。如二目睹一。一篇生色處。郷人莫レ不加レ敬。誠子孫。以二楊侯不一レ去二其郷一爲レ法。第四節敍二歸時之榮一。○第一小段言二楊侯思レ本不レ去レ郷。與二中世士大夫一異。古之所謂郷先生沒而可レ祭二於社一者。其在二斯人一歟。其在二斯人一歟』。第二小段詠嘆贊美。○以上第三大段贊二楊侯思レ本不レ去二其郷一。○此段專說レ楊。是主客之辨。

## 送二李愿一歸二盤谷一序

主意　贊二李愿一爲二不遇之大丈夫一。故主稱二揚隱者一。○序文正體。○此文豐腴。故少失二古色一。○法格過レ嚴。乏二跌宕一。非二韓文之至者一。○句句皆纖。目鉢レ心。

大行之陽有二盤谷一。盤谷之間。泉甘而土肥。草木叢茂。居民鮮少。第一小段敍二谷景一。或曰。謂二其環一兩山之間一。故曰レ盤。第一節客。或曰。是谷也。

詩ヲ歌フヲ例トス。
鄉先生トハ、鄉德俱ニ高キ者、或ハ官ヲ辭シタル人ヲ云フ。
大行ハ山名ナリ、孟州濟源縣ニアリ、山南ヲ陽ト云フ。
宅幽而——宅處幽僻ニシテ、地勢險阻ナリ。盤旋ハ散步スト云フガ如シ。
羅弓矢ノ羅ハ列ヌルナリ。
前呵ハ道ヲ警ムルナリ。
曲眉ハ遠山ノ如キ眉、豐頰ハ肥エタル頰、侍坐ノ美人ナイフ。
淸聲云云、聲淸ク體シナヤカニシテ自在ナリ、便ハ閑雅ナリ。
秀外云云、外貌秀麗ニシテ中心惠アルナリ。
翳ハ蔽ナリ、かざしナリ、長袖ヲ取ツテ自ラ蔽フノ狀ヲ云フ。
紛白黛綠ハ面ニ白粉ヲ塗リ、綠黛ヲ以テ眉ヲ畫クナリ。
妒寵而云云、人ノ寵幸ヲ嫉妬シテ自ラ其寵ヲ恃(たのみ)トス、艷色ヲ貪フナリ。

宅幽而勢阻。隱者之所盤旋。」第二節主。○隱者之所盤旋一句。胚胎一篇。○第二小段敍谷名。友人高キ者、或ハ官ヲ辭シ

李愿居之。』第三小段敍居住。○以上第一大段敍谷景及名。遂及李愿居住。愿之言曰。人之稱大丈夫者。我知之矣。利澤施於人。名聲昭於時。坐於廟朝。進退百官。而佐天子出令。第一節敍內。其在外。則樹旄旗。羅弓矢。武夫前呵。從者塞途。供給之人。各執其物。夾道而疾馳。第二節敍外。喜有賞。怒有刑。才俊滿前。道古今而譽盛德。入耳而不煩。第三節敍才子諂諛。曲眉豐頰。淸聲而便體。秀外而惠中。飄輕裾。翳長袖。粉白黛綠者。列屋而閒居。妒寵而負恃。爭妍而取憐。第四節敍美人寵愛。大丈夫之遇知於天子。用力於當世者之所爲也。吾非惡此而逃之。是有命焉。不可幸而致也。」第五節小束。○第一小段說知遇丈夫。是客。窮居而閒處。升高而望遠。坐茂樹以終日。濯淸泉以自潔。採於山。美可茹。釣

採於山云云、山ニ採ルわらびノ類ハ味甘美ニシテ食フ可ク、水ニ釣ル魚鼈ノ類ハ、新鮮食フ可シ。

與其有——前ニ譬メラルルヨリ後ニテ讃ラレヌ方カ宜シカラン、又身體ニ樂アランヨリハ心ニ憂ナキ方勝レリ。孰若ハ相比シテ及バザルヲ謂フ。

車服不——隱者ナレバ車馬衣服ノ爲ニ心ヲ引カサレズ、又罪モ犯サザレバ刀鋸ノ刑モ加ヘラレズ、又世外ニ出デヌル者故ニ、世ノ治亂ヲ知ラズ、朝廷ノ黜陟ヲ聞カズ。

趨走ハ行カントシテ行カレザル貌。

嚅嚅ハ言ハントシテ敢テ口ヨリ出サザル貌。

賢不肖——此等ノ人ノ賢ナルカ愚ナルカハ、當ニ定論アルベシ。

宮ハ居處ナリ。

濯ハ纓ヲ洗フナリ。

可沿ハ水ニ循ツテ下ルナリ。

盤之阻ノ阻ハ險阻。

窈而深ノ窈ハ深遠。

廓其有容云云、谷ノ中於水。鮮可食。起居無時。惟適之安。第一節敍閑適。與其有譽於前。孰若無毀於其後。與其有樂於身。孰若無憂於其心。第二節敍車服不維。刀鋸不加。理亂不知。黜陟不聞。第三節敍無禍害。大丈夫不遇於時者之所爲也。我則行之」。第四節小束。○主意歸宿在此數句。○第二小段說不遇丈夫是主。伺候於公卿之門。奔走於形勢之途。足將進而趦趄。口將言而嚅嚅。第一節敍冒進。處穢汚而不羞。觸刑辟而誅戮。徼倖於萬一。老死而後止者。第二節敍賤辱。其於爲人。賢不肖何如也』。第三節品評。○不了語中其意了然。○第三小段說非丈夫者。形前兩丈夫。○以上第二大段敍愿言。發主意。昌黎韓愈。聞其言而壯之。與之酒。而爲之歌曰」。第一小段歌序。○壯字從上三大丈夫字來。

盤之中。維子之宮。盤之土。可以稼。盤之泉。可濯可沿。盤之阻。誰爭子所。窈而深。廓其有容。繚而曲。如往而復。嗟盤之樂兮。

ハ、開ケテ廣ク、人ヲ住マシムルニ適ス。
繚而曲云云、谷ノ形ハ、迂廻シテ同リ、前ヘ往クガ如クニシテ、後ヘ反ルニ似タリ。
樂且無殃ハ樂無限ナルナリ、殃ハ盡クルナリ。
呵禁云云ハ不祥ノ怪物ヲ呵責禁止スルナリ。
膏吾車——我愈モ車ニ脂サシ、馬ニ草ヲ飼ヒテ、愚ノ盤ニ至リ、愚ト共ニ我一生ヲ終フルマデ、徘徊遊覽セン。

樂且無殃。虎豹遠跡兮。蛟龍遁藏。鬼神守護兮。呵禁不祥。飲且食兮。壽而康。無不足兮。奚所望。膏吾車兮。秣吾馬。從子於盤兮。終吾生以徜徉』。第二小段歌。○韵法前促後優。有節奏之妙。○以上第三大段退之作歌稱揚之。

## 送王塤序

主意　言欲學孔子。宜愼其所由。○此篇論體。

吾嘗以爲孔子之道大而能博。門弟子不能偏觀而盡識也。故學焉而皆得其性之所近。其後離散分處諸侯之國。又各以所能授弟子。原遠而末益分。第一小段總論。蓋子夏之學。其後有田子方。子方之後流而爲莊周。故周之書。喜稱子方之爲人。第一節虛說。荀卿之書。語聖人必曰孔子子弓。子弓之事業不傳。惟

偏觀ノ偏ハ徧ニシテあまねくト訓ズ。
子夏ハ孔子ノ門人卜商ノ字。
稱子方之爲人云云、莊子ニ田子方ノ篇アリ。
荀卿之書云云、荀子非十二子篇ニ是仲尼子弓ハ聖人ノ勢ヲ得ザル者

太史公書。弟子傳有姓名字。曰駏驉子弓。子弓受易於商瞿。第二節　孟軻師子思。子思之學蓋出曾子。自孔子沒。羣弟子莫不有書。獨孟軻氏之傳得其宗。故吾少而樂觀焉』。第三節實說。○第二小段條目。○以上第一大段泛論孟子得孔學之宗。　太原王塤。示予所爲文。好擧孟子之所道者。與之言。信悅孟子。而屢贊其文辭。第一小段敍。塤信孟子。　夫沿河而下。苟不止。雖有遲疾。必至於海。如不得其道也。雖疾不止。終莫幸而至焉。故學者必愼其所道。第二大段主意。　道於楊墨老莊佛之學。而欲之聖人之道。猶航斷港絕潢。以望至於海也。故求觀聖人之道。必自孟子始」。第二小段設比喩。言學者宜愼所由。　今塤之所由。既幾於知道。主意。　如又得其船與楫。知沿而不止。嗚呼其可量也哉。』第三小段奬勵結局。○以上第二大段歸宿。　言王塤信孟子。是知所由也。因益勉之。

---

ナリトアリ又、儒效篇ニモ、仲尼子弓ヲ竝ベ稱セリ。

子弓之事業云云、史記ニ子弓ヲ子弘ニ作リ、漢書ニハ子弓ニ作ル。

夫船河——譬ヘバ、今舟ニ乘ツテ、河ニ沿ウテ下ルニ、苟モ中途ニシテ止マザル時ハ、假令ヘ遲速アルニモセヨ、必ズ海ニ出ヅベシ、萬一舟ガ行クベキ至當ノ道ヲ誤ルトキハ、疾クシテ止マラズトモ、海ニ至ルコト僥倖ニテモ、叶ハヌコトナリ、故ニ學者モ其由ル所ヲ愼ム、楊朱、墨翟、老子、莊子又ハ佛者ノ學ニ由リ、吾儒者ノ道ニ進ミ行カンコトヲ願フハ、海ト通路ヲ斷チタル港ヤ、潢ニ航シテ、海ニ出デンコトヲ欲スル如ク、實ニ不可能ノ事ナリ。

潢ハ積水池ナリ。

機ハ楫ト同ジクかぢナリ。

醉鄉記ハ王績作、績字ハ無功、隋末ノ王通ノ弟、醉鄉記ヲ著シ、以テ劉伶ガ酒德頌ニ次ゲ、王秀才名ハ含、蓋シ其子孫ナリ、故ニ醉鄉記ヲ借リテ案ヲ立ツ。豈誠旨云云、豈誠ニ酒ノ味ヲ旨シトスルナランヤ、彼隱者タルモノハ、宜シク世ニ超越シテアルベシ、豈ハ疑ノ辭、旨ハ甘美ナリ。

偃蹇ハ驕傲ナリ。

顏氏子ハ顏回ヲ謂フ、論語雍也篇ニ見ユ。

瞽參歌聲云云、莊子讓王篇ニ、曾子聲天地ニ滿チ金石ヨリ出ヅルガ如シトアリ。

猶何麼云云、顏曾ノ如キハ、聖人ノ道ニ汲汲トシテ、是非ノ外物ニ感發セラルル暇ナシ、何ゾ酒ニ託シテ、昏冥ニ逃レンヤ、然ルニ醉鄉ノ徒（醉鄉記ヲ作リ

# 送王秀才序

主意　臨別、託酒遣兩人不遇。○此篇。無中生有工夫。

吾少時。讀醉鄉記。私怪隱居者。無所累於世。而猶有是言。豈誠旨於味耶。」第一小段疑。及讀阮籍陶潛詩。乃知彼雖偃蹇不欲與世接。然猶未能平其心。或爲事物是非相感發。於是有託而逃焉者也。」第二小段半決。若顏氏子。操瓢與簞。曾參歌聲若出金石。彼得聖人而師之。汲汲每若不可及。於其外也固不暇。尙何麴蘗之託。而昏冥之逃耶。吾人以爲悲醉鄉之徒不遇也。』第三小段全決。○以上第一大段敍先祖不遇。託酒而逃。建中初天子嗣位。有意貞觀開元之丕績。在廷之臣爭言事。當此時。醉鄉之後世。又以直廢。」第一小段承上。吾既悲醉鄉之文辭。而又嘉良臣之烈。思識其子孫。』第二小段起下。○以上第二大

タル者ノ子孫）ハ世ニ遇セラレズ、又是非ニ拘ヤラルルガ故ニ、酒ニ借リテ、無聊不平ヲ遣ル、余ソノ已ムヲ得ザルヲ悲ムナリ、麴蘗ハ酒ヲ謂フ、麴ハ酒母、蘗ハ牙米ナリ。

建中ハ德宗ノ年號。天子ハ德宗ヲ指ス。貞觀ハ太宗ノ年號、開元ハ玄宗ノ年號、共ニ唐ノ盛治時代ナリ。無所挾ハ自ラ恃ム所ナキナリ。

將張之ハ張大誇耀セントスルナリ。

況文與—況ヤ損ノ文ト行トハ、王績以來代代守リ來リシ如ク、渾渾ト立派ニシテ、正シク几ツ厚キヲヤ。

于公ハ于頔ノコト、字ハ充元、襄陽大都督トナル、前ニ出ヅ。

以書自通云云、于公ニ與フル書ニ、士ノ能ク大名ヲ享ケテ當世ニ顯ハルル者、先達ノ士ノ天下ノ望ヲ負フ者、之ガ前トナルアラザルナシ、士ノ能ク休光ヲ垂レテ後世ヲ照スモノ、段承上起下。

上下接續。今子之來見我也。無所挾吾猶將張之。況文與行。不失其世守。渾然端且厚」第一小段敍。惜乎吾力不能振之。而其言不見信於世也」二句暗應前段。於其行。姑與之飲酒。」第二小段敍別。○一篇之文。歸宿飲酒二字。○以上第三大段敍含及退之不遇。亦宜逃酒收之。

## 送許郢州序

主意　借許郢州諷于公。蓋公爲觀察使。有自異之失。故勸以自同。主意在裏面。是變體。○此篇借主諷客文法。

愈嘗以書自通於于公。累數百言。其大要言。先達之士。得人而託之。則道德彰而名問流。後進之士得人而託之。則事業顯而爵位通。下有矜乎能。上有矜乎位。雖恆相求。而喜不相遇。第一節擧上書之要。于公不以其言爲不可。復書曰。足下之言是也」

亦後進ノ士天下ノ望ヲ負フ者之ガ後トナルアラザルナシ云云、又下ニアルノ人、其材ヲ負ミ、背テ上ニ詔ハズ、上ノ人其位ヲ負ミ、背テ其下ヲ顧ミズ、故ニ高材ハ戚戚ノ窮多ク、盛位赫赫ノ光ナシ、是二人ノ者ノ爲ス所、皆過ナリトアリ。方伯ハ一方ノ長、府帥ナイフ。不時之材ハ不世出ノ材ト同ジク、世常ニアラザル所ノ材ナリ。卑鄙庸陋云云ハ韓退之自ライフ、影響ノ如シハ理解早キナリ。事不從ハ卒ニ之ナイフ能ハザルヲ謂フ。使君ハ同輩彼此相稱シテイフ。凡天下之事云云、天下ニ於ケル一切ノ事ハ、衆ノ共同ニ成就シ、意見ヲ異ニシテ一致セザルニ敗ル。

繇是刺——刺史ハ民ヲ愛シテ府ノ爲ニ憎マル、故ニ其官ニ安ンジテ居ル能ハズ、刺史ノ名ハ漢ニ始マル、監察ノ義ナリ。觀察使ハ、唐ニ在リテ

第二節言ニ答書之要一。

○第一小段實敘。

于公身居ニ方伯之尊一。蓄ニ不時之材一。而能與ニ卑鄙庸陋一。相應答如ニ影響一。是非忠ニ乎君一。而樂ニ乎善一。以ニ國家之務一爲ニ己任一者乎。第一節于公。○欲規之。先譽之所謂欲擒先縱之法。愈雖レ不レ敢私ニ其大恩一。抑不レ可レ不レ謂ニ之知己一。恆矜而誦レ之。情已至而事不レ從。小人之所レ不レ爲也。故於使君之行。道ニ刺史之事一。以爲ニ于公贈一。第二節退之。○第二小『段議論承ニ上起下一。○以上第一大段敘ニ于公既往知遇一。凡天下之事。成於自同。而敗於自異。」第一小段一大段綱領。

爲ニ刺史者一。恆私ニ於其民一。不以實應ニ乎府一。爲ニ觀察使者一。恆急ニ於其賦一。不以情信ニ乎州一。第一節繇是刺史不レ安ニ其官一。觀察使不得ニ其政一。財已竭而斂不レ休。人已窮而賦愈急。其不レ去爲レ盜也亦幸矣。第二節自異之敗。○誠使刺史不レ私ニ於其民一。觀察使不レ急ニ於其賦一。刺史曰吾州之民。天下之民也。惠不レ可以獨厚。觀察

一道ノ兵財ノ權ヲ專有ス。

誡使刺——誡ニ刺史ト觀察使ト、互ニ一致共同シテ、刺ハ己ノ民ノミニ厚クス可カラズトイヒ、觀察使ハ其州民ニノミ賦斂チ急ニスベカラズト云ヒテ、自ラ同ジウセバ、政モ平均シ、令モ行ハルルモノナリ。

縣之於云云、此一段刺史ノ本分ニ就キテ之チイフ、州ノ刺史ハ、上ハ觀察使ノ府ニ對シ、下ハ縣令ニ對スル職務アリ、觀察使ト刺史、刺史ト縣令、此間意見同ジケレバ成リ、異ナレバ敗ル、是ハ許君ノ如キ賢者ニアラザレバ、誰カ能ク之チ信ビンヤ、文章ノ賓主チ失ハズ、諷諭ノ在ル所チ覺エザラシム。

有地數百里云云、數百里ノ地チ治メ、長史司馬以下數十人ノ屬官チ

使亦曰。某州之民天下之民也。斂不可以獨急。第一節　自同。如是而政不均。令不行者。未之有也」第二節自同之成。○　其前之言者。于公既已信而行之矣。今之言者。其有不信乎。』第三小段釋自同。第四小段合束二大段。○以上第二大段贈縣之於州。猶州之於府也。有以事乎上。有以臨乎下。同則成。異則敗者皆然也。非使君之賢。其誰能信之」。第一小段言大小一理。愈於使君。非燕游一朝之好也。故其贈行不以頌。而以規』。二小段說所以贈之言。○規字不點于前段點于許君。最婉曲。○以上第三大段贈許君。

## 贈崔復州序

主意　言崔君有榮而無難。其實諷規其難。而所規最在于公。大意與前文同。而文則變。○此篇全是一箇大雙關法。

有地數百里。趨走之吏。自長史司馬以下數十人。其祿足以

役シテ受クル所ノ俸祿ハ己ノ三族及ビ朋友故舊ヲ惠ムニ足ルナリ、長史、司馬ハ共ニ官名、唐制ニハ、每州刺史以下長史一人、司馬一人ト置ク。苟有不得云云、僻遠ノ小民ハ純朴、故ニ苟モ能ク安ンズルコトヲ得ザル者アリトモ、之ヲ自ラ鄉里ノ吏ニ正スコト少シ、況ヤ其上ノ縣令ニ向ツテ辯論スルコトヲ得ンヤ、尙ホ進ンデ刺史ニ申出ヅル者アランヤ。不期ハ不レ可レ期ナリ。豐約ハ豐富ト窮約ト。縣令不——下ノ縣令ハ民ノ困苦ヲ刺史ニ言ハズ、上ノ連帥即チ觀察使ハ、刺史ノ民ノ窮乏ヲ告グルヲ信ゼズ、爲ニ民ハ益窮シテ、斂ヘ愈急ナリ、斯ノ時ニ於テ、中間ニ立ツ刺史ノ職ハ、最爲シ難キヲ見ルナリ、連帥トハ府帥チイフ、禮記王制ニ、十國爲レ連、連有レ帥トアリ、即チ連帥ハ節度使ノ任ナリ、時ニ于頔山南東道ノ節度使タリ、當時郡守使家徵求



仁其三族及其朋友故舊。」第一小段體。樂乎心則一境之人喜。不レ樂乎心則一境之人懼。丈夫官至刺史。亦榮矣。』第二小段用。○以上第一大段言其榮。是一扇。雖然。幽遠之小民。其足跡未嘗至城邑。苟有不レ得其所。能自直於鄉閭之吏者鮮矣。第一節不伸于鄉吏是一層。況能自辨於縣吏乎。第二節不伸于縣吏是二層。能自辨於縣吏鮮矣。況能自辨於刺史之庭乎。第三節不伸于刺史是三層。繇是刺吏有所不レ聞。小民有所不レ宣。」第四節結上起下。○第一小段虛說。○三層取姿態。賦有常而民產無恆。水旱癘疫之不レ期。民之豐約○三層取姿態。縣令不以言。連帥不以信。民就窮而斂愈急。縣於州。第一節就州言。○第二節就縣府言。○第二小段實說。吾見刺史之難爲也。」第二節就縣府言。○第二小段實說。○以上第二大段言其難。是一扇。崔君爲復州。其連帥則于公。崔君之仁。足以蘇復人。于公之賢。足以庸崔君。有刺史之榮。而無其難爲者。二句一篇。將在於此乎。」第一小段就崔君言。主意歸宿。

ノ急ナルヲ以テ、民力チ寛ニスルヲ得ズ、故ニ此篇コレヲ以テ說トナス。
蘇ハ蘇息ナリ。
庸ハ用フナリ。
休澤ハ恩惠ナリ。

孟東野名ハ郊、潮州ノ人、卒シテ貞曜先生トヲサム、通篇戲謔ヲ帶ブ。

大凡物——凡天地萬物皆無事平穩ノ時ハ、靜ニシテ鳴ラザレドモ、憤恨不平アル時ハ則チ鳴ル、先ヅ第一ニ草木モ、無事ノ時ハ聲ナケレドモ、一旦風來リテ之ヲ撓マセバ鳴ル。撓ハ屈曲、蕩ハ搖動、梗ハ塞グナリ。

凡出乎——渾テ人ノ口ヨリ出デテ言語ノ聲ヲ爲スコトハ、言フモ歌

愈嘗辱于公之知。而舊遊於崔君。慶復人之將蒙其休澤也。于是乎言。』第二小段就愈言。○以上第三大段賀有榮無難。以關上兩段兩扇。

## 送孟東野序

主意　論不平之鳴皆懸于天。以慰東野之不平。故天字字母。鳴字字眼。○文公平生滿腹不平。借東野而鳴。故其鳴甚大。不適中東野其人。是所以不免龍頭蛇尾之謗也。○此篇論大而不中其人。與大蘇韓文公廟碑同一病。

大凡物不得其平則鳴。第一節　揭大意。草木之無聲。風撓之鳴。第二節　草木。水之無聲。風蕩之鳴。其躍也或激之。其趨也或梗之。其沸也或炙之。第三節　水。○金石草木各只以二句而水獨用五句。此是不整齊中整齊錯綜妙處　金石之無聲。或擊之鳴。第四節　金石。○第一小段草木水金石。

人之於言也亦然。有不得已者而後言。其歌也有思。其哭也有懷。凡出乎口而爲聲者。其皆有弗平者乎。

フモ哭スルモ、皆心中不平ナルニ因ルナリ。鬱ハ畜ナリ。樂也者云云、樂ハ心ノ和ヲ以テ本トス、必ズシモ鐘鼓ヲ鳴スヲ云フノミニアラズ、此處ニハ特ニ鐘鼓ヲ擧ゲテ、心ヨリ泄レ出ヅル樂ヲ述ベシナリ。維天云云、維ハ發語ノ辭、詩經ノ周頌ニ維天之命トアリ、天ハ何事モモ言ハネド、四時行ハレ、萬物生ズ、而シテ其物ノ中ノ聲アルモノヲ借リテ鳴ル。愆ハ古ノ奪字、推バ順遷ナリ、四時ハ毎ニ相推奪シテ變遷ス。

變ハ舜ノ時ニ、變ニ命ジテ樂ヲ典ラシム、胄子ヲ教フト書ノ舜典ニ見ユ。韶ハ舜典ニ、簫韶九成、鳳凰來儀トアリ、舜ノ樂名ナリ。五子云云、書經ノ五子之歌ノ篇ニ大康有洛ノ表ニ畋ス、十旬ニシテ反ラズ、有窮ノ后羿、民ノ忍ビザルニ因リ、

樂也者。鬱于中而泄于外者也。擇其善鳴者而假之鳴。第一節　總論。金石絲竹。匏土革木。八者。物之善鳴者也」第二節細目。○第三小段樂聲之不平。然出于人。故曰假。維天之於時也亦然。擇其善鳴者。而假之鳴。第一節總論。○始露天字。下文五箇天字。自此出。是故。以鳥鳴春。以雷鳴夏。以蟲鳴秋。以風鳴冬。四時之相推敓。其必有不得其平者乎。』第二節細目。第四小段天聲之不平。○以上第一大段論。其於人也亦然。人聲之精者爲言。文辭之於言。又其精也。尤擇其善鳴者而假之鳴。第一節總論。○擇者假者皆天也。然此處未露出天字。其在唐虞。咎陶禹其善鳴者也。而假以鳴。夔弗能以文辭鳴。又自假於韶以鳴。夏之時。五子以其歌鳴。伊尹鳴殷。周公鳴周。第二節細目。凡載於詩書六藝。皆鳴之善者也。第三節小束。○第一小段盛時之文章。周之衰。孔子之徒鳴之。其聲大而遠。第一節實敍。傳曰。天將以夫子爲

河ニ距ク、阬弟五人、其母ニ從ツテ洛ノ汭ニ俟ツ、五子咸ク怨ム、大康ノ戒ヲ述ベテ歌ヲ作ルトアリ。六藝ハ易、詩、書、禮、樂、春秋ノ六經。傳曰云云、論語八佾篇ニ見ユ、木鐸ハ金口ニシテ木舌ノ鈴ナリ。其荒唐云云、荒唐ハ大言ナリ、莊子天下篇ニ見ユ。屈原云云、屈平字ハ原、離騷ヲ作ル。臧孫辰ハ魯ノ大夫臧文仲ナリ、名ハ辰、哀伯ノ孫。孟軻字ハ子輿、孟子七篇ヲ著ス。荀卿名ハ況、人尊ンデ卿トナス、荀子ヲ著ス。管夷吾(管仲)ハ桓公ノ相、管子ヲ著ス。晏嬰字ハ平仲、景公ノ相、晏子春秋ヲ著ス。老聃(李耳)字ハ伯陽、老子ヲ著ス。申不害ハ黄老刑名ノ學ヲ以テ韓昭侯ノ相トナリ、申子ヲ著ス。韓非ハ韓ノ公子、刑名法術ノ學ニ善シ、韓非子ヲ著ス。

木鐸。其弗信矣乎」。第二節引證。○第二小段孔門文章。其末也、莊周以其荒唐之辭鳴。楚大國也。其亡也、以屈原鳴」。第一節楚鳴。臧孫辰。孟軻。荀卿。以道鳴者也」。第二節道鳴。楊朱。墨翟。管夷吾。晏嬰。老聃。申不害。韓非。慎到。田駢。鄒衍。尸佼。孫武。張儀。蘇秦之屬。皆以其術鳴」。第三節術鳴。○第三小段戰國之文章。秦之興。李斯鳴之。第一節秦。漢之時。司馬遷。相如。揚雄。最其善鳴者也」。第二節漢。○第四小段秦漢之文章。其下魏晉氏。鳴者不及於古。然亦未嘗絶也」。第一節總論。就其善鳴者。其聲淸以浮。其節數以急。其辭淫以哀。其志弛以肆。其爲言也。亂雜而無章」。第二節細目。將天醜其德。莫之顧耶。何爲乎不鳴。其善鳴者也』。第三節以疑辭小束○第五小段魏晉之文章。○以上第二大段論文章皆出于不平之鳴。唐之有天下。陳子昂。蘇源明。元結。李白。杜甫。李觀。皆以其所能鳴」。第一小段唐先達之文章。其存而在下者。孟郊東

慎到ハ韓ノ大夫、刑名ニ善シ、書四十六卷ヲ著ス。
田駢ハ齊人、談論ヲ好ミ、談天ト稱ス。
鄒衍ハ燕人、遊說ノ士。
尸佼ハ魯人、商鞅ノ師ナリ、尸子ヲ著ス。
孫武ハ齊人、兵書十三篇ヲ著ス。
張儀ハ魏人、六國從約ヲ散ジ、連衡シテ以テ秦ニ事フ。
蘇秦ハ洛陽ノ人、六國ニ說キ、六國ノ相印ヲ握ル。
李斯ハ秦ニ相トシテ逐客ノ書ヲ上リ、又李斯春秋ヲ作ル。
司馬遷ハ史記ヲ著ス。
相如ハ子虛上林武等アリ。
揚雄ハ太玄法言ノ諸作アリ。
陳子昂字ハ伯玉、梓州射洪ノ人、靈峯正字トナル。
蘇源明字ハ弱夫。
元結字ハ次山。
李白字ハ太白、青蓮ト稱ス、詩集アリ。
杜甫字ハ子美、詩集六十卷アリ。
李觀字ハ元賓、太子ノ校書トナル。

野始以其詩鳴其高出魏晉。不懈而及於古。第一節主。其他浸淫乎漢氏矣。從吾游者。李翺。張籍其尤也」小段現今人文章。三子者之鳴。信善矣。抑不知天將和其聲。而使鳴國家之盛耶。抑將窮餓其身。思愁其心腸。而使自鳴其不幸耶。第一節疑案。三子者之命。則懸乎天矣。主意歸宿。其在上也。奚以喜。其在下也。奚以悲」第二節斷案。○第三小段三子文章。幸不幸之鳴。皆懸于天。結主意。東野之役於江南也。有若不釋然者。故吾道其命於天者。以解之。』第四小段更敍所以作此篇。歸主中主。○以上第三大段、入題論唐代文章出于不平之鳴者。歸著孟郊之鳴。

## 送董邵南序

主意　諷背明天子游藩鎭非義、諷規主意在結末二句。○此篇。是側寫法。前三段寫美人背。後一段寫美人之半面。妙處在以半面動人。

燕趙古稱多感慨悲歌之士。第一節言士俗貴義氣。○一句胚胎全篇。董生舉進士。連不得志於有司。懷抱利器。鬱鬱適茲土。吾知其必有合也。董生勉乎哉。』第二節言董生利器合士俗。○以上第一段言董生合燕趙士俗。夫以子之不遇時。苟慕義彊仁者皆愛惜焉。第一節慕彊仁義之士惜之。矧燕趙之士。出乎其性者哉。』第二節仁義出于性者必取之。○以上第二段解前段所以有合。更信之。然吾嘗聞風俗與化移易。吾惡知其今不異於古所云邪。第一節疑風俗變移。聊以吾子之行卜之也。董生勉乎哉。』第二節言因董生卜之。○以上第三段疑時勢風俗之變或不然。吾因之有所感矣。一節先揭感。爲我弔望諸君之墓。而觀於其市。復有昔時屠狗者乎。第二節卽所感之事。爲我謝曰。明天子在上。可以出而仕矣。』第三節謝言。○勸藩鎭之士。以仕天子。則董生去天子仕藩鎭。其爲不義也。隱然可了。三哉二矣字。玩味知文意所在。○以上第四段勸燕趙之士出仕。以規諷邵南北游。此如徐波而反是主意。○所感自起手感慨來。

浸淫ハ水ニ侵シ濕ヘル心ナレドモ、此ニハ溢レテ進ミ上ル義アリ。李翺ハ浙東從事トナル、文公ノ門人ナリ。張籍字ハ文昌、文公ノ門人ナリ。董邵南ハ壽州安豐ノ人、家貧シクシテ能ク書ヲ讀ミ、孝行ナリ、進士ニ擧ゲラレ、志ヲ得ズ、去ッテ河北ニ游ブ、貞元ノ間、文公江南ニアルヤ交ヲ結ブ、嗟哉董生行ノ詩アリ。利器ハ董生ノ才智銳利ナルヲ指ス。卜之云云、若シ吾子ガ彼地ノ人士ト意氣相投合セバ、彼地感慨悲歌ノ士多キコト、今モ古ト易ハラザルヲ證スベシ、聊、吾子ノ行ヲ以テ之ヲトス。望諸君ハ樂毅ノコト、樂毅燕ヲ去リ趙ニ之ク、趙之ヲ觀津ニ封ジ、號シテ望諸君トイフ。昔時屠狗云云、史記刺客傳ニ、荊軻燕ニ至リ、燕ノ屠狗者高漸里ヲ愛シ、日ニ燕市ニ飲ム、酒酣ニシテ市中ニ歌フトアリ。

惟其宜可ハ、只其人トオトノ宜シキノミヲ可トスルナリ。

故ニ之——故ニ上ノ人ハ、己ノ思フ如ク志ヲ行ヒ、宜シキヲ擇ビテ、坦乎然トシテ、下ノ上ノ人ヲ疑フコトヲ憂フルコトナシ、又下ノ人ハ、退ケラレ舍テラルルトモ、只ダ己ニ克チ己ノ行ヲ愼ミテ、確乎ト志ヲ守リ、上ノ人ノ取舍進退スルニ惑フコトナシ。

# 送齊皡下第序

主意　惜齊皡屈于私而下第。○公私二字眼目。

古之所謂公無私者。其取舍進退。無擇於親疎遠邇。惟其宜可焉。其下之視上也。第一節言古上下無私。亦惟視其擧黜之當否。不以親疎遠邇疑乎其上之人。故上之人。行志擇誼。坦乎其無憂於下也。下之人。克己愼行。確乎其無惑於上也。是故爲君不勞。而爲臣甚易。見一善焉。可得詳而擧也。見一不善焉。可得明而去也」。第二節言薦擧易。○第一小段言古薦擧之易。及道之衰。上下交疑。於是乎擧讐擧子之事。載之傳中。而稱美之。而謂之忠。見一善焉。若親與邇。不敢擧也。見一不善焉。若疎與遠。不敢去也。衆之所同惡焉。激而擧之。乃忠也。於好焉。矯而黜之。乃公也。衆之所同惡焉。激而擧之。乃忠也。於

キ曰ク、赤ヤ可ナリト、其子ヲ擧ゲ、是ニ於テ郗午中軍尉トナリ、羊舌赤之ニ佐タリ。

激ハ特ニ常道ニ反スルナリ。

内愧之名トハ、公忠ノ名アリト雖モ、内心ニ愧ヅルノ名ヲ云フ。

膚受之訴ハ、肌膚ノ受クル所利害身ニ切ナルヲイフ、論語顔淵篇ニ見ユ。

烏虖ハ嗚呼ニ同ジ、古文、於乎、烏虖、嗚呼皆同義。

嚮道ハ指導ナリ。

私其親トハ黨ヲ植ウルヲ云フ。

私其身トハ、嫌ヲ避クルヲ云フ。

百年必世ハ、論語ニ、善人ノ邦ヲ治ムル百年ナラバ、亂臣賊子亡ビ、刑殺ヲ去ルベシト、又三十年ヲ一世ト云フ。

知命不惑ハ論語爲政篇ニ、四十ニシテ惑ハズ、五十ニシテ天命ヲ知ルトアリ、天命ヲ知リ、惑ハヌ程ノ人物ノ出デテ盡力セズバ、改メ得ベカザルヲ云フ。

是乎有違心之行。有怫志之言。有内愧之名。若然者。俗所謂良有司也。膚受之訴。不行於君。巧言之誣。不起於人矣。第一節言今人似公而私。

烏虖。今之君天下者。不亦勞乎。爲有司者。不亦難乎。爲人嚮道者。不亦勤乎。第二節言薦擧難。○第二小段言今薦擧之難。

是故端居而念焉。非君人者之過也。則曰有司焉。則非有司之過也。則曰今擧天下人焉。則非今擧天下人之過也。第一節言人君有司天下之人皆無過。

蓋其漸有因。其本有根。生於私。其親成於私。其身以己之不直。而謂人皆然。其植之也固久。其除之也實難。非百年必世。不可得而化也。非知命不惑。不可得而改也。已矣乎。其終能復古乎。』二節言本於一私。○第三小段論今之難本于一私。而難復古之公道。○以上第一大段論古今薦擧之公私。

若高陽齊生者。其起予者乎。齊生之兄爲時名相。出藩於南。朝之碩臣。皆其舊交。齊

起予者ハ、論語八佾篇ニ、予ヲ起スモノハ商ナリトアリ、能ク我ノ志意ヲ起發スルヲ言フナリ。

出藩於南ハ、江西ノ觀察使タルヲイフ。碩臣ノ碩ハ大ナリ。枉ハ其ノ兄ノ故ヲ以テ、之ヲ避ケテ特ニ進擧セザルヲ云フ。利吾器ハ、論語衛靈公篇ニ、工其事ヲ善クセント欲セバ、必ズ先ヅ其器ヲ利ストアリ、其才能ヲ磨クヲ云フ。既至矣ハ、既ニ其ノ地位ニ到達シ居ルトイフナリ。

不以閔ハ、有司ノ不明ナル所置ヲ閔ヘザルナリ。

此文ハ、浮屠文暢ノ文章ヲ喜ビ、儒道ニ志アルヲ知リ、人タルノ道ハ、吾聖人ノ道ヨリ他ニナシ、宜シク故キ浮屠教ヲ棄テテ、新ニ吾儒ニ入ルベシト勸ムルナリ。

生擧進士。有司用是連枉齊生。齊生不以云。乃曰。我之未至也。有司其枉我哉。我將利吾器而俟其時耳。抱負其業。東歸於家。第一小段言齊生屈于私。吾觀於人。有不得志。則非其上者衆矣。亦莫計其身之短長也。若齊生者。既至矣。而曰我未也。不以閔於有司。其不亦鮮乎哉。第一節言齊生不咎有司而自責。吾用是知齊生後日誠良有司也。能復古者也。公無私者也。知命不惑者也。』第二節望齊生復古道。○第二小段望其復古之公道。○以上第二大段惜齊生屈于私。而望其能復古之公道。

## 送浮屠文暢師序

主意　以浮屠喜文章。知有志儒道。因勸儒道。○勸浮屠以儒道。不可唐突發之。故第二大段紆餘曲折。說所以不得不勸之之故。然後至第三大段。始發主意。說儒道可貴極得勸進之體。○對浮屠斥佛。故多說儒道。而少說佛。措語有斟酌妙。

浮屠ハ梵語ノ僧、佛教ニ浮屠教ト云フ。墨行ハ墨子ノ教ヲ信ズルモノ。

揚十雲云云、揚十法言修身篇ニ見ユ、揮ハ去ルナリ、門牆ハ孔子ノ門牆チイフ、卽チ儒名ニシテ墨行ノ者ニ喩フ。

在夷狄云云、墨名者ニ喩ヘ、浮屠氏ナリトモ、吾ガ儒道ヲ慕ヒ求ムル者アラバ喜ンデ之ヲ進メ、之ト交遊スベシト云フ意ヲ含ム。

縉紳ノ縉ハ搢ニ同ジ、搢ハ挿ムナリ、笏ヲ革帶ノ間ニ挿ムナリ、卽チ高貴ノ人。

貞元ハ德宗ノ年號。

爲之請云云、退之ノ文ヲ請フナリ。

懿ハ大ナリ。

拘其法云云、文暢ハ宗

人固有儒名而墨行者。問其名則是。校其行則非。可以與之遊乎。第一節客。如有墨名而儒行者。問其名則非。校其行則是。可以與之遊乎」。第二節主。○第一小段疑問。揚子雲稱。在門牆則揮之。在夷狄則進之。全篇議論亦自此一句出來。吾取以爲法焉』。第二小段決答。○以上第一大段自問自答泛論儒墨。如一篇冒頭。浮屠師文暢喜文章。其周遊天下。凡有行。必請於縉紳先生。以求詠歌其所志。貞元十九年春。將行東南。柳君宗元爲之請。解其裝。得所得敍詩累百餘篇。非至篤好。其何能致。多如是邪」。第一節言喜文章。惜其無以聖人之道告之者。而徒擧浮屠之說贈焉。第二節反應在夷狄進之。起下段。○第一小段嘉喜文章。而惜無告聖人之道。夫文暢浮屠也。如欲聞浮屠之說。當自就其師而問之。何故謁吾徒而來請也」。第一節疑。彼見吾君臣父子之懿。文物事爲之盛。其心有慕焉。拘其法而

教上ノ規則ニ拘セラレテ、未ダ我中國聖人ノ儒教ニ入ル能ハズ、故ニ竊ニ儒者ノ說ヲ聞カンコトヲ樂ンデ、其詩文ヲ請フトナリ。二帝ハ堯舜ナリ、三王ハ禹、湯、文王ナリ。

瀆告ハ、易蒙卦ニ、再三スレバ則チ瀆ル、瀆ルレバ則チ告ゲズトアリ、瀆ハ慢ノ意ナリ、重複ナリ、文暢ノ既ニ再三再四聞キナレタル說ヲ告ゲテ、之ヲ瀆スベカラズト云フナリ。

知宮居——宮室ニ居リ、稻粱ヲ食ヒ、父母親愛ヲ親ミ、長上ノ尊キ者ヲ尊敬シ、生ルル者ハ之ヲ養育シ、死スル者ハ其尸ヲ藏ムルヲ知ル、是皆聖人ノ教ナリ、サレバ人ノ守ルベキ道ハ、仁義ヨリ大ナルハナク、又知ルベキ教ハ禮樂刑政ヨリ正シキハ他ニナシ、此道ト教トヲ廣ク天下ニ施シ行ハバ、世間一切ノ事物、皆其宜ヲ得、又狹ク一身ニ占メ措カバ、身

未ダ能ハ入ル。故ニ樂シデ聞ク其說ヲ而請フ之ヲ。第二節決。如キ吾徒ノ者ハ。宜シク當ニ告グ之ヲ以テ二帝三王之道ヲ。日月星辰之行ヲ。天地之所ニ以著ハル。鬼神之所ニ以ナル幽ナル。人物之所ニ以蕃スル。江河之所ニ以流ルル。而語ル之ニ。不レ當ベカラ又爲ニ浮屠之說ヲ而瀆ス告ス之ニ也』第三節主意。○第二小段言レ宜レ進ニ儒道ニ。○以上第二大段說ニ文暢喜ニ文章ニ。是在ニ夷狄ニ而喜ニ儒道ニ者。宜ニ進ニ之ニ。民之初生ズル。固ヨリ若ニ禽獸夷狄ノ然リ。聖人者立ツ。然ル後ニ知ル宮居ヲ而粒シテ食ヒ。親レ親ヲ而尊ブ。生者ハ養ツテ而死者ハ藏スル。是故ニ道ハ莫レ大ナルハ乎仁義ヨリ。教ハ莫レ正シキハ乎禮樂刑政ヨリ。施シ之ヲ於天下ニ。萬物得ニ其宜シキヲ一措ケバ之ヲ於其躬ニ。體安ニ而氣平ニ」第一小段說ニ儒道ニ。是一篇主腦。堯以テ是傳ヘ之ヲ舜ニ。舜以テ是傳ヘ之ヲ禹ニ。禹以テ是傳ヘ之ヲ湯ニ。湯以テ是傳ヘ之ヲ文武ニ。文武以テ是傳フ之ヲ周公孔子ニ。書シ之ヲ於冊ニ。中國之人世守ル之ヲ。第一節正說。今浮屠者ハ。孰カ爲シテ而孰レカ傳フ之ヲ耶」。第二節反說。○一語喝破、不レ用ニ多言ニ。○第二小段說ニ儒道傳授ニ。夫レ鳥ハ俛シテ而啄ム。仰イデ而四顧ス。夫レ獸ハ深居シテ而簡出ス。懼ル物之爲ニ

體安靜ニシテ、氣分モ自ラ平和ナリ。

鳥俛而啄ノ俛ハ俯スナリ、啄ハ鳥ノ食フナリ。

箭出ハ選ビ出ヅルナリ、時機ヲ見テ穴居ヨリ出ヅルヲ云フ。

彊ハ強ニ同シ。

安居而——余モ文暢モ安樂ニ住居シテ、安閑ト食事ヲ爲シ、優優ト遊樂シテ、生ヨリ死ニ至ル、此等ノ點ノ禽獸ト異ル理由ヲ知ラザルベカラズ、是レ皆聖人ノ教ニ由ルニアラズヤ。悅乎故——文暢ガ其法ニ拘シテ、儒道ニ入ル能ハザルハ、卽チ故ヲ悅ンデ新ニ卽ク能ハザルモノニシテ、氣力ノ弱キモノナリ。

高閑上人ハ烏程ノ人、克ク書字ニ工ミ、嘗テ宣宗ニ召サレ、遂ニ紫衣ヲ賜ハル、後湖州開元寺ニ歸リテ終ル。

己害也。猶且不脫焉。弱之肉彊之食。第一節說鳥獸之害。○弱之肉彊之食。名言。所謂惟古於詞必己出者。今吾與文暢。安居而暇食。優游以生死。與禽獸異者。寧可不知其所自耶』。第二節言人之無害。○不說破處。最妙。○第三小段說吾與文暢蒙聖恩。此段最切。○以上第三大段告儒道。是一篇主意發揮。夫不知者非其人之罪也。知而不爲者惑也。悅乎故不能卽乎新者弱也』。第一小段言文暢。知而不以告人者不仁也。告而不以實者不信也』。第二小段言退之。余旣重柳，請。又嘉浮屠能喜文辭。於是乎言。』第三小段言所以贈言。以收主意。○以上第四大段合說文暢與己收之。○五個也字如破竹。○又嘉一句。收在夷狄則進之之意。

## 送高閑上人序

主意　假書闢佛，言旭情盛而書巧。今閑修浮屠滅情之學。不宜巧書。而巧書如此。蓋情終不可滅也。情果不可滅。是佛說空言。不足取也。情卽心。心字一篇眼目。

○此篇全然贈言。亦一變體。

荷可以――荷モ一心ノ工夫(巧智)ヲ、已ノ事トスル書畫等ノ一藝一能ニ寄セ、其工夫動機チシテ、心ニ相應セシメバ、外物襲ヒ來リテ誘惑センストモ、コレニ固著スルコトナクシテ、其道モ自然玄妙ノ域ニ達スベシ。

膠ハ附著固拘スル也。

養叔云云、史記ニ養由基射ヲ善クス、柳葉ヲ去ル百歩、百發シテ百中ストアリ。

庖丁ハ牛ヲ割クニ巧ナル者、莊子養生主篇ニ出ヅ。

師曠字ハ子野、晉ノ平公ノ時ノ樂師ニシテ音律ニ精シキ者。

扁鵲ハ晉ノ昭公ノ時ノ名醫。

僚之於丸云云、楚宋ト戰ツテ敗ル、宜僚丸ヲ弄ビ、八個空中ニアリ、九個手ニ在リ、宋軍之ヲ望ミ、楚難ヲ免ルトフ。

秋之於奕云云、孟子告子上篇ニ、奕秋ハ通國ノ奕ヲ善クスルモノトアリ。

伯倫云云、劉伶字ハ伯倫、晉ノ人、酒德頌ヲ

荷可以寓其巧智。使機應於心不挫於氣。則神完而守固。雖外物至。不膠於心。」段議論。第一小堯舜禹湯治天下。養叔治射。庖丁治牛。師曠治音聲。扁鵲治病。僚之於丸。秋之於奕。伯倫之於酒。樂之終身不厭。奚暇外慕。」第二小段實證。夫外慕徙業者。皆不造其堂。不嘗其哉者也』第三小段反說。○以上第一大段泛說事業本于心。往時張旭善草書。不治他技。喜怒窘窮。憂悲愉快。怨恨思慕。醉醒無聊不平。有動於心。必於草書焉發之。」第一小段言內有動于心。發之書。觀於物。見山水崖谷。鳥獸蟲魚。草木之花實。日月列星。風雨水火。雷霆霹靂。歌舞戰鬬。天地事物之變。可喜可愕。一寓於書。」第二小段言外有感于心。寓之書。故旭之書。變動猶鬼神。不可端倪。以此終其身而名後世。」第三小段結一大段。○以上第二大段說旭書本于心。○一二大段中敍事。句法錯落不一一樣。可見其變化。

今閑之於草書。有旭之心哉。

著ス。不噂其蔵云云、噂ハ嘗ムルナリ、蔵ハ大變ナリ、不造其堂不噂其蔵ハ、其玄妙ナル奥伎ニ至ラザルチ云フナリ。不可端倪ハ測知スベカラザルナリ。不得其心云云、張旭ノ心チ得ズ、其心チ究メ悟ラズシテ、徒ニ其影迹ノミチ逐ヒ求ムルノミニテハ、遂ニ旭タル域ニ達スル能ハズ。錙銖ハ輕微ナルティフ、二十四銖チ兩トシ八兩チ錙トス。解外膠云云、外膠ハ俗緣チイフ、利欲得喪ノ類是ナリ、解ハ解脫ナリ。委靡ハ振ハザルコト。得無象云云、其書亦奇拔ナル能ハズ。幻ハ眩ニ同ジ、相詐惑スルナリ、刀チ呑ミ、火チ吐キ、瓜チ植エ、人チ屠リ、馬チ截ル等ノ術チイフ。

一篇主意。在二此一句一。蓋表面疑閑無二旭之心一否。而裏面暗許有二旭之心一。何等含蓄。

不レ得二其心一。而逐二其迹一。未レ見二其能一旭也。」第一小段言閑浮屠無二爲旭有一レ道。利害必明。無レ遺二錙銖一。情炎二於中一。利欲鬪進。有レ得有レ喪。勃然不レ釋。然後一決於書一。而後旭可レ幾也。」第二小段言爲二旭之道一宜レ有二旭之心一。蓋申二上文一也。

今閑師浮屠氏。一死生。解二外膠一。是其爲レ心。必泊然無二所レ起。其於レ世。必淡然無二所レ嗜。泊與レ淡相遭。頹墮委靡。潰敗不レ可レ收拾。則其於レ書。得無二象之然一乎」。第三小段言閑無二旭情欲之心一。其心頹靡。其書亦應レ象之。而其書不レ然。甚可レ疑。蓋不レ能レ滅二其情欲之心一耳。意在二言外一。

然吾聞。浮屠人善レ幻。多二技能一。閑如通二其術一。則吾不レ能レ知矣。』第四小段疑閑或通二幻術一。故善レ書。蓋戲謔之言。實斷レ本二于心一。唯不レ置二斷語一。使レ人眩惑不レ能レ認二主意一。是公狡獪手段。亦對レ僧闢レ佛之言體宜レ如レ此。

○以上第三大段疑閑書不レ本二于心一而巧。然其

五岳ハ泰山、華山、嵩山、衡山、恆山ノ五山ヲ云フ。

駛ハ迅疾ナリ。

得三之二ハ衡山ノ高サヲ云フ。

淑ハ清淇ナリ。

蜿蟺云云、蜿蟺ハ屈曲ノ貌、扶輿ハ猗委ナリ、磅礴ハ猶ホ混同ノ如シ、蜿蟺以下皆清淑ノ氣充積スル貌ナイフ。

白金云云、白金ハ銀ナリ、水銀ハ丹砂ノ化スル所、水ノ如ク、銀ニ似タリ、故ニ名ク。

丹砂ハ朱砂ナリ。

石英ハ紫石英、白石英ノ類。

鍾乳ハ薬名、山嵓陰濕ノ處ニ生ジ、山液ヲ溜

# 送廖道士序

主意　惜下廖道士抱二魁奇之才一陷中老子之道上。

五岳於中州一。衡山最遠。南方之山。巍然高而大者。以レ百數。獨衡爲レ宗。最遠而獨爲レ宗。其神必靈」。第一小段言二神靈一。衡之南八九百里。地益高山益峻。水清而益駛。其最高而橫絕南北一者。嶺。桹之爲レ州。在レ嶺之上。測二其高下一。得二三之二一焉。中州清淑之氣。於レ是焉窮。氣之所レ窮。盛而不レ過。必蜿蟺扶輿。磅礴而鬱積」。第二小段言二氣清一。衡山之神。既靈而桹之爲レ州。又當中州清淑之氣一。蜿蜒扶輿。磅礴而鬱積。其水土之所レ生。神氣之所レ感。白金。水銀。丹砂。石英。鍾乳。橘柚之包。竹箭之美。千尋之名材。不レ能二獨當一也。意必有二魁奇忠信材德之民一生二其閒一。吾又未レ見也。其無乃迷二惑溺

メテ成ル。
橘柚ハおにたちばなナリ、書經ノ禹貢ニ厥包橘柚トアリ、包ハツツミナリ。
魁奇云云、魁ハ大ナリ、奇ハ偉ナリ、身長大卓異ニシテ倫ニ出ヅルナリ。
其無乃――人傑無キハ老氏佛者ノ學ニ惑ハサレ、溺レテ世ニ現ハレザルニアラザルカ。
若不在云云、廖師ハ魁奇ノ人傑ナレドモ、佛老ニ迷溺シ居ルナランカ、師ハ人ヲ知ルノ明アレバ、出デテ世ニ用ヒラルベシ、若シ其身ニアラズンバ、其與ニ遊ブ所ノ者ニアラン、之ヲ問ヘドモ答ヘザルハ何ゾヤ、蓋シ郪州ハ清氣集積スル所ナレバ、魁人モアルベシ、然ルニ老氏ノ道ニ溺レ世ノ用ヲ爲サザレバ惜ムベシトノ意ナリ。
上ハ穆宗ナリ。

沒於佛老之學而不出耶。」第三小段言神靈氣清。必生奇人。是雙關法。○以上第一大段疑郪州宜出魁奇之士。而未見之。

廖師、郪人。而學於衡山。氣專而容寂。多藝而善遊。豈吾所謂魁奇而迷溺者耶。」段正說。第一小

廖師善知人。若不在其身。必在其所與遊。訪之而不吾告。何也。於其別申以問之。」第二小段反說。○以上第二大段入題。惜廖師所謂魁奇之人。而迷溺于老。

## 郪州谿堂詩序

主意　言馬總平生德化之大功。不可不作詩頌之。

憲宗之十四年。始定東平。三分其地。以華州刺史禮部尚書。兼御史大夫扶風馬公。爲郪曹濮節度觀察等使。鎮其地。既一年。褒其軍號曰天平軍。」第一小段敍憲宗擧總鎮郪。

上卽位之二年。召公

入。且將用之。以其人之安公也。復歸之鎭。上之三年。公爲政於鄆。曹濮也。適四年矣。治成制定。衆志大固。惡絕於心。仁形於色。蒲心一力。以供國家之職。』第二小段敍治績之略。○以上第一大段略敍治鄆大意。於時沂密始分而殘其帥。其後幽鎭魏不悅於政。相扇繼變。復歸於舊。徐亦乘勢。逐帥自置。同於三方。惟鄆也。截然中居。四鄰望之。若防之置水。恃以無恐。然而皆曰。鄆爲虜巢。且六十年。將彊卒武。曹濮於鄆。州大而近。軍所根柢。皆驕以易怨。而公承死亡之後。掇拾之餘。剝膚椎髓。公私掃地。赤立。新舊不相保持。萬目睽睽。」第一小段詳敍治功。公於此時。能安以治之。其功爲大。若幽鎭魏徐之亂。不扇而變。其功反小。何也。公之始至。衆未熟化。以武則忿。以憾。以恩則橫。而肆。一以爲赤子。一以爲龍蛇。

嬉ハ專ナリ、衆皆心チ專ニシ、力チ一ニシテ、國家ノ用ニ供スルナリ。鄆民ノ馬公ノ治ニ安ンズルチ敍ス。殘其帥云云、王遂觀察使トナリテ政チ沙密ニ爲ス、王弁之チ殺ス。相扇繼變ハ、彼此扇動シテ變亂已ムナキ也。徐亦乘——徐ノ副使王智興其ノ帥崔詳チ逐ウテ自ラ留後トナリ、沂密幽魏ノ三方ト異ナルコトナシ。防ハ隄防ナリ、置ハ止メ防ガチ云フ。大而近、曹濮ハ大ナル州ニテ且鄆ニ近シ、勢侵害セラレ易シ。根柢ノ柢モ亦根ナリ。死亡之後掇拾之餘ハ殺掠侵害ノ後ナリ。剝膚椎髓ハ身チ粉ニ碎キテ治チ爲スチ云フ。公私云云、日用空乏シテ、相共ニ維持スルコ

ト、最困難ナルヲ云フ。
睽睽ハ目ヲ張ル貌。衆未熟化トハ、衆人化ニ霑ハザルナリ。
以爲赤——或ハ赤子ノ如ク單純ニシテ、僞リナク、或ハ龍蛇ノ變化スル如ク、何事ヲ仕出スカ測ラレズ。
憊心罷精ノ憊ハ羸困ナリ、罷ハ疲ト同シク、勞ナリ。
開國伯ハ唐宋以下國ニ封ズ、但名アリテ其實ナキモノナリ。
侈ハ多大ナリ。
槩ハ說文ニ繫ナリトアリ、つなぐナリ。
躋登ハ堂ヲ成就スルナリ。
休ハ美ナリ。
喑ハ言ハザルナリ。
帝奠九壖云云、壖ハ廬ニ同ジ、九壖ハ九州ナリ、奠ハ定ム、葉ハ世ナリ、九州ヲ治ムル數世數年ナリト云フ。
有荒不條ハ、荒亂シテ

憊心罷精。磨以歲月。然後致之難也。乃教之行。衆皆戴公爲親父母。夫叛父母從仇讐。非人之情。故曰易。』第二小段言他功小而易。公功大而難。○以上第二大段借客形主。詳敍治功。

於是天子以公爲尚書右僕射。封扶風縣開國伯。以褒嘉之。公亦樂衆之和。知人之悅。而侈上之賜也。於是爲堂於其居之西北隅。號曰谿堂。以饗士大夫。通上下之志。既饗。其從事陳曾謂其衆言。公之畜此邦。其勤不亦至乎。此邦之人。槩公之化。惟所令之。不亦順乎。上勤下順。遂躋登茲。不亦休乎。昔者人謂斯何。今者人謂斯何。雖然斯堂之作。意其有謂。而喑無詩歌。是不考引公德。而接邦人於道也。乃使來請。」第一小段堂。

其詩曰。

帝奠九壖。有葉有年。有荒不條。河岱之閒。及我憲考。一收正

條理ヲ成サヾルナリ。
憲考ハ憲宗ナリ。
來尸ノ尸ハ主ナリ。
徇ハ、フレ廻ルナリ。
分願ハ、身分ニ應ジタル願ナリ。
蟊ハ根ヲ食フ蟲、螟ハ心ヲ食フ蟲ニシテ、皆苗ヲ害ス。
羊狠狼貪云云、史記項羽本紀ニ、宋義曰ク、猛キコト虎ノ如ク、狠(かがま)ルコト羊ノ如ク、貪ルコト狼ノ如シトアリ、卽チ貪欲ノ意ナリ。
覆ハ、くつがへすナリ。
吹之ノ二句ハ其仁ヲ施スナイフ。
箴ハ鍼ニ同ジク、病ヲ刺治スル所以ナリ。
石ハ石砭ナイフ、いしばりナリ、此二句ハ害ヲ治スルナリ。
膊ハ衣ヲ去リテ晒スナイフ、磔ハ開クナリ、張ルナリ。
寧ハ唯ト讀ムベシ。
播播ハ散流ノ貌。
駸駸考考ハ共ニ鼓ノ聲ナリ、疾雷ノ如クニ鼓ヲ擊ツヲ駸ト云フ、考ハ擊ツナリ。
毉ハ及ビナリ。
屈ハ盡クルナリ。

之。視邦選侯。以公來尸。公來尸之。人始未信。公不飲食。以訓以徇。孰饑無食。孰吟孰歎。孰寃不問。不得分願。孰爲邦蟊。節根之螟。羊狠狼貪。以口覆城。吹之煦之。摩手拊之。箴之石之。膊而磔之。凡公四封。既富以彊。謂公吾父。孰違公令。可以師征。不寧守邦。公作谿堂。播播流水。淺有蒲蓮。深有蒹葦。公以賓燕。其彭駸駸。公燕谿堂。賓校醉飽。流有跳魚。岸有集鳥。既歌以舞。其鼓考考。公在谿堂。公御琴瑟。公暨賓贊。稽經諏律。施用不差。人用不屈。谿有賓芡。有龜有魚。公在中流。右詩左書。無我戮遺。此邦是庶。』　第二小段詩。○以上第三大段入題敍堂與詩。

# 荊潭唱和詩序

主意　言兩公氣滿志得而善詩章。○此篇應酬文字耳。

從事有示愈以荊潭酬和詩者。愈既受而卒業」。第一小段言讀詩。因仰而言曰。夫和平之音淡薄。而愁思之聲要妙。懽愉之辭難工。而窮苦之言易好也。是故文章之作。恆發於羈旅草野。至若王公貴人。氣滿志得。非性能而好之。揭主意。則不暇以爲』。第二小段言王公貴人氣滿志得。難能詩。○以上第一大段虛。今僕射裴公。開鎭蠻荊。統郡惟九。常侍揚公。領湖之南。壤地二千里。德刑之政。竝勸。爵祿之報。兩崇。乃能存志乎詩書。寓辭乎詠歌。往復循環。有倡斯和。搜奇抉怪。雕鏤文字。與韋布里閭。憔悴專壹之士。較其毫釐分寸。鏗鏘發金石。幽渺感鬼神。信所謂材全而能鉅者也』。以上第二大段實言

賈ハ苹ニシテうきぐさナリ。菰ハ雕胡ニシテまこもナリ。黍ハ厭フナリ、棄ツルナリ。

席ハ庇蔭ナリ、オホフナリ、公ノ此邦ヲ庇ヒ鎭メンヲ願フナリ。

荊潭ノ荊ハ荊南、潭ハ湖南ナリ。

要妙ハ精微ナリ。

懽愉ハ平和ヲ指シ、窮苦ハ愁思ヲ指ス。

往復循環ハ詩歌ヲ往復循環スルナリ。

韋布ハ韋帶布衣、賤者ヲイフ、閭里ハ處士ヲイフ、憔悴ハ瘠スルナリ、專壹ハ一技一曲ノ士ヲイフ。

鏗鏘ハ金石ノ聲。

幽渺ハ幽微精妙ナリ。

材全而能鉅ハ詩材完全ニシテ其能ハ大ナリ。告於公ノ公ハ裴均ヲ指ス。

屬而和之トハ、或人ガ詩ヲ作リ、又他人ガ其詩ニ和シテ作ルナリ。苟有編――苟モ此編ニアル詩ハ、皆優美ヲ盡セルモノニシテ、實ニ觀ルニ足ルモノナリ、サレバ之ヲ樂譜ニ入レ、書物ニ記シテ世人ノ歌誦スルコトヤ宜ナリ。

王公貴人而能詩。兩府之從事。與部屬之吏。屬而和之。苟在編者。咸可觀也。宜乎施之樂章。紀諸册書。」。第一小段附言府吏能和。從事曰。子之言是也。告於公。書以爲荊潭倡和詩序。』第二小段言作序。○以上第三大段敍所以作序結之。

唐宋八家文讀本卷四終

記ハ文體明辨ニ、事ヲ記スルノ文ナリ、記ノ名ハ載記學記ニ昉リ、其盛ナル唐ヨリ始ル、其文敍事ヲ以テ主トス、議論ニ渉ルモノハ則チ變體トストアリ。

河東公ハ裴均ノコト、裴鈞字ハ君齊ト云ヒ、河東ノ人ナレバシカ云フ。

紀年更元ハ、大曆十五年正月建中ト改元セシヲイフ。

惕慄ハ恐懼ナリ。

齒朝ノ齒ハ列ナリ。

百職事ハ百執事ト云フガ如シ。

故相國ハ前宰相ト云フニ同ジ。

太子賓客云云、漢ノ高

# 唐宋八家文讀本卷五

## 河南府同官記

主意　言五公前後出處功績略同。故同字眼目。

永貞元年。愈自陽山移江陵法曹參軍。獲事河東公。公嘗與其從事言。建中初。天子始紀年更元。命官司擧貞觀開元之烈。羣臣惕慄奉職。命材登良。不敢私違。當時自齒朝之士而上。以及下百職事。官闕一人將補。必取其良。」第一小段敍。然而河南同時於天下稱多。獨得將相五人。故於府之參軍。則得我公。於河南主簿。則得故相國范陽盧公。於汜水主簿。則得故相國今太子賓客滎陽鄭公。於陸渾主簿。則得相國今吏

祖太子ヲ易ヘント欲ス、呂后酈侯ノ計ヲ用ヒ、四皓ヲ迎ヘ、以テ太子ヲ定ム、故ニ賓客ノ名始テ此ニ起ル、唐顯慶元年于志寧等ヲ以テ太子賓客トナス、遂ニ以テ官ニ名ヅク、定メテ四人ヲ置ク、蓋シ法ヲ四皓ニ取ルト云フ。

盧公名ハ邁、字ハ子玄。鄭公名ハ餘慶、字ハ居業、滎陽ノ人。趙公名ハ宗儒、字ハ秉文、鄧州ノ人。顧公名ハ少連、字ハ夷仲、蘇州ノ人。

愿潔ノ愿ハ謹ナリ、潔ハ白ナリ、言フハ謹嚴ト潔白ナリ。

茂ハ盛ナリ。

其先トハ、均ノ曾祖行儉、祖光庭ナイフ。

厥聞休顯ノ聞ハ名達ナリ、休ハ美ナリ。

部侍郎天水趙公於登封主簿則得故吏部尚書東都留守吳郡顧公。『第二小段敍五公同官。猶得將相五人總提。○以上第一大段敍五公皆元爲同官于河南府。卽同其初者。』盧公去河南爲右補闕。其後由尚書左丞至宰相。鄭公去汜水爲監察御史。其後由工部侍郎至宰相。罷而又爲。趙公去陸渾佐山南軍。其後由給事中爲宰相。顧公去登封爲監察御史。其後由京兆尹至吏部尚書東都留守。我公去府爲長水尉。其後由膳部郎中爲荊南節度行軍司馬。遂爲節度使。自工部尚書至吏部尚書。『以上第二大段敍五公去河南三相國之勞在史冊。顧吏部愼職小心於時有聲。』第一小段敍三相及顧公。我公愿潔而沈密。開亮而卓偉。行茂於家。事修於官。嗣紹家烈。不違其先。作帥南荊。厥聞休顯。武志既揚。文教亦熙。登槐贊元。其慶且至。』第二

登槐贊元云云、登槐ハ三公ノ位ニ登ルヲ謂フ、周禮秋官ニ、面三槐ニ三公位焉トアリ、贊元ハ國ノ治化ヲ輔佐スルナリ。

官職雖――官府ニ仕ヘテ其職務ヲ異ニスト雖、又其功勞ヤ德望ヤ亦自ラ異ナルアレドモ、國家ノ爲ニ忠ヲ盡スト云フ點ニ至ツテハ同一ナリ。

七州ハ節襄、鄧、隋、唐、安、均、房ヲ云フ。

旌旗ノ旌ハ析羽ヲ旄首ニ付ケタルはた、旗ハ熊虎ノ猛威アルニアヤカリテ、其象ヲ畫クルはた、共ニ軍隊ニ用フルモノ。

衙ハ迎フルナリ。

三公云云、時ニ盧顧二公死ズ、故ニ只ダ裴、趙公。

小段敍二裴公一。其慶且至。其慶指下句後果爲二左僕射宰相一。○以上第三大段敍二五公功績一。卽有二忠勞於國家之同者一。獨歸二重于裴一。是主客之辨。故好語故事。故以爲五公之始迹也同。其後進而偕大也亦同。其稱名臣也又同。官職雖レ分。而功德有レ巨細。其有二忠勞於國家一也同。有若將レ同其後而先同其初也。有聞而問者。於是焉書。』以上第四大段結二五公前後同者三件一。故好語云云。故好語二句一件。結第一大段。其後一句二件一。結第二大段。其稱三句三件一。結第三大段。有若一句。主意歸宿。既五年。始立石。刻二其語一。河南府參軍舍庭中一。第一節敍二立石一。於レ時河東公爲二左僕射宰相一。出藩大邦。開二府漢南一。鄭公以二工部尚書一。留守東都。趙公以二吏部尚書一。鎭二江陵一。」第二節附敍三公。○第一小段刻記及附敍。漢南地連二七州一。戎士十萬。其官宰相也。第一節裴公。留守之官。居二禁省中一。歲時出旌旗。序二留司文武百官一。於二宮城門外一而衙レ之。第二節鄭公。江陵故楚都也。戎士五萬。第三節趙公。三公同時千里相望。可レ謂レ盛矣。第四節結二三公之盛一。

趙、鄭三公アリ。

滕王閣ハ、唐ノ高宗ノ子元嬰、洪州ノ刺史トナリテ此ヲ置ク、時ニ滕王ニ封ゼラル、故ニ滕王閣トイフ。

瑰偉ノ瑰ハ瑰ニ同ジク怪異ナリ。

三王所爲トハ、王勃序ヲ作リ、王緒賦ヲ作リ、今中丞王仲舒記ヲ作ルヲ謂フ。

十四年ハ憲宗ノ元和十四年ナリ。

言事ハ退之ノ佛骨ヲ論ジタルヲイフ。

揭陽ハ唐ノ潮州ノコト、潮州ハモト漢ノ南海ノ揭陽ノ地ナリ。

取疾ノ疾ハ捷徑ニシテちかみちナリ。

○第二小段更敍三公兵戎之盛。仍是附敍。河東公名均。姓裴氏。』第三小段記河東公姓名。歸重於主。○以上第五大段敍刻記之由。附以三公現今之事。歸重于裴公。

## 新修滕王閣記

主意　言作記以償不造觀之願。○此篇。全然空中樓閣之文。然以敍記筆行之。不覺空中樓閣。與後人空構議論自逕庭。

愈少時。側聞江南多游觀之美。而滕王閣獨爲第一。有瑰偉絕特之稱。及得三王所爲序賦記等。壯其文辭。益欲往一觀而讀之。以忘吾憂。係官於朝。願莫之遂。」第一小段敍一不造觀。願莫之遂。全篇生此一句。

十四年。以言事斥守揭陽。便道取疾以至海上。又不得過南昌而觀所謂滕王閣者。」第二小段敍其冬以天子進大號。加恩區內。移刺袁州。袁於南昌爲屬邑。私喜幸自語。以爲當得躬

刺袁州トハ袁州ニ刺史トナルヲイフ。

詣大府。受約束於下執事。及其無事且還。儻得一至其處。竊寄目償所願焉。第一節　敍願。至州之七月。詔以中書舍人太原王公爲御史中丞。觀察江南西道。洪江饒虔吉信撫袁悉屬治所。八州之人。前所不便。及所願欲而不得者。公至之日。皆罷行之。大者驛聞。小者立變。春生秋殺。陽開陰閉。令修於庭戸。數日之閒。而人自得於湖山千里之外。吾雖欲出意見。論利害。聽命於幕下。而吾州乃無一事可假而行者。又安得捨己所事。以勤館人。則滕王閣又無因而至焉矣。』第二節　敍不レ造。八州之人云云。敍二己懷一中已敍二公治功一妙。○第三小段敍二三不一造觀一。○以上第一大段記二不得一造觀一。其歳九月。人吏洽和。公與二監軍使一燕於此閣。文武賓士。皆與在席。酒半。合辭言曰。此屋不修且壞。前公爲從事此邦。適理新之。公所爲文。實書在レ壁。今三十

罷行トハ不便トスル所之ヲ罷メ、願欲スル所之ヲ行フヲイフ。

大者驛――事件ノ大ナルモノハ、驛傳シテ朝廷ニ奏上シ、事件ノ小ナルモノハ、卽時ニ便宜之ヲ決行ス。

春生云云、春ノ萬物ヲ生ジ、秋ノ萬物ヲ殺スガ如ク、陽ナルモノハ開キ行ヒ、陰ナル事ハ閉ヂ止ム、陽ハ春ヲ受ケ、陰ハ秋ヲ受ク。

勤館人ノ勤ハ勞煩セシムルナリ。

洽和ノ洽ハ治ニ同ジクやはらぐナリ。

年。而公來爲邦伯。適及期月。公又來燕於此。公烏得無情哉。公應曰諾。」第一小段敍修閣之由。於是棟楹梁桷板檻之腐黑撓折者。蓋瓦級甎之破缺者。赤白之漫漶不鮮者。治之則已。無侈前人。無廢後觀。工既訖功。公以衆飲。而以書命愈曰。子其爲我記之。」第二小段敍修閣。○以上第二大段記修閣。愈既以未得造觀爲嘆。竊喜載名其上。詞列三王之次。有榮耀焉。乃不辭而承公命。」第一小段總收。未得造觀四字。結一篇主意。其江山之好。登望之樂。雖老矣。如獲從公游。尚能爲公賦之。』第二小段補敍。○以上第三大段言以作記償不得造觀之願。是一篇主意。

腐黑ノ黑ハ火ノ薫ズル所ノ色、撓ハ屈ナリ。蓋ハ屋ヲ謂フ、級ハ堂ニ升ル階級ナリ。漫漶ハ分別ス可カラザル貌。以衆飲ノ以ハ與ニ通ズ。

其江山——山水優游ノ快樂ハ、元來予ノ好ム所ナレバ、若シ貴公ノ隨伴ヲ得バ、奮ツテ貴公ノ爲ニ文筆ノ勞ヲ取ラン。

## 燕喜亭記

主意　言ヲ王弘中之德。與ニ山水一稱。

王弘中名ハ仲舒。

輦糞壤ノ輦ハ輓運ナリ、糞ハ穢ナリ、卽チ穢土ヲ運搬スルナリ。

檔翳ノ檔ハ木ノ立チナガラ死セルヲ云フ、卽チたちがれナリ、翳ハ木ノ自ラ斃レテ死スルヲ云フ、卽チ枯木ナリ。

呀然ノ呀ハ口ヲ張ル貌。

窪ハ汙下ナリ。

峻德ノ峻ハ立チテ待ツ也、漢書賈誼傳ニ、罪ヲ長沙ニ峻ツトアリ。

謙受之谷云云、書經ノ大禹謨ニ、謙ハ益ヲ受クトアル語ニ因ル。

振鷺之瀑云云、詩經ノ周頌振鷺篇ニ、振鷺于飛トアリ、注ニ、振ハ翬飛ノ貌、瀑ハ懸泉激流ナリト見ユ。

秩秩之瀑云云、詩經ノ大雅假樂篇ニ、德音秩秩トアリ、注ニ、秩秩ハ序アルナリト見ユ。

太原王弘中在連州。與學佛人景常元慧游。異日從二人者一行於其居之後。荒邱之閒。上レ高而望。得二異處一焉。斬レ茅而嘉樹列。發レ石而清泉激。輦糞壤。燔檔翳。卻立而視レ之。出者突然成レ邱。陷者呀然成レ谷。窪者爲レ池。而缺者爲レ洞。若有二鬼神異物一陰來相レ之。自レ是弘中與二一人一者。晨往而夕忘レ歸焉。乃立レ屋以避レ風雨寒暑。」以上第一大段記二開園築亭一。若有鬼神云云三句、伏二全篇一言二有德故鬼神以山水一付レ之。既成。愈請レ名レ之。其邱曰二峻德之邱一。蔽二於古一而顯二於今一。有二峻之道一也。其石谷曰二謙受之谷一。瀑曰二振鷺之瀑一。谷言レ德。瀑言レ容也。其土谷曰二黃金之谷一。瀑曰二秩秩之瀑一。谷言レ容。瀑言レ德也。洞曰二寒居之洞一。志二其入時一也。池曰二君子之池一。虛以鍾二其美一。盈以出二其惡一也。泉之源曰二天澤之泉一。出高而施レ下也。合而名レ之以レ屋。曰二燕喜之亭一。取二詩所

志其入——人洞ニ入ル時、必ズ寒氣體ヲ侵スヲ覺ユ。

鍾ハ聚ムルナリ。

魯侯燕喜ノコト、詩經ノ魯頌閟宮篇ニ見ユ。

莫直ノ直ハ當ルナリ。

浙湍ハ二川ノ名。

狖ハ黑猿ナリ。

傳曰云云、論語雍也篇ニ見ユ。

羽儀云云、天朝ニ仕ヘテ世用ヲナスヲ謂フ、易ノ漸ノ卦ニ、其羽可ニ用爲ル儀ト一アリ、儀ハ飾ナリ、羽旌旄纛ノ飾ヲ謂フ。

謂魯侯燕喜者頌也」。第一小段景名。其邱曰嵓德之邱云云。記ニ邱谷之德一。卽記ニ弘中之德一也。後段德字伏案。於レ是州民之老。聞而相與觀焉。曰。吾州之山水名ニ天下一。然而無ニ與燕喜者一比。經營於其側者相接也。而莫レ直ニ其地一。凡天作而地藏之。以遺ニ其人一乎』。第二小段總束。○以上第二大段記ニ景與名一。弘中自ニ吏部郎一貶レ秩而來。次ニ其道途所一レ經。自ニ藍田一入ニ商洛一。涉ニ浙湍一。臨ニ漢水一。升ニ峴首一以望ニ方城一。出ニ荊門一下ニ岷江一。過ニ洞庭一上ニ湘水一。行ニ衡山之下一。繇レ郴踰レ嶺。猿狖所レ家。魚龍所レ宮。極ニ幽遐瑰詭之觀一。宜ニ其於山水一飫聞而厭見レ也。今其意乃若レ不レ足。傳曰。智者樂レ水。仁者樂レ山。弘中之德。與ニ其所一レ好。可レ謂レ協レ矣」。第一小段德與ニ山水一稱。智以謀レ之。仁以居レ之。吾知レ其去レ是而羽ニ儀於天朝一也不レ遠矣。遂刻レ石以レ記』。第二小段望ニ其將來立一レ朝。是餘波。○以上第三大段記ニ弘中之德與ニ山水一稱。是一篇主意。○轉得妙。

偪ハ逼ニ同ジ、侵迫ナリ。
文書云云、官尊ク勢威ナシ、吏之ニ遇フ、敬スルガ如ク、敬セザルガ如シ、敍事妙絶ナルヲ見ル。
鉗ハ夾持ナリ。
摘ハ取ルナリ。
鴈鶩行云云ノ行ハ歩趨ナリ、睨ハ邪視ナリ、署ハ書ナリ、名ヲ書スルヲ謂フ。
吏曰云云ノ退ハ吏ニ屬シ、省ハ丞ニ屬ス。
諺數慢——諺ニ怠慢スル者ヲ詈ツテ丞トイフ、訾ハ毀ナリ、弊ハ不肖ノ語ナリ。
端ハ正ニシテ𠮟ニト

# 藍田縣丞廳壁記

主意　寫丞之不平。刺時弊。

丞之職。所以貳令。於一邑無所不當問。其下主簿尉。主簿尉乃有分職。丞位高而偪。例以嫌。不可否事。」第一小段敍無權之原由。文書行。吏抱成案詣丞。丞卷其前。鉗以左手。右手摘紙尾。鴈鶩行以進。平立睨丞曰。當署。丞涉筆。占位署。惟謹。目吏問可不可。吏曰。得則退。不敢略省。漫不知何事。官雖尊力勢反出主簿尉下。諺數慢必曰丞。至以相訾謷。丞之設豈端使然哉。』第二小段敍無權。涉筆弄筆也。豈端使然哉。韓非飾邪篇。非以端惡子反也。注。端故也。退之用端字。本于此。○以上第一大段泛記當時丞無權。博陵崔斯立。種學績文。以蓄其有。泓涵演迤。日大以肆。貞元初。挾其能戰藝於京師。

再進再出於人。元和初。以前大理評事言得失。黜官。再轉而爲丞茲邑。」第一小段履歷。種學績文。種績謂攻苦。始至喟曰。官無卑。顧材不足塞責。既噤不得施用。又喟曰。丞哉丞哉。余不負丞。而丞負余。則盡枿去牙角。一蹶故跡。破崖岸而爲之。』第二小段現職。〇以上第二大段記崔斯立爲丞之不平。丞廳故有記。壞漏朽不可讀。斯立易桷與瓦。墁治壁。悉書前任人名氏。」第一小段記修治。庭有老槐四行。南牆鉅竹千梃。儼立若相持。水瀕瀕循除鳴。斯立痛掃溉。對樹二松。日哦其閒。有問者。輒對曰。余方有公事。子姑去。』第二小段記荒涼景。〇老槐四行。行與淚萬行之少不平。〇以上第三大段記丞廳。

## 畫記

主意　感趙侍御喪此畫而再觀贈之。作此記自釋。

訓ズ。種學績文云云、學問文章ヲ以テ種樹績絲ノ事ニ喩フルナリ。泓潁演迤ノ泓潁ハ水下深ニシテ多キヲ云ヒ演迤ハ水長流シテ溢ルルナリ、學問ノ深博ナルヲ言フ。喟ハ大息ナリ。噤ハ口ヲ閉ヅルナリ。枿去ノ枿ハ蘖木ニ同ジク、木ノ斬ラレテ復タ生ズルナリ、枿去ハ之ヲ去ルコト、枿ヲ去ルガ如クスルナイフ。崖岸ハ物ニ和セザルナイフ。悉書前云云ハ、皆施用シ得ザリシ者ヲ云フ。墁ハ牆壁ノ飾ナリ。梃ハ一枚ナリ。瀕瀕ハ水聲、除ハ庭除ナリ、庭階ナリ。

雜古今云云、一人ノ人物ニアラズ、故ニ雜トイヒ、一時ノ人物ニアラズ、故ニ古今トイフ。

田犬ハ獵犬ナリ。

羈靮ノ羈ハ馬絆ナリ、即チたづな、靮ハ馬轡（きづな）ナリ。

鈇鉞ハをの、まさかりニシテ、征討主將ノ威信チ表スルタメニ執ルモノナリ、左傳昭公十五年ノ疏ニ、鈇大ニシテ斧小ナリトアリ。

幟ハ旌旗ノ屬、はたナリ、のぼりナリ。

脫足ハ兩脚チ申ブルチ謂フ。

壺矢ハ、投壺ト云フ遊戲ニ用フル矢。

挹且注者トハ水チ酌ミ又注ギナドスルモノナリ。

載而上下ハ車チ上ドスルチ謂フ。

雜古今人物小畫共一卷」第一小段總提。騎而立者五人。騎而被甲載兵立者十人。一人騎執大旗前立。騎而被甲載兵行且下牽者十人。騎而負者二人。騎執器者二人。騎擁田犬者一人。騎而牽者二人。騎而驅者三人。執羈靮立者二人。騎而下倚馬臂隼而立者一人。騎而驅涉者二人。徒而驅牧者二人。坐而指使者一人。甲冑手弓矢。鈇鉞植者七人。甲冑執幟植者十人。負者七人。偃寢休者二人。甲冑坐睡者一人。方涉者一人。坐而脫足者一人。寒附火者一人。雜執器物役者八人。奉壺矢者一人。舍而具食者十有一人。挹且注者四人。牛牽者二人。驢驅者四人。一人杖而負者。婦人以孺子載而可見者六人。載而上下者三人。孺子戲者九人。凡人之事三十有二。

爲レ人大小百二十有三。而莫レ有二同者一焉」。第二小段記レ人。馬ノ大者九匹。於テ二馬之中一。又有リ上ナル者。下ナル者。行ク者。牽ク者。涉ル者。陸スル者。翹ツマダツル者。顧ル者。鳴ク者。寢ヌル者。訛ウゴク者。立ツ者。人立スル者。齕カム者。飮ム者。溲スル者。陟ル者。降ル者。痒シヂテ二摩スル一レ樹者。噓スル者。嗅グ者。喜シヂテ相戲ルル者。怒ツヂテ相踶ケツスル齧カフ者。秣カフ者。騎ル者。驟カケル者。走ル者。載二スル服物一者。載二スル狐兎一者。凡ソ馬之事二十有七。爲レ馬大小八十有三。而莫レ有二同者一焉」。第三小段記レ馬。又有上者有下者。上下以二馬品一言。故不レ在二馬事之數中一。馬之事。數行者牽者以下也。牛大小十一頭。橐駝三頭。驢如二橐駝之數一而加二其一一焉。隼一。犬羊狐兎麋鹿共二三十。旃車三兩。雜兵器。弓矢。旌旗。刀劍。矛楯。弓服。矢房。甲冑之屬。鉼二盂簦笠一。筐筥。錡釜。飮食服用之器。壺矢博奕之具。二百五十有一。皆曲極二其妙一焉』。第四小段記二諸畜及器物一。○以上第一大段畫記。貞元甲戌年。余在二京師一。甚無レ事。同居有二獨孤生申叔者一。始得二此畫一而

上者下者云云ハ馬足ノ差等ヲ謂フ。
陸者ハ渉ル者ヲ承ケテ言フ、陸ハ方ニ水ヲ出ヅルコト。
翹ハ足ヲ擧グルナリ。
訛者ハ草ヲ齧ム者。
溲ハ小便ナリ。
磨ハ摺磨ナリ。
驟者ハ、疾歩ヲ驟ト曰フ、走者ニ比スレバ少シ緩キナリ。
旃車ハ車ノ旃ヲ豎ツルモノナリ。
筐筥錡釜云云、方ヲ筐トイヒ、圓ヲ筥トイフ皆竹ヲ以テ爲ル、錡ハ釜ノ屬、足アルヲ錡トイヒ、足ナキヲ釜トイフ。

彈棊ハ蓋シ漢武帝ニ始ル。

少而進ノ少ハ少頃ナリ。

手模ノ模ハ摸ニ同ジ。國本ノ國ハ國士ノ國、卽チすぐれたるなり。

大都ハ大槩ナリ。

與余彈棊。余幸勝而獲焉。意甚惜之。以爲非一工人之所能運思。蓋裒集衆工人之所長耳。雖百金不願易也」。第一小段記與獨孤生棊而獲之。

明年出京師至河陽。與二三客論畫品格。因出而觀之。座有趙侍御者。君子人也。見之戚然。若有感然。少而進曰。噫余之手模也。亡之且二十年矣。余少時。常有志乎茲事。得國本。絕人事而模得之。遊閩中而喪焉。居閒處獨時。往來余懷也。以其始爲之勞。而夙好之篤也。今雖遇之。力不能爲矣。且命工人存其大都焉」。第二小段記趙侍御元模而喪。再觀之事。力不能爲矣。言力衰不能模。余既甚愛之。又感趙君之事。因以贈之。而記其人物之形狀與數。而時觀之以自釋焉。』第二小段記韓贈趙而自記自慰之事。○以上第二大段作記之因。

歲擧進士トハ、毎年擧子ニ應ジテ禮部ニ試ミラルルヲ謂フ、進士ニ成ルハ能ハザルガ故ニ太學生ト稱ス。
助教ハ從七品上、博士ハ正六品上、文武官五品以上、及郡縣公ノ子孫、從三品ノ曾孫ノ生レタル者ヲ教フルヲ掌ル。
司業ハ從四位下、祭酒ハ從三品、邦國儒學訓導ノ政令ヲ掌ル。
焯焯ハ灼灼ニ同ジ、明ナリ。
升於禮部ハ、進士ニ擧ゲラルルヲ謂フ。
選紀ノ選ハ、算ニ同ジ。
六館ハ國子、太學、四門、律、書、算ナイフ。

# 太學生何蕃傳

主意　惜ミ蕃之學行不ニ遠施一。

太學生何蕃。入ニ太學一者廿餘年矣。歲擧進士。學成行尊。自ニ太學諸生一推頌。不ニ敢與一レ蕃齒。相與言ニ於助教博士一。助教博士以レ狀申ニ於司業祭酒一。司業祭酒撰ニ次蕃之羣行焯焯一者數十餘事一。以レ之升ニ於禮部一。而以聞ニ於天子一。京師諸生以薦ニ蕃名一。文說ニ者不一レ可ニ選紀一。公卿大夫知レ蕃者。比レ肩立莫レ爲ニ禮部一。爲ニ禮部一者。不ニ率蕃所一レ不レ合者。以レ是無ニ成功一。』以上第一大段大意。蕃。淮南人。父母具ニ全一。初入ニ太學一。歲率一レ歸。父母止レ之。其後閒ニ一二歲一。乃一レ歸。又止レ之。不レ歸者五歲矣。蕃純孝人也。閔ニ親之老一。不ニ自克一。一日。揖ニ諸生一。歸ニ養於和州一。諸生不一レ能レ止。乃閉ニ蕃空舍中一。於レ是太學六館之

於是ハ、是時ニ於テナリ、此例左傳ニ多シ。

不果留トハ既ニ太學祭酒ヲ闕キ、今城又司業ヲ罷ム、故ニ蕃ノ謂ム可ラザルヲ謂フ。

字焉ノ字ハ撫養ナリ。

以力復ノ復ハ報ナリ。

蕃之力——蕃ハ身體強健ニシテ腕力餘リアル如ク見エレドモ案外ニ薄弱ナリ、其容貌魁偉ニシテ精神剛毅ナルガ如クナレドモ然ラズ、故ニ吾彼ノ果シテ勇者ナルカヲ信ゼズ。

士百餘人。又以蕃之義行。言於司業陽先生城。請諡留蕃。於是太學闕祭酒。會陽先生出道州。不果留。」第一小段記純孝。歐陽詹生言曰。蕃仁勇人也。或者曰。蕃居太學。諸生不爲非義。葬死者之無歸。哀其孤而字焉。惠之大小。必以力復。斯其所謂仁歟。蕃之力不任其體。其貌不任其心。吾不知其勇也。歐陽詹生曰。朱泚之亂。太學諸生舉將從之。來請起蕃。蕃正色叱之。六館之士不從亂。茲非其勇歟』上第二小段記仁勇。○以第二大段詳說行狀。惜乎蕃之居下。其可以施於人者不流也。譬之水。其爲澤不爲川乎。川者高。澤者卑。高者流。卑者止。是故蕃之仁義充諸心。行諸太學。積者多。施者不遐也」。第一小段惜學行不施。蕃之仁義云云。主意歸宿。天將雨。水氣上。無擇於川澤澗谿之高下。然則澤之道其亦有施乎。抑有待於彼者

歟。故凡貧賤之士。必有レ待然後能有レ所レ立。獨何蕃歟。吾是以、言レ之。無レ亦使レ其無傳焉』。第二小段更進一歩說。餘音嫋嫋。○以上第三大段總論。前二段似レ論レ贊。

## 圬者王承福傳

主意　借二圬者言一。諷二世之享二貴富一而無レ功亡レ身者。

圬之爲レ技。賤且勞者也。有レ業レ之。其色若レ自得者。聽二其言一約而盡」第一小段序論。問レ之王。其姓。承福其名。世爲二京兆長安農夫一。天寶之亂。發レ人爲レ兵。持二弓矢一十三年。有レ官勳。棄レ之來歸。喪二其土田一。手鏝衣食。餘三十年一。舍二於市之主人一。而歸二其屋食之當一焉。視二時屋食之貴賤一。而上下其圬之傭一。以償レ之。有レ餘。則以與二道路之廢疾餓者一焉。第二小段言二手鏝衣食一。又曰。粟稼而生者也。若布與レ帛。必

圬者ノ圬ハ杇ニ同ジ、左傳襄三十一年ニ圬人以レ時塡二館宮室一トアリ、注、圬人ハ塗者ナリトアリ。

天寶之亂ハ安祿山ノ反逆ヲ謂フ。

持弓矢云云ハ、天寶十四年、安祿山ノ反スル時、帝郭子儀ヲ以テ節度使トナシテ之ヲ討ジ、內府錢帛ヲ出シ、京師ニ於テ兵ヲ募ル十一萬、旬日ニシテ集ル、皆市井ノ子弟ナルヲイフ。

鏝ハ杇ニシテ杇具ナリ、塗工ノ具ナリ。

屋食之當ノ當ハ當ル所ノ直ナリ。

又誠有――眞實ニ功勞アリテ之ニ對スル報酬ヲ得ルナラバ、身體如何ニ勞スト雖、心中何ノ愧ヅル所ナケレバ、至テ安キナリ。

夫力易云云、力ヲ以テ功ヲ奏スルコトハ易ク、心ヲ以テ智ヲ得ルコトハ難シ、是レ肉體的力役ハ易クシテ、精神的事業ハ難キノ意。

墟ハ空地ナリ。

歸之官トハ官ニ沒收スルナリ。

蠶績而後成者也。其他所以養生之具。皆待人力而後完也。吾皆賴之。然人不可徧爲。宜乎各致其能以相生也。故君者理吾所以生者也。而百官者。承君之化者也。任有小大。惟其所能。若器皿焉。食焉而怠其事。必有天殃。故吾不敢一日舍鏝以嬉。夫鏝易能可力焉。又誠有功。取其直。雖勞無愧。吾心安焉。夫力易强而有功也。心難强而有智也。用力者使於人。用心者使人。亦其宜也。吾特擇其易爲而無愧者取焉」。第三小段

言擇吾力所易爲爲業。

嘻吾操鏝以入貴富之家有年矣。有一至者焉。又往過之則爲墟矣。有再至三至者焉。而往過之則爲墟矣。問之其鄰。或曰。噫刑戮也。或曰身既死。而其子孫不能有也。或曰死而歸之官也。吾以是觀之。非所謂食焉怠其事。而得天

殃者邪。非强心以智而不足。不擇其才之稱否而冒之者邪。非多行可愧。知其不可而强爲之者邪。將貴富難守。薄功而厚饗之者邪。抑豐悴有時。一去一來而不可常者邪。吾之心憫焉。是故擇其力之可能者行焉。樂富貴而悲貧賤。我豈異於人哉。第四小段諷世愈。其事得天殃者。

又曰。功大者。其所以自奉也博。妻與子。皆養於我者也。吾能薄而功小。不有之可也。又吾所謂勞力者。若立吾家而力不足。則心又勞也。一身而二任焉。雖聖者不可能也。』第五小段言吾力不足成家。故安寄食。○以上第一大段記言。

愈始聞而惑之。又從而思之。蓋賢者也。蓋所謂獨善其身者也。」第一小段贊圬者獨善其身。是揚。

然吾有譏焉。謂其自爲也過多。其爲人也過少。其學楊朱之道者邪。楊之道。不肯拔我一毛而利天下。而夫人以有家爲勞心。不肯一

不擇其——己ノ才能ノ果シテ其職務ニ適セリヤ否ヤヲ顧ミズシテ、遂ニ其責任ヲ盡クス能ハズ。

豐悴ハ猶ホ盛衰ノ如シ。

所謂勞力者云云、孟子滕文公上篇ニ見ユ、心ヲ勞スル者ハ人ヲ治メ、力ヲ勞スル者ハ人ニ治メラルトアリ。

一身而云云、耕シテ且ツ爲スベカラザル意ナリ。

獨善其身云云、孟子盡心上篇ニ、古ノ人志ヲ得バ、澤、民ニ加フ、志ヲ得ザレバ、身ヲ修メテ世ニ見ハル、窮スレバ則チ獨其身ヲ善クシ、達スレバ則チ兼ネテ天下ヲ善クストア

リ。楊之道云云、孟子盡心上篇ニ、楊子我ガ爲ニスルヲ取リ、一毛ヲ拔イテ天下ヲ利スルコトハ爲サザルナリトアリ。

昉際ハ際視ニ同ジ、見ノコト、禮記曲禮ニ見チ明晰トイフトアリ。十二神ハ蔣注ニ、十二物ヲ以テ十二神トナス。相承クルコト已ニ久シトアリ、亦從來スル所ヲ見ズ、又十二神ノ事王充論衡ニ見ユ、又佛說ニ十二神將アリ、子丑寅卯等ヲ以テ之ニ配ス。

動ニ其心ヲ一以テ畜ヤシナハ其妻子ヲ一。其レ肯テ勞シテ二其心ヲ一以テ爲ニセンヤ二人レ乎哉」。第二小段譏ニ圹者自爲而不レ爲レ人。是抑。雖レ然リトモ其賢ルコトヲ於下世之患ヘテルナ不レ得レ之ヲ一。而テ患フルコトヲ失レ之者。以テ二貪邪ニシテ一而亡レ道ヲ一。以テ喪ニス其身ヲ一者レ。其レ亦遠シ矣。又其言有リ可キヲ一以テ警ムレ余ヲ者。故ニ余爲ツテガ之ヲ一傳ヘテ而自ミ鑒トス焉』。第三小段贊ニ其勝ニ世之貪邪喪レ身者一是揚。○以上第二大段論贊。

## 毛穎傳

主意　言ニ秦少レ恩。

毛穎者。中山ノ人也。其先ハ明晰。佐レ禹ヲ治ニ東方ノ土ヲ一。養ヒ萬物ヲ一有リ功。因テ封ゼラレ於卯ノ地ニ一。死シテ爲ル十二神ト一。嘗テ曰ク。吾ガ子孫ハ神明之後。不レ可ラト二與レ物同ジカル一。當ニ吐イテ而生ズ一。已ニシテ而果シテ然リ。明晰八世ノ孫ベシ。世ニ傳ヘテ當ツテ殷ノ時ニ一居リ二中山ニ一。得テ二神仙之術ヲ一。能ク匿レ光ヲ使レ物ヲシテ二窈ニ姮娥ヲ一。騎リテ二蟾蜍ニ一入ル月ニ一。其後代遂ニ隱レテ不

當吐而生云云、博物志ニ、兎月ヲ望ンデ孕ム、口中子ヲ吐ク、故ニ之ヲ兎ト謂フ、兎ハ吐ナリトアリ。八世孫毚ハ、爾雅ニ、兎ノ子嬔トアリ、注ニ、俗呼ンデ豲トイフ、豲ハ毚ニ同ジ。竊妬娥ノ妬ハ嫦ニ同ジ、嫦娥ハ羿ノ妻ナリ、張衡ノ靈憲ニ羿不死ノ藥ヲ西王母ニ請フ、妬娥之ヲ竊ミ、月宮ニ奔ル、コレ蟾蜍タリ。居東郭ハ、戰國策齊策ニ云、東郭ノ兎ナルモノハ天下ノ狡兎也ト。韓盧云云、博物志ニ、韓國ニ黑犬アリ盧トイフ、宋ニ駿犬アリ鵲トイフ、漢書嚴延年ノ傳ニハ韓盧ヲ兎トセリ、盧ハ黑色ナリ。蒙將軍云云、蒙恬筆ヲ造ル、蓋シ恬造ル所ノ筆始メテ兎毫ヲ加フ。連山ハ、三易ノ法、夏ニ連山トイフ。天與人文ハ猶ホ賁ノ卦ニ天文人文ト云ヘルガ如シ。衣褐之徒云云、兎大ナルコト貍ノ如シ、而シ

仕云」。第一小段敍ニ先顯後隱一。居二東郭一者曰二兎。狡而善走一。與二韓盧一爭レ能。盧不及。怒。與二宋鵲一謀而殺レ之。醢二其家一』。以上第一大段敍二子孫衰亡一。〇秦始皇ノ時。蒙將軍恬。南伐二楚次一。中山一。將二大獵一。以懼レ楚。召二左右庶長與一。軍尉一。以二連山一筮レ之。得二天與人文之兆一。筮者賀曰。今日之獲。不角不レ牙。衣レ褐之徒。缺口而長鬚。八竅而趺居。獨取二其髦一。簡牘是資。天下其同レ書。秦其遂兼二諸侯一乎」。第一小段敍ニ蒙恬得二吉筮一。遂獵二圍毛氏之族一。拔二其豪一。載レ穎而歸。獻俘於章臺宮。聚二其族一而加二束縛一焉。秦皇帝使二恬賜一レ之湯沐一。而封二之管城一。號曰二管城子一。日見二親寵一。任レ事。』第二小段敍ニ爲二蒙恬所一レ獲。始皇用レ之。〇以上第二大段敍ニ穎出身一。穎爲レ人。强記而便敏。自結繩之代以及二秦事一。無レ不二纂錄一。陰陽卜筮占相。醫方族氏。山經地志。字書圖畫。九流百家。天人之書。及至二浮圖老子外國之說一。皆所

テ毛褐ナリ。
缺口云云、兎脣缺ケテ脾ナシ、長鬚ニシテ前足短シト本草集解ニアリ。
八竅云云、埤雅ニ、嗢噦スルモノ九竅ニシテ胎生ス、獨リ兎ノ雌雄八竅トアリ、趺居ハ屈曲シテ坐スルナリ。
髦ハ毛中ノ長毫。
章臺宮ハ秦ノ宮殿ノ名。
湯沐云云ハ湯沐ノ邑ヲ賜ハルヲ言フ、湯沐トハ其賦稅ヲ取リ、以テ湯沐ノ具ニ供スルナリ、筆ヲ製スルモノ既ニ束ネテ之ヲ洗刷ス、故ニ湯沐ヲ賜フトイフ。
便敏ノ便ハ熟ナリ。
以衡石云云、史記成紀ニ、始皇剛戾自ラ用ユ、事大小トナク皆上決ス、衡石ヲ以テ書ヲ量リ日夜程アリ、程ニ當ラザレバ休息スルヲ得ズトアリ、衡ハ稱衡、石ハ稱錘ナリ。
絳人云云、唐絳州墨ヲ貢シ、虢州瓦硯ヲ貢シ、會稽紙ヲ貢ス、故ニ借

詳悉。又通於當代之務。官府簿書。市井貨錢。注記。惟上所使。」第一小段敍多能。

自秦皇帝及太子扶蘇胡亥。丞相斯。中車府令高。下及國人。無不愛重。又善隨人意。正直邪曲巧拙。一隨其人。雖見廢棄。終默不洩。惟不喜武士。然見請亦時往。』第二小段敍上所愛。○以上第三大段敍其能。

累拜中書令。與上益狎。上嘗呼爲中書君。上親決事。以衡石自程。雖官人不得立左右。獨穎與執燭者常侍。上休方罷。」第一小段敍爲始皇所寵任。

穎與絳人陳玄。弘農陶泓。及會稽褚先生友善。相推致。其出處必偕。上召穎。三人者不待詔。輒俱往。上未嘗怪焉。』第二小段敍推致其友。○以上第四大段敍寵任。

後因進見。上將有任使。拂拭之。因免冠謝。上見其髮禿。又所摹畫。不能稱上意。嘻笑曰。中書君老而禿。不任吾用。吾嘗謂君中書。君今不中書耶。對曰。臣所

リテ之ヲ名ス、弘農ハ虢州ニ屬ス。

楮先生云云、史記ヲ補スルモノヲ楮先生ニ擬ス、紙ナリ。

盡心者――林西仲曰ク、筆心已ニ盡ク寫ニ中ラズノ意ト、何義門曰ク、子雲心盡ノ意ヲ用フト。

所謂魯云云、左傳僖二十四年ニ見ユ。

毛公毛遂ハ、蔣注ニ、毛公ハ詩ヲ治ムルノ人、遂モ亦趙人ナリ、平原君ノ客ナリ、按ズルニ、毛公ハ信陵君ノ客ヲ謂フ、亦趙人ナリ、史記信陵君ノ傳ニ見ユ、詩ヲ治ムルノ毛公ハ、漢ノ河間獻王ノ博士タル者ナリ。

春秋之成云云、孔子春秋ヲ作リ、筆ヲ獲麟ニ絕ツ。

子孫最云云、處處ニ筆アルナイフ。

穎興有功云云、兵ヲ用フル時モ亦未ダ曾テ筆ヲハナスコト能ハザルナイフ。

謂盡心者因不復召歸封邑終於管城」。第一小段敍老而歸封邑。其子孫甚多。散處中國夷狄。皆冒管城。惟居中山者。能繼父祖業』。第二小段敍子孫。〇以上第五大段敍衰退。太史公曰。毛氏有兩族。其一姬姓。文王之子封於毛。所謂魯衛毛聃者也。戰國時有毛公毛遂。獨中山之族。不知其本所出。子孫最爲蕃昌。春秋之成。見絕於孔子。而非其罪。及蒙將軍拔中山之豪。始皇封之管城。世遂有名。而姬姓之毛無聞」。第一小段歎民族盛衰。穎始以俘見。卒見任使。秦之滅諸侯。穎與有功。賞不酬勞。以老見疎。秦眞少恩哉』。第二小段歎毛穎一身盛衰。慨歎以結一篇。無限文情。〇以上第六大段論贊。

## 平淮西碑

主意　言平淮西之功成于憲宗明斷。

天以唐克肖其德。聖子神孫繼繼承承。於千萬年。敬戒不怠。全付所覆四海九州。罔有內外。悉主悉臣。』第一大段敘唐受天命。全有四海九州。高祖太宗。既除既治。高宗中睿。休養生息。至於玄宗。受報收功。極熾而豐。物衆地大。孽牙其閒。肅宗代宗。德祖順考。以勤以容。大慝適去。稂莠不薿。相臣將臣。文恬武嬉。習熟見聞。以爲當然。』第二大段敘中衰。餘孽不除。睿聖文武皇帝既受羣臣朝。乃考圖數貢曰。嗚呼天既全付予有家。今傳次在予。予不能事事。其何以見於郊廟。羣臣震懾。奔走率職。明年平夏。又明年平蜀。又明年平江東。又明年平澤潞。遂定易定。致魏博。貝衛澶相。無不從志。皇帝曰。不可究武。予其少息。』第三大段敘憲宗中興。鎮定諸藩。九年蔡將死。

擊牙ノ擊ハ墾ニ通ズ、蔣本墾ニ作ル、始メテ端緒アル、草木ノ始メテ生ズルガ如キヲ云フ、牙ハ芽ニ通ズ。
德祖ハ憲宗ノ祖、順考ハ憲宗ノ父、考ハ父ナリ。
稂ハいなぐさ莠ハはぐさナリ、不嬉ハ去ナリ、詩ノ周頌良耜篇ニ以テ茶蓼ヲ嬉ルトアリ。
考圖數貢ハ、輿地ノ廣狹ヲ考ヘ、貢賦ノ至ルト至ラザルトヲ計ルヲ謂フ。
有家ノ有ハ、有虞、有周ノ有ノ如シ、意義ナキナリ。
郊廟ハ天祖ヲ祀ル所。
致魏博云云、魏博ヲ降

服セシメバ、貝、衡、澶、相ノ地方ニ至ルマデ歸順セザルナシ。
犯葉襄城ハ葉ト襄城トヲ犯スナリ。
一二臣ハ李吉甫、武元衡等ヲ指ス。
三姓トハ李思臣、陳奇臣、吳少誠ヲ指ス。
四將トハ李忠臣、李希烈、吳少誠、吳少陽ヲ謂フ。
大官トハ李吉甫等ヲ指ス。
牢不可ノ牢ハ堅ナリ。
以汝ノ汝ハ州名ナリ。

蔡人立其子元濟以請。不許。遂燒舞陽。犯葉襄城。以動東都。放兵四劫。皇帝歷問於朝。一二臣外皆曰。蔡帥之不廷授。於今五十年。傳三姓四將。其樹本堅。兵利卒頑。不與他等。因撫而有。順且無事。大官臆決唱聲。萬口和附。幷爲一談。牢不可破。皇帝曰。惟天惟祖宗。所以付任予者。庶其在此。予何敢不力。況一二臣同。不爲無助。』第四大段敍淮西之征。出于憲宗獨斷。一二大臣助之。曰光顏。汝爲陳許帥。維是河東魏博郃陽。三軍之在行者。汝皆將之。曰重胤。汝故有河陽懷。今益以汝。維是朔方。義成。陝益。鳳翔。延慶。七軍之在行者。汝皆將之。曰弘。汝以卒萬二千屬而子公武。往討之。曰文通。汝守壽。維是宣武。淮南。宣歙。浙西。四軍之行於壽者。汝皆將之。曰道古。汝其觀察鄂岳。曰愬。汝帥唐鄧隨。

長御史ハ度御史中丞タリ、故ニ長ト謂フ。

守謙云云、知樞密梁守謙ニ命ジテ宣慰監軍トナシ、師ヲ撫セシメシヲ謂フ。

通天御帶トハ帶ヲ飾ルニ通天犀ヲ以テスルナリ、通天ハ犀ノ名ナリ。

洄曲ハ地名。

各以其兵進戰。曰。度。汝長御史。其往視師。曰。度。惟汝予同。汝遂相予。以賞罰用命。不用命。曰。弘。汝以其節都統諸軍。曰。守謙。汝出入左右。汝惟近臣。其往撫師。曰。度。汝其往衣服飲食。予士。無寒無飢。以旣厥事。遂生蔡人。賜汝節斧。通天御帶。衛卒三百。凡茲廷臣。汝擇自從。惟其賢能。無憚大吏。庚申予其臨門送汝。曰。御史。予閔士大夫戰甚苦。自今以往。非郊廟祠祀。其無用樂。』第五大段敍征討部署。顏胤武合攻其北。大戰十六。得柵城縣二十三。降人卒四萬。道古攻其東南。八戰。降萬三千。再入申。破其外城。文通戰其東。十餘遇。降萬二千。憩入其西。得賊將。輒釋不殺。用其策。戰比有功。十二年八月。丞相度至師。都統弘責戰益急。顏胤武合戰益用命。元濟盡幷其衆洄曲以

備。十月壬申。愬用所レ得賊將。自二文城一因二天大雪一。疾馳百二十里。用二夜半一到レ蔡。破二其門一。取二元濟一以獻。盡得二其屬人卒一。辛巳。丞相度入レ蔡。以二皇帝命一赦二其人一。淮西平』。第六大段敍二戰功一。大饗賚レ功。師還之日。因以二其食一賜二蔡人一。凡蔡卒三萬五千。其不レ樂レ爲レ兵。願レ歸爲レ農者十九。悉縱レ之。斬二元濟京師一』。第七大段敍二饗賚及斬一。冊功弘加レ侍中。愬爲二左僕射一。帥二山南東道一。顏。胤皆加二司空一。公武以散騎常侍。帥二鄜坊丹延一。道古進大夫。文通加散騎常侍。丞相度朝二京師一。道封二晉國公一。進階金紫光祿大夫。以舊官相。而以其副總爲二工部尚書一。領二蔡任一。』第八大段敍二賞功一。既還奏。羣臣請紀二聖功一。被之金石。（上）皇帝以命二臣愈一。臣愈再拜稽首而獻レ文。曰』。第九大段敍二受勅作一レ文。唐承二天命一。遂臣二萬邦一。孰居二近土一。襲盜以狂。往在玄宗崇極而

被之金石ハ、鐘鼎碑碣ノ類ニ刻スルヲ謂フ。

崇極而圮ハ天寶ノ亂ヲ謂フ。

河北悍驕ハ安中既ニ平ギ、燕趙魏相次イデ起ルヲ指ス。
河南附起ハ汴蔡ノ屬、河南ニ居ル者ヲ指ス。
曠不獵狩ノ曠ハ空ナリ、堯典ニ五載一巡狩トアリ、王者四嶽ニ巡狩スルナリ。
帝時繼位ノ帝ハ憲宗ヲ指ス。
魏將首云云、通鑑綱目ニ、憲宗元和七年冬十月、魏博兵馬使田興吏ニ請ウテ表貢ス、詔シテ興ヲ以テ節度使トナス。
叫ハ呼、讙ハ驚呼也。
來誡相臣云云、時ニ裴止ガ中丞タリ、相臣ハ武元衡ヲ謂フ。
莫若惠來云云、惠來ハ恩惠ヲ以テ之ヲ招來スルナリ。
同德ハ裴度ヲ謂フ。
常兵時曲云云、時曲ハ地名ナリ、元和十一年五月光顔大ニ賊黨ヲ時曲ニ敗ル、常ハ嘗ニ通ズ。
蠢蠢ハ動搖ノ貌。
復屯ノ復ハ複ニ同ジ。
馬騰於槽ノ騰ハ上躍ナ

妃。河北悍驕。河南附起。四聖不宥。屢興師征。有不能克。益成以兵。夫耕不食。婦織不裳。輸之以車。爲卒賜糧。外多失朝。曠不嶽狩。百隷怠官。事亡其舊」唐中衰。帝時繼位。顧瞻咨嗟。惟汝文武。孰恤予家。既斬吳蜀。旋取山東。魏將首義。六州降從。淮蔡不順。自以爲强。提兵叫讙。欲事故常。始命討之。遂連奸鄰。陰遣刺客。來賊相臣。方戰未利。內驚京師。羣公上言。莫若惠來。帝爲不聞。與神爲謀。乃相同德。以訖天誅。乃勅顏胤。愈武古通。咸統於弘。各奏汝功。三方分攻。五萬其師。大軍北乘。厥數倍之。常兵時曲。軍士蠢蠢。既翦陵雲。蔡卒大窘。勝之邵陵。郾城來降。自夏入秋。復屯相望。兵頓不勵。告功不時。帝哀征夫。命相往釐。士飽而歌。馬騰於槽。試之新城。賊遇敗逃。盡

抽其有聚以防我。西師躍入。道無留者。頷頷蔡城。其疆千里。既入而有。莫不順俟。「第二段敍中興戰功」帝有恩言。相度來宣。誅止其魁。釋其下人。蔡之卒夫。投甲呼舞。蔡之婦女。迎門笑語。蔡人告饑。船粟往哺。蔡人告寒。賜以繒布。始時蔡人。禁不往來。今相從戲。里門夜開。始時蔡人。進戰退戮。今旰而起。左餐右粥。爲之擇人。以收餘憊。選吏賜牛。教而不稅。蔡人有言。始迷不知。今乃大覺。羞前之爲。蔡人有言。天子明聖。不順族誅。順保性命。汝不吾信。視此蔡方。孰爲不順。往斧其吭。凡叛有數。聲勢相倚。吾强不支。汝弱奚恃。其告而長。而父而兄。奔走偕來。同我太平。「第三段敍兵後安撫」淮蔡爲亂。天子伐之。既伐而饑。天子活之。始議伐蔡。卿士莫隨。既伐四年。小大並疑。不赦不疑。由天子明。

船粟ハ米食ヲ船載スルナリ。
里門夜開トハ、民始メテ其樂ミヲ遂グルヲ知ルヲ謂フ。
旰而起ハ日出デテ起クルナリ。
左餐右粥ハ、民始メテ其生ヲ安ンズルヲ知ルヲ謂フ。
教而不稅トハ、淮西ノ民ヲ教施スルコト二年、而シテ其課稅ヲ免ジタルコトアリシヲ謂フ。
有數ノ數ハ命數ノ數ナリ。
小大並疑ハ李逢吉等競ウテ兵ヲ罷ムベシト主張セシヲ謂フ。

リ、槽ハ馬ノ食器。
頷頷ハ惡ヲ息無キ貌。

不赦不疑云云、戰爭ノ事ハ悉ク裴度ニ委託シ、賊ヲ討ズル愈〻急ナルテイフ。

鉅ハ大ナリ。

河伯ハ河ノ神ナリ。祝融ハ南海ノ神ナリ、東海ノ神ヲ尊敬ト云フ。

天寶ハ玄宗ノ年號。

海嶽之祝ノ祝ハ稱呼ナリ。

放ハ倣ト同ジ、倣フナリ。

凡此蔡功。惟斷乃成。既定淮蔡。四夷畢來。遂開明堂。坐以治之。第四段頌平蔡之功。出于天子明斷。以結一篇。

## 南海神廟碑

主意　言南海神得孔公事神治人之才而始貴。○此篇。以神人兩字爲經。以風雨兩字爲緯。經以緯生色澤。

海於天地間。爲物最鉅。自三代聖王。莫不祀事。考於傳記。而南海神次最貴。在北東西三神河伯之上。號爲祝融。第一小段　叙神本貴。

天寶中。天子以爲古爵莫貴於公侯。故海嶽之祝。犧幣之數。放而依之。所以致崇極於大神。今王亦爵也。而禮海嶽。尚循公侯之事。虚王儀而不用。非致崇極之意也。由是册尊南海神爲廣利王。祝號祭式。與次俱昇。因其故廟。易而新之。在今

驛聞トハ驛ヨリ驛ニ順達スルナリ。常ヲ常ノ訛ト謂フモノアリ。

怖悸ハ惶惑シテ心動クナリ。

明宮ハ神廟ヲ謂フ、明潔ノ義ニ取ル。●狼籍ハ雜亂ノ貌。籩豆ハ共ニ祭肉ヲ盛ル器ナリ、籩ハ竹ニテ作リ、豆ハ木ニテ作ル。薦祼ノ薦ハ進ナリ、祼ハ祭ノ始ニ方リ、鬱鬯ノ酒ヲ酌ミ、地ニ灌ギ、以テ神ヲ降スナリ。怪雨ハ陰雲ナリ。殿南服ノ殿ハ定ムルナリ、南服ハ南方ナリ、之ヲ服ト謂フハ、責ムルニ天子ニ服事スルヲ以テスルノ義ナリ。易ハ和易ナリ。

廣州之東南。海道八十里。扶胥之口。黃木之灣。常以立夏氣至。命廣州刺史。行事祠下。事訖驛聞。」第二小段敍ニ唐天子貴ブ之。而刺史當節度五嶺諸軍。仍觀察其郡邑。於南方事無所不統。地大以遠。故常選用重人。既貴而富。且不習海事。又當祀時。海常多大風。將往皆憂感。既進。觀顧怖悸。故常以疾爲解。而委事於其副。其來已久。故明宮齋廬。上雨旁風。無所蓋障。牲酒瘠酸。取具臨時。水陸之品。狼籍籩豆。薦祼興俯。不中儀式。吏滋不供。神不顧享。盲風怪雨。發作無節。人蒙其害。」第三小段敍ニ刺史不レ敬レ神。民蒙レ害。○以上第一大段論ニ海神本可レ貴。而故吏不レ敬之。故人蒙レ害。是不レ能レ事レ神。治レ人也。與ニ下文一反對。元和十二年。始詔用前尚書右丞相。

國子祭酒魯國孔公。爲廣州刺史。兼御史大夫。以殿南服。公正直方嚴。中心樂易。祗愼所職。治人以明。事神以誠。內外單

襮ハ衣領ナリ、表顯ノ義ナリ。

解ハ雲ノ開クヲ謂フ。
伏波不興ヲ或ハ波伏不起ニ作ル。
暘ハ日出ヅルナリ。
將ハ行フナリ。
月星明稊ハ月明カニ星稀キヲ言フ。
牽牛ハ星ノ名。
靜潔ハ清美ナリ。

慌惚ハ有ルガ如ク無キガ如ク、倏忽狀シ難キヲ謂フ。
蜿蜿ハ龍ノ狀。
蛇蛇ハ安舒ノ貌。
祥颶ハ祥風ナリ。

盡不爲表襮。」第一小段綱領。治レ人以レ明。事レ神以レ誠。治人事神四字。揭二主意一。至レ州之明年。將レ夏。祝册自二京師一至。吏以レ時告。公乃齋祓視レ册。誓二羣有司一曰。册有二皇帝ノ名一。乃上所自署一其文一曰。嗣天子某。謹遣二官某一敬祭。其恭且嚴如レ是。敢有不レ承。明日。吾將宿二廟下一。以供二晨事一。明日。吏以二風雨一白。不レ聽。於是州府文武吏士凡百數。交謁更諫。皆揖而退。公遂陞レ舟。風雨少弛。櫂夫奏レ功。雲陰解レ駮。日光穿漏。伏波不レ興。省レ牲之夕。載暘載陰。將レ事之夜。天地開除。月星明稊。五鼓既作。牽牛正中。公乃盛服執笏。以入卽レ事。文武賓屬。俯レ首聽レ位。各執二其職一。牲肥酒香。罇罍靜潔。降登有レ數。神具醉飽。海之百靈祕怪。慌惚畢出。蜿蜿蛇蛇。來享飲食。闔二廟旋艫一。祥颶送レ颿。旗纛旄麾。飛揚晻藹。鐃鼓嘲轟。高管嗷譟。武夫奮レ櫂。工師唱

颿ハ帆ト同ジ。
蠢ハ毛羽幢ナリ、麾ハ旌旗ノ屬。
鐃ハ鈴ニ似テ舌ナク柄アリ。
嘲轟ハ蓋シ喧囂ノ義ナリ。
噭ハ吼ナリ。譟ハ鼓管繁擾タルナリ。
穹ハ龜甲ノ穹隆ナルヲ謂フ。
倪ハ亦端ナリ。
軒ハ高ナリ。
割ハ開ナリ。
呈ハ亦露ナリ。
胥ハ皆ナリ。
仍ハ頻ナリ。
耋艾ハ老幼ナリ。

丐ハ音カツ、與ナリ。

胄ハ裔ナリ。
廩ハ給ナリ。

和ス穹龜長魚。踊躍後先シ。乾端坤倪。軒豁呈露ス。祀ルレ之ヲ之歲。風災熄滅シ。人厭キ魚蟹ニ。五穀胥ミナ熟ス。明年祀リ歸ツテ。又度ツテ廟宮ニ。而大ニシテ之ヲ。治メ其庭壇ヲ。改メ作ニシテ東西ノ兩序ヲ。齋庖之房ヲ。百用具ム。明年某ノ時。公又固ク往キ。不レ懈シテラ益メ虔シム。歲仍テ大和シテ。耋艾歌詠ス。」第二小段事レ神。始メ公之至ルヤ。盡ク除キ他名之稅ヲ。罷メ衣食スルヲ於官ニ之可レ去ル者ヲ。四方之使。不レ以テ資ヲ交ヲ。以テ身ヲ爲シ帥ニ。燕享有リ時。賞與以テス節ヲ。公藏私蓄。上下與ニ足ル。於是ニ免ス屬州負逋之緡錢二十有四萬。米三萬二千斛ヲ。賦スル金ヲ之州。耗金一歲ニ八百。困シテ不レ能ハ償フ。皆以テ丐レ之ヲ。加ヘ西南守長之俸ヲ。誅ス其尤モ無良不レ聽カ令ヲ者ヲ。由レ是ニ皆自ミ重ジテ慎ム法ヲ。人士之落チテ南ニ不レ能ハ歸ルコト者。與ニ流徙之胄百二十八族。用テ其才良ヲ而廩ス其ニ無キ告グル者ヲ。其女子ノ可レ嫁ス。與ヘ之ニ錢財ヲ。令ムレ無カラフコトレ失ヲ時ヲ。刑德並ビ流レ。方地數千里。不レ識ラ盜賊ヲ。山行海宿シテ。

南伯ハ廣州ノ刺史ナイフ。
正ハ整理スルナリ。

胡不均弘云云、其譯ナ天下ニ廣メ朝政ヲ主ラシムベシトナリ。
遲ハ待ツナリ。

黃陵ハ山ノ名、相傳ヘテ舜ノ二妃ノ葬處ナリトイフ。
剝ハ落ツルナリ。

不レ擇二處所一。事レ神治レ人。其可レ謂レ備レ至レ耳矣」。第三小段治レ人。○收者ナフ曰二息金一。償者曰二耗金一。咸願下

刻二廟石一。以著二厥美一。而繫以詩。乃作レ詩曰』。第四小段結レ序起レ歌。○以上第二大段記二孔公能事レ神治レ人一。

南海陰墟。祝融之宅。卽祀二於旁一。帝命二南伯一。吏惰不レ躬。正自二今公一。明用享レ錫。右二我家邦一。惟明天子。惟愼二厥使一。我公在レ官。神人致レ喜。海嶺之陬。既足既濡。胡不均弘俾執二事樞一。公行勿レ遲。公無レ遽歸。匪二我私一。公神人具依。

## 黃陵廟碑

主意　言二二妃助レ舜有二天下一。宜廟食。

湘旁有レ廟。曰二黃陵一。自前古以祠二堯之二女舜之二妃一者」。第一小段敍二廟神一。

庭有二石碑一。斷裂分散在レ地。其文剝缺。考二圖記一。言漢荊州牧劉

景升ハ劉表ノ字。太康ハ晉ノ世祖ノ年號。

秦博士云云、始皇二十六年湘山ノ祠ニ至ツテ風ニ遇ヒ、博士ニ問ヘバ、此ヲ以テ答ヘシコト史記ニ見ユ。

離騷ハ楚ノ屈平ノ辭賦ヲ輯メタル書名、離ハ遭ナリ、騷ハ憂ナリ、屈原憂ニ遭ヒテ作ル、故ニ名ヅク。

九歌ハ屈原ノ作ル所、楚國南鄙ノ邑、沅湘ノ間、俗鬼ヲ崇ンデ祠ルコトヲ好ム、祠ルニ必ズ歌ヲ作ル、屈原ソノ地ニ放逐セラレ、詞ノ鄙陋ナルヲ見テ、爲ニ九歌ヲ作ル。

表景升之立。題曰「湘夫人ノ碑。」敍圖記說。今驗其文。乃晉太康九年。又其額曰「虞帝二妃之碑。非景升立者。」『段記廟碑現狀。正圖記之妄。』秦博士對始皇帝云。湘君者。堯之二女舜妃者也。劉向鄭玄。亦皆以二妃爲湘君。」第一小段直說。而離騷九歌。既有湘君。又有湘夫人。王逸之解。以爲湘君者。自其水神而謂。湘夫人。乃二妃也。從舜南征三苗。不及。道死沅湘之閒。」第二小段妄說。山海經曰。洞庭之山。帝之二女居之。郭璞疑。二女者帝舜之后。不當降小水爲其夫人。因以二女爲天帝之女。」第三小段又妄說。以余考之。璞與王逸俱失也。堯之長女娥皇爲舜正妃。故曰君。其二女女英自宜降曰夫人也。故九歌辭。謂娥皇爲君。謂女英帝子。各以其盛者推言之也。禮有小君君母。明其正自得稱君也。』第四

書ノ舜陟云云ハ舜典ニ見ユ。

竹書紀年ハ、書ノ名、晉ノ大康元年汲郡ノ人冢ヲ發シテ之ヲ得タリ、夏殷ヨリ起リ、魏ノ哀王ニ至ル、竹簡ヲ以テ之ヲ寫ス、故ニ竹書ト云フ。

書ハ書經ナリ。

傳ハ注釋書ナリ。

宜言云云、老學庵筆記ニ周子光言フ、退之陟方ノ事ヲ辯ズルハ非ナリ、古益シ遠キニ適クヲ謂ツテ陟ト爲ス、書ニ曰ク、遠キニ陟ルハ必ズ邇キヨリスルガ若シト、猶今人路ニ上ルト言フガ如シ、豈南方地勢下シト云フヲ得ンヤトアリ、以テ參考スベシ。

以謀語舜云云、列女傳ニ云ク、舜廩ヲ完ウス、二女教フルニ鳥工ヲ以テス、舜井ヲ浚ス、二女教フルニ龍工ヲ以テスト。

小段斷。○以上第二大段以湘君湘夫人分屬娥皇女英。正郭璞王逸之誤。書曰。舜陟方乃死。傳謂。舜昇道南方以死。或又曰。舜死葬蒼梧。二妃從之。不及。溺死沅湘之閒。」第一小段擧孔安國傳及或說。余謂。竹書紀年。帝王之沒皆曰陟。陟昇也。謂昇天也。書曰。殷禮陟配天。言以道終。其德協天也。書紀舜之沒云陟者。與竹書周書同文也。其下言方乃死者。所以釋陟爲死也。地之勢東南下。如言舜南巡而死。宜言下方。不得言陟方也。以此謂舜死葬蒼梧。於時二妃從之。不及而溺者。皆不可信。』舜道死沅湘之事。正孔安國傳及或人之失。二妃既曰。以謀語舜。脫舜之厄。成舜之聖。堯死。而舜有天下。爲天子。二妃之力。宜常爲神食民之祭。今之渡湖江者。莫敢不進禮廟下。』以上第四大段是主意。元和十四年春。余以言事得罪。黜爲潮州刺史。其地於漢南海之揭

余以言云云、佛骨表ヲ指ス。
於漢南海云云、漢地理志ニ南海郡揭陽縣アリ、唐ニ在ツテハ潮州タリ。
過廟云云、湖江ヲ渡ルヲ以テ、序デニ廟ニ進詣シテ、其幸運ヲ祈願スルナリ。
圮ハ毀ナリ。
長慶ハ穆宗ノ年號。
丐ハ與フルナリ。

陽。厲毒所レ聚。懼レ不レ得レ脫レ死。過レ廟而禱レ之。其冬移二袁州一刺史一。明年九月。拜二國子祭酒一。使以私錢十萬抵二岳州一。願易二廟之圮桷腐瓦一於刺史王堪上。長慶元年。刺史長愉自二京師一往。與レ予故善。謂曰。丐二我一碑石一。載二二妃廟事一。且令後世知有二子名一。愉曰諾。既至レ州。報曰。碑謹具。遂篆二其事一。俾レ刻レ之」。以上第五大段
敍二所一以立レ碑。

不鄙夷トハ以テ鄙夷トナシテ之ヲ禮法ノ外ニ棄テザルナリ。
矜奮ハ自負憤激ナリ。
天氓ハ天民ナリ。

## 柳州羅池廟碑

主義　言ヒ柳侯生テ澤二其民一。死テ禍ヒ福其民一。

羅池廟者。故刺史柳侯廟也。柳侯爲レ州。不鄙二夷其民一。動以レ禮法一。三年。民各自矜奮。茲土雖レ遠二京師一。吾等亦天氓。今天幸惠二仁侯一。若不レ化服。我則非レ人。於レ是老少相教語。莫レ違二侯令一。凡有

民業有經トハ民恆産アルナリ。
公無負租トハ、民公事ヲ先ニスルヲ謂フ。
逋ハ逃ナリ。
歩ハふなつきナリ。
詔ハ教ナリ。
肥大蕃息ハ民養フ所ヲ得タルヲ謂フ。
指ハ旨ナリ。

及期而死トハ元和十四年十月柳宗元死スルヲ謂フ。
三年孟秋ハ長慶三年七月ナリ。

所レ爲於其鄉閭。及於其家。皆曰。吾侯聞レ之。得レ無レ不レ可於意一否。莫レ不レ忖度而後從事。凡令之期。民勸趨レ之。無有後先。必以其時。於是民業有レ經。公無負租。流逋四歸。樂生興レ事。宅有新屋。歩有新船。池園潔修。豬牛鴨雞。肥大蕃息。子嚴父詔。婦順夫指。嫁娶葬送。各有條法。出相弟長。入相慈孝」第一小段敍現時。○歩有新船。歩泊歩也。謂泊レ船處。先時民貧。以男女相質。久不レ得贖。盡沒爲隷。我侯之至。按國之故。以レ傭除レ本。悉奪歸レ之。大修孔子廟。城郭巷道。皆治使レ端正。樹以名木。』第二小段敍先時。○以上第一大段言生時德澤。柳民既皆悅喜。常與其部將魏忠。謝寧。歐陽翼飮酒驛亭。謂曰。吾棄於時而寄於此。與若等好也。明年吾將死。死而爲レ神。後三年。爲レ廟祀レ我。及レ期而死。二年孟秋辛卯。侯降於州之後堂。歐陽翼等見而拜レ之。

夢翼トハ、見二夢於翼一ナリ、莊子外物篇ニ神象見二夢於元君一トアリ。

景辰ノ景本丙ニ作ル、景ニ改ムルハ廟諱ヲ避クルナリ、晉書ハ唐ノ魏徵等ノ撰ム所、故ニ丙皆景ニ作ル。

侯之船兮云云、柳人神ヲ迎フルニ其俗一船兩旗ヲ以テス、木馬偶人ヲ舟ニ置キ、樂ヲ作シテ之ヲ導キ、岸ニ登ツテ廟ニ趨ス。

風泊之ハ中流風ニ泓マレ、檣ヲ停ムルニ因リ侯ヲ待ツテ來ラザルノ恐アルナイフ。

團團ハ圓ナル貌。齒齒

其夕夢翼而告曰館我於羅池。其月景辰廟成。大祭、過客李儀酹酒。慢侮堂上。得疾。扶出廟門、卽死』。以上第二大段言死後禍福」明年春。魏忠。歐陽翼。使謝寧來京師。請書其事於石。余謂柳侯生能澤其民。死能驚動福禍之。以食其土。可謂靈也已」第一小段結上。作迎享送神詩遣柳民。俾歌以祀焉。而幷刻之」。第二小段言作詩。柳侯。河東人。諱宗元。字子厚。賢而有文章。嘗位於朝。光顯矣。已而擯不用』。第三小段略記柳侯履歷。〇以上第三大段結上二段起下歌。」其辭曰。荔子丹兮蕉黃。雜肴蔬兮進。侯堂。侯之船兮兩旗。度中流兮風泊之。待侯不來兮不知我悲。」第一小段迎詩。侯乘駒兮入廟。慰我民兮不嘼以笑。鵝之山兮柳之水。桂樹團團兮白石齒齒。侯朝出游兮暮來歸。春與猨吟兮秋鶴與飛。北方之人兮爲侯是非。千秋萬歲兮侯無我違。」

ハ並列歯ノ如キヲ言フ。

福我兮云云ハ、民ノ生ヲ祐ケ、而シテ其人ヲ害スルノ悪鬼ヲ去ルナリ。

秔ハ粳ニ同ジ、稲ノ黏ラザル者、稌ハ稲ノ黏ルモノ、即チもちいねノ。

渙ハ溢ナリ。

蛇蛟結蟠ハ秔稌ノ穂、蛇蛟ノ風スルガ如クナルヲ言フ、一説ニ蛇蛟ヲ實物ト見、利盛ニシテ害自ラ閉塞スル意ト解ク、亦通ズ。

紹爵三年ハ爵ヲ紹ギテヨリ三年目。

北兵作ハ安史ノ亂ナイフ。

都水使者トハ山澤ヲ掌ルノ官ナリ。

第二小段享詩。福レ我兮壽レ我。驅二厲鬼一兮山之左。下無レ苦レ濕兮高無レ乾。秔稌充羨兮蛇蛟結蟠。我民報レ事兮無レ怠。其始自レ今兮欽二於世一。』〇第三小段送詩。〇以上第四大段詩。

## 曹成王碑

主意　言成王治レ民用レ兵之功。本二其忠孝一。

王姓ハ李氏。諱ハ皐。字子蘭。謚曰レ成。其先王明。以テ太宗ノ子ヲ國レ曹ニ。絶エテ復タ封セラル。傳ヘテ五王ニ至ル。成王ニ。成王嗣レ封テ。在リ玄宗ノ世ニ。蓋シ於レ時年十七八。紹レ爵ヲ三年。而河南北兵作リ。天下震擾ス。王奉ジテ母太妃ヲ逃レ禍ヲ民伍ニ。得テ閒ヲ走リ蜀ニ。從フ天子ニ。天子念ヒ之ヲ。自リ都水使者ニ。拜シ左領軍衛將軍ニ。轉ジテ貳タリ二國子祭酒一。』敍世系及王忠孝一。王生レテ十年ニシテ而失ヒ二先王一。哭泣悲哀。

弔客不忍聞。喪除。痛刮磨豪習。委己於學。稍長重知人情。急世之要。恥一不通。侍太妃。從天子於蜀。既孝既忠。持官持身。內外斬斬。由是朝廷滋欲試之於民。」第一小段　上元元年。除溫州長史。行刺史事。江東新刻於兵。郡旱饑。民交走死無弔。王及州。不解衣下令。掊鎖擴門。悉棄倉實與民。活數十萬人。奏報。升秩少府。與平袁賊。仍徙祕書。兼州別駕。」第二小段　部告無事。遷眞於衡。法成令脩。治出張施。聲生勢長。觀察使噎娟不能出氣。誣以過犯。御史助之。貶潮州刺史。楊炎起道州。相德宗。還王於衡。以直前諤。」第三小段　敍因　王之遭誣在理。念太妃老將驚而戚。出則囚服就辯。入則擁笏垂魚。坦坦施施。卽貶於潮。以遷入賀至。是然後跪謝告實。」第四小段　敍孝。○以上第二大段　初觀

刮磨云云、華奢ナル風習ヲ止メテ、學問ニ專心スルナイフ。
己ハ身ナリ。
稍長云云、稍〻年長ジテ民心人情ニ通ズルニ意ヲ注ギ、世務ニ肝要ナルコトハ一モ知ラザルコトナキヲ以テ恥辱トナセリ。
斬斬ハ嚴刻ノ貌。
上元ハ肅宗ノ年號。
新刻於兵ハ兵ノ爲ニ刻割セラルルヲ謂フ。
掊ハ擊ンナリ。
擴ハ開クナリ。
遷眞於衡ハ是レ刺史ノ事ヲ行フ眞ノ刺史トナリシナイフ。
張施ハ張弛トイフガ如シ。
觀察使ハ時ニ辛京果、湖南ノ觀察使タルヲ謂フ。
噎娟ノ噎ハ姤ナリ、娟ハ怒ナリ。
魚ハ魚袋ナリ。
施施ハ舒行ナリ。
至是ハ衡ニ還ヘリテナリ。

察使。虐使將國良。往戍界。良以武岡叛。戍衆萬人。斂兵荊黔洪桂伐之。二年尤張。於是以王帥湖南。將五萬士。以討良爲事。王至則屏兵。投良以書。中其忌諱。良羞畏乞降。狐鼠進退。王卽假爲使者。從一騎。踣五百里。抵良壁。鞭其門。大呼。我曹王來受良降。良今安在。良不得已。錯愕迎拜。盡降其軍。」第一小段敍膽略。

太妃薨。王棄部。隨喪之河南。葬及荊。被詔責還。會梁崇義反。王逐不敢辭以還。升秩散騎常侍。」第二小段敍太妃喪及應詔。是忠孝。明年。李希烈反。遷御史大夫。授節帥江西。以討希烈。命至。王出止外舍。禁無以家事關我。哀兵大選江洲。羣能著職。王親教之搏力勾卒。贏越之法。曹誅五畀。艦步二萬人。以與賊遇。嘔鋒蔡山。踣之。剋蘄之黃梅。大鋤長平。潑廣濟。掀蘄春。撤蘄水。掇黃

踣ハ疾走ナリ。

錯愕ハ倉卒驚遽ノ貌。

責還ハ官ニ還リ職ヲ執ルコトヲ督促スルナリ。

哀ハ聚ナリ。

洲ハ州ノ訛。

搏力勾卒云云、蠃ハ秦ノ姓、越ハ句踐ヲ謂フ、搏力ハ秦ノ法、商子ニ見ユ、勾卒ハ越ノ法、左傳哀十七年ニ見ユ。

曹誅伍畀――敗ルレバ則チ誅其曹ニ及ビ、獲アレバ則チ分チテ其伍ニ畀フ。
艦歩ハ軍艦ト歩兵トナリ。
遇ハ遇ナリ。
嘯ハ一擧ニシテ衆ヲ盡スナリ。
踣ハ僵ルナリ。
剋ハ削ルナリ。
黄梅ハ蘄州ノ縣名。
大鞾長平ハ大ニ長平ト云フ地方ヲ鞾踐スルナリ。
鑱ハ兩刃木柄、以テ草ヲ刈ルベシ。
廣濟ハ縣名。
掀ハ擧ゲ出スナリ。
蘄春ハ縣名。
撇ハ引クナリ、擊ツナリ。
蘄水ハ縣名。
掇ハ拾ヒ取ルナリ。
黄岡ハ縣ノ名。
筴ハ箸ナリ夾ミ取ルナリ。
漢陽ハ縣名。
跳ハ踢ナリ。
汉川ハ縣名、汉ハ水ノ岐流スル意。
膊ハ磔ナリ、衣ヲ去ツテ之ヲ曝スナリ。

岡ニ筴シ漢陽ニ行キ跳シ汉川ニ還リ大膊シ蘄水ノ界中ニ披キ安山縣ニ拔キ其州ニ斬リ僞刺史ニ標シ光之北山ニ磔ニ隨光化ニ梏シ其州ニ十ニ抽イテ一ニ推シ救フニ兵ヲ州東北ノ屬鄉ニ還ルトキ開キテ軍ニ受ケ降ニ大小之戰三十有二ニ取ル五州十九縣ニ民ノ老幼婦女不レ驚カ市賈不レ變ゼ田之果穀ニ下シ無シ一跡ニ加ヘラレ銀青光祿大夫ニ工部尚書ニ改メラル戶部ニ再ビ換ヘテ節ニ臨ム荊及襄ニ眞食三百ニ王之在ル兵ニ天子西巡シテ於梁ニ希烈北取リ汴鄭ニ東略シ宋ヲ圍ム陳ニ西取リ汝ヲ薄ニ東都ニ王坐シ南方ニ北向シテ落ス其角ニ距ニ賊死ス咋ドモ不レ能ハ入ルコト寸尺ニ亡ナル將卒十萬ニ盡ク輸セリ其南州ニ『第三小段敍戰功ニ〇以上第三大段主敍用兵ニ揷敍孝于其間』王始メテ政ヲ於溫ニ終フ政ヲ於襄ニ恆ニ平シ物ニ估メテ賤ニ斂メ貴ニ出ス民用ツテ有レ經ニ一ニシテ吏ヲ軌シテ民ヲ使令ス家ニ聽キ戶ニ視ル奸宄ク無レ所レ容ス府中不レ聞カ急步疾呼ス治メテ民用フルコトヲ兵ニ各リ有ニ條次ニ世ニ傳ヘテ爲ス法ト任ジ馬彝將愼將鍔將潛ニ偕ニ盡サシム其力ヲ能フ』以上第四大段總ニ括治民用兵之功ニ薨ジ贈ラル右

披ハ開クナリ。
山ハ三ノ誤ナリトイフ説アリ、然ラバ三縣ヲ披キ安ンズト讀ム。
標ハ恐クハ摽ノ誤ナラント云フ。
豬ハ大食。
隨、光化ハ二縣ノ名。
梏ヲ蔣本ニ牿ニ作ル。
距ハ雞距ナリ。
咋ハ聲大ナルナリ。
軌ハ法ナリ。
剌ハ刺史ナリ。
曹於第季ハト、兄弟ノ序次ニ於テ曹王ハ季ナルヲイフ。
畏塞絕遷ハ永隆元年明太子賢ヲ謀ヲ通ズルニ坐シ、降ツテ零陵王ニ封ゼラレ、黔州ニ徙サル、都督謝祐逼ツテ之ヲ殺シタルヲイフ。
子父易封トハ、傑子胤中宗神龍ノ初、黎國公ノ舊爵ヲ改メラレテ、曹王ニ封ゼラレシヲイフ。
明章ハ宗廟ノ樂歌。
畯ハ峻ト通ズ、大ナリ。
蘇ハ息ナリ。
弱強ハ強者ヲ弱ムルナ

僕射元和ノ初。以子道古在朝。更贈太子太師。第一小段叙贈官。道古進士。司門郎。刺利。隨。唐。睦。徽爲少宗正。兼御史中丞。以節督黔中。朝京師。改命觀察鄂岳。蘄。沔。安。黃。提其師以伐蔡。且行。泣曰。先王討蔡。實取蘄。沔。安。黃。寄惠未忘。今予亦受命有事於蔡。而四州適在吾封。庶其有集。先王薨於今二十五年。吾昆弟在。而墓碑不刻。無文。其實有待。子無用辭。乃序而詩之。』第二小段叙道古乞碑銘。〇以上第五大段叙道古建碑之由。辭曰。

太支十三。曹於第季。或亡或微。曹始就事。曹之祖王。畏塞絕遷。零王黎公。不聞僅存。子父易封。三王守名。延延百載。以有成王。」第一小段先世。成王之作。一自其躬。文被明章。武薦畯功。蘇枯弱強。齦其奸猖。以報於宗。以昭於王。」第二小段成王。王亦有子。處王

リ。
齦ハ齧ムナリ。
奸猖ハ李希烈ノ衆ヲ謂フ。
蹶蹶ハ動イテ事ニ敏ナル貌。
陛陛ハ衆多層次ノ貌。
實取ハ父ノ舊法ヲ學ビ取ルナリ。
無止ハ無窮ナリ。

劉熙釋名卷六ニ、銘ハ名也、其功美ヲ述ベ、稱名ニ可ナラシムルナリトアリ、又文體明辨ニ、銘ノ體タル、三言四言七言雜言散文アリ、中ニ分字ヲ用フルモノアリ、末ニ兮字ヲ用フルモノアリ、末ニ也字ヲ用フルモノアリ、其韻ヲ用フル、一句ニ韻ヲ用フルモノアリ、兩句ニ韻ヲ用フルモノアリ、三句ニ韻アルモノアリ、前ニ韻ヲ用ヒテ末ニ韻ナキモノアリ、前ニ韻ナクシテ末ニ韻ヲ用フルモノアリ、韻語字上ニアルモノアリ、其韻ヲ更フル、兩句ニ一更ナルモノアリ、四

之所。唯舊之視。蹶蹶陛陛。實取實似。刻詩其碑。爲示無止。』第一小段結上起下。

小段嗣子。○以上第六大段銘。

## 烏氏廟碑銘

主意　言烏氏廟享由重胤功。

元和五年。天子曰。盧從史始立議用師於恆。乃陰與寇連。夸謾兇驕。出不遜言。其執以來。其四月中。貴人承璀。卽誘而縛之。其下皆甲以出。操兵趨譁。牙門都將烏公重胤。當軍門叱曰。天子有命。從有賞。敢違者斬。於是士皆斂兵還營。卒致從史京師。」第一小段敍重胤功。○天子有命云云一篇主腦。壬辰詔用烏公。爲銀青光祿大夫。河陽軍節度使。兼御史大夫。封張掖郡開國公。居三年。河陽稱治。」第二小段敍重胤能治河陽。詔贈其父工部尚書。且曰。其以廟享。卽以

句ニ一更ナルモノアリ、數句ニ一更ナルモノアリ、全篇更セザルモノアリトアリ。

常伯トハ工部尚書ヲ謂フ。

同宇トハ後漢以來、公私廟制皆同堂異室タルヲ以テナリ。

譜於世本云云、世本十五卷、古史臣黃帝以來ノ帝王諸侯及ビ卿大夫ノ系氏名號ヲ錄ス。

姓苑ハ何承天ノ著ス所、十卷アリ。

在莒者存ハ左傳昭二十三年ニ見ユ、存ハ名ナリ。

在齊有餘枝鳴、烏餘ハ左傳襄二十四年ニ見エ、烏枝鳴ハ昭二十一年ニ見ユ。

秦有獲ハ、武王ノ時力士任鄙烏獲皆大官トナルコト史記ニ見ユ。

屬ハ連屬ノ意ナリ、北狄五アリ一契丹、二奚、三室韋、四黑水、五渤海

其年營廟於京師崇化里。軍佐竊議曰。先公既位常伯。而先夫人無加命。號名差卑。於配不宜。語聞。詔贈先夫人劉氏沛國太夫人。八年八月廟成。三室同宇。祀自左領府君而下。作主於第。乙巳升於廟。『第三小段敍父母追贈。○以上第一大段敍下由重胤功賜廟享。』烏氏著於春秋。譜於世本。列於姓苑。在莒者存。在齊有餘枝鳴。皆爲大夫。秦有獲。爲大官。其後世之江南者家鄱陽。處北者家張掖。或入夷狄爲君長。唐初察爲左武衛大將軍。實張掖人。其子曰令望。爲左領軍衛大將軍。孫曰蒙。爲中郎將。是生贈尚書諱承玭字某。烏氏自莒齊秦大夫以來。皆以材力顯。及武德以來。始以武功爲名將家。『以上第二大段敍世系。○始以武功爲名將家一句繳應前段軍功。』開元中尚書管平盧先鋒軍。屬破奚契丹。從戰捺祿。走可突干。渤海擾。海上至馬

都山。吏民逃徙失レ業。尚書領二所部兵一塞二其道一。壅二原累一レ石。緜四百里。深高皆三丈。寇不レ得レ進。民還二其居一。歲罷二運錢三千萬餘一。黑水室韋。以二騎五千一來屬二麾下一。邊威益張。其後與二耿仁智一謀レ殺レ之。事發族夷。尚書獨走免。李光弼以聞。詔拜二冠軍將軍一。守右威衛將軍檢校殿中監。封二昌化郡王一。左嶺軍使。積レ粟厲レ兵。出入耕戰。以レ疾去レ職。貞元十一年二月丁巳。薨於二華陰告平里一。年若干。卽葬二於其地一。二子大夫爲レ長。季曰二重元一。爲二某官一。『尚書戰功官銜。』銘曰。烏氏在レ唐。有レ家於初。左武左領。二祖紹居。中郎少卑。屬二於尚書一。不レ償二其勞一。乃相二大夫一。授二我戎節一。制有二壇墟一。『敍二世系一。第一小段。』數備禮登。以有二宗廟一。作二廟天都一。以致二其孝一。右祖左孫。爰饗二其報一。『敍二廟享一。第二小段。』云

ナリ。
捺祿ハ山ノ名。
墮ハ墜ト同ジ、ほりナリ。
緜ハ綿ト同ジ。彌漫ノ意。
歲罷運錢トハ東陸警ヲ息メ、運道慮ナシ、故ニ歲ニ運錢ヲ罷ムルコト千萬ヲ以テ計フルナイフ。
史思明ハ祿山ノ部下ノ大將ノ名。
檢校ハ試攝判知ノ官。
大夫ハ重胤ノコト。

烏氏云云ハ、家ヲ武德ノ時ニ起スナイフ。
紹ハ繼ナリ。
壇ハ疆ト同ジ。

誰無レ子。其有レ無レ孫。克對無レ羞。乃惟有レ人」。第三小段言重胤不レ羞二父祖一。念昔平盧。爲レ艱爲レ瘁。大夫承レ之。危不レ棄レ義」。第四小段言二重胤有一レ功。四方其平。士有レ息。來覲來齋。以饋二黍稷一』。第五小段言二士宜レ助二重胤一享。以上第四大段銘。

## 魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘

主意　言二孝能繼一レ父志一。忠能勤レ王。

元和八年。十一月壬子。上命二丞相元衡一。丞相吉甫。丞相絳。召二太史尚書比部郎中韓愈一。至二政事堂一。傳レ詔曰。田弘正始有レ廟二京師一。朕惟弘正先祖父。厥心靡レ不レ嚮二帝室一。訖不レ得レ施。乃以レ教二付厥子一。維弘正。銜レ訓嗣レ事。朝夕不レ怠。以能迎二天之休一。顯有二丕功一。維父子繼二忠孝一。予維寵二嘉之一。是以命二汝愈一銘。欽哉」。第一小段敍二命レ碑之

四方其——今太平ニシテ四海靜ナリ、將士漸ク倦怠休息スルコトアラバ、時ニ入覲シテ齋廟戒祭スベシ。

吉甫絳ノ二人ハ李姓。

迎天之云云、天ノ美德ヲ受ケ、之ニヨリテ大功業ナセリ、休ハ美ナリ、丕ハ大ナリ。悸ハ心動クナリ、怖ルルナリ。

不報トハ許可セラレザルナリ。

克ハ史臣ノ名。駟駜泮閟ノ四篇皆魯頌ニ見ユ。

假ハいたるナリ。

康靖ハ安ンジ治ムルナリ。

休寧トハ死者ノ靈ヲ慰安スルナイフ。

明命ハ勅命ナリ。

六州ハ魏、博、相、衛、磁、紹、俱。

詔。維時臣愈。承命悸恐。明日詣東上閤門。拜疏辭謝。不報。退伏念。昔者魯僖公能遵其祖伯禽之烈。周天子。實命其史臣克。作爲駉駜泮閟之詩。使聲於其廟。以假魯靈。第一節引典。今天子。嘉田侯服父訓不違。用康靖我國家。蓋寵銘之。所以休寧田氏之祖考。而臣適執筆隸太史。奉明命。其可以辭。』不可辭。○第二節敍上第一大段敍作銘原由。謹案。魏博節度使。銀青光祿大夫。檢校工部尚書。兼魏州大都督府長史。御史大夫。沂國公田弘正。北平盧龍人。故爲魏博諸將。忠孝畏愼。田季安卒。其子幼弱。用故事。代父人吏不附。迎弘正於其家。使領軍事。弘正籍其軍之衆。與六州之人。還之朝廷。悉除河北故事。比諸州。故得用爲帥。」第一小段敍功。已而復贈其父故滄州刺史兵部尚書。母夫人

府君ハ官府ノ君ト云フガ如シ。

號登元和ハ年號ノ元和ト改マルヲ云フ。
大聖載營ノ大聖ハ憲宗ヲ指ス、載ハ則チナリ營ハ經營ナリ。
業業ハ高キ貌。
嬰兒ハ懷諫ヲ謂フ。
奉我天明トハ君上ニ奉仕スト云フコトナリ、左傳ニ三子順天明トアリ、天明ノ語此ニ出ヅ。
邦經トハ國法トイフガ如シ。
錫ハ賜ナリ弘正ヲ以テ師トナスヲ云フ。
宗ハ宗廟ナリ。
豹尾ハ屬車ノ儀飾ナリ。
神旗ハ書ノ載記ニ見

鄭氏梁國太夫人。得立廟祭三代。曹祖都水使者府君。祭初室。祖安東司馬。贈襄州刺史府君。祭二室。兵部府君。祭東室。」

第二小段敍追贈。○以上第二大段敍弘正有功。能榮先代。

其銘曰。

唐繼古帝。海外受制。狎於太寧。燕盜以驚。羣黨相維。河北失平。號登元和。大聖載營。風揮日舒。咸順指令。業業魏土。嬰兒戲兵。吏戎愁毒。莫保腰頸。」第一小段敍河北亂。

人曰田侯。其德可倚。叫譟奔趨。乘門請起。田侯攝事。奉我天明。束縛弓戈。考校度程。提壜簪戶。來復邦經。」第二小段敍田侯勤王。

帝欽良臣。曰維錫予。嗟我六州。始復故初。告慶於宗。以降命書。旌節有韜。豹尾神旗。囊兜戟纛。以長魏師。田侯稽首。臣愚不肖。迨茲有成。祖考之教。帝曰俞哉。維汝忠孝。予思乃父。追秩夏卿。媲德娠賢。梁國是榮。」第三

ユ、將軍樹ンル所ノ旗ヲ云フ。
纛ハ弓服。
兜ハ首鎧。
纛ハ羽葆幢、柩ヲ輓ク人ノ役ヲ指麾スルはたナリ。
追秩夏卿トハ兵部尚書ヲ贈ルヲ謂フ。
姚德嫄賢ノ姚ハ配ナリ、梁國夫人兵部ノ德ニ配スルヲ云フ、嫄ハ孕ナリ、賢ヲ嫄ムトハ田正ヲ生ムヲ謂フ。
相ハ視ルナリ。
阯ハ趾ナリ。
豎豎ハ果殺ノ貌、禮記玉藻ニ、戎客豎豎トアリ。
外庸ハ府州ヲ治ムルノ功績ヲ謂フ、庸ハ功ナリ。
天水、略陽ハ共ニ秦ノ地、漢中府ニ屬ス。
焯ハ或ハ綽ニ同ジ、寬裕ノ貌。

小段敍田侯作廟相方視阯。見於蓍龜。祖考咸喜。豎豎田侯。兩追贈。有文武。訖其外庸。可作承輔。咨汝田侯。勿亟勿遲。覲饗式時。爾祖爾思』。第四小段敍廟享。○以上第三大段銘。

唐故相權公墓碑

主意　言公善人。

上之元和六年。其相曰權公。諱德輿。字載之。其本出自殷帝武丁。武丁之子。降封於權。權江漢閒國也。周衰。入楚爲權氏。楚滅徙秦。而居天水略陽。苻秦之王中國。其臣有安邱公翼者。有大臣之言。後六世至平涼公文誕。爲唐上庸太守。荊州大都督長史。焯有聲烈。平涼曾孫諱棰。贈尚書禮部郎中。以

蘇源明名ハ頲、字ハ弱夫、肅宗ノ時、祕書官ニテ卒ル、武人ナレドモ文事アリ。

羽林軍トハ十六衛ノ一ナリ。

參軍ハ正八品ナリ。

王父ハ父ノ考ナリ。

四聲トハ平、上、去、入ノ四聲ナリ。

祥ハ善ナリ。

貞元ハ德宗ノ年號。

姦倖トハ裴延齡ヲ指ス。

起居云云、太宗ノ時ニ起居院ヲ禁中ニ置ク、舍人ハ其院ノ役人。

知制誥ハ勅詔册命ヲ掌ル役、續事始ニ開元元年蘇頲王珪、紫微侍郎知制誥トナル、自後他官ヲ以テ翰林學士中書舍人トナス、皆制誥ト

藝學ヲ與ニ蘇源明一相善。卒ニ官羽林軍錄事參軍一。於レ公爲ニ王父一。郎中生贈太子太保諱皐。以ニ忠孝一致ニ大名一。去レ官。累以レ官徵不レ起。追諡貞孝。『是實生レ公。』以上第一大段敍ニ世系一。公在ニ相位一三年。其後以ニ吏部尚書一授レ節。鎭ニ山南一。年六十以薨。贈ニ尚書左僕射一。諡ニ文公一。』以上第二大段敍ニ公終始一。略。公生三歲知レ變四聲。四歲能爲レ詩。七歲而貞孝公卒。來弔哭者。見ニ其顏色聲容一。皆相謂。權氏世有ニ其人一。及長好レ學。孝敬祥順。貞元八年。以ニ前江西府監察御史一。徵拜博士。朝士以レ得レ人相慶。改ニ左補闕一。章奏不レ絕。譏ニ排姦倖一。與ニ陽城一爲レ助。轉ニ起居舍人一。遂知ニ制誥一。凡撰ニ命詞一九年。以レ類集爲ニ五十卷一。天下稱ニ其能一。十八年以ニ中書舍人一典ニ貢士一。拜ニ尚書禮部侍郎一。薦ニ士於公一者。其言可レ信。不レ以ニ其人一布衣一不レ用。卽不レ可レ信。雖ニ大官勢人一交

稱ストアリ。
綴ハ猶畱ノ如シ、進士明經トハ、詩賦ヲ以テ取ル者之ヲ進士ト云フ、經義ヲ以テ取ル者之ヲ明經ト云フ。
鉅人トハ大德ノ人ヲ謂フ。
張ハ施設ノ如シ。
維匡調娛ノ維匡ハ之ヲ維持匡正スルナリ、或ハ云フ、娛疑ラクハ護ニ作ルベシト云フ。
矜ハ自ラ賢トスルナリ。
與ハ爲ト訓ズ。
露ハ顯ナリ、不露布ハ其事ヲ密ニシテ、人ノ視聽ニ顯布セザルナリ。
舉ハ皆ナリ。
選付ハ人オヲ選擇シテ、事ヲ付託スルナリ。
痾ハ痛ナリ。

言。一不以綴意。奏廣歲所取進士明經。在得人不以員拘轉戶兵吏三曹侍郎太子賓客。復爲兵部。遷太常卿。天下愈推爲鉅人長德。時天子以爲宰相宜參用道德人。因拜禮部尚書同中書門下平章事。公既謝辭。不許。其所設張擧措。必本於寬大。以幾教化。多所助與。維匡調娛。不失其正。中於和節。不爲聲章。因善與賢。不矜主己。以吏部尚書留守東郡。東方諸帥。有利病不能自請者。公常與疏陳。不以露布。復拜太常。轉刑部尚書。考定新舊令式爲三十編。擧可長用。』第一小段平生。其在山南河南。勤於選付。治以和簡。人以寧便。以疾求還。十三年某月甲子。道薨於洋之白草。奏至。天子痾傷。爲之不御朝。郎官致贈錫。官居野處。上下弔哭。皆曰。善人死矣。其年某月

貰ハ其罪ヲ宥ムルナリ。

踵ハ足後ナリ。
躓ハ連接ノ義。
達官ハ猶顯官ト云フガ如シ。
病ハ疾ノ甚シキナリ。

俟ハ待ト同ジ、たくはふナリ。

纍然ハ羸癃ノ貌。

日葬二河南北山一在二貞孝東五里一』第二小段病甚。○以上第三大段詳二敍履歷一公由レ陪レ屬升列レ年除歲遷。以レ至二公宰一。人皆喜レ聞。若レ己與レ有レ無忌嫉者。」第一小段大意。于頔坐レ子殺レ人。失レ位自囚。親戚莫レ敢過レ門省顧。朝莫レ敢言者。公將レ留守公都。爲二上言一曰。頔之罪既レ貰不レ竟。宜レ因賜二寬詔一。上曰然。公爲レ吾行二諭之一。頔以不二憂死一。」第二小段救レ頔。前後考第進士。及レ庭所レ策試レ士。踵相躡爲二宰相達官一。與レ公相先後。其餘布二處臺閣外府一。凡百餘人。」第三小段薦レ人。自レ始學至二疾未一レ病。未レ嘗一日去レ書不レ觀。公既以レ能爲二文辭一。擅二聲於朝一。多銘二卿大夫功德一。然其爲レ家不レ視二簿書一。未レ嘗問二有亡一。費不レ俟レ餘。』第四小段好レ學能レ文。○以上第四大段敍二公平生性行一公娶二清河崔氏女一。其父造。嘗相二德宗一。號爲二名臣一。』以上第五大段敍配。既葬。其子監察御史璩。纍然服レ喪。來有レ請。』以上第六大段敍二請レ銘。乃作二銘文一曰。

滅楚徙秦トハ秦ノ楚ヲ滅セルトキ、秦ニ徙リシヲ云フ。
嬴劉之間ハ秦漢ノ際ナリ。
詆訶浮屠云云檄翼、嘗テ苻堅ガ沙門道安ト同輦スルヲ諫止セシヲイフ。
鳳鳥不至ハ論語子罕篇ノ語、時ノ未ダ至ラザルヲ云フ、聖世ニ遭ハザルナリ。
稅ハ休息ナリ。
六官ハ吏、戶、禮、兵、刑、工ノ六部ヲイフ。
屛ハ蔽ナリ。
毗ハ輔ナリ。



權在二商周一。世無レ不レ存。滅レ楚徙レ秦。嬴劉之閒。甘泉始侯。以及二安邱一。詆二訶浮屠一。皇極之扶。貞孝之生。鳳鳥不レ至。爵位豈多。半塗以稅。壽考豈多。四十而逝。惟其不レ有。以惠二厥後一。是生二相君一。爲二朝德首一。」敍二先世一。第一小段　行世祖之。文世師之。流連二六官一。出入屛毗。無レ黨無レ讐。擧世莫レ疵。人所レ憚爲。公勇爲之。人所二競馳一。公絕不レ窺。孰克知レ之。德將在レ斯。刻二詩墓碑一。以永二厥垂一。』第二小段頌レ公。○以上第七大段銘。

唐宋八家文讀本卷五　終

墓誌銘、誌ハ記ナリ、銘ハ名ナリ、漢杜子夏ヨリ、始メテ文ヲ勒シテ墓側ニ埋ム、蓋シ葬時其人ノ世系名字、壽年卒葬日月ト、其子孫ノ大略トヲ述ベ、石ニ勒シテ蓋ヲ加ヘ、壙前三尺ノ地ニ埋ム、以テ異時陵谷變遷ノ防トス。

孝寬、將注ニ、孝寬名ハ叔裕、字ヲ以テ行ハル、周ニ仕ヘテ大司空トナルトアリ、周ハ北周ナリ。

開號ハ封ゼラレテ始テ鄖國公ト號スルコト。

甥孫ハ姉妹ノ孫ノコトナリ。

舉明經第ハ明經ノ科目ニ試ミラレテ及第シタルナイフ、明經第ハ經義ヲ主トスル科目ナリ。

紫閣山ハ西安府鄠縣ニ在リ、終南山ノ別峰ナ

# 唐宋八家文讀本卷六

唐故江西觀察使韋公墓誌銘

主意　言公才能臣。治功聞天下。

公諱丹。字某。姓韋氏。六世祖孝寬。仕周有功。以公開號於鄖。

公之子孫。世爲大官。帷公之父政。卒維縣丞。贈虢州刺史。』

以上第一大段敍世系。

公既孤。以甥孫。從太師魯公眞卿學。太師愛之。舉明經第。選授陝州遠安令。以讓其庶兄。入紫閣山。事從父熊。通五經。登科。歷校書郎。咸陽尉。佐刑寧軍。自監察御史爲殿中侍御史。徵拜太子舍人。益有名」。第一小段敍有名。遷起居郎。吳少誠襲許州。拜河陽行軍司馬。未行少誠死。改駕部員外郎。新羅國

君死。公以司封郎中兼御史中丞。紫衣金魚往弔。立其嗣。故事。使外國者。常賜州縣官十員。使以名上。以便其私。號私覿官。公將行。曰吾天子吏。使海外國。不足於資。宜上請。安有賣官。以受錢耶。卽具疏所以上。以爲賢。命有司與其費。至鄆州。會新羅告所當立君死。還拜容州刺史。容管經略招討使。始城容州。周十三里。置屯田二十四所。化大行。詔加太中大夫。順宗嗣位。拜河南少尹。行未至。拜鄭滑行軍司馬。始至襄陽。詔拜諫議大夫。既至。日言事。不阿權臣。謇然有直名。遂號爲才臣。」第二小段　敍賢且才。劉闢反。圍梓州。詔以公爲東川節度使御史大夫。公行至漢中。上疏言。梓州在圍閒。守方盡力。不可易將。徵還。入議蜀事。劉闢去梓州。因以梓州讓高崇文。拜晉慈隰

リ。
五經ハ詩、書、易、春秋、禮ノ五經書。
新羅國君ハ敬信、嗣ハ嫡孫俊邕ナリ。
御史、唐書百官志ニ、大夫一人、正二品、刑法典章ヲ以テ百官ノ罪惡ヲ糾正スルコトヲ掌ルトアリ。
起居郎ハ左史ノ官ナリ。
吳少誠云云、吳少誠ノ死ハ元和四年ナリ、然ルニ下文ノ劉闢ノ叛ハ貞元年、又居ルコト三年云云トイヒ、而シテ元和五年八月葬ズトイフ、恐ラクハ年代ニ誤謬アラン。
金魚ハ黃金製ノ魚形ノ飾ヲ附ケタル帶、金史輿服志ニ、一品ヨリ四品ニ至ルマデ金魚ヲ佩ブト見ユ。
私覿ハ私ノ禮ヲ以テ面會スルナリ。
諫議大夫ハ諫諍ヲ進ムル官、左右アリ、中書門下省ニ屬ス、審然ハ直言ノ貌。

扶風縣男ハ唐代封爵ノ制、郡縣開國公侯伯子男ノ號アリ、縣男ハ其第九等ナリ。

八州ハ洪、江、饒、虔、吉信、撫、袁。
財ハ材ト同ジ。

估ハ賣ルナリ。
贏ハ餘利ナリ。

與ハ爲ト訓ズ。

重屋ハ二階家ナリ。
火憂無キハ瓦屋ノ利ナル所ナリ、暑濕ニ高(二階)ニ登ルハ重屋ノ利ナル所ナリ。
市營ハ市場ト營所トナリ、商ハ市ニ歸シ軍ハ營ニ歸ス、雜處セシメ

等ノ州ノ觀察防禦使ニ自リ扶風縣ノ男ニ進封シ武陽郡ノ開國公ニ食ム邑二千戶ニ將ニ行カントス上言ス臣ノ所レ治スル三州ニ非ズ要害ノ地ニ不レ足ラ張ニ職ヲ一スルニ爲ニ國家ノ費ヲ一不レ如カ下屬スルノヲ上ニ之ヲ河東ニ便ナルニ上ニ以テ爲ス忠ト一歲ニ拜シテ洪州ノ刺史ニ。江南西道ノ觀察使ニ。以テ晉慈隰ヲ屬ス河東ニ』第三小段敍忠君。○以上第二大段敍履歷。公既ニ至ルトキ則チ計ヲ口ニ受ケ俸錢ヲ一委ス其餘ヲ於官ニ。罷メ八州無事之食者ノ以テ聚ム其財ヲ。」第一小段敍自節省冗。始テ教ヘテ人ニ爲リ瓦屋ヲ一。取ルニ財ヲ於山ニ。召シ陶工ヲ一。教ヘ人ニ陶スルコトヲ一。聚メ材瓦ヲ於場ニ一。度リ其費ヲ一以テ爲シ估ヲ一。不レ取ラ贏利ヲ一。凡ソ取ルモノ材瓦ヲ於官ニ一。業定テ而受ク其償ヲ一。從フ令ニ者ハ免シ其賦之半ヲ一。逃レテ未ダ復ラ者ハ。官與ニ爲スヲ一之ヲ。貧シクシテ不レ能ハ者ハ畀フ之ニ財ヲ一。載セテ食ト與ヲ一漿ヲ。親ラ往イテ勸ム之ヲ一。爲リ瓦屋萬三千七百ヲ一。爲ル重屋四千七百ヲ一。民シ無火憂ヒ一。暑濕ニハ則チ乘ズ其ニ高キニ。」第二小段一事。別ニ命ジテ置ク南北ノ市ヲ一營ム。諸軍歲旱シ種不レバ入レ土ニ一。募ツテ人ヲ一就カシメ功ヲ一。厚クシテ與ヘテ之ニ一直ヲ一。而給ス其ニ食ヲ一。業成リ人不レ病ウレ飢ヘ一。爲リテ長衢ヲ一

南北夾兩營。東西七里。人去漖汚氣益蘇」第三小段二事。復作南昌縣。徙廄於高地。因其廢倉大屋。馬以不連死」第四小段三事。明年築隄捍江。長十二里。疏爲斗門。以走潦水。公去位之明年。江水平隄。老幼泣而思曰。無此隄。吾屍其流入海矣」。第五小段四事。灌陂塘五百九十八。得田萬有二千頃」。第六小段五事。凡爲民去害興利。若嗜慾。居三年。於江西八州。無遺便。其大如是。其細可略也』。

第七小段總束五事。○以上第三大段敍江西功績。

卒有違令當死者。公不果於誅。杖而遣之。去上書告公所爲不法若干條。朝廷方勇於治。且以爲公名才能臣。治功聞天下。才能治功。收一篇。不辨則受垢。詔罷官。留江西待辨。使未至。月餘。公以疾薨。使至。辨凡卒所告事若干條。皆無絲毫實。詔笞卒百。流嶺南。公能益明。春秋五十八。薨於元和

ザルナリ。
漖ハ汚ナリ、狎ナリ。
捍江ハ楊子江ノ水ヲ防グナリ、捍ハ扞ノ訛ナリ。
疏ハ分ナリ、通ナリ。
斗門ハ潦水ヲ洩スノ口ナリ、潦水ハ溜水。
江水平隄ハ洪水ヲ隄ニテ防ギタルヲイフ。
遺便ハ遺利ニ同ジ。
勇於治云云、朝廷方ニ治ニ汲汲タル時ナリシカバ、公ニ不法ノ所爲アリト聞キテ放置スル能ハズ、然レドモ又公ハ才能ヲ以テ天下ニ聞ユル士、實否ヲ糺サズシテ處分セバ譏ヲ受ケント、先ヅ官ヲ免ジテ糺明ヲ待タシムトナリ。

賸ハ剩ノ本字ナリ。

前走ハ先導セシムルナリ。

太師ハ顔眞卿ナリ。

慊慊ハ意滿タザル貌。

矯矯ハ強キ貌。

五年八月六日。』以上第四大段敍以冤罪薨。公好施與。家無賸財。自校書郎。至爲觀察使。擁吏卒。前走七州刺史。與賓客處。如布衣時。自持卑一不易。』以上第五大段敍性行。娶清河崔氏。故支江令諷之女。某官某之孫。有子曰寘。年十五。明經及第。嗣其家業。後夫人蘭陵蕭氏。中書令華之孫。殿中侍御史恆之女。皆先公終。有女一人。凡公男若干人。女若干人。』以上第六大段敍妻子。明年七月壬寅。後葬萬年縣少陵原。將葬。其從事東平呂宗禮。與其子寘謀曰。我公宜得直而不華者銘。傳於後。固不朽矣。寘來請銘。』以上第七大段敍葬地及作銘。銘曰。

武陽受業。始於太師。以官讓兄。自待不疑。勤於紫閣。取益以卑。可謂有源。卒用無疵。」第一小段篤學。慊慊爲人。矯矯爲官。爰及江

辨而益明トハ、公ノ所謂不法所爲ナルモノヲ調査(辨)スルニ、公明正大ナルコト益〻明白トナレリトナリ。

神道、文體明辨ニ、晉宋ノ間、始メテ神道碑ト稱ス、蓋シ墓與家東南ヲ以テ神道トナス、碑其地ニ建ツ、因ツテ名クトアリ、一說ニ、墓前道ヲ開キ、石柱ヲ建テテ標トナスモノナイフト。

以國氏、韓氏ハ唐叔虞ニ出ヅ、故ニ姬姓ナリ、後世邑ヲ韓國ニ食ム、因ツテ氏トス。

陽夏ハ隋ニ改メテ太康トナス。

校ハ角ナリ、不校ハ爭ハザルナリ。

建中貞元並ニ德宗ノ年號。

西(ニ)功德具(ニ)完(シ)。名聲之下(ニ)。獨處爲(スレ)難(シト)。辨而益明(ナリ)。仇者所(レ)歎(ズル)」第二小段才能。碑於(スルハ)墓前(ニレ)。維昭(レ)美故(ナリ)。納(メテ)銘墓中(ニ)。以(テ)識(ス)公墓(ニ)。』第三小段碑銘。○以上第八大段銘。

## 司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘

主意　敍(二)公勤王大功(一)。

韓(ハ)姬姓(ナリ)。以(テ)國(ヲ)氏(トス)。其先有(リ)自(下)潁川(ニ)徙(ル)陽夏(ニ)者(一)。其地於(テ)今爲(ス)陳之太康(ト)。太康之韓。其稱蓋(シ)久(シ)。然自(レ)公始大著(ル)」第一小段敍(二)先世(一)。公諱(ハ)弘。公之父曰(フ)海(ト)。爲(レ)人魁偉沈塞(テ)。以(テ)武勇(ヲ)游(ニ)仕許汴之間(ニ)。寡言自可(トシ)。不(ニ)與(レ)人校(セ)。衆推(シテ)以爲(ス)鉅人長者(ト)。官至(リ)游擊將軍(ニ)。贈(ラル)太師(ヲ)。娶(リ)鄉邑劉氏女(ヲ)。生(テ)公(ヲ)。是爲(ス)齊國太夫人(ト)」第二小段敍(二)父母(一)。夫人之兄曰(フ)司徒玄佐(ト)。有(リ)功(ニ)建中貞元之間(ニ)。爲(ル)宣武軍帥(ト)。有(ス)汴(ニ)。宋(ニ)。亳(ニ)。潁四州之

地。兵士十萬人』。第三小段附敍外親。起後段。○以上第一大段敍世系。公少依舅氏讀書。習騎射。事親孝謹。偪偪自將。不縱爲子弟華靡遊放事。出入敬恭。軍中皆目之。嘗一抵京師。就明經試。退曰。此不足發名成業。復去從舅氏學。將兵數百人。悉識其材鄙怯勇。指付必堪其事。司徒歎奇之。士卒屬心。諸老將皆自以爲不及』。第一小段就舅氏學。司徒卒。去爲宋南城將。比六七歲。汴軍連亂不定。貞元十五年劉逸淮死。軍中皆曰。此軍司徒所樹。必擇其骨肉爲士卒所慕賴者付之。今見在人。莫如韓甥。且其功最大。而材又俊。卽柄授之。而請命於天子。天子以爲然。遂自大理評事。拜工部尚書。代逸淮爲宣武軍節度使。悉有其舅司徒之兵與地』。第二小段襲舅氏兵。○以上第二大段敍公功業之本。在襲舅氏兵地。

當此時。陳許帥曲環死。而吳少誠反。

舅氏ハ母ノ兄弟。

偪偪ハ侃侃ト同ジク剛直ナリ。

明經試ハ試驗ノ科目、前文ニ解アリ。

骨肉ハ緣族ナリ。

付ハ附託ナリ。見在ハ現在ナリ。甥ハ姉妹ノ子ナリ。

柄授ハ權柄ヲ授クルナリ。

當此時ハ是ヨリ前ノ義ト見ルベシ。

咱之ハ利ヲ以テ之ヲ誘フナリ、援ヲ汴ノ逸淮ニ求ムルニ、陳ノ汴ニ歸スルヲ以テスルノ之ナリ。

嬙ハ拔キ去ルナリ、櫛ハ梳リ取ルナリ、一苗一髮ヲモ遺サザルナイフ。

揃ハ剪ト同ジク斬ルナリ。

駴ハ駭ニ同シ、ガドログナリ。

狗ハ徇ノ俗字、となふるナリ。

波ハ波ヲ起スナイフ。

讙ハ驚呼ナリ、呶ハ讙聲ナリ。

嚇ハ恐嚇ナリ。

翦ハ芟截ナリ、夷ハ平カニスルナリ。

詐窮變索云云、索ハ散ナリ盡ナリ、韓弘逆メ師古ノ情ヲ得、其設クル所ノ詭變、索然ト散盡スルナイフ。

自將圍許。求援於逸淮。咱之以陳歸汴。使數輩在館。公悉驅出斬之。選卒三千人。會諸軍。擊少誠許下。少誠失勢以走。河南無事。」第一小段敍公曰。自吾舅歿。五亂於汴者。吾苗嬙而髮櫛之。幾盡。然不一揃刈。不足令震駴。命劉鋠以其卒三百人。待命於門。數之以數與於亂。自以爲功。幷斬之以狗。血流波道。自是訖公之朝京師。二十有一年。莫敢有譁呶叫號於城郭者。第二小段上」敍誅劉鋠。李師道。據史李師古誤。作言起事。屯兵於曹。以嚇滑帥。且告假道。公使謂曰。汝能越吾界而爲盜耶。有以相待。無爲空言。滑帥告急。公使謂曰。吾在此。公無恐。或告曰。翦棘夷道。兵且至矣。請備之。公曰。兵來不除道也。不爲應。師古詐窮變索。遷延旋軍。少誠以牛皮鞾材遺師古。師古以鹽資少誠。潛

鞍材ノ鞍ハ鞋ニ同ジ、材ハ材具ナリ。

少誠以——吳少誠牛皮鞋材等ヲ師古ニ遺リ、師古ハ鹽ヲ贈リテ少誠ヲ援ク、兩方ノ使者竊ニ公ノ國境ヲ過ギ、事露顯ス、公命ジテ此等ノ贈答物品ヲ差押ヘ、之ヲ國庫ニ運ビテ曰ク、私ヲ以テ相贈答スルハ國法ノ禁ズル所、故ニ之ヲ沒收スト。

兩河ハ河南河北ヲ謂フ。

成德ハ王承宗ナリ。

北寇ハ鄆寇ヲ指ス、師道ノ統ブル所。

蔡姦ハ蔡寇ナリ。

過公界。覺皆畧輸之庫。曰。此於法不得以私相餽。」第三小段敍壓李師古。

田弘正之開魏博。李師道使來告曰。我代與田氏約。相保援。今弘正非其族。又首變兩河事。亦公之所惡。我將與成德合軍討之。敢告。公謂其使曰。我不知利害。知奉詔行事耳。若兵北過河。我卽東兵以取曹。師道懼不敢動。弘正以濟。」第四小段敍濟田弘正。

誅吳元濟也。命公都統諸軍。曰無自行。以遏北寇。公請使子公武以兵萬三千人。會討蔡下。歸財與糧。以濟諸軍。卒擒蔡姦。於是以公爲侍中。而以公武爲鄜坊丹延節度使。」第五小段敍會討吳元濟。

師道之誅。公以兵東下。進圍考城。克之。遂進迫曹。曹寇乞降。鄆部既平。公曰。吾無事於此。其朝京師。天子曰。大臣不可以暑行。其秋之待。公曰。君爲仁。臣爲恭可矣。遂行。既至獻

馬三千匹。絹五十萬匹。他錦紈。綺縑又三萬。金銀器千。而汴之庫廄。錢以貫數者。尚餘百萬。絹亦合百餘萬匹。馬七千。糧三百萬斛。兵械多至不可數。初公有汴。承五亂之後。掠賞之餘。且斂且給。恆無宿儲。東一段。收一段首五亂。至是公私充塞。至於露積不垣。冊拜司徒兼中書令。進見上殿。拜跪給扶。贊元經體。不治細微。天子敬之』。第六小段敍朝京師。○以上第三大段敍守汴平賊。以奏功于京師之事。元和十五年。今天子卽位。公爲冢宰。又除河中節度使。在鎭三年。以疾乞歸。復拜司徒中書令。病不能朝。以長慶二年十二月三日。薨於永崇里第。年五十八。天子爲之罷朝三日。贈太尉。賜布粟。其葬物有司官給之。京兆尹監護。明年七月某日。葬於萬年縣少陵原。京城東南三十里。楚國夫人翟氏祔。』以上第四大段敍病薨葬祔。子男

五亂云云、貞元八年司徒玄佐死シテヨリ反亂五タビ起ル。

露積トハ野ニ在ツテ屋セザルナイフ。

給扶ハ足疾アルヲ以テ之ヲ扶助スルノ人ヲ給フナリ。

贊元經——元化ヲ贊シ大體ヲ持シ、小事ニ拘ハラズ、天子之ヲ重ンズ。

今天子ハ穆宗ナリ。

冢宰ハ政治ノ長官ナリ。

長慶ハ穆宗ノ年號。

京兆尹——時ニ公方ニ京ニ尹タレバ、喪事ヲ監護スル者ハ公ナリ。

祔ハ死者ヲ先人ニ合祀スルナリ。

以公武云云、通鑑ニハ公武卒ス、弘繼薨ズ、穉孫紹宗嗣グトアリ。

汴ノ南云云、汴ノ南ハ蔡ニシテ吳少誠コレニ據リ、北ハ鄆ニシテ李師道コレヲ有ツ。

佐ハ佐媚ナリ、好ハ相善クスルナリ。

飛謀釣謗ノ飛ハ飛語ノ飛ト同ジ、謀計ヲ飛揚シ、誹謗ノ語ヲ釣出シテ我ヲ離間スルナリ。

壞其機牙、機牙ハ弩牙ニシテ弩弓ノ將ニ發セントスルニ譬フ、我先ヅ其機牙ヲ壞ル、故ニ彼レ發スルヲ得ザルナリ、機先ヲ制スルヲ云フ。

孰與高下ト許公ノ功比スル者ナキヲイフ。

毋憂ノ憂ハ忌服ナリ。

金吾ハ執金吾ナリ、金革ヲ執リ、宮門ヲ警衛シ、非常ヲ禦ク官、漢代ニ始リ、唐ニ左右金吾トス。

司空ハ邦土四民ヲ司ル官、早ク舜典ニ見ニ。

二人。長曰ヒ二肅元一。某官。次曰ヒ二公武一。某官。肅元早死。公之將レ薨。公武暴病先卒。公哀傷之。月餘遂薨。無レ子。以二公武ノ子孫ヲ一紹レ宗。爲二主後一。』以上第五大段敍二子孫一。汴之南則蔡。北則鄆。二寇患。公居閒爲二己不利一。卑レ身佐レ辭。求レ與レ公好。薦二女請一レ昏。使日月至。既不レ可レ得。則飛レ謀釣レ謗。以閒染我。公先事候レ情。壞二其機牙一。姦不レ得レ發。王誅以成。最レ功定レ次。孰與高下。』三句總括一篇。○以上第六大段拒レ姦　公子公武。一事。公守汴立レ功之本。故拔敍于此。與レ公一時俱授二弓鉞一。處レ藩爲レ將。疆土相望。公武以二母憂一去レ鎭。公母弟充。自二金吾一代レ將。渭北。公以二司徒中書令一治レ蒲。於レ時弟充。自二鄭滑節度一平。宣武之亂。以二司空一居レ汴。自レ唐以來。莫レ與爲レ比。』以上第七大段總敍一族強盛。暗應上文舅氏一。公之爲レ治。嚴不レ爲レ煩。止除二害本一。不レ多レ教條。與レ人必信。吏得二其職一。賦入無レ所レ漏失。人安レ樂レ之。所在以富。

公與人有畛域。不爲戲狎。人得一笑語。重於金帛之賜。其罪殺人。不發聲色。問法何如。不自爲輕重。故無敢犯者。』以上第八大段敍平生性行。

其銘曰。

在貞元世。汴兵五猘。五猘應二五亂。是文線。將得其人。衆乃一愒。其人爲誰。韓姓許公。磔其梟狼。養以雨風。桑穀奮張。厥壤大豐。貞元孫。命正我宇。公爲臣宗。處得其所。河流兩壖。盜連爲羣。雄唱雌和。首尾一身。公居其閒。爲帝督姦。察其嘫呻。與其睨胸。左顧失視。右顧而跼。蔡先鄣鉗。三年而墟。槁乾四呼。終莫敢濡。常山幽都。孰陪孰扶。天施不罟。其討不逋。許公預焉。其賚如何。悠悠四方。既廣既長。無有外事。朝廷之治。』第一小段敍將功。許公來朝。車馬干戈。相乎將乎。威儀之多。將則是矣。相則三公。釋

宣武之亂、充宣武ニ鎭スル時、汴州ノ監軍其將李岑ヲ斬ツテ充ニ降ル。

畛域ハ限界ナリ、障壁アリテ近キ難キナリ。

猘ハ猘ニ同ジ、狂犬ナリ、五猘ハ卽チ五亂ニ比ス。

愒ハ憩ニ同ジ、息ムナリ。

梟ハ惡鳥、狼ハ惡獸、以テ兇賊ニ喩フ。

風雨ハ風雨ノ惠ナリ、五日一風十日一雨トイフガ如シ。

貞元元孫ハ貞元皇帝ノ孫憲宗ナリ、貞元ハ德宗ノ年號。

壖ハ江河ノ邊地ナイフ。

盜ハ蔡寇鄚寇ヲ指ス。

嘫ハ讙ニシテ眉ヲ蹙ムルナリ、呻ハ吟ニシテうめくナリ、困苦ノ狀ナイフ、睨胸ハ邪視ナリ、反側ノ徒ナイフ、言ハ良民ノ困苦スル者、奸邪ノ跋扈スル者ヲ視察スルナリ。

左顧右顧ハ敵人ノ驚怖シテ失措スルヲ言フ。

鉏ハ鋤ナリ誅鋤セラルルナリ。
常山ハ成徳軍。
幽都ハ范陽劉總。
天施不周ハ施設遺漏ナキナイフ。
許公來——許公ノ入朝スルヤ、車馬干戈ノ堂堂トシテ多キ、威儀ノ盛大ナル、良相ナル哉名將ナル哉、將トシテハ誠ニ其分(是)ナリ、相トシテハ三公タリ、師ヲ釋イテ廟堂ノ上ニ坐ス、穆宗(上)ノ喪ニ宅ルヤ、冢宰ノ官ヲ讓リテ蒲坂ニ靜養安居ス、榮達萬國ニ其比ヲ見ズ、弟ニ充アリ子ニ公武アリ、皆兵權ヲ握リテ一時ニ三侯ヲ出ス、人敢テ攀援(扳)スル者ナシ、生キテハ人ノ之ト榮ヲ爭フモノ無ク、死シテハ之ト令名ヲ共ニスル者無シ、乃チ文ヲ碑ニ刻シテ以テ其慶福ヲ大(鴻)ニス。
殘ノ父ヲ岑父トイフ。
尚書左丞トナリシハ長慶二年ニシテ、上書去官ハ翌三年ナリ、蔣注

師十萬。歸居廟堂。上之宅レ憂。公讓レ太宰。養安蒲坂。萬邦絕レ等」。第二小段 叙歸朝後。有レ弟有レ子。提レ兵守レ藩。一時三侯。人莫敢扳。生莫與榮。歿莫與令。刻文此碑。以鴻厥慶。」第三小段 叙子弟。○以上第九大段銘。

## 唐正議大夫尚書左丞孔公墓誌銘

主意 言公有才能而守節清苦。論議正平。

孔子之後三十八世有レ孫。曰レ戩。字君嚴。事レ唐爲尚書左丞。年七十三。三上レ書去レ官。天子以爲禮部尚書。祿之終レ身。而不敢煩以レ政」。第一小段 叙公年老去官。吏部侍郎韓愈。常賢其能。謂曰。公尚壯。上三酉。奚去之果曰。吾敢要レ君。吾年至。一宜レ去。吾爲左丞。不能進退郎官。唯相之爲。二宜去。愈又曰。古之老於鄉者。將自佚非自苦。閭井田宅具在。親戚之不レ仕。與倦而歸者。不レ在東阡。

在北陌。可杖屨來往也。今異於是。公誰與居。且公雖貴而無
諂資。何恃而歸。曰。吾負二宜去。尚奚顧子言。愈面嘆曰。公於
是乎賢遠於人。明日奏疏曰。臣與孔戣同在南省。數與相見。
戣爲人守節清苦。論議正平。年纔七十。筋力耳目。未覺衰老。
憂國忘家。用意至到。如戣輩在朝不過三數人。陛下不宜苟
順其求。不諂自助也。不報」第二小段詳敍所以去官。其人品自見。明年長慶四年正
月己未。公年七十四。告薨於家。贈兵部尚書。』第三小段敍薨。○以上第一大段概敍一生。
公始以進士佐三府。官至殿中侍御史。元和元年。以大理
正徵。累遷江州刺史。諫議大夫、事有害於政者。無所不言。加
皇太子侍讀。改給事中。言京兆尹阿縱罪人。詔奪京兆尹三
月之俸。權知尚書右丞。明年拜右丞。改華州刺史。明州歲貢

ニ、戣累表シテ老ヲ請フ、戣ニ詔シテ禮部侍郎ヲ以テ致仕セシム、優詔褒美、漢ノ徵士ノ故事ノ如シト見ユ。
相之爲トハ相ノナスマヽナリノ義。
老於鄉イハ老後致仕シテ鄉ニ歸ルコト。
倦而歸者トハ官ニ厭キテ致仕歸鄉スル者ヲイフ。
阡陌ハ道路ナリ、東西ヲ阡トイヒ、南北ヲ陌トイフ。
今異於是云云、唐世官ヲ以テ家トナス、故ニ歸田ノ樂無シ、古昔ノ鄉ニ老シテ自佚スル者ト異ナリ。
南省ハ禮部。
年纔七十ハ方ニ纔ニ七十ニ滿ルヲイフ。
不報ハ返事ナキナリ。

淡菜ハ卽チ海蠣ナリ、いがひナリ。
蚶ハ蛤ノ屬。
外按小兒トハ外按使ノ兒ナリ、外按使ハ冬期狩獵ヲ練習スルモノ、徒數百アリテ橫暴ヲ逞シウス、百姓ノ之ヲ恐ルル竊盜ノ如ク、禮ヲ厚ウシテ迎犒ス。
約以取足ノ四字一句ナリ、境內諸州ハ下句ニ屬ス、一ニ足ヲ境內諸州ニ取ルトスルハ不可ナリ、約ハ儉約ナリ。
貟錢ハ借金ナリ。
步ハ水際、泊步ハとばナリ。
碇ハ矴ニ同ジク、錘舟石ナリ。
磊落ハ衆多ノ貌。
犀珠ハ犀角珠玉ナリ。
以口爲貨トハ人身ヲ賣買スルナリ。
無名兒ハ姓氏族籍ノ不明ナル者。
山谷諸黃ハ黃洞ノ諸蕃ナリ。

海蟲。淡菜。蚶蚶可レ食之屬。自レ海抵二京師一。道路水陸。遞夫積レ功。歲爲二四十三萬六千人一。奏疏罷レ之。下二邽令笞外按小兒一。繫二御史獄一。公上疏理レ之。詔釋二下邽令一。而以二華州刺史一爲二大理卿一。〔一小段敍自進士至華州刺史。見論議正平。〕十二年自二國子祭酒一拜二御史大夫一。嶺南節度等使。約以取レ足。境內諸州。負錢至二二百萬一。悉放不レ收。蕃舶之至泊レ步。有下碇之稅上。始至有二閱貨一之。燕。犀珠磊落。賄及二僕隷一。公皆罷レ之。絕二海之商一。有下死於吾地一者上。官藏其貨。滿二三月一。無二妻子之請一者。盡沒有レ之。公曰。海道以レ年計。往復何月之拘。苟有二驗者一。悉推與レ之。無二算遠近一。厚二守宰俸一。而嚴二其法一。嶺南以レ口爲レ貨。其荒阻處。父子相縛爲レ奴。公一禁レ之。有レ隨二公吏一。得二無名兒一。蓄不レ言レ官。有二訟者一。公召殺レ之。山谷諸黃。世自聚爲レ豪。觀二吏厚

容桂二管トハ容管節度使桂管節度使ナリ。

向ハ嚮ナリ。

先言ハ先入ノ言ナリ。

枕ハまくらするナリ、藉ハ敷クナリ、病者相踵グチイフ。

不載南物トハ、南地ニ在リナガラ南地産出ノ物品ヲ携帯セザルチイフ、以テ其清節ヲ表ス。

薄緩急。或叛或從。容桂二管。利其擄掠。請合兵討之。冀一有功。有所指取。當是時。天子以武定淮西。河南北用事者。以破諸黃爲類。向意助之。公屢言。遠人急之則惜性命。相屯聚爲寇。緩之則自相怨恨而散。此禽獸耳。但可自計利害。不足與論是非。天子入先言。遂斂兵江西岳鄂湖南嶺南。會容桂之吏以討之。被霧露毒。相枕藉死。百無一還。安南乘勢殺都護李象古。桂將裴行立。容將楊旻。皆無功。數月自死。嶺南囂然。」

第二小段履歷中獨詳嶺南。見其能處。

祠部歲下廣州。祭南海廟。廟入海口。爲州者皆憚之。不自奉事。常稱疾。命從事自代。唯公歲常自行。官吏刻石。爲詩美之。十五年。遷尚書吏部侍郎。公之北歸。不載南物。奴婢之籍。不增一人。」第三小段敍敬神且清節。長慶元年。改右散騎常侍。

曾祖諱務本ハ卽チ孔子三十五世ノ孫也、其子チ如珪トイヒ、如珪ノ子チ岑父トイフ、岑父ハ卽チ戩公ノ父ナリ。皇考ハ亡父ナリ。

著作佐郎ハ官名、漢ニ著作郎チ置キ、魏ニ佐郎チ設ク、國史チ撰スルコトチ掌ル。

四門博士ハ太學ノ博士ナリ、四門ノ名ハ、初メ周代四方ノ郊ニ學校チ設ケシガ、魏ニ至リテ之チ皇居ノ四門ニ移ス、因テ四門學トイフ、唐之チ太學ニ合ス。

孔世卅——孔子三十八世ノ孫ニ孔戩トイフ者アリ、顏白ウシテ丈高シ、其笑フコト少キト寡言ナルトハ尙ホ等類アリト雖モ、其德ノ多

二年而爲尙書左丞』。第四小段敍歸朝後。○以上第二大段詳敍履歷事功。曾祖諱務本。滄州東光令。祖諱如珪。海州司戶參軍。贈尙書工部郎中。皇考諱岑父。祕書省著作佐郎。贈尙書左僕射」。第一小段敍世系。○起首主記孔子。不暇及他系。故特出曾祖以下于此。公夫人京兆韋氏。父种。大理評事。有四子。長曰溫質。四門博士。遵孺。遵憲。溫裕。皆明經。女子。長嫁中書舍人。平陽路隨。其季者幼。公之昆弟五人。載。戩。戩。戇。公於次爲第二」。第二小段敍家族。

公之薨。戩自湖南入爲少府監。其年八月甲申。戩與公子。葬公於河南河陰。廣武原。先公僕射墓之左』。第三小段敍葬地。○以上第三大段合敍世系。家族。葬地。銘曰。

孔世卅八。應起頭。吾見其孫。白而長身。寡笑與言。其尙類也。莫與之倫。德則多有。總束。請考於文』。以上第四大段以贊結一篇。

# 故幽州節度判官贈給事中清河張君墓誌銘

主意　言張君忠義大節。

張君名徹。字某。以進士。累官至范陽府監察御史。」第一小段敍下自進士爲幽州御史。長慶元年。今牛宰相爲御史中丞。奏君名迹中御史選。詔卽以爲御史。其府惜不敢留。遣之。而密奏。幽州將父子繼續不廷選。且久。今新收。臣又始至。孤怯須强佐。乃濟。發半道。有詔以君還之。仍遷殿中侍御史。加賜朱衣銀魚。」第二小段敍下命歸朝復還幽州。至數日。軍亂。怨其府從事。盡殺之而囚其帥。且相約。張御史長者。毋侮辱轢蹙我事。無庸殺。置之帥所。居月餘。聞有中貴人自京師至。君謂其帥。公無負此土人。上使至。可因請見

監察御史ハ唐書百官志ニ、六察ヲ掌司ス、ニ、官人ノ善惡ヲ察ス、ニ、賦役ノ均シカラザルヲ察ス、三、農桑ノ勤メザル、倉廩ノ耗減セルヲ察ス、四、妖猾盜賊ヲ察ス、五、茂才異等ヲ察ス、六、黜吏豪宗兼幷縱暴ヲ察スト有リ。

牛宰相ハ牛僧孺ナリ。

名迹ハ名聲行迹ナリ。

幽州將云云、幽州ノ將ハ李師道以前ヨリ皆自ラ署役ヲ置イテ相代リ、父子擅ニ繼續シテ朝廷ノ人選ニヨラザルコト久シ、今新ニ臣ヲ收メテ御史トセラル、殊ニ臣始メテ幽州ニ至ル、恐クハ孤弱ニシテ濟ス可カラズ、有力ノ輔佐アルヲ要スト、コキニ至ツテハ能ク之ト比倫スベキモノナシ、其文ヲ見テ之ヲ知ル可シ。

コマデ密奏ノ辭ナリ。
銀魚ハ銀制魚形ノ飾ヲ附ケタル帶、有位者之ヲ佩用ス。
轢轢ハ陸轢迫蹙ナリ。
庸ハ用ナリ。

餧ハ飼フナリ、鴟ハ鳶ナリ、鴞ハ梟ト同ジ。
虞ハ度ナリ、慮ナリ、孟子ニ有ニ不虞之譽一トアリ。
或收瘞云云ハ、或人公ノ屍ヲ放置スルニ忍ビズ、本葬ヲ營ムマデノ間、假ニ其所ニ收メ埋メタリトナリ、以俟ハ本葬ヲ待ツノ義ナリ。
使以幣云云、幣ヲ以テ公ノ屍ヲ范陽朱克融ノ軍ニ請ハシム、范陽ノ人義トシテ其屍ヲ使者張恭李元實ニ渡セリ。
鞏ハ輿ト同ジ。
傳歸ハ驛遞シテ屍ヲ家ニ送リ歸スコト。

自辨。幸得脫兒歸。卽推門求出。守者以告其魁。魁與其徒皆駭曰。必張御史。張御史忠義。忠義一篇主腦。必爲其帥告此餘人。餘謂叛餘人卽中貴人。不如遷之別館。卽與衆出君。君出門。罵衆曰。汝何敢反。前日吳元濟斬東市。今日李師道斬於軍中。同惡者父母妻子皆屠死。肉餧狗鼠鴟鴞。汝何敢反。汝何敢反。行且罵衆畏惡其言。不忍聞。且虞生變。卽擊君以死。君抵死。口不絕罵。衆皆曰。義士義士。或收瘞之以俟』。第三小段敍死節。○以上第一大段敍大節。事聞。天子壯之。贈給事中。其友侯雲長佐鄆使。請於其帥馬僕射。爲之選於軍中。得故與君相知。張恭李元實者。使以幣請之。范陽。范陽人義而歸之。以聞。詔所在給船鞏。傳歸其家。賜錢物。以葬。長慶四年四月某日。其妻子以君之喪。葬於某州某所。』

變易喪心ハ、狂ヲ發シ、常性ヲ變易シテ、本心ヲ失亡スルナリ。

空青雄黃ハ並ニ藥品ノ名、甲ハ銅精ヨリ生ズ、一名陰石、乙亦礦物、一名石膽。

劑錢ハ藥價ナリ。

劇ハ艱ナリ。

余ハ韓退之ナリ。

揭揭ハ高擧ノ貌、詩ニ葭莩揭揭ト見ユ。

噎喑云云、噎ハ聲塞ルナリ、喑ハ言ナキナリ、緘默言ハズ、容悅ヲ取リ、以テ生計ヲ求ムルヲ言フ、獨割ハ獨自ラ裁割シテ、他人ニ倚靠セザルヲ言フ。

以上第二大段敍レ葬。

君弟復。亦進士。佐汴宋。得レ疾。變易喪レ心。驚惑不レ常。君得レ閒。卽自視衣褥厚薄。節時其飮食。而匕箸進養之。禁其家無敢高語出レ聲。醫餌之藥。其物多空青雄黃。諸奇怪物。劑錢至數十萬。營治勤劇。皆自君手。不レ假レ之人。家貧妻子常有レ飢色。』以上第三大段補敍平生友愛。

祖某。某官。父某。某官。妻韓氏。禮部郎中某之孫。汴州開封尉某之女。於レ余爲叔父孫女。君常從レ余學。選於諸生而嫁與之。孝順祇修。孝順應忠義。羣女效其所爲。男若干人。曰某。女子曰某。』以上第四大段敍父祖妻子。

銘曰。

嗚呼徹也。世慕顧以行。子揭揭也。噎喑以爲生。子獨割也。爲彼不清。作玉雪也。仁義以爲兵。用不缺折也。知死不失名。得猛厲也。自申於明。鬧莫之奪也。我銘以貞之。不肖者之咀也。』

子獨割——子獨リ別離特立シ、生死ヲ眼中ニ置カズ他ノ清カラザルガ爲ニ已玉雪ノ清ヲ維持ス、仁義ヲ以テ兵器トナシテ不潔ヲ除キ、譬テ缺陷挫折スル所ナシ、死ヲ恐レズシテ令名ヲ失ハズ、能ク猛烈ナルヲ得タリ、明ニ伸ビ、暗其志ヲ奪ハルルコトナシ、余(愈)之ヲ貞石ニ刻シテ不朽ニ傳フ、世ノ不肖者或ハ以テ自ラ呵責シテ愧ヅル所アル可シ。

貞元ハ德宗ノ年號。

毛鄭詩ハ魯毛亨ノ傳フル所ノ孔子刪定ノ詩ニ、鄭玄ノ箋注ヲ加ヘタルモノ。

春秋左氏傳ハ孔子撰スル所ノ魯史記ニ、左丘明ノ傳ヲ加ヘタル者、一說ニ左氏ハ史官ノ義トモイフ。

帖帖ハ安定ノ意。

嗚呼徹也一句單句。隔句韻。○銘中仁義。卽序中忠義。銘序主意照應。○以上第五大段銘。

## 施先生墓銘

主意　言施士丐明毛鄭詩左氏傳。有益于太學書生。

貞元十八年十月十一日。太學博士施先生士丐卒。其寮太原郭伉。買石誌其墓。昌黎韓愈爲之辭曰」。第一小段先敍郭先生明毛鄭詩。通春秋左氏傳。善講說。朝之賢士大夫。從而執經考疑者繼於門。太學生習毛鄭詩。春秋左氏傳者。皆其弟子。貴遊之子弟。時先生之說二經。來太學。帖帖坐諸生下。恐不得卒聞。先生死二經生喪其師。仕於學者亡其朋。故自賢士大夫。老師宿儒。新進小生。聞先生之死。哭泣相弔。歸衣服

誌。辨己序之略。

太廟齋郎ハ官名、事物紀原ニ魏始テ太常齋郎アリ、唐ニ太廟郊社ノ別アリ。

系ハ繫ナリ、聯ナリ、系譜系圖等ノ系ニ同ジ。

施父ハ魯ノ大夫。

公車ハ署ノ名、公車ノ在ル所、故ニ名トス。

於ハ語助ナリ。

篹ハ經傳ノ明カナラザルモノヲ表識スル義、紛羅ハ紛然羅列スルナリ。

肫肫ハ懇誠ノ貌。

貨財。』第二小段卽長技。○以上第一大段敍長技。先生年六十九。在太學者十九年。由四門助教。爲太學助教。由助教爲博士。太學秩滿當去。諸生輒拜疏乞留。或留或遷。凡十九年。不離太學。』收太學。○以上第二大段敍履歷。祖曰旭。袁州宜春尉。父曰姁。豪州定遠丞。妻曰太原王氏。先先生卒。子曰友直。明州鄞縣主簿。曰友諒。太廟齋郎。』第三大段敍家屬。系曰。

先生之祖。氏自施父。其後施常。事孔子。以彰。讐爲博士。延爲太尉。太尉之孫。始爲吳人。曰然曰績。亦載其跡。」第一小段補世系。先生之興。公車是召。纂序前聞。於光有曜。古聖人言。其旨密微。篹注紛羅。顚倒是非。聞先生講論。如客得歸。衆說得歸宿。○二句應二經。卑讓肫肫。出言孔揚。今其死矣。誰嗣爲宗。」第二小段贊先生。縣曰萬年。

高四尺ハ禮檀弓ニ、是ニ於テ之ヲ封ス、崇（たかさ）四尺トアリ。

孟郊字ハ東野、諡シテ貞曜トイフ。

元和ハ憲宗ノ年號。

其配云云、其妻鄭氏、貞曜先生ノ訃ヲ韓文公ニ通告ス。

走位ハ其場所ニ在ムナリ、寢門外ニ至リテ哭スルナリ。

韓氏ハ何人ナルカヲ知ラズ、或ハ曰ク公自ラ謂フト、韓氏ヲ以テ喪主トスルナリ。

餘慶姓ハ鄭。

賻ハ財ヲ以テ喪ヲ助クルコト。

家事ハ孟郊ノ家事、商ハ商量ナリ。

速ハ迫促ナリ。

掩諸幽、幽ハ死者ナイフ、言ハ文公ニ非ズンテ原（フ）曰（ハ）神禾（ト）高四尺者（ハ）先生墓（カ）邪（ナル）。』第三小段補ニ葬地一。○以上第四大段系。

## 貞曜先生墓誌銘

主意　並ニ敍貞曜行與ヲ詩。詩主。行陪。○貞曜家在ニ東都一。樊宗師爲ニ喪主一。

唐元和九年。歲在甲午。八月己亥。貞曜先生孟氏卒。無子。其配鄭氏以告。愈走位哭。且召張籍會哭。明日使以錢如東都。賻葬事。諸嘗與往來者。咸來哭弔。韓氏遂以書告興元尹故相餘慶。」第一小段　敍ニ其客死一。閏月。樊宗師使來弔。告葬期。徵銘。愈哭曰。嗚呼。吾尚忍銘吾友也夫。興元人以幣如孟氏賻。且來商家事。樊子使來速銘。曰不則無以掩諸幽。乃序而銘之。』第二小段　敍ニ應レ徵作一レ銘。○以上第一大段敍ニ交遊理後事一。○段中四箇來字。皆來ニ于韓氏一也。

先生諱郊。字東野。父庭玠。娶ニ裴氏一

バ死者ノ爲ニ銘スベキノ人無キナリ。
端序ハ端緒ナリ、六七歲ニシテ既ニ名器タルノ端緒ヲ見ハセリトナリ、一ニ端ニ序則。見長而愈蹇トナス、然ラバ端ハ正ナリ、長幼ノ序正シキナリ、見ハ見識ナリ。
蹇ハ虧クルナリ、抑損スルナリ。或ハ云フ蹇ハ騰ニシテあがるト訓ズ。
滔ハ容ルルナリ、揉ハ矯ムルナリ、包容スル所多クシテ而カモ謙遜ナルナリ。
夷ハ平易ナリ。
劌目銛心、劌ハ利傷ナリやぶるト訓ズベシ、銛ハ長針ナリ、ほりすト訓ズベシ、共ニ刻苦スルナイフ。
刃迎縷解ハ刃ノ迎ヘテ物斷ジ、絲ノ縷縷トシテ解クルが如キナリ、文章ノ流暢平坦ナルナイフ、次句ノ鉤章棘句ト對ス。
鉤ハつりばり、棘ハいばらノ刺、章句ノ奇崛贅牙ニシテ讀ミ難キナ

女而選爲崑山尉。生先生及二季鄫郢。而卒。』以上第二大段敍世系。先生生六七年。端序則見。四字成句。言貞曜才德端緒既見。長而愈蹇。涵而揉之。內外完好。色夷氣淸。可畏而親。」第一小段敍行。及其爲詩。劌目銛心。刃迎縷解。鉤章棘句。摺擢胃腎。神施鬼設。閒見層出。唯其大翫於詞。而與世抹摋。人皆劫劫。我獨有餘。有以後時聞先生者。曰。吾旣擠而與之矣。其猶足存邪。』第二小段敍詩。○以上第三大段敍其行其詩。是一篇主腦。年幾五十。始以尊夫人之命。來集京師。從進士試。旣得卽去。閒四年。又命來。選爲溧陽尉。迎侍溧上。去尉二年。而故相鄭公尹河南。奏爲水陸運從事。試協律郎。親拜其母於門內。母卒五年。而鄭公以節領興元軍。奏爲其軍參謀。試大理評事。挈其妻。行之興元。次於閿鄉。暴疾卒。年六十四。買棺以斂。以二人

イフ。
揩擢胃腎——揩ハ指ナリ、括ナリ、擢ハ抜ナリ、胃腎ハ臓腑ナリ、猶肝膽ヲ砕クトイフガ如シ、苦吟慘憺スルナリ。
神施鬼設トハ其詩神技鬼工妙ヲ得ルヲイフ。
唯其大云云、自ラ我文ニ卿(甄)レテ愛惜セズ、塗抹揮散、人ノ取リ去ルニ任スルナリ。
劫劫ハ力メテ止マザルノ貌。
後時ハ名ノ後世ニ傳ハルコト。
拜其母ハ鄭公自ラ孟郊ノ母ヲ門内ニ拝スルナリ、コレ長官ニシテ下官ヲ俟ツニ朋友ノ禮ヲ以テセルモノ、郊以テ榮トス可キナリ。
贈賻ハ喪ヲ助クル爲ニ贈ル金品。
行之與ノ之ハ往クナリ、與元ハ地名。
揭德振華ハ仁德ヲ擧ゲ榮華ヲ振作スルナリ、言ハ德ヲ中ニシテ華ヲ外ニス、中充チテ外曜クナリ。
易名ハ諡ヲ作ルナリ、

興歸鄧郢皆在江南。十月庚申。樊子合凡贈賻。而葬之洛陽東。其先人墓左。以餘財附其家。而供祀。』以上第四大段 將葬。張 敍履歷死葬。

籍曰。先生揭德振華。於古有光。賢者故事有易名。況士哉。如曰貞曜先生。則姓名字行有載。不待講說而明。言若唯有記載姓名字及排行。則其才德自明。皆曰然。遂用之。』以上第五大段 敍諡義。結前段。

於世次爲叔父。由給事中。觀察浙東。曰生吾不能學。死吾知恤其家。』以上第六大段 哀不遇而死。是餘意。遙應首段不遇依交遊理後事。銘曰。

於戲貞曜。維執不猗。維出不訾。維卒不施。以昌其詩。』於戲貞曜單句。維執四句一韻。○以上第七大段銘。

南陽樊紹述墓誌銘

主意　言文出於己。出入仁義。○樊最長文。故自文倒入。

樊紹述既卒。且葬。愈將銘之。從其家求書。得書號魁紀公者三十卷。曰樊子者又三十卷。春秋集傳十五卷。表牋狀策。書序傳記。紀誌說論。今文讚銘。凡二百九十一篇。道路所遇。及器物門里雜銘。二百二十。賦十。詩七百一十九。曰多矣哉。古未嘗有也。」第一小段　先敍書目。

然而必出於己。不襲蹈前人一言一句。又何其難也。必出入仁義。其富若生蓄。萬物必具。海含地負。放恣橫從。無所統紀。然而不煩於繩削。而自合也。嗚呼。紹述於斯術。其可謂至於斯極者矣。』第二小段贊文章。○以上第一大段敍文章。

生而其家貴富。長而不有其藏一錢。妻子告不足。顧且笑曰。我道蓋是也。皆應曰然。無不意滿。」第一小段　妻子化道。

嘗以金部郎中。告哀南方。

禮記檀弓ニ其名ヲ易ヘンコトヲ請フトアリ。不待講說而明トハ、德ヲ揭グルヲ貴トナシ、華ヲ振フヲ曜トナス、故ニ孟郊ニ諡スルニ貞曜ノ字ヲ以テセバ、則チ其名字ヲ載スルノミニテモ、其人ノ性行ヲ察知スルニ足ルベシトノ義。

於戲貞——アア貞曜先生ハ偏セズ猗(倚)セズシテ其中ヲ執リ、才能ヲ出スコト無量ナリ、然レドモ卒ニ之ヲ世ニ用フル事ヲセズ、唯全力ヲ其詩ニ傾注セリ。

其富若——才藻ノ富贍ナルコト生出端キズ、蓄積絶エザルガ如シ。

海含地負ハ海ノ物ヲ含有スル如ク、地ノ物ヲ負載スル如ク、包容極メテ大ナルヲイフ。

無所統紀ハ混然トシテ制限アラザルナリ。

不煩於云云ハ詩文ノ自然ナルヲイフ、準繩添削ノ工ヲ加ヘズシテ自ラ正規ニ合フナリ。

皆應ノ皆ハ妻子ナリ、

化妻子ニ及ブ。
金部郎中ハ金錫石丹青ノ令ヲ掌ル官、魏ノ時始テ尚書金部郎ヲ置ク。
告哀南方トハ憲宗ノ崩ヲ告グルナリ。
左司郎中ハ官名ナリ、隋ノ煬帝初テ左右司郎一人ヲ置ク、左右丞ヲ副ス。

還言。某師不治。罷之。以此出爲緜州刺史。一年徵拜左司郎中。又出刺絳州。緜絳之人。至今皆曰。於我有德。以爲諫議大夫。命且下。遂病以卒。年若干。』第二小段州人服德。○以上第二大段敍履歷及道德。紹述諱宗師。父諱澤。嘗帥襄陽江陵。官至右僕射。贈某官。祖某官。諱泳。自祖及紹述三世。皆以軍謀堪將帥。策上第。以進。』以上第三大段敍姓名及世系。紹述無所不學。於辭於聲大得也。在衆若無能者。嘗與觀樂。問曰何如。曰復當然。已而果然。』以上第四大段補敍。銘曰。

惟古於詞必已出。降而不能乃剽賊。後皆指前言後人倣前人。踏襲也。公相襲。從漢迄今用一律。寥寥久哉莫覺屬。神徂聖伏道絶塞。既極乃通發紹述。文從字順各識職。職職之由之職也。有欲求之謂文字有出處。此其躅。』以上第五大段銘。

人ノ跡ヲ踏ンデ文辭已ヨリ出ス者アルヲ見ザルナリ、文神詞聖死去シテ斯道絶塞ス、絶塞シ極マツテ復タ始ニ反ル、乃チ融通シテ竝ニ紹述ヲ出セリトナリ。蠲ハ迹ナリ。

拓跋ハ複姓、後魏始メ拓跋氏タリ、後元氏ト改ム。

皇考ハ禮記ノ曲禮ニ、王父ヲ祭ルヲ皇祖考トイヒ、王母ヲ皇祖妣トヨヒ、父ヲ皇考トイフトアリ。

得罪武后、高宗武昭儀ヲ立テテ后トス、之ヲ武后トス、竦等之ヲ拒ンデ罪セラル。

嶄然ハ山ノ秀デタルコト、高峻ノ貌。

頭角ハ頭ナリ、見ハ頭挙ヲ拔クイフ、傑出スルナリ。

儁傑廉悍、儁ハ俊ト同ジ、廉ハ稜ナリ、廉隅アルモノヲイフ、悍ハ勇ナリ。

# 柳子厚墓誌銘

主意　言子厚窮而巧文。○此篇錯綜文章事業交游三事成篇。而歸重于文章。

子厚諱宗元。七世祖慶。爲拓跋魏侍中。封濟陰侯。曾伯祖奭。爲唐宰相。與褚遂良。韓瑗。俱得罪武后。死高宗朝。皇考諱鎭。以事母。棄太常博士。求爲縣令江南。其後以不能媚權貴。失御史。權貴人死。乃復拜侍御史。號爲剛直。所與游皆當世名人。』以上第一大段敍世系。○子厚少精敏。無不通達。逮其父時。雖少年已自成人。能取進士第。嶄然見頭角。衆謂柳氏有子矣。其後以博學宏詞。授集賢殿正字。儁傑廉悍。議論證據今古。出

入經史百子。踔厲風發。率常屈其座人。名聲大振。一時皆慕與之交。諸公要人。爭欲令出我門下。交口薦譽之。貞元十九年。由藍田尉。拜監察御史。順宗卽位。拜禮部員外郎。遇用事者得罪。例出爲刺史。未至。又例貶永州司馬。居閑益自刻苦。務記覽。爲詞章。汎濫停蓄。爲深博無涯涘。而自肆於山水間。」

第一小段

元和中。嘗例召至京師。又偕出爲刺史。而子厚得柳州。既至歎曰。是豈不足爲政耶。因其土俗。爲設教禁。州人順賴。其俗以男女質錢。約不時贖。子本相侔。則沒爲奴婢。子厚與設方計。悉令贖歸。其尤貧力不能者。令書其傭。足相當。則使歸其質。觀察使下其法於他州。比一歲。免而歸者且千人。衡湘以南。爲進士者。悉以子厚爲師。其經承子厚口講指畫

踔厲風發、踔ハ卓ト同ジ、踔厲ハ卓絶嚴厲ナリ、風發ハ敏疾當ルベカラザルナイフ。

要人ハ權要ノ人ナイフ。

遇用事云云、用事者ハ王叔文ヲ指ス、叔文子厚ノオヲ慕ヒ之ト死交ヲ結ブ（後儒子厚ヲ論ズル者曰ク、コレ叔文ガ子厚ニ倚リテ重キヲナサントセルナリ、子厚之ト心交スルノ意ナシト）、叔文太子順宗ニ侍シ、曰ク君卽位ノ日、乞フ某ヲ相トシ某ヲ將トセヨト、太子立ツ、八月ニシテ憲宗之ニ代ル、叔文ニ死ヲ賜ヒ、黨與皆遠流セラル、子厚亦坐シテ柳州ニ移ル。三例字皆其過ヲ諱ム所ナリ。

汎濫ハ延漫ナリ。

停ハ渟ト同ジ、停蓄ハ水止マルナリ。

以男女質錢云云、柳州ノ俗、借金スルニ男女兒ヲ以テ抵當（質）トナス、契約シテ曰ク、若シ期限ニ於テ返金スル

能ハズシテ、利子(子)ト元金(本)ト相侔(ひと)シキニ至ラバ、此男女ヲ沒收シテ奴婢トナスコトヲ得ト。

大人ハ母ヲ指ス。

徵遂ハ徵召追遂ナリ、即チ迓迎ナリ。

詡詡ハ言辭和晌スルナリ。

出肝肺ハ肝膽腹心ヲ打明ケテ隔意ナキヲ示スナリ。

指天日ハ日ヲ指シテ誓言ヲナスナリ。

若不相識トハ、一面識モ無キ人ノ如ク冷淡ナルナイフ。

陷穽ハおとしあなナリ。

爲文詞者。悉有法度可觀。』第二小段主事業。○以上第二大段平敍履歷。而以文章爲主。事業次之。其召至京師。而復爲刺史也。中山劉夢得。禹錫亦在遣中。當詣播州。子厚泣曰。播州非人所居。而夢得親在堂。吾不忍夢得之窮。無辭以白其大人。且萬無母子俱往理。請於朝。將拜疏願以柳易播。雖重得罪死不恨。遇有以夢得事白上者。夢得於是改刺連州。」第一小段是敍。嗚呼。士窮乃見節義。今夫平居里巷相慕悅。酒食游戲相徵逐。詡詡强笑語。以相取下。握手出肝肺相示。指天日涕泣。誓生死不相背負。眞若可信。一旦臨小利害。僅如毛髮比。反眼若不相識。落陷穽。不一引手救。反擠之。又下石焉者。皆是也。此宜禽獸夷狄所不忍爲。而其人自視以爲得計。聞子厚之風。亦可以少愧矣。』第二小段是論。○以上第三大段就前段履歷中。拔交游事。詳敍深

子厚前——子厚前時人ノ爲ニスルニ勇ミテ、自身ヲ自愛顧惜(藉)スルコトヲ敢テセズ、王叔文劉禹錫諸人ニ結ビテ、功業立ロニ成ルベシト思惟セリ、故ニ終ニ坐セラレテ廢退ス。推挽ハ人ヲ薦進スルヲイフ、挽ハ輓ト同ジ、後遂ヲ推トナシ、前牽ヲ輓トナス。

窮裔ハ邊境ナリ。

爲將相云云、程异李巽ノ力薦ヲ以テ優ニ進用チ得、位宰相ニ登ル、然レドモ物望素ヨリ輕シ、相位ニ歿シ、身名俱ニ滅ス、子厚ノ文章ヲ以テ世ニ傳リ、百世磨セザルモノニ比スレバ、得ル所孰レカ多キ、异子厚ニ先ツテ卒ス、韓柳墓ニ誌スルノ時、正ニ兩人棺ヲ蓋ヒ、論定マルノ日、故ニ誌中云云ハ專ラ异ノ爲ニ發スルニ似タリ。

論。子厚眞摯之爲人。躍如于紙表。

子厚前時少年勇於爲人。不自貴重顧藉。謂功業可立就。故坐廢退。既退。又無相知有氣力得位者推挽。故卒死於窮裔。材不爲世用。道不行於時也。使子厚在臺省時。自持其身。已能如司馬刺史時。亦自不斥。斥時。有人力能擧之。且必復用不窮」。第一小段惜其爲交游退廢不用而少事業。

然子厚斥不久。窮不極。雖有出於人。其文學辭章。必不能自力以致必傳於後。如今無疑也。說文章爲其所長。至此主意始發露。雖使子厚得所願。爲將相於一時。以彼易此。孰得孰失。必有能辨之者。』三句主意歸宿。○第二小段幸其不用。反敍交游事業文章。巧文章。○以上第四大段總論前三段所而歸重于文章。

子厚以元和十四年十一月八日卒。年四十七。以十五年七月十日歸葬萬年先人墓側」。第一小段敍子厚有子男二人。長曰周六。始四歲。季曰周七。子厚卒乃生。女子二

人皆幼。」第二小段　敍子女。其得歸葬也。費皆出觀察使河東裴君行立。行立有節槩。重然諾。與子厚結交。子厚亦爲之盡。竟賴其力。」第三小段　敍葬費。葬子厚於萬年之墓者。舅弟盧遵。遵涿人。性謹順。學問不厭。自子厚之斥。遵從而家焉。逮其死不去。既往葬子厚。又將經紀其家。庶幾有始終者。』第四小段　敍埋葬人。○以上第五大段　敍生卒葬地子女。而附書歸葬之由。倣史氏附傳。是創格。○子厚一生失處。在交誼上。其得處。亦在交誼上。結末附記二人交誼。與前文映發。妙在有意無意之間。銘曰。

是惟子厚之室。既固既安。既固既安。言子厚一生危疑。死後始固安。以利其嗣人。』以上第六大段　銘。

槩ハ氣槩ナリ。
重然諾、已ニ許諾セバ、必ズ其前言ニ副ハンコトヲ期スルナリ。
舅弟ハ母ノ兄弟ノ子。
室ハ塚壙ナリ。
是風水說。風水說始于史記楊里子傳。

門功ハ門閥ナリ。
舍人ハ秦官、唐ノ龍朔二年改メテ太子有司議郎トナシ、咸亨元年又原名ニ復ス。
殿中少監ハ官名、隋ノ大業中初メテ殿内少監ヲ置ク。
故人ハ文公ノ兄韓弇ナリ、貞元三年平涼ノ盟ニ與リ、殿中侍御史判官ヲ以テ逝ク。
軫ハ痛ムナリ。
姆ハ乳母ナリ。
鉅谷ノ鉅ハ巨ニ同シ、大ナリ。

# 殿中少監馬君墓誌銘

主意　言ニ三世門閥。亦不レ免ニ死亡一。

君諱ハ繼祖。司徒贈太師北平ノ莊武王之孫。少府監贈太子少傅諱ハ暢之子。年四歳。以テ門功一。含ニ一篇主意一。拜ニ太子ノ舍人一。積ニ三十四年一。五轉而至ニ殿中少監一。年三十七以テ卒ス。有リ男八人。女二人。』以上第一大段正文。○先自ニ三人一敍起。伏ニ末段祖子孫三世句一。始余初冠。應ニ進士一。貢セラレテ在ニ京師一。窮不ニ自存一。以テ故人ノ稚弟ナルヲ拜ニ北平王於馬前一。王問而憐レ之。因得レ見ニ於安邑里第一。王軫ニ其寒饑一。賜ニ食與レ衣。召ニ二子一使レ爲ニ之主一。其季遇レ我特厚シ。少府監贈太子少傅者也。姆抱ニ幼子一立レ側。眉眼如レ畫。髮漆黑。肌肉玉雪。可レ念。殿中君也。』以上第二大段敍レ得ニ三世厚遇一。當ニ是時一。見ニ王於北亭一。猶ホ高山深林鉅谷。龍虎變化不レ測。傑魁人也。退見ニ少傅一。翠

竹碧梧。鸞鵠停峙。能守其業者也。幼子娟好靜秀。瑤環瑜珥。蘭茁其芽。稱其家兒也。』以上第三大段敍三世爲人。○段中形容數句當銘。故比喩皆押韻。後四五年。吾成進士。去而東游。哭北平王於客舍。後十五六年。吾爲尚書都官郎。分司東都。而分府。少傅卒。哭之。又十餘年。至今哭少監焉。』第一小段敍三世死。嗚呼。吾未髦老。自始至今。未四十年。而哭其祖子孫三世。於人世何如也。人欲久不死。而觀居此世者何也。』第二小段慨歎結一篇。○以上第四大段敍三世死。結一篇。

## 河南少尹李公墓誌銘

主意　言耿直不阿權貴。故殆爲小人所陷。是公行應銘法處。

元和七年二月一日。河南少尹李公卒。年五十八。斂之三月

鸞ハ鳳ノ屬、鵠ハ水鳥、天鵝。瑤環瑜珥ノ瑤瑜ハ皆美玉ナリ、環ハ璧ノ屬、珥ハ瑱ナリ、みみたま。

蘭茁其芽ノ茁ハ草初メテ生ズル貌、此二句娟好靜秀ノ狀ナイフ。

分司、唐東都ニ尚書省諸守衙判アリ、其餘ノ百司略ボ京師ノ如シ、其官ニ居ルモノ之ヲ分司トイフ。

分府ハ分司官ナリ。

髦ハ毫ナリ、說文ニハ九十ヲ、禮曲禮ニハ八十九十ヲ、釋名ニハ七十ヲ耄トセリ。

人欲久——世人久シク死セザルヲ欲シテ此世ニ居ル者ヲ觀、此世ニ遭ウテ悲ヲ增ス、而モ死セザルヲ欲スルハ何ゾヤ。

某甲子ハ猶某干支ト言フガゴトシ。

不敢違次ハ喪次ヲ去ラザルナリ。

公行トハ李公ノ行迹ナリ。

禮葬ハ道敏ガ文公ニ銘ヲ請フノ詞ニ見エタル不敢違次ヲ受ケテイフ。

字某ヲ一本ニ字ハ眞一ニ作ル。

外氏ゝ母家ナリ。

明經ハ科目ノ名、前ニ解アリ。

弘農簿ハ弘農ノ簿ヲ主ルナリ。

考滿ハ唐制ニ四考ヲ滿トナス、考ハ功績ヲ考フルノ法ナリ。

書判出——唐、人ヲ撰ブノ法四アリ、身言書判トイフ、通鑑唐高宗紀ニアリ、注ニ身ハ體貌ノ豐偉ナルヲ取リ、言ハ言辭ノ辯正ナルヲ取リ、書ハ楷法ノ適美

某甲子葬二河南ノ伊闕鳴皐山下一。」第一小段敍二死葬一。前レ事之月。其子道敏。哭再拜。授二使者一公行狀一。以レ幣走二京師一。乞二銘於博士韓愈一曰。少尹將以二某月日一葬。宜有レ銘。其不肖嗣道敏。杖而執レ事。不敢違レ次。不得レ跣以請。愈曰。公行應レ銘法。一句後一段綱領。子又禮葬。敢不諾而銘。諸。第二小段敍二乞レ銘。○以上第一大段敍二死葬及乞レ銘。』公諱素。字某。生七歲喪二其父一。貧不レ能レ家。母夫人提以歸。教育於其外氏一。以明經一。選主二虢之弘農簿一。又尉二陝之芮城一。李丞相泌觀察陝虢一。以レ材署二運使ノ從事一。以課遷二尉京兆鄠一。考滿。以書判出二其倫一。選主二萬年簿一。而母夫人固在。食二其祿一。」第一小段敍二母在時一。母夫人卒三年。改尉長安一。遷二監察御史一。奏貶九卿一人。改詹事丞一。遷二殿中侍御史一。由二度支員外郎一。選令二萬年一。公主奪二驛田一。京兆尹。符レ縣割レ畀之。公不レ與。改二度

支郎。中使侍郎介恃不レ禮其屬大夫士。擅喜怒賞罰。公獨入レ讓不レ受。劉闢平。上以レ蜀賞二高崇文一。尚書省以崇文幕府。爭二鹽井一因革便不便。命レ公使二崇文一。崇文命二幕府一。惟公命從。卽其日事已疏奏。侍郎外稱二其能一。竟坐二前敢抗一レ己。衢州饑。擇二刺史一。侍郎曰。莫レ如二郎李某一。遂刺二衢州一。至一月。遷二蘇州一。李錡前レ反。權將之戍二諸州一者。刺史至。斂レ手無二敢與一レ敵。公至十二日。錡反。公將左右。與レ賊戰二州門一。不レ勝。賊呼入。公端立責以レ義。皆斂レ兵立不逼。錡命レ械致二公軍一。將二斬以狥一。及レ境。錡適敗縛。公脫レ械還走レ州。賊急卒。不レ暇走死。民抱扶迎。盡出。天子使貴人持二紫衣金魚一以賜。」第二小段敍二母死後一公耿直詳二此段一。居三年。州稱治。拜二河南少尹一。行二大尹事一。呂氏子早。棄二其妻一。著二道士衣冠一。謝レ母曰。當レ學二仙王屋山一。去數

ナルヲ取リ、判ハ文理ノ優長ナルヲ取ルトアリ、判ハ斷ナリ。

詹事丞ハ秦官、太子ノ家ヲ掌ル。

度支ハ會計ヲ主ル官、魏始テ度支尚書アリ、唐書百官志ニ、度支ハ天下ノ租賦物産豐約之宜、水陸道途之利、歲計ノ出ヅル所ヲ掌リ、而シテ之ヲ支調スト見ユ。

符縣ハ符ヲ縣ニ行フナリ、割岸ハ田ヲ割キテ與フルナリ。

介恃ハ寵ヲ負ミ、權勢ニ賴ルナリ。

讓ハ責ムルナリ。

權ハ假攝ナリ。

械致ハ桎梏シテ護送スルナリ。

敗縛ハ軍敗レテ縛ニ就クナリ。

紫衣金魚、解前ニアリ。

道士ハ道人ニ同ジ、仙術ヲ得タルモノ。

不收聲ハ名ヲ取ルコトヲ肯テセズ、實ノ其名ニ過グルヲ云フ。祔ハ祖先ニ合祀スルナリ。

子佐ノ佐ハモト玄也、清ノ聖祖ノ諱ヲ避ケテ改ム、聖祖諱ハ玄曄ナリ。

簡州ハ曾祖弘泰ヲ指ス。

坎ハ陷ナリ、穴ヲ穿ツナリ。

月。復出閒詣レ公。公立之府門外。使吏卒脫二道士冠一給二冠帶一。送中付其母。黜屬令二人以レ贓減二民賦錢一歲五千萬。請レ緩二民輸期一月。詔天下。輸皆緩二一月一。公一斷治不レ收レ聲。事常出二名上一。』第三小段更敍二河南治一。〇以上第二大段敍二履歷行狀一。曾祖弘泰。簡州刺史。祖乾秀。伊闕令。父熒宣州長史。贈絳州刺史。母夫人燉煌張氏。其舅參。有二大名一。』第一小段敍二先生一。〇其舅應二前大段教育於其外氏一。公之配曰二彭城劉氏夫人一。夫人先卒。其葬以二夫人一祔。夫人曾祖曰二子佐一。祖曰レ餗。皆有二大名一。公之子男四人。長曰道敏。舉二進士一。其次曰道樞。其次曰二道本一。道易。皆好レ學而文。女一人。嫁二蘇之海鹽尉韋潛一。』第二小段敍二子女一。自二簡州一而下。皆葬レ鳴皐山下。』點二句一。明二鳴皐爲一先兆一。遙應二起手一。〇第三小段敍二歷世葬地一。〇以上第三大段敍二世系一。高二其山一而坎二其中一。以爲二公之宮一。奈何乎公。』以上第四大段銘。

# 祭馬僕射文

主意　言有功而不報。

維年月日。吏部侍郎韓愈。謹以清酌庶羞之奠。敬祭於故僕射馬公十二兄之靈。惟公弘大溫恭。全然德備。天故生之。其必有意。將明將昌。實艱初試。佐戎滑臺。斥由尹寺。適彼甌閩。鰥飢跋躓。顚而不蹉。乃得其地。「第一段敍初艱。」於泉於虔。始執郡符。遂殿交州。抗節番禺。去其螟蠹。蠻越大蘇。擢亞秋官。朝得碩士。人謂其崇。我勢始起。東征淮蔡。相臣是使。公兼邦憲。以副經紀。殲彼大魁。厥勳孰似。丞相歸治。雷長蔡師。茫茫黍稷。昔實棘茨。鳩鳴雀乳。不見梟鴟。惟蔡及許。舊爲血仇。命公並侯。

晦菴云ク、馬十二名ハ總、字ハ會元、扶風ノ人ナリ、退之長慶三年冬、京兆尹ヨリ復タ兵部侍郎トナル、又吏部侍郎ニ撰ス、其京兆尹タリシ時、馬總ヲ擧ゲテ自ラ代ルノ狀アリ、今祭文ニ吏部侍郎ト稱ス、則チ總是年ノ冬ヲ以テ死スルナリ。

僕射ハ秦官、射ヲ僕(つかさど)ル、唐ニ宰相ノ號トナル。

清酌庶羞ハ清酒肥肉ナリ。

十二兄、十二ハ輩行ナリ、祖父行、父行、兄弟行、子行アリ、男女各自ラ行ヲナス、再從、三從皆兄弟ト泛稱ストアリ。

難初試ハ、人ノ將ニ明ナラントシ、將ニ昌ナラントスルヤ、天先ヅ艱難ヲ下シテ其人ヲ試ムトナリ。

佐戎滑臺ハ姚南仲ノ從

事トシテ滑稽ニアリシナイフ。
尹寺ハ閽尹官等ト同ジク、並ニ内小臣ナリ。
閫閾、東閾ハ閫中ノ地、故ニ閫閾トイフ。
顚倒ハ毚杭ト同ジク動揺不安ノ貌。
跋ハふむナリ、躓ハつまづくナリ、進退自由ナラザルナイフ。
蹉ハ足ヲ折ルナリ。
泉虔共ニ州名。
殿ハ鎮ナリ、抗ハ擧ガルナリ、番禺ハ越ノ地名ナリ。
螟蠹ハ民害ヲナスモノニ喩フ、螟ハ苗心ヲ食フ蟲、蠹ハ木中ノ蟲ナリ。
秋官ハ周禮ニ見ユ、後世ノ刑部ナリ。
相臣ハ宰相裴度ナリ、元和十二年淮西宣慰副使タリ、總公御史大夫ヲ兼ネテ副使トナル。
鳩鳴云云ハ兵亂已ニ除キテ、兇暴ノ民ヲ害スルモノナキヲイフ、梟鴟ハ惡鳥ナリ。
優優ハ和樂ノ貌。
玆惟樂郊ハ詩經ノ魏風

耕借之牛。束其弓矢。禮讓優優。始誅鄆戎。厥墟腥臊。公往滌之。茲惟樂郊。惟東有瀏。惟西有虺。顚覆朋鄰。我餘有幾。崒崒中居。斬其脊尾。岱定河安。惟公之韙」。第二段敍明昌之功。帝念厥功。還公於朝。陟於地官。且長百僚。度彼四方。孰樂可據。顧瞻衡鈞。將擧以付。惟公積勤。以疾以憂。及其歸時。當謝之秋。賀門未歸。弔廬已萃。未燕於堂。已哭於次。昔我及公。實同危事。且死且生。誓莫捐棄。歸來握手。曾不三四。曾不濡翰。酬酢文字。曾不醉飽。以勸酒哉。奠以敍哀。其何能致。嗚呼哀哉。尚饗」。第三段悼不レ報二其功一而死。

碩鼠篇ニ適ニ彼樂郊一トアリ。
獝ハ狂犬ナリ、朱克融ニ比ス。
虺ハ毒蟲ナリ、王庭湊ニ比ス。
犖埆ハ高峻ノ貌。
岱ハ岱山。
河ハ黃河、兗鄆ノ境ヲイフ。
蹙ハ是ナリ。
陟於地官トハ、總テ以テ檢校尚書左僕射ト爲シ、戶部尚書ニ守タラシムルヲイフ。
衡鈞ハ政柄ヲイフ。
賀門未歸トハ賀スルモノ門ニ在ルヲイフ。
萃ハ聚ルナリ。
昔我云云、淮西ノ役退之行軍司馬タリ。

前ノ柳子原墓誌銘ト合セ見ル可シ。
清酌庶羞ハ清酒肥肉ナリ。
犧尊ハ翡翠ノ羽ヲ以テ文リタル酒樽、青黃ハ即チ文(かざり)ナリ、

# 祭ニ柳子厚一ヲ文

主意　言服ニ其文一悲ニ其遇一而允ニ其託一ス。

維レ年月日。韓愈謹以ニ淸酌庶羞之奠一ヲ祭ニ於亡友柳子厚之靈一ニ。嗟嗟子厚。而至然耶。自レ古莫レ不レ然。我又何嗟。人之生レ世。如ニ夢一ノ一覺。其閒利害。竟亦何校。當ニ其夢時一。有レ樂有レ悲。及ニ其既覺一。豈足ニ追惟一ニ」第一段　凡物之生。不レ願レ爲レ材。犧尊靑黃。乃木之災。子之中棄。天脫ニ羈羈一。玉珮瓊琚。大放ニ厥辭一。富貴無レ能。磨滅誰記。子之自著。表表愈偉。不レ善爲レ斲。血指汗レ顏。巧匠旁觀。縮ニ手袖一閒。子之文章。而不レ用レ世。乃令ニ吾徒一。掌ニ帝之制一。子之視レ人。自以無レ前。一斥不レ復。羣飛刺レ天」第二段不レ運適レ放辭。嗟嗟子厚。今也則亡。臨レ絕之音。一何琅琅。徧告ニ諸友一。以寄ニ厥子一。不レ鄙謂レ余。亦託レ以レ死。

凡今之交。觀勢厚薄。余豈可保。能承子託。非我知子。子實命我。猶有鬼神。寧敢遺墮。念子永歸。無復來期。設祭棺前。矢心以辭。嗚呼哀哉。尚饗。」第三段

允託。

## 祭河南張員外文

主意　言己與張共以剛直同難難。

維年月日。彰義軍行軍司馬守太子右庶子兼御史中丞韓愈。謹遣某乙。以庶羞清酌之奠。祭於亡友故河南縣令張十二員外之靈。貞元十九。君爲御史。余以無能。同詔並時。君德渾剛。標高揭己。綱領。有不吾如。唾猶泥滓。余戇而狂。年未三紀。乘氣加人。無挾自恃」。第一段　敍剛直。彼婉孌者。實憚吾曹。側肩帖耳。

莊子天地篇二百年之木、破爲二犧尊一、青黃而文レ之、其斷在二溝中一、比二犧尊於溝中之斷一、則美惡有レ間矣、其爲レ失レ性均也トアリ。

羈羈ハ馬絆ナリ、羈ハ馬足ヲ絆スナリ、莊子馬蹄篇ニ、連レ之以二羈羈一トアリ、子厚ノ退居ハ、天之ガ羈羈ヲ脫シテ閑地ニ放チ、文章ノ名ヲ成サシメシナリ。

玉瑰瓊琚ハ、其文ヲ形容ス。

不善爲——拙匠(不善)ハ世ニ用ヒラレテ工作忙ハシク(爲斲)、指ヲ血ニシテ顏ニ汗スル程ナレドモ、良匠ハ世ニ顧ミラレズ、閒暇ニシテ袖手爲スナシ、子厚ノ名文世ニ用ヒラレズシテ、吾徒(愈自ライフ)ノ如キ不文郤テ用ヒラレ、嘗テ知制誥トナリテ帝ノ制ヲ掌リヌ、是レ豈修理顚倒ノコトナラズヤ、子厚ノ人ヲ視ル、自ラ謂ヘラク、能ク己ヨリ前ナル者ナシト、一朝斥ケラ

ルルニ及ビテ又回復スルコト能ハズ、羣飛ノ小人郤テ時ヲ得テ天ヲ制ス。
臨絶之音ハ臨終ノ言ナリ、韓退之ニ遺囑スル所アリシナリ。
琅琅ハ玉聲ナリ。
矢ハ誓ナリ。
張員外名ハ署。
某乙ハ某甲トイフニ同ジ。
貞元ハ德宗ノ年號。
時ハ立ツナリ。
標高揭己ハ己ヲ持スルコト高キナリ。
戇ハ愚直ナリ。
三紀ハ三十六年ナリ。
加ハ陵ナリ、しのぐト訓ズ。
無レ挾自恃ハ高貴權勢ノ人ヲ挾ムコトナク、獨立獨行、自ラ恃ム所アルナリ、或ハ無挾自恃ト讀ム、又通ズ。
婉孌ハ美好ノ貌、小人阿順佞媚ノ態ナイフ。
舌如刀ハ舌頭ヨク人ヲ讒害スルナイフ。
鼯ハ鼯鼠ナリ、又飛生

有レ舌如レ刀。我落二陽山一。以レ尹鼯猱。君飄臨二武山一。林之牢。歲弊寒兇雪虐風饕。顚二於馬下一。我泗君咷。夜息二南山一。同臥一席一。守隸防夫。觝レ頂交レ跖。洞庭漫汗。粘レ天無レ壁。風濤相豗。中作二霹靂一。追レ程旨進。颿船箭激。南上二湘水一。屈氏所レ沈。二妃行迷。淚蹤染レ林。山哀浦思。鳥獸叫音。余唱君和。百篇在レ吟。君上二于縣一。我又南踰。把レ觴相飲。後期有レ無。期宿二界上一。一又相語。自別幾時。遽二變寒暑一。枕レ臂欹眠。加余以レ股。僕來告言。虎入レ廄。處無二敢驚逐一。以我驟去。君云是物。不レ駿於乘。虎取而往。來寅其徵。我預在レ此。與レ君俱膺。猛獸果信。惡禱而憑。余出二嶺中一。君峽州下。偕二江陵一。非余望者。郴山奇變。其水清寫。汩レ砂倚レ石。有レ遝無レ捨。遝同レ迭。遇也。言兩人或涉レ砂倚レ石。或別或逢不レ相捨。

衡陽放レ酒。熊咆虎嘷。不レ存二令章一。罰籌蝟毛。委

舟湘流ニ往觀ニ南嶽ニ雲壁潭潭トシテ窮林ノ攸レ擢ルヲ避ケテ風太湖ニ七日鹿角鉤ニ登大鮎ニ怒頰豕駒ニ觸盤炙酒ニ羣奴餘レ啄ニ走テ官階下ニ首下レ尻高下レ馬伏レ塗ニ從事是ニ遭フ余ハ徽ニ博士ニ君ハ以テレ使ヲ已ニ相見ル京師ニ過ギタリ願之始ニ分ニ教東生ニ君ハ掾タリ雍ニ首ニ兩都相望ム於テ別ニ何有ン解レ手ヲ背レ面テ遂ニ十一年君出ヅレバ我入ル如ニ相避クルガ然リ生闊死休ス呑不ニ復タ宣ベ」第二段敍ニ艱難一官ノ屬郎引レ章ヲ訐奪ス權臣不レ愛セ南昌ニ是レ斡セリ明レ條ヲ謹ミ獄ヲ氓獠戸ニ歌フ用テ遷サレ澧浦ニ爲レ人ノ受ケ瘥ヲ還ツテ家ニ東都ニ起ツタリ令ニ河南ニ屈スル拜ニ後生ニ憤ル所レ不レ堪ヘ屢ゝ以テレ正ヲ免ズ身伸ビ事蹇ム竟ニ死シテ不レ昇ラ孰カ勸メン爲スヲ善ヲ」第三段悲ニ其憤死一拾收ム丞相南討ス余辱ニ司馬ニ議シ兵ヲ大梁ニ走ツテ出ヅ洛下ニ哭シテ不レ憑ラ棺ニ奠シテ不レ親ラセ冕カ不レ撫セ其子ヲ葬ツテ不レ送ラ野ニ望ミ君ヲ傷レ懷ヲ有ツテ隕ツルコト如シ瀉ガ」銘シテ君之績ヲ納ル石ヲ壙中ニ爰ニ及ブマデ祖考ニ紀ス德ヲ事ヲ功ヲ外ニ著シテ後世ニ鬼神與ニ通ズ君其レ奚ソ憾ミン不ラン余





風、夷由トモイフ、むささびナリ。猱ハ猿ノ屬、沐猴ナリ、皆南方ノ蠻人ナイフ、尹ハ長官ナリ。牢ハ牢獄ナリ。鬻ハ貧ノ甚シキナリ。我泗君呦ハ互ニ涕泣スルナリ。守隸防夫ハ護衛ノ家來ナリ。觚頂交跖ハ陸行ノ難險ナイフ、觚ハ觸ナリ、跖ハ足下ナリ。洞庭ハ湖水ノ名。漫汗ハ大水無際ノ貌。無壁ハ隔ツルモノ無キナリ。厖ハ相擊ツナリ。霹靂ハ雷鳴ナリ。颿ハ帆ニ同ジ。屈氏ハ屈原、懷王ノ左徒タリ、頃襄王ノ時讒ニ遭ヒテ江南ニ移リ、汨羅ニ投ジテ死ス。二妃ハ娥皇女英、堯ノ女、舜ノ妃、舜蒼梧ニ巡狩ス、二妃墓ヒテ之チ追フ、及ハズ、血淚斑竹ヲ爲ス、終ニ湘水ニ入リテ死ス。

餓ハ殘ニ同ジ、亦蓋ニ作ル、小杯ナリ。
騭ハ乘ル所ノ驢ナリ。
來寅云云、虎ノ寅神タルヲ以テ、故ニ來歲寅ノ月當ニ徵アルベキヲイフ。
寫ハ瀉ト通ズ、傾ナリ。
遘ハ遇ナリ。
咆嘷ハ熊虎ノ聲ナリ、
借リテ怒號ノ聲ニイフ。
不存令章云云、令章ハ飮酒ノ令ナリ、令章ハ存セズシテ罪罰ハ蝟毛ノ如ク多キノ之アリトナリ、蝟ハ和名はりねずみ、形鼠ノ如ク毛針ノ如シ。
委ハ棄ツルナリ。
脊ハ其形ノ脊隆ナルヲイフ。
鹿角ハ洞庭湖中ノ地名。
豭ハ豕ノ怒聲ナリ、釣リタル大魚ノ怒リテ頽チ腹ラセタル狀、豕ノ豭スル如キナリ。
炙酒ハ燔酒ナリ。
餘啄ハ食ヒ盡ス能ハザルナリ。
首下尻高ハ漢書東方朔

鑒衷。嗚呼哀哉。尙饗」第四段言德功慰憾。

## 祭十二郎文

主意　言仕官棄十二郎而使之至死。

年月日。季父愈。聞汝喪之七日。乃能銜哀致誠。使建中。遠具時羞之奠。告汝十二郎之靈。」第一小段例文。嗚呼。吾少孤。及長不省所怙。惟兄嫂是依。中年兄殁南方。吾與汝俱幼。從嫂歸葬河陽。既又與汝就食江南。零丁孤苦。未嘗一日相離也。」一句暗伏末段。○第二小段敍不相離。吾上有三兄。皆不幸早世。承先人後者。在孫惟汝。在子惟吾。兩世一身。形單影隻。嫂常撫汝。指吾而言曰。韓氏兩世。惟此而已。汝時尤小。當不復記憶。吾時雖能記憶。亦未知其

ニ屍益高者、鶴俛啄也トアリ、禮容卑屈ナルチイフ。

雍首ハ雍州、各郡ノ首ナル故ニ雍首ト曰フ。閼ハ疏ナリ、遠ナリ。引章訐奪ハ法令ヲ引キテ勢權ヲ相奪フナリ。

南昌、楚遲注ニ、南昌當ニ南康ニ作ルベシトアリ。

氓獠ハ猶民僚トイフガ如シ。

不憑棺以下、公事ニ繫ガレテ會葬スル能ハザルチイフ。

孚ハ玉爵ナリ。

有隕如瀉ハ流涕已ムナキナリ。

紀德事功ハ德ト事ト功トヲ紀スルナリ。

鑒衷ノ衷ノ字退之ニ屬ス。

文公ノ兄會子ナシ、弟介ノ子老成ヲ以テ後トナス、即チ十二郎ナリ、此文韓文中著名ノモノノ一ナリ、安子順曰ク、孔明ノ出師表ヲ讀ンデ淚ヲ墮サヌ人必ズ不忠、令伯ノ陳情表ヲ讀ンデ淚ヲ墮サ

言之悲也』。第三小段敍韓氏兩世一人。○以上第一大段敍幼時不相離。

吾年十九。始來京城。其後四年。而歸視汝。又四年。吾往河陽省墳墓。遇汝從嫂喪來葬。又二年。吾佐董丞相於汴州。汝來省吾。止一歲。請歸取其孥。明年丞相薨。吾去汴州。汝不果來。是年吾佐戎徐州。使取汝。汝不可以久。圖久遠者。莫如西歸。將成家而致汝。嗚呼。孰謂汝遽去吾而歿乎。」第一小段敍一生別爲死別。

吾與汝俱少年。以爲雖暫相別。終當久與相處。故捨汝而旅食京師。以求斗斛之祿。誠知其如此。雖萬乘之公相。吾不以一日輟汝而就也。』先微露末段罪己之意。○第二小段敍悔恨。○以上第二大段敍出仕後生別遂死別。

去年孟東野往。吾書與汝曰。吾年未四十。而視茫茫。而髮蒼蒼。而齒牙動搖。念諸父與諸兄。皆康强而

ザル者ハ其人必ズ不孝、退之ノ祭十二郎文ヲ讀ンデ涙ヲ墮サザル者ハ其人必ズ不友ナリト、佐藤一齋曰ク、鳥獸ノ哀ミ鳴クハ其音ヲ擇バズ、情中ニ切ナレバナリ、言外ニ發シ、固ヨリ然ルベシ、此文乍チニシテ韻アリ、乍チニシテ韻ナシ、整齊ナラザルモノ如シ、所謂其音ヲ擇バザルモノカト、蓋シ然ラン。

季父ハ韓愈ノ十二郎ニ對スル稱ナリ、退之三兄アリ、十二郎ハ次兄ノ子、長元ノ養子ナリ、故ニ退之ハ季父ニ當ルナリ。

七日ハ訃音ニ接シテ七日目ナリ、蓋シ報ズル所ノ月日符合セザルヲ以テ、其實ヲ審カニセントト欲ス、故ニ遲遲タルコト此ノ如シ。

建中ハ人名、往イテ祭ヲ致サシム、故ニ遠トイフ。

幼孤ハ幼ニシテ父無キナリ、退之三歲父仲卿ヲ喪ス。

所怙ハ怙(たの)ム所、

早世。如吾之衰者。其能久存乎。吾不可去。汝不肯來。恐旦暮死而汝抱無涯之戚也。孰謂少者歿而長者存。強者夭而病者全乎」。第一小段悲少者歿而長者存。嗚呼。其信然邪。其夢邪。其傳之。非其眞邪。信也吾兄之盛德。而夭其嗣乎。汝之純明。而不克蒙其澤乎。少者强者而夭歿。長者衰者而存全乎。未可以爲信也。夢也傳之非其眞也。東野之書。耿蘭之報。何爲而在吾側也。嗚呼。其信然矣」。第二小段言疑夢而非夢。吾兄之盛德。而夭其嗣矣。汝之純明。宜業其家者。不克蒙其澤矣。所謂天者誠難測。而神者誠難明矣。所謂理者不可推。而壽者不可知矣」。第三小段言天也。神也。理也。壽也皆不可測知。雖然。吾自今年來。蒼蒼者或化而爲白矣。動搖者或脫而落矣。毛血日益衰。志氣日益微。幾何不從汝而死也。死而有知。

卽チ親ナリ、不省ハ見ザルナリ、親ノ顔チ知ラザルナイフ。
兄嫂ハ伯兄ノ會、及嫂(あによめ)ノ鄭夫人チイフ、
大曆十二年起居舍人韓會、元載ノ事ニ坐シテ南方韶州ノ刺史ニ貶セラル、公時ニ年十一、從ツテ移ル、既ニシテ會卒ス、公嫂ト共ニ家チ携ヘテ北歸シ、會チ河陽ニ葬ル、建中貞元ノ間又地チ江南ニ避ク。
三兄ハ會、介、弁(一ニ百川)ナリ。
隻ハ物單ナルチイフ。
佐戎徐州、是歲ノ秋張建封公チ辟シテ、徐州節度推官トナス。
蒼蒼ハ老ユルナリ。
孩提ハ小兒ノ孩笑チ知ルモノ、又提抱スベキモノ。
軟脚病ハ脚氣病ナリ。
劇ハ艱ナリ、增ナリ。

其幾何離。其無知。悲不幾時。而不悲者無窮期矣。汝之子始十歲。吾之子始五歲。少而强者不可保如此。孩提者又可冀其成立耶。嗚呼哀哉。嗚呼哀哉。』第四小段言恨不從汝而死。○以上第三大段敍悲哀。

汝去年書云。比得軟脚病。往往而劇。吾曰。是疾也。江南之人常常有之。未始以爲憂也。嗚呼。其竟以此而殞其生乎。抑別有疾而至斯乎。汝之書。今年別後書。非去年書。六月十七日也。東野云。汝殁以六月二日。耿蘭之報無月日。蓋東野之使者。不知問家人以月日。蓋東野遣使者弔家上人。家人不告月日。如耿蘭之報。不知當言月日。東野與吾書。乃問使者。使者妄稱以應之耳。其然乎。其不然乎。』以上第四大段敍疑怪。

今吾使建中祭汝。弔汝之孤與汝之乳母。彼有食。可守以待終喪。則待終喪而取以來。如不能守以終喪。則遂取以來。其

餘奴婢。並令守汝喪。吾力能改葬。終葬汝於先人之兆。然後惟其所願。』以上第五大段敍祭葬。嗚呼汝病吾不知時。汝歿吾不知日。生不能相養以共居。歿不能撫汝以盡哀。斂不憑其棺。窆不臨其穴。吾行負神明。而使汝夭。不孝不慈。而不得與汝相養以生。相守以死。一在天之涯。一在地之角。生而影不與吾形相依。死而魂不與吾夢相接。吾實爲之。其又何尤。彼蒼者天。曷其有極。」主意在此數句。反應第二大段不相離句。○第一小段歸罪于己。自今以往。吾其無意於人世矣。當求數頃之田於伊潁之上。以待餘年。教吾子與汝子。幸其成長。吾女與汝女待其嫁。如此而已。嗚呼。言有窮。而情不可終。汝其知也邪。其不知也邪。嗚呼哀哉。尚饗。』第二小段敍悔悟之情。○以上第六大段歸罪于己。結全篇。罪在出仕相離。故次以退隱之情。

窆ハ棺ヲ下シテ穴ニ斂ムルナリ。

數頃ハ少許ノ田ナリ、頃ハ百畝ナリ。

如此而已ハ此ノ外ニ冀フ所アラザルナリ。

鱷ハ鰐又鰐ニ作ル、わに、文章軌範注ニ云、鱷魚ノ狀、龍身虎爪、蟹目龜鱗、尾長數丈、發ケバ大サ箕ノ如シ、芒刺鉤ナナシ、仍ホ膠アリテ粘ク、多ク水濱ニ潛伏シ、人畜近ヅケバ尾ヲ以テ之ヲ擊ツテ食フ、猶ホ象ノ鼻ニ任ズルガ如キナリ、一生百卵、形チ成スニ及ビテ、則チ蛇トナリ龜トナリ蛟トナルアリ、甚ダ靈ナリト、初メ公潮ニ至リ、民ノ疾苦ヲ問フ、皆曰ク惡谿鱷魚アリ、民產ヲ食ヒ、且ニ盡キントスト、數日公其屬秦濟ナシテ、一羊一豚ヲ以テ谿水ニ投ジテ之ヲ祝セシム、其夕暴風震雷アリ、湫水中ニ起リ、數日水盡ク涸ル、西徙六十里、是ヨリ潮州鱷魚ノ患ナシト、唐書韓愈傳ニ見ユ。軍事衙推ハ官名。

# 鱷魚文

主意　言刺史爲天子除民害。○此篇。亦用散體。蓋變體也。

維年月日。潮州刺史韓愈。使軍事衙推秦濟。以羊一豬一。投惡谿之潭水。以與鱷魚食。而告之曰。」第一小段　告文常言。昔先王既有天下。烈山澤。罔繩擢刃。以除蟲蛇惡物。爲民害者。驅而出之四海之外。」第二小段言「先王除民害。及後王德薄。不能遠有。則江漢之間。尙皆棄之。以與蠻夷楚越。況潮嶺海之間。去京師萬里哉。鱷魚之涵淹卵育於此。亦固其所。』第三小段言後王不除民害。○以上第一大段言先王除民害。後王不然。今天子嗣唐位。神聖慈武。四海之外。六合之內。皆撫而有之。況禹跡所揜。揚州之近地。刺史縣令之所治。出貢賦。以供天地宗

廟百神之祀之壤者哉。鱷魚其不可與刺史雜處此土也」。第一小段言鰐魚不可居此地。刺史受天子命守此土。治此民。而鱷魚睍然不安。豁潭。據處食民畜熊豕鹿麏。以肥其身。以種其子孫。與刺史抗拒。爭爲長雄。刺史雖駑弱。亦安肯爲鱷魚低首下心。伈伈睍睍。爲民吏羞。以偸活於此邪』。第二小段言吾不可屈鰐魚。〇以上第二大段言鰐魚不可居天子之地。而刺史受天子之命守其地。不可屈于鰐魚。且承天子命。以來爲吏。固其勢不得不與鱷魚辯。鱷魚有知。其聽刺史言。」第一小段希鰐魚聽某言。潮之州。大海在其南。鯨鵬之大。蝦蟹之細。無不容歸以生以食。鱷魚朝發而夕至也。今與鱷魚約。盡三日。其率醜類。南徙於海。以避天子之命吏。三日不能。至五日。五日不能。至七日。七日不能。是終不肯徙也。是不有刺史聽從其言也。不然則是鱷魚冥頑不靈。刺史

惡谿ハ鱷谿ノ別名、潮州府、府城ノ東ニアリ。烈ハ熾ナリ、燃スナリ。擭ハ刺スナリ。涵淹ハ下文ノ以肥ニ其身一ニ當リ、卵育ハ以種ニ其子孫一ニアタル。睍然ハ目ヲ張ルナリ。羣ハ麋ノ屬ナリ。駑ハ馬ノ最下ナル一モノ、不才ニ喩フ。伈伈ハ恐懼ノ貌。睍睍ハ小視ノ貌。

鯨鵬ハ大魚大鳥ナリ、古今注ニ、鯨魚者海魚ナリ、大者長サ千里、小者數十丈云云ト見エ、莊子ニ鯤ノ大ナル、其千里ナルヲ知ラザルナリ、化シテ而シテ鳥トナル、其名ヲ鵬トイフトアリ。容歸ハ大海ノ能ク大小ノ物ヲ容ルルヲイフナリ。醜類ハ惡物ナリ、或ハ曰ク、醜ハ衆ナリト。

雖有言。不聞不知也」。第二小段言鰐魚或不聽。夫傲天子之命吏。不聽其言。不徙以避之。與冥頑不靈而爲民物害者。皆可殺。刺史則選材技吏民。操彊弓毒矢。以與鱷魚從事。必盡殺乃止。其無悔』。第三小段言不奉天子命。則全是民害。不可不殺。以收起手先王除民害。○以上第三大段告鰐魚之言。

唐宋八家文讀本卷六終

# 唐宋八家文讀本卷七

清沈德潛確士撰
日本三島毅遠叔評

## 獻平淮夷雅表

主意　言獻雅佐唐之光明

臣宗元言。臣負罪竄伏。違尚書牋奏。十有四年。聖恩寬宥。命守遐壤。懷印曳紱。有社有人。臣宗元誠感誠荷。頓首頓首。」第一段謝宥罪之恩。伏惟睿聖文武皇帝陛下。天造神斷。克清大慈。金鼓一動。萬方畢臣。太平之功。中興之德。推校千古。無所與讓。因伏自忖度。有方剛之力。不得備戎行。致死命。況今已無事。思報

元和十二年裴度及ビ李愬、憲宗皇帝ノ命ヲ受ケ、吳元濟ヲ征伐シテ大ニ功アリ、柳子厚因ツテ此表ヲ作リ、以テ之ヲ讃美セリ。負罪竄伏トハ流刑ニ遇フヲイフ。尚書牋奏ハ禮部郎ノ掌ル所ナリ。命守遐壤ハ柳州刺史トナル事、遐壤ハ遠地。紱ハ印綬ナリ。伏惟睿——畏多クモ憲宗皇帝ハ、天ノナセル（人爲トハ思ハレザル）極メテ神妙ナル英斷ヲ以テ、大惡不敵ナル吳元濟ヲ平定セリ、又金ヲ鳴シ鼓ヲ打ツテ、一

旦戰鬪ヲ開クヤ、槪チ萬國臣下トナリテ、歸服ノ意ヲ表セリ。忖モ亦度ルナリ。

方剛之力ハ詩經ノ小雅北山篇ニ旅力方剛、經營四方ト云アリ、柳子厚氣力剛盛ニシテ衰ヘザルヲイフ。

選ハ算ト同ジク、數ナリ、小雅車攻篇ニ選徒囂囂トアリ。

車攻ハ宣王復古ノ攻ヲ讃美シタルモノ、吉日ハ宣王ノ田獵ヲ讃美シタルモノ、共ニ小雅ノ詩章。

崧高韓奕、烝人ハ共ニ大雅ノ詩章ニシテ、尹吉甫、宣王ヲ讃美シタルモノナリ、但シ烝人ハ本ト烝民ナレドモ、唐ノ太宗ノ諱世民ヲ避ケテ爾カイヘルモノナリ。

六月ハ宣王北伐セルヲ歌ヒ、采芑ハ宣王南征セルヲ歌ヘル小雅ノ詩章ナリ。

江漢ハ尹吉甫宣王ヲ讃美シタルモノ、常武ハ召穆公宣王ヲ讃美シタルモノ、共ニ大雅ノ詩

國恩。獨惟文章」。第二段欲ニ伏見周宣王ノ時稱ニ中興ニ其道彰大ニシテ於レ後罕及ブコトシテ然徵ニ於詩ノ大小雅ニ。其選レ徒ヲ出狩スレバ。則車攻吉日。命レ官ニ分レ土ヲ。則崧高韓奕烝人。南征北伐スレバ。則六月采芑。平ニ淮夷ヲ。則江漢常武。鏗鍧炳耀。盪ニ人耳目ヲ。故宣王之形容ト與ニ其輔佐ニ。由レ今望ムノ之ヲ。若ニ神人ノ然リ。此レ無レ他。以レ雅ヲ故也」。第三段引ニ古先王之功ニ。必以レ雅顯ニ。起ニ下段ニ。臣伏見陛下自レ卽レ位ニ以來。平ニ夏州ヲ。夷ニ劍南ヲ。取ニ江東ヲ。定ニ河北ヲ。今又發レ自ニ天衷ニ。克翦ニ淮右ヲ。而大雅不レ作。臣誠不佞。然不レ勝ヘ憤踊ニ。伏以朝多ニ文臣ニ。不ニ敢盡ク專ニ數事ヲ。謹撰ニ平淮夷雅二篇ヲ。雖レ不レ及ニ尹吉甫召穆公等ニ。庶施ニ諸後代ニ。有ニ以佐ニ唐之光明ヲ。主意歸宿。謹昧死再拜以獻ズ。臣宗元誠恐誠懼。頓首頓首。謹言」。第四段言ニ己作レ雅顯ニ平淮之功ヲ一。

皇武。皇武篇名。命丞相二句小序也。命ニ丞相度ニ董レ師ヲ。集ニ大功ヲ一也。皇者其武ヲ。於ニ

章ナリ。
鏗鏘ハ鐘鼓ノ聲。
盪ハ蕩ト同ジク、滌ナリ。
翦ハ翦滅ナリ。
不佞ノ佞ハオナリ、故ニ不オヲ自稱シテ不禰ト云フ、尙不肖トイフガ如シ。
昧死ハ上書ノ套語ニシテ、秦、人臣ノ上言ニハ、必ズ死罪ヲ昧犯シテ以テ言フト曰ハシメタルヨリ始ル。
命丞相度云云、元和十二年七月、朝廷宰相裴度ヲシテ吳元濟ノ亂ヲ平定セシメシヲ云フ。
董ハ監督ナリ。
澠ハ澠ト同ジ、水ノ名。
巾ハ飾リナリ、左傳襄公三十一年ニ、巾車脂轄トアリ。
狡衆ハ賊徒。
昏闇ハ愚昧ナリ。
醒ハ酒病ナリ。
叫呶ハ讙聲。
曠誅四紀ハ大歷十四年李希烈蔡州ヲ鎭シテヨリ、元和十二年吳元濟滅スルマデヲ謂フ、紀ハ十二年ナリ。





澠於淮。既巾乃車。環蔡其來。狡衆昏噩。甚毒於醒。狂奔叫呶。以干大刑。」第一章。皇咨於度。惟汝一德。曠誅四紀。其徯汝克。錫汝斧鉞。其往視師。師是蔡人。以宥以釐。」第二章。度拜稽首。廟於元龜。既禰既類。於社是宜。金節煌煌。錫盾雕戈。犀甲熊旂。威命是荷。」第三章。度拜稽首。出次於東。天子餞之。罷罕是崇。鼎臑俎載。五獻百籩。凡百卿士。班以周旋。」第四章。既涉於滍。乃翼乃前。孰圖厥猶。其佐多賢。宛宛周道。於山於川。遠揚邇昭。陟降連連。」第五章。我旆我旂。於道於陌。訓於羣帥。拳勇來格。公曰徐之。無恃額額。式和爾容。惟義之宅。」第六章。進次於郾。彼昏卒狂。哀兇鞠頑。鋒蝟斧螗。赤子匍匐。厥父是亢。怒其軌芽。以悖太陽。」第七章。〇言草木受陽光而怒生。形如悖太陽。

王旅渾渾。是佚是怙。既獲敵師。若饑得

僕ハ待ツナリ。
師ハ蔡人ハ蔡ノ爲ニ亂チ除クナイフ。
釐ハ福ナリ。
廟於元龜トハ、大龜以テ廟ニトスルナ謂フ。
禡類ハ共ニ師祭ノ名。
煌煌ハ光明アル貌。
錫盾ハ錫ニテ製シタル干ナリ、瞂戈ハ琢シタル平頭戟ナリ。
犀甲ハ犀皮ヲ以テ鎧ト爲スモノ。
荷ハ任フナリ。
豐羋是崇ノ母ハ亀目ノ酒尊、木ヲ刻ミテ雲雨ノ象ヲ作ル、羋ハ玉爵、六升ヲ受ク、膴ハ羊豕ノ臂ナリ。
戡ハ大戮ナリ。
五獻百邏トハ禮記禮器篇ニ一獻質、三獻文、五獻察トアリ、而シテ質ハ質略ナリ、文ハ飾アルナリ、察ハ顯盛ノ貌。
猶ハ謀ナリ。
其佐トハ、馬捴、韓愈、李正封、馮宿、李宗閔ノ諸賢皆朝廷ニ出デテ、職務ニ從事シタルライフ、ミナ朝廷ノ選ナリ。

蔡兇伊窘。悉起來聚。左擣其虛。靡愆厥虞。」第八章。
舖。衆怒欲戰。而不許。故然。
載闢載祓。丞相是臨。弛其武刑。諭我德心。其危既安。有長如林。曾是讙譊。化爲謳吟。」第九章。
皇曰來歸。汝復相予。爵之成國。胙以夏墟。度拜稽首。天子聖神。度拜稽首。皇祐下人。」第十章。
夷既平。震是朔南。宜廟宜郊。以告德音。歸牛休馬。豐稼於野。
我武惟皇。永保無疆。」一章。第十
方城。方城篇名。命愬
四句小序也。
命愬守也。卒入蔡。得其大醜。以平淮右。
方城臨臨。士卒峙之。匪徹匪競。皇有正命。皇命於愬。往舒余仁。踣彼艱頑。桑惠是馴。」第一章。
愬拜卽命。於皇之訓。既礪既攻。以後厥刃。王師嶷嶷。熊羆是式。銜勇韜力。日思予殛。」第二章。
殛罪也。
寇昏以狂。敢蹈愬疆。士獲厥心。大祖高驤。長戟酋矛。
恐犯軍法也。

宛宛ハ長曲ノ貌。
連連ハ陸續絶エザル貌。
拳ハ力ナリ。
格ハ至ルナリ。
額額ハ休息セザルノ貌。
亢ハ拒グナリ。
渾渾ハ衆盛ノ貌。
擣ハ衝クナリ。
虛ハ空ナリ。
載ハ則チナリ。
祓ハ不祥ヲ祓ヒ去ルナリ。
譴ハ驚呼、謔ハ恚呼。
胙以夏墟ハ裴度晉國公ニ封セラレシチイフ、晉ノ地ハ上古夏禹ノ都セシ所ナレバ夏墟トイヒシナリ。
朔ハ北方。
豐稼於野トハ盛ニ田野ニ耕作スルチイフ。
方城ハ山ノ名。
大醜ハ大惡人ニシテ吳元濟ノコト。
臨臨ハ盛大ナル貌。
畤ハ具フルナリ。
徼ハ求ムルナリ。
陪ハ鼓ルルナリ。
礪ハ淬礪。

緊其綏章。右剪左屠。聿禽其良。」第三章。其良既宥。告以父母。恩柔於肌。卒貢爾有。維彼攸恃。乃偵乃誘。維彼攸宅。乃發乃守。」第四章。其恃爰獲。我功我多。陰謀厥圖。以究爾訛。雨雪洋洋。大風來加。於燠其寒。於邇其遐。」第五章。汝陰之茁。懸瓠之栽。是震是拔。大殲厥家。狡虜既縶。輸於國都。示之市人。卽社行誅。」第六章。乃輸乃止。蔡有厚喜。完其室家。仰父俯子。汝水沄沄。既清而瀰。蔡人行歌。我步逶遲。」第七章。蔡人歌矣。蔡風和矣。孰類蔡初。胡甄爾居。式慕以康。爲愿有餘。是究是咨。皇德既舒。」第八章。皇曰咨懇。裕乃父功。昔我文祖。惟西平是庸。內誨於家。外刑於邦。孰是蔡人。而不率從。」第九章。蔡人率止。惟西平有子。西平有子。惟我有臣。疇允大邦。俾惠我人。於廟告功。以顧萬方。」

第十章。

## 駁復讎議

主意　揭禮刑之本意。駁誅旌不可竝立。○荀子曰。師旅有制。刑法有等。所以教惡之文也。與此篇勿爲賊害同。惡害之意。

臣伏見天后時。有同州下邽人徐元慶者。父爽爲縣尉趙師韞所殺。卒能手刃父讎。束身歸罪。當時諫臣陳子昂。建議誅之而旌其閭。且請編之於令。永爲國典。臣竊獨過之。』以上第一大段前序。

臣聞禮之大本。以防亂也。若曰無爲賊虐。凡爲子者。殺無赦。刑之大本。亦以防亂也。若曰無爲賊虐。不當理而殺人。謂之賊虐。爲子者爲吏者。皆得殺之。禮刑之本同也。如此子受旌吏誅。當是禮刑之用異也。凡爲治者。殺無赦。其本則合。其用則異。旌與

疑疑ハ高キ貌。
驤ハ首ヲ擧ゲルコト。
禽其良ノ其良ハ、蔣注ニ賊ノ首領陳光洽トナシ、次章ノ其良ヲ李祐トナセリ、又次章其良ノ句直チニ上ヲ承クレバ、上ノ良ハ李祐ヲ指スモノニシテ、分ツテ二人トナスハ是ニアラズト云フ說アリ。
偵ハ候フナリ。
其特爰獲トハ李祐ヲ擒ニスルヲイフ。
諜ハ間諜ヲ遣シテ敵ノ虛實ヲ伺フナリ。
訛ハ變動。
洋洋ハ流動充滿ノ貌。
於ハ語辭。
汝陰ハ蔡州ノ境ニアル地名。
懸瓠ハ蔡州ニアル城、形ノ似タルヨリイフ。
狹慶ハ元濟ヲ指ス。
沄沄ハ水流轉ノ貌。
瀰ハ水盈ツル貌。
遹遹ハ徐行ノ貌。
類ハ絲節。
靳ハ破裂。
裕乃父功ハ汝ノ父ノ功勞ヲ稱揚セヨトナリ、

李愬ノ父晟、德宗朝朱泚ノ亂ヲ平ゲ、功モテ西平王ニ封ゼラル。庸ハ用ナリ。止ハ語助。疇ハ誰カト訓ズ、或ハ等シクト訓ズ。駁ハ是非ヲ論ズルナイフ。議ハ事ノ宜シキヲ定ムルナリ。天后トハ則天武氏ナイフ。其本則——禮ト云ヒ刑ト云フモ、其要同ジク亂ヲ防グニアレバ、其點ニ於テハ兩者同一ナリト謂フベシ、然レドモ禮スベキハ專ラ禮ヲ用ヒ、刑スベキハ專ラ刑ヲ用フレバ、兩者其用法ヲ異ニス。濫、左傳ニ善ク國ヲ治ムトモ賞僭セズ、刑モ亦濫リニセズトアリ。違ハ避ナリ去ナリ。統於一ハ竝行スルニ至ラザルナイフ。刺讞ハ罪狀ヲ議決スルナリ。蒙ハ欺クナリ、左傳ニ

誅。莫得而竝焉。誅其可旌。茲謂濫。黷刑甚矣。旌其可誅。茲謂僭。壞禮甚矣。果以是示於天下。傳於後代。趨義者不知所向。違害者不知所立。以是爲典可乎』以上第二大段揭主意。蓋聖人之制。窮理以定賞罰。本情以正褒貶。統於一而已矣。嚮使刺讞其誠僞。考正其曲直。原始而求其端。則刑禮之用。判然離矣」第一小段言聖人合一情理。何者若元慶之父。不陷於公罪。師韞之誅。獨以其私怨。奮其吏氣。虐於非辜。州牧不知罪。刑官不知問。上下蒙冒。籲號不聞。而元慶能以戴天爲大恥。枕戈爲得禮。處心積慮。以衝讎人之胸。介然自克。卽死無憾。是守禮而行義也。執事者。宜有慚色。將謝之不暇。而又何誅焉」第二小段論不可誅。是正論。其或元慶之父不免於罪。師韞之誅。不愆於法。是非死於吏也。是死於

上下相蒙難ニ以處一トアリ。
讎ハ呼アナリ、書經ノ奉誓ニ無幸讎レ天トアリ。
以載天云云、倶ニ此世ニ在ツテ天ヲ戴キ地ヲ踏ミ居ルハ、大ニ恥辱トスル所ナリ、禮記曲禮ニ、父讎不ニ與共一レ天トアリ、又居ニ父母之讎一如ニ之何一、夫子曰、寢レ苫枕レ干、不レ仕、弗ニ與共一レ天也トアリ。
介然ハ心動カザル貌。
鬱ハ柔ナラザルコト。
冤抑ハ氣塞ギ心鬱シテ樂マザルコト。

反殺ノ反ハ復ナリ、是レ害ヲ除イテ敵ヲ弱メントス欲スルナリ。
邦國交云云、或ハ逃レテ鄰國ニ向ヒ、國ニ得バ此兩國敵讎トナル。
推刃ハ公羊傳ノ注ニ一來一往ト。
復讎不云云、讎ノ身ヲ取ルノミ、兼ネテ子ヲ讎スルヲ得ズ。

法ニ也。法其可レ讎乎。讎ニ天子之法一而戕ニ奉レ法之吏一。是悖鷙而凌レ上也。執而誅之。所ニ以正一ニ邦典一。而又何旌焉』。第三小段論レ不レ可レ旌。是反論。○以上第三大段詳論主意。

且其議曰。人必有レ子。子必有レ親。親親相讎。其亂誰救。是惑ニ於禮一也甚矣。禮之所レ謂讎者。蓋其冤抑沉痛。而號無レ告也。非レ謂ニ抵罪觸レ法。陷ニ於大戮一。而曰彼殺レ之。我乃殺レ之。議者不レ知ニ禮意一。曰彼此相殺之事。苟如レ此則不レ議ニ曲直一。其禮非經背聖。不レ議ニ曲直一。暴レ寡脇レ弱而已。其非經背聖。不レ亦甚一哉」。第一小段　先駁陳議。

周禮。調人掌ニ司萬人之讎一。凡殺レ人而義者。令レ勿レ讎。讎之則死。有ニ反殺者一。邦國交讎レ之。又安得ニ親親相讎一也」。第二小段引ニ周禮一爲レ證。

春秋公羊傳曰。父不レ受レ誅。子復讎可也。父受レ誅子復讎此推レ刃之道。復讎不レ除レ害。今若取レ此。以斷ニ兩下相殺一。則合ニ於禮一矣』。第三小段引ニ春秋一爲レ證。○以上第四大段引ニ二經一斷ニ陳議之非一。

且夫不レ忘レ讎孝也。不レ愛レ死

兩下相殺ハ師韞元慶ノ父ヲ殺ス、元慶又師韞ヲ殺スナイフ。
調人ハ官名、調ハ諧和ノ義ナリ。

辯ハ辨ト同ジ、說文ニ判ナリト見ユ。

古之傳者ハ呂覽ノ重言篇、說苑ノ君道篇等ヲ指ス。
以桐葉云云、說苑ニ、桐葉ヲ剪ツテ珪ト爲ストアリ。
小弱弟ハ唐叔虞ヲ謂フ。

義也。元慶能不レ越二於禮一。服二孝死一レ義。是必達レ理而聞レ道者也。夫達レ理聞レ道之人。豈其以二王法一爲二敵讎一者哉。議者反以爲レ戮。黷二刑壞一レ禮。其不レ可レ以爲レ典明矣。請下臣議附二於令一上。有二斷斯獄一者。不レ宜レ以二前議一從レ事。謹議』以上第五大段結二主意一。

## 桐葉封レ弟辯

主意　言二周公聖人也。輔二成王一。宜レ歸二之大中之道一。故聖道大中四字。一篇眼目。
○此篇。以二簡勁鋭刻一優。

古之傳者有レ言。成王以二桐葉一與二小弱弟一。戲曰。以レ封レ汝。周公入賀。王曰。戲也。周公曰。天子不レ可レ戲。乃封二小弱弟於唐一。』大段敍事。吾意不レ然。王之弟當レ封耶。周公宜レ以レ時言二於王一。不レ待二其戲一而

天子不可戲。沈氏曰ク、天子無二戲言一トイ史佚ノ語ニヨルト。

婦寺ハ婦女宦官ナイフ。

凡王者――夫レ君主タル者ノ有德ト無德トハ操行ノ善ナルト惡ナルトニヨルノミ、若シ其行爲ニシテ正當ヲ得ザランカ、十タビ改メ百タビ易フルト雖トモ、寧ロ改易スベキコトニシテ決シテ實行スベキコトニハアラザルナリ。

逢ハ迎フルナリ。

束縛ハ之ヲ行フコトヲ得ザラシムルナリ。

馳驟之ハ必ズ行カシムルナリ。

家人ハ家ニ居ル人ノ義

賀以成之也。第一節正說。不當封耶。周公乃成其不中之戲。以地以人。用二以字一見二與小弱者爲之主一。其得爲聖乎」。第二節反說。〇第一小段以理之當否一。且周公。以二王之言不一レ可一レ苟焉而已一。必從而成レ之耶。第一節量二周公意一。設有不幸王以二桐葉一戲二婦寺一。亦將レ擧而從レ之乎」。第二節慮二後害一。〇第二小段言二濫賞之害一。凡王者之德。在レ行レ之何若。設未レ得二其當一。雖十易レ之不レ爲レ病。要於二其當一。不レ可二使易一レ之也。第一節言二王者之行要レ當。而況以二其戲一乎。第二節言レ不レ可二行レ戲。若戲而必行レ之。是周公教二王遂過一也」。第三節言二行レ戲之害一。〇第三小段言レ不二得其當一。而必行レ之。至レ遂レ過。吾意周公。吾意周公云云。周公宜下用二大中之道一輔成上王。是柳子攻擊一條長槍。故再用二吾意二字一改二語端一。輔成王。宜以道。從容優樂。要歸之大中而已。第一節一篇主意。必不逢其失而爲之辭。第二節言逢。又不當束縛之。馳驟之。使若牛馬然。急則敗矣」。第三節言二急之失一。〇第四小段發二主意一。咎二其失一。且家人父子。尚不レ能以此自克。第一節言レ不レ可レ急二家人一。況號爲

ニシテ官職ナキヲイフ。
直ハ但ナリ。
孅孅ハ小智ノ貌。
或曰ハ史記ノ晉世家ヲ指ス。

原ハ邑名。

受原於王ハ周ノ襄王ノ賜フ所ナリ、事ハ左傳僖公二十五年ニ見ユ。
寺人ハ宦者、嬖近ノ官人ナイフ。
趙衰ハ晉ノ大夫。
霸ハ柄ナリ、柄ハ手ニ執ル所ヲ以テイフ。
王命トハ原邑本王賜ニ出ヅルヲイフ。
朝ハ晉廳ナリ。

君臣者耶。第二節言レ不レ可レ急二君臣一。是直小丈夫孅孅者之事。第三節言二小丈夫一。○反二應大中一。非二周公所一レ宜レ用。故不レ可レ信』。第四節決二其妄一。○第五小段以レ勢言。○第二大段辯。○段中五個當字。見二道之當否一。不レ可二輕過一。○故一句與二前段吾意不然一相應。或曰。封二唐叔一。史佚成レ之』。以上第三大段餘波。○此一結尤高。

## 晉文公問レ守レ原議

主意　言晉文信用寺人。差二當代一陷二後世一。○此篇借二晉文一論二當時用一宦官之弊一也。○一篇五大字照應。見二下大事不レ宜レ謀二小臣一之意一。○此篇。每段句法轉折。如レ下二羊腸坂一。是柳公長技。

晉文公既受原於王。難其守。問寺人勃鞮。以畀趙衰。』以上第一大段敍レ因。余謂守原。政之大者也。所以承二天子一。樹二霸功一。致二命諸侯一。不レ宜レ下二謀及嬖近一。以忝二王命一。而晉君擇二大任一。不レ公レ議於朝。而私レ議於宮。不レ博レ謀於卿相一。而獨謀於寺人一。」第一小段言忝二王命一。雖下或衰之賢足

以守國之政不爲敗。而賊賢失政之端。由是滋矣」。第二小段言啓後代之禍。況當其時。不乏謀議之臣乎。狐偃爲謀臣。先軫將中軍。晉君疏而不咨。外而不求。乃卒定於內豎。其可以爲法乎』。言辱大臣。第三小段○以上第二大段專說羞當時。故忝疏外等字。羞當時也。然賊賢失政四字。已胚胎陷後代之意。且晉君將襲齊桓之業。以翼天子。乃大志也」。第一小段說下襲齊桓大志。然而齊桓任管仲以興。進豎刁以敗。則獲原啓疆。適其始政。所以觀視諸侯也。而乃背其所以興。跡其所以敗。』第二小段說下背齊桓所以興跡其所以敗。然而能霸諸侯者。以土則大。以力則彊。以義則天子之册也。誠畏之矣。烏能得其心服哉。』第三小段言晉文之霸。全出畏服。○以上第三大段更引齊桓對照晉文。論晉文倣齊桓用小臣之失。而能霸者。由諸侯畏服以補前段之意。其後景監得以相衞鞅。弘石得以殺望之。誤之者晉文公也。』以上第四大段專說陷後代。嗚呼得賢臣以守大邑。則問非失舉也。蓋失問也。然猶

內豎ノ豎ハ豎ニ作ルベシ、周禮ノ天官ニ內豎內外ノ通令凡小ノ事ヲ掌ルトアリ。

豎刁、史記齊世家ニ管仲病ム、桓公問ウテ曰ク、羣臣誰カ相トスベキモノゾ、豎刁如何ト、對ヘテ曰ク、自ラ宮シテ以テ君ニ適ク、人情ニアラズ、親ミ難シトアリ。

天子之册也、襄王命ジテ侯伯トナスナイフ。

景監ハ秦ノ孝公ノ寵臣ナリ。

衞鞅ハ商鞅ノコト。

弘石云云、漢書蕭望之傳ニ、宦者弘恭石顯、宣帝ノ時ヨリ久シク樞機ヲ典ル、元帝位ニ卽クニ及ンデ、望之ヲ譖

シテ之ヲ殺ストアリ。
問非失云云、趙衰ヲ擧ゲルヲ可ナラズトナサズ、寺人ニ問フヲ不可ナリトス、沈曰ク、他本ニ則問非失レ問、擧非レ失レ擧也ニ作ルト。
羞ハ辱シムナリ。
許世子止云云、左傳昭十九年ニ、夏許悼公瘧ス、五月戊辰太子ノ藥ヲ飲ンデ卒ストアリ、注ニ止獨リ藥ヲ進ム、醫ニ由ラズ、太子晉ニ奔ル、書シテ曰ク其君ヲ弑スト見ユ。
趙盾ハ左傳宣公二年ニ見ユ。

白章ハ白文。

腊ハ乾肉、餌ハ藥餌。
大風ハ惡疾ナリ、素問ニ病ニ大風一骨節重、鬚眉落、名曰ニ大風一トアリ。
攣跼ハ手足曲ルナリ。
癭ハ頸腫ナリ。
癘ハ惡瘡ナリ。

羞當時陷後代若此。」第一小段結ニ全篇一。○羞當時陷後代。全篇主意。況於問與擧。況二句暗指ニ時事一。含畜多少。又兩失者。其何以救之哉。」第二小段餘意。余故著晉君之罪。以附春秋許世子止。趙盾之義。』第三小段說ニ作此議之由一。○以上第五大段總括ニ前數段一。遂諷及ニ時事一。

## 捕レ蛇者ノ說

主意　言レ悲賦斂之毒。甚ニ於蛇之毒一。

永州之野產ニ異蛇一。黑質而白章。觸レ草木盡死。以齧人無ニ禦レ之者一。然得而腊レ之。以爲ニ餌レ。可ニ以已一大風攣跼瘻癘一。去ニ死肌一。殺ニ三蟲一。』以上第一大段　敍ニ毒蛇可ニ爲レ藥。其始太醫以ニ王命一聚レ之。歲賦ニ其二一。募ニ有ニ能捕一レ之者一。當ニ其租入一。永之人爭奔走焉」。第一小段敍ニ王命一發ニ問答端一。有ニ蔣氏者一。專ニ

死肌ハ癘疽ノ腐爛スルモノ。

殺三蟲——三蟲ハ三尸蟲ナリ、柳子厚罵尸蟲文ノ序ニ、道士言、人皆有二尸蟲一、處二腹中一、伺二人隱微失誤一、日庚申出讒二於帝一トアリ。

汪然ハ流涕ノ貌。

踣ハ僵ルルナリ。

噓ハ吹クナリ。

癘ハ疫氣ナリ。

隳ハ毀ト通ズ。

其利三世矣。問レ之。則曰。吾祖死レ於レ是。吾父死レ於レ是。今吾嗣爲レ之十二年。幾死者數矣。言レ之。貌若レ甚感者。余悲レ之。且曰。若毒レ之乎。余將レ告二於莅一レ事者一。更若役。復若賦。則何如。」第二小段二問一答言二捕レ蛇之毒一。

蔣氏大戚。汪然出レ涕曰。君將レ哀而生レ之乎。則吾斯役之不幸。未若復吾賦之不幸之甚也。嚮吾不レ爲二斯役一。則久已病矣。自二吾氏三世居一レ是鄉一。積二於今一六十歲矣。而鄉鄰之生日蹙。殫其地之出。竭其廬之入。號呼而轉徙。饑渴而頓踣。觸二風雨一。犯二寒暑一。呼二噓毒癘一。往往而死者。相藉也。曩與二吾祖一居者。今其室十無二一二一焉。與二吾居一レ十二年一者。今其室十無二四五一焉。非レ死則徙爾。而吾以二捕レ蛇獨存一。」第三小段答二賦斂之害一。

悍吏之來二吾鄉一。叫囂乎東西。隳二突乎南北一。譁然而駭者。雖雞

恂恂ハ恐ルル貌、

犯死者云云、蛇毒ヲ犯シテ幾ンド死セントスルコト、二回ナルチイフ。

熙熙ハ樂ム貌。

旦旦ハ毎朝ナリ。

安敢毒——安ンゾ敢テ其毒タルヲ忌ミテ之ヲナサザランヤ。

苛政猛云云。禮記檀弓ノ篇ニ見ユ。

八駿ハ穆天子傳ニ八駿一曰赤驥、二曰盜驪、三曰白義、四曰踰輪、五曰山子、六曰渠黃、七曰

狗ニ不レ得レ寧焉。吾恂恂而起。視ニ其缶ヲ一而吾蛇尚存。則弛然而臥。謹食之。時而獻焉。退而甘ニ食其土之有ヲ一。以盡ニ吾齒ヲ一。蓋一歲之犯レ死者二焉。其餘則熙熙而樂。豈若ニ吾鄉鄰之旦旦ニ一有レ是哉。今雖レ死ニ乎此ニ一。比ニ吾鄉鄰之死ニ一。則已後矣。又安敢毒耶』。第四小段更答ニ捕レ蛇之樂。勝ニ賦斂之苦ニ一。○以上第二大段敍ニ問答ニ一。

余聞而愈悲。孔子曰。苛政猛ニ於虎ニ一也。引レ虎陪レ蛇。妙甚。吾嘗疑ニ乎是ニ一。今以ニ蔣氏ヲ一觀レ之。猶信。嗚呼孰知賦斂之毒。有甚ニ是蛇ニ一者乎」。第一小段引ニ孔子言ニ一。發ニ主意ニ一。○嗚呼一句主意歸宿。故爲ニ之說ヲ一。以俟ニ夫觀ニ人風ヲ一者得焉』。第二小段敍ニ爲レ說之由ニ一。○以上第三大段發ニ主意ニ一。

## 觀ニ八駿圖ヲ一說

主意　言ヒ人不レ求ニ聖於人ニ一。而求ニ於異貌ニ一。猶ニ不レ求ニ駿於馬ニ一。而求ニ於怪狀ニ一。

古之書有記周穆王馳八駿升崑崙之墟者後之好事者爲之圖宋齊以下傳之觀其狀甚怪咸若騫若翔若龍鳳麒麟若螳螂然其書尤不經世多有然不足采』段說圖不經。以上第一大世聞其駿也因以異形求之則其言聖人者亦類是矣故傳伏犧曰牛首女媧曰其形類蛇孔子如偶頭若是乎甚衆孟子曰何以異於人哉堯舜與人同耳」第一小段因馬入聖人。今夫馬者駕而乘之或一里而汗或十里而汗或千百里而不汗者視之毛物尾鬣四足而蹄齕草飲水一也推是而至於駿亦類也」第二小段單說馬。今夫人有不足爲負販者有不足爲吏者有不足爲士大夫者有足爲者視之圓首橫目食穀而飽肉絺而清裘而煖一也推是而至於聖亦類也」第三小段單說人。然則伏犧氏女媧氏孔

驊騮、八曰綠耳トアリ。古之書ハ列子ヲ指ス。

騫ハ蔣本ニ騫ニ作ル、飛ブ貌。

螳螂ハ有斧蟲ナリ、かまきりノコト。

偶頭云云、荀子非相篇ニ、仲尼之狀、面如ニ蒙偶一、トアリ、偶ハ方相ナリ、假面ヲ謂フ。

孟子曰云云、孟子離婁下篇ニ見ユ。

負販ハ負荷シテ販賣スルモノヲイフ。

絺ハかたびらナリ。清ハすずしナリ。

箕子ハ殷ノ紂王ノ庶兄ナリ、王亂政ヲ施シ、人民離叛スルニ及ビ、極言直諫ス、聽カズ、乃佯狂シテ遂ニ隱レヌ、後武王殷ニ克チ、天下ヲ得ルニ及ビテ、箕

子氏。是レ又人而已矣。驊騮。白義。山子之類。若シ果有レ之。是モ亦馬而已矣。又烏得ン爲牛爲レ蛇。爲ニ供頭一。爲ニ龍鳳麒麟螳螂一然ル上也哉。』

第四小段合ニ論人馬一。○以上第二大段入レ題。人馬合論。

然而世之慕レ駿者。不レ求ニ之馬一。而必是圖ニ之似一。故終不レ能レ有レ得ニ於駿一也。慕ニ聖人一者。不レ求ニ之人一。而必若レ牛若レ蛇若供頭之問。故終不レ能レ有レ得ニ於聖人一也。』第一小段主意。誠使天下有ニ是圖一者。擧而焚レ之。則駿馬與ニ聖人一出矣。』第二小段出ニ駿馬聖人之方法一。○以上第三大段主意歸宿。○一結勁拔。孟子曰。王無レ罪レ歲。斯天下之民至焉。是粉本。

## 箕子碑

主意　言ニ箕子具一ニ大人三道一。○第一第二第三道。自ニ第一道之正一而出。第二道傳レ正也。第三道行レ正也。○道字眼目。

子ヲ朝鮮ニ封ズ、蓋シ臣トセザルノ意ナリ。
正蒙難ニ正道ヲ蹈ンデ國難ニ當ルチイフ、蒙ハ犯スナリ。
化及民ハ人民其恩德ニ浴スルナリ。
殷勤ハ慇懃ト同ジク、反覆丁寧ナリ。
六經ハ詩、書、易、春秋、禮、樂。
保其明哲ハ目ヲ明ニシ耳ヲ聰ニシ、心ヲ哲ニシテ事物ニ惑迷セラレザル樣ニスルコトナリ、詩ノ大雅烝民篇ニ、既明且哲、以保ニ其身ト見ユ。
辱於囚奴ハ書經ノ泰誓ニ囚奴ニ正士トアルモノ是ナリ、正士ハ箕子チイフ。
隤ハ柔ナリ。
明夷ハ明ヲ傷フナリ。
序彝倫ノ彝倫ハ常道ナリ、書ノ洪範篇ニ、天乃錫ニ禹洪範九疇一、彝倫所レ敘トアリ。
洪範——書經周書ノ篇

凡大人之道有レ三。一曰正蒙難。二曰法授レ聖。三曰化及レ民」。第一小段虛論。立ニ三柱一。

殷有ニ仁人一。曰箕子。實具ニ茲道一。以立ニ於世一。故孔子述ニ六經之旨一。尤殷勤焉』。第二小段實敘。○以上第一大段揭ニ大意一。

當ニ紂之時一。大道悖亂。天威之動不レ能レ戒。聖人之言無レ所レ用。進死以併レ命。誠仁矣。無レ益ニ吾祀一。故不レ爲レ委レ身以存レ祀。誠仁矣。與レ亡ニ吾國一。故不レ忍」。第一小段敘ニ比干微子一。是客。

具是三道一。有ニ行之者一矣。是用保ニ其明哲一。與レ之俯仰。晦ニ是謨範一。辱於囚奴一。昏而無レ邪。隤而不レ息。故在レ易曰。箕子之明夷。正蒙レ難也」。第二小段敘ニ箕子一。一道一。是主。

及ニ天命既一レ改。生人以正。乃出ニ大法一。用爲ニ聖師一。周人得以序ニ彝倫一。而立ニ大典一。故在レ書曰。以ニ箕子一歸。作ニ洪範一。法授レ聖也」。第三小段敘ニ箕子一。二道一。是主。

及レ封ニ朝鮮一。推ニ道訓一レ俗。惟德無レ陋。惟人無レ遠。言有レ德則陋鄉亦可レ化。有レ人則遠地亦可レ治。

用廣ニ殷祀一。俾ニ夷爲一レ華。化及レ民也」。第四

名、漢志ニ、禹洪水ヲ治メ洛書ヲ錫ハル、法ツテ而シテ之ヲ陳ブ、洪範是ナリトアリ。

惟德無陋トハ、君子之ニ居ル、何ノ陋カ之有ランヤノ意ナリ。

惟人無遠トハ、地遠シト雖、教化施ス可キヲイフ。

聚、蔣本褒ニ作ル。

於虖ハ歎辭。

稔ハ積久ノ意。

汲郡ハ紂ノ故都。

易象云云、易明失卦ニ、內文明而外柔順、以蒙ニ大難一、文王以レ之、內難而能正ニ其志一、箕子以レ之トアルナイフ。

憲憲ハ盛ナル貌。

不陋爲奴トハ、囚奴トナリテ鄙陋ト思ハザルナリ。

沖ハ和。

不盈稱孤トハ、南面孤ト稱スト雖モ、自ラ滿セザルナリ。

大明宣昭云云、唐始テ廟ヲ立テ、之ヲ祀ルヲイフ。

小段敍箕子三道是主。

結ニ正レ其大人歟』。主意歸宿。○第五小段結ニ上三字一。

率ニ是大道一聚ニ於厥躬一。天地變化。我得ニ其正一。三道出ニ于一正一。故重

殷祀未レ殄。比干已死。微子已去。向使紂惡未レ稔而自斃。武唐

念レ亂以圖レ存。國無ニ其人一。誰與共レ理。是固人事之或然者也。然

則先生隱忍而爲レ此。其有レ志ニ於斯一乎』。以上第三大段是餘論。○前段正整。或可レ及。此段出ニ人意表一。是不レ可及。

唐某年作ニ廟汲郡一。歲時致レ祀。嘉ニ先生獨列ニ於易象一。作ニ是頌一云』。以上第四大段述ニ作レ頌之由一。○

獨字反ニ應比干微子一。收ニ陪客一。

蒙レ難以正。授レ聖以謨。宗祀用繁。夷民其蘇。憲憲大人。顯晦不

渝。聖人之仁。道合ニ隆汙一。明哲在レ躬。不レ陋爲レ奴。沖讓居レ禮。不レ盈

稱レ孤。高而無レ危。卑不レ可レ踰。非レ死非レ去。有レ懷故都。時詘而伸。卒

爲ニ世模一。易象是列。文王爲レ徒。大明宣昭。崇祀式孚。古闕頌辭。

繼在後儒ハ自ラ頌ヲ作ルヲイフ。

封建トハ、土地ヲ區分シテ、數多ノ君國ヲ建ツル制度。

天地果――天地開闢果シテ初アリシカ將タ無カリシカ、吾人ヨク之ヲ知ル能ハズ、又人間ハ果シテ初アリシカ將タ無カリシカ、吾人ヨク之ヲ解スル能ハズ、而シテ初アリシト無カリシトハ、何レカ眞ニ近キモノナランカ、初アリシハ眞ニ近キガ如シ、此レ封建制度ニ徵シテ明明白白ナリ。

榛榛ハ草木叢生ノ貌。狉狉ハ獸類羣走ノ貌。

繼在後儒。一韻到底。四句一解。第一解大略。第二三四解詳敍。第五解總收。第六解崇紀作頌。

## 封建論

主意　欲言郡縣之公。故論封建之勢。公勢二字。一篇字眼。然題目係封建論。故勢字爲表面字眼。公字爲裏面字眼。○余常謂。韓文中推原道爲第一。柳文中推封建論爲第一。是韓柳二公所以冠八家。

天地果無初乎。吾不得而知之也。生人果有初乎。吾不得而知之也。然則孰爲近。曰有初爲近。孰明之。由封建而明之也。彼封建者。更古聖王堯舜禹湯文武。而莫能去之。蓋非不欲去之也。勢不可也。勢之來。其生人之初乎。不初無以有封建。封建非聖人意也」。第一小段論封建由勢之來。○封建非聖人意也。一篇大主意。彼其初與萬物皆生。草木榛榛。鹿豕狉狉。人不能搏噬。而且無毛羽。莫克自奉

自衛。荀卿有言。必將假物以爲用者也。夫假物者必爭。爭而不已。必就其能斷曲直者。而聽命焉。其智而明者。所伏必衆。告之以直而不改。必痛之而後畏。由是君長刑政生焉。（第一節論君長刑政之所以生。）故近者聚而爲羣。羣之分。其爭必大。大而後有兵。有德。又有大者。衆羣之長。又就而聽命焉。以安其屬。於是有諸侯之列。則其爭又有大者焉。德又大者。諸侯之列。又就而聽命焉。以安其封。於是有方伯連帥之類。則其爭又有大者焉。德又大者。方伯連帥之類。又就而聽命。以安其人。然後天下會於一。（第二節論人服兵德之大者。）是故有里胥而後有縣大夫。有縣大夫而後有諸侯。有諸侯而後有方伯連帥。有方伯連帥而後有天子。自天子至於里胥。其德在人者。死必求其嗣而奉之。故

方伯連帥、禮記ノ王制ニ、千里ノ外方伯ヲ設クトアリ、又十國ヲ連トナシ、連ニ帥アリトアリ。

里胥ハ一里ノ長ナリ。

封建非聖人意也。勢也。』第三節論德之大者。人奉其嗣。○第二小段詳論勢之來。○以上第一大段虛論。夫堯舜禹湯之事遠矣。及有周而甚詳。周有天下。裂土田而瓜分之。設五等邦。羣后布履星羅。四周於天下。輪運而輻集。合爲朝覲會同。離爲守臣扞城。然而降於夷王。害禮傷尊。下堂而迎覲者。歷於宣王。挾中興復古之德。雄南征北伐之威。卒不能定魯侯之嗣。陵夷迄於幽厲。王室東徙。而自列爲諸侯。厥後問鼎之輕重者有之。射王中肩者有之。伐凡伯誅萇弘者有之。天下乖盭。無君君之心。余以爲周之喪久矣。徒建空名於公侯之上耳。得非諸侯之盛强。末大不掉之咎歟。遂判爲十二。合爲七國。威分於陪臣之邦。國殄於後封之秦。則周之敗端。其在乎此矣」。第一小段論周之敗由封建。秦有天下。裂都會而爲之郡

瓜分トハ瓜ヲ割クガ如ク分割スルヲイフ。

設五等ハ公侯伯子男ノ五等ノ邦國ヲ建設スルヲ謂フ。

輪ハ車ノワヲイヒ、輻ハ車ノ矢ヲイフ。

扞ハ干ト同ジ。

降於夷王云云、禮記郊特牲ニ、覲禮、天子不レ下レ堂而見、諸侯下レ堂而見、諸侯天子之失禮也由二夷王一以下トアリ。

不能定云云、周語ニ見ユ。

陵夷ハ凡ソ事始メ盛ニシテ、終リニ衰ヘ、其頽替丘陵ノ漸ク平カナルガ如キヲイフ。

問鼎之云云、左傳宣三年ニ見ユ。

東徙ハ平王西都ニ在ツテ戎ニ逼ラルルヲ以テ、徙ツテ東都ノ王城ニ居ルヲイフ。

射王中肩ハ左傳桓五年ニ見ユ。

伐凡伯ハ春秋隱七年ニ見ユ。
誅萇弘ハ左傳哀三年ニ見ユ。
盤ハ戻ト同ジク、もとるナリ。
末大不掉ハ尾大掉ハザルノ意。
陪臣之邦ハ田氏齊ヲ簒ヒ、韓、魏、趙、晉ヲ分ツヲイフ。
後封之秦云云、秦ハ伯益ノ後ナルガ、秦仲ノ孫襄公、周ニ功アリ、始テ諸侯ニ列スルヲイフ。
貢鋤梃云云、賈誼ノ過秦論ニ見ユ。
圜視ハ眼ヲ圜クシテ視ルナリ、驚愕スルナリ。
叛人ノ人ハ卽チ民ニシテ、唐太宗ノ廟諱世民ヲ避ケテ人ニ作ルナリ。
陵遲ハ丘陵ノ逶遲タル如ク衰微スルヲイフ。
謀臣獻畫トハ、漢武帝ノ時主父偃請ウテ王國ヲ分チ、其子弟ヲ封ズ、ソレヨリ王國衰弱セルヲ云フ。
方域ハ海內。

邑。廢侯衛而爲之守宰。據天下之雄圖。都六合之上游。攝制四海。運於掌握之內。此其所以爲得也。不數載而天下大壞。其有由矣。亟役萬人。暴其威刑。竭其貨賄。負鋤梃之謫戍之徒。圜視而合從。大呼而成羣。時則有叛人。而無叛吏。人恐於下。而吏畏於上。天下相合。殺守劫令而並起。咎在人怨。非郡邑之制失也」。第二小段論秦之亡。非郡縣之失。

漢有天下。矯秦之枉。徇周之制。剖海內而立宗子。封功臣。數年之閒。奔命扶傷而不暇。困平城。病流矢。陵遲不救者三代。後乃謀臣獻畫。而離削自守矣。然而封建之始。郡國居半。時則有叛國。而無叛郡。秦制之得。亦以明矣。繼漢而帝者。雖百代可知也」。第三小段論漢有叛國而無叛郡。唐興制州邑。立守宰。此其所以爲宜也。然猶桀猾時起。虐害方

叛將ハ藩鎭ノ重兵ヲ擁スルモノヲイフ。

事戎ハ兵ヲ用フルヲイフ。

理國ハ治國ナリ、唐人多ク治ヲ諱ンデ理トナス、柳文尤モ多シ。

側目ハ正視セザルコト、之ヲ惡ムヲイフ。

域者。失不在於州。而在於兵。時則有叛將。而無叛州。州縣之設。固不可革也』。第四小段論唐郡縣之制不可革。○以上第二大段實論。或者曰。封建者。必私其土子。其人適其俗。修其理。施化易也。守宰者。苟其心思遷其秩而已。何能理乎。第一節先揭或說。余又非之。周之事跡。斷可見矣。列侯驕盈。黷貨事戎。大凡亂國多。理國寡。侯伯不得變其政。天子不得變其君。私土子人者。百不有一。失在於制。不在於政。周事然也。第二節引周失在制不在政辨之。秦之事跡。亦斷可見矣。有理人之制。而不委郡邑。是矣。有理人之臣。而不使守宰。是矣。郡邑不得正其制。守宰不得行其理。酷刑苦役。而萬人側目。失在於政。不在於制。秦事然也。第三節引秦失在政不在制辨之。漢興。天子之政。行於郡。不行於國。制其守宰。不制其侯王。侯王雖亂。不可變也。

國人雖レ病。不レ可レ除也。及二夫大逆不道一然後掩捕而遷レ之。勒レ兵而臨レ之耳。大逆未レ彰。姦利浚財。怙レ勢作レ威。大刻二於民一者。無レ如レ之何。及二夫郡邑一可レ謂二理且安一矣。何以言レ之。且漢知二孟舒於田叔一。得二魏尙於馮唐一。聞二黃霸之明審一。覩二汲黯之簡靖一。拜レ之可也。復二其位一可也。臥而委レ之。以輯二一方一可也。有レ罪得以黜。有レ能得以賞。朝拜而不レ道。夕斥レ之矣。夕受而不レ法。朝斥レ之矣。設使二漢室盡城邑一而侯王之。縱令二其亂人一戚レ之而已。孟舒魏尙之術。莫レ得而施。黃霸汲黯之化。莫レ得而行。明譴而導レ之。拜受而退。已違矣。下令而削レ之。締交合從之謀。周於同列。則相顧裂眦。勃然而起。幸而不レ起。則削二其半一。削二其半一。民猶瘁矣。曷若二舉而移一レ之。以全二其人一乎。漢事然也。

第四節引二漢政行レ郡不レ行レ國辨之。

今國家盡制二郡

姦利浚財ハ利ヲ私シ、財ヲ取ルコト深キナリ。

刻ハ刻剝ナリ。

知孟舒ハ漢書田叔傳ニ見ユ。

得魏尙ハ馮唐傳ニ見ユ。

簡靖ハ清潔ニシテ苛刻ナラザルヲイフ。

譴而云云、明ニ其罪ヲ譴責シテ、之ヲ善導スルナリ。

締ハ結ブナリ。

眦ハ目眶。

曷若ハ孰若ト同ジク、比較シテ及バザルヲイフ。

陵替ハ陵夷陵遲ト同ジク、漸漸衰退スルチイフ。

邑。連置守宰。其不可變也固矣。善制兵。謹擇守。則理平矣」。第五節論唐制不可變。○第一小段第一辨。第一節先揭或說。尤非所謂知理者也。魏之承漢也。封爵猶建。晉之承魏也。因循不革。而二姓陵替。不聞延祚。今矯而變之。垂二百祀。大業彌固。何繫於諸侯哉」。第二節論國祚長短不由制度。○第二小段第二辨。第一節揭或說。是大不然。夫殷周之不革者。是不得已也。蓋以諸侯歸殷者三千焉。資以黜夏。湯不得而廢。歸周者八百焉。資以勝殷。武王不得而易。徇之以爲安。仍之以爲俗。湯武之所不得已也。夫不得已。不得已三字。既含勢意。非公之大者也。私其力於己也。私其衛於子孫也。秦之所以革之者。其爲制。公之大者也。其情私也。私其一

天下之——天下道行ハレ、國家治安ナルコトヲ欲セバ、先ヅ人物ヲ得、野ニ遺賢ナカラシムルニアリ。
封建者——封建制度タル、父子相繼ギテ、君タリ臣タルモノナレバ、必ズ名君良臣ヲ得ルヲ期スベカラズ。
理亂ハ治亂ナリ。
封略ノ封ハ界ナリ。

己之威也。私其盡臣畜於我也。然而公天下之端。自秦始。第二節論殷周私而秦公。以起主意。夫天下之道。理安斯得人者也。使賢者居上。不肖者居下。而後可以理安。今夫封建者。繼世而理。繼世而理者。上果賢乎。下果不肖乎。則生人之理亂未可知也。將欲利其社稷。以一其人之視聽。則又有世大夫世食祿邑。以盡其封略。聖賢生於其時。亦無以立於天下。封建者爲之也。豈聖人之制使至於是乎。吾固曰。非聖人之意也。勢也。』第三節發主意。○第三小段第三辨。○以上第三大段辨。排他論發揮主意。○夫天下之道五句。天下大公道。卽一篇裏面主意歸宿處。○此萬古公論。設使柳州聞華盛頓事。必將快呼起舞。○非聖人之意也二句表面主意歸宿。○余常謂。韓文中推原道爲第一。柳文中推封建論爲第一。是韓柳二公所以冠八家。

## 劍門銘

人尨俗剽ハ、人民混雜ニシテ風俗輕薄ナリ。
妖孽ハわるもの。
搆ハ蔣本ニ煽ニ作ル。
滔天ハ天ニはびこるニテ、傲戾ノ甚シキヲイフ、書ノ堯典ニ象恭滔レ天トアリ、蔡傳ニハ滔天ノ二字未ダ詳カナラズトアリ。
阻兵ハ兵ヲたのむナリ、左傳隱四年ニ阻レ兵安レ忍ト見ユ。
負ハ依ルナリ。
梁守臣、蜀ハ古梁州ノ地ナルヲ以テ嚴礪チイヘルナリ。
司死ハ生死與奪ノ權ヲ有スルモノ。
抗ハ擧グルナリ。
喋血ハ出征ノ時血ヲ喋ツテ士ニ誓フナリ。
峙ハ具フルナリ。
延ハ蔣本誕ニ作ル、誕ハ大ナリ。
諭引ハ曉諭誘引スルナリ。

主意　言嚴公忠勇。對二天意一。

惟蜀都重險多貨。混同戎蠻。人尨俗剽。嗜爲寇亂。」第一小段言二蜀俗好レ亂。

皇帝元年八月。帥喪衆暴。羣疑不レ制。妖孽搆行。怙恃富强。滔天阻兵。攻陷他部。北包劍門。憑負邱陵。以張驁猛。堅利鋒鏑。以拒大順。謂雷霆之誅莫己加也。』第二小段敍二劉闢亂一。○以上第一大段敍二賊狀一。惟梁守臣禮部尚書嚴公。以國害爲私讎。以天討爲己任。推仁仗信。不待司死。而人致其命。立義抗憤。不待喋血。而士一其心。悉師出次。祗俟明詔。」勇以二天討一爲二己任一。凡諸侯之師。必出於是。儲峙饗賚。取其豐穰。乃遣前軍嚴秦。奉揚王誅。延告南土。十一月。右師逾利州。蹈寇地。乘山斬虜。以遏奔衝。左師出於劍門。大攘頑囂。諭引刼脅。蟻潰鼠駭。險無以固。收奪利地。以須王師。

封剞云云、巢窟ヲ陷レ、要害ヲ奪フチイフ。
鼙ハ長八尺ノ鼓。
元戎ハ兵車ナリ、詩ノ小雅六月篇ニ、元戎十乘以先啓レ行ト見ユ。
渠魁ハ大悪人ノ首領ヲイフ。
悱モ亦憤ナリ。
夷ハ平グルナリ。

宅是南服ハ蠻ヲ以テ東川節度使ト爲スヲイフ。
井絡坤垠、蜀ノ地タル、星ニ在リテハ井絡タリ、卦ニ在リテハ坤維タリ。
介山爲門ハ大劍山ヨリ三十里程ニシテ小劍山アリ、嶺連リ崖懸リ、門戸ノ如キヲイフ、蔣本介ヲ界ニ作ル。
叢ハ聚ムルナリ。
羌髻ノ羌ハ西蜀ノ夷狄、髻ハ巴蜀ノ兇狄ナリ。
猖猖ハ犬ノ吠ユル聲。
勢勝ハ形勢勝便ノ地即チ要害ノ地ヲイフ。

封剞(シ)腎腸(テ)。振拔(シ)根柢(テシム)。俾(レ)無(カラ)以(テ)肆(ニスルヲ)毒(レ)。用(ツテ)集(メ)我勳力(テフン)。鼙鼓一振(ビツテ)。元戎啓行(シツテ)。取(ツテ)其渠魁(テ)。以(テ)爲(ス)大戮(テ)。」第二小段敍ス公能由リ公忠勇憤悱。授(ノ)任堅明。謀猷弘長(ナルニツテ)。用(ツテ)能啓闢(シ)險阨(テ)。夷(グテ)爲(ス)大途(ト)。衰沮害氣(シテ)。對(フ)乎天意(ニ)。』第三小段結ニ前二小段ヲ。〇以上第二大段敍ス嚴公功ヲ。〇由公忠勇云云數句總括第二段主意ヲ。帝用(ツテ)休嘉(シ)。議功(シテ)居(キ)レ首(ニ)。增秩(ス)師長(ニ)。進(メテ)爲(シ)大藩(ト)。宅(ラシム)是南服(ニ)。將校羣吏(ニ)。願(フ)下(リ)刋(ツテ)山石(テ)。昭(ニ)著(シテ)公之功(テ)。垂(シコトヲ)號(ヲ)無窮(ニ)。』以上第三大段敍ス天子嘉賞及作レ銘之由ヲ。銘曰。

井絡坤垠。時惟外區。介山爲(レ)門(ト)。環(ラス)於蜀都(テ)。叢(メ)險積(レ)貨(ヲ)。混幷羌髻(テ)。狂猾窺(ヒ)隙(テ)。猖猖嘯呼(シテ)。憑(シ)據勢勝(ニウス)。厚(ニ)其兇徒(テ)。皇帝之仁。宥而不誅(セ)。暴非(ズ)德馴(ニ)。害及(ブ)巴渝(ニ)。」第一段言賊害ヲ。乃(チ)出(シ)王旅(テ)。乃(チ)司(ル)列岳(テ)。牧臣司(リテ)梁(レ)。當(ル)其要束(ニ)。器備(ノ)攸(レ)積(フ)。糗糧是蓄(レ)。人無(ク)增賦(テ)。師以饒足(ス)。喋(リ)血誓(ヒ)士(ニ)。玄機在(リ)握(レ)。分命(ツテ)貔貅(ニ)。陳(シテ)爲(ス)犄角(テ)。」第二段言進師ヲ。右逾(エ)岷山(テ)。左

恭非德馴、亂暴兇惡ニシテ恩德ノヨク馴服スベキニ非ザルヲイフ。
王旅ハ官軍。
列岳ハ列侯トイフコトニテ、藩鎭ヲイフ。
要束ハ險要束隘ノ地。
糗ハ乾飯ナリ。
玄機ハ軍機ヲイフ、玄ハ深玄ノ義。
貔貅ハ猛獸、勇猛ノ士ニ喩フ。
犄角ハ兵ヲ駐メテ敵ヲ制スルコト。
直ハ相當ルナリ。
攻出九地云云ハ、善ク敵陣ヲ攻ムルモノ、神變鬼化測ルベカラザルヲイフ、孫子軍形篇ニ、善守者藏ニ於九地之下ニ、善攻者動ニ乎九天之上ニト見ユ。
嘽嘽ハ衆多ノ貌。
大慈ハ大惡人トイフコトニシテ劉闢ヲイフ。
五丈ハ孟容ヲイフ、五ハ排行、丈ハ男子ノ尊稱。
恍惚ハ失意ノ貌。
悸ハ心動クナリ。
兀兀ハ動カザル貌。

直ニ劍門ニ攻出シ九地ニ上ヒ重雲ヲ攀レ天ヲ蹈レ空ヲ。夷視シ阻艱ヲ。破裂シ層壘ヲ。殄殲ス羣頑ヲ。內ニ獲固圉ヲ。外ニ臨ム平原ニ。天兵徐驅シテ。卒ニ乘ス嘽嘽タリ。大慈イ囚戮シ。戎夏咸ミナ歡ブ。帝圖ツテ厥ノ功ヲ。惟レ良是レ先シヅ。開レ國ヲ進レ位ヲ。南服ス於レ藩ニ。邦之清夷。人以完ナリ安シ。銘シテ功ヲ鑒レ亂ヲ。永代是レ觀ン。」第三段言ニ戮賊賜ヲ賞。

## 寄許京兆孟容書

主意　言ヲ請ニ京兆雪ニ洗シ。得ヲ嗣ニ宗祀ヲ。掃ニ先塋ヲ。全ニ遺物ニ三項ヲ。

宗元再拜。五丈座前。伏シテ蒙ル賜ヒ書ヲ誨諭シ微悉重厚。欣踊恍惚。疑若キカヌレ夢ノ寐ノ。捧グレ書ヲ叩キレ頭ヲ。悸レ不ミ自ラ定ム。」第一小段喜レ賜レ書。伏シテ念フ。得レ罪ヲ來タル五年ニ。未ダ嘗テ有ラ故舊大臣ノ肯テ以レ書ヲ見ル及ブ者ニ。何ト則ナレバ罪ニ謗ミ交積シ。羣疑當レ道ニ。誠ニ可ケレバ怪ンデ而畏レ也。是以テ兀兀トシテレ忘レ行ヲ。尤モ負フ重憂ヲ。殘骸餘魂。百病ノ所レ集ル。

痞ハしやくのやまひ。

膏肓沈沒ハ不治ノ病ナルチイフ。

懃懃ハ勤苦ノ貌。

元元ハ人民チイフ、元ハ善ニシテ人ハ善ナルモノナレバイフ、而シテ一人ニアラザレバ元元トイフ、戰國策ニ制ニ海内一子一元元一トアリ。

跼蹐ハ安カラザル貌。繆ハ謬ト同ジク戻ルナリ。

羣言沸騰トハ、子厚ヲ論議スルモノ競ヒ起ルチイフ。

暴ハ猝ナリ、俄ナリ。

塡ハ滿ツルナリ。

詆ハ譴責ナリ。

訶ハ大言シテ怒ルナ

痞結伏積。不レ食自飽。或時寒熱。水火互至。内消二肌骨一。非二獨瘴癘一爲也。忽奉二教命一。乃知幸爲二大君子所一レ宥。欲レ使二膏肓沉沒一。復起爲レ人。夫何素望。敢以及レ此。』第二小段敍二所以喜ヲ賜レ書。○以上第一大段謝二賜書之辱一。爲二末段請二雪洗之地一。宗元早歲與レ負レ罪者親善。始奇二其能一。謂可以共立二仁義一。裨二教化一。過不二自料一。懃懃勉勵。唯以二中正信義一爲レ志。以興二堯舜孔子之道一。利安元元爲レ務。不レ知二愚陋一不レ可二力彊一。其素意如レ此也」。第一小段說親罪人素志。末路厄塞。跼蹐事既壅隔。狠忤貴近。狂疎繆戻。蹈二不測之辜一。羣言沸騰。鬼神交怒。加以素卑賤。暴起領レ事。人所レ不レ信。射レ利求レ進者。塡二門排一レ戶。百不二一得一。一旦快レ意。更造二怨讟一。以此大罪之外。詆訶萬端。旁午構扇。便爲二敵讎一。協レ心同攻。外連二彊暴一。失レ職者。以致二其事一。此皆丈人所二聞見一。不レ敢爲二他人一道レ說。懷

不能已。復載簡牘。」第二小段說此人雖萬被誅戮。不足塞責。而豈有賞哉。今其黨與幸獲寬貸。各得善地。無公事坐食俸祿。明德至渥也。尚何敢更俟除棄廢痼。以希望外之澤哉」。第三小段喜黨與得寬宥。年少氣銳。不識幾微。不知當否。但欲一心直遂。果陷刑法。皆自所求取得之。又何怪也。』第四小段悔自求之禍。○以上第二大段說得罪緣由。宗元於衆黨人中。罪狀最甚。神理降罰。又不能即死。猶對人言語。求食自活。迷不知恥。日復一日。然亦有大故。自以得姓來二千五百年。代爲冢嗣。今抱非常之罪。居夷獠之鄉。卑濕昏霧。恐一日塡委溝壑。曠墜先緒。以是怛然痛恨。心骨沸熱。煢煢孤立。未有子息。荒陬中少士人女子。無與爲婚。世亦不肯與罪人親昵。以是嗣續之重。不絕如縷。每常春秋時饗。孑立捧奠。

リ。旁午ハ一縦一横ナリ、猶交横トイフゴトシ。失職者ハ章皐ヲ指ス。扇ハ附會構成シテ煽動スルナイフ。廢ハ癈ト通ズ、痼疾ナリ。

獠ハ四南ノ夷狄ナイフ。塡委溝壑トハ、身溝壑ニ棄テラレテ空シク死スルナイフ。曠墜先緒トハ、先人ノ緒業ヲ廢弛スルナリ。怛然ハ痛ム貌。沸熱ハ憤悶スルコトノ大ナルナイフ。煢煢ハ單獨依リ頼ムコ

トナキテイフ。
欷歔ハ悲ミ咽ブ貌。
惴惕ハ憂懼ナリ。
異ハ猶他トイフガ如シ。

芻ハ草ヲ刈ルナリ。
牧ハ牛馬ヲ飼フナリ。
戾ハ罪ナリ。
寒食ハ冬節後百五日目ヲイフ、荊楚歲時記ニ去ニ冬節一百五日、即有ニ疾風甚雨一、謂ニ之寒食一トアリ。
皁隷ハ賤人。
庸丐ハ傭人ト乞丐トナリ。
馬醫ハ馬ノ醫者ニシテ至テ賤シキモノ、列子ニ范氏門徒路遇ニ乞兒馬醫一弗ニ敢辱一也、必下レ車而揖レ之ト見ユ。
夏畦ハ夏月畦ヲ治ムルノ人、孟子滕文公下篇ニ曾子曰、脅肩諂笑、病ニ于夏畦一ト見ユ。
息望ハおもひきるナリ。
僇ハ戮ト同ジク、辱ナリ。

顧盼無後繼者。懍懍然欲歔惴惕。恐ニ此事便已一。推レ心傷レ骨。若レ受ニ鋒刃一。此誠丈人所ニ共憫惜一也」。第一小段宗祀。先墓在ニ城南一。無ニ異子弟一。爲レ主。獨託ニ村鄰一。自ニ譴逐一來。消息存亡。不ニ一至ニ鄉閭一。主守者。固以益怠。晝夜哀憤。懼下便毀傷松柏上。芻牧不レ禁。以成ニ大戾一。近世禮重ニ拜掃一。今已闕者四年矣。每レ遇ニ寒食一。則北向長號。以レ首頓レ地。想田野道路。士女遍滿。皁隷庸丐。皆得レ上ニ父母邱墓一。馬醫夏畦之鬼。無下不レ受ニ子孫追養一者上。然此已息望。又何以云哉」。第二小段先塋。城西有ニ數頃田一。樹レ果數百株。多ニ先人手自封植一。今已荒穢。恐便斬伐。無ニ復愛惜一。家有ニ賜書三千卷一。尚在ニ善和里舊宅一。宅今已三易レ主。書存亡不レ可レ知。皆付受所レ重。常繫ニ心腑一。然無レ可レ爲者。立身一敗。萬事瓦裂。身歿家破。爲ニ世大僇一。復何敢更

望大君子撫慰收邮。尙置人數中耶」。第三小段遺物。是以當食不知辛酸，節適。洗沐盥漱。動逾歲時。一搔皮膚。塵垢滿爪。誠憂恐悲傷。無所告愬。以至此也。』第四小段言悲傷前三物而無所告。○以上第三大段說得罪後哀曲。自古賢人才士。秉志遵分。被謗議不能自明者。僅以百數。故有無兄盜嫂娶孤女云云，撾婦翁者。然賴當世豪傑。分明辯別。卒光史籍。管仲遇盜。升爲功臣。匡章被不孝之名。孟子禮之。今已無古人之實爲而有詬。欲望世人之明已。不可得也。直不疑買金以償同舍。劉寬下車歸牛鄉人。此誠知疑似之不可辯。非口舌所能勝也。鄭詹束縛於晉。終以無死。鍾儀南音。卒獲返國。叔向囚虜。自期必免。范痤騎危。以生易死。蒯通據鼎耳爲齊上客。張蒼韓信伏斧鑕。終取將相。鄒陽獄中以書自活。賈

無兄盜嫂ハ直不疑好男子ナリシカバ、或人之ヲ毀リテ、君嫂ヲ盜マザルヲ保スベカラズトイヒシカバ、不疑之ヲ聞イテ、我ニ兄ナシ、其理如何ニヤトイヒシニ出ヅ、此事漢書直不疑傳ニ出ヅ。娶孤女云云ハ、第五倫懷陽王ニ從ツテ京師ニ朝セシトキ、帝戲レテ聞ク、鄉吏トナリ婦翁ヲ打テリトノアリヤト問ヘルニ、臣三タビ妻ヲ娶リシガ皆父ナシト答ヘシニ出ヅ、此事後漢書第五倫傳ニ見ユ。管仲云云、禮記ノ雜記篇ニ見ユ。匡章云云、孟子離婁下篇ニ見ユ。劉寬云云、後漢書劉寬傳ニ見ユ。鄭詹云云、晉語ニ見ユ。

鍾儀云云、左傳成公九年ニ見ユ。
叔向云云、左傳襄公二十一年ニ見ユ。
范痤云云、史記魏世家ニ見ユ。
劉通云云、漢書劉通傳ニ見ユ。
張蒼韓信云云、漢書張蒼傳ニ見ユ。
鄒陽云云、漢書鄒陽傳ニ見ユ。
賈生云云、漢書賈誼傳ニ見ユ。
倪寬云云、漢書倪寬傳ニ見ユ。
董仲舒云云、漢書董仲舒傳ニ見ユ。
壞ハ奇異。
恇モ亦怯。
澒涊ハ垢濁。
賢者不——賢人君子志ヲ當世ニ行フコト能ハザレバ、之ヲ後世ニ傳ヘ、後人ノ信服スル所トナルヲ欲スルナリ、古人ノ書ヲ著述シテ、後世ニ傳フルハ皆其意ナリ。
覶縷ハ詳細委曲ナリ。
頑然ハ才知ナキ貌。

生斥逐。復召宣室。倪寬擯死。後至御史大夫。董仲舒劉向下獄當誅。爲漢儒宗。此皆瓌偉博辯奇壯之士。能自解脫。今以恇怯澒涊下才末伎。又嬰恐懼痼病。雖欲慷慨攘臂。自同昔人。愈疎闊矣」　第一小段列舉故事。言己不能辨明。

賢者不得志於今。必取貴於後。古之著書者。皆是也。宗元近欲務此。然力薄才劣。無異能解。雖欲秉筆觀縷。神志荒耗。前後遺忘。終不能成章。往時讀書。自以不至觝滯。今皆頑然無復省錄。每讀古人一傳。數紙以後則再三伸卷。復觀姓氏。旋又廢失。假令萬一除刑部囚籍。復爲士列。亦不堪當世用矣。』　第二小段言荒廢不能著書顯名後世。○以上第四大段說不能自雪洗。

伏惟興哀於無用之地。垂德於不報之所。但以通家宗祀爲念。有可動心者。操之勿失。不敢望歸掃塋域。退託先人之廬。以盡

齒ハ齠。
長辭ハ死スルナイフ。
甘ハ酣ニ通ジ、寢ト同ジ。
委ハ委曲ナリ。

僕聞之——吾王師範ノ談話ヲ聞キ大ニ喜ベリ、サレド假令王師範ノ談話ヲキカズトモ、固ヨリ思謙兄ノ志ノ存スル所ヲ知レリ、但其大ニ喜ビシハ、今耳ニ聞キシ所ト常ニ思居リシ所ト符合シテ、誤謬

餘齒。姑遂少北。益輕瘴癘。就婚娶。求胤嗣。有可付託。卽冥然長辭。如得甘寢。無復恨矣」。第一小段言ヒ與レ哀垂レ德以有ニ宗祀一。死無レ恨。書辭繁委。無レ以自道。然卽レ文以求ニ其志一。君子固得ニ其肺肝一焉。無レ任ニ懇戀之至一。不宣』。第二小段書末謙詞。○以上第五大段請ニ五丈雪洗一。

## 與蕭翰林俛書

主意　言ヒ因ニ蕭俛遭遇雪ニ己冤一。作ニ文章一報ニ太平一。

思謙兄足下。昨祁縣王師範過永州。爲僕言。得張左司書。道思謙蹇然有當官之心。乃誠助太平者也。僕聞之喜甚。然微王生之說。僕豈不素知耶。所喜者。耳與心叶。果於不謬焉耳。』以上第一大段說ニ思謙遭遇一。爲ニ末段請ニ昭雪之地一。僕不幸。嚮者進當黜斥不レ安之勢。平居閉門

アラザルヲ以テノミ。
岌岌ハ危高ノ貌。
的然ハ明白ナル貌。

怪怒ハ其顯美ヲ超取スルヲ怪ミテ怒ルナリ。
媚ハ妬ムナリ。

沈氏ハ佗本移ヲ侈ニ作リ言ヲ詈ニ作リ、目ヲ日ニ作ルト曰フ、蔣本言ヲ詈ニ作リ、仇ヲ讎ニ作リ、目ヲ日ニ作リテ下句ニ屬ス。
囂囂嗷嗷ハ衆口喧シキ貌。
横生ハ縦生横出スルナリ。

口舌無數。況又有久與游者。乃岌岌而操其閒。其求進而退者。皆聚爲仇怨。造作粉飾。蔓延益肆。非的然昭晰。自斷於內。則孰能了僕於冥冥之閒哉」。第一小段言無知己於怨仇誹謗之閒者。暗諷思讒。然僕當時年三十三。甚少。自御史裏行。得禮部員外郎。超取顯美。欲免世之求進者怪怒媚嫉。其可得乎。凡人皆欲自達。僕先得顯處。才不能踰同列。名不能壓當世。世之怒僕宜也。與罪人交十年。官又以是進。辱在附會。聖朝弘大。貶黜甚薄。不能塞衆人之怒。謗語轉移。囂囂嗷嗷。漸成怪民。飾智求仕者。更言僕以悅仇人之心目。爲新奇。務相喜可。自以速援引之路。而僕輩坐益困辱。萬罪橫生。不知其端。伏自思念。過大怨甚。乃以致此」。第二小段言過衆罪人。致此貶黜。悲夫。人生少得六七十者。今已三十七

矣。長來覺日月益促。歲歲更甚。大都不過數十寒暑。則無此身矣。是非榮辱。又何足道。云云不已。秖益爲罪。兄知之。勿爲他人言也。』第三小段言自辨明適益罪。○以上第二大段敍得罪原因。

居蠻夷中久。慣習炎毒。昏眊重腿。意以爲常。忽遇北風晨起。薄寒中體。則肌革慘懍。毛髮蕭條。瞿然注視。怵惕以爲異候。意緒殆非中國人。楚越間。聲音特異。鴂舌啅譟。今聽之。怡然不怪。已與爲類矣。家生小童。皆自然嘵嘵。晝夜滿耳。聞北人言。則啼呼走匿。雖病夫。亦怛然駭之。出門見適州閭市井者。其十有八九杖而後興。自料居此尚復幾何。豈可更不知止。言說長短。重爲一世非笑哉。」第一小段困苦。

讀周易困卦。至有言不信。尚口乃窮也。往復益喜曰。嗟乎。余雖家置一喙。以自稱道。詬益甚耳。用是更樂瘖默。

長來ハ年長ズル以來。
促ハ速ナリ。

重腿ハ足腫。

蕭條ハサビシキコト。
瞿然ハ驚愕ノ貌。
怵惕ハ恐ルル意。
鴂ハ音聲ノ惡シキ鳥ナリ。
啅噪ハさわがしきナリ。
嘵嘵トハ蠻夷ノ言ヲ用ヒ、極メテ聞キニクキコト。
怛然ハ驚駭ノ貌。

家置一喙——各家ニ一人ヲ置キテ、解說セシムルナイフ。

瘖ハ口イフ能ハザルナリ。

梏ハひこばえナリ。

芝菌ハ並ニ瑞草、菌ハ芝ノ屬。

錮ハ立身顯達ノ路ヲ塞グヲイフ。

一鄽ハ一畝半、一家ノ居ナリ。

耕甿ハ農ナリ。

木鐸ハ金鈴木舌、武事



思與木石爲徒。不復致意。今天子興教化。定邪正。海內皆欣欣怡愉。而僕與四五子者。獨淪陷如此。豈非命歟。命乃天也。非云云者所制。余又何恨」。第二小段自慰。獨喜思謙之徒。遭時言道。道之行。物得其利。僕誠有罪。然豈不在一物之數耶。身被之。目覩之足矣。何必攘袂用力。而矜自我出耶。果矜之又非道也」。第三小段自喜。○以上第三大段敍謫居困苦。自慰自喜之狀。起下段昭雪之端。

事誠如此。事誠如此一句總束上二段。然居理平之世。終身爲頑人之類。猶有少恥。未能盡忘。儻因平慶賞之際。得以見白。使受天澤餘潤。雖朽枿敗腐。不能生植。猶足蒸出芝菌。以爲瑞物。」第一小段希因赦一釋廢錮。移數縣之地。則世必曰。罪稍解矣。然後收召魂魄。置土一鄽。爲耕甿。朝夕諷誦。使成文章。庶木鐸者采取。獻之法宮。增聖唐大雅

之什。雖不レ得レ位。亦不レ虛レ爲二太平之人一矣。此在レ望二外一。然終欲レ爲二一兒言一焉。宗元再拜。』第二小段言レ釋レ鋼則作レ文頌二太平一。○以上第四大段總二括前文一。請二思謙昭雪一。

## 與二韓愈一論二史官一書

主意　以二直道一駁二退之謬惑一。故直字道字一篇骨子。反覆熟讀。則形迹判然。○此篇專以二氣力一勝。爭臣論。有二些巧處一。故氣力則似レ輸二此篇一。

正月二十一日。某頓首。十八丈退之侍者。前獲レ書言二史事一云。具與二劉秀才一書。及今乃見二書藁一。私心甚不レ喜。與二退之一往年言二史事一甚大謬。』以上第一大段揭二大意一。○大謬。主意伏案。若書中言。退之不レ宜二一日在一レ館下一。安有レ探二宰相意一。以爲苟以レ史榮一レ己。而冒二居館下一。近密地一。食二奉養一。果爾。退之豈宜二虛受一レ宰相榮一。而虛受不レ可レ受。若

史事ハ歷史ニ關係シタル事。

書藁ハ手紙ノ草藁。

二金鐸ヲ振ヒ、文筆ニハ木鐸ヲ振ヒ、以テ道路ニ徇フトイフ。

法宮ハ天子政事ヲ聽クノ殿ナリ。

掌故ハ官名、令史ノ屬官、故事前例ヲ掌ルモノ。

御史大夫ハ官名、邦國ノ刑憲典章ヲ掌ル。中丞ハ官名、百僚ヲ擧用シ、獄訟ヲ推斷スルヲ掌ル。

揚揚ハ得意ノ貌。

政事堂ハ唐ノ宰相治政ヲ議スル處。

不可回ハ曲グベカラザルナリ。

役使掌故。利紙筆爲私書。取以供子弟費。古之志於道者。不宜若是』。第二小段言受虛榮非志於道者。○以上第二大段駁虛榮。

且退之以爲紀錄者有刑禍。刑天刑。第三小段之綱。禍人禍。第一二小段之綱。避不肯就。尤非也。史以名爲褒貶。猶且恐懼不敢爲。設使退之爲御史中丞大夫。其褒貶成敗人。愈益顯。其宜恐懼尤大也。則又將揚揚入臺府。美食安坐。行呼唱於朝廷而已耶」。第一小段借御史駁避人禍。

在御史猶爾。設使退之爲宰相。生殺出入升黜天下士。其敵益衆。則又將揚揚入政事堂。美食安坐。行呼唱於內庭外衢而已耶。何以異不爲史而榮其號。利其祿者也」。第二小段借宰相駁避人禍。

又言不有人禍。則有天刑。若以罪夫前古之爲史者。然亦甚惑。凡居其位。思直其道。道苟直。雖死不可回也。如回之。莫若亟去其位」。第三小段言畏天刑者。非直道之士。

孔子

之困於魯衛陳蔡宋齊楚者。其時唔諸侯不能以也。其不遇而死。不以作春秋故也。當其時。雖不作春秋。孔子猶不遇而死也。若周公史佚。雖紀言書事。猶遇且顯也。又　又字對上文不以作春秋故也。不得以春秋爲孔子累。范曄悖亂。雖不爲史。其族亦赤。司馬遷觸天子喜怒。班固不檢下。崔浩沽其直。以鬬暴虐。皆非中道。左邱明以疾盲。出於不幸。子夏不爲史亦盲。不可以是爲戒。其餘皆不出此」。第四小段言古人受刑禍非作史之故。是退之宜守中道。不忘其直。直道二字。柳州衡韓陣一本槍。而末段拽一退之正直云云一句。猶奪敵槍卻衝之。無以他事自恐。退之之恐。唯在不直不得中道。刑禍非所恐也』。第五小段言退之可恐。在不守直道。○以上第三大段駁人禍天刑。凡言二百年文武士多。有誠如此者。今退之曰。我一人也。何能明。則同職者。又所云若是。後來繼今者。又所云若是。人人皆

史佚ハ周ノ太史ナリ。

范曄云云、南史范曄傳ニ、曄字蔚宗、刪衆家後漢書爲一家之作、文帝元和二十二年、謀レ反伏レ誅トアリ。其族亦赤ハ一族皆誅セラルルナイフ。

司馬遷云云、漢書司馬遷傳ニ見ユ。

班固云云、後漢書班固傳ニ見ユ。

崔浩云云、北史崔浩傳ニ見ユ。

鬬ハ觸犯ナリ、暴虐ハ魏ノ太武ナイフ。

左邱明云云、司馬遷ノ書ニ、左氏失レ明、厥有ニ國語一トアリ。

子夏云云、禮記檀弓ニ、子夏喪二其子一而失二其明一トアリ。

人人皆――諸人皆何ンゾ我獨力ニテ之ヲ能ク不能以ハ用フル能ハザルナリ。

センヤトイハバ、遂ニ之ヲ記載シテ後世ニ傳フルモノナキニ至ラン。

磊磊ハ明顯ノ貌。

蹙モ亦迫ルナリ。

凡鬼神――鬼神ノ事ハ不可思議ニシテ測知ス可カラズ、時ニ禍福ヲナスアリト雖、決シテ準則トシテ定ムベカラザルモノトス。

行行焉ハ剛強ノ貌。

曰我一人。則卒誰能紀傳之耶」。第一小段言退之曰一人難爲。如退之但以所聞知。孜孜不敢怠。同職者。後來繼今者。亦各以所聞知。孜孜不敢怠。則庶幾不墜使卒有明也」。第二小段言退之不然徒信人口語。每每異辭。日以滋久。則所云磊磊軒天地者。決未必不沈沒。且亂雜無可攷。非有志者所忍恣也。果有志。豈當待人督責迫蹙。然後爲官守耶』。第三小段言責有志者非所可忍。○以上第四大段駁一人難能。

又凡鬼神事。眇茫荒惑。無可準。明者所不道。退之之智。而猶懼於此。』以上第五大段駁鬼神。今學如退之。辭如退之。好言論如退之。慷慨自爲正直。行行焉如退之。猶所云如是。則唐之史述其卒無可託乎」。第一小段總括全文。惜唐史無可託。明天子賢宰相。得史才如此。而又不果。甚可痛哉」。第二小段爲君相痛史之不成。退之宜更思。可爲速爲。果卒以

何以云云、韓書ニ行且謀ニ引去一トアルナイフ。

又誘館——韓書ニ今館中非レ無レ人、將下必有ニ作者一勤而纂レ之、後世可レ畏、安知不レ在ニ足下一、亦宜レ勉レ之トアルナイフ。

假令有——假ニ余纂ヲシテ、學ニ於テ德ニ於テ取ルベキモノアラシムルトモ、人ノ師表トナルハ欲セザル所、此ノ如ク凡人匹夫ノ師表

爲ニ恐懼一不レ敢。則一日可ニ引去一。又何以云行且謀一也」。第三小段論ニ退之早可ニ引去一。應下起手不レ宜上。今當レ爲而不レ爲。又誘ニ館中他人及後生者一。此大惑已。不レ勉レ已而欲レ勉レ人。難矣哉』。第四小段論ニ息レ己誘レ人爲ニ大惑一。以應ニ第四上第六大段總括全篇一。大段ニ又應ニ起手大謬一。以結ニ一篇主意一。○以

## 答ニ韋中立一論ニ師道一書

主意　言下去ニ師之名一。取ニ師之實一。○師字。上半篇字眼。道字文章字。下半篇字眼。

二十一日宗元白。辱書云。欲ニ相師一。相師謙語。僕道不レ篤。業甚淺近。環顧其中。未レ見ニ可レ師者一。雖嘗好ニ言論一爲ニ文章一。甚不ニ自是一也。不レ意吾子自ニ京師一來ニ蠻夷閒一。乃幸見レ取。僕自卜固無レ取。假令有レ取。亦不レ敢爲ニ人師一。爲ニ衆人師一。且不レ敢。況敢爲ニ吾子師一乎」。第一小段

トナルモ敢テセザル所ナレバ、賢明ナル貴殿ノ師表トナルハ固ヨリ不可能ノコトトス。孟子云云、孟子離婁上篇ニ見ユ。

牽引ハ黨與ヲ作ルナリ。

挈挈ハ奔走スルコト、或ハ扶持スルコトトモイフ。

屈子賦ハ屈原ノ九章ノ懷沙ノ篇ナイフ。

庸蜀ハ二國ノ名、書經ノ牧誓ニ見ユ。

蒼黃ハ急遽ノ貌。

不以病云云、蓋シ柳子厚、韓愈ガ抗顏師トナリシヲ以テ狂名ヲ得タリトナセルナリ。

街ハ行賣ナリ。

言レ難レ爲ニ吾子師一。

孟子稱ス人之患ハ在リ好ニ爲ニ人師一ニ由リ魏晉氏一以下。人益ス不レ事レ師。今之世不レ聞レ有レ師。有レ輒譁笑之ニ以テ爲ス狂人一。獨韓愈奮ツテ不レ顧ミ流俗ニ犯シ笑侮ヲ一收召ニ後學ヲ一作リ師ノ說ヲ一因テ抗レ顏而爲レ師。世果シテ羣怪聚罵。指目牽引シテ而增ス與ニ爲ス言詞ヲ一。愈以テ是得タリ狂名ヲ一。居ル長安ニ一炊不レ暇アラ熟スルニ。又挈挈トシテ而東ス。如クスルノ是者數ミ矣。」第二小段言ニ韓愈爲レ師取ニ狂名一。

屈子賦ニ曰ク。邑犬羣リ吠ユ。吠ユルヲ所レ怪ム也。僕往キニ聞ク。庸蜀之南。恆雨フツテ少シ日ヲ一。日出ヅレバ則犬吠ユト。予以テ爲ク過ナリト言ヘリ一。前六七年。僕來ル南ニ一。二年冬。幸ニ大雪フル。蹤レ嶺ヲ被ル南越中ノ數州ニ一。數州之犬皆蒼黃トシテ吠噬ス。狂走スル者累日。至リテ無キニ雪乃チ已ム。然後始テ信ズ前ノ所レ聞ク者ヲ一。今韓愈既ニ自以テ爲ル蜀之日ト一。而シテ吾子又欲スルニ使ノ吾ヲ爲ラ越之雪ト一。不ヤニ以テ病シカラ乎。非ズ獨見ルノミニ病ムレン。亦以テ病シメン吾子ヲ一。然レドモ雪與ト日豈有ランヤ過ル哉。顧フニ吠ユルハ者犬耳。度ルニ今天下不ルレ吠エ者幾ソ人ニ一。而誰カ敢テ衒ツテ怪ヲ於羣

閙ハ騒擾ナリ。
過ハ責ナリ。
呶呶ハ多言ナリ。
咈ハ違フナリ。
憒ハ心亂ルルナリ。
重冠禮ハ禮記冠義ニ、冠者禮之始也、是故古者聖王重レ冠、又曰冠而字、成人之道也トアルヲ見テ知ルベシ。
薦笏ハ笏ヲサシハサムナリ。
憮然ハ容ヲ改ムル貌。
怫然ハ怒ル貌。
恢恢然ハ大ナル貌。

目。以召閙取怒乎」。第三小段引吠犬喩世人吠己。僕自謫過以來。益少志慮。居南中九年。增脚氣病。漸不喜閙。豈可使呶呶者。早暮咈吾耳。騷吾心。則固僵仆煩憒。愈不可過矣。平居望外遭齒舌不少。獨欠爲人師耳」。第四小段言己欠爲人師之誹。抑又聞之。古者重冠禮。將以責成人之道。是聖人所尤用心者也。數百年來。人不復行。近有孫昌胤者。獨發憤行之。既成禮。明日造朝。至外廷。薦笏言於卿士曰。某子冠畢。應之者咸憮然。京兆尹鄭叔則。怫然曳笏卻立曰。何預我耶。廷中皆大笑。天下不以非鄭尹。而快孫子何哉。獨爲所不爲也。今之命師者大類此』。第五小段引冠禮喩論師名不可取。〇以上第一大段謙言己無師之實。遂引韓愈及越蜀之喩論師名之可去。〇宋黃灝見朱子問「吾子以不敢輕爲人師。朱子曰。以新知語人可也。此語甚公平。柳論不過激世之言」。行厚而辭深。凡所作。皆恢恢然有古人形貌。雖僕敢爲師。亦

何所增加也。假而以僕年先吾子。聞道著書之日不後。誠欲往來言所聞。則僕固願悉陳中所得者。吾子苟自擇之。取某事。去某事。則可矣。若定是非以教吾子。僕材不足。而又畏前所陳者。其爲不敢也決矣」。第一小段言不爲吾子陳所得則可。爲師則不敢。吾子前所欲見吾文。既悉以陳之。非以耀明於子。聊欲以觀子氣色。誠好惡何如也。今書來。言者既大過。吾子誠非佞譽誣諛之徒。直見愛甚故然耳」。第二小段言吾子愛我文。始吾幼且少。爲文章。以辭爲工。及長乃知文者以明道。是固不苟爲炳炳烺烺。務采色。夸聲音。而以爲能也。凡吾所陳。皆自謂近道。而不知道之果近乎遠乎。吾子好道而可吾文。或者其於道不遠矣。故吾每爲文章。未嘗敢以輕心掉之。懼其剽而不雷也。未嘗敢以怠心易之。懼

假而ハ假設辭、たとへト訓ズ。

耀明ハ猶誇耀トイフガ如シ、ほこりかがやかすナリ。

佞ハ諂佞、諛ハ欺誣ナリ。

炳炳烺烺ハ明明白白ノ貌。

其弛而不嚴也。未嘗敢以昏氣出之。懼其昧沒而雜也。未嘗敢以矜氣作之。懼其偃蹇而驕也。抑之欲其奥。揚之欲其明。疎之欲其通。廉之欲其節。激而發之。欲其清。固而存之。欲其重。此吾所以羽翼夫道也。本之書。以求其質。本之詩。以求其恆。本之禮。以求其宜。本之春秋。以求其斷。本之易。以求其動。此吾所以取道之原也。參之穀梁氏。以厲其氣。參之孟荀。以暢其支。參之莊老。以肆其端。參之國語。以博其趣。參之離騷。以致其幽。參之太史。以著其潔。此吾所以旁推交通。而以爲之文也。」第三小段言己文近於道。○道及文章。卽師之實。凡若此者。果是耶非耶。有取乎。抑其無取乎。吾子幸觀焉擇焉。有餘以告焉。苟亟來以廣是道。子不有得焉。則我得矣。又何以師云爾哉。取其實而去其名。

本之書云云、道德ノ本ヲ求ムルナイフ。
本之詩云云、不易ノ情ヲ求ムルナイフ。
本之春秋云云、是非ノ辨ヲ求ムルナイフ。
本之易云云、變通ノ道ヲ求ムルナイフ。
孟荀ハ孟子ト荀子トナイフ。
莊老ハ莊子ト老子トナイフ。
國語ハ左丘明ノ著セシ書ナリトイフ。
離騷ハ屈原ノ書キシ文ナリ。
太史ハ司馬遷ノコト。
偃蹇ハ驕傲ナルコト。

無招越蜀――越蜀ノ犬（當時ノ世人）ニ吠ヘラルルコトナク、且又廷ノ諸人ニ（冠禮ヲ笑ヒタル）嘲笑セラルルコトナクンバ實ニ幸甚ナリ。

取レ實卽指二第二大段一。去レ名卽指二第一大段一。此句一篇總束。無招越蜀ノ吠怪而爲外庭ノ所笑則幸矣。第四小段請下取二師實一而去中師名上。是一篇主意。○以上第二大段論レ取二師之實一。宗元復白。』

唐宋八家文讀本卷七終

此文ハ子厚貶セラレテ永州ニ在リシ時、同族ナル柳澥ノ行ヲ送リ、柳氏ノ再興ヲ望ミシモノナリ。

尚書省ハ官署ノ名、我邦ノ太政官ノ如キモノ。

遭諸武トハ、永徽二年柳奭同平章事タリ、武后ノ一族ニ惡マレ、愛州刺史ニ貶セラル、尋イデ殺サレ、其家籍沒セラレタルナイフ。

永貞ハ順宗ノ年號。

並爲禮部屬云云ハ、公禮部員外郎タリ、登膳部郎中タルナイフ。則加稠焉ノ稠ハ多キナリ。

公綽字ハ起文、吏部員外郎タリシ人。

# 唐宋八家文讀本卷八

## 送澥序

主意　望レ澥以レ興レ宗。

人咸言。吾宗宜碩大有積德焉」。第一小段言先世有積德宜興。在高宗ノ時。並居尚書省二十二人。遭諸武。以故衰耗。武氏敗猶不能興。爲尚書吏者。閒十數歲乃一人。永貞ノ年。吾與族兄登。並爲禮部屬。吾黜。而季父公綽。更爲刑部郎。則加稠焉」。第二小段未大興。又觀宗中爲文雅者。炳炳然以十數。仁義固其素也。意者復興乎』。第三小段宗中文素仁義。或近興。○以上第一大段敍先世。望後人。自吾爲僇人。居南鄉。後之穎然出者。吾不見之也。其在道路。幸而過余者。獨得澥。澥質厚不諂。敦厚

有レ裕。若器焉必隆然大。而後可以有レ受。擇下所以入之者上而已矣」。第一小段　敍二人品一。其文蓄積甚富。好慕甚正。若二牆焉必基之廣一。而後可以有レ蔽。擇下其所以出之者上而已矣」。第二小段　敍二文章一。勤二聖人之道一。輔以孝悌。復二鄉時之美一。吾於澥焉是望』。第三小段　屬二望於澥一。○以上第二大段　入レ題。敍二澥人品文章足屬望一。汝往哉。見二諸宗人一。爲レ我謝而勉焉。無レ若二大山之麓一。止而不レ得レ升也。其唯川之不レ已乎」。第一小段　勉二宗人一。吾去子終老於夷一矣。』第二小段　收二上吾黜爲僧人句一。○以上第三大段　傳語。勉二宗人一自悲。是餘波。

## 送婁圖南秀才遊淮南將入道序

主意　辨二婁入道之惑一。

僕未レ冠。求二進士一。聞二婁君名一。甚熟。其所レ爲歌詩。傳二詠都中一。通數

此文ハ婁圖南ノ淮南ニ赴キテ、道士長生ノ道

僇人ノ僇ハ戮ト同ジ、卽チ罪人ナリ。

顓然ハ才能出羣ノ貌。

道路トハ旅先トイフコト、子厚當時永州ニ謫セラレシヲ以テ、シカイヒシナリ、

敦厚有——容貌ヲ少シモツクロフコトナク、悠然トシテ度量アルコト、譬ヘテイハバ、カノ器ガ隆然ト大イニシテ、始メテ物ヲ受ケ容ルルコト出來ルガ如キモノナリ、只容ルル所ノ品物ヲ擇ブコト肝要ナリ、卽チ何ホド大器ノ人物ニテモ、容ルル所ノ學術修行、正シカラズンバ、何ノ益ニモ立タヌモノ故、之ヲ擇ブベシト云フナリ。

基ハ牆ノ土臺。

無若大云云、大山登リ難シ、以テ聖學ノ成リ難キヲ喩フ。

吾去子ノ去ノ字吾ニ屬シテ讀ムベク、彼ニ屬シテ讀ムベカラズ。

チ求ムルノ惑ヲ辨ズルナリ、圖南ハ學力文才兩ナガラ備リ、進士ニ第シナガラ、當時登第者ノ門閥ヲ恃ミ、登人ヲ排擠シ、或ハ諂屈シテ進ムヲ求ムル者等ノ行動ヲ見テ、之ヲ厭ヒ、遂ニ道士ノ道ニ入ラントセリ、子厚ハ入道ノ非ナルヲ論ジ、士君子タルモノハ、聖賢ノ道ヲ學ビ、之ヲ行フベシ、圖南ハ世ニ出デテ行フベキ才學ヲ有シナガラ、遽ニ處士トナルハ、疑ハザルヲ得ズト、道ノ說ヲ喝破シテ之ヲ規スルナリ。

入道ハ唐律疏義ニ、道士女冠若クハ僧尼等ヲイフトアリ。

崔比部名ハ鵬、比部ハ官名。

于衞尉名ハ邵、衞尉ハ官名。

納言曾孫云云、婁師德、武后ノ時納言タリ。

先登トハ、攻戰ニ臨ミ、挺身シテ先ヅ敵城ニ登ルヲイフ、此處ハ借リテ文壇ノ魁首タルヲイフ。

覿ハ遇見ナリ。

經及羣書。當時爲文章。若崔比部于衞尉相與稱其文。衆皆曰。納言曾孫也。而又有是。咸推讓爲先登。」第一小段敍有文學賢祖知己三者。後十餘年。僕自尚書郎謫來零陵。覿婁君猶爲白衣。居無室宇。出無僮御。僕深異而訊之。』第二小段異爲白衣。○以上第一大段敍婁有文學有賢祖有知己而猶爲白衣異之。乃曰。今夫取科名者。交貴勢。倚親戚。合則揷羽翮。生風濤。沛焉而有餘。吾無有也。」第一小段言婁不恃門第不則饜飲食。馳堅良。以歡於朋徒。相貿爲資。相易爲名。有不諾者。以氣排之。吾無有也。」第二小段言婁不恃交遊不則多筋力善造請。朝夕屈折於恆人之前。走高門。邀大車。矯笑而僞言。卑陬而姁嫗。偸一旦之容。以售其伎。吾無有也。」第三小段言婁不恃諂屈自度。卒不能堪其勞。故舍之而遊。逾湖江出豫章。至南海。復由桂而下也。少好道士言。餌藥爲壽。未盡

白衣ハ無位無官ノ人。
堅良ハ堅車良馬ナリ。
貿ハ貨ヲ以テ財ニ易フルコト。
造ハ詣ナリ、請ハ謁問ナリ。
矯ハ詐ナリ。
卑陬ハ愧ヅル貌。
狗媚ハ美言ナリ。
偸一旦――ホンノ一時人ニ氣ニ入ルヤウニ云フナリ。
道士ハ黄老ノ教ヲ奉ズル者ニシテ、長生延壽ノコトヲ説ク。
無納言――納言ノ如キ大德アル先祖アルニモアラズ、又比部ヤ衛尉程ノ人物ガ、知合ヒニモナシ。
吾所以――日比研究スル道術、未ダ十分ナラネバ、之ヲ求メンガ爲ニ、今淮南ニ出立ストナリ。
異其遁――婁君ガ名譽ヲ厭ヒ棄テタルノ眞意ヲ解セズト雖モ、又一方ニ於テハ、三年ノ長キ間、我ガ爲ニ語リタルヲ有難ク思ヒテ、一言ノ途辭ヲ呈ス。

其術。故行且求之。僕聞而愈疑。』第四小段言不特前三者。故求道。是可疑。○以上第二大段敍婁舍仕求道術之志。

疑之。往時觀得進士者。不必若婁君之言。又不能類婁君之文學。又無納言之大德。以爲之祖。無比部衛尉以爲之知。而升名者百數十人。今婁君非不足也。顧不樂而遁耳。因爲余留三年。」第一小段結上。○往時觀云云。言言應起手。

他日又曰。吾所以求於心者未克。今其行也。余既異其遁於名。而又德其久留於我也。故爲之言。』第二小段起下。○以上夫君子之出。以行道也。其處以獨善其身也。第三大段結上起下。

今天下理平。主上亟下求士之詔。婁君智可以任職用事。文可以宣風歌德。行於世。必有合其道。而進薦之者。遽而爲處士。吾以爲非時。將曰老而就休耶。則甚少且銳。羸而自養耶。則甚碩且武。問其所以處。承上二處字。咸無名焉。若苟焉以圖壽

將曰老——年老イタレバ養老セント云フカ、否、年モ若ク、氣力モ銳シ、虛弱ノ故ニ養生セント云フカ、否、體モ大キク武力モアリ。形軀之——コノ生存スル身體ハ、吾物トハイヒナガラ、士タルモノノ世ニ立チテ働ク義務ヲ有スルガ故、自分ノ勝手ニ吾人ヲ處スル能ハザル筈ナリ。慊(あきたり)ルナリ。以呼嘘爲食ハ、氣ヲ咽ミテ性ヲ養フヲイフ、莊子刻意篇ニ、噓煦呼吸吐レ故納レ神トアリ。以呼子——貴殿ガ内内ニテ御尋ノ次第モアリ、又貴殿ガ當地ヲ去ラルルヲモ惜シムガ故ニ、人ニ知ラセズ手紙ニ認メテ内密ニ贈ル。

此篇ハ李睦州ノ誣ニ遭ヒテ左遷セラレ、其冤罪ナルコト既ニ明白ニ

為道。又非吾之所謂道也』。二句一篇主意。○第一小段言夫形軀之寓於土非吾能私之。幸而好求堯舜孔子之志。唯恐不得。幸而遇行堯舜孔子之道。唯恐不慊。若是而壽可也。求之而得。行之而慊。雖夭其誰悲。今將以呼嘘爲食。咀嚼爲神。無事爲閑。不死爲生。則深山之木石。大澤之龜蛇。皆老而久。其於道何如也』。第二小段排道士之道。○以上第四大段揭聖人之道。排道士之道。辨其惑。僕嘗學於儒。持之不得。陷於是。以出則窮。以處則乖。其不宜言道也審矣。以吾子見私於僕。而又重其去。故竊言。而書之而密授焉』。以上第五大段敍作送序之故。

## 同吳武陵贈李睦州詩序

主意　言同吳發睦州冤。

潤之盜錡。竊貨財聚徒黨。爲反謀十年。今天子卽位三年。大立制度。於是盜恐且奮。將遂其不善。視部中良守不爲己用者。誣陷去之。睦州由是得罪。天子使御史按問。館於睦。自門及堂皆其私卒爲衛。天子之衛不得搖手。辭卒致具。有閒盜遂作。而廷臣猶用其文。斥睦州南海上。既上道。盜以徒百人。遮於楚越之郊。戰且走。乃得完爲左官吏。無幾盜就禽斬之。於社垣之外。論者謂宜還睦州。以明其誣。既更大赦。始移永州。去長安尙四千里。睦州未嘗自言。』以上第一大段敍冤　吳武陵剛健士也。懷不能忍。於是踴躍其誠。鏗鏘其聲。出而爲之詩。然後慊於內。余固知睦州之道也熟。銜匿而未發。且聞吳之先焉者。激於心。若鐘鼓之考。不知聲之發也。言吳先作詩。柳激而繼之。遂繫之而

ナリシニ、職ヲ復セラレンザルヲ慨シ、吳武陵ト同ジク詩ヲ作リテ贈リ、更ニ其序ヲ書キシナリ。

盜錡ハ鎭海ノ節度使李錡ナリ、其姓ヲ去リテ盜ト書セシハ、其暴ヲ憎ミテナリ。

今天子ハ憲宗ヲ指ス。

左官ハ猶左遷ノ如シ、漢書年表ニ、左官ノ律ヲ設ケトアリ。

社垣云云、書ノ甘誓ニ、不用命戮于社、トアリ、註ニ、社爲陰、陰主殺トアリ。

踴躍其誠ハ、誠心ヲ發シテ奮厲スルヲイフ。

鏗鏘ハ金石ノ聲ナリ。

考ハ擊ツナリ。

此文ハ、薛存義が永州ノ零陵縣ヨリ他縣ニ轉任スルニ際シ、書キテ送リシモノ、凡官吏ハ民ニ役セラルルモノニシテ、民ヲ役スル者ニアラズ、存義ハ克ク此理ヲ知リテ能ク民役ノ職ヲ盡セルヲ云フ。

薛存義ハ河東ノ人ナリ、永州零陵縣令ヨリ、他ヘ轉任スルナリ、河東ハ今ノ山西省。

崇ハ充ツルナリ。

若ハ汝ナリ。

民之役——刺史縣令ナドノ役人ハ、民ヲ使フ職ニアラズシテ、民ニ使ハルルヲ本義トス。

什一ハ十分一ノ租稅ナリ。

受其直云云、傭作シテ賃ヲ得ルヲ直トイフ。

重以序』。以上第二大段敍作詩發冤。

## 送薛存義之任序

主意　言存義能盡民役之職。故設酒肉送之。○此篇寓議論於告辭中。序文正體。

河東薛存義將行」。第一小段敍行。柳子載肉於俎。崇酒於觴。追而送之江滸。飲食之。且告曰』。第二小段送別。○以上第一大段敍送別狀。凡吏於上者。若知其職乎。蓋民之役。非以役民而已也。二句一篇大指。○第一節揭主意。凡民之食於土者。出其什一傭乎吏。使司平於我也。第二節解上節。今我受其直。怠其事者。天下皆然。豈唯怠之。又從而盜之」。第三節說今不然。○第一小段說民之役。向使傭一夫於家。受若直。怠若事。又盜若貨器。則必甚

勢ハ貴賤ノ勢ヲイフ。

假令零陵ノ假ハ兼攝ナリ、令ハ縣令ナリ。

序ハ永州ニ謫セラレタルヲ云フ。

考績明幽云云、書ノ舜典ニ三載考レ績黜陟幽明トアリ、事功ノ有無ヲ考ヘ、賞罰ヲ行フナリ。

此文ハ子厚ガ謫居ノ後溪ニ名ヅクルニ愚ヲ以テシ、溪中ノ八物亦各蒙ラスニ愚ヲ以テス、是レ子厚不平ノ餘ニ出ヅ、曰ク、溪ノ愚ハ吾愚

怒。而黜罰之矣」。第二小段喩。以今天下多類レ此。而民莫下敢肆其怒上。而黜罰何哉。勢不レ同也。第一節言勢歷レ古。勢不レ同而理同。如吾民何。有達於理者。得不レ恐而畏乎』。第二節達レ理者不レ恃レ勢。○第三小段說理因レ勢而不レ行。唯達レ理者不レ恃レ勢。○以上第二大段告言。存義假令零陵二年矣。蚤作而夜思。勤力而勞レ心。民之役。二句應レ言。訟者平。賦者均。二句應レ上。老弱無懷レ詐暴憎其爲レ不レ虛取直也的矣。其知レ恐而畏レ也審矣」。第一小段言能盡レ職。吾賤且辱。不レ得レ與レ考績幽明之說。於其往也。故賞以レ酒肉。而重之以レ辭』。第二小段言所以送レ別。○以上第三大段言存義能爲民役。故以酒肉賞レ之。是主意歸宿處。

## 愚溪詩序

主意　言溪無レ利レ于レ世。與レ己愚相似。故名。然溪實有所レ不レ愚。亦與レ己相似。故作

レ詩同ジ其歸。○愚字一篇字眼。

灌水之陽有レ溪焉。東流入於瀟水。或曰冉氏嘗居也。故姓是溪曰冉溪。或曰可以染也。名之以其能。故謂之染溪。』大段敍溪舊名。余以愚觸レ罪。謫瀟水上。愛是溪。入二三里。得其尤絕者一家焉。古有愚公谷。今余家是溪。而名莫能定。土之居者。猶斷斷然。不可以不更也。故更之爲愚溪。」第一小段言己以レ愚觸レ罪住二此溪。故更名一也。愚溪之上。買小邱爲愚邱。自愚邱東北行六十步。得泉焉。又買居之。爲愚泉。愚泉凡六穴。皆出山下。平地。蓋上出也。合流屈曲而南爲愚溝。遂負土累石。塞其隘爲愚池。愚池之東爲愚堂。其南爲愚亭。池之中爲愚島。嘉木異石錯置。皆山水之奇者。既見二溪之不一眞愚一。蓋後段伏案。以余故。咸以愚辱焉。』第二小段言以レ愚辱二山水之奇一。○以上第二大段記二愚溪一。夫水智

ニ似タリ、然レドモ愚ニ智愚アリ、智愚アリ直愚アリ、今此溪ハ愚ニシテ世ニ利ナシト雖、善ク萬類ヲ鑒ス、余モ亦愚ナリト雖、文墨ヲ以テ自ラ慰メ、萬物ヲ漱滌シ、此愚溪ト歸ヲ同ジクス、因ツテ八愚ノ詩ヲ作リ、石上ニ記スト序セリ。

陽ハ水北ヲイフ。

姓是溪云云、人ノ姓氏ヲ以テ此溪ノ名ト爲スヲイフ。

愚公谷ノコト劉向說苑ニ見ユ。

斷魚斤反、斷斷然ハ辨ジ爭フ貌。

夫水云云、論語雍也篇ニ、智者樂レ水トアリ。

者樂也。今是溪獨見辱於愚何哉。蓋其流甚下。不可以灌溉。又峻急多坻石。大舟不可入也。幽邃淺狹。蛟龍不屑。不能興雲雨。無以利世。而適類於余。」　第一小段言溪無利于世類於己。　然則雖辱而愚之可也。甯武子邦無道則愚。智而爲愚者也。顏子終日不違如愚。睿而爲愚者也。皆不得爲眞愚。」　第二小段引古人似愚而不眞愚者起下。　今余遭有道。而違於理。悖於事。故凡爲愚者莫我若也。夫然則天下莫能爭是溪。余得專而名焉。』　第三小段言己眞愚可以專愚溪。　○以上第三大段說所以名之。　溪雖莫利於世。而善鑒萬類。清瑩秀徹。錞鳴金石。能使愚者喜笑眷慕。樂而不能去也。」　第一小段暗言溪之不眞愚。　余雖不合於俗。亦頗以文墨自慰。漱滌萬物。牢籠百態。而無所避之。」　第二小段暗言己之不眞愚。　以愚辭歌愚溪。則茫然而不違。昏然而同歸。超鴻蒙。混希夷。寂寥

坻ハ小沚ナイフ、洲渚ノ最小ナルモノ。
邃ハ深遠ナリ。
不屑ハ輕視シテ意ヲ加ヘザルナリ。
甯武子云云、論語公冶長篇ニ見ユ。
顏子終日云云、論語爲政篇ニ見ユ。
遭有道ハ國家有道ノ時代ニ出遭フナリ。

漱ハ漱ナリ、滌ハ洗ナリ。
牢籠ハ包擧ノ意。
超鴻蒙云云ハ、イハユル無念無想無聲無臭ノ

妙境ニ入リ、其ノ溪タリ、我タルヲ辨ゼザルナイフ。
希夷ハ聞エズ見エザル無聲無色ノコト、老子十四章ニ聽レ之不レ聞、名曰レ希、視レ之不レ見、名曰レ夷トアリ。

此文ハ、愚溪ノ邱上ニ會飲シ會ニ酒令ヲ作リ、山水ノ樂ニ合シ、君子ノ心ヲ成スコトヲ敍セリ。
記ハ子厚ノ鈷鉧潭西小邱記ナリ。八家文卷九ニ載ス。
牛馬之飲者ハ、右ノ記中ニ奇石ノ狀ヲ形容シテ、若ニ牛馬之飲ニ于溪一トアル石ヲイフナリ。
離ハ音麗、屬ナリ、つらなるナリ。
監史ハ、詩經ノ小雅賓之初筵篇ニ、既立ニ之監一或佐ニ之史一トアリ、注ニ立監以視レ之、又助以レ史、使レ督レ酒也トアリ、酒筵ノ監督ヲスルモノナリ。
籌ハ算ナリ、唐人會飲

而莫ニ我知一也。於レ是作ニ八愚詩一紀ニ於溪石上一。第三小段把ニ溪與レ柳。一管說ニ溪之與ニ柳州一非ニ眞愚一。是反振法。主意在ニ此處一。妙亦在ニ此處一。』結レ之。○以上第四大段暗

## 序レ飲

主意　言合ニ山水之樂一成ニ君子之心一。○驩樂二字眼目。

買ニ小邱一。一日鋤理。二日洗滌。遂置ニ酒溪石上一。嚮之爲レ記所謂牛馬之飲者。離ニ坐其背一。實レ觴而流レ之。接取以飲。」第一小段綱領。乃置ニ監史一而令曰。當レ飲者。擧ニ籌之十寸者三一。逆而投レ之。能不レ洄於泝。不レ止於坻。不レ沈於底者。過不レ飲。而洄而止而沈者。飲如ニ籌之數一。」第二小段敍レ令。既或投レ之。則旋眩滑汨。若レ舞若レ躍。速者遲者。去者住者。衆皆據レ石注視。歡忭以助ニ其勢一。突然而逝。乃得レ無レ事。

ニ算ヲ以テ罰ヲ記ス。
洄ハ流ニ逆ツテ上ルヲイフ、沢ハ洄流ナリ、渦巻ク所ナリ。
坻ハ小洲ナリ。
旋眩ハ旋轉シテ定マラザルナリ。
滑汨ハ流レ去ツテ澑ラザルナリ。
忤ハ扑ニシテ、兩手相撃ツナリ。
痞ハ腹内ノ結病。
酬ハ主ヨリ客ニ答ヘ、酢ハ客ヨリ主人ニ報ユルナリ。
百拜以云云、禮記樂記篇ニ、先王因爲ニ酒禮ヲ一、一獻之禮賓主百拜、終日飲酒而不レ得レ醉焉、此先王之所ニ以備ニ酒禍ヲ一也トアリ。
如沸如羹云云、湯ノ沸クガ如ク、羹ノ方ニ熟スルガ如シ、飲酒號呼ノ聲ヲイフ。
裸裎ハ身ヲ露スナリ、袒裼ハ臂ヲ露スナリ、達ハ放達ナリ、物事ニ拘泥セヌヲ云フ。
促數ハ禮數ノ繁多ナルヲイフ。
糺逖ハ過失ヲ糺シ遠ザ

於レ是或一飲。或再飲。客有ニ婁生圖南者一。其投レ之也。一洄一止。一沉。獨三飲。衆乃大笑。驩甚」。第三小段敍レ事。余病痞。不レ能レ食レ酒。至レ是醉焉。遂損ニ益其令一。以窮ニ日夜一。而不レ知レ歸』。第四小段小束。〇以上第一大段敍レ事。吾聞昔之飲レ酒者。有ニ揖讓酬酢一。百拜以爲レ禮者一。有ニ叫號屢舞一。如レ沸如羹。以爲レ極者一。有ニ裸裎袒裼一。以爲レ達者一。有ニ資絲竹金石之樂一。以爲レ和者一。有ニ以促數糺逖一而爲レ密者一。今則擧異レ是焉」。第一小段言ニ古今之異一。故捨ニ百拜一而禮。無ニ叫號一而極。不ニ袒裼一而達。非ニ金石一而和。去ニ糺逖一而密。簡而同。肆而恭。衎衎而從容。於以合ニ山水之樂一。成ニ君子之心一。宜也」。第二小段言ニ禮異一而意同ニ古人之樂一。作レ序飲一以貽ニ後之人一。』言レ作レ序貽レ後。〇以上第二大段敍レ意。

クルチイフ。
密ハ嚴密ノ義ナリ。
衍衍ハ樂ム貌。
於ハ助語。

此文ハ子厚ガ永州ノ刺史崔敏ノ遊宴ニ連リ、諸士ノ時ヲ得、己ノ世ニ廢セラレタルヲ歎キテ作リシモノ。

委會ハ水ノ聚ル處。
泓ハ下深ノ貌、灣ハ水曲ナリ。
楓ハ白楊ニ似テ甚ダ高大、葉厚ク枝翁クシテ善ク搖ク、霜後丹色愛スベシ。
栟ハ栟ノ俗字、卽チ楠字、くすト訓ズ。
箭ハ篠ナリ、小竹ノ箭幹トナスベキモノ。
茨ハ雞頭ナリ、みづぶきト訓ズ、芰ハ菱ナリ、ひしト訓ズ、蒲ハ水草、席ニ作ルベシ、葉ハ芙蕖ナリ、はちすト訓ズ。
騰ハ上躍ナリ。
韜ハ藏ナリ、涵ハ含ナリ。
澹灩ハ水搖動スルナリ。
宅ハ安ナリ、肆ハ緩ナリ。

# 陪永州崔使君遊讌南池序

主意　悼此樂不可再。

零陵城南環以羣山。延以林麓。其崖谷之委會。則泓然爲池。灣然爲溪。其上多楓栟竹箭哀鳴之禽。其下多茨芰蒲葉騰波之魚。韜涵太虛澹灩里閭。誠游觀之佳麗者已。』以上第一大段敍南池風景大概。

崔公既來。其政宅以肆。其風和以廉。既樂其人。又樂其身。於暮之春。徵賢合姻。登舟於茲水之津。連山倒垂。萬象在下。浮空泛景。蕩若無外。橫碧落以中貫。陵太虛而徑度。中貫碧落。徑度太虛。狀舟行空明。

羽觴飛翔。匏竹激越。熙然而歌。婆然而舞。持頤而笑。瞪目而倨。不知日之將暮。則於向之物者。可謂無負矣。』以上第二大段敍遊燕之樂。

昔之人。知樂之不可常。會之不可必也。當歡而戚

者有レ之。況公之理。行宜去受厚錫。而席之賢者。率皆在レ官蒙レ澤。方將脫二鱗介一生羽翮。夫豈趦趄湘中。爲二鯨鞾客一耶。余既委廢於世。恆得與是山水爲伍。而悼二茲會之不一可再也。主意歸宿。故爲レ文志之』。以上第三大段敍二感慨一。○況字透二至爲伍一。

## 嶺南節度饗軍堂記

主意　言二大其堂一。豐二其饗一。足以伸二一使之德威于軍人外賓一。

唐制。嶺南爲二五府一。府部州以レ十數。其大小之戎。號令之用。則聽於節度使。焉。其外大海多二蠻夷一。由二流求訶陵一。西抵二大夏康居一。環レ水而國以レ百數。則統於押蕃舶使。焉。內之幅員萬里。以執秩拱稽。時聽二教命一。外之羈屬數萬里。以譯言贄寶。歲帥貢

---

レ。碧落ハ大空ナリ。連山倒云云、山ヤ種種ノ景色ノ、水底ニ映ズルヲ云フ。羽觴ハ酒器、爵（すゝめ）ノ形ヲナシ、頭尾羽翼アルニ似ルモノ。匏ハ瓠ナリ、笙ニ爲スベシ。熙然ハ樂ム貌。婆然ハ舞フ貌。瞪目ハ直視ナリ。於向之云云、向（さき）ノ者トハ、卽チ前段述ブル所ノ禽魚草木池上ノ風景ヲ指スナリ。趦趄ハ進マントシテ進マザル貌。顚頼ハ憔悴ト同ジク痩容ナリ。席之賢——コノ席ニ列ナル賢者ハ、大概顯官ニテ、何レモ恩澤ヲ蒙リ、今ニモ鱗ヲ脫ギ棄テ羽ヲ生ジテ上天セントスル勢ナルガ故ニ、何トテ此ノ湖中ニ滯留シテ、零落スルコトアランヤ。

此文ハ、嶺南節度使馬總ノ新築セル饗軍堂落

成ニツキ作リシモノ。
嶺南ハ五嶺ノ南ニシテ、支那ノ極南、今ノ廣東地方ナリ。
五府ハ廣州、安南、及ビ桂、邕、容ノ三管ヲイフ。
部ハ猶ホ管ノ如シ。
大小之戎ハ兵車ナリ。
流求ハ琉球ナリ。
押蕃舶使ハ外務官ニシテ、嶺南節度使之ヲ兼ヌ。
執秩ハ、左傳ノ注ニ、爵秩ヲ主ルノ官名トアリ、今、假リニ官吏ノ爵秩ヲ取締ル役ニアテシナリ。
拱稽ノ拱ハ執ナリ、稽ハ兵ノ名籍、コレハ兵士ノ名簿ヲ執リテ上ルコトナリ。
羈屬トハ、管スル所屬國ナイフ。
譯言ハ通譯ノコト、贄賓ハ貢物。
賓軍之事云云、賓ハ賓禮、軍ハ軍事ナリ。
宜無不云云、與ニ其ノ大ヲ比較スベキモノナキナリ。
牲牢饔餼云云、詩經ノ

職。合二使之重。以治於廣州。故賓軍之事。宜レ無レ不レ與校レ大。」一小段言二使之重一。第一

且賓有牲牢饔餼。嘉樂好禮。以同レ遠合レ疎。軍有犒饋宴饗。勞旋勤歸。以羣力一レ心。於是治也。閑閎階序。不可レ與他邦類。必厚棟大梁。夷庭高門。然後可以上充於揖讓。下周於步武。」第二小段言宜レ宏二其門庭一。

今御史大夫扶風公。廉廣州。且專二使。增德以來遠人。申威以修戎政。大饗宴合樂。從其豐盈。』第三小段言宜レ豐二其宴饗。○以上第一大段敍二使賓軍之大。宜宏二其門庭。豐二其宴饗。

先是爲堂於治城西北陬。其位公北向。賓衆南向。奏部伎於其西。視泉池於其東。隅奥庳側。庭廡下陋。日未及晡。則赫炎當レ目。汗眩更起。而禮莫克終。故凡大宴饗。大賓旅。則寓於外壘。儀形不レ稱。」第一小段記舊。公於是始斥其制。爲堂南面。橫八楹。從十楹。嚮之宴位。化爲東序。西又如之。

其外更衣之次。膳食之宇。列レ觀以游レ目。偶レ亭以展レ聲。彌望極顧。莫レ究二其往一。泉池之舊。增濬益植。以暇以息。如レ在二林壑一。問二工焉取一。則師與是供。問二役焉取一。則蠻隸是徵。問二材焉取一。則隙宇是遷。或益二其闕一。伐レ山浮レ海。農賈拱レ手。張レ目視レ具。乃十月甲子。克成』。第二小段記レ今。〇以上第二大段記二堂宇之大一。公命饗於二新堂一。幢牙旂纛。金節析羽。旃旗旛旒。咸飾於下。鼓以二鼖晉一。金以二鐸鐃一。公與二監軍使一肅上賓。延二羣僚一。將校士吏。咸次於位。卉裳罽衣。胡夷蜑蠻。睢盱就レ列者。千人以上。鉶鼎體節。燔炮截炙。羽鱗薀互之物。沈泛醍盎之齊。均飫二於卒士一。興王之舞。服夷之伎。楔擊吹鼓之音。飛騰幻怪之容。宴觀於遠邇。禮成樂遍。以レ敘而賀」。第一小段記二宴饗一。且曰。是邦臨護之大。五人合レ之。非二是堂之制一。不レ可以備レ物。非公

注ニ牛羊豕爲レ牲、繫養者曰レ牢、熟曰レ饔、腥曰レ飧ト見ユ。
勞旋勤歸云云、詩經疏ニ、出車以勞旋、杖レ杜以勤レ歸トアリ。
閒閎階序ノ閒ハ邑里ノ門、閎ハ巷頭ノ門、階ハ堂ニ登ル段、序ハ堂ノ東西廂ナリ。
夷ハ大ナリ。
周ハ徧ナリ、步武ハ步行ナリ。
廉廣州ハ、嶺南節度使タルチイフ、廉ハ察訪ノ義ナリ。
陬ハ隅ナリ。
部伎ハ、サマザマノ伎樂ナリ。
隅奧庫側、奧ハ室ノ西南隅、庫側ハ低ク隘キナリ。
廡ハ堂下ノ周屋。
汗皃ハ汗流レ、皃ハ皰瘡スルナリ。
觀ハ樓臺。
彌望ハ極望トイフガ如シ、孔穎達曰ク、人目望ム所三十里ニシテ、天地二十里ノ外ヲ合ス、復之ヲ見ズ、是レ極望タリト輿ハ衆ナリ。

隙宇ハ空屋(あきや)。
幢ハはたほこト訓ズ。
牙ハ大将ノ旗。
纛ハ旄牛ノ尾ニテ作リタル大旗、おにかしらト訓ズ、析羽トハ鳥ノ羽チサキテ旗ノ飾トセルモノ。
旂旗旟旞皆旗ノ名也、旂ニハ龍ヲ畫キ、旗ニハ熊虎ヲ、旟ニハ隼鳥ヲ畫キ、旞ハ鳥ノ全羽ヲ繋ケタルモノ。
鼖晉ハ共ニ太鼓。
鐸鐃ハ共ニ鈴。
卉裳ハ草ヲ織リテ作ル裳、韗衣ハ毛ヲ織リテ作ル衣、共ニ蠻服。
蜑蠻ハ南方ノ夷。
睢盱ハ目ヲ張リテ仰ギ見ルコト。
釧ハ糞ヲ盛ル器、體ハ牲全體、節ハ其支節、臇ハ大臠、炙ハ燔肉。
羽鱗ハ鳥ト魚トナリ。
蹙ハ埋ニ同ジク、泥中ニ棲ム魚鼈ノ類。
亙ハ甲介アルモノ、貝類ナリ。
沈泛醴盎ハ酒名、沈ハ清酒、泛ハ濁酒、醴ハ色赤キ酒、盎ハ蔥白色

之德。不可以容衆。曠於往初。肇自今茲。大和有人。以觀遠方。古之戎政。其曷用如此。十句括全文。華元名大夫也。殺羊而御者不及。霍去病良將軍也。餘肉而士有饑色。猶克稱能。以垂到今。矧茲具美。其道不廢。願刻於金石。以永示後祀。」第二小段記賓僚願刻石。遂相與來告。且乞辭。其讓不獲。乃刻於茲石。』第三小段記作文之由。○以上第三大段記宴饗之豐。

## 興州江運記

主意　記刋山導江之功德。

御史大夫嚴公。牧於梁五年。嗣天子用周漢進律增秩之典。以親諸侯。謂公有功德理行。功德一篇綱領。理行帶說。下文刋山導江。卽功德之實。就加禮部

尚書」第一小段記天子賞巖礪功德理行。是年四月。使中謁者來錫公命。賓僚吏屬。將校卒士。黧老童孺。塡溢公門。舞躍歡呼。願建碑紀德垂億萬祀。公固不許。而相與怨咨。遑遑如不飲食。於是西鄙之人。密以刋山導江之事。願刻巖石。』第二小段記西鄙人刻刋山導江。○以上第一大段大意。曰維梁之西。其蔽曰某山。其守曰興州。興州之西爲戎居。歲備亭障。實以精卒。以道之險隘。兵困於食。守用不固。」第一小段記公守備不固。患之曰。吾嘗爲興州。凡其土人之故。吾能知之。自長擧北至於青泥山。又西抵於成州。過栗亭川。踰寶井堡。崖谷峻隘。十里百折。負重而上。若蹈利刃。盛秋水潦。窮冬雨雪。深泥積水。相輔爲害。顚踣騰藉。血流棧道。糗糧芻藁。塡谷委山。牛馬羣畜。相藉物故。饁夫畢力。守卒延頸。嗷嗷之聲。其可哀也。若是

ノ酒ナリ、齊トハ一定ノ升目ニヨリ造リタル酒、周禮ニ五齊三酒ト見ユ。
興王之舞トハ興リ盛ナル君王ノ舞、卽チ七德九功舞ノ類。
服夷之伎トハ、服歸シタル夷國ノ技、卽チ西涼伎龜玆伎ノ類。
楔ハ戛ニ同ジク、ウチナラスナリ。
飛騰ハ飛上ルコト、竿上リ、緪ワタリノ類。
幻怪ハ刀ヲ呑ミ火ヲ吐ク等ノ怪シキ術。
寰ハ環ニ通用ス。
五人ハ五府ノ人ナリ、嶺南ノ節使ハ五府ノ討擊使ヲ兼ヌレバ、其部下ノ集リタルヲ謂フ。
大和有人云云、大和トハ、昜ニ包ニ合大和一ト見ユ、萬物ヲ化育スル程ノ人トイフ義ナリ。
華元ハ春秋ノ時宋ノ大夫ナリ、此人羊ヲ殺シテ部下ヲ饗セシニ、獨御者羊斟ト云フ者ニ及バザリシカバ、羊斟怒ツテ華元ノ車ヲ鄭ノ陣ニ乘入レ、軍ハ敗績シタリト云フ。

霍去病ハ漢武帝ノ良將、匈奴ヲ伐チテ功アリシガ、梁肉ヲ餘シテ棄テタリト。

輿州江運記ハ嚴礪ガ山南西道ノ節度使タリシ時、山ヲ刊リ、嘉陵江ヲ拓キ、運輸ノ利ヲ興セシ功德ヲ頌スルナリ。

梁ハ山南道ノ漢中府。

嗣天子ハ順宗皇帝。

進律增秩ハ、格式ヲ進メ秩祿ヲ增スナリ。

諸侯云云、唐ニハ諸侯無クレドモ、當時節度使ハ、往往其職ヲ世襲シ、周漢ノ諸侯ノ如キ觀アリ。

黧ハ黑ニシテ黃ナリ。

孺ハ幼弱ナリ。

遑遑ハ彷徨ト同シ。

刊山ハ、木ヲ斬リ道ヲ通ズルナイフ。

維梁ハ梁州ナイフ。

蔽ハ國ノ蔽障ナイフ。

踣ハ僵ナリ。

騰ハ躍ナリ。

棧道ハ、險絕ノ處、旁ノ山巖ヲ鑿チ、版築ヲ架ケワタシタル路。

芻藁ハ牛馬ヲ飼フ草。

者。綿三百里而餘。」第二小段記山行運糧之苦。自長擧而西。可以導江而下。二百里而至。昔之人莫得知也。吾受命於君而育斯人。其可已乎。』第三小段記導江之不可已。○以上第二大段記既往之害。乃出軍府之幣。以備器用。卽山伐功。由是轉巨石。仆大木。焚以炎火。沃以食醯。摧其堅剛。化爲灰燼。畚鍤之下。易甚朽壞。乃闢乃墾。乃宣乃理。隨山之曲直。以休人力。順地之高下。以殺湍悍。其功既成。咸如其素。」第小段刊山。於是決去壅土。疏導江濤。萬夫呼抃。莫不如志。雷騰雲奔。百里一瞬。既會既遠。淡爲安流。烝徒謳歌。枕臥而至。戍人無虞。專力待寇。惟我公之功。疇可侔也。而無以酬德。致其大願。又不可得命。』第二小段導江。○以上第三大段記刊山導江。矧公之始來。屬當惡歲。府庾甚虛。器備甚殫。飢饉昏札。死徒充路。賴公節用愛人。克安

而生。老窮有レ養。幼乳以遂。不レ問レ不レ使。咸得二其志一。公命鼓鑄二庫有一レ利兵。公命屯田二師有一レ餘糧。選レ徒練レ旅。有衆孔武。平レ刑議レ獄。有衆不レ黷。增石爲レ防。膏二我稻粱一。歲無二凶菑一。家有二積倉一。傳館是飾。旅忘二其歸一。杜梁已成。人不レ履レ危。若レ是者。皆以二戎隙一帥士而爲レ之。不出二四人之力一。而百役已就。』以上第四大段記二理行一。且我西鄙之職官。故不レ能二具擧一。惟公和恆直方。廉毅信讓。敦尚儒學。抑損貴位。率二忠與一レ仁。以厚二其誠一。有レ可レ以安二利於人一者。行之堅勇。不レ俟二終日一。其興功濟レ物。宜如レ此其大也。』第一小段記二興レ功濟一レ物。昔之爲レ國者。惟水事爲レ重。故有二障一レ大澤一。勤二其官一。而受二封國一者矣。西門遺利。史起興レ歎。白圭壑レ鄰。孟子不レ與。公能夷レ險休レ勞。以惠二萬代一。其功烈尤章章焉。不レ可レ蓋也。是用假レ辭謁レ工。勒而存レ之。用永憲於

塡ハ塞ナリ。
委ハ積ナリ。
相藉物故ハ枕藉シテ死スルナイフ。
饟音運、野饋ナリ。
沃以食醯云云、醯ヲ注ギテ剛岩ヲ碎キシナリ。
畚ハ土ヲ盛ル器、鍤ハ鍬ナリ。
宣ハ通ナリ、遠ク及ブナリ。
湍悍ハ急流ナリ。
素ハ素志ナリ。
疏ハ分通ナリ。
雷騰云云ハ急流ノ狀。
烝ハ衆ナリ、
噂ハ誰ナリ。
詈ハ未ダ命名セザル内ニ死スルヲ謂フ。
鼓ハ扇ナリ、火ヲ扇ギ橐ヲ動カスコト、鼓鑄ハ兵器ヲ鑄ルヲ謂フ。
選徒ノ選ハ整フル也。
孔ハ甚ナリ。
積倉ノ積ハ露積ナリ、
圍ヒ米ナリ。
杠ハ小橋ナリ、梁ハ舟橋ナリ。
四人ハ士農工商ノ四種ヲ謂フ。
障大澤云云、左傳ニ、

後祀。』第二小段記夷險休勞。○以上第五大段總結功德。

## 四門助教廳壁記

主意　歎今代輕學官。嘉三士不恥之。

周人置虞庠於四郊。以養國老。教胄子。祭統曰。天子設四學。蓋其制也。」第一小段引祭統。統蓋義訛。易傳太初篇曰。天子旦入東學。晝入南學。夕入西學。暮入北學。蔡邕引之以定明堂之位焉。」第二小段引易傳。大戴禮保傅篇曰。帝入東學以貴仁。入南學以貴德。入西學以貴義。入北學以尊爵。賈生述之。以明太子之教焉。故曰。爲大教之宮而四學具焉」。第二小段引大戴禮。參明堂之政。原大教之極。其建置之道弘也。』第四小段結前三小段。○以上第一大段記古代學校之重。後魏太和中。

四門助教廳壁記ハ四門ノ起原、歷史ヲ述ベ、當事學政振ハズ、學官ヲ輕ンズルヲ慨ス。

臺駰トイヘル人、水官トナリテ、汾洮二水ヲ宣(あら)ケ、大澤ヲ障ギタレバ、顓頊其功ヲ嘉ミシ、汾川ニ封ゼリト見ユ。

西門云云、魏ノ西門豹、鄴ノ令トナリ、民ヲ發シテ十二渠ヲ鑿リ、河水ヲ引キテ、民田ニ灌ゲ、其後襄公羣臣ト會飲セシトキ、我臣ヲシテ西門豹ノ如クナラシメタシト曰ヒシニ、史起曰フ、鄴ノ地ハ惡田ナケレバ、傍ニアル障水ヲ引キテ之ヲ肥スベキニ、然カセザルハ是レ豹ノ不知ナリト、襄王起テテ以テ鄴ノ令トナス、此ニ遺利トハ漳ノ水利ヲ指ス。

伯圭云云、伯圭ハ孟子ト同時ノ人、水ヲ治ムルヲ以テ自負セシガ、孟子其鄰國ヘ水ヲ落シシヲ譏リキ、孟子告子下篇ニ見ユ。

周人置――周人ハ虞庠ト稱スル小學ヲ四方ノ野邊ニ置キ、公卿ノ退官セル者ヲ養ヒ、胄子（長子）ヲ教ヘタリキ。祭統曰云云ハ、禮記祭義ノ文ナリ。

四學トハ、周ノ時、虞夏商周四代ノ學ヲ設ク、即チ辟雍、東序、瞽宗及虞庠ナリ。

明堂トハ、周ノ時、王者政ヲ議スルノ堂ナリ。此ノ學校ナリ、故ニ其ノ建設セラレタル理由ハ至ツテ弘大ナリ。

參明堂――明堂ノ政ニ參與セシモ、國老ヲ養ヒシモ、教ノ大本トシテ胄子ヲ教ヘシモ、皆

鼓篋榎楚トハ教授ノ狀チイフ、禮記ノ學記ニ見ユ、鼓篋ハ鼓ヲ擊チテ始業ヲ報ズルトキ、學生ノ篋ヨリ書物ヲ取出スヲイフ、榎楚ハ共ニ木ノ名ニテ、校則ヲ犯セシモノヲ朴撻スル鞭ナリ。

蔵之抄ハ年末ナリ。簡ハ擇ブナリ。

博雅ハ學術ノ博ク雅シキコト、莊敬ハ品行ノ

立學於四門。置助教二十人。隋氏始隷於國子。而降置五人。皇朝始合於太學。又省至三人。員位彌簡。其官尤難。非儒之通者不列也」。第一小段記自後魏至唐初。以通儒列學官。

四門學之制。掌國之上士。中士。下士凡三等。侯伯子男凡四等。其子孫之爲胄子者。及庶士庶人之子爲俊士者。使執其業而居其次。就師儒之官而考正焉」。第二小段記四門學之制。助教之職。佐博士以掌鼓篋榎楚之政令。分其人而教育之。其有通經力學者。必於歲之杪。升於禮部。聽簡試焉。課生徒之進退。必酌於中道。非博雅莊敬之流。固不得臨於是。」第三小段記助教之職。故有去而升於朝者。賀祕書由是爲博士。歸散騎由是爲左拾遺。舊制以拾遺爲八品清官。故必以名實者居於其位。」第四小段記去學升朝官。○以上第二大段記中代猶重學官。

貞元中王化既

方正ナルコトナリ。賀祕書ハ賀知章ノコトニテ、祕書監タリ。歸散騎ハ歸宗敬トイヘル人ニテ、其官ハ散騎常侍タリ。清官トハ、待遇ノヨクシテ、職務ノ閑暇ナル役チイフ。以名寘——此拾遺ハ必ズ名ト寘ト共ニ備ハルモノヲ以テ任ズルナリ、故ニ助教ノ職ハ善キ役柄ナリ。貞元ハ唐ノ德宗ノ年號。經籍少閒トハ、經學ノ道尚少シク閒隙アルナリ。前進士トハ進士第ヲ得ルヲイフ。

此文ハ象祠ノ正祀ニアラザルヲ言ヒ、之ヲ毀チテ以テ風化ヲ正スハ、薛伯高ノ所置宜シキヲ得タルコトヲ述ベ、且祠ヲ毀ツ後、俗ノ惑ヲ曉ス辭ヲ擧ゲ、土

成經籍少閒有司命太學之官頗以爲易專名譽好文章者咸恥爲學官」士恥爲學官第一小段記名至是河東柳立始以前進士求署茲職天水武儒衡閩中歐陽詹又繼之是歲爲四門助教凡三人皆文士京師以爲異」第二小段記三名士爲學官人異之余與立同祖與武功同升於禮部與歐陽生同志於文四門助教署未嘗紀前人名氏余故爲之記見由夫三子者始』第三小段記子厚作記之由。○以上第三大段記今代輕學官出以徵辭是一篇主意所在。

## 道州毀鼻亭神記

主意　言毀一祠明敎行於古今。

鼻亭神象祠也不知何自始因而勿除完而恆新相傳且

民ノ迷ヲ開キテ喜プコトヲ敍セリ。

鼻亭神ハ虞舜ノ弟ナル象ヲ祀レル祠ナリ。

元和ハ唐憲宗ノ年號。

薛公ハ薛伯高トイヘル人。

塗穢革邪ハ、汚穢ノ政治ヲ除去シ、邪淫ノ風俗ヲ革釐スルナリ。

罷ハ疲ト同ジ。

痿ハ濕病ナリ。

矇ハ青盲、視力ナキコト。

瞭ハ目明ナリナリ。

主ハ木主卽チ神體ナリ。

鬼神不——鬼神ハ血緣モナキ他人ノ祭ヲバ受ケズ。

淫祀無福、邪淫ノ祀ハ利福ナシト、禮記曲禮篇ニ見ユ。

千歲。」（ナラント）第一小段記有ニ象祠一且千載上。元和九年。河東薛公。由ニ刑部郎中一刺ニ道州一。除ニ穢革一レ邪。敷ニ和於下一。州之罷人。去レ亂卽レ治。變レ呻爲レ謠。五句既伏全文。第二小段記ニ薛公道州治功一。公乃考ニ民風一。披ニ地圖一得ニ是祠一。駭曰。象之道。以爲レ子則傲。以爲レ弟則賊。君有ニ鼻一。而天子之吏實理。以ニ惡德一而專ニ世祀一。殆非ニ化ニ吾人一之意ニ上一哉。命亟去レ之」。第三小段記ニ薛公毀ニ象祠一之命上。於レ是撤ニ其屋一。墟ニ其地一。沈ニ其主於江一。」第四小段記レ毀レ祠。〇以上第一大段記ニ毀神祠一。公又懼ニ楚俗之尙レ鬼而難レ諭也。乃徧告ニ於人一曰。吾聞鬼神不レ歆ニ非類一。又曰淫祀無レ福。凡天子命ニ刺史一於下一。非以專ニ土疆一。督ニ貨賄一而已也。蓋將ニ教ニ孝悌一。去ニ奇邪一。俾ニ斯人一敦ニ忠睦友一。祗ニ肅信讓一。以順ニ於道一。吾之斥ニ是祠一也。以明レ教也。明教二字一篇主意。苟離ニ於正一。雖千載之違ニ吾得而更レ之。

況今茲乎。苟有不善。雖異代之鬼。吾得而攘之。況斯人乎。』以上第二大段記毀祠由明教。卽下文明罰行於鬼神者。州民既諭。相與歌曰。我有病瘵。公起其羸。髫童之嚚。公實智之。鰥孤孔艱。公實遂之。孰尊惡德。遠矣自古。孰羨淫昏。俾我斯瞽。千歲之冥。公闢其戶。我子洎孫。延世有慕。』以上第三大段記州民化伏。卽下文愷悌達於蠻夷者。宗元時謫永州。邇公之邦。聞其歌詩。以爲古道罕用。賴公而存。斥一祠而二教興焉。明罰行於鬼神。愷悌達於蠻夷。不惟禁淫祠。黜非類而已。願爲記以刻山石。俾知教之首。』以上第四大段敍所以記之。結主意。

## 零陵郡復乳穴記

主意　言復乳君子之祥。

羸ハ小兒ノ垂髮。
嚚ハ愚ナリ。
孰尊惡——誰ガ衆ノ如キ惡德ヲ尊ビシカ、我我ハ遠ク古ヨリ此祠ヲ尊ビタリ、誰カ邪淫不正ナ墓ヒシカ、我我ハ知識ノ盲シタル爲此ノ祠ヲ羨慕シタリ、今公ハ戸ヲ闢キテ內ノ祕密ヲ示ス如ク、我我ノ千載ノ迷惑ヲ破リタリ、サレバ我我子孫ニ至ルマデ、永久ニ公ノ德ヲ慕フコトアラン。
闢其戸トハ惑ヲ破ルヲイフ。
愷悌ハ和樂ナリ。

石鍾乳トハ和名いしのちト云フ、本草ニ、石鍾乳ハ味甘温ニシテ毒ナシ、欬逆ノ上氣ヲ去リ、目ヲ明カニシ、精ヲ益シ、五臓ヲ安クシ、百節ヲ通ジ、九竅ヲ利シ、久シク服セバ年ヲ延バストアリ。

連韶ハ並ニ州名、共ニ賓東府ニ屬ス。

崔公ハ崔君敏ナリ。

貶ハ氓ト同ジ。

公化所――崔公ノ教化ノ届ク所ハ、土石ニ及ルト迄功烈ヲ被ムレリ。

徒吾役云云、徒ニ吾ヲ使役シテ、其賃銀ヲ與ヘズ、故ニ之ヲ困シンデ給キタリトナリ。

先頼云云、民ノ利福ヲ先ニシ、勞力ヲ後ニス。

信順休洽――上ノ信實ドノ從順ト休ク合ヒタレバ、我等モ誠ヲ告ゲシナリ。

在深山窮林云云、極メテ採取ノ難キナイフ。

儲ハ藏ナリ、年中氷雪ノ絶エザルナイフ。

縻縄以云云、縄ヲツナギテ目印トシ、其歸途ノ栞トナス。

石鍾乳ハ餌之最良者也。楚越之山多產焉。於レ連於レ韶者。獨名二於世一。連之人。告レ盡焉者五載矣。以貢則買二諸他部一。」第一小段記二連乳盡一。

今刺史崔公至。逾月穴人來。以二乳復一告。邦人悅レ是祥一也。雜然譪曰。貶之熙熙。崔公之來。公化所レ徹。土石蒙レ烈。以爲不レ信。起視二乳穴一。』第二小段記二復乳一。〇以上第一大段記二復乳之祥一。穴人笑之曰。是惡知二所謂祥一耶。嚮吾以二刺史之貪戾嗜一レ利。徒吾役而不二吾貨一也。吾是以病而紿焉。今吾刺史。令明而志潔。先レ賴而後レ力。欺誣屏息。信順休洽。吾以是誠告焉」。第一小段言二先刺史役レ民而利レ己。故告レ盡。且夫乳穴。必在二深山窮林一。冰雪之所レ儲。豺虎之所レ廬。由而入者。觸レ昏霧一。扞二龍蛇一。束レ火以知二其物一。縻レ縄以志二其返一。其勤若レ是。出又不レ得二吾直一。吾用レ是安得レ不レ以レ盡告。今令人而乃誠。吾告故也。何祥之爲』第二小段言二今刺史反レ之。

今令人云云、今ハ人ニ命令シテ信實ナルカ故ニ、吾モ亦誠實ニ告ゲルナリ。

謠者之云云、謠フ者ノ謂フ祥、卽チ土石蒙烈ノ如キハ反ツテ怪ナリ、笑フ者ノ祥ニアラザル所コソ反ツテ眞ノ祥ナレ、君子ノ祥トスル所ハ政治ニ在ツテ怪ニアラズ。

此文ハ高明觀游ノ具アルハ、政ニ益アルヲ述ベ、三亭ノ地ノ美ヲ敘シ來リ、薛存義ノ治績ヲ擧ゲ、薛ノ此亭ヲ作ルモ、爲政ノ具ナリト言フナリ。

邑之有——邑里ニ游覽場アルハ、政ヲ爲スニ宜シカラズト云フ者アド、左イフ理ハナキ筈ナリ。

高明之具ハ眺望ヤ樓臺ヲ云フ。

汨洳汚塗ハ泥地。

故告實。○以上第二大段疑難。

吾聞之曰。謠者之祥也。乃其所爲怪者也。笑者之非祥也。乃其所謂眞祥者也。君子之祥也。以政不以怪。」二句一篇主意。○第一小段言君子之祥。

誠乎物。而信乎道。人樂用命。熙熙然以效其有。斯其爲政也。而獨非祥也歟。』第二小段解政。○以上第三大段斷案。

## 零陵三亭記

主意　論高明游息之道。○論中敍事。是變體。

邑之有觀游。或者以爲非政。是大不然」。第一小段排或者說。夫氣煩則慮亂。視壅則志滯。君子必有游息之物。高明之具。」二句是主意。使之淸寧平夷。恆若有餘。然後理達而事成』。第二小段揭主意。○以上第一大段論觀游爲政之具。零陵縣東有山麓。泉出石中。汨洳汚塗。羣畜食焉。牆藩

以蔽之。爲縣者積數十人。莫知發視。」第一小段敍零陵山水久莫發視。河東薛存義以吏能聞荊楚間。潭部擧之。假湘源令。會零陵政尨賦擾。民訟於牧。推能濟弊。來蒞茲邑。遁逃復還。愁痛笑歌。逋租匿役。期月辨理。宿蠹藏奸。披露首服。民既卒稅。相與歡歸道途。迎賀里閭。門不施胥吏之席。耳不聞鼛鼓之召。雞豚糗酺。得及宗族。州睦尙焉。旁邑倣焉。然而未嘗以劇自撓。山水鳥魚之樂。澹然自若也。」第二小段敍薛公治績。乃發牆藩。驅羣畜。決疏沮洳。搜剔山麓。萬石如林。積坳爲池。爰有嘉木美卉。垂水褭峰。瓏瓏蕭條。清風自生。翠煙自雷。不植而遂。魚樂廣閑。鳥慕靜深。別孕巢穴。沉浮嘯萃。不蓄而富。伐木墜江。流於邑門。陶土以埴。亦在署側。人無勞力。土得以利。」第三小段敍發視。乃作三亭。陟降

潭部トハ湖南觀察使ヲイフ。
政形賦擾ハ政治亂レ、賦稅律ヲ失フコト。
來蒞茲——薛ノ來ツテ令トナリシヨリ、逃亡セシモノハ歸リ、愁ヘ悲ムモノハ喜ビ歌ヒ、又租稅ヲ納メヌ者ヤ、勞役ヲ避ケタル者ナドノ整理ガ、一周年ノ内ニ完成セリ。
宿蠹ハ贓吏ノ久シク職ニ居ルモノ。
首服ハ自首服罪ナリ。
鼛ハ大鼓ナリ、周禮以ニ鼛鼓一役事一トアルハ役ヲ促スナリ。
雞豚糗酺——雞、豚、熬米、醞酒等ノ馳走モ、親戚ニ及ブヲ得タリ。
州睦ハ州牧ナリ。
坳ハ窪ミタル地ナリ。
卉ハ草ノ總名。
瓏瓏ハ玉ノ聲、垂水ノ音ヲ形容ス、揚子法言ニ見ユ。
別孕ハ魚ノコト、魚ハ雄ニ別レテ、子ヲ孕ム

モノ故ニイフ。巣穴トハ鳥ノ事ナリ、鳥ハ巣中ニ入ツテ卵ヲ成育スル故ニイフ。沈浮嘯萃云云、魚ハ沈浮シ、鳥ハ嘯萃ス、嘯萃ハ鳴キ集ルナリ。陶土以埴ハ黏土ヲ以テ陶器ヲ爲ルナリ。更衣膳——衣更ノ間ヨリ料理場マデ、萬事整ヒテ、來客ハ酒盛ヲナシ、旅人ハ館舍トス。裨諶ハ鄭ノ大夫ナリ、左傳襄十一年ニ、裨諶能ク謀ル、野ニ謀レバ則獲、邑ニ謀レバ則チ否ラズトアリ、是レ裨諶ノ性質靜カナル所ニテハヨキ考ガ出デ、喧シキ所ニテハ名案出デズ、其才性ノ偏ナルヲ云フ。宓子字ハ子賤、單父ノ宰タリ、琴ヲ鳴シ、堂ヲ下ラズシテ單父治レリト呂氏春秋ニ見ユ。以玩替政ハ、觀游ヲ玩ンデ政ヲ顧ザルナリ。以荒去理ハ、荒忘シテ治ヲ廢スルナリ。

晦明。高者冠山顚。下者俯清池。更衣膳饗。列置備具。賓以燕好。旅以館舍。高明游息之道。具於是邑。二句收主意。由薛爲首』。四小段敍觀游。○以上第二大段記零陵觀游。在昔裨諶謀野而獲。宓子彈琴而理。亂慮滯志。無所容入。則夫觀游者。果爲政之具歟。薛之志其果出於是歟」。第一小段論觀游爲政之具。及其弊也。則以玩替政。以荒去理。使繼是者。咸有薛之志。則邑民之福。其可既乎」。第二小段論防弊。余愛其始。而欲久其道。乃撰其事。以書於石。薛拜曰。吾志也。遂刻之』。第三小段敍作記書石。○以上第三大段總收是論。

## 永州龍興寺東邱記

主意　言保存東邱與趣。使龍興寺兼有與曠二景故與主曠客。

游之適大率有二。曠如也。奥如也。如斯而已」第一小段略論。其地之凌阻峭。出幽鬱。寥廓悠長。則於曠宜。抵邱垤。伏灌莽。迫遽廻合。則於奥宜。因其曠。雖增以崇臺延閣。廻環日星。臨瞰風雨。不可病其敞也。因其奥。雖增以茂樹叢石。穹若洞谷。蓊若林麓。不可病其邃也』第二小段詳論。○以上第一大段論曠奥兩宜。今所謂東邱者。奥之宜者也。其始龕之外棄地。今得而合焉。以屬於堂之北垂。凡拗窪坻岸之狀。無廢其故。屏以蜜竹。聯以曲梁。桂檜松杉楩柟之植。幾三百本。嘉卉美石。又經緯之。俛入綠縈。幽蔭薈蔚。步武錯迕。不知所出。溫風不爍。清風自至。水亭陋室。曲有奥趣。然而至焉者。往往以遂爲病』。以上第二大段記東邱奥趣。○此段專敍奥。是主客之辨。噫龍興永之佳寺也。登高殿可以望南極。闢大門可以瞰湘流。若是其

曠如ハ眺ノ曠キコト。奥如ハ幽ニシテ奥深キコト、邃奥ナルコト。阻峭ハ嶮シクシテ峙ツコト。寥廓ハ開豁ナルコト。悠ヒハ遙ニ遠ナキコト。邱垤ハ地ノ高キ所。灌莽ハ叢木宿草ナリ。迫遽ハ急迫ニシテ餘裕ナキコト、廻合ハ回リ曲ルナリ。穹如洞——穹隆タルコト洞谷ノ如ク、蓊鬱タルコト麓ノ如ク、何程蔽ヒ茂リタリトテ、其幽邃ノ瑕ニナルコトナシ。龕ハ塔下ノ室ナリ。垂陲ナリ邊ナリ。坻ハ水中ノ高地ナリ。曲梁ハ曲折シタル橋。楩ハくぬぎ柟ハ楠。俛入綠云云、俛シテ、草木茂リタル中ニ分ケ入レバ、樹影晝モ暗クシテ道ニ蹈迷ヒ、出口モ分ラヌ程ナリ、綠縈ハ草木香シキナリ、薈蔚ハ草木盛ノ貌、武ハ迹ナリ迕ハ過ナリ。陋室ハ狭キ部屋。

邱之幽——邱ノ幽幽ト靜ナルハ休息スルニ宜シク、邱ノ窅窅ト深キハ妙理ヲ觀ルニ宜シク、蒸シ暑キ溽暑モ何地ヘカ消エ去ル。太和トハ陰陽中和ノ氣チイフ。

召公名ハ奭、周公ト同ジク成王ヲ輔ク、召公ノ南國ヲ敎化スルヤ、國人其ノ德ヲ慕ヒ、公ノ曾テ舍リシ甘棠ヲ惜ミテ、剪ラザリシト。

窅谷ハウツロナル谷。

醜ハ平ナラザル貌。

輦ハ運途スルチイフ。

逸ハ安逸ナリ。

全其天ハ天然ノママチ存スルナリ。

噴也。而於是小邱。又將披而攘之。則吾所謂游有一者。無乃闕焉而喪其地之宜乎」。第一小段論噴奥不宜邱之幽幽。可以處休。邱之窅窅。可以觀妙。溽暑遁去。茲邱之下。太和不遷。茲邱之巔。奥乎茲邱。孰從我游。余無召公之德。懼剪伐之及也。故書以祈後君子』。第二小段欲存奥趣。用韻語。餘韻悠然。○以上第三大段論保存東邱奥趣。與寺中噴觀並存。是吾所願。

缺其一。應第一大段。

## 永州新堂記

主意　言新堂之築逸其人。因其地全其天。

將爲窮谷嵁巖淵池於郊邑之中。則必輦山石。溝溯壑。凌絕險阻。疲極人力。乃可以有爲也。然而求天作地生之狀。咸無得焉。逸其人。因其地。全其天」。三句一篇綱領。因其地三字。綱領中綱領。昔之所難。今於

昔之所――昔難キコトヲセシニ、今反リテソレガ出來タリ。
九嶷ハ山ノ名、零陵ニアリ。
翳於奥草トハ深キ草ノ中ニカクルルコト。
虵虺ノ虵ハ蛇ト同ジ、虺ハ毒蟲、蛇ニ似テ小ナリ。
嘉葩ハ好キ花。
理ハ政治ナリ。
邱如トハ高キコト邱ノ如キヲ云フ。
鑿之瀏如ハ、塗ヲ清ク洗ヒ去リタルコト、瀏トハ水ノ深ク清キ貌。
醯ハ濁水ヲ疏シテ清クスルナリ。
奇勢迭出――サマザマノ奇形ガ迭ニ顯ハレ、泉ノ清濁ハ質ヲ分チ、草ノ美惡ハ位ヲ異ニシ、其樹木ヲ見レバ何レモ清ク秀デ、枝ヲ舒ベ葉ヲ敷キタルアリ。
蓄ハ蓄水ナリ。
溶漾ハ水搖動スル貌。
紆餘ハ縈曲ノ貌、メグリウネルコト。
遖邃ハ回遠ノ貌、穴ノウネリテ奥深キナリ。
邇延野綠ハ近クハ野邊

永州實惟九嶷之麓。其始度レ土者。是乎在。』以上第一大段論築亭園大意。伏末段政事。環山爲レ城。有レ石焉翳於奥草。有レ泉焉伏於土塗。虵虺之所レ蟠。狸鼠之所レ游。茂樹惡木。嘉葩毒卉。亂雜而爭植。號爲レ穢墟。』第一小段記舊穢。

韋公之來既逾月。理甚無レ事。望其地且異之。始命芟其蕪。行其塗。積レ之邱如。鑿レ之瀏如。既焚既釃。奇勢迭出。清濁辨質。美惡異レ位。視其植。則清秀敷舒。視其蓄。則溶漾紆餘。怪石森然。周於四隅。或列或跪。或立或仆。竅穴透邃。堆阜突怒。』第二小段記新開。

乃作棟宇。以爲觀游。凡其物類。無不レ合レ形。輔レ勢。效伎於堂廡之下。外之連山高原。林麓之崖。閒廁隱顯。邇延野綠。遠混天碧。咸會於譙門之內。』第二小段記作レ堂。〇以上第二大段記景勝。已乃延レ客入觀。繼以宴娛。或贊且賀曰。見公之作。知公之志。二句虛。公之因

ノ緑ト連ルナリ。譙門トハ門上ノ高樓ナリ。

二千石ハ州ノ刺史ナイフ。楷法ノ楷ハ式ナリ、法ナリ。

此文紀スル所ハ、凡ソ名地ヲ知ル者ハ、天下ヲ徧行スルモノニアラズンバ能ハズ、裴公ノ城市闔閭ノ中ニ於テ、斯カル景勝ヲ得タルハ公ノ鑒識ニアラズンバ

土而得勝。豈不欲因俗以成化。二句實而綱。以下目。公之釋惡而取美。豈不欲除殘而佑仁。公之蠲濁而流清。豈不欲廢貪而立廉。公之居高以望遠。豈不欲家撫而戸曉。夫然則是堂也。豈獨草木土石。水泉之適歟。山原林麓之觀歟。將使繼公之理者。視其細。知其大也」第一小段推因土而得勝。到因俗以成化。宗元請志諸石。措諸壁。以爲二千石楷法。』第二小段言志石爲楷法。○以上第三大段推到政治結全篇。可從。室西北隅謂屋漏。編壁編二字。柳文作屋漏。

## 桂州訾家洲亭記

主意　言徧行天下者。始有知名地之鑑。

大凡以觀游名於代者。不過視於一方。其或傍達左右。則以

能ハザルナイフ。名於代ノ代ハ世ナリ、唐人太宗ノ諱ヲ避ケ、世ヲ代ニ作ル。驁ハ馳スルナリ。陵ハ躐ユルナリ。洄ハ流ニ溯ルナリ。四出ハ四望ナイフ。徧行ハ徧歴スルナイフ。發地峭堅ハ、地上ニ突起スル山ノ險峭ニシテ、崩壊シ難キナイフ。嶠南トハ嶺南ナイフ、越人山ノ鋭ニシテ高キヲ謂ツテ嶠ト曰フ。元和ハ憲宗ノ年號。盜遁姦革ハ、盜賊皆遁避シ、姦曲ハ悉ク革ルナリ。淮夷トハ淮西ノ吳元濟ノコト。河朔トハ魏博ノ田興ノコト。觀望攸——眺望勝レタル前方ニ當ツテ、人家ノ之ガ防害ヲナスアルヲ遺憾トシ、居民（居甿）ニ十分ノ價ヲ與ヘ、空地（閒壤）ニ移ラシメタリ。

爲特異。」第一小段論視。一方者。是客。至若不驚遠。不陵危。環山洄江。四出如一。夸奇競秀。咸不相讓。徧行天下者。唯是得之。』第二小段論徧行。天下者。是主。○以上第一大段揭主意。桂州多靈山。發地峭堅。林立四野。署之左曰灘水。水之中曰訾氏之洲。凡嶠南之山川。達於海上。於是畢出而古今莫能知。第一小段言桂州。靈山。古今莫能知。元和十二年。御史中丞裴公。來蒞茲邦。都督二十七州諸軍州事。盜遁姦革。德惠敷施。期年政成。而當天子平淮夷。定河朔。告於諸侯。公既施慶於下。乃合僚吏。登茲以嬉。觀望攸長。悼前之遺。於是厚貨居甿。移於閒壤。伐惡木。剃奥草。前指後畫。心舒目行。忽焉若飄浮上騰。以臨雲氣。萬山面內。重江束隘。聯嵐含輝。施視具宜。常所未覩。倏然互見。以爲飛舞奔走。與遊者偕來。」第二小段記裴公始知此地。乃經工庀

前指後畫ハ前後ニ指揮スルナリ。
心舒目行トハ、心悠悠トシテ目前遙カナルヲイフ。
施視具宜ハ、四方ヲ觀ルニ何レモ宜シキ景色ナルヲイフ。
倏然ハ忽然ナリ。
經工庀云云ハ、工事ヲ起シ、材木ヲ備ヘ、極星ヲ考ヘ、方位ヲ相スルナリ。
延宇ハ長ク出デタル簷端ナリ。
垂阿ハあづまやナリ、垂ハ簷ノ四方ニ垂ルルヲイフ。
步簷ノ簷ハ欄ト同ジ、步行スベキ長廊下ナリ。
更衣ハ休息シ、衣ヲ易フル處。
灘山ハ桂林府ノ山名。
龍宮ハ桂林府龍隱洞ヲ指スナラント蔣本ニ見ユ。
扶桑ハ東夷ノ地名。
蒼梧ハ梧州ノ山名。
月檻ハ觀月檻ヲイフ。
風櫪ハ露臺ヲイフ。
顥氣ハ大虛ノ氣ナリ。
安期羨門ハ皆古ノ仙人。

材ヲ考ヘ極メ相テ方ヲ南ニ爲ル燕亭ヲ。延宇垂阿。步簷更衣。周ツテ若シ一舍ノ北ニ有リ崇軒ニ。以テ臨メリ千里ニ。左ニ浮ベ飛閣ヲ。右ニ列ネ閒館ヲ。比ベテ舟ヲ爲シ梁ト。與レ波昇降ス苞ニ灘山ヲ。含ム龍宮ヲ。昔之所レ大トセシヘテリ。蓄在ニ亭內ニ。日出デ扶桑ニ。雲飛ブ蒼梧ニ。海霞島霧。來リ助ク游物ヲ。其隙ニハ則抗グ月檻ヲ。於テ廻溪ニ。出ス風樹ヲ。於テ篁中ニ。晝ハ極メ其美ヲ。又益ス以テ夜ヲ。列星下布シ。顥氣廻合ス。邈然タル萬變。若シ與ト安期羨門ニ。接スルガ於テ物外ニ。則チ凡ソ名アル觀游ニ。於テ天下ニ者。有ラン不ヤ屈伏退讓シテ。以テ推シ高キヲ是ノ亭ニ者ヲ乎』。第三小段記レ築レ亭。○以上第二大段敍ヤ下ニ古今無レ知ニ此地ニ而裴公始知ニ此地ニ築ヤ亭。既ニ成ツテ以テ燕シ。歡極ツテ而賀ス。成ナ曰ク。昔之遺ス勝概ヲ者。必ズ於テ深山窮谷ニ。人罕ニシテ能ク至ルコト。而好レ事ヲ者。後ニ得テ以テ爲ス己ガ功ト。未ダ有ラ直ニ治城ニ。挾ミ闤闠ヲ。車輿步騎。朝ニ過ギリ夕ニ視テ。訖ヘテ千百年ヲ。莫ク或ハ異ニ顧スルコト。一旦得レ之ヲ。遂ニ出デ於他邦ニ。雖ニ博物辯口ト。莫キ能ク擧ニ其上ヲ者ヲ。然ラバ則チ人之心目。其レ果シテ有ルカ遼絕特殊ニシテ。而不レ可カラル至ル者ヲ耶」。第一

小段言不驚レ遠。不レ陵危。得之城市中。蓋非桂山之靈。不レ足レ以瓌觀。非是洲之曠。不レ足レ以極視。非公之鑒。不レ能レ以獨得。噫造物者之設レ是久矣。而盡レ之於今。余其可レ以無レ籍乎』。第二小段稱公之鑒識。○非公二句歸宿。○以上第三大段借賀客言。稱公之鑒識。收主意。

## 游黃溪記

主意　言天下山水。永最善。永山水。黃溪最善。

北之晉。西適レ幽。東極レ吳。南至楚越之交。其閒名山水而州者。以レ百數。永最善」。第一小段敍天下山水。永最善。環永之治百里。北至於浯溪。西至於湘之源。南至於瀧泉。東至於黃溪東屯。其閒名山水而村者。以レ百數。黃溪最善』。段記州村大概。揭主意。主意在黃溪最善一句。黃溪拒州治七十里。由東屯而行六百步。至黃神祠。祠之上。兩

游黃溪ヨリ以下、小石城山ニ至ルマデ、記凡九首、皆永州山水ノ勝チ記シ、次第ニ應ジテ作ルナリ、是レ其首篇ニシテ、天下數百州中、永州ノ山水最善ク、永ノ山水中、黃溪最善シト述ベ、黃神チ敍シテ、名ノ起ル所以チ記ス。

圜闉ハ市町ノコト、市牆チ圜ト曰ヒ、市門チ闉ト曰フ。

未有直——治城市闉ノ閒ニ在ツテ、朝夕車輿歩騎ノ者ガ過ギリ望ミテ、コレマデ千百年ノ永キ閒、別ニ惟シミ顧ミシコトナキニ、公カ之チ見出シタルニ因リ、遂ニ他邦ノ上ニ拔ケ出デ、博物辯舌ノ者モ爭フ能ハザル此靈境チ得タル者ハ未ダ有ラザルベシ。瓌觀ハ大ナル見物ト云フ義。

揭水トハ裳ヲ揭ゲテ水ヲ渉ルコト。

卽ハ充ツルナリ、蔣本積ニ作ル。

黛蓄膏渟トハ深潭ノ樣ヲ形容スルナリ、止水ノ眞青油ノ如クニヨドミタルコトヲイフ、渟ハ止水ナリ。

來如白虹ハ、流レ來ル川ハ白キ虹ノ如シトイフナリ。

頰ハ頤下ナリ。

齦ハ齒根肉ナリ。

離列ハ連立スルナリ。

黃神ハ漢書王莽傳ニ、莽自ラ黃虞ノ後ナリト謂フ、嬀陳田三氏凡ソ五姓、皆黃虞ノ苗裔ナリ、故ニ天下ニ令シテ、此五姓名籍ヲ秩ノ宗室ニ尙ヘシムトアリ、黃神王姓ハ蓋シ此ニ取ルナリ。

世ハ世嗣ナリ。

深峭者トハ山ノ深ク峻

山牆立。丹碧之。丹上加如字得レ之。丹碧字承レ牆來。其實華葉。非二眞丹碧一。華葉駢植。與レ山升降。其缺者爲二崖峭巖窟一。水之中。皆小石平布。黃神之上。揭レ水八十步。至二初潭一。最奇麗。殆不レ可レ狀。其略若レ剖二大甕一。側立千尺。溪水卽焉。黛蓄膏渟。來若二白虹一。上句謂レ潭。下一句狀二甕中水一。沉沉無レ聲。有二魚數百尾一。方二來會一石下。南去又行百步。至二第二潭一。石皆巍然臨二峻流一。若二頰頷一。斷齶。其下大石離列。可二坐飲食一。有レ鳥赤首烏翼。大如レ鵠。方二東嚮立一。自レ是又南數里。地皆一狀。樹益壯。石益瘦。水鳴皆鏘然。又南一里。至二大冥之川一。山舒水緩。有二土田一。始黃神爲レ人時。居二其地一。以上第二大段傳者曰。黃神王姓。莽之世也。莽既死神更二號黃氏一。逃來擇二其深峭者一潛焉。」記傳者言。第一小段始莽嘗曰。余黃虞之後也。故號二其女一曰二黃皇室主一。黃與レ王聲相邇。而又有レ本。其

所以傳言者益驗神既居是民咸安焉以爲有道死乃俎豆之爲立祠後稍徙近乎民今祠在山陰溪水上』○第二小段柳斷之。○本指始葬二句。○以上第三大段記黃神。元和八年五月十六日既歸爲記以啓後之好游者』最善故啓。○以上第四大段記所以作記。

唐宋八家文讀本卷八終

シキ處チイフ。
黃虞トハ黃帝ト有虞氏トナリ。
俎豆之トハ、之ヲ禮シテ主トスルチイフ。
啓ハ案内スルコト。

# 唐宋八家文讀本卷九

## 始得西山宴游記

主意　在始得二字。故始字眼目。○凡游記不善敍景則無色。不善敍情則無味。有味有色。柳之獨擅。

自余爲僇人居是州。恆惴惴。其隟也。則施施而行。漫漫而游。日與其徒。上高山。入深林。窮回溪。幽泉怪石。無遠不到。」第一小段敍游。到則披草而坐。傾壺而醉。醉則更相枕以臥。意有所極。夢亦同趣。覺而起。起而歸。以爲凡是州之山。有異態者。皆我有也。而未始知西山之怪特。第二小段敍樂。○以上第一大段敍游。探以忘僇『辱』爲一篇前序。又八記前序。段末一句起下段。今年九月二十八日。因坐法華西亭。望西山。始指異之。遂命僕過湘江。緣染溪斫榛莽。焚茅茨。窮山之高而止。攀援而登。箕踞而遨。則凡數

此篇ハ始テ西山ヲ得テ宴游セシ歡樂ヲ記ス、永州ニ謫セラレシヨリ、常ニ謹愼事ニ從ヒシカ、時ニ閑ヲ得テ山水ヲ觀游シ、始テ西山ノ勝地ヲ得テ之ニ游ビ、歸ル心モナク、心凝リ形釋ケ、萬化ト冥合スル底ノ眞游ヲ爲セルコトヲ記ス。

西山ハ永州府城ノ西、瀟江ノ滸ニアリ。僇人ハ罪人、僇ハ戮ト同ジ。

惴惴ハ恐ルル貌。

隟ハ隙ニ同ジ、閒暇也。

施施ハ徐行ノ貌。

漫漫ハ閑游ノ貌。

回溪ハ迂回セル溪。

意所極——終日游覽シテ心ニ充分滿足シテ睡リシコトナレバ、夢ニ見ル所モ起キテ居ルトキト同趣味ノ快樂ヲ生ズ、サテ睡覺メテ起キ而シテ歸ル、斯ク凡テ此永州ノ山水中他ニ優レタル勝地ハ皆我專有ノ觀游地ナリト思ヒタ

州之土壤。皆在祇席之下。其高下之勢。岈然洼然。若垤若穴。尺寸千里。攢蹙累積。莫得遯隱。縈青繚白。外與天際。四望如一。然後知是山之特出。不與培塿爲類。」第一小段記景。悠悠乎與灝氣俱而莫得其涯。洋洋乎與造物者游。而不知其所窮。引觴滿酌。頹然就醉。不知日之入。蒼然暮色。自遠而至。無所見。而猶不欲歸。心凝形釋。與萬化冥合。然後知吾鄉之未始游。游於是乎始。故爲之文以志。是歲元和四年也。』二大段記始得西山之樂。

## 鈷鉧潭記

主意　言樂此潭而忘故土。○樂字字眼。

鈷鉧潭在西山西。其始蓋冉水自南奔注。抵山石。屈折東流。其

り、而ルニ此西山ノ如キ奇怪絶特ノ勝境アルコトハ、始メヨリ知ラザリキ。

法華ハ寺ノ名、子厚ハ晉テ法華寺新作西亭記アリ、前ニ出ヅ。

莾ハ草葉盛ナル貌、榛莽ハやぶナリ。

箕踞トハ両足ヲ伸ベテ坐ス、其形箕ニ似タルナイフ、漢書ノ注ニ見ユ。

皆在祇云云ハ、箕踞シタル席ノ下ニ一目ニ見ユルナイフ。

岈然ハ山高キ貌。洼然ハ水低キ貌。

尺寸千里ハ廣キ風景ヲ僅カ尺寸ノ内ニ縮メ、所所ノモノハ一所ニ集リ重リテ、眺望ニ入リテ隠ルルモノナシ、

山ハ青ヲ繚ヒ水ハ白ヲ繚ラシ、遙ニ天ト接續シテ、四方皆一ノ如シ。

培塿ハ小山ナリ。

悠悠乎——眺望悠悠ト遙ニ、秋空ノ大氣ト同ジク際涯ナク、心モ爲ニ洋洋浩蕩ト廣マリ、彼造物者ト游ンデ其窮ル所ヲ知ラズ。

心凝形釋——如上ノ如キ仙游ニ心ヲ凝シタレバ

此形體ヲ打忘レ、知ラズ識ラズ造化ト暗合スルヲ覺ユ、是ニ於テ知ル、從來ノ觀游ハ游トハ云フベカラズ、此西山ノ游コレ眞游ナレバ、吾游ハ此度ヨリ始マルコトヲ。

鈷鉧潭ハ潭ノ形ひのしニ似タルユエ名ク。此文ハ潭ノ勝ヲ敘シ、余ノ故鄉ヲ忘レ、僻遠ノ地ニ居ルヲ樂ムモ、コノ潭ノ爲ナリト其美ヲ賞セリ。

典委勢峻。盪擊益暴齧其涯。故旁廣而中深。畢至石乃止。流沫成輪。然後徐行。其淸而平者。且十畝。有樹環焉。有泉懸焉。』以上第一大段記景。其上有居者。以予之亟游也。一旦款門來告曰。不勝官租私券之委積。既芟山而更居。願以潭上田。貿財以緩禍。」敘人禍。○實際如聞。予樂而如其言。則崇其臺。延其檻。行其泉於高者。墜之潭。有聲淙然。尤與中秋觀月爲宜。於以見天之高。氣之迴。孰使予樂居夷而忘故土者。非玆潭也歟。』上第二大段敘事與情。第二小段敘己樂。○以

## 鈷鉧潭西小邱記

主意　賀玆邱之遭。弔己之不遭。

得西山後八日。尋山口西北道二百步。又得鈷鉧潭西二十五

シク、其時ニハ金天高ク晴レ、秋氣遙ニ澄ムヲ見ル。

孰使予――誰カ予ヲシテ故郷ヲ忘レ、斯ク永州ノ如キ蠻地ニ在ルヲ樂マシムル者ゾ、コノ潭ニアラズシテ誰ゾ。

此文ハ世ニ棄テラレタル小邱ノ發見セラレシヲ喜ビテ、自己ノ感慨ヲ記セリ。

魚梁ハ魚ヲ捕フルやなナリ。

突怒ハ突出スルコト、偃蹇ハ傲リ高ブルコト、此句ハ石ノ高ク突出シタル貌ナイフ。

嶄然ハ峙ツ貌。

不能一畝ハ一畝ニ足ラザルヲ云フ。

可以籠而有之ハ籠ニ入レテ所有スベキナリ。

貨而未售ハ賣物ナレド未ダ賣レザルナリ。

剉ハ刻ト同ジク、平ゲルナリ。

熙熙然ハ和樂ノ貌。

廻巧獻伎ハ、鳥魚獸ナトガ飛ビ泳ギ走リ戲ルル樣ノ巧妙ナルコト。

清冷之――其水ノ清ク冷カナルコトハ見ルニ宜シク、水ノ流ルル音

步當湍而浚者爲魚梁。梁之上有邱焉。生竹樹。其石之突怒偃蹇。負土而出。爭爲奇狀者。殆不可數。其嶔然相累而下者。若牛馬之飲於溪。其衝然角列而上者。若熊羆之登於山。邱之小不能一畝。可以籠而有之。』以上第一大段敍景。問其主。曰唐氏之棄地。貨而不售。問其價。曰止四百。余憐之。而售之。李深源。元克己。時同遊。皆大喜。出自意外。卽更取器用。剉刈穢草。伐去惡木。烈火而焚之。嘉木立。美竹露。奇石顯。第一小段記得之。由其中以望。則山之高。雲之浮。溪之流。鳥獸魚之遨遊。擧熙熙然迴巧獻伎。以效茲邱之下。第二小段記得後之望。枕席而臥。則清泠之狀與目謀。謀猶交。潛潛之聲與耳謀。悠然而虛者與神謀。淵然而靜者與心謀。不匝旬而得異地者二。雖古好事之士。或未能至焉。』第三小段記得後之興。○以上第二大段敍事。噫以茲邱之勝。

ハ聽クニ適ヒ、空ノ悠然ト晴レ渡リタル所ハ、精神チ清ラカナラシメ、潭ノ深ク靜ナルモノハ、心氣チ爽ナラシム。

匝旬ハ十日。

澧鎬ハ共ニ水ノ名、鄠杜ハ共ニ地名、結局唐ノ都長安ノ地邊チ云フ。

貴游之士トハ、王侯貴人ノ子弟ニシテ官職ナキモノヲイフ。

買ハ價ト同ジ。

遭トハ、時ニ遭ヒ人ニ用ヒラルルチイフ。

篁ハ竹林ナリ。

佩環トハ貴人ノ帶ニ付ケル玉ナリ。

洌ハ清ナリ。

卷ハ拳ト通ズ。

坻嶼ハ共ニ小洲ナリ。

甚巖ハ共ニ山ノ平坦ナラザル貌。

蒙絡ハ蔦蔓ナドノカラミツクコト。

搖綴ハ枝葉ノ連リ綴リテ、搖キ定マラザルコト。

致之澧鎬鄠杜。則貴游之士。爭買者日增千金。而愈不可得。今棄是州也。農夫漁父過而陋之。賈四百。連歲不能售。而我與深源克己。獨喜得之。是其果有遭乎。有遭一篇主意。書於石。所以賀茲邱之遭也。』以上第三大段敍情。○所以賀邱之遭。卽所以弔遭。己之不遭。故含無限餘韻。○今棄句應上文憐。

## 至小邱西小石潭記

主意　言過清。○清洌與過清相應。

從小邱西行百二十步。隔篁竹聞水聲。如鳴佩環。心樂之。伐竹取道。下見小潭。水尤清洌。全石以爲底。近岸卷石。底以出。爲坻嶼。爲嵁巖。青樹翠蔓。蒙絡搖綴。參差披拂。」水石竹樹。第一小段記潭中魚可百許頭。皆若空遊無所依。日光下徹。影布石上。怡然不動。

參差トハ、樹ノ大小不揃ナルコト。
披拂トハ、枝葉動搖分開スルコト。
空遊トハ、水ノ澄メル故ニ斯ク形容スル也。
影布ハ魚ノ影ガ底ノ石ニ布クナリ。
怡然ハ樂ムノ貌。
俶爾ハ動ク貌、或ハ云フ倏爾カト、倏忽ノ義。
往來翕忽ハ、往來ノ速急ナルコト。
斗折トハ北斗七星ノ如ク屈曲スルヲイフ、蛇行トハ蛇ノ這フヤウニ曲リ行クコト、共ニ川ノ屈折スル狀ヲイフ。
犬牙差互ハ、岸ノ狀犬牙ノ如ク出入スルコトヲイフ。
寂寥無——サビシク人影モナク、人心チスゴカラシメ、人骨ヲ寒カラシメ、物スゴク奥深ク、餘リ清境過ギテ片時モ止ルコト協ハズ。隷而從ハ供ニナツテ從フコト。

此文ハ渴ノ地方ニ知ラレズシテ、反ツテ外來ノ謫客ニ知ラレタルヲ記シ、暗ニ才子ノ世ニ

俶爾遠逝。往來翕忽。似與遊者相樂。」第二小段記魚。潭西南而望。斗折蛇行。謂潭上流曲折之形。明滅可見。其岸勢犬牙差互。不可知。其源。」記潭上流。第三小段坐潭上。四面竹樹環合。寂寥無人。凄神寒骨。悄愴幽邃。以其境過清不可久居。乃記之而去。』以上第一大段記景。同遊者吳武陵、龔古。余弟宗玄。隷而從者崔氏二小生。曰恕己曰奉壹。』以上第二大段記同遊。

## 袁家渴記

主意　言永人不知。而吾獨得之。暗歎奇才難遇世。

由冉溪西南。水行十里。山水之可取者五。莫若鈷鉧潭。」第一小段客。由朝陽巖東南。水行至蕪江。可取者三。莫若袁家渴。皆永中幽麗奇處也。』第三

遣ヒ難キヲ慨スル也。
水行ハ船行ノコト。
幽麗ハ幽邃ニテ清麗ナル處ナリ。
南館ハ山ノ名。
楩ハ楩楠、共ニくすノ一種。
閒厠ハ交リテ入合フコト。
峻者沸白ハ急湍ノ白波チ沸スナリ。
舟行云云ハ江水ノ曲折チ狀スルナリ。
楓ハかへで。楩ハ楠、石楠ハしゃくなぎ、儲ハかし、樟ハくす、柚ハゆず、合歡ハねむの木。
轇轕ハおひかぶさるコト。
掩苒ハ風ノ草木チ吹キ動カスコト。
紛紅駭綠ハ紅花綠草ノ風ニ飛亂動搖スルチイフ。
蓊勃ハ草茂ル貌。
瀨ハ水沙上ニ流ルルモノチイフ。
芷蘅ハ草木ノ華盛ナル貌。
與時推移トハ、時ト推移リ、其風色四時各〻同ジカラザルチイフ。

小段主。○以上第一大段總敍永景。伏後段永人。楚越之閒方言。謂水之反流者爲渴。音若衣褐之褐。」釋渴義。第一小段渴上與南館高嶂合。下與百家瀨合。其中重洲小溪。澄潭淺渚。閒厠曲折。平者深黑。峻者沸白。舟行若窮」始點窮字。與下文窮相呼應。忽又無際。」第二小段記水。有小山出水中。山皆美石。上生青叢。冬夏常蔚然。其旁多巖洞。其下多白礫。」第三小段記山。其樹多楓柟石楠樧櫧樟柚。草則蘭芷。又有異卉。類合歡而蔓生。轇轕水石。」小段記樹草。每風自四山而下。振動大木。掩苒衆草。紛紅駭綠。蓊勃香氣。衝濤旋瀨。退貯谿谷。搖颺蔵薈。」段記風。與時推移。言渴中景與時推移。時謂風雨朝夕。不必四時。其大都如此。余無以窮其狀。』第六小段結前五小段。○以上第二大段記渴。永之人未嘗遊焉。余得之。不敢專也。出而傳於世。」第一小段主意。其地世主袁氏。故以名焉。』第二小段補渴名。○以上第三大段敍所以作記。

# 石渠記

主意　惜未レ有二傳者一。與二前記一同歎。○石渠主。而石泓石潭附記。

自レ潟西南行不レ能レ百レ歩得二石渠一。民橋二其上一。有レ泉幽幽然。其鳴乍大乍細。渠之廣或咫尺。或倍尺。其長可二十許歩一。其流抵二大石一。伏出二其下一。」記二石渠一。第一小段　踰レ石而往。有二石泓一。菖蒲被レ之。青鮮環周。又折西行。旁陷二巖石下一。北墮二小潭一。」記二石泓一。第二小段　潭幅員減二百歩一。清深多二鯈魚一。又北曲行。紆餘。睨若レ無レ窮。然卒入二於潟一。」記二石潭一。第三小段　其側皆詭石怪木。奇卉美箭。可二列坐一而庥レ焉。」記二木石一。第四小段　風搖二其巔一。韻動二崖谷一。視レ之既靜。其聽始遠。』上第一大段敍景。第五小段記レ風。○以　予從二州牧一得レ之。攬去二翳朽一。決二疏土石一。既崇而焚。既醲而盈。」記二修治一。第一小段　惜其未レ始有二傳焉者一。故累記

此文亦前ト同ジク勝境ノ世ニ傳ハラザルヲ慨スルナリ。

渠ハみぞナリ。

咫ハ八寸ナリ。

泓ハ水ノ深キ處ナリ。

青鮮ハ青苔ナリ。

鯈魚ハ一種ノ小魚、和名はえ。

紆ハ曲ルナリ。

餘ハ曲リ繞ルナリ。

睨ハ邪視ナリ。

庥ハ木陰ニ休ムコト。

風搖其ニ——風ノ木末ヲ搖カストキハ、其韻響崖谷ヲ震フ勢ナルガ、觀テ居ル中ニ之ガ靜マレバ、其聲モ始テ遠クニ去ル。

翳ハ木自ラ死スルヲイフ、即チ立チ枯。

決疏ハほりさらふ也。

崇ハ集ナリ。醽ハ水ノ流ヲ分ツコトナリ。

屬ハ矚ニ通ズ、視ル也。其人ハ土地ノ人ナリ。陽ハ水流ノ北方。鐲ハきよめさらふ也。

此文モ亦前ト同意也、渴ト渠ト今此澗ト、三篇一ノ窮字ヲ以テ線絡トス、順次アリ、次第アリ、讀ム者意ヲ此ニ注グベシ。

亘石爲底ハ底ニ石ヲ布クナリ。

闔ハ門限ナリ、奥ハ堂奥ナリ。

揭跣ハ裳ヲ揭ゲテ、徒渉スルナリ。

掃陳葉——水底ノ枯葉腐木ドモヲ掃ヒ除クレバ、底石ニ十八九ノ椅子ヲ竝べ得ベシ。

交絡ハ交リ繞ルナリ。觸激之音ハ水ノ觸レ合

其所屬遺之其人書之其陽俾後好事者求之得以易』主意。○以上第二大段記元和七年。八記中再揭元和。彼四年。此七年。正月八日鐲渠至大石。十月十九日。踰石得石泓小潭。渠之美於是始窮也。』以上第三大段記年月。總括全篇。

## 石澗記

主意　言前後人之樂不可知。今日唯我一人樂之。無限感慨。

石渠之事既窮。上由橋西北。下土山之陰。民又橋焉。其水之大。倍石渠三之。亘石爲底。達于兩涯。若床若堂。若陳筵席。若限閾奥。水平布其上。流若織文。響若操琴。」記石澗。第一小段　揭跣而往。折竹掃陳葉。排腐木。可羅胡床十八九居之。交絡之流。觸激之音。皆在床下。翠羽之木。龍鱗之石。均蔭其上。』第二小段記遊觀。○以上第一大段記石澗景。古之人。

其有樂乎此耶。後之來者。有能追余之踐履耶』。以上第二大段感慨。得意之日。一本無意字。然則得意以下。屬下段似是。與石渠同。由渦而來者。先石渠後石澗。由百家瀨上而來者。先石澗後石渠」。第一小段記道路。澗之可窮者。皆出石城村東南。其間可樂者數焉。其上深山幽林。逾峭險。道狹不可窮也』。第二小段記澗上下。○以上第三大段記道路及澗上下。

ヒテ激スル音。
檗羽ハ翡翠（かはせみ）ノ羽。
古之人――昔ノ人モ、此地ニ來リテ此勝ヲ樂ミシカ、後ノ人モ、能ク余ノ遊觀セシ跡ヲ慕ヒテ、此處ニ遊ブモノアリヤ、覺束ナシ、余カ此ノ勝地ヲ探リ當テ得タル時ノ得意ハ、石渠ヲ探リシ時ト同ジ。

此文ハ石城ノ奇ヲ敘シ、此奇景ヨリ、造物者ノ有無ヲ疑ヒ、終ニ造物者カ斯カル勝地ヲ僻地ニ設ケタルハ、賢者ノ謫セラレタル者ヲ慰ムル爲ナラント、胸中ノ氣ヲ吐クナリ。

垠ハ限界ナリ。
埤睨ハ又堞堄ニ作ル城上ノ垣ナリ、ひめがき

## 小石城山記

主意　觀奇景之棄於僻地。歎己之類此。

自西山道口徑北。踰黃茅嶺而下。有二道。其一西出。尋之無所得。第一小段撇脫一路。其一少北而東。不過四十丈。土斷而川分。土斷川而川分。蓋川潛流積石下。故投石有聲。有積石。橫當其垠。其上爲埤睨梁欐之形。其旁出堡塢。

西山ノ道口ヨリ徑北ニ踰エテ黃茅嶺ニ而下レバ。有二道。其一ハ西出ス。尋ヌルニ之シ無所得ル。撇脫一路ニ。其一ハ少シク北シテ而東ス。不過ギ四十丈ニ。土斷ツテ而川分ル。土斷レ川而川分。蓋川潛流積石下ニ。故投レ石有レ聲。有積石。橫當レリ其垠ニ。其上ハ爲シ埤睨梁欐之形ヲ。其旁出ス堡塢ヲ。

トイフ、梁棟ハ屋棟。堡ハ小城、塢ハ小障、とりでノコト。激越ハ響ノハゲシク高キナリ。其疏數――其配置ノ或ハ疏ナルト密ナルト、又伏シタルト仰ギタルトノ狀ハ、如何ニモ智者ノ施設セシモノノ如シ。

售ハ用フル意ナリ。

以慰夫――造物者が此勝地ヲ作リタルハ、夫ノ賢人君子ノ斯ル僻陬ニ貶謫セラレテ、恥辱ヲ蒙ル者ヲ慰ムル爲ナリ（此句、千厚自ラ胸中ノ氣ヲ吐クナリ）。

此文柳州ノ州治ニ近クシテ、遊ブニ足ルベキ山水ヲ列擧シテ記述セリ。

有若門焉。窺之正黑。投以小石。洞然有水聲。其響之激越。良久乃已。環之可上。望甚遠。無土壤而生嘉樹美箭。益奇而堅。其疏數偃仰。類智者所施設也。』○以上第一大段敍景。噫吾疑造物者之有無久矣。及是愈以爲誠有。又怪其不爲之於中州。其不爲之於中州數句、借石自況。無限感慨。是一篇主意。而列是夷狄。更千百年不得一售。其伎。是固勞而無用。神者儻不宜如是。則其果無乎」。第一小段疑神之有無。或曰。以慰夫賢而辱於此者。或曰。其氣之靈。不爲偉人。而獨爲是物。故楚之南。少人而多石。柳亦無用之一片石耳。暗喩妙。是二者。余未信之』。第二小段敍二或說。決二神之無一。○以上第二大段論。

## 柳州山水近治可遊者記

主意　以二潯水一爲經。以他山水一爲緯。錯綜成レ文。故篇中五箇潯水相照應。經線一貫。沈叟云。不レ用二聯絡照應一。可レ謂二淺見一。

滙ハ水ノ廻合スルコトナリ。
嶄然ハ高峻ノ貌。

絶ハ渡ルナリ。
無虧トハ山勢屹立シテ傾斜ナキ故ニ、斯ク云ヒシナリ。
州治員トハ、州ノ官廳此山ヲ負フナリ。

古之州治在浯水南。山石間今徙在水北。直平四十里。南北東西皆水滙』。以上第一大段大綱。北有雙山夾道嶄然。曰背石山。有支川東流入於浯水。浯水因是北而東。盡大壁下。其壁曰龍壁。其下多秀石。可硯。南絕水有山。無虧。廣百尋。高五丈。下上若一。曰甑山。山之南皆大山。多奇。又南且西曰駕鶴山。壯聳環立。古州治負焉。有泉在坎下。常盈而不流。南有山。正方而崇。類屏者曰屏山。其西曰四姥山。皆獨立不倚。北流浯水瀨下』。以上第二大段列記背石山龍壁駕鶴山甑山屏山四姥山及東北流。又西曰仙奕之山。山之西可上。其上有穴。穴有屏。有室。有宇。其宇下有流石。成形如肺肝。如茄房。或積於下。如人如禽。如器物。甚衆。東西九十尺。南北少半。東登入小穴。常有四尺。則廓然甚大。無竅正黑。燭之高僅見其宇。皆流石怪狀。由屏南

流石ハ浮石ナリト。
茄房ハなすびナリト云フ。
常ハ十六尺。

北流云云ハ、北ハ浯水瀨トナリテ流ルトナリ。

無竅云云ハ、光線ヲ漏ス穴ナキ故ニ暗キナリ。

視其背ハ高キニ居テ飛ブ鳥ノ背ヲ見ルナリ、高キヲ形容スルナリ。石枰ハ天然石ノ碁盤ナリ。

樫ハかはやなぎナリ。櫧ハかしナリ。篔簹ハ竹ノ名、節間相去ル數尺ナルモノ。橪吾ハ和名つはぶき。秫歸ハほとぎす。多秫歸ハ山名ニアラズ、子規多キヲ以テ假ニ名ケシモノ、或ハ曰フ、在ハ衍文カ、然ラズンバ亦ノ誤ニテ秫歸多シ、又ハ亦秫歸多シト讀ムベシト。仙奕ハ山名。

洄ハ同水ナリ。石鯽ハふなナリ。鯈ハはえナリ。俎ハ豆薧、俎豆ハ食器ノ名、之ニ盛リタル魚ト豚ナリ。修ハ脯ナリ。糈ハ神ヲ祭ル米ナリ。稃ハ稻ナリ。酒陰ハ明水ノコト也、明水ハ神ニ奉ル清淨ナル水ナイフ。立魚トハ、立魚ノ形ニ似タル故ニ立魚山トイフナリ。

室中入小穴。倍常而上。始黑。已而大明爲上室。自上室而上。有穴。北出之。乃臨大野。飛鳥皆視其背。其始登者。得石枰於上。黑肌而赤脈。十有八道。可奕。故以云。其山多樫。多櫧。多篔簹之竹。多橐吾。其鳥多秫歸。』以上第三大段記仙奕山。○篔簹竹名。或曰。橐吾蘘荷誤字。秫歸卽子規。石魚之山。全石無大草木。山小而高。其形如立魚。在多秫歸西。有穴類仙奕。入其穴東出。其西北。靈泉在東趾下。有麓環之。泉大類轂。雷鳴西奔二十尺。有洄在石溯。因伏無所見。多綠青之魚及石鯽。多鯈。』以上第四大段記石魚山。雷山兩崖皆東西。雷水出焉。蓄崖中曰雷塘。言雷山兩側皆自東向西。而雷水出其閒。蓄雷塘中。能出雲氣。作雷雨。變見有光。禱用俎魚豆兗修形。糈稃酒陰。虔則應。在立魚南。其閒多美山無名。而深峨山在野中。無麓。峨水出焉。東流入於潯水。』以上第五大段記雷山深峨山。

是文柳子厚ノ作ニアラズトノ説アリ如何。

面勢トハ方面形勢トイフコトニテ、高キ邱ノ地勢ニ應ジテ構造スルナイフ。

構ハ柱、櫨ハ柱上ノ横木即チうでぎ、節ハ栱、又枓栱、柱ノ上ノ升形ナリ、刻鏤チ施ス、椳ハ梁上ノ短キ柱、畫キテ藻文チナスモノ。

椽ハたるきナリ。

茨ハ茅チ以テ葺キタル屋根。

率然ハ山突出セル貌。

莽蒼トハ草野ノ色。

雲轟ノ轟ハ雲ノ直立スル如キ意。

星拱トハ、衆星ガ北極星ニ向ツテ拱手スル如キナイフ。

綺綵ハ紋オリノ如ク貫ク、繡錯ハ刺繡ノ如ク錯ルナリ。

壤接荒服トハ、土地ガ九州ノ外ニアル夷狄ニ接近スルナリ。

# 邕州馬退山茅亭記

主意　記二堙没盛跡於遐裔一以自比。

冬十月作二新亭一於馬退山之陽一。因二高邱之阻一以面勢。蔣注面勢謂二方面形勢一。字見二周禮一。無二樽櫨節棁之華一。不レ斲レ椽。不レ翦レ茨。不レ列レ牆。以二白雲一爲二藩籬一。碧山爲二屏風一。昭二其儉一也。』段記二茅亭一。以上第一大是山崒然起於莽蒼之中一。馳奔雲矗。亙數十百里一。尾蜿荒陬一。首注大溪一。諸山來朝。勢若二星拱一。蒼翠詭狀。綺綵繡錯。蓋天鍾レ秀於是一。不レ限レ於二遐裔一也。」記二小形一。第一小段然以壤接二荒服一。俗參二夷徼一。周王之馬迹不レ至。謝公之屐齒不レ及。巖徑蕭條。登探者以爲レ歎。』上第二大段記二馬退山一。歲在二辛卯一。我仲兄以二方牧之命一。試二於是邦一。夫其德及レ故信孚。信孚故人和。人和故政多レ暇。由

徹トハ邊界ナリ。周王之馬迹トハ、周ノ穆王ガ八駿馬ニ駕シテ、天下ヲ遊行シタル迹ナイフ。謝公ノ展齒トハ、宋ノ謝靈運好ンデ山ニ遊ブ、上ルニハ木屐ノ前齒ヲ去リ、下ルニハ其後齒ヲ去リシナイフ。孚モ信ナリ。墜ハ仰ギテ塗ルコト。絲桐ハ琴ナリ、琴ハ桐ヲ以テ作ル、但シ之ハ七絃ナリ。山極ハ山ノ至ツテ高キ所即チ巔ナリ、蔣本山椒ニ作ル、亦巔ナリ。以極萬類云云、萬物ヲ一目ニ視極メ、之ヲ攬ルトモ掌ニ盈ツルニ足ラザルナイフ。夫美不——凡ソ勝地ノ美ナルモ、自ラ美ナルコト能ハズ、人ノ之ヲ攬ルニ因リ、始テ其美ヲ彰ハスコトヲ得、夫ノ蘭亭ノ如キモ、王羲之之ヲ賞スルニアラズンバ、清湍修竹ノ美モ、遂ニ空山ノ裏ニ蕪レ果テ終ラン。

此ノ文ハ周子諒ガ直諫ヲ以テ杖殺セラレタル

是嘗徘徊北山以寄勝概。乃墜乃塗。作我攸宇。於是不崇朝而木工告成。」第一小段記得勝景築亭。每風止雨收。煙霞澄鮮。甒角巾鹿裘。率昆弟友生。冠者五六人。步山極而登焉。於是手揮絲桐。目送還雲。西山爽氣。在我襟袖。以極萬類。攬不盈掌。』第二小段記游覽。○以上第三大段記仲兄游觀。夫美不自美。因人而彰。蘭亭也。不遭右軍。則清湍修竹。蕪沒於空山矣。是亭也。僻介閩嶺。佳境罕到。不書所作。使盛跡鬱湮。是貽林溯之媿。故志之』。以上第四大段論盛跡不可堙沒。歸到作記。

## 唐故御史周君碣

主意　言公之忠貞。存不及王用。死不遭聖歎。故立碣。

有唐貞臣。汝南周氏。諱某。字某。以諫死。葬於某。」第一小段貞元十

二年。柳宗元立碣於其墓左。』第二小段敍立碣。○以上第一大段綱領。在天寶年。有以詔訣至相位。賢臣放退。公爲御史。抗言以白其事。得死於墀下。史臣書之。公之死。而佞者始畏公議。」公議卽公論。非周公之議。○第一小段敍史書諫死佞者畏。於呼。古之不得其死者衆矣。若公之死。志匡王國。氣震姦佞。動獲其所。斯蓋得其死者歟。』第二小段贊得其死。○以上第二大段詳敍諫死。卽第一大段上節目。公之德之才。洽於傳聞。卒以不試。而獨申其節。猶能奮百代之上。以爲世軌。」第一小段論公之節爲世軌。第令生於定哀之閒。則孔子不曰未見剛者。出於秦楚之後。則漢祖不曰安得猛士。孔子云云漢祖云云。有此二句。文氣散漫不振。而存不及興王之用。存不及興王二句。主意歸宿。沒不遭聖人之歎。誠立志者之所悼也。故爲之銘。』第二小段言惜生死不顯作銘。○以上第三大段論公之忠貞。生死不顯。歸到所以立碣。卽第一大段下節目。銘曰。

忠爲美。道是履。諫而死。佞者止。史之志。石以紀。爲臣軌兮。銘簡勁能盡其

チ悼ミ、ソノ忠節チ發揚センコトチ作リタルナリ、蓋周ハ朝堂ニ於テ杖タレ、尋イデ濮州ニ流サルル途、藍田ト云フ地ニ至ツテ死セリ。碣ハ石碑ノコト、但シ碣ハ圓ニシテ碑ハ方ナルチ異トス。天寶ハ唐玄宗ノ年號、至相位ハ李林甫、牛仙客等、賢臣放ハ張九齡裴耀卿チ指ス。御史ハ非法チ彈劾スル職。墀ハ階上ノ地ナイフ。周公ハ其處ニ杖殺セラレタリ。於呼ハ嗚呼ト同ジク、歎辭ナリ。世軌トハ人臣タルモノノ軌範ナリ。定哀ハ魯國ノ定公哀公ナリ。未見剛者、論語ノ公冶長篇ニ見ユ。孔子不曰云云、公ノ如キ剛者ガ居ラバ、未ダ剛者チ見ズト云ハザルベシ、漢ノ高祖モ、安クニカ猛士チ得タシト大風歌ニ歌フコトアラザラン。存不及——公ハ生キテ存セザリシ事ヲ云フ。

ハ高漢ノ如キ興王ニ用ヒラルルヲ得ズ、況シテハ孔子ノ如キ聖人ニ歎カレズ、誠ニ世ノ立志者ノ惜ミスル所ナリ。

崇文館ハ左春坊ニ隷屬ス、校書郎二人アリ、書籍ノ校理ヲ掌ル。
左春坊ハ東宮附ノ官坊ナリ、按覆ハ調ベ明ニスルコト、校巡ハ部下ヲシテ巡校スルナリ。
大尹ハ京兆尹ナリ、我邦今日ノ東京府知事ニ當ル。
太常寺ハ禮樂、郊廟、社稷ノ事ヲ掌ル官廳、主簿ハ其屬官ニテ二人アリ。
搜逖疑互ハ錯綜シタル疑事ヲ討尋シ、其正否ヲ決スルナリ。
探抶遜隱ハ賢ニシテ隱

人。一本無分字似是。

## 唐故萬年令裴府君墓碣

主意　言世德良能。

公諱垣。字封叔。河東聞喜人。太尉公諱行儉。實高祖。於句末言實高祖。敍法奇。大理卿府侍中公諱光庭。實曾祖。刑部員外郎府君諱稹。實祖。大理卿府君諱儆。實父。』以上第一大段敍世系。是銘所謂世德。公由進士上第。校書崇文館。飭館事。修整左春坊。由是立署局。」第一小段敍由進士立署局。後參京兆軍事。按覆校巡。大尹恆得以取直」。京兆軍事。第二小段敍爲太常主簿。搜逖疑互。探抶遜隱。宿工老師。不得伏匿。皆來會堂下。耆股肱。役喉喙。以集樂事。作坐立二部伎圖。卿奇其績。奏超以爲丞」。太常主簿事。第三小段敍司空杜公聯奉崇陵豐陵禮儀。再以爲佐。離紛尨。導滯塞。關百執事。條

遞シタル者ヲサグリ出スコト。
耆ハ致スナリ。
坐立二部ハ、樂ノ坐部立部ナリ。
卿ハ太常寺ノ長官、丞ハ次官ナリ。
杜公名ハ黄裳、貞元二十一年德宗ヲ崇陵ニ葬ル時、禮儀使トナリ、又元和九年順宗ヲ豐陵ニ葬ル時ニモ禮儀使タリ、故ニ聯奉スト云フ。
離紛彪ハ紛雜ヲ解クコト。
關百執事ハ儀禮ノ百執事ニ關スルモノ。
條直ハ事物圓滑ニ行ハルルナイフ。
顯遂ハ事明白ニ行ハレテ、澁滯ナキナイフ。
諱去國——高宗ノ時、長孫無忌新禮ヲ修ム、後開元年中、許敬宗、李義甫以爲ラク、豫メ凶事ニ備フルハ、臣子ノ言フベキコトニアラズト、遂ニ國恤章一篇ヲ去ル、是ニ由ツテ凶禮遂ニ缺ケ、累代陵寢ノ事モ、其時其事ニ臨ンデ舊例ヲ取捨シ、一時ヲ糊塗スルニ過ギズ、國恤ハ國喪即チ天子ノ喪ナリ。

直顯遂司空拱手以成。自開元制禮。諱去國恤章。累聖陵寢。皆因事擘綴。取一切乃已。有司卒無所徵。公乃選二陵集禮。藏之南閣。」佐杜公事。第四小段敍轉殿中侍御史。仍拜尚書比部員外郎。會校成要。周禮天官。司會以參互考日成。以月要考月成。以歲會考歲成。注。月計曰要。歲計曰會。期歲畢具。」中侍御史事。第五小段敍殿刺金州決高施隙。柳文施作弛。注。弛解也。隙當作隙。隙阬塞也。案。決高施隙謂決高處水。施注之空隙之地。去人水禍。渚菱原茅。闢成稻粱。」第六小段敍金州刺史事。陟萬年令。令卽于刺史。然自遠地至近地。故曰陟。叢劇辨肅。談宴終日。人視之。若居冗官。然。會金州猾吏來。揚言恐喝。以煩褻事。曰不得三十萬。吾能爲禍。公大怒。召罵之。恣所爲。吏巧以聞。御史按章具獄。再謫道州循州。爲佐掾。會赦量移吉州長史。元和十二年七月日。病疝泄卒。』第七小段敍自萬年令至卒。○以上第二大段敍履歷。是銘所謂良能。良能中禮樂其尤。始公以唯諾聞長安中。奔人危急。輕出財力。如索水火。性開蕩。進

擊綴ハ拾取ナリ。
一切ハ苟且ノ義。
殿中侍御史ハ殿庭供奉ノ儀式ヲ掌ル官。
倉曹比部ハ内外ノ賦斂經費ノ檢查ヲ掌ル官。
會校成要ハ金穀ノ出納ヲ計算スルコト。
金州ハ今ノ漢中府ノ興安ナリ。
決高施隍ハ高地ヲ平カニシ隍地ニ手ヲ入ルルナリ。
茭ハ水草ナリ。
叢劇務繁ハ煩劇事件モ辨決シテ、閑暇トナルナリ。
量移トハ遠地ニ謫セラレタル者ガ、赦ニ遇ヒ近地ニ移サルルコト。
痁ハ瘧病。
痤ハ痢疾。
開豁ハ開廓ナリ。
簉類ハ年倫品類ナリ。
糺謬ハ當時宴會ニ行ハレシ酒禮。
謠ハ徒歌、咢ハ鼓ヲ擊ツテ歌フナリ。
纖屑促密トハ音調ノ纖リ促レルコト。
御宿ハ長安ノ地名。
祔ハ先祖ニ合祭スルナリ。
冢子ハ本妻ノ腹ニ生レタル長子。

交大官。不視齒類。挾同列。收下輩。細大畢觀」第一小段性行。○觀柳文作歡。可從。喜博奕。知聲音。飲酒甚少。而工於糺謫。糺謫謂酒令。謠舞擊咢。說文徒歌曰謠。擊鼓曰咢。詩或歌或咢。纖屑促密。皆曲中節度。而終身不以酒氣加人。晝接人事。夜讀書考禮。收捃策牘。未嘗釋手。以是重諸公閒。」第二小段技藝。○以上第三大段敍性行技藝。又見良能。初娶范陽盧氏。無子。後夫人柳氏。德爲九族冠。生三男子。喪其二焉。貞元十六年某月日卒。祔於長安御宿之北原。」第一小段妻子。冢子銑奉柩。以明年月日。克葬於墓。銑以文書來柳州。告其叔舅宗元。顧碣於墓左。則涕爲之銘。其辭曰。『第二小段墓碣。○以上第四大段敍妻子墓碣。○銘中段落謂之解亦可。有鬱其馨。惟裴之卿。世服大僚。仍耀烈名。封叔申之。實惟其英。讎書宮闈。佐職於京。」第一段賦世德及公至佐職。太常命吏。以能增秩。相儀考禮。大弁斯畢。鳩工展伎。爰備聲律。或圖或書。藏之府室。」第二段賦太常

惟裴之卿トハ壻ノ父徹大理卿タルチイフ。世服大僚トハ世世大官ニ登ルチイフ。讎書ハ書ヲ校正スルコト、校書郎トナル也。佐職於京トハ、京北府參事タルチイフ。大弁ハ大法ナリ。鳩工展伎云云、太常主簿トナリ、音樂ヲ改正シタルチイフ。史於柱下ハ周ノ柱下史、唐ノ殿中侍御史ニ當ル。郎於會司ハ會計ノコトニテ、比部員外郎タルチイフ。徼循ハ巡視スルコト。大比トハ天下ノ民數、及ビ財物ヲ簡閱スルコト、周禮ニ出ヅ。溝防漢渠ハ溝渠隄防ヲ漢水ノ渠ニ築クナリ。墊沃ハ水浸ノ地。芋魁ハ芋ノ根ナリ。游手閑民トハ民ノ職事ナキモノヲイフ。道ハ道州。循ハ循州。施施ハ無事ニシテ喜悦スル貌。朝有大——サレバ朝廷ニ於テハ公ノ功績ヲ思

中史於柱下。郎於會司。徼循以周。前漢書百官表。中尉徼循京師。注徼遮繞也。後漢書注曰。掌循禁姦盜。績。大比是宜。作牧於金。金人允懷。溝防漢渠。墊沃卒移。增我歲食。易其芋魁。游手閒民。相顧聚來。第三段賦御史及刺吏中績。徼爲萬年。治劇於都。百務敍成。談宴以娛。誰恤誰恃。不忍悍吏。胡巧其辭。按章以遂。第四段賦萬年令中績。由道斥循。施施二年。道循州名。施施無事喜悦貌。更赦進資。盧陵是遷。人曰世德。宜慶於延。又曰良能。世德良能四字。收全篇。宜力之宣。朝有大賚。期賜其還。鬼神不享。命隕在前。第五段賦斥循至卒事。○蔣注元和十二年十月。平吳元濟。十三年大赦。而墐以十二年七月卒。故云隕命在前也。長原有墓。高曾祖父。淑靈是祔。封叔爰歸。左右惟具。第六段敍墓碣。孤銑磨石。祈辭海陬。遂升其趺。於道之周。第七段敍作銘。

ハレ、當ニ大恩典ヲ賜リ、都ニ召還ヘサルベシト期セシニ、不幸ニシテ鬼神之ヲ享ケズ、大赦ノ前ニ落命ス。孤銑ハ孤子ノ銑ナリ。祈辭海陬ハ墓碣ヲ海陬ニ居ル余ニ求ムト也。趺ハ墓ノ臺石ナリ。周ハ曲ナリ。

五家トハ左氏、公羊、穀梁、鄭氏、夾氏ナイフ、鄒夾ハ傳ラズ、漢書藝文志ニ見ユ。三ハ左氏、公羊、穀梁ナリ。觚牘ハ古人事ヲ記スルニ用ヒシ木片ニシテ、今ノ簡ナリ。訐ハ人ノ隱事ヲアラハシ攻ムルナリ、狠ハ聽從セザルナリ。相擊排云云、妄ニ他人ノ說ヲ排擊シテ、向フ見ズノ論ヲナスモノ多シ、合又乖ハ聖人ノ意ニ合ヒ或ハ反スル也。黨枯竹トハ、古人ニ黨スルコトナリ、枯竹ハ枯朽ヲ云フ。護朽骨トハ、固ク舊說ヲ墨守スルナイフ、朽骨ハ既ニ死シテ朽骨ト

# 陸文通先生墓表

主意　言先生一生之功。在注春秋。故以春秋爲一篇骨子。○墓文無銘曰レ表。

孔子作春秋。千五百年。以名爲傳者五家。今用其三焉。秉觚牘。焦思慮。以爲讀注疏說者。百千人矣。攻訐狠怒。以辭氣相擊排冒沒者。其爲書。處則充棟宇。出則汗牛馬。或合而隱。或乖而顯。」第一小段言傳注甚多。後之學者。窮老盡氣。左視右顧。莫得其本。則專其所學。以訾其所異。黨枯竹。護朽骨。以至於父子傷夷。君臣詆悖者。前世多有之。甚矣聖人之難知也。』第二小段言後學黨派相排。○以上第一大段論春秋難知。是虛。有吳郡人陸先生質。以其師友天水啖助洎趙匡。能知聖人之旨。故春秋之言。及是而光明。使庸人小童。皆可積學。以入聖人之道。傳聖人之教。是其德豈不侈大矣哉。』以上第二大段入題總論。承上起下。先生字某。

既讀書。得制作之本。而獲其師友。於是合古今。散同異。聯之以言。累之以文。蓋講道者二十年。書而志之者又十餘年。其事大備。爲春秋集注十篇。辨疑七篇。微指二篇。明章大中。發露公器。其道以生人爲主。以堯舜爲的。苞羅旁魄。膠轕下上。而不出于正。其法以文武爲首。以周公爲翼。揖讓升降。好惡喜怒。而不過乎物。既成。以授世之聰明之士。使陳而明之。故其書出焉。而先生爲巨儒。」第一小段敍著作。○總論中所謂知聖人之旨。明春秋之言。在此一段。用是爲天子爭臣。尚書郎國子博士。給事中。皇太子侍讀。皆得其道。刺二州守。人知仁。永貞年。侍東宮。言其所學。爲古君臣圖以獻。而道達乎上。是歲嗣天子踐祚而理。尊優師儒。先生以疾聞。臨問加禮。某月日。終於京師。某月日。葬於某郡某里。』第二小段敍官銜死葬。○先生事業不多。故略說。妙。○以上第三大段敍履歷。嗚呼

ナリシ古人チイフ。
父子傷夷トハ、父子相擠害スルチイフ。
助字ハ叔佐、趙州ノ人、匡字ハ伯淳、河東ノ人ナリ。
洎ハ及ナリ。
合古今——古今諸家ノ說チ集合シ、異同ノ點チ分チ、言語チ以テ連結シ、文章チ以テ潤色ス。
大中ハ不偏不黨、至正中庸ノ道チイフ。
公器トハ天下ノ公法チイフ。
苞羅ハツツミクルム義ナリ。
旁魄ハ旁礴ニテ、廣ク充チ塞ガル義ナリ。
膠轕ハ騙馳スルナリ、一ニ曰ク車馬喧雜也。
爭臣ハ爭諫スル臣チイフ。
皆得其——何レモ皆其職責チ盡シ、其道トスル所チ行ヒ、台信二州ノ刺史トナリシニ、州人薰化チ受ケテ仁道チ辨識スルニ至レリ。
嗣天子ハ憲宗チ指ス。
先生云云、先生ノ病氣ノ趣チ天子ニ言上セシニ、天子ハ之チ聞イテ先生ニ見舞チ賜リシコ

ト常禮ノ如シ。
先生道——先生ノ道德ノ斯世ニ存在スルハ、書物トシテ遺リシノミニシテ、實際政治上ニ施ス能ハズ、又言語ニハ見ルチ得レドモ、事功治績ニアラハルルチ得ザリキ、是レ常ニ學學ヤ門人共ノ悲嘆スル所ナリ。

此文ハ子厚、仲父タル殿中君ノ誌文チ作リ、其父柳鎭ノ傳チ記ス、末ニ又母夫人ノ事チ擧ゲ、神道ハ神廟ニ至ル路チ謂フ、今此處ニハ墓前ノ表ナリ。
府君ハ神チ尊ブノ辭、朱子ノ語類ニ、爺ナキチ府ノ君ト云フト見ヘタリ、仲父ハをぢ。
殿中君ハ其名字詳ナラズ、子厚ノ作リシ墓表ニモ見エズ、唯殿中侍御史トノミアリ。
孤ハ幼ニシテ父ナキチ云フ、此處ニテハ父ナキ者ノ自稱スル辭。
繫其辭ハ文辭チ附記スルナリ。

先生道之存也。以レ書不レ及レ施レ於レ政。道之行也。以レ言不レ及レ覩二其理一。門人世儒。是以增レ慟。」段總收。將レ葬。以二先生爲一能文聖人之書一。通二於後世一。遂相與謚曰文通先生。」一句一篇歸宿。後若干祀。有レ學レ書者。過二其墓一。哀二其道之所レ由。乃作レ石以表レ碣。』以上第四大段總收一篇。遂及二謚與一レ表。

## 先侍御史府君神道表

主意　言二府君植一於內一而文二於外一。

嗚呼先君之墓。仲父殿中君誌焉。埋二墓下一者曰レ誌。孤宗元不レ敢稱二道先德一。然而無レ以昭二於外一者。用敢悉取二仲父之所レ陳。而繫二其辭一。刻二茲石表一。』以上第一大段作レ表之由。先君諱鎭。字某。六代祖諱慶。後魏侍中平齊公。五代祖諱且。周中書侍郎濟陰公。高祖諱楷。隋刺二齊房蘭廊四

州。曾伯祖諱爽。字子燕。唐中書令。曾祖諱子夏。徐州長史。祖諱從裕。滄州清池令。皇考諱察躬。湖州德清令。世德廉孝。賜於河湜。士之稱家風者歸焉。』以上第二大段敍世系。先君之道。得詩之羣。書之政。易之直方大。春秋之懲勸。以植於內。而文於外。二句履綱領。垂聲當時。」第一小段總提。天寶末。經術高第。遇亂。奉德清君夫人。載家書。隱王屋山。閒行以求食。深處以修業。作避暑賦。」第二小段敍避亂。合羣從弟子姓。講春秋左氏。易王氏。衍衍無倦。以忘其憂。德清君喜曰。茲謂逐世無悶矣。亂有閒。擧族如吳。無以爲食。先君獨乘虛。無倥御。以出求仁者。冀以給食。嘗經山溯水卒至。流抵大壑。得以無苦。被濡塗以行。無慍容。觀者哀悼而致禮加焉。季王父六合君。忤貴臣。死於吏舍。猶鞠其狀。先君改服徒行。逾四千里。告於上。由是

鬩於河湜。トハ柳氏世世河東ニ家ス、故ニイフ、湜ハ水涯ナリ。詩之羣トハ、論語陽貨篇ニ、詩可ニ以羣一トアルヲ云フ、多方面ノ人人ト相雜リ居リテ、互ニ和德ヲ磨キ合スベシトノ義ニ出ヅ。書之政、書經ハ先王ノ事ヲ記セリト史記太史公自序ニ見ユ。易之直方大ハ、坤ノ六三ノ爻辭ニシテ、坤德ヲ贊スル詞ナリ。春秋之懲勸ハ、春秋ノ意、善ヲ勸メ惡ヲ懲スニアルナイフ。植ハ志操ヲ樹ツル也。天寶ハ玄宗ノ年號。子姓ハ子孫ナイフ。易王氏トハ三弼ノ易。衍衍ハ樂ム貌。遯世無悶トハ、世ヲ捨テ俗事ヲ放棄シテ、何モ憤ルコトモ歎ズベキコトモナシトナリ。被濡塗以行トハヌレマミレタルマヽ、漸クソコヲ立去レリト云フコトナリ。六合君ハ六合縣令ニシテ、名字未ダ詳ナラズ。鞫ハ鞫ト通ズ、推窮ムルナリ。

天子平大雛トハ、蕭宗ノ安祿山ノ亂ヲ平定セシヲイフ。
大號トハ大詔ノコト。
耦耕トハ論語朱注ニ、竝ビ耕スナリト見ユ。
三老五更議ハ天子始テ大學ヲ起シテ、行フ所ノ養老ノ禮ナイフ、三老トハ三公ノ老者ヲ云ヒ、五更トハ卿大夫中ノ老者ヲ云フ。
籍田ハ天子自ラ田ヲ耕ス耒耜ヲ持シ、諸公卿ヲ帥キテ自ラ耕ス禮。
尙父汾陽王ハ郭子儀ナリ。
左金吾衞ハ宮中京城ノ巡警、烽候等ヲ掌ル、
倉曹參軍ハ其屬ナリ。
大理ノ評事ハ刑獄ヲ掌ル屬官。
楨幹ハ主要ナリ。
晉文公云云、文公顚謨、祁瞞、舟之僑ノ三姦ヲ殺セリ、君子曰ク、文公能ク刑ヲ用フ、三罪シテ民服スト、左傳ニ出ヅ。
錄事參軍ハ衆曹ノ文簿ヲ錄シ、善惡ヲ擧彈スルヲ掌ル。
酣嗜ハ深ク嗜ムナリ。
調ハ遷サルルナリ。

貸其問。既而以爲天子平大難。發大號。且致太平。人罹兵戎。農去來耜。宜以時興太學。勸耦耕。作三老五更議。籍田書。齋沐以獻。道不果用」第三小段欲レ表二父之植内文外一嫌レ涉二溢美一故列二擧其著作制書一證之子厚苦心可レ見。此段先擧二三老五更籍田書一。餘在二次段一。授左衞率府兵曹參軍。尙父汾陽王居朔方。備禮延望。授左金吾衞倉曹參軍。爲節度推官。專掌書奏。進大理評事。以爲刑法者軍旅之楨幹。斥候者邊鄙之視聽。不可以不具。作晉文公三罪議。守邊論議事確直。勢不能容」罪議守邊論。表爲晉州錄事參軍。晉之守故將也。少文而悍。酣嗜殺戮。吏莫敢與之爭。先君獨抗以理。無幸將死。常以身扞笞箠。拒不受命。守大怒。投几折簀。而無以奪焉。以爲自下繩上。其勢將殆。作泉竭木摧詩。終秉直以免於恥。」第五小段擧二泉竭木摧詩一調二長安主簿一居二德清君之喪一。哀有過而禮不逾。爲

考績ハ功績ノ多少ヲ檢定スルヲ云フ。

吏人ハ吏民ナリ。

都團練判官ハ團練使ノ屬官ナリ。

元戎トハ王師ヲイフ。

進律ハ官等律過ノ等級ヲ進ムルナリ。

爲眞ハ本官ト爲ル也。

宰相與云云、貞元四年陝虢ノ觀察使卒ス、其妻家賞ヲ分ツニ妾ノ生ム所ノ子ニ及サズ、妾之ヲ官ニ訴ヘタリ、御史中丞盧徵ハ妾ヲ罪セント欲セシニ、侍御史穆贊從ハズ、是ニ於テ徵ハ贊參ト共ニ上ニ譖シテ、贊ガ賄賂ヲ受ケタリト誣告シ、之ヲ獄ニ送ル、贊ノ弟賞、兄ノ爲ニ冤狀ヲ上リテ訟ヘシカバ、柳鎭及李覿楊瑀ニ命ジテ之ヲ覆治セシム、冤罪ナルコトヲ證スルヲ得タリ。憲府トハ憲法ヲ行フ御史臺、卽チ廳徵ノコト、又宰相ハ參參ナリ。比周トハ親シミ黨スル

士者咸服。服既除。吏部命爲太常博士。先君固曰。有尊老孤弱在吳。願爲宣城令。三辭而後。獲徙爲宣城。四年作閿鄉令。考績皆最。吏人懷思。立石頌德。遷殿中侍御史。爲鄂岳沔都團練判官。元戎大攘狡虜。增地進律。作夏口破虜頌。」第六小段擧夏口破虜頌。後數年。登朝爲眞。會宰相與憲府比周。誣陷正士。以校私讐。有擊登聞鼓以聞於上。上命先君總三司以聽理。至則平反之。爲相者不敢恃威以濟欲。爲長者不敢懷私以請閒。羣冤獲宥。邪黨側目。封章密獻。歸命天子。遂莫敢言。逾年卒中以他事。貶夔州司馬。作鷹鸇詩。」第七小段擧鷹鸇詩。居三年。醜類就殛。拜侍御史。制書曰。守正爲心。疾惡不懼。二句植於內之本領。故一段歸宿此二句。先君捧以流涕曰。吾惟一子。愛甚。方謫去至藍田訣曰。吾目無涕。方謫至無涕。追敍往事。今而不知衣之濡也。

チイフ。登聞鼓ハ、撃ツテ以テ其冤ヲ訴フルモノ。三司ハ三職ニシテ、刑部李觀、大理事楊瑀、及御史柳鎭チイフ。平反トハ冤ヲ正ニ反スコト。爲相者ハ竇參ナリ。爲長者ハ盧侶ナリ。醜類就殛、貞元八年竇參罪ヲ得タリ。有當我哉ハ制書ノ優詔何ゾ我ニ適當センヤトノ義ニテ、謙辭ナリ。正經記トハ政務ヲ正スコトチイフ。得進士第トハ進士ノ試驗ニ及第セシチイフ。行慶於下云云、順宗即位ノ慶事ヲ下民ニ行ヒ、申ネテ先公ニ贈官ノ内命アリシカ、有司ノ草案取調緩ナリシト、又宗元ガ罪ヲ得タルトニヨリテ、折角ノ事モ沙汰止ミトナレリ。二女云云、長ハ崔簡ニ、次ハ崔墉ニ嫁ス。表式ハ手本ナリ、龜鑑ナリ。太君ハ唐制ニ、四品ノ人ノ妻ヲ郡君トシ、五品ノ人ノ妻ヲ縣君ト

抑有當我哉。言制書不ㇾ當ㇾ我。蓋謙辭。作喜霽之歌副ㇾ職持憲。以正經紀。」段擧制書及喜霽之歌。貞元九年。宗元得進士第。上問有司曰。得無以朝士子冒進者乎。有司以聞。上曰。是故抗奸臣竇參者耶。吾知其不爲子求ㇾ擧矣。」第九小段敍不ㇾ爲ㇾ子求ㇾ擧。是歲五月十七日。終於親仁里第。享年五十五。七月某日。葬於萬年縣棲鳳原。」第十小段敍ニ死葬一。後十一年。宗元由御史爲尚書郎。天子行慶於下。申命崇贈。而有司草創頗緩。會宗元得罪。遂寢不行。』〇以上第三大段敍ニ履歷一。太夫人范陽盧氏。某官某之女。實有全德。爲九族宗師。用柔明勤儉。以行其志。用圖史箴誡。以施其教。故二女之歸他姓。咸爲表式。太夫人既授封河東縣太君。會册太上皇后於興慶宮。既乃宗元貶秩。爲永州司馬。奉侍溫清。未嘗見憂。元和元年五月十五日。終於州之佛寺。享

ス、其母ニハ太チ加ヘ、郡太君、縣太君トイフトアリ。
太上皇后ハ憲宗ノ母、良娣皇后チ尊ンデイヒシナリ。
奉侍温清ハ朝夕奉侍シテ、夏ハ清シク冬ハ温ニスルナリ。
天殛ハ天罰ナリ。
玄堂ハ墳墓ノコト。
祔ハ祖先ニ合葬スルナリ。
支綴ハ支ヘ繕クコト。
特牲ハ羊一匹チイフ。

此文ハ子厚永州ニ在リ、刺史崔ヨリ段太尉ノ逸事チ得テ、之チ作リシナリ、狀シテ史館ニ遺ル、故ニ逸事狀ト云フ、太尉ノ大節チ述ベタルナリ。
段名ハ秀實、字ハ成公、瀧州ノ人、司農卿タリ、朱泚反ス、段之チ誅セント欲シ、此處ニテ奸、奮前シテ象笏チ以テ之チ擊チ、其額ニ中ル、

年六十八』。以上第四大段附敘太夫人。嗚呼宗元。不謹ニ先君之教。以陷ル大禍ニ。幸而緩ニ於死ニ。既ニ不克ニ成ニ先君之寵贈ニ。又無ニ以寧ニ太夫人之飲食ニ。天殛蔑酷。名在ニ刑書ニ。不得手開ニ玄堂ニ。玄堂墓地也。以奉安奉猶行也。祔ニ罪惡益大ニ。世無所容。尚顧嗣續ニ。不敢即死ニ。支綴氣息ニ。以嚴邦刑ニ。大懼祭祀之無主ニ。以忝盛德ニ。敢用特牲ニ昭告ニ神道ニ。號叫萬里ニ。以畢其辭ニ云』。以上第五大段列舉父母謝己罪。以收全文。蓋不克成寵贈。起手所謂無昭於外也。故作表謝之。

## 段太尉逸事狀

主意　言太尉平素有所立。故能死大節。

太尉始爲涇州刺史。時汾陽王以副元帥居蒲。王子晞爲尚書。領行營節度使。寓軍邠州。縱士卒無賴。邠人偷嗜暴惡者。率以

貨竄名軍伍中。則肆志。吏不得問。日羣行丐取于市。不嗛輒奮擊折人手足。椎釜鬲甕盎。盈道上。把臂徐去。至撞殺孕婦人。」第一小段敍兵卒暴亂。

邠寧節度使白孝德。以王故。戚不敢言。太尉自州以狀白府。願計事。至則曰。天子以生人分公理。公見人被暴害。因恬然。且大亂。若何。孝德曰。願奉教。太尉曰。某爲涇州。甚適少事。今不忍人無寇暴死。以亂天子邊事。公誠以都虞侯命某者。能爲公已亂。使公之人不得害。孝德曰幸甚。如太尉請。既署一月。晞軍士十七人。入市取酒。又以刃刺酒翁。壞釀器。酒流溝中。太尉列卒取十七人。皆斷頭注槀上。植市門外。晞一營大譟。盡甲。孝德震恐。召太尉曰。將奈何。太尉曰。無傷也。請辭於軍。孝德使數十人從。太尉。太尉盡辭去。解佩刀。選老黠者一人。持馬至晞門

泄血ヲ蒙リテ脫走ス、段ハ泄ノ衆ノ爲ニ殺サルヽ、死後太尉ヲ贈リ、忠烈ト謚ス。

汾陽王ハ郭子儀ナリ。竄名ハ名ヲ書キ入ルルナリ。竄ハ入ルルナリ。

不嗛ハ足ラザルナリ。

鬲ハ鼎ノ類ナリ。

盎ハ盆ナリ。

把臂ノ把ハ蔣本祖ニ作ル、是ナルニ近シ。

都虞侯ハ一府軍人ノ名籍及ビ訓練ヲ掌ル職。

署ハ名ヲ官簿ニ表記スルナリ。

酒翁ハ酒ヲ釀スモノナリ。

注槀上ハ長キ槀（ほこ）ニサスナリ。

黠ハ跋ノ甚シキモノ。

下。甲者出。太尉笑且入曰。殺一老卒。何甲也。吾戴吾頭來矣。甲者愕。因諭曰。尚書固負若屬耶。副元帥固負若屬耶。奈何欲以亂敗郭氏。爲白尚書。出聽我言。晞出見太尉。太尉曰。副元帥勳塞天地。當務始終。今尚書恣卒爲暴。暴且亂。亂天子邊。欲誰歸罪。罪且及副元帥。今邠人惡子弟。以貨竄名軍籍中。殺害人。如是不止。幾日不大亂。大亂由尚書出。人皆曰。尚書倚副元帥。不戢士。然則郭氏功名。其與存者幾何。言未畢。晞再拜曰。公幸教晞以道。恩甚大。願奉軍以從。顧叱左右曰。皆解甲。散還火伍中。敢譁者死。太尉曰。吾未晡食。請假設草具。既食曰。吾疾作。願留宿門下。命持馬者。去旦日來。還臥軍中。晞不解衣。戒候卒。擊柝衛太尉。旦俱至孝德所。謝不能。請改過。邠州由是無禍。』

第二小段敍太

一老卒ハ秀實自ライフナリ。
吾戴吾頭來トハ、吾我ガ頭チノツケテ來タトイフコトニテ、斬リ取ラルルニマカセルトイフコトナリ。
尚書ハ郭晞ノコト。
當務始終ハ、其功チ全クスルコトチ務ムベシト云フナリ。
火伍ハ唐ノ制ニ五人チ伍ト爲シ、伍二郎十人チ火ト爲ス。
晡食ハ晩食。
草具ハ組末ナル料理ナリ。

頃ハ百畝ナリ。

巽ハ濕順ナリ。

我畏段——余何ゾ段某ヲ畏レテ其命ニ從ハンヤ、何故ニ我ガコトヲ段ニ告ゲタルゾ。衣ハつゝむナリ。

取驕馬——己ノ乘馬ヲ賣リ、穀ヲ買ヒ、農夫ニ代ツテ償ヒ納メ、世人チシテ其恩德ヲ施セシコトヲ知ラシメズ。

野如赭ハ野原ハ赤土ノ如ク、青草ナキヲイフ。

尉治暴亂。〇以上第一大段記挫折郭晞驕豪之事。先是太尉在涇州爲營田官。涇大將焦令諶。取人田自占數十頃。給與農曰。且熟歸我半。是歲大旱野無草。農以告諶。諶曰。我知入數而已。不知旱也。督責益急。且飢死無以償。卽告太尉。太尉判狀辭甚巽。使人來諭諶。諶盛怒。召農者曰。我畏段某耶。何敢言我。取判鋪背上。以大杖擊二十。垂死。輿來庭中。太尉大泣曰。乃我困汝。卽自取水洗去血。裂裳衣瘡。手注善藥。旦夕自哺農者。然後食。取騎馬賣。市穀代償。使勿知。」一小段敍救冤農之事。淮西寓軍帥尹少榮。剛直士也。入見諶大罵曰。汝誠人耶。涇州野如赭。人且飢死。而必得穀。又用大杖擊無罪者。段公仁信大人也。而汝不知敬。今段公唯一馬。賤賣市穀入汝。汝又取不恥。凡爲人傲天災犯大人。擊無罪者。又取仁者穀。使主人

出無馬。汝將何以對天地。尙不媿奴隸耶。諶雖暴抗。然聞言則大媿。流汗不能食。曰我終不可以見段公。一夕自恨死。』第二小段敍焦令諶悔恨之事。○以上第二大段記恤冤農之事。

及太尉自涇州以司農徵。戒其族。過岐。朱泚幸致貨幣。愼勿納。及過。泚固致大綾三百疋。太尉壻韋晤。堅拒不得命。至都。太尉怒曰。果不用吾言。晤謝曰。處賤無以拒也。太尉曰然。終不以在吾第。以如司農治事堂。棲之梁木上。泚反。太尉終。吏以告泚。泚取視。其故封識具存。』以上第三大段記不瀆貨之事。

元和九年月日。永州司馬員外置同正員外宗元。謹上史館。今之稱太尉大節者。出入以爲武人。一時奮不慮死。以取名天下。不知太尉之所立如是。」第一小段論平素所立。

宗元嘗出入岐周邠鄠間。過眞定。北上馬嶺。歷亭鄣堡戍。竊好問老校退卒。能言其

處賤トハ居ル所ノ位卑賤ナルチイフ。
棲ハ止息ノ義ニテ、シマヒ置クナリ。
封識ハ封緘ナリ。
亭ハ旅舍、鄣ハ要塞、堡ハ堡壘、戍ハ邊守ナリ。
老校ハ老退シタル士官

ナリ。
姁姁ハ和好ノ貌。
未嘗云云ハ、顔色ヲ荒ラゲテ事物ニ接セザルナリ。
言信行直ハ、言フ所信實ニシテ、行フ所正直ナルナリ。
覆校ハ繰リ返シテ調ブルナリ。

此文ハ子厚、物ニ託シテ意ヲ寓ス、梓人ヲ以テ宰相ニ喩ヘ、相ノ人材ヲ登ゲテ、大綸ヲ討論スルハ、梓人ノ衆工ヲ運用スルガ如ク、又相ノ衆人ノ職ヲ侵ス者ハ、相道ニ通ゼザル者ニシテ、梓人ノ規矩ヲ知ラズシテ、刀鋸ヲ奪ヒ藝ヲ佐クル如キ等ヲ反覆シテ論ジ來リ論ジ去ル、儲同人ノ謂フ如ク、分明ニ一篇ノ大臣論ナリ。梓人ハ大工ノ棟梁。

事。太尉爲人。姁姁常低レ首。拱レ手行レ步。言氣卑弱。未嘗以レ色待レ物。人視レ之。儒者也。遇不可。必達其志。指斃擊賊之事。決非偶然者。會州刺史崔公來。言信行直。備得太尉遺事。覆校無レ疑。或恐尚逸墜未レ集。太史氏。敢以レ狀私於執事。謹狀』段總論秀實平素有レ所レ立。其死節不レ偶然。收全篇。

## 梓人傳

主意　借梓人論宰相用人之道。道在專心智捨手藝。

裴封叔之第在光德里。有梓人款其門。願傭隙宇而處焉。所職尋引規矩繩墨。家不居斲斫之器。問其能曰吾善度材。視棟宇之制。高深圓方短長之宜。吾指使而羣工役焉。捨我衆莫能就

一宇故食於官府。吾受祿三倍。作於私家。吾收其直大半焉。他日入其室。其牀闕足。而不能理。曰將求他工。余甚笑之。謂其無能而貪祿。嗜貨者。」第一小段敍無手藝。

其後京兆尹將飾官署。余往過焉。委羣材。會衆工。或執斧斤。或執刀鋸。皆環立嚮之。梓人左持引。右執杖而中處焉。量棟宇之任。視木之能。舉揮其杖曰斧。彼執斧者奔而右。顧而指曰鋸。彼執鋸者趨而左。俄而斤者斲。刀者削。皆視其色。俟其言。莫敢自斷者。其不勝任者。怒而退之。亦莫敢慍焉。畫宮於堵。盈尺而曲盡其制。計其毫釐而構大廈。無進退焉。既成。書於上棟曰。某年某月某日某建。則其姓氏也。凡執用之工不在列。余圜視大駭。然後知其術之工大矣。』第二小段敍專心智知體要。○以上第一大段專敍梓人用百工之法。句句伏下段。

繼而歎曰。彼將捨其手藝。彼將捨其手藝。三句一篇大主意。分應前後。

裴封叔名ハ墉、子厚ノ姊ノ夫ナリ。
隙宇ハ隙宇ニシテ空屋ナリ。
尋引ハ共ニ長短ヲ度ルものさしノコト、尋ハ八尺、引ハ十丈ナリ。
規矩ハ方圓ヲ作ル器、ぶんまはしト曲尺ト。
繩墨ハ平直ヲ作ル器、すみなは。
斲ハ礪石。
斲ハ物ヲケヅル器、斧斤ノ屬。
畫宮於——建ツベキ宮室ノ圖ヲ堵上ニ畫キ、一尺足ラズノ中ニ具サニ其ノ雜形ヲ現ハシテ、其一分一釐ヲ計リテ大廈ヲ構造スルニ更ニ過不及ナシ、堵ハ垣ナリ。
圜視ハ廻リ視ルナリ。
彼將捨——彼ハ手ノワザヲ打捨テテ、智識ノミヲ專ニ磨キ立テ、其

全體ノ要ヲ知ラントスルモノカ。

能者用、能者ハ人ニ使役セラルルナリ。

徒隷ハ徭役ニ給スルモノ。

鄉帥ハ鄉ノ長、里胥ハ里ノ長。

六職ハ吏、戶、禮、兵刑、工ノ六部ナイフ。

薄ハ至ルナリ。

連率ハ禮記王制ニ、十里ノ外ニ方伯ヲ設ク、十國ヲ連トシ、連ニ帥アリト見ユ、率ハ帥ト同ジ。

嗇夫ハ小吏、訴訟、賦稅ヲ掌ル、版尹ハ戶籍ヲ掌ル小吏。

彼佐天——彼ノ天子ヲ輔佐シテ、天下ニ宰相タルモノハ、賢能ヲ擢用シテ役役ヲ加ヘ、部下ヲ指揮シテ使ヒ、其法令ニ箇條ヲ立テ、時ヲ見テ增減シ、其錯雜スル政務ヲ整頓スルコト、大工ノ規矩繩墨ヲ

專其心智而能知體要者歟。吾聞勞心者役人。勞力者役於人。彼其勞心者歟。能者用。而智者謀。彼其智者歟。是足爲佐天子相天下法矣。物莫近乎此也」。正。第一小段自喩入上下接續處。彼爲天下者。本於人。其執役者爲徒隷。爲鄉帥里胥。其上爲下士。又其上爲中士。爲上士。又其上爲大夫。爲卿。爲公。離而爲六職。判而爲百役。外薄四海。有方伯連率。郡有守。邑有宰。皆有佐政。其下有胥吏。又其下皆有嗇夫版尹。以就役焉。猶衆工之各有執伎以食力也」。第二小段言諸官吏猶衆工執伎食力。彼佐天子相天下者。擧而加焉。指而使焉。條其綱紀而盈縮焉。齊其法制而整頓焉。猶梓人之有規矩繩墨。以定制也」。第三小段言宰相使役諸官猶梓人有規矩繩墨以定制。擇天下之士。使稱其職。居天下之人。使安其業。視都知野。視野知國。視國知天下。其遠邇細大。可手

以テ宮室ノ制作ヲ定ムルガ如シ。

由ハ用フルナリ。無所德ハ、大シテ有難クモ思ハヌノ意。

衒ハ俗ニみせびらかすノ意。

伊傅周召ハ殷ノ伊尹、傅說、周ノ周公、召公。

听听ハ笑フナリ、或曰ク齗齗ニ同ジク辯爭ノ

據其圖而究焉。猶梓人畫宮於堵。而績于成也」。第四小段言宰相視遠近。據圖而究。猶梓人畫宮於堵。而績於成。能者進而由之使無所德。不能者退而休之。亦莫敢愠。不衒能。不矜名。不親小勞。不侵衆官。日與天下之英才。討論其大經。猶梓人之善運衆工。而不伐藝也」。第五小段言宰相與英才討論大經。猶梓人運衆工。不伐藝。夫然後相道得。而萬國理矣。相道既得。而萬國既理。天下擧首而望曰。吾相之功也。後之人循跡而慕曰。彼相之才也。士或談殷周之理者。曰伊傅周召。其百執事之勤勞。而不得紀焉。猶梓人自名其功。而執用者不列也」。第六小段言後人稱伊傅周召。不紀百執事之勞。猶梓人自名其功。而執用者不列。大哉相乎。通是道者。所謂相而已矣。其不知體要者反此。以恪勤爲公。以簿書爲尊。衒能矜名。親小勞。侵衆官。竊取六職百役之事。听听於府庭。而遺其大者遠者焉。所謂不通是道者也。猶梓人

貌ト。
猶梓人——猶梓人ノ尺度繩墨ノ法ヲ知ラズシテ、姑ク衆工ノ使用シテ居ル斧斤ヤ刀鋸ヲ取リ上ゲテ、其仕事ヲ手傳ヒ、又職工ヲモ抱ヘ置ク能ハズシテ、遂ニ失敗シテ落成スルコトナキト同ジ。
道謀是用ハ詩經ニ如此。彼築レ室于レ道謀ト見エ、家ヲ建ツルニ往來人ニ相談スレバ、衆議百出シテ纏マリノ付カヌコトナイフ。
圮ハ毀ルナリ。
夫繩墨——夫レ繩墨モ規矩モ確ニ設ケテ、作事ニ取カカラバ、必ズ毫釐ノ伸縮、過不及生ズル事ナシ、故ニ又高クスベキ者ハ別段抑ヘテ低クスベキコトモナラズ、又狹クスベキ處ハ、無理ニ張リテ廣クスベキ者ニアラズ、我カ云フ如ク作ラバ堅固ニ出來、然ラズンバ破壞スル筈ナリ、若シ我ガ言ヲ用ヒズ、圮ルル方ヲ用ヒントナラバ、默シテ手ヲ引キ、我技術ヲ收メ智慮ヲ隱シテ悠悠ト去リ、決シテ我

而不知繩墨之曲直。規矩之方圓。尋引之短長。姑奪衆工之斧斤刀鋸。以佐其藝。又不能備其工。以至敗績用而無所成也。不亦謬歟。』第七小段反論。○以上第二大段專論宰相用百官之法。句句應上段。

或曰。彼主爲室者。倘或發其私智。牽制梓人之慮。奪其世守。而道謀是用。雖不能成功。豈其罪耶。亦在任之而已。』第一小段疑家主不任用之罪。

余曰。不然。夫繩墨誠陳。規矩誠設。高者不可抑而下也。狹者不可張而廣也。由我則固。不由我則圮。彼將樂去固而就圮也。則卷其術。默其智。悠爾而去。不屈吾道。是誠良梓人耳。其或嗜其貨利。忍而不能捨也。喪其制量。屈而不能守也。棟橈屋壞。則曰非我罪也。可乎哉。可乎哉。』第二小段論進退在己。當退而不退。罪反在己。○以上第三大段補隙法。○道不行卽去。聖賢之旨。不外于此。極正大議論。卽畫龍點睛。

余謂梓人之道。類於相。故書而藏之。梓人蓋古之審曲面勢者。今謂之都料匠云。余

所遇者楊氏潛其名』。以上第四大段敍所以作傳。收一篇。附以梓人姓名。

## 種樹郭橐駝傳

主意　言順木之天以致其性。以喩養人之術。

郭橐駝不知始何名。病僂。隆然伏行。有類橐駝者。故鄉人號之駝。駝聞之曰。甚善。名我固當。因捨其名。亦自謂橐駝云』。以上第一大段敍名義。其鄉曰豐樂鄉。在長安西。駝業種樹。凡長安豪富人。爲觀游。及賣果者。皆爭迎取養視。駝所種樹。或移徙。無不活。且碩茂。蚤實以蕃。他植者雖窺伺傚慕。莫能如也。」第一小段敍養樹。有問之。對曰。橐駝非能使木壽且孳也。能順木之天。以致其性焉爾。先揭主意。凡植木之性。其本欲舒。其培欲平。其土欲故。其築欲密。既然已勿動。

---

此文ハ橐駝ノ樹藝法ヲ借リ、政治ノ理ヲ論ジ、官吏ノ人民ヲ愛撫スル心アリトモ、事務煩雜ニシテ、反ツテ民ノ憂患ヲ爲スヲ云ヒ、書シテ以テ官ノ戒ト爲スト筆ヲ止メタリ。

橐駝ハ駱駝ナリ。

僂ハせむしナリ。

隆然ハ曲背ノ貌。

碩ハ大ナリ。

蚤ハ早ト通ズ。

窺伺傚慕ハ窺ヒ傚フヲ云フ。

孳ハ孳殖ナリ、シゲシト訓ズ。

能順木——能ク木ノ自然ニ順ツテ、其本性ヲ遂ゲシムルニアリ。

舒ハ展ブルナリ。

故ハ舊ノ故キ土ナリ。
密ハ固ムル意。
其蒔也――其植ウル時ハ子ヲ育ツル如クス、其打チ置ク事ハ、棄ツルガ如クニシテ、更ニ顧慮スベカラズ、此ノ如クセバ、其木ノ自然ナルモノ害セラレズシテ、其本性ヲ失ハズ。
吾不害――吾ガ木ノ培養法ハ、唯木ノ生長ヲ害セザル迄ニテ、能ク之ヲシテ大ナラシムル譯ニアラズ、又其實ルコトヲ抑ヘ耗サヌマデナリ、能ク早ク蕃多ニスルコトアルニアラズ。
拳ハ屈曲ニシテ、がまるナリ。
雖曰愛――之ヲ愛ストイヘド實ハ之ヲ害スルナリ、之ヲ憂フトイヘド、實ハ之ヲ逆待スルモノトイフベシ、他人ノ吾ニ如カザルハ是ニ因ツテナリ、又何ゾ他ノ術アランヤ。
理非吾業也、國家ヲ治ムルコトハ吾輩ノ事業ニハアラズトナリ。
繰ハ繭ヲ繹キテ絲トナスナリ。
緌ハ布縷ナリ。

勿慮去不復顧。其蒔也若子。其置也若棄。則其天者全。而其性得矣。正應。故吾不害其長而已。非有能碩茂之也。不抑耗其實而已。非有能蚤而蕃之也」。第二小段言其術從性　他植者則不然。根拳而土易。其培之也。若不過焉。則不及。苟能有反是者。則又愛之太恩。憂之太勤。旦視而暮撫。已去而復顧。甚者爪其膚。以驗其生枯。搖其本以觀其疎密。而木之性日以離矣。反應。雖曰愛之。其實害之。雖曰憂之。其實讎之。故不我若也。吾又何能爲哉』。第三小段言他者反性〇以上第二大段敍問者曰。以子之道。移之官理。可乎。駝曰。我知種樹而已。理養樹。非吾業也。然吾居鄉。見長人者。好煩其令。若甚憐焉。而卒以禍。旦暮吏來而呼曰。官命。促爾耕。勖爾植。督爾穫。蚤繰而緒。蚤織而縷。字而幼孩。遂而雞豚。鳴鼓而聚之。擊木而召之。吾小人。輟

字而幼孩ハ汝ノ幼兒ヲ養ヒ教ヘヨトナリ。
飧饔ハ熟食ナリ、朝ニハ饔トイヒ、夕ニハ飧トイフ。
又何以——此如ク繁忙ニシテ寸暇ナケレバ、何ヲ以テ自家ノ生活ヲ計リ、自己ノ本性ヲ安ゼンヤ、終ニ病ミ且ツ家業ヲ怠ル、是レ種樹ノ業ト、政治ノ法ト類似スル所ナリ。
嘻ハ笑フナリ。
官戒ハ官吏ノ訓戒也。
此文ハ宋清ガ一藥舖ノ主人ニシテ、利ヲ圖ルコト遠大ナルコト、小市人ノ目前ノ小利ニ走ルト趣ヲ異ニスルコトヲ述ベ、當時ノ交際スル者ノ、炎ニ附キ寒ニ離ルル輕薄ヲ諷セリ。
居ハ積ムノ義。
優主ハ優待シテ家ニ舍ク云フ。
鬻ハ賣ルナリ。
疕ハ頭瘡ナリ。
瘍ハ身創ナリ。
糞速已ハ病氣ノ速ニ治センコトヲ願フナリ。
或不識——平生相識ラザルモノ、遙ニ券ヲ付與スル者アラバ、清亦

殮。以勞吏者。且不得暇。又何以蕃吾生。而安吾性耶。故病且怠。若是則與吾業者。其亦有類乎。』以上第三大段敍養人。問者嘻曰。不亦善夫。吾問養樹。得養人術。傳其事。以爲官戒也。』以上第四大段結上二段。

## 宋清傳

主意　言清不求小報而得大報。合士君子之道。

宋清。長安西部藥市人也。居善藥。有自山澤來者。必歸宋清氏。清優主之。長安醫工。得清藥輔其方。輒易讎。咸譽清。疾病疕瘍者。亦皆樂就清求藥。糞速已。清皆樂然響應。雖不持錢者。皆與善藥。積券如山。未嘗詣取直。或不識。遙與券。清不爲辭。歲終。度不能報。輒焚券。終不復言。市人以其異皆笑之。曰清蚩妄人也。

辭セズシテ之ニ藥ヲ貸シ與フ。歲終度云云、歲末ニハ、藥代ノ拂ヘヌ者ト思ヘバ、皆其債券ヲ焚棄テ、以後ハ口ニ出シテ復言フコトナシ。蚩妄人ハ無知無分別ノ愚人ナリ。受俸博トハ俸祿ノ多キヲイフ。相屬於戶トハ、清ニ金錢ヲ遺ル人引續キテ、門ニ出入スルヲ云フ。賒ハ緩クスルナリ。豈若小市人云云ハ、一小市人ノ目前ノ小利ニ汲汲スル如クナランヤトナリ。翦翦ハ智慮短淺ノ貌。吾見云云、余ハ余ノ外ニ愚者ノ存在スルヲ見ルナリト云フナリ。或斥棄——或ハ不運ナル者ハ世間ヨリ斥ケ棄テラレ、沈ミ廢テラレタリトモ、清ハ能ク親シク交リ、其ノ面倒ヲ見、又落寞タル者ニモ、其人ヲ待遇スルコトヲ怠ラズ、以前ノ如クニ必ズ善藥ヲ與ヘタル故、此等ノ人ノ中ニ一旦權柄ヲ得ル身分ニ回復シタル時ハ、益厚ク

或曰。清其有道者歟」第一小段敍清不求小報。清聞之曰。清逐利以活妻子耳。非有道也。然謂我蚩妄者亦謬。清居藥四十年。所焚券者。百數十人。或至大官。或連數州。受俸博。其餽遺清者。相屬於戶。雖不能立報而以賒死者千百。不害清之爲富也。清之取利遠。遠故大。豈若小市人哉。一不得直。則怫然怒。再則罵而仇耳。彼之爲利。不亦翦翦乎。吾見之有在也」第二小段敍清得大報。清誠以是得大利。又不爲妄。執其道不廢。卒以富。求者益衆。其應益廣。或斥棄沉廢。親與交視之落然者。言有斥棄沈廢之人、親戚交友視之落莫不相救。清不以怠遇其人。必與善藥如故。一旦復柄用。益厚報。清其遠取利。皆類此』敍清得報益大。○以上第一大段傳。○段中三箇道字。是士大夫之道。吾觀今之交乎人者。炎而附。寒而棄。鮮有能類清之爲者。世之言徒曰市道交鳴呼清市人也。宋清是市道交之大者故得大

清ノ恩ニ報イタリ。
落然ハ寂寞ノ貌。
復柄用トハ權勢アル職ニ用ヒラルルナイフ。
吾觀今云云、吾當今ノ人ノ交ルル樣ヲ觀ルニ、位勢炎コル如キトキハ骨肉ノ如ク親シク交リ、一旦零落スルヤ忽チ離レ棄ツ。
市道交トハ相交ルニ利ヲ以テスルナイフ。
庶幾ハ清ノ如キ者アルニ庶幾シトナリ。
少ハ短小ナリ。
清非獨——清ハ唯市井人ニ異ナルノミニアラズ、朝ニ立テル顯官達ニモ勝ル人物ナリ。

此文ハ童區寄ノ豪膽ナル事ヲ記ス、童年十一ニシテ二賊ニ縛掠セラレ、將ニ奴ニ賣ラレントセシニ、奇智ト膽力トヲ以テ二賊ヲ殺シ、難ヲ免レテ鄉里ニ歸リシヲ述ブ。
貨視之トハ財貨ヲ以テ之ヲ視、必ズ賣ルヲ期スルナイフ。
沒齒ハ亂ナリ、小兒ノ齒ノ脫ケ易ハルコト、

利。餘皆市道交之小者。故得レ利小。今之交。有能望レ報如レ淸之遠レ者乎。幸而庶幾。則天下之窮困廢辱。得レ不死亡レ者衆矣。市道交。豈可レ少耶。或曰。淸非レ市道人レ也。」君子不レ求レ報而報至。老子曰。以二無私一成二其私一是也。柳先生曰。淸居レ市不レ爲レ市之道。一句一篇主意歸宿處。市之道謂二市道之小者一。至二其大者一則與二士大夫之道一同。然而居二朝廷一。居レ官府一。居二庠塾鄉黨一。以二士大夫自名一者。反爭爲レ之不レ已。悲夫。然則淸非レ獨異二於市人一也。」第二小段更進二一層一言淸不レ獨勝二市人一。勝二士大夫一。○以上第二大段論。○段中四箇市道字。反應第一段三箇道字。

## 童區寄傳

主意　敍童區之奇。故奇字前後照應。

柳先生曰。越人少レ恩。生二男女一必貨レ視之。自沒齒已上。父兄鬻賣以覬二其利一。不レ足則盜取他室。束縛鉗梏之。至有二鬚鬣者一。力不レ勝

七八歳比ナリ。
鉗ハ鐵ヲ以テ之ヲ束ヌルナリ。
梏ハ手械ナリ。
鬣ハ長髪ナリ。
幸得云云ハ、已幸ニ執掠ヲ免レテ壯大ニ至ラバ、則チ復タ小弱ヲ縛取スルコトヲ以テ業トシテ為ス。
么ハ小ナリ、
羨ハ薪ヲ採ルナリ。
反接ハ兩手ヲ反縛スルナリ。
布囊其口トハ、布囊ヲ以テ其口ヲ塞グヲ云。
虚所ハ野ノ市場ナリ、墟ト同ジ。
力ハ勤ムルナリ。
為市ハ童ヲ賣ル示談ノ為ニ市場ヘ行クナリ。
僮童共ニ童子ノコトナレドモ、唯賊ノ辭トシテ僮ト書キ、記者ノ語トシテ童ト書ケリ。

皆屈為僮。當道相賊殺以為俗。幸得壯大則縛取么弱者。漢官因為己利。苟得僮。恣所為不問。以是越中戸口滋耗。少得自脫。惟童區寄。以十一歳勝。斯亦奇矣。揭主意。桂部從事杜周士為余言之。』以上第一大段敍論。童寄者柳州羸牧兒也。行牧且羸。一豪賊刦持反接。布囊其口。去逾四十里。之虚所賣之。寄僞兒啼恐慄。為兒恆狀。賊易之。對飲酒醉。一人去為市。一人臥植刃道上。童微伺其睡。以縛背刃。力下上得絶。因取刃殺之。逃未及遠。市者還。得僮大駭。將殺。童遽曰。為兩郎僮。孰若為一郎僮耶。彼不我恩也。郎誠見完與恩。無所不可。市者良久計曰。與其殺是僮。孰若賣之。與其賣而分。孰若吾得專焉。幸而殺彼甚善。即藏其尸。持僮抵主人所。愈束縛牢甚。夜半童自轉。以縛即爐火燒絶之。雖瘡

手勿憚。復取刃殺市者。因大號。一虛皆驚。童曰。我區氏兒也。不當爲僮僕二人得我。我幸皆殺之矣。願以聞於官。虛吏白州。州白大府。大府召視兒。幼愿耳。刺史顏證奇之。照應前段。留爲小吏。不肯。與衣裳。吏護還之鄉。第一小段敍童殺二盜之事。鄉之行刦縛者。側目莫敢過。其門。皆曰。是兒少秦武陽二歲。而討殺二豪。豈可近耶。』第二小段敍鄉人畏敬。○以上第二大段本傳。

唐宋八家文讀本卷九終

大府ハ節度府ナリ。
愿ハ謹ナリ、風姿ノ柔和ナルコト。
鄉之行——鄉里ノ刦縛ヲ行フ惡漢ドモハ之ヲ聞キ、目ヲ側テ恐レ、敢テ門前ヲ通過セズシテ、皆云フ、此兒秦武陽ヨリ二歲少キ少年ニテアリナガラ、二人ノ勇士ヲ討殺セリ、豈近寄ル可ケンヤト。
秦武陽ハ戰國ノ時ノ燕ノ勇士ナリ、年十三ニシテ人ヲ殺シ、人敢テ忤視セズト戰國策ニ見エタリ。

# 唐宋八家文讀本卷十

清　沈德潛　確士　撰
日本　三島毅　遠叔　評

## 論選皇子疏

主意　言選宗室中賢者養爲皇子以備他日儲位。

臣聞言天下之難言者不敢冀必然之聽知未必聽而不可不言者所以盡爲忠之心就他言。況臣遭遇聖明容納諫諍言之未必不聽其可默而不言第二小段就己言。第一大段敍進言之由。臣伏見自去歲以來羣臣多言皇嗣之事一句微露主意。臣亦嘗因災異竊有奏陳雖聖度包容不加誅戮而愚誠懇至天聽未回臣實不勝愛君之心日

疏ハ楚辭注ニ陳布ナリトアリ、羣臣ヨリ上奏陳述スル所ノ論文ナイフ。

言天下——言ヒ難キ事ヲ敢テ言ヒ、以テ君ニ諫諍スルモノハ、已ノ言ノ必ズ容ルル所トナランコトヲ期待スルニハアラズ、而シテ其言フ所ノ諫諍ガ、必ズシモ君ノ容ルル所トナルル能ハザルヲ知リテ、ナホ進ンデ君前ニ於テ爭フモノハ、忠臣ノ君ニ報ズル所以ナリ。羣臣多言云云、去年以來羣臣奏シテ皇嗣ヲ定メンコトヲ請願セルヲ

夜區區未嘗忘此思欲再陳狂瞽而未知所以爲言」第一小段敍欲再陳而未得機。

今者伏見兗國公主近已出降臣因竊思人之常道莫親於父子之親人之常情亦莫樂於父子之樂雖在聖哲異於凡倫其爲天性於理則一陛下嚮雖未有皇嗣而尙有公主之愛上慰聖顏今既出降漸疎左右則陛下萬幾之暇處深宮之中誰可與語言誰可承顏色」之情語語動人。是歐公長處。故一篇精采全在此。臣愚以謂宜因此時出自聖意於宗室之中選材賢可喜者錄以爲皇子使其出入左右問安侍膳亦足以慰悅聖情』第三小段發主意。以上第二大段論願意。

臣考於書史竊見自古帝王雖曰至尊未嘗獨處也其出而居外也不止百司公見奏事而已必有儒臣學士講論於閒宴又有左右侍從顧問語言其入而居內也不止宦官宮妾在於左

イフ、仁宗子無シ、故ニ此議アリ。

聖度包容トハ叡慮寬大ニシテ容ルル所多キナリ。

陳狂瞽トハ、取ルニ足ラザル說ヲ謙ムル義、謙遜シテイフ、狂ハ事理ヲ解セザルモノ、瞽ハ黑白ヲ辨セザルモノ。

衮國公主ハ仁宗ノ皇女、衮國ハ封國ノ名、公主ハ內親王ナリ、出降ハ降嫁スルコト、皇族ニシテ臣下ニ嫁スルヨリ降トイフ、衮國公主ノ如キ、璋ニ嫁シタルヲイフナリ。

在聖哲——聖賢ノ人（天子ヲ指ス）本ヨリ其智慮凡人トハ異ナレドモ、其天性タル理ニ於テハ卽チ同一ナリ。

萬幾之暇ハ政治ヲ聽ク合閒ナリ。

承顏色トハ御氣色ヲ伺フトイフニ同ジ、顏色ヲ察シテ安否ヲ問フナリ。

閒宴ハ閒暇燕居ノ時。

宦官宮妾ハ侍人宮女。

平居燕寢ハ休息御寢ナリ。

前後殿、前殿ハ文德殿、後殿ハ紫宸殿。百司ハ百官。

甚幸者ハ寵臣。

德音ハ天子ノ御聲。

從容ハ寬ナル貌。

區區ハ小ナル貌。

宗廟ハ先祖ノ廟、社稷ハ國家ノコト。

皇子未降ハ皇子未ダ降誕アラザルコト。

儲位儲貳ハ皇太子ノ義ナリ。

右而已。其平居燕寢也。則有太子問安侍膳於朝夕。其優游宴樂也。多與宗室子弟。懽然相接如家人。計其一日之中。未嘗一時獨處也。」敍古。第一小段今陛下日御前後殿。百司奏事者。往往仰瞻天顏而退。其甚幸者。得承一二言之德音。君臣之情不通。上下之意不接。其餘在廷之臣。儒學侍從之列。未聞一人從容親近於左右。入而居內。則至於問安侍膳。亦闕於朝夕。是則陛下富有四海之廣。躬享萬乘之尊。居外則無一人可親。居內則無一人得親。此臣所以區區而欲言也。」第二小段論今。○以上第三大段引古論今不然。伏惟陛下荷祖宗之業。承宗廟社稷之重。皇子未降。儲位久虛。羣臣屢言。大議未決。臣前所奏陳。以謂未必立爲儲貳。而且養爲子。既可以徐察其賢否。亦可以侍皇子之降生。於今爲之。亦其時也。臣

劄子ハ疏ノ一體。

言狂計愚。伏俟斧鉞。』以上第四大段繳收主義。

## 論議濮安懿王典禮劄子

主意　言安懿王英宗本生父。不可稱皇伯。

臣伏見朝廷議濮安懿王典禮。兩制知制誥有內外禮官。故曰兩制。禮官。請稱皇伯。中書之議。以謂事體至大。理宜慎重。必合典故。方可施行。而皇伯之稱。考於經史。皆無所據。方欲下三省百官。博訪羣議。以求其當。陛下屈意。手詔中罷。而衆論紛然。至今不已。臣以爲衆論雖多。其說不過有三。第一小段言朝議紛然不已。其一曰宜稱皇伯者。是無稽之臆說也。其二曰簡宗廟致水災者。是厚誣天人之言也。其三曰不當用漢宣哀爲法。以干亂統紀者。是不原本末之論也。臣請

兩制トハ知制誥ノ內制及外制二官ナイフ、制誥卽チ詔書ヲ草スルコトヲ掌ル。

請稱皇伯トハ、初メ仁宗子ナシ、太宗ノ孫安懿王ノ子宗實ヲ養ツテ子トナス、立ツテ英宗トイフ、是ニ於テ其實父タル濮ノ安懿王ヲ崇奉シテ、皇伯ト稱セントノ議アルナイフ。

中書ハ三省ノ中書省ナリ。

三省ハ尙書省、中書省、門下省ナリ。

手詔ハ天子親筆ノ詔書、中罷ハ中止ナリ。

無稽之臆說トハ據リ所ナキ空說ナイフ。

簡宗廟致水災トハ、宗廟ノ祭祀ヲ粗略ニシタ

ルヨリ、水災ヲ招キタリトノ風評、英宗ノ治平二年八月大洪水アリ、此時仁宗ノ梓宮遺骸ノ侑殯ニ在リ、然レドモ斯ル風評ハ、天ハヲ誣フルモノニシテ、取ルニ足ラズトナリ。

漢宣哀ハ漢ノ宣帝及哀帝ナリ、宣帝ハ史皇孫ノ子、武帝ノ曾孫也、昌邑王ニ代リテ位ニ即ク、哀帝ハ定陶恭王(定陶ハ邑名、恭王ハ諡)ノ子、元帝ノ孫ナリ、成帝子ナシ、後位ニ即ク、以テ今ノ英宗ノ例典トナスベシトノ議アルヲイフ。

本末ハ即チ皐伯事件ノ顚末ナリ。

齊衰期ノ喪ハ縗ト同ジク喪服ナリ、齊ハ裳下ノ緝ナリ、期ハ十二箇月一周スルヲイフ、コレ諸父ノ喪ナリ。

降服トハ養家ヲ重ンズルタメニ、三年ノ喪ヲ減ジテ、其以下ノ年月ヲ以テ喪期ト爲スヲ云フ。

開元禮ハ百五十卷アリ、唐ノ蕭嵩ノ著ス所トス、開元ハ唐ノ玄宗ノ年號ナリ。

爲陛下條列而辨之』厚誣天人之言、不原本末之論三大綱。而無稽之臆說。大綱中尤大綱。謹按儀禮喪服記。曰爲人後者。爲其父母報。報者。齊衰期也。謂之降服。以明服可降。父母之名不可改也。又按開元開寶禮。國朝五服年月。喪服令。皆云爲人後者。爲其所生父。齊衰不杖期。蓋以恩莫重於所生。故父母之名不可改。義莫重於所繼。故寧抑而降其服。四語揭此聖人所制之禮。著之六經。以爲萬世法者。是中書之議所據依也。若所謂稱皇伯者。考於六經無之。方今國朝見行典禮及律令皆無之。自三代之後。秦漢以來諸帝。由藩邸入繼大統者。亦皆無之。可謂無稽之臆說矣。第一小段言古今典禮。不沒所生父母之名。

夫儀禮者。聖人六經之文。開元禮者。有唐三百年所用之禮。開寶通禮者。聖宋百年所用之禮。五服年月及喪服令。亦皆祖宗

累朝ノ所レ定ムル。方今天下共ニ行之制ナリ。今議者皆棄テ而不レ用ヒ。直ニ欲スル自用ヒント無稽之臆說ヲ。此レ所以ニ不レ可カラ施行ス也ト。』○以上第二小段駁ニ議者棄ニ古今典禮一。其二曰フ下。簡ニ宗廟ヲ致ス水災ヲ者ハ。臣伏シテ以ニ上天降レ災ヲ。皆主ニ人事ヲ一。故自リ古聖王。逢ニ災ヲ恐懼シテ多ク求メテ闕政ヲ而修レ之ヲ。或ハ自知ツテ過失ヲ而改ニ悔之ヲ一。庶幾テ以塞グ天譴ヲ一。然レドモ皆須ツテ人事ニ一已ニ著ハルルヲ於下ニ一。則天譴ヲ爲ス形ハルルヲ於上ニ一。今者濮王之議。本ツテ因ニ兩制禮官ヲ一。違ヒ經ニ一棄テ禮ヲ一。用ヒ其無稽之臆說ヲ一。欲スルニ定メント皇伯之稱ヲ一。中書疑ヒ其未ダ可ラ施行スルニ一。乃チ考ニ古今ノ典禮ヲ一。雖有リト明據ニ一。亦未ダ敢テ自信シテ而自專ニセズ一。方更ニ求ムル下シテ外廷ニ一博議センコトヲ。而陛下遽ニ詔シテ中罷ゴロノメント。欲スレ使メント有司徐ニ求ニ典禮ヲ一。是則臣下ノ愼ニ重スルノ如レ此ニ。人君ノ謙ニ畏スルノ如レ此ニ。君臣不敢テ輕ニ議妄擧セ一。而天遽ニ譴怒シテ殺レ人ヲ害スル物ヲ。此レ臣ガ所謂厚ク誣フルヲ天也ト。議猶ホ未ダ決セ。仍ツテ罷メテ不レ議セ。而更ニ謂フ兩統ニシテ一父ヲ。以テ致ス天災ヲ者ハ。厚ク誣フル人ヲ也ト。』以上第三大段辨ニ第二綱一。其三引ニ漢宣哀

開寶禮ハ二百卷アリ、宋ノ溫叟劉ノ著ニシテ、開寶ハ宋ノ太祖ノ年號。
五服年月トハ喪服ノ年月ニ五等アルナリ、五等トハ已ヨリ上ハ高祖ニ至リ、下ハ玄孫ニ至リ、旁ラ族兄弟ニ至ル。
齊衰不杖期トハ、齊衰ノ服チ服シ、杖ツカズシテ、一周年ノ忌チ行フチイフ、杖ツクチ杖期トイヒ、杖ツカザルチ不杖期トイフ、杖ツクハ重ク、杖ツカザルハ輕シ。
見行ハ現行ナリ。
大統ハ天子ノ血統ナリ。
六經トハ詩、書、易、春秋、禮、樂ノ六經書チイフ。
三代ハ夏殷周ノ三時代ナリ。
皆須人云云、人事（過失等）既ニ成立シテ後、始テ天罰至ルコト顯著ナルナリ、事件未ダ落著セズ、ナホ評議中ニ在リ、然ルニ天譴怒シテ洪水チ降ス、理ニ於テ當ラズ、其風評ノ無稽ナルチ知ルベシトノ意。

明據ハ明カナル證據。
兩統二父トハ、養父實父ノ兩父ヲ兩統ニ立ツルヲイフ。
臣下愼——臣下ノ事ヲ愼重ニナセシコト此ノ如ク、君主ノ御遠慮遊バサルルコトモ亦此ノ如クナレバ、君臣共ニ愼重ノ態度ヲ取リ、決シテ輕擧妄動セルモノニアラザルコト明白ナリ、サレバ天ノ怒リ、又人ヲ罰スベキ理ハ之有ラザルナリ。
奉邑ハ宗廟ノ祭祀ニ奉ル邑、寢園トハ陵寢、塋域ヲイフ。
爲人後——他家ノ相續人タルモノハ本生ノ父母ノ爲ニ喪ヲ服ス。
昭穆ハ宗廟ノ制、中ニ太祖ノ廟アリ、左ニ二代右ニ三代ト、左右順次ニ列ヲ立ツ、左ヲ昭、右ヲ穆トイヒ、天子ハ三昭三穆、之ニ太祖ノ廟ヲ加ヘテ七廟ナリ、此事禮記王制ニ見ユ。
去定陶ハ定陶ノ名ヲ去ルナリ、不以國ハ國號ヲ呼ブコト無カランヲ欲スルナリ。

之事者。臣謹按漢書。宣帝父曰悼皇考。初稱親。謚曰悼。置奉邑寢園而已。其後改親稱皇考。而立廟京師。皇考者。親之異名爾。皆子稱其父之名也。漢儒初不以爲非也。自元帝以後。貢禹韋玄成等。始建毀廟之議。數十年閒。毀立不一。至哀帝時。大司徒平晏等。百四十七人奏議云。親謚曰悼。裁置奉邑。皆應經義。是不非宣帝稱史皇孫爲親也。戾太子納史良娣。生皇孫進。從母姓。稱史皇孫。史皇孫生宣帝。所謂應經義者。卽儀禮云。爲人後者。爲其父母報是也。惟其立廟京師。亂漢祖宗昭穆。故晏等以謂。兩統二父非禮。宜毀也。」者引漢宣故事。定陶恭王。恭王哀帝本生父。初但號共皇。立廟本國。師丹亦無所議。至其後立廟京師。欲去定陶。不繫以國。有進干漢統之過。丹遂大非之。故丹議云。定陶恭皇謚號。已前定議。不得復改。而但論立廟京

師爲不可爾。然則稱親置園。皆漢儒所許以爲應經義者。惟去其國號。立廟京師。則不可爾。」第二小段駁議。引漢哀故事。今言事者。不究朝廷本議何事。不尋漢臣所非者何事。此臣所謂不原本末也。』結前二小段。第三小段駁不原本末之論。○以上第四大段辨第三綱。中書之議。本謂稱皇伯無稽。而禮經有不改父名之義。方議名號猶未定。故尊崇之禮。皆未及議。而言事者。便引漢去定陶國號。立廟京師之事。厚誣朝廷。以爲干亂大統。何其過論也。」第一小段論議者誣朝廷。夫去國號而立廟京師。以亂祖宗昭穆。此誠可非之事。若果爲此議。宜乎指臣等爲姦邪之臣。而人主有過舉之失矣。其如陛下之意。未常及此。而中書亦初無此議。而言事者。不原本末。過引漢世可非之事。以爲說。而外庭之臣。又不審知朝廷本議如何。但見言事者云云。遂以爲欲加非禮。干

然則稱——實父ヲ親ト稱シ、寢園ヲ設クルコトハ、古來漢儒ノ認メテ正當トナス所、只國號ヲ去ツテ廟ヲ京師ニ立ツルヲ不可トスルノミ、國號ヲ立ツルハ諸侯ノ格式ニシテ、之ヲ去ラバ則チ天子ノ格式ヲ備フレバナリ。

夫去國——臣等果シテ國號ヲ去リ、廟ヲ京師ニ立テ、昭穆ヲ紊亂スル如キ議ヲ建テタラン ニハ、彼等ノ言フ如ク、姦邪ノ臣ト評セラレンモ宜ナリ、而シテ臣等ヲ擧用シタル陛下モ、亦過擧ノ失ヲ免レザルベシ。

未常及ノ常ハ嘗ト通ズ。

衆口一辭トハ異口同音ニ喧シク非難スルナリ。

啜啜ハ讙聲。

夫爲人——他人ノ家ヲ相續スル者ハ、其相續ス可キ家ノ養父ヲ父トナス、然リ而シテ聖人ノ禮ニ、尙實父ノ名義ヲ保存セルハ、枉ゲテ理窟ヲ作リタルニ非ズ、凡ソ天地開闢ノ昔ヨリ、父無クシテ生ルル子アラズ、既ニ父アリトセバ、之ヲ諱ムハ正當ト言フ可カラズ。

故爲人——故ニ他家ヲ相續スル者ハ其家ノ重任ヲ負ヒ、一切子ノ權



亂統紀。信爲然矣。是以衆口一辭。紛然不止。而言事者。欲必遂其皇伯無稽之說。牽引天災。恐迫人主。而中書守經執禮之議。反指以爲姦邪之言。朝廷以言事之臣。禮當優容。不欲與之爭辨。而外庭羣論。又不可家至而戶曉。是非之禮不辨。上下之情不通。此所以啜啜而不止也。』○以上第五大段覆論第二綱第三綱。夫爲人後者。既以所後爲父矣。而聖人又存其所生父名者。非曲爲之意也。蓋自有天地以來。未有無父而生之子也。既有父而生。則不可諱其所生矣。夫無子者。得以宗子爲後。是禮之所許也。然安得無父而生之子。以爲後乎。此聖人所以不諱無子者。立人之子。以爲後。亦不諱爲人後者。有父而生。蓋不欺天。不誣人也。故爲人後者。承其宗之重。任其子之事。而不得復歸於本宗。其

所生父母。亦不得往與其事。至於喪服。降而抑之。一切可以義斷。惟其父母之名不易者。理不可易也。二句一篇本意。易之則欺天而誣人矣。子爲父母服謂之正服。出爲人後者。爲本生父母齊衰期。謂之降服。又爲所後父斬衰三年。謂之義服。今若以本生父爲皇伯。則濮安懿王爲從祖父。反爲小功。而濮王夫人。是本生嫡母也。反爲義服。自宗懿以下。本生兄弟。於禮雖降猶爲大功。是禮之齊衰期。今反爲小功。禮之正服。今反爲義服。雖降爲骨肉。猶言爲本生母齊衰三年。是正服。雖降服猶齊衰期也。猶是正服。今爲從祖父妻。卽從祖母也。小功五月。與從祖父同。從祖母非骨肉。故曰義服。上於濮王父也。反服小功。於宗懿等兄弟也。反服大功。此自古所以不稱所生父爲伯父叔父者。稱之則禮制乖違。人倫錯亂。如此也。』大段發揮主意。論破第一綱無稽之說。伏惟陛下聰明睿聖。理無不燭。今衆人之議如彼。中

利ヲ得テ、再ビ本家ニ復歸スルコトヲ得ズ、實父母モ養家ノ事ニ關シテハ、喙ヲ容ルルコトヲ得ズ、サレバ喪服ノ如キモ、實父母ノハ養父母ノヨリモ降シテ抑ヘ、名義ニ於テ親子ノ關係ヲ斷ツベシ、惟ダ所生父母ノ名ノミハ、理ニ於テ易フルコトナシ、若シ強ヒテ之ヲ易ヘバ、コレ天ヲ欺キ、人情ニ戻ルモノナリ。

斬衰ハ裁チ放シタルママニテ緝セザル服ニ、義服ハ義父義兄ナドノ義ト同ジク、名義ヲ主トシタル表向キノ喪服。

小功ハ父ノ從兄弟ノタメニ服スル喪服、五月ノ服ナリ。

本生嫡母トハ妾腹ノ子ヨリイヒ、父ノ本妻ヲイフ、英宗ハ濮王ノ庶子ナリ、宗懿ハ安懿王ノ子ニシテ、英宗ニハ本生ノ兄弟ナリ。

大功ハ喪服ノ名、九月ノ服。

聰ハ耳ノ敏ナルコト、明ハ目ノ敏ナルコト、賢明ノ義。

滯然ハ沛然ニ同シ、盛大流行ノ貌。

柿樹ノ膚ニ太平之道ノ四字現ハレタルヲ、祥瑞ナリトシテ澧州ノ知事ヨリ献上セシニ、歐陽修此文ヲ上リテ之ヲ排斥セリ。

西羌ハ西夏ノ賊、仁宗ノ朝猖獗ヲ極メ、大夏皇帝ト僭號シ、屢ゝ西

書之議如此。必將從衆乎。則衆議不見其可。欲違衆乎。則自古爲國。未有違衆而能擧事者。願陛下霈然下詔。明告中外。以皇伯無稽。決不可稱。而今所欲定者。正名號爾。至於立廟京師。干亂統紀之事。皆非朝廷本議。庶幾羣疑可釋。若知如此。而猶以謂必稱皇伯。則雖孔孟復生。不能復爲之辨矣。』以上第七大段論處置。

## 論澧州瑞木乞不宣示外廷箚子

主意　言瑞木乃誤事之妖木。

臣近聞。澧州進柿木成文。有太平之道四字。其知州馮載。本是武人。不識事體。便爲祥瑞。一句既含妖木意。以媚朝廷。』以上第一大段提大意。臣謂前世號稱太平者。須是四海晏然。萬物得所。方今西羌叛逆未平

之患在前。北虜驕悖藏伏之禍在後。一患未滅。一患已萌。加以西則瀘戎。南則湖嶺。凡與四夷連接。無一處無事。而又內則百姓困弊。盜賊縱橫。昨京西陝西出兵八九千人。捕數百之盜。不能一時翦滅。只是僅能潰散。然卻於別處結集。今張海雖死。而達州軍賊。已近百人。又殺使臣。其勢不小。興州又奏八九十人。州縣皇皇。何以存濟。以臣觀之。乃是四海騷然。萬物失所。實未見太平之象。』以上第二大段論無太平之實。臣聞天道貴信。示人不欺。臣不敢遠引他事。只以今年內事驗之。昨夏秋之閒。太白經天。累月不滅。金木相掩。近在端門。考於星占。皆是天下大兵將起之象。豈有纔出大兵之象。又出太平之道字。一歲之內前後頓殊。豈非星象麗天。異不虛出。凡於戒懼。常合修省。而草木萬類。變化無常。

邊ニ寇ス。
北虜ハ契丹、西羌元昊ノ反ニ乘ジ、瓦橋關以南ノ地ヲ窺フ。
瀘ハ州名、本巴國ノ地ナリ。
張海ハ慶曆中ニ跋扈シタル劫盜。
皇皇ハ周章ノ貌。
四海ハ海內ナリ。
失所ハ寧處スル所ナキナリ。
臣聞ク天ノ人ニ吉凶ヲ示ス、歎ク所ナシト、遠キヲ引證スル迄モナシ、近ク近年ノ事ヲ以テ之ヲ驗センニ、昨年夏秋ノ交、金星(太白)晝見エ(經天)、月ヲ重ネテ消エズ、金星ト木星ト相犯シテ(仁宗ノ慶曆三年此事アリ、端門ニ在リ(天上太微ノ南門、太微ハ天子ノ宮ニ象ル所)、之ヲ星占ニヨッテ占フニ、天下大ニ亂レント

スルノ兆ナリト、今柿樹ニ太平之道ノ字ヲ見ハス、之ヲ太平ノ兆トセバ、一歲ノ内ニ於テ、大亂太平前後相衝突スルモノ、豈此理アランヤ、星象ノ異ハ虛事ニ非ズ、草木變化ノ異ハ常無クシテ、信據ス可キモノニ非ズ、夫レ懈怠シテ可ナランヤ。

逸豫ハ懈怠ナリ。

近京得雪云云、舊唐書ニ雪ハ是五穀ノ精ナリ、其汁ヲ以テ種ニ和スレバ、則チ年穀大穰スト見ユ。

北虜ハ契丹。

西賊ハ西夏。

芝草ハ靈芝、王者耆老ヲ禮スレバ則チ生ズトイフ。

不可信憑便生懈怠。以上第三大段論星象可信草木不可信。臣又思。若使木文不僞實是天生。則亦有深意蓋其文止曰太平之道者。其意可推也。夫自古帝王致太平。皆自有道。得其道則太平。失其道則危亂。臣視方今。但見其失。未見其得也。願陛下憂勤萬務。擧賢納善。常如近日不生逸豫。則三二歲閒。漸期修理。」論天意。若以前賊張海等小衰。便謂後賊不足憂。以近京得雪。便謂天下大豐熟。見北虜未來。便謂必無事。見西賊通使。便謂可罷兵。指望太平。漸生安逸。則此瑞木。乃誤事之妖木耳。』第二小段論誤事瑞木卽妖木。一篇主意。○以上第四大段論天意在得太平之道。遂歸到主意。臣見今年曾進芝草者。今又進瑞木。竊慮。四方相效。爭造妖妄。其所進瑞木。伏乞更不宣示臣寮。」第一小段言不宣示臣寮。仍乞速詔天下州軍。告以興兵累年。四海困敝。方當責己憂勞之際。凡有奇

取進止ハ取捨御意ノママナリトノ義、奏劄文之ヲ以テ結ブ例ナリ。

王莽ノ時識緯ノ學興ル、劉音夏賀良ノ徒ノ僞造スル所ニシテ、經書ニ對シテ緯書ト稱ス、孔子ノ言ニ託シテ將來ノ驗ヲ述ベタルモノ、歐公盡ク之ヲ九經ノ正義中ヨリ刪去センコトヲ請フ、九經ハ、詩、書、易、周禮、儀禮、禮記、春秋、孝經及論語ナリ。

暴秦焚書云云、秦始皇卅四年、李斯ノ議ヲ用ヒ、諸生ノ朝政ヲ非議スル者ヲ防遏センガ爲ニ、詩書百家ノ書ヲ焚キ、挾書ノ禁ヲ布キ、翌年儒生六百人ヲ坑ニス、是ニ於テ學士皆難ヲ避ケテ逃散シ、經子

禽異獸草木之類。並不得進獻。所以彰示聖德。感勵臣民。取進止。』第二小段言詔天下禁進獻。○以上第五大段處置。

## 論刪去九經正義中識緯劄子

主意　言欲成敎化。在去識緯。

臣伏見國家近年以來。更定貢擧之科。以爲取士之法。建立學校。而勤養士之方。』第一小段言貢擧學然士子文章未純。節行未篤。不稱朝廷勵賢興善之意。所以化民成俗之風。』第二小段言敎化未成。化民成俗四字結末伏案。○以上第一大段先提敎化之不成。臣愚以謂。士之所本。在乎六經。而自暴秦焚書。聖道中絕。漢興收拾亡逸。所存無幾。或殘編斷簡。出於屋壁。而餘齡昏眊。得其口傳。去聖既遠。莫可考證。偏學異說。因自名家。

諸傳多ク烏有ニ歸ス、秦亡ビテ漢初武帝ノ時ニ至リ、孔子ノ舊宅ヲ毀チテ壁中ニ書ヲ得タリ、古文尚書之ナリ、又古文孝經アリ、尚ホ別ニ漢初濟南ノ人伏勝ノ傳ヘタル尚書二十九篇アリ、時ニ伏勝年九十餘、老衰シテ目昏ク（餘齢昏耄）歩行ニ堪ヘズ、文帝太常掌故晁錯ヲシテ其家ニ就キ、其口誦スル所ヲ筆記セシム、尚書モト百篇アリ、漸ク二シテ廿九篇ヲ得タリ、魏以後、僞書百出、各箋傳ヲ爲リテ經文ニ附著シ、學者茫然（昏昧）トシテ歸スル所ヲ知ラズ、唐太宗ノ時ニ至リテ、時ノ名儒孔穎達諸人ニ詔シテ、九經ノ疏注ヲ選定シ、正義トシテ經書ノ面目ヲ復舊スルモノ數百篇ニ及ブ。非聖之書トハ讖緯ノ書ヲ指シテイフ。

然而授受相傳。尚有師法。暨晉宋而下。師道漸亡。章句之篇。家藏私畜。其後各爲箋傳。附著經文。其說存亡以時好惡。學者芒昧。莫知所歸。」經說雜出。不歸于一。至唐太宗時。始詔名儒。撰定九經之疏。號爲正義。凡數百篇。自爾以來。著爲定論。凡不本正義者。謂之異端。則學者之宗師。百世之取信也。然其所載既博。所擇不精。多引讖緯之書。以相雜亂。怪奇詭僻。所謂非聖之書。異乎正義之名也。』說未盡除去。○以上第二大段言緯書之不正。臣欲乞特詔名儒學官。悉取九經之疏。刪去讖緯之文。使學者不爲怪異之言。惑亂。然後經義純一。無所駁雜。其用功至少。其爲益則多。」第一小段正說。臣愚以爲欲使士子學古勵行。而不本六經。欲學六經。而不去其詭異駁雜。欲望功化之成。不可得也。應首段。以收一篇。伏望聖慈。下臣

付外トハ外庭ノ諸役員ノ協議ニ付スルコト。

臺諫ハ御史ト諫官トナリ、陳旭陰ニ宦者ニ結ビテ、大ニ寵幸ヲ得、仁宗ノ嘉祐六年唐介范師道等上疏シテ極諫ス、帝怒リテ唐介等ヲ貶ス、乃チ歐公此文ヲ上リテ、唐介等ヲ早ク呼戻シテ、復官セシムベキコトヲ論ズ。碌碌ハ人ニ隨從スル貌。不次ハ次第ヲ經ザル義、特別。謀猷啓沃トハ、謀略ヲ獻ジ、忠言ヲ上ルコト。蔑爾ハ皆無ナルコト。

諍臣ハ諫臣。

之言。付レ外詳議。今取進止。『第二小段反說。○以上第三大段言ヲ删緯書則敎化可ヲ興。是處置。

## 論臺諫官唐介等宜早牽復劄子

主意　言平生立レ朝有二本末一故言二難レ言之大臣一。是不レ改二平生之節一也。

臣材識庸暗。碌碌於衆人中。蒙陛下不次拔擢。置在樞府。其於報效。自宜如何。而自居職以來。已逾半歲。凡事關大體。必須衆議之協同。其餘日逐進呈。皆是有司之常務。至於謀猷啓沃。蔑爾無聞。上孤聖恩。下愧清議。人雖未責。臣豈自安。所以日夜思惟。願竭愚慮。苟有可採。冀彼萬一。』以上第一大段上言前敍。臣近見諫官唐介。臺官范師道等。因言陳旭事得罪。或與小郡。或竄遠方。陛下自臨御以來。擢用諍臣。開廣言路。雖言者時有中否。而聖慈每

賜優容。一旦臺諫。聯翩被逐。四出。命下之日。中外驚疑。臣雖不知臺諫所言是非。但見唐介范師道。皆久在言職。其人立朝各有本末。前後補益甚多。豈於此時。頓然改節。故爲欺罔。上昧聖聰。在於人情。不宜有此。』以上第二大段揭大意。臣竊以謂。自古人臣之進諫於其君者。有難有易。各因其時而已。若剛暴猜忌之君。不欲自聞其過。而樂聞臣下之過。人主好察。多疑於上。大臣側足畏罪於下。於此之時。諫人主者難。而言大臣者易。第一節論進諫之難時。若寬仁恭儉之主。動遵禮法。自聞其失。則從諫如流。聞臣下之過。則務爲優容。以保全之。而爲大臣者。外秉國權。內有左右之助。言事者未及見聽。而怨仇已結於其身。故於此時。諫人主者易。言大臣者難。二句是主。他皆陪。此不可不察也。」第一小段論進諫之難易。自古人主之

聯翩ハ連續絶エザルコト、當時旭ノ事ニ依リテ罪ヲ獲ル者、介師道ノ外趙抃呂誨等アリ。

言職ハ言ヲ進ムル官ヲイフ。

頓然ハ急遽ノ貌。

側足ハ危惧安ンゼザルナリ。

自古人——君タル者ノ臣下ノ言ヲ聽クニモ、亦聽キ難キト耳ニ入リ

易キトアリ、故ニ聽ク者ハ宜シク言フ者ノ心術チ了解スルチ要ス、若シ忠邪ノ言、公私ノ論、一時ニ耳ニ入ル時ハ、之ガ正邪公私チ辨別スルコトハ難シ、若シ又其言フ者ノ忠邪チ知リ、其言ノ公私チ知リ、而シテ後ニ其言論チ聽ク時ハ、言論ノ忠邪公私チ聽キ別クルコト甚ダ容易ナリ、凡ソ言拙クシテ朴直ニ、耳ニ逆ヒ意ニ違ヒテ、初テ聞イテ惡ム可ク感ズルハ忠臣ノ言ナリ、言婉麗ニシテ柔順ニ、心ニ適ヒ旨ニ合ヒ、初テ聞イテ喜ブ可ク感ズルハ邪臣ノ言ナリ。連章列署トハ、奏章チ列ネ署名チ列スルナリ。

聽言也。亦有レ難有レ易。在レ知二其術一而已。夫忠邪並進二於前一而公論與二私言一交入二於耳一。此所二以聽之難一也。若レ知二其人之忠邪一。辨二其言之公私一。則聽之易也。第一節論不レ知二聽諫之術一則難。知レ之則易。凡言拙而直逆レ耳違レ意。初聞若可レ惡者。此忠臣之言也。言婉而順。希レ旨合レ意。初聞若可レ喜者。邪臣之言也。第二節論知二忠邪之術一。至二於言事之官一。各擧二其職一。或當レ朝正色。顯言二於廷一。或連章列署。共論二其事一。言一出則萬口爭傳。衆目共視。雖欲爲レ私。其勢不レ可。故凡明言於外。不レ畏二人知一者。皆公言也。若非二其言職一。又不レ敢顯言。或密奏乞レ留レ中。或面言乞出自聖斷。不レ欲二人知一言有二主名一者。蓋其言涉レ傾レ邪。懼レ遭二彈劾一。故凡陰有二奏陳一。而畏二人知一者。皆挾レ私之說也。自レ古人主。能以二此術一知二臣下之情一。則聽レ言易也。』第三節論知二公私之術一。○第二小段論二聽諫之術一。伏惟陛下仁聖

難易。○以上第三大段論二進レ諫聽諫有一レ難易一。

寬慈。躬履勤儉。樂聞諫諍。容納直言。其於大臣。尤所優禮。常欲保全終始。思與臣下愛惜名節。尤慎重於進退。故臣謂。方今言事者。規切人主則易。欲言大臣則難」段虛提。第一小臣自立朝。耳目所記。景祐中。范仲淹言宰相呂夷簡。貶知饒州。皇祐中。唐介言宰相文彥博。貶春州別駕。至和初。吳中復。呂景初。馬遵言宰相梁適。並罷職出外。其後趙抃。范師道。言宰相劉沆。亦罷職出外。前年韓絳言富弼。貶知蔡州。今又唐介等五人。言陳旭得罪。自范仲淹貶饒州後。至今凡二十年閒。居臺諫者多矣。未聞有規諫人主而得罪者。臣故謂方今諫人主則易。言大臣則難。陛下若推此以察介等所言。則可知其用心矣。』言方今諫人主易。而言大臣難。以辨唐介等之冤。

昨所罷黜臺諫五人。惟呂誨入臺未久。其他四人。出處本

故臣謂——今ヤ天子聖明、ヨク諫諍ヲ容レラルルヲ以テ、言ヲ進メテ人主ヲ切諫スルハ易ク、大臣ノ事ヲ言ハントスルハ難シ、景祐中、范仲淹ガ宰相呂夷簡ノ事ヲ言ヒテ罪セラレ、皇祐中、唐介ガ宰相文彥博ノ行事ヲ論ジテ、帝ノ怒ニ觸レタルガ如キ、大臣ヲ言フノ難キヲ見ル可シ。

出處本末ノ出ハ出仕ナリ、處ハ家處スルナリ、本末ハ履歷ナリ、官歷

ノ義。廣西煙瘴之地ハ卽チ春州、烟瘴ハ地ヨリ出ヅル毒氣。

狥公滅私ハ公事ノ爲ニ私情ヲ擲ツナイフ。

就使書——此四人ノ者ノ上疏セシ所、或ハ事宜ニ中ラザル所モアラン、然レドモ其衷情ニ至リテハ、決シテ他ノ心アルニ非ズ。

末。迹狀甚明。可以歷數也。唐介前因言文彥博。遠竄廣西煙瘴之地。賴陛下仁恕哀憐。移置湖南。得存性命。范師道。趙抃。並因忤劉沆。罷臺職。守外郡。連延數年。然後復。今三人者。又以言樞臣罷黜。然則介不以前蹈必死之地爲懼。師道與抃。不以中滯進用。數年爲戒。遇事必言。得罪不悔。蓋所謂進退一節。始終不變之士也。」第一小段合敍三人。至如王陶者。本出孤寒。只因韓絳薦擧。始得臺官。及絳爲中丞。陶不敢內顧私恩。與之諍議。絳終得罪。夫牽顧私恩。人之常情爾。斷思以義。非知義之士不能也。以此言之。陶可謂狥公滅私之臣矣」。第二小段別敍王陶一人。此四人者。出處本末之迹如此。二句主意歸宿。可以知其爲人也。就使言雖不中。而其情必無他。議者或謂言事之臣。好相朋黨。動搖大臣。以作威勢。臣竊以謂

未謫官、解シ難シ、未一ニ爲ニ作ルトイフ、長ズルニ似タリ。

杜衍ハ仁宗ノ慶曆中樞密使タリ、范仲淹ハ同時ニ參知政事タリ、其他富弼韓琦等ノ賢臣朝ニ在リ、小人等悅ハズ、讒ヲ構ヘテ之ヲ陷ル、乃チ衍ハ政事ヲ罷メテ兗州ニ、仲淹ハ邠州ニ知タリ、歐公是ニ於テ

不然。介與師道。不與絳爲黨。乃與諸臺諫共論絳爲非。然則非相朋黨。非欲動搖大臣。可明矣。固謂未可以此疑言事之臣也。」

第三小段論唐范不爲朋黨。

況介等比者。雖未謫官。幸蒙陛下寬恩。各得爲郡。未至失所。其可惜者。斥逐諫臣。非朝廷美事。阻塞言路。不爲國家之利。而介等盡忠守節。未蒙憐察也。欲望聖慈特賜召還介等。置之朝廷。以勸守節敢言之士。則天下幸甚。今取進止。」

第四小段請牽復。○結末、歸重於介等。爲收拾。蓋五人中。歐公最所惜。在唐范兩人。故揭大意處。亦唯擧兩人。○以上第五大段詳言五人平素。應第二大段立朝有本末。以請牽復。

## 論杜衍范仲淹等罷政事狀

主意　論辨杜范等以朋黨專權之目。罷政事之冤。請復職。

臣聞。士不忘身不爲忠。言不逆耳不爲諫。故臣不避羣邪切齒

此文ヲ作リ、上疏シテ論辨ス、小人等亦公ヲ忌ンデ之ヲ讒ス、遂ニ亦貶セラレテ滁州ニ知タリ。

切齒ハ憤邪小人ノ憤怨恨スルナイフ。

一人ハ天子、千一人難犯之顏トハ天顏ヲ犯スナリ。

委任ハ信用ナリ。

供職在外、歐公時ニ河東ノ轉運使タリ。

然臣竊——小人輩が忠賢ヲ讒害スル方法ハ古來相似タリ、其廣ク良善ノ羣臣ヲ陷レントスルニハ、徒黨ヲ結ベリト讒シ、一人ノ大臣ヲ害セントスルニハ專權ナリト讒誣ス、其故何ゾヤ。

之禍。敢干一人難犯之顏。惟賴聖明。幸加省察。』第一大段發端。臣伏見杜衍。韓琦。范仲淹。富弼等。皆是陛下素所委任之臣。一旦相繼罷黜。天下之士。皆素知其可用之賢。而不聞其可罪之罪。臣雖供職在外。事不盡知。第一小段先擧諸名臣罷黜。然臣竊見。自古小人讒害忠賢。其說不遠。欲廣陷良善。則不過指爲朋黨。欲動搖大臣。則必須誣以專權。其故何也。夫去一善人。而衆善人尙在。則未爲小人之利。欲盡去之。則善人少過。難爲一二求瑕。惟有指以爲朋。則可一時盡逐。至如大臣。已被知遇。而蒙信任。則難以他事動搖。惟有專權。是上之所惡。故須此說方可傾之」。第二小段言小人讒忠賢。大抵誣朋黨或專權二目。臣料衍等四人。各無大過。而一時盡逐。弼與仲淹。委任尤深。而忽遭離閒。必有以朋黨專權之說。上惑聖聰者。臣請試辨之。』第三

兩府ハ中書省ト樞密府ト。

恢廓ハ寛裕大度ナルコト。

蓋衍爲人以下、四人ノ者ノ性質相異ナル所ヲ述ベテ、其朋黨ヲ結ブニ適セザルコトヲ論ジ、至如杜衍以下、其實例ヲ擧ゲテ說ヲ固ム、滕宗諒ハ慶州ニ守タリ、公使錢ヲ用ヒタルノ罪ニ坐ス、水洛城ハ邊城ノ名、築城ノ事ニ關シテ劉滬誅セラレントス、此等ニ就キテモ四人ノ意見各異ニシテ、一ハ罪ス可シトイヒ、一ハ許ス可シトイフ、コレ四人ノ者ノ朋黨ニ非ザル證據ナリ。

小段言誣諸名臣必以二日。○以上第二大段提綱。

昔年仲淹初以忠言讜論聞於中外天下賢士爭相稱慕當時姦臣誣作朋黨猶難辨明自近日陛下擢此數人並在兩府察其臨事可見其不爲朋黨也」第一小段特言仲淹一人。蓋衍爲人淸愼而謹守規矩仲淹則恢廓自信而不疑琦則純信而質直弼則明敏而果銳四人爲性既各不同雖皆歸於盡忠而其所見各異故於議事多不相從」四人爲人。第二小段言至如杜衍欲深罪滕宗諒仲淹則力爭而寬之仲淹謂契丹必攻河東請急修邊備富弼料以九事力言契丹必不來至如尹洙亦號仲淹之黨及爭洛水城事韓琦則是尹洙而非劉滬仲淹則是劉滬而非尹洙此數事尤彰著陛下素已知者此四人者可謂天下至公之賢也平日閒居則相稱美之不暇爲國議事則公言廷諍而

召琦與云云、琦ト仲淹トハ陝西ノ安撫經略招討使ヨリ、入リテ樞密副使トナル。

開天章云云、仁宗天章閣ヲ開イテ擊賢ヲ延キ政事ヲ條對セシム、弼琦淹亦召サレテ各〻時事ヲ上ル。琦仲淹等ノ小心翼翼タル、陛下ノ督ヽチ蒙リ、猶ホ遲緩自ラ疑ツテ事ヲナス程ナルニ、小人

不私。以此而言。臣見衍等。眞得漢史所謂忠臣有不和之節。而小人讒爲朋黨。可謂誣矣。』第三小段言四人實行。○以上第三大段朋黨細目。臣聞有國之權。誠非臣下之得專也。然臣竊思。仲淹等自入兩府以來。不見其專權之迹。而但見其善避權也。權者得名位則可行。故好權之臣。必貪位。自陛下召琦與仲淹於陝西。琦等讓至五六。陛下亦五六召之。富弼三命學士。兩命樞密副使。每一命皆再三懇讓。讓者愈切。陛下用之愈堅。臣但見其避讓太繁。不見其好權貪位也。及陛下堅不許辭。方敢受命。然猶未敢別有所爲。陛下見其皆未行事。乃特開天章。召而賜坐。授以紙筆。使其條事。然衆人避讓。不敢下筆。弼等亦不敢獨有所述。因此又煩聖慈。特出手詔。指定姓名。專責弼等。條列大事而行之。弼等遲回。又近一月。

等ハ譏シテ專權ナリト誣フ、豈夫レ然ランヤ。

兩路宣撫トハ、陝西及河東ノ宣撫使ナイフ。

一方ハ西邊ナサス。元昊叛逆ト北虜乘釁トノ解ハ、並ニ論潭州端木劄子ニ見ユ。

買和トハ金帛ヲ納レ、以テ和ヲ求ムルヲ云フ。

方敢略條數事。」第一小段言諸名臣謙讓不好權。仲淹深練世事。必知凡百難猛更張。故其所陳。志在遠大。而多若迂緩。但欲漸而行之。以久冀皆有功。弼性雖銳。然亦不敢自出意見。但多擧祖宗故事。請陛下擇而行之。」第二小段言仲淹迂緩。弼不敢出意見。自古君臣相得。一言道合。遇事便行。臣方怪。弼等蒙陛下如此堅意委任。督責丁寧。而猶遲緩自疑。作事不果。然小人巧譖已曰專權者。豈不誣哉。』第三小段言專權之誣。○以上第四大段專權細目。至如兩路宣撫。聖朝常遣大臣。況自中國之威。近年不振。故元昊叛逆一方。而勞困及於天下。北虜乘釁。違盟而動。其書辭侮慢。至有貴國祖宗之言。陛下憤恥雖深。但以邊防無備。未可與爭。屈意買和。莫大之辱。弼等見中國累年侵凌之患。感陛下不次進用之恩。故各自請行。力思雪恥。沿山傍海。不憚勤勞。欲

使武備再修。國威復振。臣見弼等用心。本欲尊陛下威權。以禦四夷。未見其侵權而作過也。」第一小段一層進論。伏惟陛下睿哲聰明。有知人之聖。臣下能否。洞見不遺。故於千官百辟之中。特選得此數人。驟加擢用。夫正士在朝。羣邪所忌。收三四大段。謀臣不用。敵國之福也。收此五大段。今此數人。一旦罷去。而使羣邪相賀於內。四夷相賀於外。此臣所爲陛下惜之也。』第二小段總收。○以上第五大段更進一層說。不獨不專權。欲尊陛下威權。此篇妙處。全在此段。伏惟陛下聖德仁慈。保全忠善。退去之際。恩禮各優。今仲淹四路之任。亦不輕矣。惟願陛下拒絕羣謗。委任不疑。使盡其所爲。猶有裨補。方今西北二虜。交爭未已。正是天與陛下經營之時。如弼與琦。豈可置之閒處。伏望陛下早辨讒巧。特加圖任。則不勝幸甚。」第一小段處置。臣自前歲召入諫院。十月之內。七受聖恩。而

容哲ハ智慮アルコト。百辟ハ公卿衆チイフ、百ハ諸、辟ハ君ナリ。

陛下聖――陛下ノ仁慈ナル、ヨク忠善ヲ保全セラレ、四人ノ退去セシ時、恩賜各、厚カリキト承ル、仲淹ノ拜命シタル四路ノ任モ、敢テ輕シトイフニハ非ザレドモ、願クハ陛下、羣小輩ノ讒謗ヲ排斥セラレ、信用シテ任用セラレナバ、ナホ今日ニ裨補スル所アルベシ。四路ハ陝西ノ四道、春鳳、涇原、環慶、鄜延ナリ。西北二虜ハ西夏ト契丹

ト。
開處ハ閑職ナリ。
圖任ハ謀議ノ重任也。
入諫院、慶歷三年公滑州ヨリ召サレテ知諫院タリ。
致身兩制トハ、公右正言ヲ以テ知制誥タルチイフ、兩制トハ翰林學士中書舍人チイフ。
秋ハ時期ナリ。
緘言ハ緘默シテイハザルチイフ、緘ハ封ナリ。
時ニ黃河南胡ノ地ニ決シテ、河水恩冀二州ニ趨ク、賈昌朝ハ議シテ決口ヲ塞ギ、橫隴ヲ開イテ故道ヲ復セントス、累歲未ダ定ラズ、李仲昌ハ議シテイフ、更ニ六塔渠ヲ開カント、道一層回遠也、歐公之ヲ論ズルコト三回、初狀ニハ賈ヲ駁シ、二狀ニハ兩議ヲ兼駁ス、此狀ニハ專ラ李仲昌ヲ駁ス。
畏大臣云云、此時富弼宰相タリ、李仲昌ニ同シ、六塔ヲ修スルニ決ス。

致身兩制。方思君寵至深。未知報效之所。今羣邪爭進讒巧。正士繼去朝廷。乃臣忘身報國之秋。豈可緘言而避罪。遙應首段羣邪切齒。敢竭愚誠。惟陛下擇之。第二小段言冒顏上言。所以忘身報國。○以上第六大段處置。

## 論修河第三狀

主意　以治堤順水。論破開六塔之不便。

右臣伏見朝廷定議開修六塔河口。閙水入橫隴故道。此大事也。中外之臣。皆知不便。而未有肯爲國家極言其利害者。何哉。蓋其說有三。一曰畏大臣。二曰畏小人。三曰無奇策。第一小段提綱。今執政之臣。用心於河事。亦勞矣。初欲試十萬人之役。以開故道。既又捨故道而修六塔。未及興役。遽又罷之。已而終爲言利者所

勝。今又復修。然則其勢難於復止也。夫以執政大臣。銳意主其事。而又有不可復止之勢。固非一人口舌可同。此所以雖知不便而罕肯言也。」第二小段　言畏大臣。李仲昌小人。利口僞言。衆所共惡。今執政之臣。既用其議。必主其人。且自古未有無患之河。今河浸恩冀。目下之患雖小。然其患已形。回入六塔。將來之害必大。而其害未至。夫以利口小人。爲大臣所主。欲與之爭未形之害。勢必難奪。就使能奪其議。則言者猶須獨任恩冀爲患之責。使仲昌得以爲辭。大臣得以歸罪。此所以雖知不便而罕敢言也。」第三小段　言畏小人。今執政之臣。用心太過。不思自古無不患之河。直欲使河不爲患。若得河不爲患。雖竭人力。猶當爲之況聞仲昌利口詭辯。謂費物少而用功不多。不得不信爲奇策。於是決意用之。今言

李仲昌ノコト綱鑑六九卷四ニ見ユ。
利口ハ口サキノヨキコト。
執政之臣ハ宰相宮弼ヲ指ス。
無患之河ハ洪水等ノ患害アラザル河ナリ。
主其人トハ、其人ノ議ヲ用ヒバ、其人ヲ採用シテ事ヲ任スベシトノ義。
夫以利——利口ノ小人ニシテ大臣ノ信任ヲ得タル者ト事ヲ爭フハ我ノ不利ナリ、殊ニ未ダ形ニ見ハレザル未來ノ患害ニツイテ之ト是非ヲ爭フ如キハ勢必ズ彼ヲ壓服シ難シ、假令ヨク壓服シ得タリトモ、現在ノ場合ニ於テハ、恩冀二州水患ノ責任ヲ我ニ引受クルニ同ジク、仲昌ヲシテ辭（言ヒガサ）ナナサシメ、大臣ヲシテ罪ノ歸スル所ヲ得シムルニ等シク、

不利之ヨリ甚ダシキハ無シ、不便ト知リツツモ、敢テ言フモノ稀ナル所以ナリ。

臣謂大——臣惟フニ大臣トテ、仲昌ニ私情アリテ其說ニ贊シタルニハ非ザルベシ、只地利ヲ興シ水害ヲ除カントノ意ニ外ナラジ、其說ノ非ニシテ、患ヒナカラコト更ニ大ナリト知リタランニハ、豈決議ヲ撤回セザランヤ、小人ノ後患(怨嗟復讎等)ヲ顧慮スル如キハ、臣カ爲サザル所ナリ。雖大禹云云、孟子離婁篇ニ見ユ、禹ノ水ヲ行ルヤ、其事ナキ所ニ行ルトアリ。循常ハ常法ヲ循行スルモノ。

常談ハ普通ノ話。

者爲故道既不可復。六塔又不可修。詰其如何。則又無奇策以取勝。此所以雖知不便。而罕肯言也』。第四小段言無奇策。〇以上衆人ノ第一大段論開河之不便。

所不敢言。而臣今獨敢言者。臣謂大臣非有私仲昌之心也。直欲興利除害爾。若果知其爲患愈大。則豈有不同者哉。至於顧小人之後患。則非臣之所慮也」。第一小段承上。且事欲知利害。權重輕。有不得已。則擇其害少而患輕者爲之。此非明智之士不能也。況治水。本無奇策。相地勢。謹隄防。順水性之所趨爾。三句始發揮主意。雖大禹。不過此也」。第二小段承上。夫所謂奇策者。不大利則大害。若循常之計。雖無大利。亦不至大害。此明智之士。善擇利者之所爲也。今言修六塔者奇策也。然終不可成。而爲害愈大。言順水治堤者常談也。然無大利亦無大害。不知爲國計者。欲何所擇哉。若

採聽ハ意見言說ヲ採用スルコト。
計議之臣ハ策略評定ノ臣下。
恩冀ハ二州ノ名。
商胡ハ地名。
大名金堤埽、大名ハ大名府ナリ、金堤ハ堤ノ堅固ナルヨリイフ、埽ハ堤ノ岸ナリ。
功ハ工事ナリ。
淤塞ハ泥ノ溜リテ塞ガルコト。

謂利害不可必。但聚大衆。興大役。勞民困國。以試奇策。而僥倖於有成者。臣謂雖執政之臣。亦未必肯爲也。』第三小段起下。○以上第二大段承上起下。臣前已具言河利害甚詳。而未蒙採聽。今復略陳其大要。惟陛下。詔計議之臣擇之。臣謂河水未始不爲患。今順已決之流。治隄防於恩冀者。其患一而遲。塞商胡。復故道者。其患二而速。開六塔以囘今河者。其患三而爲害無涯。」是便。第二三綱是不便。自河決橫隴以來。大名金堤埽。歲歲增治。及商胡再決。而金堤益大加功。獨恩冀之閒。自商胡決後。議者貪建塞河之策。未嘗留意於隄防。是以今河水勢浸溢。今若專意併力於恩冀之閒。謹治隄防。則河患可禦不至大害。所謂其患一者。十數年閒。今河下流淤塞。則上流必有決處。此一患而遲者也。」第二小段第一目。今欲塞商胡口。

功料ハ工價ナリ。

上下約トハ、已ニ上下君臣ノ約束成レルチイフ。

功費ハ勞力ト費用トナリ。

五州ハ濱、棣、德、博、齊ナリ。

三五年ハ三年五年ナリ。梗澁ノ梗ハ塞グナリ、澁ハ水ノ流レ難キナリ。

使水歸故道。治堤修埽。功料浩大。勞人廢物。困弊公私。此一患也。幸而商胡可塞。故道復歸。高淤難行。不過一二年閒。上流必決。此二患而速者也。」第三小段第二目。今六塔河口。雖云已有上下約。然全塞大河正流。爲功不小。又開六塔河道。治二千餘里隄防。移一縣兩鎭。計其功費。又大於塞商胡數倍。其爲困弊公私。不可勝計。此一患也。幸而可塞。水入六塔而東。橫流散溢。濱棣德博與齊州之界。咸被其害。此五州者。素號富饒。河北一路。財用所仰。今引水注之。不惟五州之民破壞田產。河北一路。坐見貧虛。此二患也。三五年閒。五州凋弊。河流注溢久。又淤高。流行梗澁。則上流必決。此三患也。所謂爲害而無涯者也。今爲國誤計者。本欲除一患。而反就三患。此臣所不諭也。」第四小段第三目。至如六塔不

能容大河。橫壠ノ故道。本以高淤難行而商胡決今復驅而注之。必橫流而散溢。自澶至海二千餘里。堤埽不可卒修。修之雖成。又不能捍水。如此等事甚多。士無愚智。皆所共知。不待臣言而後悉也。』第五小段重說收第一大段。○以上第三大段論治堤之便開河之不便。臣前未奉使契丹時。已嘗具言故道六塔。皆不可爲。惟治堤順水爲得計。及奉使往來河北。詢於知水者。其說皆然。雖恩冀之人。今被災患者。亦知六塔不便。皆願且治恩冀隄防爲是。下情如此。誰爲上通。臣既知其詳。豈敢自默。」已策合下情。伏乞聖慈特諭宰臣。使更審利害。速罷六塔之役。差替李仲昌等不用。選一二精幹之臣。與河北轉運使副。及恩冀州官吏相度隄防。併力修治。則今河之水。必不至爲大患。且河水天災。非人力可回。惟當順導防捍之而已。不必求

澶ハ澶州、商胡河ヲ通ズ。
卒ハ猝ト同ジクにはかナリ。
上通ハ下情ヲ天子ニ通ズルナリ。
聖慈トハ天子ノ御慈悲トイフコト。
役ハ人民ヲ使役スル工作ナイフ。
差替ハ代人ヲ遣ハシテ交替セシムルナリ、差ハ使ナリ。
精幹ハ事務ニ任フル材アル者。
轉運使副ハ租粟運漕ノ事ヲ掌ル役人、使ハ其

長官、副ハ次官ナリ。相度ハ測量スルナリ。

臣言任——臣言フ所固ヨリ狂暴ニシテ、計ル所愚鈍ナリ、惟陛下宜シク御裁擇アランコト請フ。

本論ニ上中下ノ三篇アリ、コレ其中篇ナリ、本ハ五原ノ原ト同ジク本原ノ義、ココニハ佛ニ勝ツ所以ノ本、卽チ禮義ヲ論ズ。

卓然ハ見識アル貌。

方ハ方法ナリ。

病之中人云云、病ノ人チ侵スハ、必ズ氣力ノ缺損セル所ヨリス、故ニ氣力充實セバ病自ラ去ル、天下ニ患害ノ至ル、亦國政萎靡ノ虛ニ

奇策ヲ立テニ難キ必之功ヲ一以テ爲サ中小人ニ僥冀スル恩賞ヲ一之資ヲ上也。小人二字。應ニ上ヤ文李仲冒小人一。況功必ズ不レ成ラ。後悔無キヤ及ブコト者乎。臣言狂計愚ナリダ。惟陛下裁擇セヨ。』第二小段言ニ處置一。○以上第四大段論ニ處置一。

## 本論中

主意　言禮義者勝ニ佛之本一。本苟修。末不レ足レ憂。故本字字眼。禮義字字母。○此篇文法整然。

佛法ノ爲スコト中國ニ患チ千餘歲。世之卓然不シテ惑ハ而有レ力ル者。莫シ不レ欲セ去ルヲ之。已ニ嘗テ去レリ矣。而シテ復タ大ニ集ル。攻レ之ヲ。暫ク破レテ而愈ク堅ツニ。撲レ之ヲ。未シテ滅セ而愈ク熾ナリ。遂ニ至ル於無キニ可レ奈何ト。是レ果シテ不レ可カラ去ルカ邪。蓋シ亦未ダ知ラ其方ヲ一也。」勝ニ佛之方一。蓋治ニ末也。第一小段論ニ古人不レ知ニ

夫醫者之於ニ疾ルニ也。必ズ推シテ其病之所チ自ツテ來ル。而治ニ其受レ病ノ處チ。病之中ルニ人。乘シテニ乎氣虛ニ而入ル焉。則善スル醫者ハ。不シテ攻メニ其疾チ一而務メテ養フニ其氣ヲ一。氣實ツレバ

則病去。此自然之效也」。第二小段欲レ論二下段一勝レ佛之方。先設二一喩一。故救二天下之患一者。亦必推二其患之所一レ自來一。而治二其受一レ患之處一。第一節受二上喩一。入二正論一。佛爲二夷狄一。去二中國一。最遠。而有レ佛固已久矣。堯舜三代之際。王政修明。禮義之教。充於二天下一。於二此之時一。雖レ有レ佛無レ由而入。第二節言二三代無レ患可レ入。及二三代衰一。王政闕。禮義廢。後二百餘年一。而佛至二乎中國一。由レ是言之。佛所レ以爲二吾患一者。乘二其闕廢之時一而來。此其受レ患之本也」。第三節言二患所一レ由入。○先點二本字一。然非二本論之本一。補二其闕一。修二其廢一。使二王政明一。而禮義充。則雖レ有レ佛。無レ所レ施二於吾民一矣。此亦自然之勢也。第四節暗揭二主意一。未レ發二本字一。○第三小段略敍勝レ佛之方。起二下三大段一。○以上第一大段揭二大意一。

昔堯舜三代之爲レ政。設爲井田之法。籍二天下之人一。計二其口一而皆授二之田一。凡人之力。能勝レ耕者。莫レ不レ有レ田而耕レ之。斂以二什一一。差二其征賦一。以督二其不勤一。使二天下之人力一。皆盡二於南畝一。而不レ暇二乎其他一」。第一小段言二制產一。蓋

乘ズ、堯舜三代ノ際既ニ佛アリキト雖、當時王政修明、禮義ノ教天下ニ充實シタリシガ故ニ、乘ジテ以テ中國ニ入ルノ罅隙無カリキ、三代衰ヘ、王政禮義衰頽スル二百年ノ後（後漢明帝永平八年）ニ及ビテ、佛始テ時ヲ得テ中國ニ入ル、佛ハ釋迦、天竺ノ人、迦維衛國ノ淨飯太子ナリ、周莊王ノ九年四月八日生ル、三代ハ夏殷周。

無所施トハ爲ス可キ術ナキヲイフ。

井田ハ田制ナリ、地ヲ九劃シテ中央ヲ公田トシ、八家之ヲ共作ス、形井字ニ似タリ、孟子ニ、方里ニシテ井ス、井ハ九百畝、其中ヲ公田トシ、八家皆百畝ヲ私シ、同ジク公田ヲ養フト見ユ。籍ハ戸籍帳簿ニ載スルナリ。計其口ハ人口ヲ調査スルナリ。

什一ハ十分ノ一ナリ。差其征賦ハ徴稅ニ等差ヲ付クルナリ。南畝ハ田畠ナリ、南字意義ナシ。制ハ法度ナリ。牲牢ハいけにへナリ。酒醴ハ一宿ニシテ熟スル酒。弦ハ絲ノ樂器、琴瑟ノ類、匏ハ管ノ樂器、笙竽ノ類。俎ハまないた、豆ハたかつき、共ニ禮器。蒐狩ハ田獵、春ノチ蒐、秋ノチ狩トイフ。鄉射之禮トハ、鄉人相會シテ酒ヲ飲ミ、射ルチイフ。物采トハ、禮式用ノ器物等ノ采色アルモノチイフ。

天子之郊トハ、四郊ノ虞庠チイヒ、禮記祭義ニ天子四學チ設クトアル四學ノコトナリ。立學、有學ノ學ハ學校ナリ。

制産禮樂（レドモ）然又用然字。行文有迂餘曲折之妙。是歐公長技。懼（ル）其勞（シ）且怠（ツ）而入（ランコトヲ）於邪僻（ニ）也。於（テ）是（ニ）爲（リテ）制（レ）。牲牢酒醴以（テ）養（ヒ）其體（ヲ）。弦匏俎豆以（テ）悅（バシメ）其耳目（ヲ）。於（テ）其不（シテ）耕（サ）休（スル）力之時（ニ）。而教（フルニ）之以（テ）禮（ヲ）。故因（ツテ）其田獵（ニ）而爲（シ）蒐狩之禮（ヲ）。因（ツテ）其嫁娶（ニ）而爲（シ）鄉射之禮（ヲ）。因（ツテ）其死葬（ニ）而爲（シ）喪祭之禮（ヲ）。因（ツテ）其飲食羣聚（ニ）而爲（ス）鄉人之大倫（ヲ）也。故凡養（レ）生送（ル）死之道。皆因（ツテ）其欲（ニ）而爲（スガ）之制（ヲ）。飾（ツテ）之物采（ヲ）而文焉。所（ニスルハ）以悅（シテ）之（ヲ）。使（ムルニ）其易（ク）趨（カラキ）也。順（ツテ）其情性（ニ）而節焉。所（スルハ）以防（ギ）之（ヲ）。使（ムルニ）其不（ラ）過（ヤ）也」言（レ）制（レ）教。第三小段　然猶懼（ルヤ）其未（ダシキヲ）也。又爲（ニ）立（テ）學（ヲ）。以講明之（ニ）。故上自（リ）天子之郊（ニ）。下至（マデ）鄉黨（ニ）。莫（シ）不（ルコトヲ）有（レ）學（レ）。擇（シテ）民之聰明者（ヲ）而習（ハシメ）焉。使（ム）相告語（シテ）而誘勸（セ）其愚惰（ヲ）。嗚呼（レ）。何其備（レルヤ）也」言（レ）講（レ）禮。第四小段　蓋堯舜三代之爲（ス）政如（ク）此（ノ）。其慮（レ）民（ヲ）之意甚精（ジク）。治（ムル）民之具甚備（リ）。防（レ）民之術甚周（ク）。誘（レ）民

庠序ハ皆學校ノ名ニシテ、周ニ庠トイヒ、殷ニ序トイフ。

及周之——周衰ヘ六國滅ビ、秦天下ヲ統一スルニ及ビ、盡ク三代ノ法度ヲ廢シ、王道中絶ス、爾後君主モ國事ニ勉強スル能ハズ、爲政ノ具備ラズ、民ノ姦邪ヲ防ギテ漸次ニ教化スルノ法モ周ネカラズ、カカル間隙ニ乘ジテ佛出デ、其後千有餘歲ノ間、佛ノ入來ル者日ニ益〻多ク、我爲ス所(儒道)ハ日ニ益〻壞ル云云、斯ノ如クナレバ、民ノ姦ナル者ハ、閑居シテ邪道ニ入リ、良民ハ昏然トシテ禮儀ノ己ガ身ニ及ブヲ見ズ。

之道甚篤。行之以勤。而被於物者洽。浸之以漸。而入於人者深。故民之生也。不用力乎南畝。則從事於禮樂之際。不在其家。則在乎庠序之閒。耳聞目見。無非仁義。樂而趨之。不知其倦。終身不見異物。又奚暇夫外慕哉。故曰雖有佛無由而入者。謂有此具也。』第五小段結上四小段。言王代無患可入。蓋有禮義之本也。○以上第二大段申言患無可入。及周之衰。秦幷天下。盡去三代之法。而王道中絶。後之有天下者。不能勉強其爲治之具不備。防民之漸不周。佛於此時。乘閒而出。千有餘歲之閒。佛之來者日益衆。吾之所爲者日益壞。井田最先廢。而兼幷游惰之姦起。其後所謂蒐狩。婚姻。喪祭。鄉射之禮。凡所以教民之具。相次而盡廢。然後民之姦者。有暇而爲他。其良者。泯然不見禮義之及己。」第一小段言後世闕廢禮義。夫姦民有餘力。則思爲邪僻。良民不見禮

雄誕之說トハ雄大ナル虛妄ノ說、地獄極樂說ノ如キヲイフ。

歸依ハ歸服依賴スルナリ、佛道ニ入ルコト。

艴然ハ怒リテ而色ヲ變ズルナリ。何爲者ハ何者ゾトイフニ同ジ、嘲リテイフ辭。

入於骨髓ハ人心ニ入ルコトノ深キヲイフ。

修其本ノ本ハ本原ニシテ、此文本論ノ主腦ナリ。

戰國ハ周末ニ齊秦楚燕韓魏趙七國ノ天下ヲ爭ヒシ時代。

楊墨ハ楊朱ト墨翟ト。百家ハ諸子ノ一家言ヲ立テタルモノ。

董生ハ前漢ノ董仲舒。

三軍、萬二千五百人ヲ一軍トス。

義。則莫知所趨。佛於此時。乘其隙。方鼓其雄誕之說。而牽之。則民不得不從而歸矣。又況王公大人。往往倡而崇之曰。佛是眞可歸依者。然則吾民。何疑而不歸焉。』○以上第三大段申言患所由入。幸而有一不惑者。方艴然而怒曰。佛何爲者。吾將操戈而逐之。又曰。吾將有說以排之。夫千歲之患。徧於天下。豈一人一日之可爲。民之沈酣。入於骨髓。非口舌之可勝。第一小段欲說下段勝佛之法。再論世人不知方。應起手。然則將奈何。曰莫若修其本。此本字。卽本論之本。以勝之。昔戰國之時。楊墨交亂。孟子患之。而專言仁義。故仁義之說勝。則楊墨之學廢。漢之時。百家並興。董生患之。而退修孔氏。故孔氏之道明。而百家息。此所謂修其本。以勝之之效也。」第二小段欲發主意。先說古人之效驗。今八尺之夫。被甲荷戟。勇蓋三軍。然而見佛則拜。聞佛之說。則有畏慕之誠者。

壯佼ハ形體壯大、姿容佼好ナリ。
介ハ个ト通ズ、一個ナリ。
眇然ハ細小ノ貌。

何也。彼誠壯佼。其中心茫然。無所守而然也。一介之士。眇然柔懦。進退畏怯。然而聞有道佛者。則義形於色。非徒不爲之屈。又欲驅而絕之者何也。彼無他焉。學問明而禮義熟。中心有所守以勝之也。然則禮義者。勝佛之本也。主意歸宿。今一介之士知禮義者。尚能不爲之屈。使天下皆知禮義。則勝之矣。此自然之勢也。』

第三小段自無本有本二喩說。歸到禮義勝佛之本。○以上第四大段申言王政明禮義充則雖有佛無施于吾民之意。

## 春秋論上

主意　信聖人。辨後學之惑。

事有不幸出於久遠。而傳乎二說。則奚從。曰從其一之可信者。」

第一小段言從可信。

然則安知可信者而從之。曰從其人而信之可也。衆人

春秋ハ魯ノ史記ニシテ孔子ノ筆削修正ヲ加ヘタルモノ、魯隱公十一年ヨリ哀公十四年ニ至ル十二世二百四十二年間ニ渉ル、五經ノ一タリ、傳ニ公羊高、穀梁赤、左邱明ノ三アリ。
衆人ハ俗人ノ義。

公羊高、穀梁赤ハ俱ニ前漢ノ人、春秋ノ傳卽チ注釋書ヲ作レリ。左邱明ハ孔子ノ門人、或ハイフ、戰國時代ノ人、左傳ノ著者ナリト傳ヘラル。傳ハ春秋ノ注釋ナリ。

攝ハ攝政ナリ、隱公卽位ノコト經文ニ見エザルヨリ、三子之ヲ攝ト云ヘリ。

公及邾云云、春秋ノ隱公元年開卷第一ニ此文アリ邾ハ國名、蔑ハ地名、儀父ハ其君ノ字。其於晉——晉ノ靈公ノ

之說如彼。君子之說如此。則捨衆人而從君子。」言信君子。君子博學而多聞矣。然其傳不能無失也。君子之說如彼。聖人之說如此。則捨君子而從聖人。此擧世之人皆知其然。而學春秋者。獨異乎是。』聖人。○以上第一大段揭主意。孔子聖人也。萬世取信一人而已。若公羊高。穀梁赤。左邱明三子者。博學而多聞矣。其傳不能無失者也。孔子之於經。三子之於傳。有所不同。則學者寧捨經而從傳。不信孔子而信三子。甚哉其惑也。」第一小段總論。經於魯隱公之事。書曰。公及邾儀父盟於蔑。其卒也。書曰公薨。孔子始終謂之公。三子者曰。非公也。是攝也。學者不從孔子謂之公。而從三子謂之攝。其於晉靈公之事。孔子書曰。趙盾弑其君夷皐。三子者曰。非趙盾也。是趙穿也。學者不從孔子信爲趙盾。而從三子

信爲趙穿。其於許悼公之事。孔子書曰。許世子止弑其君買。三子者曰。非弑之也。買病死。而止不嘗藥耳。學者不從孔子信爲弑君。而從三子信爲不嘗藥。」第二小段詳論。其捨經而從傳者何哉。經簡而直。傳新而奇。簡直無悅耳之言。新奇多可喜之論。是以學者樂聞而易惑也。予非敢曰不惑。然信於孔子而篤者也。經之所書予所信也。經所不言予不知也。」二句結主意。○第三小段結一段。○以上第二大段辨學者惑。難者曰。予之言有激而云爾。夫三子者。皆學乎聖人。而傳所以述經也。經文隱而意深。三子者從而發之。故經有不言。傳得而詳爾。非爲二說也。予曰。經所不書。三子者何從而知其然也。」第一小段一難一解。曰。推其前後而知之。且其有所傳而得也。國君必卽位。而隱不書卽位。此傳得知其攝也。弑君者不復見經。而盾復見經。此傳

コトニ關シテ、孔子ハ趙盾（晉ノ大夫）其君夷皐（靈公）ヲ弑セリト書ケルニ、三子ノ傳ニハ弑逆者ヲ趙盾ニ非ズシテ趙穿（趙盾ノ從子）ナリトス（左傳宣公二年ニ見ユ）。許悼公ノ事、左傳昭公十二年ニ見ユ、悼公買瘧ヲ疾ミ、世子止藥ヲ進ム。經簡而直ハ經文簡單ニシテ修飾ナキナリ。傳新而奇ハ傳文嶄新ニシテ奇拔ナルナリ。予非敢——事ノ二義ニ渉ルモノハ、予モ亦惑ハザルニ非ザレドモ、予ハ篤ク孔子ヲ信ズルモノ、其手ニ成レル經文ハ予篤ク之ヲ信ズ、其以外ノモノニ至ツテハ予其是非ヲ知ラズ。

予曰然——果シテ足下ノ說ノ如ク、三子者聖人ノ眞意ヲ摘出シタリトセバ、三子ハ聖人ヲ推量シテ、後ノ學者ヲ惑ハスモノナリ、學者ガ必ズ三子ノ說ヲ信ゼントナラバ、予其志ヲ奪フ能ハズ、唯聖ニ說ノ是ナルモノヲ求メントナラバ、予之ガ爲ニ辨ジテ聖人ニ荷擔セザルヲ得ズ。

孔子何——孔子ノ春秋ヲ作ルハ、君臣父子ノ名義分限ヲ正シ、情實ヲ糺明シ、是非善惡ヲ辨別シテ、褒貶ヲナス所以ナリ。

得知弑君非盾也。君弑賊不討、則不書葬。而許悼公書葬。此傳得知世子止之非實弑也。經文隱矣。傳曲而暢之。學者以謂三子之說。聖人之深意也。是以從之耳。非謂捨孔子而信三子也。予曰。然則妄意聖人而惑學者。三子之過而已。一句反結主意。使學者必信乎三子。予不能奪。使其惟是之求。則予不得不爲之辨』。第二小段二難二解。○以上第三大段借難者說。結三子之過。發後篇端。

## 春秋論中

主意　言隱公眞公而非攝。故公攝二字字眼。○此篇勁健似柳子厚與韓愈論史官書。不似歐公平生從容都雅之文。

孔子何爲而修春秋。正名以定分。求情而責實。別是非。明善惡。此春秋之所以作也。」第一小段一大段提綱。自周衰以來。臣弑君。子弑父。諸

雷同トハ、人ノ言ニ附和スルチイフ。
伊尹ハ殷ノ太甲ノ臣。
周公ハ周ノ成王ノ臣。
共和トハ、臣下ノ共同和合シテ國政ヲ執ルチイフ、コゝニ共和之臣ト言ヘルハ、周厲王出奔シタルトキ、共和政治ナシ、周公召公二相ヲ指ス。
息姑ハ魯ノ隱公ノ名。

同異ハ異ナリ、同ハ意義ナシ。
別嫌ハ嫌疑ヲ辨別スルコト。
信ハ證據ナリ。

侯之國相屠戮。而爭爲君者。天下皆是也。當是之時。有一人焉。能好廉而知讓。立乎爭國之亂世。而懷讓國之高節。孔子得之於經。宜如何而別白之。宜如何而褒顯之。其冥沒其攝位之實。而雷同衆說。誣以爲公乎」。第二小段正說。所謂攝者。臣行君事之名也。伊尹周公共和之臣嘗攝矣。不聞商周之人謂之王也。使息姑攝而實攝。而稱號無異於正君。則名分不正而是非不別。夫攝者。心不欲爲君。而身假行君事。雖行君事。而其實非君也。今書曰公。則是息姑心不欲之。實不爲之。而孔子加之。失其本心。誣以虛名。而沒其實善。夫不求其情。不責其實。而善惡不明。如此。則孔子之意疎。而春秋繆矣。』第三小段反說○以上第一大段據春秋書體。正名定分。辨左氏之妄。春秋辭有同異。尤謹嚴而簡約。所以別嫌明微。愼重而取信。其餘是非善惡

讓桓之志云云、隱公位ヲ桓公ニ讓ラン[ノ]志アリ、桓公ハ隱公ノ弟ニシテ世嫡、隱公ハ兄ニシテ庶子、桓幼冲ナルヲ以テ隱攝政ヲ攝セシナリ、羽父ト[イ]フ者アリ、隱公ニ媚ビテ竊ニ桓公ヲ殺サンコトヲ請フ、隱公曰ク、予ハ彼ノ幼ナルガ故ニ位ヲ攝スルノミ、今ヤ桓ニ讓ルノ志アリト、羽父罪ノ己ニ及バンコトヲ恐レ、反ツテ隱公ヲ殺ス。予奪ヲ與フルハ與フルト奪フト。

一字爲云云、杜預春秋ノ序ニ、春秋一字ヲ以テ褒貶ヲナスト雖、然レドモ皆數句ヲ須ヒテ以テ言トナストアリ。

難明之際。聖人所盡心也」。第一小段二大段提綱。息姑之攝也。會盟征伐賞刑祭祀。皆出於己。擧魯之人。皆聽命於己。其不爲正君者幾何。惟不有其名耳。使其名實皆在己。則何從而知其攝也。故息姑之攝與不攝。惟在爲公與不爲公。別嫌明微繫此而已」。第二小段以別嫌明微辨妄。且其有讓桓之志。未及行而見殺。其生也。志不克伸。其死也。被虛名而違本意。則息姑之恨。何申於後世乎。其甚高之節。難明之善。亦何望於春秋乎」。第三小段更以明微辨妄。今說春秋者。皆以名字。氏族。予奪爲輕重。故曰一字爲褒貶。且公之爲字。豈不重於名字氏族乎。孔子於名字氏族。不妄以加人。其冥以公妄加於人。而沒其實乎。以此而言。隱實爲攝。則孔子決不書曰公。孔子書爲公。則隱決非攝』。第四小段以用辭謹嚴辨妄。〇以上第二大段據春秋用辭謹嚴。辨左氏之妄。難者曰。然則何爲

惠公之終云云、春秋ニ惠公ノ終ノ記事ノ見エザルハ、遺書ノ徵ス可キモノナクシテ缺ケルノミ、コレ卽チ春秋ノ信憑ス可キ所以ナリ、惠公ハ隱公ノ父。

待桓トハ桓公ノ成長ヲ待ツナリ。出於己ハ己ノ意ニ出ヅルナリ。薨ハ諸侯ノ死ニイフ。

賻ハ金ニテ罪ヲ償フナリ。

不書卽位。曰。惠公之終。不見其事。則隱之始立。亦不可知。孔子從二百年後。得其遺書而修之。闕其所不知。所以傳信也」段解隱公不書卽位之難問。難者又曰。謂爲攝者。左氏耳。公羊。穀梁皆以爲假立以待桓也。故得以假稱公。因難者口。幷辨公穀之妄。匪夷所思。何等變化。予曰。凡魯之事出於己。擧魯之人聽於己。生稱曰公。死書曰薨。何從而知其假。』第二小段解公穀假位之難問。○以上第三大段解難問。補前文所不盡。

## 春秋論下

主意　言春秋書法謹嚴。善惡是非分明。不使人難辨。○公平明白四字。可以評此篇。○此篇。重頭輕尾。

弑逆大惡也。其爲罪也莫贖。其爲人也不容。其在法也無赦。法施於人。雖小必愼。況擧大法而加大惡乎。既輒加之。又輒赦之。

三子說——公羊穀梁左氏三子ノ、春秋ヲ說イテ趙盾ノ事ヲ書スルニイフ、經ノ宣公六年ニ、春晉ノ趙盾衞ノ孫免陳ヲ侵ストアルハ、實際趙盾ガ君ヲ弑シタルニハ非ズ、弑逆ノ賊（趙穿）ヲ討ゼザリシヲ以テ、此大惡ノ名ヲ加ヘラレタル也、故ニ實際趙盾ニ罪無キコトヲ見ハサンガ爲ニ、後又經ニ盾ノ名ヲ載セタリト（春秋ニハ弑逆ノ大惡ヲナス者ハ、再ビ其名ヲ載セザル法ナリトノ說ニ本ヅク、此說甚ダ理ナシ、孔子豈輕輕ニ人ヲ罪シ、又輒ク之ヲ赦ス可ケンヤ、若シ盾ニシテ全ク弑心ナシトセバ、初ヨリ之ニ加フルニ大惡ヲ以テス可カラズ、若シ夫レ賊ヲ討ゼザルヲ以テ責ム可シトナサバ、徹頭徹尾之ヲ責メテ、固ク執ツテ赦ス可カラザルナリ。

則自侮其法而人不畏。春秋用法。不如是之輕易也。」既輒加之云云數句揭主意。○第一節虛論提案。三子說春秋書趙盾以不討賊故加之大惡。既而以盾非實弑。則又復見於經。以明盾之無罪。是輒加之而輒赦之爾。以盾爲無弑心乎。其可輕以大惡加之。以盾不討賊情可責而宜加之乎。則其後頑然未嘗討賊。既不改過以自贖。何爲遽赦使同無罪之人。其於進退皆不可。此非春秋意也。」第二節實論。○第一小段提春秋謹嚴。辨三傳之輕易。趙穿弑君。大惡也。盾不討賊。不能爲君復讐。而失刑於下。二者輕重。不較可知。就使盾爲可責。然穿焉得免也。今免首罪爲善人。使無辜者受大惡。此決知其不然也。」第二小段論免首罪罪無罪之不平均。春秋之法。使爲惡者不得幸免。疑似者有所辯明。所謂是非之公也。」第一節虛論提案。據三子之說。初靈公欲殺盾。盾走而免。穿盾族也。

其迹渉云云、盾が弑逆ニ干與シタル證迹アルナイフ。
爲法受惡トハ、弑逆ノ時盾亡ゲテ國境ヲ越エズ、國境ヲ越ユレバ最早君臣ノ義ナキヲ以テ、賊ヲ討セザルノ罪ヲ受クルコト無ケン、コレ法ニ依ツテ罪ヲ受クルナリ。
稱其賢トハ、孔子ノ趙宣子ハ古ノ良大夫ナリト言ヘルナイフ、趙宣子ハ盾ノ諡ナリ。
爲惡者ハ穿ノコト。
疑似之人ハ盾ヲサス。
矯激トハ、曲ヲ矯メテ激ニ渉ルコト。
舊史ハ魯國史官ノ記錄ヲ指ス、孔子之ニ據リテ春秋ヲ修ム。

遂弑而盾不討。其迹涉於與弑矣。此疑似難明之事。聖人尤當求情責實。以明白之。使盾果有弑心乎。則自然罪在盾矣。不得曰爲法受惡。而稱其賢也。使果無弑心乎。則當爲之辯明。必先正穿之惡。使罪有所歸。然後責盾縱賊。則穿之大惡。不可幸而免。盾之疑似之迹獲辯。而不討之責亦不得辭。如此則是非善惡明矣。今爲惡者獲免。而疑似之人陷於大惡。此決知其不然也。第二節實論○第三小段論是非不公。若曰盾不討賊。有幸弑之心。與自弑同。故寧舍穿而罪盾。此乃逆詐用情之吏。矯激之爲爾。非孔子之忠恕。春秋以王道治人之法也。第四小段論逆詐用情○以上四小段反覆論非。孔子患舊史是非錯亂。而善惡不明。所以修春秋。就令舊史如此。其肯從而不正之乎。其肯從而稱美。又教之以越境逃惡乎。此可知其

繆傳也」。第五小段春秋本意。問者曰。然則夷皐孰弒之。曰。孔子所書是矣。趙盾弒其君也』。二句第一大段結穴。○第六小段一決上段多少疑案。○以上第一大段論盾。今有一人焉。父病。躬進藥而不嘗。又有一人焉。父病而不躬進藥。而二父皆死。又有一人焉。操刃而殺其父。使吏治之。是三人者。其罪同乎。曰。雖庸吏猶知其不可同也。躬藥而不知嘗者。有愛父之孝心。而不習於禮。是可哀也。無罪之人爾。不躬藥者。誠不孝矣。雖無愛親之心。然未有殺父之意。使善治獄者。猶當與操刃殊科。況以躬藥之孝。反與操刃同其罪乎。此庸吏之不爲也」。第一小段辨三傳之妄。前段既盡。故淡淡設比喻。寫影子去。何等變化。然則許世子止。實不嘗藥。則孔子決不書曰弒君。孔子書爲弒君。則止決非不嘗藥』。二句第二大段結穴。○第二小段實敘斷之。○以上第二大段論止。○論許世子。與論趙盾變法。前實寫。後虛寫。難者曰。聖人借止以垂教爾」。第一節難。對曰。不然。夫所謂借止以垂

不習於禮、父ニ藥ヲ進ムルニ、己先ヅ嘗ムルハ禮ナリ、禮記ニアリ。

聖人一――聖人一タビ明言セバ、忽チ萬世ノ標準、不朽ノ規範トナルベシ、何ゾ藥チ嘗ムルノ禮チ知ラザル孝子ニ、永世弑フベカラザル不孝ノ名チ與フルチ以テセンヤ。

聖人垂――聖人ノ教チ後世ニ垂ルルニハ、此ノ如ク迂遠ナラザルベシ、又果シテ止チ責メンガ爲ナリトセバ、餘リニ刻ニ過ギタリ。

難者曰云、弑逆ノ臣ハ經ニ再揭セズ、又賊討セザレバ君ノ葬チ書セズト言フ法ナルニ、何故ニ盾ノ名再ビ見ハレ、又僖昭公十九年ノ經ニ、冬許ノ悼公チ葬ルト書セルカ、コレ難者ノ間ナリ。

男ハ爵。

尹氏卒、隱公三年四月尹氏卒ストアリ。

教者。不過欲人之知嘗藥耳。聖人一言。明以告人。則萬世法也。何必加孝子以大惡之名。而嘗藥之事。卒不見於文。使後世但知止爲弑君。而莫知藥之當嘗也。教未可垂。而已陷人於大惡矣。聖人垂教。不如是之迂也。果曰責止。不如是之刻也」。○第二節辨。第一小段辨書法之迂且刻。難者曰。然則盾曷爲復見於經。許悼公曷爲書葬。第一節難。曰。弑君之臣不見經。此自三子說爾。果聖人法乎。悼公之葬。且安知其不討賊而書葬也。自止以弑見經。後四年。吳敗許師。又十有八年。當定公之四年。許男始見於經。而不名。許之書於經者略矣。止之事迹。不可得而知也」。第二節辨。○第二小段辨復見與書葬之妄說。難者曰。三子之說非其臆出也。其得於所傳如此。然則所傳者皆不可信乎。第一節難。曰。傳聞何可盡信。公羊穀梁以尹氏卒爲正卿。左氏以尹

左氏以尹氏爲隱母、左傳ニハ君氏トアリ、尹氏ト謂ハズ。

景祐ノ頃朋黨ノ論挙リニ起ル、朋黨ハ結黨ナリ、朝廷小人佞邪ノ徒、常ニ之ヲ辭トシテ以テ羣賢ヲ陷ル、歐公時ニ諫院ニ在リ、此文ヲ草シテ上リシナリ。

朋黨之——朋黨ノ語ハ古昔ヨリ之有リ、敢テ朋黨其物ノ惡シキニ非ズ、唯人君が、君子ノ朋黨ナリヤ、將タ小人ノ朋黨ナリヤヲ辨別スルコトヲ要ス。

黨引ハ徒黨ヲ結ブコト、

氏卒爲隱母。一以爲男子。一以爲婦人。得於所傳者。蓋如是。是可盡信乎』。第二節辨。○第三小段論三子不可盡信。○以上第三大段設難問合論盾止盡餘意。

## 朋黨論

主意　言人君辨君子小人。○此篇。用君子小人爲經。用治亂興亡爲緯。錯綜爲文。多少治與字。是用君子之效。多少亂亡字。是用小人之效。○君子小人大字眼。治亂興亡小字眼。

臣聞。朋黨之說自古有之。惟幸人君辨其君子小人而已』。第一小段揭主意。大凡君子與君子。以同道爲朋。小人與小人。以同利爲朋。此自然之理也』。第二小段解上段。然臣謂小人無朋。惟君子則有之。其故何哉。小人所好者祿利也。所貪者財貨也。當其同利之時。暫相黨引。以爲朋者僞也。及其見利而爭先。或利盡而交疎。則反相賊

害。雖其兄弟親戚。不能相保。故臣謂小人無朋。其暫爲朋者僞也。第三小段退小人。○眞僞論出君子。則不然。所守者道義。所行者忠信。意表妙。是歐文紆餘曲折處。所惜者名節。以之修身。則同道而相益。以之事國。則同心而共濟。終始如一。此君子之朋也。第四小段進君子。故爲人君者。但當退小人之僞朋。用君子之眞朋。則天下治矣。一治字呼出下二段多少治亂興亡字。○第五小段結上起下。○以上第一大段理論。○此篇文思文法之妙。唯在此虛論一段。後段唯以實事敍去耳。

堯之時。小人共工驩兜等。四人爲一朋。君子八元八凱。十六人爲一朋。舜佐堯。退四凶小人之朋。而進元凱君子之朋。堯之天下大治。第一小段敍堯之退小人進君子。及舜自爲天子。而皐夔稷契等二十二人。並列於朝。更相稱美。更相推讓。凡二十二人爲一朋。而舜皆用之。天下亦大治。第二小段敍舜進君子。書曰。紂有臣億萬。惟億萬心。周有臣三千。惟一心。紂之時。億萬人各異心。

四凶ハ共、工、讙、兜、三苗ノ四惡人。八元ハ仲奮、仲堪、叔獻、季仲、伯虎、仲熊、叔豹、季貍ノ八人。（元ハ善）。八凱ハ蒼舒、隤敬、檮戭、太臨、龐降、庭堅、仲容、叔達ナイフ。（凱ハ和）。書曰云云、書經泰誓篇ニ見ユ。

黃巾ハ、靈帝ノ時鉅鹿ノ張角反ス、其徒皆黃巾ヲ被ル、世ニ黃巾ノ賊トイフ。

唐之晚年トハ、穆宗ノ時李德裕、李宗閔、各朋黨ヲ分チテ軋轢スルモノ四十年、德裕又牛僧孺ト黨ヲ分チ、牛李黨トイヒシ時ヲイフ。

殺朝之名士トハ、唐昭宣帝ノ天祐三年、裴樞獨孤損等ヲ白馬驛ニ殺シテ、黃河ノ濁流ニ投ジタルヲイフ。

清流トハ、進士ノ學術ノ科目ニ及第シタル者ノ稱、藝術科ヲ雜流トイフニ對シテイフ。

可謂不爲朋矣。然紂以亡國。周武王之臣三千人。爲一大朋。而周用以興。」第三小段敍紂以無朋亡。武王以有朋興。○紂武興亡合敍。文不板。後漢獻帝時。盡取天下名士。囚禁之。目爲黨人。及黃巾賊起。漢室大亂。後方悔悟。盡解黨人而釋之。然已無救矣。」漢退君子黨。唐之晚年。漸起朋黨之論。及昭宗時。盡殺朝之名士。咸投之黃河。曰此輩清流。可投濁流。而唐遂亡矣。』並敍治。第五小段敍唐退君子黨。○以上第二大段實論。○一二小段合敍治亂。四五小段並敍亂。敍法錯綜。自成章。夫前世之主。能使人人異心。不爲朋。莫如紂。能禁絕善人爲朋。莫如漢獻帝。能誅戮清流之朋。莫如唐昭宗之世。然皆亂亡其國。」第一小段收無朋而亡。更相稱美推讓而不自疑。莫如舜之二十二臣。舜亦不疑而皆用之。然而後世不誚舜爲二十二人朋黨所欺。而稱舜爲聰明之聖者。以能辨君子與小人也。」一句主意歸宿。收經線。○歸宿一語。唯就舜事而發。不別設一論。妙。且舜古今第一聖王。不可

唐太宗ノ時死刑ノ大罪人三百人ヲ縱（はな）チテ家ニ歸ラシメ、期日ヲ約シテ自身牢舍ニ歸リテ死ニ就カシム、信義ヲ重ンジテ從容死ニ就ク如キハ、君子スラ難シトスル所、極惡ノ小人ヲシテ之ヲ爲サシム、人情ニ近カラズ、歐公之ヲ論ジテ太宗ノ名ヲ求ムルニ出ヅトナス。

大辟　四トハ死罪ノ四人ナイフ。

不レ歸二主意于此一。然武王一段。亦不レ可レ無二結穴一。故作二異樣句法一。○第二小段收二有レ朋而治一。

周武之世。擧二其國之臣三千人一。共爲レ一レ朋。自レ古爲レ朋之多且大。莫レ如レ周。然周用レ此以興。善人雖レ多而不レ厭レ之也。」第三小段收二上段一。周以レ有レ朋興。夫興亡治亂之迹。爲レ人君者可以鑒矣。』第四小段收二緯線一。戒二後世一。○以上第三大段總收。○歐公八家中第一君子。故其文溫厚不レ迫。卻含二蓄多少情味一。

## 縱囚論

主意　言二縱囚爲レ求レ名。而其求レ名。從レ非二人情一。非二常法一。見出。故前後極レ論二非人情非常法一。

信義行二於君子一。而刑戮施二於小人一。第一節淺。刑入二於死者一。乃罪大惡極。此又小人之尤甚者也。寧以義死。不苟幸生。而視レ死如レ歸。此又君子之尤難者也。」第二節深。○第一小段。虛論君子小人情狀。方唐太宗之六年。錄二大辟四三百餘人一。縱使レ還レ家。約二其自歸一。以就レ死。」第一節實敍。是以君子之難

移人トハ、小人ヲ變ジテ君子タラシムルヲイフ。

烏有所——何ゾ囚ヲ縱ツヲ以テ恩惠トイフヲ得ンヤ、囚人歸牢シタリトテ、信義ヲ云爲ス可キモノナランヤ。

能期小人之尤者。以必能也。第二節就上斷言。其囚及期。而卒自歸無後者。是君子之所難。而小人之所易也。此豈近於人情。第三節就下斷言。○第二小段擧實事合前論。以斷其不近人情。○以上第一大段論不近人情。○君子小人。順逆說來有姿態。或曰。罪大惡極誠小人矣。及施恩德以臨之。可使變而爲君子。蓋恩德入人之深。而移人之速。有如是者矣。」或辨起下。曰。太宗之爲此。所以求此名也。一篇主意。然安知夫縱之去也。不意其必來。以冀免所以縱之乎。又安知夫被縱而去也。不意其自歸而必獲免所以復來乎。」用然字下文起疑。○二疑詞所謂紆餘曲折。歐公得意處。○第二小段提本意又疑。夫意其必來而縱之。是上賊下之情也。意其必免而復來。是下賊上之心也。吾見上下交相賊以成此名也。烏有所謂施恩德與夫知信義者哉。」第三小段正斷。不然太宗施德於天下。於茲六十矣。不能使小人不爲極惡大罪。而一日之恩。能

使レ視レ死如レ歸而存二信義一。此又不レ通之論也。第四小段反二對或辨一。○以上第二大段一設二問答一。論二所レ以求レ名。是主意。然則何爲而可。曰。縱而來歸。殺レ之無レ赦。而又縱レ之而又來。則可レ知レ爲レ恩德之致一爾。然此必無レ之事也」置二爲下段之地一。若夫縱而歸來。而赦レ之。可レ偶一爲レ之爾。若屢爲レ之。則殺レ人者皆不レ死。是可レ爲二天下之常法一乎。不レ可レ爲レ常者。其聖人之法乎」。第二小段論二非常法一。是以堯舜三王之治。必本二於人情一。不レ立レ異以爲レ高。不二逆情以干一レ譽』。結法層累而下。如二斷岸千尺一。○第三小段反二說實事一。反二應首段收レ之。○以上第三大段假設處置。歸二到非常法一。非二常法一。故不レ近二人情一也。故說二堯舜三王本二人情一從二常法一。反二應首段一收レ之。○逆情干レ譽一句收二一篇主意一。

必無之事ハ決シテ有ル可カラザル事ナリ。

舜堯三王ハ聖人堯舜禹湯文武ノ施政ハ、必ズ基礎ヲ人情ニ置ケリ、奇異ヲ行ヒテ高シトセズ、人情ニ反シテ名ヲ賣ル如キコトヲ敢テセザルナリ。

唐宋八家文讀本卷十終

# 唐宋八家文讀本卷十一

## 上范司諫書

主意　責司諫曠職。不能行道。故道字一篇眼目。

前月中。得進奏吏報。云自陳州召至闕。拜司諫。卿欲爲一書以賀。多事卒卒。未能也。第一節謝賀書遲延。司諫七品官爾。於執事得之不爲喜。而獨區區欲一賀者。誠以諫官者。天下之得失。一時之公議繫焉」。第二節說所以賀。○第一小段說所以賀書之大意。是綱。以下三小段。是目。今世之官。自九卿百執事。外至一郡縣吏。非無貴官大職。可以行其道也。第一節合說內外官。然縣越其封。郡逾其境。雖賢守長。不得行。以其有守也。第二節分說外官。吏部之官。不得理兵部。鴻臚之卿。不得理光祿。以其有司也」。第三節分說內官。○

范ハ范仲淹、司諫ハ規諫諷諭ヲ掌ル職ニシテ正七品ノ官タリ、左司諫右司諫アリ。

進奏吏ハ進奏院ノ屬吏。

陳州云云、天聖年中、范仲淹皇后郭氏ヲ廢スルヲ諫メシヲ以テ、太后ノ旨ニ忤ヒ、陳州ニ通判タリ、明道二年太后崩ズ、仁宗又仲淹ヲ召シテ司諫ニ復セリ。卒卒ハ急遽ノ貌。

縣越其——如何ニ賢良ナル長官ト雖、己ノ管轄外ニ出デテ、他縣他郡ニマデ手ヲ延バシ、職務ヲ施スコト能ハザルベシ、何トナレバ各

其職權アリテ、埒外ヲ出ヅルコト能ハザレバナリ。
吏部ハ官吏選敘等ノコトヲ掌ル。
鴻臚ハ外交ノ事務ヲ掌ル。
光祿ハ祭祀宴饗等ノコトヲ掌ル。
惟所見——惟見ルココロ聞クマヽニコレヲ計リコレヲ行ヒ、職掌ノ分限アラザルモノハ、獨リ宰相ト諫官トノ二人ナリ、宰相ハ事ヲ實際ニ施行スルノ權ヲ有シ、諫官ハ其意見ヲ君前ニ提出スルヲ得。
宰相尊——宰相ハ身分尊クシテ、天下ノ政治ヲ行ヒ、諫官ハ身分卑クシテ、意見自說ヲ提出スルモノナリ。
九卿ハ太常、光祿、衛尉、太僕、廷尉、大鴻臚、宗正、少府、文司農。
廟堂ハ朝廷。
殿階ハ宮殿ノ階下。
簡册ハ書物。

第二小段說諸官有守司。是客。

若天下之失得。生民之利害。社稷之大計。惟所見聞。而不繫職司者。獨宰相可行之。諫官可言之爾。故士學古懷道者。仕於時。不得爲宰相。必爲諫官。諫官雖卑。與宰相等。第一節說宰相諫官之重。

天子曰不可。宰相曰可。天子曰然。宰相曰不然。坐乎廟堂之上。與天子辨可否者。宰相也。天子曰是。諫官曰非。天子曰必不可行。諫官曰必不可行。立殿階之前。與天子爭是非者。諫官也。第二節寫實況。如睹。文有生色。

宰相尊行其道。諫官卑行其言。言行道亦行也。」合收宰相諫官。○第三小段說諫官與宰相。任天下之責。不如諸官獨任一官之責。○言行道亦行也一句絕妙。且名言。第三小段主意。

九卿百司郡縣之吏。守一職者。任一職之責。宰相諫官。繫天下之事。亦任天下之責。第一節再說主意。然宰相九卿而下失職者。受責於有司。諫官之失。一客。歸重於主。

有司之法。行乎一時。君子之譏。著之簡册。而職也。取譏於君子。

慨ハ亡フナリ。

七品之——宰相ノ如キ貴キ官ハイザ知ラズ、七品ノ賤シキ官ニテ、天下ノ重キ責任ヲ負ヒ、百世後來ノ譏ヲ懼ルルコトナレバ、重且大ナル職掌ニアラザランヤ、材器アリ、且賢德アル者ニアラズンバ固ヨリ堪フル所ニアラザルナリ。

他日聞——後日天子宮殿ノ陛下ニ立チ、言辭ヲ直クシ、顏色ヲ正シクシ、陛下ノ面前ニ論爭シ、朝廷ニテ論議スル骨骾ノ臣アルヲ聞カバ、其人ハ餘人ニハアラズシテ必ズ范君ナラント世人語リ合ヘリ。翹首企足ハ、首ヲノバシ、足ヲツマダテ、物事ヲ待ツ貌。有待而然トハ、彼ノ極諫セザルハ未ダ其事ナケレバナリ、今ハ其極諫スベキ事アルヲ待チ居ルナラント云フコトナリ。

昭明垂之百世而不泯。甚可懼也。第二節推重諫官。夫七品之官任天下之責。懼百世之譏。豈不重邪。非材且賢者不能爲也。』第三節結上伏下。○第四小段更進說諫官獨取百世之譏。其官之重。出宰相之上。○以上第一大段說諫官大任足行道。是虛論。近執事始被召於陳州。洛之士大夫。相與語曰。我識范君。知其材也。其來不爲御史。必爲諫官。及命下果然。第一節說其材。則又相與語曰。我識范君。知其賢也。他日聞有立天子陛下。直辭正色。面爭廷論者。非他人。必范君也。拜命以來。翹首企足。跂乎有聞。而卒未也。竊惑之。第二節說其賢而生惑。豈洛之士大夫。能料於前。而不能料於後也。將執事。有待而爲也。』第三節專說疑。○第一小段疑案。昔韓退之作爭臣論。以譏陽城。不能極諫。卒以諫顯。人皆謂。城之不諫。蓋有待而然。退之不識其意而妄譏。第一節說陽城有待。修獨以謂不然。當退之作論時。城爲諫議大夫已五年。

後又二年。始廷論陸贄。及沮裴延齡作相。欲裂其麻。纔兩事耳。當德宗時。可謂多事矣。授受失宜。叛將强臣羅列天下。又多猜忌。進任小人。於此之時。豈無一事可言。而須七年耶。當時之事。豈無急於沮延齡。論陸贄兩事耶。謂宜朝拜官而夕奏疏也。幸而城爲諫官七年。適遇延齡陸贄事。一諫而罷。以塞其責。向使止五年六年。而遂遷司業。是終無一言而去也。何所取哉。第二節駁陽城有待。

今之居官者。率三歲而一遷。或一二歲。甚者半歲而一遷。此又非可以待乎七年也」。第三節說今之尤不可待。○漸入今。然不甚迫。○第二小段借陽城諷司諫不可待。○韓文公借郭隗說已。歐陽公借陽城說人。同一手段。

今天子躬親庶政。化理清明。雖爲無事。然自千里詔執事。而拜是官者。豈不欲聞正議而樂讜言乎。今未聞有所言說。使天下知朝廷有正士。而彰吾君有納諫之明也。第一節惜不副天子

廷論陸贄云云、德宗貞元十一年、裴延齡、陸贄ヲ讒セシトキ、陽城諸諫官ヲ率キテ闕ニ至リ、延齡ノ姦佞ナ論ジテ曰ク、若シ延齡ヲ以テ相トナサバ、當ニ白麻ヲ取ツテ之ヲ壞ルベシト。麻ハ詔勅ヲ寫ス紙ナリ。

授受失宜トハ、盜賊ノ州郡ニ據ルモノヲ用ヒテ牧守トナシ、或ハ士卒ノ守帥ヲ殺スモノニ節鉞ヲ授ケ、以テ藩鎭ヲシテ跋扈セシメタルヲイフ。

猜忌トハ疑ヒブカキコト。

司業ハ國子司業トテ、太學教授ノ職ナリ。

讜言ハ直言ナリ、善言ナリ。

布衣韋帶ハ平民ノ服ナリ。

執事思――執事ニハ天子ガ御擧用アリシ御思召ヲ思ヒ、君子ニ百世ノ後マデモ譏ラルルヲ懼レ、一ダヒ善言ヲ陳ベテ、以テ世人ノ重キ嘱望ヲ塞ギ、且洛陽ノ士君子ハ皆執事ノ諫言ナキヲ怪シミ惑ヘバ、早ク面評論議シテ其怪ミ惑フ所ヲ解カレナバ幸甚ノ至ナリ。

高司諫名ハ若訥、字ハ敏之、時ニ司諫タリ。

及第榜ハ及第人名ヲ揭示セル札。

之望。夫布衣韋帶之士。窮居草茅。坐誦書史。常恨不見用。及用也又曰。彼非我職。不敢言。或曰。我位猶卑。不得言。得言矣又曰。我有待。是終無一人言也。可不惜哉」。第二節惜司諫之有待。然不斥司諫。如言他人之事。用辭婉。○我有待。主意歸宿。○第三小段決案。一篇責司諫有待之意。歸宿于此。伏惟執事思天子所以見用之意。懼君子百世之譏。一陳昌言。以塞重望。且解洛士大夫之惑。則幸甚幸甚。』第四小段望塞重望。總結一篇。○重望即賀意。○以上第二大段責司諫曠職不能行道。是實論。○待字一大段眼目。四處相應。

## 與高司諫書

主意　責司諫默默。不能救范希文之黜。反詆之。○君子字一篇眼目。

修頓首再拜。白司諫足下。某年十七時。家隨州。見天聖二年進士及第榜。始識足下姓名。是時予年少。未與人接。又居遠方。但

聞今宋舍人兄弟。與葉道卿鄭天休數人者。以文學大有名號。稱得人。而足下則其閉。獨無卓卓可道說者。予固疑足下。不知何如人也。」第一小段一疑。其後更十一年。予再至京師。足下已爲御史裏行。然猶未暇一識足下之面。但時時於予友尹師魯。問足下之賢否。而師魯說足下正直有學問。君子人也。予猶疑之。」第二小段二疑。夫正直者。不可屈曲。有學問者。必能辨是非。以不可屈之節。有能辨是非之明。又爲言事之官。而俯仰默默。無異衆人。是果賢者耶。此不得使予之不疑也。」第三小段三疑。自足下爲諫官來。始得相識。侃然正色。論前世事。歷歷可聽。褒貶是非。無一謬說。噫持此辯以示人。孰不愛之。雖予亦疑足下眞君子也。是予自聞足下之名。及相識。凡十有四年。而三疑之。今者推其實迹而較之。然後決

宋舍人兄弟ハ宋祁字ハ子京、兄庠字ハ公序、同時ニ進士ニ擧ゲラレ、皆文學ヲ以テ名アリ。

卓卓ハ秀テタル貌。

道說ハ言說ナリ。

御史裏行ハ官名。

爲言事——事ヲ論ズル職責ヲ有シナガラ、世ニ從ヒ沈默ヲ守リテ、衆人ト異ナルナキハ、是レ果シテ賢者トイフヲ得ベキカ、師魯ノ之ヲ稱贊シテ止マザルモ、予大ニ疑ハザル能ハザル所ナリ。

侃然正——毫モ倦ヲ憚ルノ色ナク、嚴然トシテ顏色ヲ正シクシ、衣冠ヲ整ヘ、前世ノ事ヲ論究スレバ、歷然トシテ怪ムベキ點ナク、皆

其正鵠ヲ得、傾聽スルニ足ルモノアリ、又人チ褒貶是非シテ、人物チ月旦スルニモ謬レルコトナシ。

歷歷ハ分明ナル義。范希文ハ仲淹ノ字、希文時ニ上書シテ宰相呂夷簡ノ惑情チ害シ、知饒州ニ貶セラル。安道ハ余靖ノ字ナリ、四賢ノ一人ナリ。

懦軟ハ懦弱柔和ノ性質チイフ。

雖聖人——聖人君子タリト雖、人ノナスコト能ハザルモノチ強ヒテナサンコトチ責ムルモノニハアラザルナリ。

反昂然——今ハ卻ツテ得意ニナリ、傲然ト構ヘ、少シモ慚愧ノ色ナク、希文ノ賢チ毀リテ當ニ黜クベシトイヒ、

知足下非君子也』折。歸到知非君子一句。一句即一篇大意。前日范希文貶官。後與足下相見於安道家。足下詆詆希文爲人。予始聞之。疑是戲言。及見師魯亦說足下深非希文所爲。然後其疑遂決。希文平生剛正。好學通古今。其立朝有本末。天下所共知。今又以言事觸宰相。得罪。足下既不能爲辨其非。宰又畏有識者之責己。遂隨而詆之。以爲當黜。是可怪也。」段詆希文。夫人之性。剛果懦軟稟之於天。不可勉強。雖聖人亦不以不能責人之必能。今足下家有老母。身惜官位。懼飢寒而顧利祿。不敢一忤宰相。以近刑禍。此庸人之常情。不過作一不才諫官爾。雖朝廷君子亦將閔足下之不能。而不責以必能也。」人一怨之。是縱。今乃不然。反昂然自得了無媿畏。便毀其賢。以爲當黜。庶乎飾己不言之過。夫力

以テ己ガ前ニ諫官ニ居リナガラ諫言セザルノ過失ヲ飾蔽セント庶幾スルニ至ル。

前行員外郎、前行ハ吏部兵部ナイヒ、員外郎ハ其屬吏ナイフ。

待制ハ官名。

足下以ㇾ——足下希文ヲ以テ賢者トナストモ、又不賢者トナストモ、何レモ其責任ヲ免ルコトヲ得ザルベシ、概言スレバ、足下ノ罪タル、諫官ニシテ沈默ヲ守リシニアルノミ。殺蕭望之、前漢元帝ノ時ノ人ニシテ、時ニ中書令弘恭、僕射、石顯、權ヲ專ニセシカバ、之ヲ惡ミ、中書ノ宦官ヲ罷メント請ヘリ、是ニ於テ二人帝ニ讒シテ兵

所ㇾ不ㇾ敢爲。乃愚者之不ㇾ逮。以ㇾ智文其過。此君子之賊也。』第三小段一擒。

○以上第二大段入題。責ㇾ高司諫不ㇾ救ㇾ希文。卻詆ㇾ之。故主意全在ㇾ此段及第三大段。且希文果不賢耶。自ㇾ三四年ㇾ來。從ㇾ大理寺丞。至ㇾ前行員外郎。作ㇾ待制。日日備ㇾ顧問。今班行中無ㇾ與ㇾ比者。是天子驟用不賢之人。夫使ㇾ天子待ㇾ不賢ㇾ以爲ㇾ賢。是聰明有ㇾ所未ㇾ盡。足下身爲ㇾ司諫。乃耳目之官。當ㇾ其驟用時。何不ㇾ一爲ㇾ天子ㇾ辨其不賢。反默默無ㇾ一語。待ㇾ其自敗。然後隨而非ㇾ之。」段言ㇾ不ㇾ辨ㇾ希文賢。第一小

不賢。若果賢邪。則今日天子與ㇾ宰相。以忤意逐ㇾ賢人。足下不ㇾ得不ㇾ言。是則足下以希文爲ㇾ賢。亦不免ㇾ責。以爲不賢。亦不免ㇾ責。大抵罪在ㇾ默默爾。』第二小段言ㇾ不ㇾ辨ㇾ希文賢。○以上第三大段、責ㇾ司諫之罪在ㇾ默默。昔漢殺ㇾ蕭望之與王章。計其當時之議。必不肯明言殺ㇾ賢者也。必以石顯王鳳爲忠臣。望之與ㇾ章爲不賢而被ㇾ罪也。今足下視石顯王鳳果忠邪。望之

チ發シテ其第ヲ圖ミシカバ、望之遂ニ自殺セリ。

王章ハ成帝ノ時ノ人ニシテ、大將軍王鳳、事ヲ用ヒ權ヲ振ヒシカバ、封事ヲ上リテ之ヲ論ズ、獄ニ下サレテ死ス。

今皇帝ハ仁宗。

戒百官——百官千吏ヲ戒ムルニ、己ノ職分以外ニ出デ、言責ナキ他ノ官職ニ在リテ妄リニ朝政ヲ論議セヌコトニナレリ。

足下在——足下今其位ニ在リナガラ、爭言スベキコトナケレバ、直チニ位ヲ去リ職ヲ辭スベシ、空シク其位ヲ塞ギテ他人ノ其任ニ適

與章果不賢邪」段一詰。當時亦有諫臣。必不肯自言。畏禍而不諫。亦必曰。當誅。而不足諫也。今足下視之。果當誅耶」段二詰。是直可欺當時之人。而不可欺後世也。今足下又欲欺今人。而不懼後世之不可欺耶。況今之人未可欺也』段引故事。論今人後人不可欺。伏以今皇帝卽位已來。進用諫臣。容納言論。如曹修古劉越。雖歿猶被褒稱。今希文與孔道輔。皆自諫諍擢用。足下幸生此時。遇納諫之聖主。如此猶不敢一言何也」納諫。而不一言。前日又聞。御史臺牓朝堂。戒百官。不得越職言事。是可言者惟諫臣耳。若足下又遂不言。是天下無得言者也。足下在其位而不言。便當去之。無妨他人之堪其任者也」。第二小段言昨日安道貶官。師魯待罪。足下猶能以面目見士大夫。出入朝中。稱諫官。是足下不復知人

閒有羞恥事爾」。第三小段言不知恥。所可惜者。聖朝有事。諫官不言。而使他人言之。書在史册。他日爲朝廷羞者足下也」。第四小段言爲朝廷辱。○以上第五大段責司諫默默。不獨爲希文不幸。而爲朝廷辱。是推究法。春秋之法。責賢者備。今某區區。猶望足下之能一言者。不忍便絶足下。而不以賢者責也」。第一小段以賢者待之。是揚。若猶以謂希文不賢而當逐。則予今所言如此。乃是朋邪之人爾。願足下直攜此書於朝。使正予罪而誅之。使天下皆釋然。知希文之當逐。亦諫臣之一効也」。第二小段言擔罪。于己一身。是抑。前日足下在安道家。召予往論希文之事。時坐有他客。不能盡所懷。故輒布區區。伏惟幸察。不宣』。第三小段言與書之由。○以上第六大段出己身擔當。救希文之罪。收全局。

## 答吳克秀才書

今某區區——我輩區區ノ心ヲ以テ、貴殿ノ一タビ諫言ヲ奏センコトヲ切望スル所以ハ、直チニ貴殿ヲ以テ聖人賢者ノ道ヲ責ムルニ足ラズト擯斥スルニ忍ビザレバナリ。

朋邪之人トハ邪ニ黨スルノ人。

克字ハ仲卿トイヒ、神宗ノトキ宰相トナル。

シ、敢テ面諍廷論センコトスル士ノ妨害ヲナス勿レ。

秀才ハ進士出身ヲ稱スル語。

先輩ハ唐ノ時進士互ニ稱スルノ敬語。

滃然ハ沛然ト同ジク、勢力猛烈ナル貌。

倀々ハ歸向スル所ナキ貌。

謙言ハ謙遜ナル言語。

世之欲——他人ノ稱譽ヲ得テ以テ己ノ信用ヲ增シ、他人ノ勢力ヲ借リテ、而シテ立身顯達セント欲スル人ハ、奚ゾ非才無力ノ修ニ取ル所アランヤ。文雄トハ、文章ノ雄大ナルコト。

至者鮮焉トハ、彼岸ノ地ニ達スルモノ鮮少ナルチイフ。

主意　言文在充レ道。蓋克專溺文而遺レ道。故諷レ之也。

修頓首白。先輩吳君足下。前辱示書及文三篇。發而讀之。浩乎若千萬言之多。及少定而視焉。纔數百言爾。非夫辭豐意雄。霈然有不可禦之勢。何以至此。然猶自患倀倀。莫有開之使前者。此好學之謙言也。」第一小段稱克文。修材不足用於時。仕不足榮於世。其毀譽不足輕重。氣力不足動人。世之欲假譽以爲重。借力而後進者。奚取於修焉。」第二小段言己不足取。先輩學精文雄。其施於時。又非特假譽爲重。借力而後進者也。然而惠然見臨。若有所責。得非急於謀道。不擇其人而問焉者歟。第三小段發勸道之端。〇以上第一大段稱其文。遂勸之道。夫學者未始不爲道。而至者鮮焉。非道之於人遠也。學者有所溺焉耳。蓋文之爲言。難工而可喜。易悅而自足。世之學者往往溺之。一有

孔子老云云、史記ニ吾自レ衛反レ魯、然後樂雅頌各得二其所一、トアルハ蓋シ之ナリ。六經ハ詩、書、易、春秋、禮樂ナイフ。

孟子名ハ軻、字ハ子輿、孟子七篇ヲ著ス、戰國時代ノ人。皇皇ハ希フ所アリテ未ダ得ザル貌。荀卿名ハ況、荀子ヲ著ス。子雲ハ揚雄ノ字、法言ヲ著ス、前漢ノ人。仲淹ハ王通ノ字、隋ノ文帝ノ時ノ人。

レ工焉則曰。吾學足矣。甚者至棄百事不レ關二於心一。曰。吾文士也。職二於文一而已。此其所以至之鮮也。」第一小段論二今人道不レ足。昔孔子老而歸レ魯。六經之作。數年之頃耳。然讀レ易者如無二春秋一。讀レ書者如無レ詩。何其用功少而至於至也。聖人之文。雖不可及。然大抵道勝者。文不レ難而自至也。故孟子皇皇不レ暇レ著レ書。荀卿蓋亦晚而有レ作。若二子雲仲淹一。方勉焉以模二言語一。此道未レ足。而彊言者也。」第二小段論二古人道足一。後之惑者。徒見二前世之文傳一。以爲レ學者文而已。故力愈勤而愈不レ至。此足下所謂終日不出於軒序一。不レ能二縱橫高下皆如レ意者一。道未レ足也。若道之充焉。雖レ行乎天地一。入於淵泉一。無レ不レ之也。』再論二後人道不レ足一。終收二主意一。○若道之充焉云云三句。一篇主意歸宿。○以上第二大段論二文在レ道一。足下之文。浩乎霈然。可レ謂レ善矣。而又志於爲レ道。猶自以爲未レ廣。若不レ止焉。孟荀可レ至而不レ難也。」

修學道——修ハ道ヲ學ビ德ヲ修メント欲シテ未ダ其目的ヲ遂ゲサルモノナリ、サレド幸ニ自己ノ好ム所ニ安ンゼズ、又己ノ達セル所ニ耽ラズ、吾子ノ進ンデ止マザル盛氣ガ、修ヲ激勵シテ少シク附隨シテ進ムコトヲ得バ幸甚。

第一小段就克言。修學道而不至者。然幸不甘於所悅。而溺於所止。因吾子之能不自止。又以勵修之少進焉。幸甚幸甚。』第二小段就己言。○以上第三大段言吳克與歐公幷志于道相勉勵。以結全篇。

## 答祖擇之書

主意　勸祖擇之師經。

修啓。秀才人至。蒙示書一通。幷詩賦雜文兩册。諭之曰。一覽以爲如何。某既陋。不足以辱好學者之問。又其少賤。而長窮。其素所爲。未有足稱以取信於人。亦嘗有人問者。以不足問之愚。而未嘗答人之問。足下卒然及之。是以愧懼不知所言。雖然。不遠數百里。走使者以及門。意厚禮勤。何敢不報。』敍所以報答。某聞。古

其少賤——少壯ノ時ハ身分賤シク、又生長ノ後モ困窮ニ迫ラレシカバ、其平素ナシ所、未ダ稱賛ヲ得テ人望ヲ博スルニ足ラズ。

有人問——人ノ尋問スルモノアレドモ、素ヨリ人ニ物問ハルル資格ノナキモノナレバ、未ダ嘗テ之ニ應答セシコトアラズ。

卒然ハ急遽ノ貌。嚴其師トハ、師ヲ嚴重ニ尊敬スルナイフ。三代ハ夏殷周。

學者惟——學者皆志操確固ナラズ、世ト浮沈上下シテ祿利ヲ是レ求メ、根源ノ大道ヲ忘卻シテ、些細ノ小利ニノミ走リ、遂ニ底止スル所ヲ知ラザラントス。

足下所——貴殿ノイフ如ク古道ニ志シ、聖人ノ道ヲ知ルノ人士ハ世上稀ニ見ル所ニシテ、未ダ同志ノ士ニ遇フ能

之學者。必嚴其師。師嚴然後道尊。道尊然後篤敬。篤敬然後能自守。能自守然後果於用。果於用然後不畏而不遷。三代之衰。學校廢。至兩漢。師道尚存。故其學者。各守其經以自用。是以漢之政理文章。與其當時之事。後世莫及者。其所從來深矣」段言古有師道。後世師法漸壞。而今世無師。則學者不尊嚴。故自輕其道。輕之則不能至。不至則不能篤信。信不篤則不知所守。守不固則有所畏而物可移。是故學者惟俯仰狥時。以希祿利爲急。至於忘本趨末。流而不返」今無師道。第二小段言夫以不信不固之心。守不至之學。雖欲果於自用。莫知其所以用之之道。又況有祿利之誘。刑禍之懼。以遷之哉。此足下所謂志古師道之士。世所鮮。而未有合者。由此也』。第三小段言古今無知道之士。○以上第二大段論古今師道有無。是虛。足下所爲文。用意甚

ハザルハ、職トシテ其理此ニ存スルナリ。

乃知足——今ヤ貴殿ガ己ノ學ノ至ラズ、德ノ足ラザル所ヲ求メントト欲スル意ナルヲ知ル、コレ古ノ君子ノ希望シテ止マザリシ所ナリ、故ニ少シモ隱スコトナク所思ヲ述ベシナリ。世無師——當世ニハ眞ノ師トスベキモノナケレバ、學者ハ當ニ古ノ聖人ノ經書ヲ以テ師トシテ學ブヘシ、而シテ經書ヲ學ブニハ、必ズ先ヅ經書ノ眞意ヲ究ムベシ、若シ其眞意ヲ知ルヲ得バ、我心定マル所アルベシ。

高卓然有不顧世俗之心。直欲自到於古人。今世之人。用心如足下者有幾。是則鄉曲之中。能爲足下之師者謂誰。交游之閒。能發足下之議論者謂誰。學不師則守不一。議論不博則無所發明而究其源。足下之言高趣遠甚善。然所守未一。而議論未精。此其病也」。第一小段言擇之無師。而守不一。是實。竊惟足下之交游。能爲足下稱才譽美者不少。今皆捨之。遠而見及。乃知足下是欲求其不至。此古君子之用心也。是以言之不敢隱。夫世無師矣。學者當師經。師經必先求其意。意得則心定。心定則道純。道純則充於中者實。中充實則發爲文者輝光。施於事者果毅。三代兩漢之學不過此也」。第二小段勸擇之師經。是一篇主意。足下患世未有合者。而不棄其愚。將某以爲合。故敢道此。未知於足下之意合否。」段察擇之無師。而守不一。勸以師

レ經。復二三代兩漢之學一。

足下患――貴殿ハ世ニ未ダ志ノ合フ知己ナキヲ患ヘテ、愚鈍ナル拙者ヲ以テ交際スルニ足ラズトナサズ、卻ツテ意氣投合セリトナスヲ以テ、敢テ之ヲ述ベシナリ、サレド果シテ貴殿ノ意ニ適フヤ否ヤヲ知ラザルナリ。

翦剔ハ切リテ分解スルコト。齊整ハ整理スルコト。分殺ハ四分五裂スルコト。駁冗ハ支離滅裂、ムダ言ノ多キコト。

## 與二張秀才一第二書

主意　以二孔孟大中之道一。破二張秀才高遠之弊一。

前日去後。復取二前所レ貺古今雜文十數篇一。反覆讀レ之。若二大節ノ賦。樂古。太古ノ曲等ノ篇一。言尤高而志極大。尋二足下之意一。豈非下閔レ世病レ俗。究二古明レ道。欲レ援レ今以復二之古一。而翦剔齊整凡今之分殺駁冗者上歟。然後益知二足下之好レ學。甚有レ志者一也。然而述二三皇太古之道一。捨二近取一レ遠。務二高言一而鮮二事實一。此レ少過也。』以上第一大段大意。君子之於レ學也。務レ爲レ道。爲レ道必求レ知レ古。知レ古明レ道。而後履レ之以レ身。施レ之於事一。而又見二文章一。而發レ之以レ信二後世一。其道。周公孔子孟軻之徒。常履

混蒙ハ太古世未ダ開ケズ、人民ノ無知蒙昧ナルコト。
虚無ハ虚心無爲ナルコト。
廣略トハ、意義ノ茫漠タルコト。
孔子之言云云、中庸ニ見ユ。
春秋信云云、隱公元年穀梁傳ニ、春秋貴レ義而不レ貴レ惠、信レ道而不レ信レ邪トアリ。
齊侯遷云云、春秋ニ僖公二年春正月城二楚邱一、左傳ニ諸侯城二楚邱一、而封レ衞焉トアリ。
若稽古トハ、此ニ古ノ事ヲ考ヘ見レバトイフ意義ニシテ、書ノ堯典、舜典、皐陶謨等ハ皆其語ヲ以テ文ヲ起ス。傅說ハ殷ノ高宗ノ臣。

而行レ之者是也。其文章。則六經所レ載。至レ今而取レ信者是也。其道易知而可レ法。其言易明而可レ行。及二誕者言一レ之。乃以二混蒙虛無一爲レ道。洪荒廣略爲レ古。其道難レ法。其言難レ行。」段總論。孔子之言レ道。曰。道不遠レ人。言中庸者曰。率レ性之謂レ道。又曰。可レ離非レ道也。春秋之爲レ書也。以成二隱讓一而不レ正レ之。傳者曰。春秋信レ道不レ信レ邪。謂隱未レ能レ蹈二道一。齊侯遷レ衞。書レ城二楚邱一。與二其仁一不レ與二其專封一。傳者曰。仁不レ勝レ道。凡此所謂道者。乃聖人之道也。此履レ之於レ身。施レ之於レ事而可レ得者也。豈如二誕者之言一者耶。第二小段謂道不二虛無一、春秋信レ道不レ信レ邪、以二實迹一爲レ道。以不レ蹈レ道爲レ邪邪邪曲之邪。非二邪惡之邪一。」堯舜禹之書。皆曰若稽古。傅說曰。事不レ師レ古。匪二說攸聞一。仲尼曰。吾好レ古。敏以求レ之者。凡此所謂古者。其事乃君臣上下。禮樂刑法之事。又豈如二誕者之言一者耶。此君子之所レ學也。』第三小段謂古不二廣略一。以上第二大段論二古文學一

在二于實事上一。夫所謂捨レ近而取レ遠云者。孔子昔生二周之世一。去二堯舜一遠。孰與今去二堯舜一遠也。孔子刪レ書。斷自二堯典一而弗レ道二其前一。其所謂學。則曰レ祖二述堯舜一。如孔子之聖且勤。而弗レ道二其前者一。豈不レ能耶。蓋以二其漸遠一而難レ彰。不レ可レ以信二後世一也。今生二於孔子之絶後一。而反欲レ求二堯舜之已前一。世所謂務二高言一。而鮮二事實者一也。」段說レ遠。唐虞之道。爲二百王首一。仲尼之歎曰。蕩蕩乎。謂二高深閎大而不一レ可レ名也。及二夫二典述一レ之炳然。使二後世尊崇仰望一。不レ可レ及。其嚴若レ天。然則書之言。豈不高耶。然其事不レ過二於親九族一。平二百姓一。憂二水患一。問二臣下誰可任一。以レ女妻レ舜。及祀二山川一。見二諸侯一。齊二律度一。謹二權衡一。使二臣下一、誅二放四罪一而已。孔子之後。惟孟軻最知レ道。然其言不レ過二於教人樹一レ桑麻一。畜二雞豚一。以謂二養生送死一。爲二王道之本一。夫二典之文一。豈不レ爲

蕩蕩乎ハ廣大ニシテ際ナキ貌。

二典ハ堯典ト舜典ト。

憂水患云云、堯ノ時洪水アリタレバ、廷臣ニ咨リテ、鯀ヲ遣リテ之ヲ治メシメシナイフ。

以女云云、堯其二女ヲ潙汭ニ降嫁シテ舜ノ妻トセシヲ云フ。

律ハ十二律。

度ハ尺度。

四罪トハ凶ヲ罪スルコト、舜典ニ流二共工于幽州一、放二驩兜于崇

山、嶽二苗于三危、殛二鯀于羽山一トアリ。二典之——堯舜二典ノ文章ハ、豈堂堂正正タルモノニアラズヤ、孟子ノ道德談ハ豈立派ナルモノニアラズヤ。混沌ハ天地未ダ判レザルトキノコト。無形ハ虛無。夫道者——夫レ道德トイフモノハ、高卑遠近ノ區別ナキモノニテ、賢者モ之ヲ得ベク、愚者モ勉強シテ人格ヲ高メ、德ヲ養フベシ、行キ過ギタリトイフコトモナク、及ハズトイフコトモナク、實ニ大中ニシテ、不偏不黨ノモノナリ、故ニ時ノ古今ヲ問ハズ、國ノ東西ヲ論ゼズ、戾ラズ謬ラザルモノナリ。陳言ハ陳腐ナル言語。安敢務——何ゾ敢テ特ニ奇奇怪怪ノ言說ヲナシテ、獨リ高尙ナルコトヲイヒタリトテ、得揚揚タランヤ。

文孟軻之言レ道。豈不レ爲レ道。而其事ハ乃世人之甚易レ知而近者。蓋切於事實而已。」段說レ近。今學者不深本之。乃樂誕者之言。思混沌於古初。以無形爲至道。夫道者無有高下遠近。使賢者能之。愚者可勉而至。無過不及。而一本乎大中。故能亙萬世。可行而不變也。今以謂不足爲。而務高遠之爲レ勝。以廣誕者無用之說。是非學者之所盡心也。宜少下其高而近其遠。以及乎中。則庶乎至矣。』一篇主意。○以上第三大段勸張捨遠取近。凡僕之所論者。皆陳言淺語。如足下之多聞博學。不宜爲足下道之也。」段謙語。然某之所以云者。本欲損足下高遠而俯就之。則安敢務爲可言。以自高耶。幸足下少思焉。』第二小段勸語。○以上第四大段謙語收全篇。

# 帝王世次圖序

主意　言司馬遷不レ愼レ所レ不レ知之妄。

堯舜禹湯文武。此六君子者。可レ謂二顯人一矣。而後世猶失二其傳一者。豈非以レ其遠一也哉。是故君子之學。不レ窮レ遠以爲レ能。而闕二其不一レ知。愼レ所レ傳以惑レ世也」揭二主意一。第一小段　方孔子時。周衰學廢。先王之道不レ明。而異端之說並起。孔子患レ之。乃脩二正詩書史記一。以止二紛亂之說一。而欲二其傳之信一也。故略二其遠一而詳二其近一。於レ書斷自二唐虞一以來。著二其大事一。可レ以爲二世法一者而已。至二於三皇五帝一。君臣世次一。皆未レ嘗二道一者一。以二其世遠一而愼レ所レ不レ知也」子愼傳。證二主意一。第二小段　敘二孔子既沒一。異端之說復興。周室亦益衰亂。接二乎戰國一。秦遂焚レ書。先王之道中絕。漢興久レ之。詩書稍出。而不レ完。當二王道中絕之際一。奇書異說。方充斥而

異端トハ孔子ノ道ニアラズシテ、別ニ一端ヲナス者、老莊ナドノ流派ヲイフ。
詩書史記ノ詩ハ今傳フル所ノ詩經ニシテ、本三千首アリシヲ、孔子之ヲ刪リテ三百五篇トナシシトイフ、書ハ今ノ書經ナリ、史記ハ今ノ春秋ヲイフ、春秋ハ本魯ノ史記ナリシガ、孔子之ニ據リテ、筆削ヲ加ヘシナリトイフ。
略其遠——遠キ時代ノコトニハ疎略ニシテ、其近キ事ヲ詳細ニス、先ヅ書經ニ於テハ、唐

堯舜ヨリ以來ノコトヲバ可成刪去シテ、唯大事件ノ世ノ軌範タルベキモノヲ著ハセルノミ。

世次トハ世數ノ順序。

異端之說ハ莊列楊墨等ノ學說。

充斥ハ充滿スルコト。

學者既ニ——世ノ學者、備サニ詩書ノ詳細ナルモノヲ見ルコトナク、タダ當時盛ニ行ハルル所ノ異端邪說ヲ習ヒ傳フルノミニテ、當世聖人アラネバ、其疑ヲ質スコト能ハズ、自ラ其眞僞ノ如何ヲ取捨スルコトヲ知ラザルナリ。

大戴禮ハ書名、十三卷アリ、漢ノ戴德ノ纂スル所ナリト云フ。

世本ハ古史臣ノ銘スル所、黃帝以來ノ王諸侯及ビ卿大夫ノ系氏名號ヲ記載セルモノ。

同父異母之兄弟トハ、異腹ノ兄弟。

盛行。其言往往反自托於孔子之徒。以取信於時。學者既不備見詩書之詳。而習傳盛行之異說。世無聖人以爲質。而不自知其取捨眞僞。至有博學好奇之士。務多聞以爲勝者。於是盡集諸說而論次。初無所擇。而惟恐遺之也。如司馬遷之史記。是矣」。

第三小段敍司馬遷不愼傳。反主意。

以孔子之學。上述前世。止於堯舜。著其大略。而不道其前。遷遠出孔子之後。而乃上述黃帝以來。又詳悉其世次。其不量力而務勝。宜其失之多也』。

第四小段承前二段起下段。○以上第一大段虛論孔子愼所不知司馬遷不然。

遷所作本紀。出於大戴禮。世本諸書。今依其說。圖而考之。堯舜夏商周。皆同出於黃帝。堯之崩也。下傳其四世孫舜。舜之崩也。復上傳其四世祖禹。而舜禹皆壽百歲。稷契於高辛爲子。乃同父異母之兄弟。今以其世次而下之。湯與王季同世。湯下傳十

六世而爲紂。王季下傳一世而爲文王。二世而爲武王。是文王以十五世祖臣事十五世孫紂。而武王以十四世祖伐十四世孫。而代之王。何其繆哉』。以上第二大段敍司馬遷不愼傳之實。嗚呼。堯舜禹湯文武之道。百王之取法也。其盛德大業。見於行事。而後世所欲知者。孔子皆已論著之矣。其久遠難明之事。後世不必知。不知不害爲君子者。孔子皆不道也。夫孔子所以爲聖人者。其智知所取捨。皆如此。』以上第三大段再引孔子收主意。○其智一句結上文孔子愼所不知。

## 後序

主意　與前序同。但補前序所不言耳。

予既略論帝王世次。而見本紀之失。猶謂文武與紂。相去十五

其盛德——其盛大ナル德器、大事業ノ行事ニ顯ハレテ、後世ノ人ノ知ルベキコトハ、孔子皆已ニ之ヲ論議シテ、著明ニセル所ナリ、其事久シクシテ、今ニ明ニシ難キモノハ、後世ヨリ之ヲ認知スルノ必要ナシ、假令知ラズトモ、君子タルコトヲ妨ゲザルコトハ、孔子ノ論著セザル所ナリ。

孔子所——夫レ孔子ガ曠世ノ聖人タル所以ノモノハ、其明智ノ事物ヲ取捨斟酌スルコト、皆此ノ如クレバナリ。

後序ハ前ノ帝王世次圖ノ後序ナリ、後序トハ前序ニ對シテイフ、前序ノ補遺ナリ。

孔安國ハ前漢ノ人、古文尚書ヲ傳フ。皇甫謐ハ晉ノ人、字ハ子安。乖戻ハそむきもとるナリ。

始得舜――始テ舜ヲ得テ、試ニ之ヲ採用シ、其器量ノ凡ナラザルヲ知リテ、二年ノ後政治ヲ假リニ執ラシメタリ、時ニ舜年三十歳也、而シテ政治ヲ假リニ執レルコト、官ニ採用セラレタル兩者ノ年限ヲ合計スレバ、三十年ニシテ堯他界セリ、是ニ於テ舜堯ノ喪ヲ服スルコト三年ニシテ、而シテ後皇帝ノ位ニツキ、其後在位五十年ニシテ崩去セルコトナル。

六世。其繆較然不疑。」第一小段承前序。而堯舜禹之世。相去不遠。尚冀其理有可通。乃復以尚書。孟子。孔安國。皇甫謐諸書。參考其壽數。長短。而尤乖戻。不能合也。』第二小段言堯舜禹之世尤乖戻不合。○以上第一大段揭大意。據書及諸說云。堯壽一百一十六歳。舜壽一百一十二歳。禹壽百歳。堯年十六卽位。在位七十年。年八十六始得舜而試之。二年乃使攝政。時舜年三十。居試攝。通三十年。而堯崩。舜服堯喪三年畢。乃卽位。在位五十年而崩。方舜在位三十三年。命禹攝政。凡十七年而舜崩。禹服舜喪三年畢。乃卽位。在位十年而崩。』以上第二大段引書。爲後段考正之。由是言之。當堯得舜之時。堯年八十六。舜年三十。以此推地。而上之。則是堯年五十七。已見四世之元孫生一歳矣。」第一小段言堯舜之乖戻。舜居試攝。及在位通八十二年。而禹壽百年。以禹百年之閒。

元孫ハ玄孫、宋人聖祖ノ諱ヲ避ケテイヒシモノナリ。

曾祖姑ハ曾祖母ノ姉妹。

人倫之——人ノ彝倫ノ理タルヤ、萬世不易ノ常道ニシテ、斯ク混亂紛雜スベキモノニアラザルナリ。

蘇氏名ハ舜欽、字ハ子美。

推而上之。禹卽位。及居舜喪。通十三年。又在舜朝。八十二年。通九十五年。則當舜攝試之初年。禹纔六歲。是舜爲元孫。年三十。時。見四世之高祖方生六歲矣」第二小段言舜禹之乖戾。至於舜娶堯二女。據圖爲曾祖姑。雖古遠世異。與今容有不同。然人倫之理。乃萬世之常道。必不錯亂顚倒之如此」第三小段言舜娶堯女之乖戾。然則諸家世次壽數長短之說。聖經之所不著者。皆不足信也決矣』第四小段結一篇。言世次說不足信。

○以上第三大段詳敍乖戾。

## 蘇氏文集序

主意　惜子美有可伸于後世之文。而無當世之命。恨惜悲三字呼應。

予友蘇子美之亡後四年。始得其平生文章遺稿。於太子太傅

杜公名ハ衍。
公ハ杜公。

流離ハ落魄スルコト。
窮厄ハ困難。
雖其怨——假令其怨恨アルノ家、仇敵、其外極力妨害ナシテ死ニ頻セシメタル者ト雖モ、其文章ニ至リテハ、少シモ之ヲ毀損シ或ハ之ヲ隱蔽スルコト能ハザルナリ。
凡人之——凡テ人情ハ近世ノコトヲ疎忽ニシテ、古代ノコトヲ崇拜スルモノナリ。

五代ハ宋、齊、梁、陳、隋。
餘習ハ婉麗ニシテ氣骨ナキ風習ノ殘レルモノナイフ。
韓李ハ韓退之ト李翺ト

杜公之家ニ而集錄之ヲ以テ爲ス十卷ト。第一小段 敍レ集遺稿一。子美ハ杜氏ノ壻也。遂ニ以テ其集ヲ歸レ之ニ。而シテ告ゲテ於公ニ曰ク。斯ノ文ハ金玉也。棄擲シ埋ミ沒ストモ糞土ニ。不レ能ハ銷シ蝕スル其見ルトモ遺サレ於一時ニ。必ズ有ラン收メテ而寶トスル之ヲ於後世ニ者ア。雖モ其埋沒シテ而未ダ出デ。其精氣光怪。已ニ能クス自ラ常ニ發シテ見ハル。而モ物亦不レ能ハ揜フ也ト。第一節敍子美文見レ收レ寶於後世一是主意。故ニ方ニ其擯斥摧挫。流離窮厄之時ニ。文章已ニ自レ行レ於天下ニ。雖モ其怨家仇人ト。及ビ嘗テ能クシテ出レ力シテ而擠スルヲ之ヲ死者ニ。至ツテハ其文章ニ。則チ不レ能ハ少シモ毀ツテ而揜スルヲ蔽フ之ヲ也ト。第二節敍怨家仇人亦不レ掩ニ其文於生前一。凡人之情。忽ニシテ近キヲ而貴ブ遠キヲ。子美ノ屈スルヲ於今世ニ猶ホ若シ此ノ。其伸ブルヲ於後世ニ。宜シク如何ナル也ト。公其可レ シカル無レ恨ト』。第三節言ニ生前且不レ掩。後世必伸一。○第二小段敍ニ告杜公之言一。中揭ニ主意一。○以上第一大段論ニ子美身雖レ屈ニ于當時一。而文必伸ニ于後世一。蓋惜ニ有レ如レ此之文一。而屈ニ于當時一也。此一篇主意。

予嘗テ考ヘ前世文章政理之盛衰ヲ。而怪ム唐太宗致レ治スルヲ。幾ニ乎三王之盛ニ。而文章不レ能ハ革レ五代之餘習ヲ。後百有餘年。韓李之徒出デ。然シテ後元和之文。始テ復ス於古ニ。

第一節唐。唐衰兵亂。又百餘年而聖宋興。天下一定。晏然無事。又幾百年而古文始盛於今。」二第二節宋。○第一小段敍事。自古治時少而亂時多。幸時治矣。文章或不能純粹。或遲久而不相及。何其難之若是歟。豈非難得其人歟。苟一有其人。又幸而及出於治世。世其可不爲之貴重。而愛惜之歟。第一節虛。嗟吾子美。以一酒食之過。至廢爲民。而流落以死。此其可以歎息流涕。而爲當世仁人君子之職位。宜與國家樂育賢材者惜也。』第二節實。○第二小段議論。○以上第二大段敍子美難得之人。而惜身之屈。子美之齒少於予。而予學古文。反在其後。天聖之閒。予舉進士於有司。見時學者。務以言語聲偶摘裂。號爲時文。以相誇尚。而子美獨與其兄才翁。及穆參軍伯長。作爲古詩雜文。時人頗共非笑之。而子美不顧也。」第一小段敍時文之弊。其後天子患時文之弊。下詔書。

荷一有其人トハ、若シ一人ニテモ其人アリトセバノ意。
酒食之過、始メ子美進奏院ニ監タリ、故紙ヲ賣リタル公錢ヲ以テ賓客ヲ會シタリトノ劾奏ニヨリ、十餘人ト共ニ一時ニ罪ヲ得テ放逐セラル。
天聖ハ、仁宗ノ年號ナリ。
聲偶ハ四聲、字句ノ對偶ノコト、摘裂トハ經傳中ノ語句ヲ取リテ文章ヲ作ルコトナリ。
穆參軍伯長ハ、穆修字ハ伯長ノコト、官參軍タリ、始テ古文ヲ唱フ。詩ハ古ノ歌字。
元和ハ唐ノ憲宗ノ年號ナリ。

趨舍トハ、世ト浮沈シテ取捨スルコト。
大理評事ハ官名、訟獄ノコトヲ掌ル。
集賢校理ハ集賢院學士ノ屬吏。

諷勉ニ學者ヲ。以テ近古ニ。由テ是其風漸ク息ム。而學者稍趨ク於古ニ焉。獨子美爲シ於學ビ世不レ爲之時ニ。其始終自ラ守テ。不レ牽ニ世俗ノ趨舍ニ。可レ謂ニ特立之士ト一也。』第二小段敍ニ子美之特立ニ。○以上第三大段敍ニ子美特立于時流ニ。是其可レ伸ニ于後世之實ニ。子美官至ニ大理評事ニ。集賢校理ニ而廢。後爲ニ湖州長史ニ以卒。享年四十有一。其狀貌奇偉ニ。望レ之昂然ニ。而卽レ之溫溫タリ。久而愈可レ愛慕ス。其材雖レ高シト。而人亦不ニ甚嫉レ忌セ。其擊テ而去リシ之者ハ。意不レ在ニ子美ニ也。」第一小段官銜性行。賴ニ天子ノ聰明仁聖ニ。凡當時所レ指名シテ而排ス斥ル二三大臣ニ而下ス。欲シテ以テ子美ヲ爲レ根ト。而累ニ之者。皆蒙ニ保全ヲ。今並ニ列ス於榮寵ニ。雖レ與ニ子美同時ニ飲テ酒ヲ。得レ罪ヲ之人ト。多クハ一時之豪俊。亦被ニ收采セ。進顯シテ於朝ニ。廷ニ而子美獨不幸ニシテ死ス矣。豈ニ非ニ其命ニ也。悲シイカナ夫。』第二小段恨ニ子美不レ伸ニ於生前ニ。○以上第四大段敍ニ官銜性行ニ。再及ニ身之屈ニ。無限感慨。

達ハ立身顯達。

鬱積ハ心中ニ蓄積鬱結スルコト。

羈臣トハ、罪ヲ得テ他國ニ貶セラレタル臣。

寡婦ハやもめ。

蔭補トハ、父兄ノ功勞ニヨリテ、官ニ任ゼラルルコト。

辟書ハ、州縣ノ召狀。

自爲童——童子ノ時作リシ詩文ハ既ニ長老者

# 梅聖俞詩集序

主意　言ニ窮而詩工ナ一工可レ喜。而窮可レ悲。○窮工中ニ窮主工客。

予聞。世謂詩人少レ達而多レ窮。夫豈然哉。蓋世所レ傳詩者。多出於古窮人之辭也。」第一小段俗論。凡士之蘊其所レ有。而不レ得レ施於世者。多喜自放於山巓水涯之外。見蟲魚草木。風雲鳥獸之狀。類往往探其奇怪。內有憂思感憤之鬱積。其興於怨刺。以道羈臣寡婦之所歎。而寫人情之難言。蓋愈窮則愈工。然則非詩之能窮人。殆窮者而後工也。』第二小段翻論揭主意一〇以上第一大段虛論窮而工。予友梅聖俞。少以蔭補爲吏。累擧進士。輒抑於有司。困於州縣。凡十餘年。年今五十。猶從辟書爲人之佐。鬱其所蓄。不得奮見於事業。其家宛陵。幼習於詩。自レ爲童子。出語已驚其長老。既長學乎六經仁義之說。其爲

チ驚カセリ、已ニ成長ノ後ハ、六經仁義ノ說ナドヲ學ビ、其文章ヲ作ルヤ、其字句頗潔ニシテ、意義純粹ナリ、假リニモ、世人ニ喜バレンコトヲ望マズ、故ニ世人ハ只其詩ヲ知ルノミニシテ、文章アルヲ知ラザリキ。王文康公ハ王曙ノコトナリ、仁宗ノ時宰相タリ。

雅頌ノ雅ハ會朝宴饗ノ樂章、頌ハ宗廟ノ樂歌。淸廟ハ淸廟ナル宗廟。商周、魯頌ハ、商、周、魯等各國宗廟ノ樂章。奈何使——奈何セン、彼ヲシテ年老イテ志ヲ遂グルヲ得ズ、徒ニ轗軻不遇ノ詩ノミヲ作リテ、空シク物ヲ見、事ニ觸レ、感歎悲觀ノ言ヲ吐露セシムルコトヲ、世人徒ニ其詩ノ巧ナルヲ喜ンデ、其困窮ノ久シキヲ、將ニ老朽ノ人ト化セントスルヲ知ラザルナリ、豈惜マザルベケンヤ。

文章簡古純粹。不求苟悅於世。世之人。徒知其詩而已。然時無賢愚。上文學六經仁義。其志似不止于詩。下文樂于詩云云。似以詩人自甘。故中間用然字反文意。語詩者必求之聖俞。聖俞亦自以其不得志者。樂於詩而發之。故其平生所作。於詩尤多。世既知之矣。而未有薦於上者。」第一小段言其詩之工。昔王文康公。嘗見而歎曰。「二百年無此作矣。雖知之深。亦不果薦也。若使其幸得用於朝廷。作爲雅頌。以歌詠大宋之功德。薦之淸廟。而追商周魯頌之作者。豈不偉歟。奈何使其老不得志。而爲窮者之詩。乃徒發於蟲魚物類。羈愁感歎之言。世徒喜其工。不知其窮之久而將老也。可不惜哉。』第二小段言其窮。○添老字。覺一層悲情。○以上第二大段實敍工可喜窮可悲之感。聖俞詩既多。不自收拾。其妻之兄子謝景初。懼其多而易失也。取其自洛陽至於吳興。已來所作。次爲十卷。予嘗嗜聖俞詩。而患不能盡

不自收拾ハ、自分ノ文章ヲ、蒐集セヴルナリ。次ハ順序ヲ立テテ編纂スルコト。

掇ハ蒐集。尤者ハ優者。

鄰幾、名ハ休復、詩文ヲ以テ名アリ。

銘章ハ碑銘。明道景祐共ニ仁宗ノ年號。

名卿鉅公ハ貴顯紳士。

藏ハ墓穴。

得之。遽喜謝氏之能類次也。輒序而藏之』。以上第三大段　敍作集序之由。其後十五年。聖俞以疾卒於京師。余既哭而銘之。因索於其家。得其遺稿千餘篇。并舊所藏。掇其尤者六百七十七篇。爲一十五卷。嗚呼吾於聖俞詩。論之詳矣。故不復云』。〇以上第四大段附記。

## 江鄰幾文集序

主意　悲歎交游有才藝者零落。

余竊不自揆。少習爲銘章。因得論次當世賢士大夫功行。自明道景祐以來。名卿鉅公。往往見於余文矣。」士大夫碑銘。第一小段敍賢。至於朋友故舊。平居握手言笑。意氣偉然。可謂一時之盛。而方從其遊遽哭其死。遂銘其藏者。是可歎也』。第二小段入交游銘。〇以上第一大段略敍大意。蓋自尹師魯之

不獨善——善人君子ニハ遇ヒ難ク、且稀ニ遇フトモ失ヒ易キモノナリ、加之朋友知己ノ落魄凋零スルコト驚クバカリナリ。

又有不——又軻軻不遇ノ身トナリ、法律ニ觸レ、遂ニ艱難落魄シテ一生ヲ終ル者ト、及ビ夫ノ官ニ奉職シテ、度度蹉躓シ、常ニ希望ヲ達スルヲ得ズシテ世ヲ終リ、只ソノ文章ノミヲ後世ニ殘スモノトアリ。

壙ハ墓穴。

殷勤ハ慇懃ト同ジク、委曲丁寧ナルコト。

亡。逮今二十五年之閒。相繼而歿。爲之銘者。至二十人。又有余不及銘。與雖銘而非交且舊者。皆不與焉。嗚呼何其多也。」第一小段泛敍死者之多。不獨善人君子難得易失。而交游零落如此。反顧身世死生盛衰之際。又可悲夫。」第二小段敍交游零落。而其閒又有不幸罹憂患。觸網羅。至困阨流離以死。與夫仕宦連蹇。志不獲伸而歿。獨其文章尚見於世者。則又可哀也歟。」第三小段敍交游中罹患。且有文章。○仕宦連蹇數句、暗藏鄰幾。是一篇主意埋伏處。然則雖其殘篇斷稿。猶爲可惜。況其可以垂世而行遠也。」小段歸重文章。故余於聖兪子美之歿。既已銘其壙。又類集其文而序之。其言尤感切而殷勤者以此也。』第五小段收大段。又起下。○以上第二大段詳敍。○一段十層。陳留江君鄰幾。常與聖兪子美遊。而又與聖兪同時以卒。余既誌而銘之。後十有五年。來守淮西。又於其家得其文集而序之。」第一小段入題承上。鄰

雖知名――名聲已ニ世ニ現ハルト雖モ、仕官ノ方ハ、一向遲遲トシテ進マズ、晩年ニ至リテ、朝廷大ニ之ヲ採用セントノ考ナリシガ、此ニ至ラズシテ死セルハ惜ムベキノ至ナリ。深粹ハ意深遠ニテ義純粹ナルコト。清澹トハ、サッパリシタルコト。閑肆トハ、筆端窘束セザルコト。固不待――固ヨリ吾言ヲ待チテ、以テ鄭幾ノ文辭ニ輕重軒輊チナスベキモノニアラザレド、吾殊ニ此所ニ小心ヲ以テ俗論ナシ、致テ憚ラザル所以ノモノハ、大ニ心中ニ感激スル所アレバナリ。

臣一四海ハ億兆ヲ臣トシテ、海内ヲ一統スルコト。休兵革――兵亂漸ク治リタレバ、干戈弓槍モ用フルニ所ナク、天下

幾毅然仁厚君子也。雖知名於時。仕宦久而不進。仕宦久而不レ進。其文自行二于世一。即前段所謂仕宦連蹇數句事。晩而朝廷方將レ用之。未及而卒」。第二小段敍二連蹇一。其學問通博。文辭雅正深粹。而議論多所發明。詩尤清澹閑肆可喜。然其文已自行於世。矣。固不待余言以爲輕重。而余特區區於是者。蓋發於有レ感而云然』。第三小段敍二文章見一于世一。○然其文已自行於世。應二文章見於世一句一○感一字。收二上文歎悲哀感四字一○以上第三大段本題。

## 釋祕演詩集序

主意　感二慨交游盛衰少老一。○盛衰第一字眼。少老第二字眼。賢豪奇士奇男子賢士第三字眼。

予少以進士遊京師。因得盡交當世之賢豪」。第一小段敍二然猶以謂國家臣一四海。休兵革。養息天下。以無レ事者四十年。而智謀

ノ人民ナシテ其堵ニ安シジ、産業ニ勵マシメタルコト四十年ナリトス。屠販ハ屠者ト販夫ニシテ卑賤ナルモノ。

廓然ハ開大ノ貌。

酣嬉ハ酒ヲ飲ミテ快樂ヲ盡スコト。

淋漓ハ泥醉ノ狀。

顚倒ハ酩酊シテ倒ルルコト。

能遺外——能ク俗世界ニ超然トシテ、自ラ氣概節操ヲ尚ブ。浮屠ハ僧侶。

當其極——彼ガ酒ヲ大ニ飲ミ、大ニ醉ヒタル時ニハ、能ク笑ヒ、ヨク歌ヒ、天下ノ快樂之ニ如カンヤト云フ、何ゾ其爽快ナルヤ。唫ハ吟ノ古字ナリ。

雄偉非常之士。無所用其能者。往往伏而不出。山林屠販。必有老死而世莫見者。欲從而求之。不可得』。○以上第一大段敍己好遊。起下段曼卿。其後得吾亡友石曼卿。曼卿爲人。廓然有大志。時人不能用其材。曼卿亦不屈以求合。無所放其意。則往往從布衣野老。酣嬉淋漓。顚倒而不厭」。第一小段敍交曼卿。予疑所謂伏而不見者。庶幾狎而得之。故嘗喜從曼卿遊。欲因以陰求天下奇士』。第二小段敍欲因曼卿求隱伏奇士。○以上第二大段敍曼卿。起下段祕演。浮屠祕演者。與曼卿交最久。亦能遺外世俗。以氣節相高。二人慨然無所閉。曼卿隱於酒。祕演隱於浮屠。皆奇男子也。然喜爲歌詩以自娛。當其極飲大醉。歌唫笑呼。以適天下之樂。何其壯也。一時賢士皆願從其遊。予亦時至其室」。第一小段一盛。○朱子曰。然喜爲歌詩以自娛句。十年之閒句。並不與上文接續。○案不見用于世。隱于浮屠。或酒有不平意。故下然字耳。十年之閒。祕演

北渡ニ河東ニ。之ニ濟鄆ニ。無レ所レ合。困而歸ル。曼卿已ニ死ス。祕演亦老イ病ム。嗟夫二人ノ者。予乃見ニ其盛衰ヲ。則余亦將レ老イント矣』。第二小段一衰。○以上第三大段敍ニ祕演ニ。遂歸ニ到三人盛衰上ニ。起ニ感慨ニ。夫レ曼卿ハ詩辭清絶。尤モ稱シテ祕演之作ニ。以テ爲ス雅健有ニ詩人之意ニ。祕演狀貌雄絶。其胸中浩然。既ニ習ツテ於佛ニ。無レ所レ用フル。獨其詩可レ行於世ニ。而懶シテ不ニ自惜ミ。已ニ老イテ朏ヒラキ其橐ヲ。尚ホ得タリ三四百篇ヲ。皆可レ喜ブベキ者ナリ。」第一小段敍ニ詩。曼卿死シテ。祕演漠然トシテ無レ所レ向フ。聞キ東南多ク山水ニ。其巔崖崛崒ロツ。江濤洶湧シ。甚ダ可シトス壯也ニ。遂ニ欲イデ往遊ンバント焉ニ。足レリ以テ知ニ其老イテ而志在ル也ニ。於テ其將ニ行カントスニ。爲ニ敍シ其詩ニ。因ツテ道ツテ其盛時ヲ。以テ悲ム其衰ヲ。』第二小段敍ニ遊。遂結ニ全篇ニ。

既習於——既ニ佛門ニ歸依シ、事物ノ外ニ超脫セルノ身ナレバ、世ニ用ヒラレ、志ヲ行フノ望ナシ、但獨其詩ノミハ、世人ノ目ヲ喜バスベシ、サレド懶惰風チナシ、自己ヲ愛惜スルノ心モナク、別ニ丹青ヲ盡サザリシガ、ハヤ年老イ氣衰ヘタルノミ、其詩ヲ入レタル囊チ開キ見レバ、尚ホ三四百篇ノ詩歌ヲ得タリ、皆喜ブベキノ名作ナリ。

崛崒ハ山崖危險ノ貌。

## 釋惟儼文集ノ序

主意　言ヒ見ニ惟儼文章ニ。釋而有ニ用レ世之志ニ。然不レ見レ用而老。是可レ惜。○公不ニ深知ニ惟儼ニ。故假ニ曼卿ニ寫ニ出其人ニ。○不用字眼目。

惟儼非——惟儼ハ賢人ニアラズンバ交際セズ、意氣投合セシ人ニアラズンバ、貴トナク賤トナク、富トナク貧トナク、一切門ヲ閉ヂ、交ヲ謝シテ、毫モ假借スル所ナシ。

介ハ狷介、世ト與ニ浮沈セザルコト。

泛愛云云、論語ノ學而篇ニ見ユ。

相國浮屠ハ相國寺。

明堂ハ天子諸侯ヲ朝スル宮殿。

寵辱ハ榮譽ト恥辱。



惟儼姓ハ魏氏。杭州ノ人。少遊ニ京師ニ三十餘年。雖レ學ブト於佛ニ而通ジレ儒術ニ。喜爲ニ辭章ヲ一。與ニ吾亡友曼卿ニ一交最善シ。曼卿遇レ人無レ所レ擇ブ。必皆盡ス其所レ懽ブ。惟儼非ズンバ賢士ニ不レ交ラ。有レ不レ可ナラ其意ニ一。無ク貴賤ト一切閉拒絶去シ不ニ少顧ミ一。曼卿之兼愛。惟儼之介。所レ趨ク雖レ異ナリト而交合シ無レ所レ閒ダツル。『以上第一大段敍ニ石釋交合一以爲ニ末段作ニ文序ニ一之地ト。』曼卿嘗テ曰。君子ハ泛ク愛シテ而親ム仁ニ。惟儼曰。不然ラ。吾所ニ以不レ交ラ一ニ妄人ニ一。故ニ能ク得ニ天下ノ士ヲ一。若シ賢不レ肖ズ混ゼバ。則賢者安ソ肯テ顧ミンヤ我ヲ哉」。段承ニ上起レ下ト。以テレ此ヲ一時ノ賢士。多ク從ツテ其遊ブニ。居ニ相國ノ浮屠ニ一。不ルコトデレ出ニ其戶ヲ一十五年。士ノ嘗テ遊ブ其室ニ一者。禮シテレ之ヲ。惟ダ恐ルレ不ランヲレ至ラ。及シデ去ツテ爲ニ公卿貴人ト一。未ダ始テ一往イテ干メヨ之ヲ」。第二小段敍ニ賢者求交ヲ一。

然レドモ嘗テ竊ニ怪ム。平生所レ交ルニ。皆當世ノ賢傑。未ダ見ズ卓卓トシテス著ハルニ功業ヲ一。如ニ古人ノ可レキガス記者ニ一。因テ謂フ。世所ノ稱スル賢才。若シ不ンバ笞テ兵ヲ走ラ萬里ニ一。立テ功ヲ海外ニ一。則當ニ佐ケテ天子ヲ一。號令賞罰ス於明堂ニ一。苟モ皆不レ用ヒラレ。則絶チ寵辱ヲ一。遺ニ世俗ヲ一。自

高而不屈。尚安能酣參於富貴而無爲哉。醉則以此諂其坐人。人亦復之。以謂遺世自守。古人之所易若奮身逢時。欲必就功業。此雖聖賢難之。周孔所以窮達異也。今子老於浮圖。不見用於世。而幸不踐窮亭之途。乃以古事之已然。而責今人之必然耶。第三小段寫意中及問答。然惟儼雖傲乎退偃於一室。天下之務。當世之利病。與之言終日不厭。惜其將老也已。』第四小段敘用世之志。○以上第二大段想像惟儼意中寫其有用世之志。曼卿死。惟儼亦買地京師之東。以謀其終。乃斂平生所爲文數百篇。示予曰。曼卿之死既已表其墓。願爲我序其文。及我之見也。」第一小段再點曼卿乞文序。嗟夫惟儼既不用於世。其材莫見於時。若考其筆墨馳騁。文章贍逸之能。可以見其志矣。』第二小段見文知志。○以上第三大段入文序。言用世之志見其文。以結局。

酣參ノ酣ハ樂シム、參ハ養フナリ。

今子老――今彼ハ佛ニ歸依シテ年老イ、遁世シテ世ニ用ヒラレズト雖、幸ニ、出世間ニ遊ビ、超然主義ヲトリ、世間窮達ノコトニハ頓著セズ、事已ニ此ノ如クナレバ、何ゾ古斯クアリシトテ、今人モ斯クセザルベカラズトイヒテ責ムルヲ得ンヤ。傲乎ハ傲岸ナル貌。謀其終ハ終焉ノコトヲ憂フルナリ。

惟儼既――惟儼ハ既ニ世ヲ逃レ、其智德モ人ノ知ル所トナラザレドモ若シ此文章ニツキ、筆端ノ走リテ當ルベカラザル勢力ノアルコトヤ、文意ノ豐富ニシテ優秀ナルコトヲ考ヘナバ、彼ノ志ノ存スル所ノ一端ヲ窺フベシ。

達官ハ顯官。

青詞ハ道觀ニ用フル所ノ禱告詞ナリ、青藤紙ト云ヘル紙ニ朱ニテ書ストイフ。

齋文ハ祈禱文。

祈禳ノ祈ハ福ヲ求メ、禳ハ災ヲハラフコト。

宣讀ハ發聲シテ誦讀スルコト。

四六之文ハ四字又ハ六字宛、一句トナセル文體。

因事トハ先例ニ從フコト。

# 內制集序

主意　言翰林待文章而余文不負翰林故存之然婉曲謙遜以出人不覺其自負。

昔錢思公嘗以謂朝廷之官雖宰相之重皆可雜以他才處之。惟翰林學士非文章不可。思公自言爲此語頗取怒於達官然亦自負以爲至論。「第一小段言翰林待文章。」今學士所作文章多矣至於青詞齋文必用老子浮屠之說祈禳祕祝往往近於家人里巷之事而制誥取便於宣讀嘗拘以世俗所謂四六之文其類多如此。然則果可謂之文章者與。「第二小段言今無文章。○以上第一大段言翰林待文章而今文章非文章揭主意。」予在翰林六年中閒拜進二三大臣皆適不當直而天下無事四夷和好兵革不用凡朝廷之文所以指麾號令訓戒約束自非因事

意思零落ハ妙案良策ノ出デザルコト。

屑屑ハコセ〳〵スル貌。常格トハ、官林ノ文式ヲ云フ。直草ハ、當直シテ書スル所ノ草稿ナリ。

時政記ハ宰相ガ朝夕政事ヲ議スルコト、君臣ノ問、奏對ノ語ヲ記載セルモノ。日歷ハ時政記又ハ起居注ヲ潤色シテ作リシ日記。起居郎舍人トハ、起居郎ト起居舍人トナリ。簀ハ竹席ナリ。茆ハ茅ト同ジ。玉堂ハ學士院ノ正廳。

噱ハ大笑。

無以發明。矧予中年早衰。意思零落。以非工之作。又無所遇以發焉。其屑屑應用。拘牽常格。卑弱不振。宜可羞也。」第一小段言己。然亦無好文章。今文士。尤以翰林爲榮選。予既罷職。院吏取予直草。以日次之。得四百餘篇。因不忍棄。況其上自朝廷。内及宮禁。下暨蠻夷海外。事無不載。而時政記日歷。與起居郎舍人。有所略而不紀。未必不有取於斯焉。』第二小段言己文章不無少益于世。不恥翰林文章。○以上第二大段言己亦無好文章。然或有可取者。故存之。嗚呼予且老矣。方買田淮潁之閒。若夫涼竹簟之暑風。曝茆檐之冬日。睡餘支枕。念昔平生仕宦出處。顧瞻玉堂。如在天上。因覽遺稿。見其所載職官名氏。以較其人盛衰先後。孰在孰亡。足以知榮寵爲虚名。而資笑談之一噱也。亦因以誇於田夫野老云爾。』

○以上第三大段言其文章足供老後感懷之具。是餘波。

黄庭經ハ書名、道教ノ經書。

無仙子ハ假作人物、歐公自ライフ。

戕ハ殺ナリ、夭ハ短折ナリ。禹走天下云云、大禹洪水ヲ治メシ勞ヲ云フ。四載ハ船、車、橇、轎。顏子蕭然云云、論語雍也篇ニ、賢哉回也、一簞食一瓢飲、在ニ陋巷一、人不レ堪ニ其憂一、回也不レ改ニ其樂一トアリ。不誘於物トハ、外界ノ事物ニ制セラレザルヲ

# 删正黄庭經ノ序

主意　言吾欲レ曉ニ無仙而不レ能。姑傳ニ黄庭經養內之書一。警ニ妄意貪生之徒一。○養內二字一篇眼目。

無仙子者。不知レ爲ニ何人也一。無ニ姓名一。無ニ爵里一。世莫レ得而名之。其自號爲ニ無仙子一者。以警ニ世人之學レ仙者一也。』以上第一大段揭ニ大意一。其爲レ言曰。自古有レ道無レ仙。而後世之人。知有レ道而不レ得ニ其道一。不知無レ仙而妄學レ仙。此我之所レ哀也。道者自然之道也。生而必死。亦自然之理也。以ニ自然之道一養ニ自然之生一。不ニ自戕賊一。天閼而盡ニ其天年一。此自古聖智之所レ同レ也。第一節虛論。禹走ニ天下一。乘ニ四載一。治ニ百川一。可レ謂レ勞ニ其形一矣。而壽百年。顏子蕭然臥ニ於陋巷一。簞食瓢飲。外不レ誘ニ於物一。內不レ動ニ於心一。可レ謂ニ至樂一矣。而年不レ及ニ三十一。斯二人者。皆古之仁人也。

勞其形者長年。安其樂者短命。蓋命有長短。稟之於天。非人力之所能爲也。惟不自戕賊。而各盡其天年。則二人之所同也。此所謂以自然之道養自然之生。」第二節實敍。○第一小段言上道。後世貪生之徒。爲養生之術者。無所不至。至茹草木。服金石。吸日月之精光。」第二小段言下道。又有以謂此外物不足恃。而反求諸內者。於是息慮絕欲。鍊精氣。勤吐納。專於內守。以養其神。其術雖本於貪生。及其至也。尙或可以全形而卻病。猶愈於肆欲稱情。以害其生者。是謂養內之術。」第三小段言中道。主意在此。故上智任之自然。其次養內以卻病。最下妄意而貪生。』第四小段結二大段。○以上第二大段論養生有上中下三道。世傳黃庭經者。魏晉閒道士養生之書也。其說專於養內。多奇怪。故其傳之久。則易爲訛舛。今家家異本。莫可考正。無仙子既甚好古。家多集錄古書文

云フ。
內不動於心トハ、精神ヲ妄動激發セザル事。
形ハ身體。
稟之於——生命ノ短長ハ天ノ人ニ賦與セルモノナレバ、人ノ如何トモスル能ハザルモノナリ。

茹草木云云、木ヲ採リ芝ヲ食ヒ、金ヲ燒キ石ヲ煉ルノ類、皆道家養生ノ術ナリトス。

吐納ハ呼吸法ナリ、莊子刻意篇ニ、吹呼吸呼、吐故納新、此導引之士養形之人、彭祖壽考者之所レ好也トアリ。

愈於肆——慾望ヲ肆ニシ、私情ニ從ヒテ養生ニ注意セズ、以テ其生命ヲ害スルモノニハ勝ルコト遠シ。

晉人所書ハ、晉ノ王羲之ノ筆ナリ。

嘿然ハ歎息スル貌。吾欲曉――吾ハ世人ヲ教ヘ曉スニ、世ノ中ニ道術ナド云フモノナキヲ以テシ、人ノ迷ウテ仙道仙術ヲ學ブ者ヲ止メン事ヲ欲スレドモ、我力ノ及バザルヲ如何セン。

刪正ハ削除矯正スルコト。

字ニ以テ爲ス玩好之娛ト。有リ黃庭經石本者ヲ。迺チ永和十三年晉人ノ所レ書スル。其文頗ル簡ニ。以テ較ブレバ今世俗ノ所レ傳フル者ニ。獨リ爲スレ有レ理ト。疑ラクハ得ニ其眞ヲ一レ。第一小段敍得二黃庭眞本一。於テ是ニ嘿然トシテ歎ジテ曰ク。吾欲スルニ曉サトスレ世ニ以テシテ無キレ仙ト。而シテ止メント人之學ブ者ヲ。吾力ノ未ダ能ハ也ト。吾ハ視ルニ世人ノ執リ奇怪詭舛之書ヲ。欲シテ求メント生ヲ而シテ反テ害スル其生ヲ者ヲ。可カンヤ不ルレ哀マ哉ト。矧ヤ以テ我ガ翫好之餘ヲ。拯フニ世人之謬惑ヲ。何ゾ惜ンデ而不レ爲サ。乃チ爲ニ刪正シ諸家之異ヲ一ニ。以テ永和石本ヲ爲シ定ト。其レ難キレ曉シ之言ハ略ボ爲ス注解ヲ一ニ。庶カランルニ幾サ不ヲ爲ニ訛謬之說ヲ一ニ。惑ハシテ世ヲ以テ害スルコトヲ生ヲレ。是レ亦不ヲ爲サレ無シ益ト。若シ大雅ノ君子ハ。則チ豈ニ取ランヤ於此ニ。第二小段言ヒ刪ニ正黃庭經一。拯フ世人之謬惑一。若大雅君子則豈取於此一。』○吾欲曉世云云。應ニ首段一。○以上第三大段論ヒ黃庭經合ニ中道一。故姑刪正傳ヘ世。

## 集古錄目序

主意　言我集古錄。聚ニ于好與ノ力。然謙言以ヒ一代力ト。○好力聚第一字眼。一散第二字眼。

物常聚於所好。而常得於有力之彊。」第一小段正說。有力而不好。好之而無力。雖近且易。有不能致之。』第一大段一篇大綱。第二小段反說。○以上象犀虎豹。蠻夷山海殺人之獸。然其齒角皮革。可聚而有也。玉出崑崙流沙萬里之外。經十餘譯乃至乎中國。珠出南海。常生深淵。採者腰絚而入水。形色非人。往往不出。則下飽蛟魚。金礦於山。鑿深而穴遠。篝火餱糧而後進。其崖崩窟塞則遂葬於其中者。率常數十百人。其遠且難。而又多死禍。常如此。然而金玉珠璣。世常兼聚而有也。凡物好之而有力。則無不至也。』以上第二大段論好而有力。遠且難之物莫不聚是客。即申明綱領一節。湯盤孔鼎。岐陽之鼓。岱山鄒嶧會稽之刻石。與夫漢魏已來聖君賢士。桓碑彝器。銘詩序記。下至古文籀篆分隸。諸家之字書。皆三代以來至寶。怪奇偉麗。工妙可喜之物。其去人不遠。其

物常聚——凡天物ハ常ニ好ム所ノ者ニ集リ、常ニ勢力強盛ナル者ノ得ル所トナルモノナリ、故ニ好マザル者ト、好メドモ勢力ナキ者トハ、假令其物極メテ手近クシテ得易キ所ニアリト雖、尚且之ヲ得ルコト能ハザル者ナリ。

崑崙ハ西域ニアル山ノ名。

流沙ハ支那北部ニアル沙漠ナリ。

經十餘譯ハ十餘國ノ通辭ヲ以テ、十餘國ヲ經過スルナイフ。

絚ハ大索。

令礦於山ハ、金ガ山ノ礦石中ニアルコト。

璣ハ珠ノ圓ナラザルモノ。

湯盤ハ殷ノ湯王ガ用ヒシ所ノ盥盤。

孔鼎ハ衛國ノ孔悝ノ鼎。

岐陽之鼓ハ岐山ノ陽ノ石鼓ナリ。

岱山、鄒嶧、會稽ハ皆山ノ名。

桓碑ハ木ヲ劉リテ石碑ノ如クニシテ、槨ノ前

後ニ植エ、用ヒテ以テ棺ヲ墓穴ニ下ス所ノモノ。

彝器ハ宗廟ニテ用フル器物。古文籀篆分隷ハ皆書體ノ名。

世人之所貪者ハ金玉貨財ノ類。

好之已——好デ而シテ止マザレバ、力足ラザルモノト雖モ遂ニヨク得ルコトアラン。

窮崖ハ山ノ奥ノ地。絕谷トハ人跡ノ至ラザル谷。

傳寫ハ覆寫。

取之無禍。然而風霜兵火。湮沒磨滅。散棄於山崖墟莽之閒。未嘗收拾者。由世之好者少也」世少好之。第一小段言幸而有好之者。又其力或不足。故僅得其一二。而不能使其聚也。第二小段言好而力不足。起下段。○以上第三大段論不好又無力。近且易之物亦不聚。此主意。卽申明綱領二節。夫力莫如好。好莫如一。予性顓而嗜古。凡世人之所貪者。皆無欲於其閒。故得一。其所好於斯。好之已篤。則力雖未足猶能致之」。第一小段言以一代力。故上自周穆王以來。下更秦漢隋唐五代。外至四海九州。名山大澤。窮崖絕谷。荒林破塚。神僊鬼物。詭怪所傳。莫不皆有。以爲集古錄。以謂傳寫失眞。故因其石本。軸而藏之。有卷帙次第。而無時世之先後。蓋其取多而未已。故隨其所得而錄之」。第二小段敍集古錄。○好莫如一。好字中繹出一字。引入自己。匪夷所思。又以謂聚多而終必散。乃撮其大要。別爲錄目。因幷載夫可與史傳正其闕

謬者。以傳後學。庶益於多聞。』。第三小段敍錄目。○又以謂聚多而終必散。因聚物多則——物數多アレバ、皆コレヲ蒐集スルコト、容易ノ業ニアラズ、假令蒐集シ得タリトモ、年久シキニ亙ラバ、何ゾ離散セザルヲ得ンヤ。

腐壞ハ朽ツルコト。澌盡ハ消失スルコト。泯滅ハ亡アルコト。

字引出散字。又匪夷所思。○以上第四大段論力雖不足。而一於好則亦聚。以入本題。或譏予曰。物多則其勢難聚。聚久而無不散。何必區區於是哉」。第一小段問。或譏因前段聚散字來。何等自然。予對曰。足吾所好玩而老焉可也。象犀金玉之聚。其能果不散乎。予固未能以此而易彼也。』。第二小段對。○以上第五大段借或譏收客主兩段。

## 送徐無黨南歸序

主意　言徒言不可恃。

草木鳥獸之爲物。衆人之爲人。其爲生雖異。而爲死則同。一歸於腐壞澌盡泯滅而已。第一小段言草木鳥獸衆人。而衆人之中。有聖賢者。固亦生且死於其閒。而獨異於草木鳥獸衆人者。雖死而不朽。逾遠

孔子弟子云云、論語先進篇ニ見ユ。

若顔回云云、論語雍也篇ニ見ユ。

班固藝文志ハ前漢書藝文志ノコト、前漢書ハ後漢班固ノ撰ナリ。唐四庫書目ハ、唐ノ時兩都ニ、經籍類、史類、子類、集類ノ四庫ヲ分チテ之ヲ集メ、各、其目錄アリ。

而彌存也。』第二小段言聖賢。○以上第一大段叙聖賢不朽。是概言。其所以爲聖賢者。修之於身。施之於事。見之於言。是三者。所以能不朽而存也。」段綱領。修於身者。無所不獲。施於事者。有得有不得焉。其見於言者。則又有能有不能也。施於事矣不見於言可也。自詩書史記所傳。其人豈必皆能言之士哉。修於身矣。而不施於事不見於言亦可也。孔子弟子有能政事者矣。有能言語者矣。若顔回者。在陋巷。曲肱饑臥而已。其羣居則默然終日如愚人。然自當時羣弟子。皆推尊之。以爲不敢望而及。而後世更百千歲。亦未有能及之者。其不朽而存者。固不待施於事況於言乎。』第二小段論三者輕重。○以上第二大段論聖賢三不朽輕重。此詳言。

予讀班固藝文志。唐四庫書目。見其所列。自三代秦漢以來。著書之士。多者至百餘篇。少者猶三四十篇。其人不可勝數。而散

汲汲ハ休息セザル貌。營營ハ往來スル貌。

三者ハ草木、鳥獸及衆人。

試於禮部ハ禮部省ニテ進士ヲ試驗セラレタルテイフ。高第ハ及第ナリ。

亡磨滅。百不一二存焉。」第一小段敍事。予竊悲其人。文章麗矣。言語工矣。無異草木榮華之飄風。鳥獸好音之過耳也。方其用心與力之勞。亦何異衆人之汲汲營營。而忽焉以死者。雖有遲有速。而卒與三者同歸於泯滅。夫言之不可恃也蓋如此。今之學者。莫不慕古聖賢之不朽。而勤一世以盡心於文字。閒者。皆可悲也。』二小段議論。○以上第三大段就三不朽中論徒言不可恃。此主意。○無異草木榮華云云。一喩中收起手草木鳥獸衆人。妙。東陽徐生。少從余學文章。稍稍見稱於人。既去而與羣士試於禮部。得高第。由是知名。其文辭日進。如水涌而山出。予欲摧其盛氣。而勉其思也。故於其歸。告以是言。」第一小段勉生。然予固亦喜爲文辭者。亦因以自警焉。』第二小段警己。○結尾用翻筆。妙。○以上第四大段言所以作序。

寧ハ家ニ歸リテ父母ノ安否ヲ問フコト。

建隆ハ宋ノ太祖ノ年號ナリ。

江南ハ李氏五代ノ際南唐トモ云フ。七國トハ蜀、南漢、北漢、南唐、吳、越、荊南ナリ。

蜀ハ後蜀ノコト。

荊人ハ荊南ノ高氏。

峽ハ西陵峽、廣陵峽、巫峽ノ地。

成都ハ蜀ノ孟氏ノ都スル所。

金陵ハ江南ノ都スル所。

文初ハ田畫ノ字。

# 送田畫秀才寧親萬州序

主意　言ヒ勸メ田秀才ノ從時勢ヲ以テ文學ヲ繩祖先武功ヲ。

五代之初。天下分爲十三四。及建隆之際。或滅或微。其在者猶七國。而蜀與江南地最大。以周世宗之雄。三至淮上。不能擧李氏。而蜀亦恃險爲阻。秦隴山南皆被侵奪。而荊人縮手歸峽。不敢西窺以爭。故地及大祖受天命。用兵不過萬人。擧兩國如一郡縣吏。何其偉歟。」強起二小段田氏之功一。當此時。文初之祖。從諸將。西平成都。及南攻金陵。功最多。於時語名將者稱田氏。」第二小段敍二田氏之功一。○以上第一大段敍田文初祖有レ功二于伐レ蜀之役一。田氏功書史官。祿世於家。至今而不絕。及天下已定。將率無レ所レ用其武。士君子爭以文儒進。故文初將家子。反衣白衣。從鄉進士擧於有司。彼此一時。亦各遭其勢而然也。」以上

第二大段敍將家子以文儒進起時勢感慨。文初辭業通敏。爲人敦潔可喜。歲之仲春。自荊南西拜其親於萬州。維舟夷陵。予與之登高以遠望。遂遊東山。窺綠蘿溪。坐盤石。文初愛之。留數日乃去』。以上第三大段敍文初歸省。○寧親卽念祖之本。意味在言外。夷陵者其地志云。北有夷山。以爲名。或曰。巴峽之險。至此地始平夷』。第一小段敍夷陵平夷。蓋今文初所見。尙未爲山川之勝者。由此而上。泝江湍入三峽。險怪奇絕。乃可愛也』。第二小段敍由此上流險絕。○以上第四大段敍夷陵地理起下。當王師伐蜀時。兵出兩道。一自鳳州以入。一自歸州以取忠萬以西。今之所經。皆王師嚮所用武處。覽其山川。可以慨然而賦矣』。以上第五大段敍文初感所經念祖功。念祖則繩祖之意起。蓋勸之文初文學繩祖而賦矣』。先武功也。主意在文字之外。○因寧親便念祖功。文情深淵。○結尾一句。收拾前段感慨。○賦字自上文無所用其武來。

巴峽之——巴峽ハ、一般ニ險阻ナレドモ、此地ニ至レバ始メテ平坦ナリ、故ニ夷陵ト云フトナリ。

覽其山——今足下此地ヲ過ギナバ、俯仰低徊ノ間、今昔ノ感ニ堪ヘザルモノアラン、慨然トシテ、詩歌ヲ賦シ、胸懷ヲ述ベテ可ナリ。

幽憂ハ氣ノ鬱結スルコト。

宮聲ハ五音ノ中濁レル音。

羽ハ五音中ノ清メル聲。

操絃ハ彈琴。

雍雍ハ和シタル聲。

伯奇ハ尹吉甫ノ子、罪ナクシテ後母ノ爲ニ逐ハレ、自ラ悲ミテ履霜操ヲ作ル、曲終リ、河ニ投ジテ死ス。

屈原ハ楚ノ臣、讒ヲ蒙リテ逐ハレ、離騷ヲ作ル、遂ニ汨羅ニ投ジテ死ス。

易之憂患ハ、易ノ繫辭傳ニ、作レ易者其有二憂患一乎トアルヲ云フ。

# 送楊寘序

主意　勸以琴樂不平。

予嘗有幽憂之疾。退而閒居。不能治也。既而學琴於友人孫道滋。受宮聲數引。久而樂之。不知疾之在其體也。』以上第一大段敍歐公以琴樂幽憂。夫琴之爲技小矣。及其至也。大者爲宮。細者爲羽。操絃驟作。忽然變之。急者悽然以促。緩者舒然以和。如崩崖裂石。高山出泉。而風雨夜至也。如怨夫寡婦之歎息。雌雄雍雍之相鳴也。其憂深思遠。則舜與文王孔子之遺音也。悲愁感憤。則伯奇孤子。屈原忠臣之所歎也。」第一小段敍琴聲。喜怒哀樂。動人必深。而純古淡泊。與夫堯舜三代之言語。孔子之文章。易之憂患。詩之怨刺。無以異其能。」第二小段敍琴德。聽之以耳。應之以手。取其和者。道其湮鬱。寫其幽思。則

感人之際。亦有至者焉』。第三小段敍琴能道渥鬱寫幽思。○以上第二大段琴說。予友楊君。好學有文。累以進士舉。不得志。及從蔭調爲尉於於劒浦。區區在東南數千里外。是其心固有不平者。且少又多疾。而南方少醫藥。風俗飲食異宜。以多疾之體。有不平之心。居異宜之俗。其能鬱鬱以久乎。然欲平其心以養其疾。於琴亦將有得焉。故予作琴說以贈其行。且邀道滋酌酒。進琴以爲別』。以上第三大段勸以琴樂不平。○然欲平其心云云二句主意歸宿。

唐宋八家文讀本卷十一　終

詩之怨刺ハ、漢書禮樂志ニ周道始缺、怨刺之詩起トアルナイフ。
蔭調ハ蔭補ニ同ジ、父兄ノ功勞ニヨリテ、其子弟ノ官ニ就クヲ云フ、蔭又蔭ニ作ル、庇ナリ。
劒浦ハ縣ノ名、今ノ福建省ニアリ。

# 唐宋八家文讀本卷十二

## 吉州學記

主意　言學之用。在本人性正風俗。風俗成。而天下治。王政成。故先自治天下。敍來。終入成風俗。又以太平功成收之。

慶歷三年秋。天子開天章閣。召政事之臣八人。問治天下之要。有幾。治天下之要。敎學居其施於今者宜何先。使出而書以對。八人者皆震恐。失措俯伏頓首言。此非愚臣所宜及。惟陛下所欲爲。則天下幸甚。」敍對問。第一小段於是詔書屢下。勸農桑。責吏課。擧賢才。其明年三月。遂詔天下皆立學。置學官之員。然後海隅徼塞。四方萬里之外。莫不皆有學。嗚呼盛矣。』第二小段下詔興學。○以上第一大段記天子興學之盛。學校王政之本也。一句承上段治天下之要。爲一篇綱領。古者致治之盛衰。視其學之興廢。記曰。

慶歷ハ宋仁宗ノ年號。八人ハ范仲淹、富弼、韓琦等ノ徒ナイフ。慶歷三年、仁宗皇帝、天章閣ヲ開キ、政治ニ與ル所ノ臣、范仲淹始メ富弼韓琦等八人ヲ召テ諮問ス、今天下ヲ治ムル要ハ、幾何アル、又目下施行スベキハ、何ヲ第一トスベキ、各退出シテ熟考深慮シ、其策ナ上ルベシト、是ニ於テ八人皆震恐身ノ措キ處ヲ失ヒ、拜伏頓首シテ申ス、是レ愚臣等ノ能ク及ブ所ニアラズ、惟ダ陛下ノ爲サント欲スル所ヲ爲サバ、則天下ノ幸ナリト。吏課ハ吏員ノ功課ヲ云フ。

徼塞ハ國境ノコトニシテ西ヲ徼トイヒ、北ヲ塞トイフ。

學校王——學校ハ王タル者政治ヲ施スノ根本ニシテ、古來國家ノ治亂盛衰ハ、其時ノ學校教育ノ如何ニヨリテトスルヲ得ベシ。海隅トハ瀕海ノ僻地ヲ云フ。

記ハ禮記ノ學記トイフ篇ナリ。

遂有序、黨有庠、家有塾ノ遂ハ一萬二千五百家ノ邑ヲイヒ、黨ハ五百家ヲイヒ、閭ハ二十五家ヲイフ、而シテ閭ハ一町内トイフコトニシテ、塾ハ一町内ニアル學校ヲ云フ、塾ノ卒業生ハ庠ニ入リ、庠ノ卒業生ハ序ニ入リ、序ヨリ國學ニ入ル、國學ハ天子諸侯ノ國都ニアル太學ヲイフ。

臣民喜——臣民ハ盡ク歡喜シテ、四方ニ奔走シ、學校建設ノ事ニ從ヒ、皆先ヲ爭ヒ、後ルルヲ恥ヂ、大ニ奮勵シタルヲ以テ、其年十月ニ吉州ノ學校ハ落成シタリ。

國有學。遂有序。黨有庠。家有塾。此三代極盛之時。大備之制也。宋興蓋八十有四年。而天下之學始克大立。豈非盛美之事。須其久而後至於大備歟。是以詔下之日。臣民喜幸。而奔走就事者。以後爲羞。其年十月。吉州之學成。」第一小段言學校王政之本。遂及吉學。州舊有夫子廟。在城之西北。今知州事李侯寬之至也。謀與州人遷而大之。以爲學舍。事方上請而詔已下。學遂以成。」第二小段略記。李侯治吉。敏而有方。其作學也。吉之士率其私錢一百五十萬以助。用人之力。積二萬二千工。而人不以爲勞。其良材堅甓之用。凡二十二萬三千五百。而人不以爲多。學有堂筵齋講。有藏書之閣。有賓客之位。有游息之亭。嚴嚴翼翼。壯偉閎燿。而人不以爲侈。既成。而來學者常三百餘人。』第三小段詳記。○以上第二大段記李侯興吉州學。予世家於吉。而

率其私錢——其家ノ分ニ應ジテ等級ヲ立テ、錢ヲ出サシムルナリ。
堅甓ハ煉瓦。
堂筵ハ正堂ノ席。
齋講ハ書齋ノ講席。
藏書之閣ハ圖書館。
賓客之位ハ應接間。
遊息之亭ハ遊戲場。
巖巖翼翼ハ莊嚴靜肅ナル貌。
壯偉ハ壯大ナリ。
閎燿ハキラキラトシタルコト。
濫官トハ朝ニ仕フルノ遜辭。
揖讓ハ禮儀ヲ習フコト。

教學之法——學校教育ノ法ハ、人間自然ノ性質ニ本ヅクモノニシテ、其愚鈍ナル所ヲ磨キ、其曲邪ナル所ヲ揉メ直シ、善ニ就キ惡ヲ去リ、以テ至善ニ達セシメ、又人ヲ奬メ勵マス事ハ熱心ニ勉強シ、人心ニ立入ルコトハ急速ニセズ、漸ヲ順序ヲ追ウテ薰陶シ、克ク教フル者ハ倦怠セズ、永ク久シキ後ノ功果ヲ待ツ、而シテ禮讓ノ風大ニ興リ、風俗純美ナルニ及ンデ、然ル後ニ始メテ官ヲ朝ニ進ムルヲ能ハズ。贊揚天子之盛美ヲ。退不得與諸生揖讓乎其中ニ。然予聞ク。教學之法本於人性ニ。磨揉遷革シ。使趨於善ニ。其勉於人ニ者ハ勤ム。其入於人ニ者ハ漸ク。善教者以不倦ムマ之意ヲ。須ツ遲久之功ヲ。至於禮讓興行シテ。而風俗純美ナル。（二句約言教學成功。一篇主腦。）然後爲ス學之成ルト。（第一小段言教學遲久。）今州縣之吏。不得久シウシテ其職ニ。而躬ラスルヲ親於教化ヲ也。故李侯之績。及於學之立ツ。而不及バ待ツニ其成ルヲ。惟後之人。毋レ廢慢シテ天子之詔ヲ。而怠ツテ以中止スルコト。』

（第二小段望後人。○以上第三大段記教學之法。）

幸ニ予他日因ツテ得ルニ歸榮スルヲ故鄉ニ。而謁ヘバ於學門ニ。將レ見ント吉之士ヲ。皆道德明秀シテ。而可ク爲タル公卿ニ。問ヘバ於其俗ヲ。而婚喪飲食。皆中リ禮節ニ。入レバ於其里ニ。而長幼相孝慈シ。於其家ニ。行ケバ於其郊ニ。而少者扶ケ其贏老ヲ。壯者代ハル其負荷ヲ。於道路ニ。然ル後ニ樂ム學之道成ルト。（第一小段）彼俗而得時ニ從ヒ先生耆老ニ。席シ於衆賓之後ニ。聽キ鄉樂之歌ヲ。飲ミ獻酬之酒ヲ。以テ詩頌シテ

メテ學事ノ成績大ニ揚リ成ルト言フベシ。
廢慢ハ廢棄意慢ナリ。
歸榮ハ榮名ヲ負ウテ鄉里ニ歸ルナリ。
獻酬ハ酒杯ノ取リヤリナリ。
庶ハひさし。

此文ハ、宋ノ天下久シク昌平ニシテ、年豐ニ民安キコトヲ述ベ、此治平ノ時ニ方リ、滁人モ豐樂ヲ受クルコトヲ得ント云フナリ。
聳然而特立、豐山ノ他山ト離レ、獨リ聳ヘ立ツヲ云フ。
窈然ハ深遠ナル貌。
滃然ハ雲ヤ又水ノ盛ニ涌出スル貌。
滁ハ安徽省ニ屬ス、歐公時ニ州ノ刺史タリ。
亭ハあづまや。
五代ハ梁、唐、晉、漢、及周。
太祖皇帝ハ宋ノ太祖趙

天子太平之功。結末收二天子李侯一。而太平之功四字。收二治天下之要及王政本等句一。而周覽二學舍一。思二詠李侯之遺愛一。不亦美哉。故於二其始成一也。刻二辭於石一。而立二諸其廡一。以俟』。第二小段贊二成功一。○以上第四大段豫記二敎學之成功一。○此段詳二敍上段禮讓二句一。

## 豐樂亭記

主意　言二滁人之豐樂一。本二于太平一。故豐樂二字眼目。

修既二治レ滁之明年。夏始飲二滁水一而甘。問二諸滁人一。得二於州南百步之近一。其上豐山聳然而特立。下則幽谷窈然而深藏。中有二清泉一。滃然而仰出』。第一小段記二得レ泉。俯仰左右。顧而樂レ之。於是疏レ泉鑿レ石。闢レ地以爲レ亭。而與二滁人一往遊二其閒一』。第二小段記レ築レ亭。○以上第一大段記二得レ家築レ亭。滁於五代干戈之際。用二武之一レ地也。昔太祖皇帝嘗以二周師一破二李景兵十五萬

露清秀。四時之景。無不可愛」記已樂。又幸其民樂其歲物之豐成。而喜與予遊也。固爲本其山川。道其風俗之美。使民知所以安此豐年之樂者。幸生無事之時也」。無事之時。收全篇。○第二小段記民樂因太平之功。以結主意。○上文曰「孰知。故此處下使民知三字。關鎖甚嚴。夫宣上恩德。以與民共樂。刺史之事也。遂書以名其亭焉。』第三小段記名亭。以收築亭。○以上第三大段記滁人之豐樂。因太平之功德。歸到亭名。結全篇。

## 偃虹隄記

主意　言築隄利人物。

有自岳陽至者。以滁侯之書洞庭之圖來告曰。願有所記。一記字。起下文二紀字七書字。予發書按圖。自岳陽門西距金雞之右。其外隱然隆高以長者曰偃虹隄。」第一小段記願記按圖。問其作而名者。曰吾滁侯之所爲

骨ナルコト。
清秀トハ、秋山ノ氣清クスガレテ奇麗ニ見ユルコト。
幸其民——其人民が歲豐ニ、百物成就スルヲ樂ミ、吾輩、此處ニ遊歡スルコトヲ何ヨリノ喜ビトセンコトヲ幸福トシ、人民ノ爲ニ、四圍ノ山川ニ本ヅキ、風俗ノ美ヲ導キテ、民ノ此豐年ノ樂ヲ受ケル所以ハ、無事太平ノ時ニ生レシ幸福ナルコトヲ知ラシム、五代ノ時代ニアツテハ、決シテ此樂ハ得ベカラザリシナリ。

滕侯ハ范仲淹ト同年ノ進士、名ハ宗諒、字ハ子京、後慶歷四年罪ヲ得テ出ダサレ、岳州ノ巴陵郡ニ守タリ。
洞庭ハ湖名。
隱然ハ隆起ノ貌。

荊、潭、黔ハ共ニ州名。
衝ハ中心點ナリ。
寓ハ寓止スルナリ。
津ハ舟ヲ附クル場所。

大小之制ハ堤ノ制法大小ナリ。
厚加二尺、厚サハ高サノ三十尺ニ二尺ヲ加ヘ、三十二尺ナリ。
殺上ハ堤上ヲ削平ゲ、下ニ傾斜ヲ爲シ、上ノ幅ハ三分ノ二即二十一尺強トナルナリ。
轉運使ハ運漕ヲ掌ル官。
行視可否ハ、實地ニ就キ、堤ノ築クベキカ否カヲ調査スルナリ。
三司ハ鹽鐵使、度支使、戸部使ノ三使ニテ、財政ヲ掌ル職。
曰可ハ天子ノ御裁可ヲ得ルナリ。

問其所以作之利害。曰洞庭天下之至險。而岳陽也。」第二小段記滕公所爲。

荊潭黔蜀四會之衝也。昔舟之往來湖中者。至無所寓。則皆泊南津。其有事吉州者。遠且勞。而又常以風波之恐。覆溺之虞。今舟之至者。皆泊隄下。有事於州者。近而且無患。」第三小段記利害。○近而且無患一句伏後段多少利字。

問其大小之制。用人之力。曰長一千尺。高三十尺。厚加二尺而殺其上。得厚三分之二。用民力。萬有五千五百工。而不踰時以成。」第四小段記其制。

問其始作之謀。曰州以事上轉運使。轉運使擇其吏之能者。行視可否。凡三反覆而又上於朝廷。決之三司。然後曰可。而皆不能易吾侯之議也。曰此君子之作也。可以書矣。」第五小段記其謀。○一書字至末段分爲數個書字。○以上第一大段築隄記。

蓋慮於民也深。則其謀始也精。故能用力少而爲功多。夫以百步之隄。禦天下至險不測之虞。

岳陽四——岳陽ノ地タルヤ、四方ノ會湊點ニシテ、船舶ノ來泊スルモノ、日ニ凡ソ幾何アルカモ知レヌ程ナリ、堤ノ土石ニシテ、永久ニ腐朽セザラシメバ、滕侯ノ恩惠ニテ人民ヲ利益スルコト數フベカラズ。

事不患——總ベテノ事物ハ始ニ其成就セザルヲ患フルニ及バズ、後ニ一旦成就シタルモノヽ破壞スルヲ恐ルベシ、蓋シ最初ニ作ルモノハ、其永久不變ニ存在センコトヲ希望セザル無ケレドモ、其繼續者ガ何時モ怠慢廢棄スルニ至ルモノナリ。

白古賢——昔ノ賢才智謀ノ士ハ、人民ノ爲ニ患害ヲ防ギ、利福ヲ興スモノ、往往其遺跡ノアルアリ、サレバ若シ其後繼者ニシテ、皆當初作リシ者ノ心事ヲ知ラバ、修繕保護シテ、其事業ヲ廢忘セズ、人民ハ末代ノ今日ニ至ルマデ、皆其賜ヲ受ケ、

惠其民而及於荊潭黔蜀。凡往來湖中。無遠邇之人。皆蒙其利焉。」主意發揮。第一小段

且岳陽四會之衝。舟之來而止者。日凡有幾。使隄土石幸久不朽。則滕侯之惠利於人物。可以數計哉。』第二小段起ニ下段。○以上第二大段記ニ慮深而謀精力少而功多ニ。

夫事不患於不成。而患於易壞。蓋作者未始不欲其久存。而繼者嘗至於怠廢。自古賢智之士。爲其民捍患興利。其遺迹往往而在。使其繼者皆知始作之心。則民到於今受其賜。天下豈有遺利乎。此滕侯之所以慮而欲有紀於後也。』以上第三大段望ニ後繼ニ。

滕侯志大材高。名聞當世。方朝廷用兵急人之時。嘗顯用之。而功未及就。退守一州。無所用心。略施其餘。以利及物。」小段收ニ主意ニ。

夫慮熟謀審。力不勞而功倍。作事可以爲後法。一宜書。不苟一時之譽。思爲利於無窮。而告來者。以不廢。二宜書。岳之民

世間ニハ決シテ遺利ノ存スルアラズ、是點ニ付イテ滕侯ハ深ク慮リテ、之ヲ記シテ後世ニ傳ヘントスル所以ナルベシ。其餘ハ朝廷ニ顯用セラレタル大志高材ノ餘力ナリ。

嘉祐ハ仁宗ノ年號。龍圖閣直學士ノ龍圖閣ハ、太宗皇帝御製ノ御書并ニ文集ヲ收ムル圖書館ニシテ、學士ハ圖書館ノ顧問ナリ。尚書吏部郎中ハ官名、宋ノ制ハ單ニ官品ノ等級ヲ定ムルノミニシテ實務ヲ執ラズ、故ニ梅公モ、此官ニテ杭ノ守トナリシナリ。賜詩之首章トハ、寵賜ノ詩第一句ニ、地有二湖山美一トアリ、故ニ有美ト名ケタリトナリ。金陵ハ杭州ノ都會。擧天下云云、天下ノ至人。與湖中之往來者。皆欲爲滕侯紀。三宜書。以三宜書。不可以不書。乃爲之書』。第二小段收三大段。○一宜書收第二大段。二宜書收第三大段。三宜書收第一大段。○以上第四大段總收。○此篇平正。沈評云通體無一平直之筆。恐不當。

## 有美堂記

主意　言天下之美集一堂。不負賜詩。○美字眼。樂字帶說。○此篇以論行記。

嘉祐二年。龍圖閣直學士。尚書吏部郎中梅公。出守於杭。於其行也。天子寵之以詩。於是始作有美之堂。蓋取賜詩之首章而名之。以爲杭人之榮。」第一小段言因賜詩作堂。然公之甚愛斯堂也。雖去而不忘。今年自金陵遣人走京師。命予誌之。其請至六七而不倦。』第二小段請記。○以上第一大段記作堂請文。予乃爲之言曰。夫擧天下之至美與其樂。有不得而兼焉者多矣」。第一小段提綱。○一篇自此數句起。故窮山水登臨之美者。必

之乎寬閑之野。寂寞之鄉。而後得焉。覽人物之盛麗。夸都邑之雄富者。必據乎四達之衝。舟車之會。而後足焉」。第二小段分說。蓋彼放心於物外。而此娛意於繁華。二者各有適焉。然其爲樂。不得而兼也』。第三小段小束。〇以上第二大段言天下美樂難兼。以反說始。今夫所謂羅浮。天台。衡嶽。廬阜。洞庭之廣。三峽之險。號爲東南奇偉秀絕者。乃皆在乎下州小邑僻陋之邦。此幽潛之士。窮愁放逐之臣之所樂也」。第一小段總說江南。〇一小折。若乃四方之所聚。百貨之所交。物盛人衆。爲一都會。而又能兼有山水之美。以資富貴之娛者。惟金陵錢塘』。第二小段說金陵錢塘。〇二小折。〇以上第三大段言江南唯金陵錢塘兼美。始入正說。〇一大折。然二邦皆僭竊於亂世。及聖宋受命。海內爲一。金陵以後服見誅。今其江山雖在。而頹垣廢址。荒煙野草。過而覽者。莫不爲之躊躇而悽愴」。第一小段說今日金陵不兼美樂。〇撇脫金陵有法。一小折。獨錢塘

美ナル風景ト、又快樂トハ、兼ネテ得ベカラザルモノ多シ。

四達之衝トハ四方ヨリ集合シ來ル處。

羅浮天台ハ共ニ山名。

衡嶽ハ五岳ノ一。

廬阜ハ廬山ノコト。

洞庭ハ湖名。

三峽ハ楊子江ノ上流ニアル巫峽、西陵峽、歸峽ヲ云フナリ。

下州ハ上國ニ對シテ云ヒ、惡シキ國トイフ意。

奇偉ハ珍奇ナルコト。

秀絕ハ景色ノ絕佳ナルコト。

幽潛之士云云、世ヲ隱レ偲ブ士、或ハ罪ヲ得テ他鄉ニ窮居愁傷スル臣ノ樂ム所ナリ。

錢塘ハ杭州ニ在ル地。

二邦云云ハ、南唐庄李氏金陵ニ都ス、宋ノ太祖ニ亡サル、吳越ノ錢氏、梁ノ時ヨリ兩浙ヲ據有ス、二者共ニ五代ノ亂世ニ於テ位ヲ僭シテ其地ヲ竊ミシナリ。

過而覽云云、此所ヲ經過シテ、其荒廢ノ狀ヲ見テ慨ヲ起シ、暫時足ヲ止メテ、悲涙ヲ流サザルモノナシ。

錢塘ハ吳越王、錢俶ノ都スル所ナリ、其祖錢鏐、唐末ニ當ツテ自ラ僭シテ王トナル、五世ノ係俶ニ至リ、其地十三州ヲ獻ジ、淮海國王ニ封ゼラル。其俗習工巧、其地ノ風習ハ、手藝ニ工ミナリ。左右映帶ハ前後左右ニ相映照スルナリ。閩商海賈ハ閩中及ビ海外ノ商人。

自五代時。知尊中國。效臣順。及其亡也。頓首請命。不煩干戈。今其民幸富完安樂。又其俗習工巧。邑屋華麗。蓋十餘萬家。環以湖山。左右映帶。而閩商海賈。風帆浪舶。出入於江濤浩渺煙雲杳靄之閒。可謂盛矣。』第二小段言錢塘兼美樂。○二小折。○以上第四大段言二邦中。獨錢塘兼美樂。○二大折。而臨是邦者。必皆朝廷公卿大臣。若天子之侍從。又有四方遊士爲之賓客。故喜占形勝。治亭榭。相與極遊覽之娛。然其於所取。有得於此者。必有遺於彼」。第一小段言錢塘中亦不能兼美樂。○一小折。獨所謂有美堂者。山水登臨之美。人物邑居之繁。一寓目而盡得之。蓋錢塘兼有天下之美。而斯堂者又盡得錢塘之美焉。全篇歸宿于此。○二美字。兼含樂字。蓋無樂則美不足爲美也。宜乎。公之甚愛而難忘也。』錢塘中。獨有美堂兼美樂。○一段小二段。一段美一段。○三大折。第二小段言堂獨兼美樂。○二小折。○以上第五大段言。梅公清愼好學君子也。視其所好。可以知其人焉。』第六大段記梅公。

視其所云云其人ノ嗜好スル所ヲ觀察シテ、其人トナリヲ、察知ス可シ。

峴山ハ今ノ湖北省ノ襄陽府ノ南ニアリ、嘗テ晉ノ羊祜ノ吳ヲ伐ツニ方リ、此山ニ登リ、從事鄒湛ニ謂ツテ曰ク、昔ヨリ哲人賢士ノ此山ニ遊ブ者、決シテ少シト爲サズ、而シテ此山今ニ存シ、其人湮滅シテ聞ユルモノナシト、湛對ヘテ曰ク、公ノ德業名望、當ニ此山ト共ニ不朽ニ傳フベシト、祜沒スルニ及ンデ後ナシ、襄人德ヲ慕ヒ、碑ヲ其巓ニ樹ツ、見ル者皆流涕セザルナシト、因テ命名シテ墮淚碑ト云フ。常倚荊州云云、荊州ハ晉ニ屬セシ時晉ノ重鎭ニシテ、羊祜常ニ此處ニ居守タリ、而シテ吳ノ大將陸杭ト常ニ此ニ對ス、後祜死シテ、杜預之ニ代リ、遂ニ吳ヲ亡セリ。流風ハ猶遺風ト云フガ如シ。餘韻ハ盛ナル貌。

# 峴山亭記

主意　言史光祿慕叔子功名。修峴山亭。因勸有實之名。○名字一篇字眼。○史光祿主。羊杜客。而客中又羊主杜客○變體。

峴山臨漢上。望之隱然。蓋諸山之小者。而其名特著於荊州者。豈非以其人哉。其人謂誰。羊祜叔子。杜預元凱是已。』以上第一大段言峴山因人而名。

方晉與吳以兵爭。常倚荊州以爲重。而二子相繼於此。遂以平吳而成晉業。其功烈已蓋於當世矣。至於流風餘韻。藹然被於江漢之閒者。至今人猶思之。而於思叔子也尤深。蓋元凱以其功。而叔子以其仁。二子所爲雖不同。然皆足以垂於不朽。

第一小段　敍實功。

予頗疑。其反自汲汲於後世之名者何哉。傳言。叔子嘗登茲山。慨然語其屬。以謂此山常在。而前世之士皆已煙滅於

獨不知云云、羊祜ハ獨リ此山ガ反ツテ己ニ因ツテ著ハルルヲ知ラザルナリ。
漢水ハ峴山ノ下ヲ流ルル川。
是知陵云云、杜預ハ陵谷ノ時ニ因ツテ變ジ去ル事ノミヲ知ツテ、變セザルモノト思惟セシ石ノ、時ヲ經テ磨滅スルコトアルヲ知ラザルナリ。
無窮ハ無限。
自待云云、己自身待ツ所ノモノヲ尊重ニシテ、遠キ後世ニ傳ランコトヲ思フ爲カ。
熙寧ハ神宗ノ年號。

因亭之——ソノ亭ヲ舊ノ儘ニシテ取リ廣ゲテ、增築シ、而シテ之ガ周圍ニハ、新ニ宏壯ナル回廊チメグラシ、其上ニ又後方ノ軒屋ヲモ、取リヒロゲ、以テ亭ト權衡ヲ保タシム。
君知名——君ハ昔ノ羊祜杜預ト同ジク、名ヲ當代ニ知ラレ、到ル所ノ地ニテ、功名嘖嘖タ

無聞。因自顧而悲傷。然獨不知茲山待已而名著也。元凱銘功於二石。一置茲山之上。一投漢水之淵。是知陵谷有變而不知石有時而磨滅也。豈皆自喜其名之甚。而過爲無窮之慮歟。將自待者厚。而所思者遠歟。』第二小段起レ疑。遂歸自待厚所思遠。是斷案。豈皆自喜云云。言二子亦喜君子有實之名。○以上第二大段說二子之名有實。○有實而求名。猶不可。況無實而求名乎。假二古人一諷二光祿一。

山故有亭。世傳以爲叔子之所遊止也。故其屢廢而復興者。由後世慕其名。而思其人者多也。」第一小段略記往昔亭之興廢一以起レ下。

熙寧元年。余友人史君中輝。以光祿卿來守二襄陽一。明年。因亭之舊。廣而新之。既周以回廊之壯。又大其後軒。使與亭相稱。君知名當世。所至有聲。襄人安其政。而樂從其遊也。因以君之官名其後軒。爲光祿堂。又欲紀其事於石。以與叔子元凱之名。並傳於久遠。君皆不能止也。乃來以記屬於予。」第二小段記新

修及屬レ記。余謂君知二慕叔子之風一而襲二其遺迹一。則其爲レ人與二其志之所一レ存者一可レ知矣。襄人愛レ君而安二樂之一如レ此。則君之爲二政於襄一者。又可レ知矣。此襄人之所レ欲レ書也』。第三小段冀有實之名。○光祿功名。不可望。叔子。故用彷彿筆爲結穴。○以上第三大段言史光祿慕叔子名亭。且欲託己名傳于後。頌中暗含規是主意所在。○入題。若其左右山川之勝勢。與夫草木雲煙之杳靄。出沒於空曠有無之閒。而可以備詩人之登高。寫離騷之極目者。宜其覽者自得之」。補景色。第一小段至於亭屢廢興。或自有レ記。或不必究其詳者。皆不復道也』。第二小段補廢興。亭上景色及亭興廢記。○文中不可缺。故設第四大段補之。且收起首景色。

## 眞州東園記

主意　言東園之樂。自三人始。○樂字眼目。○正體。

勝勢ハ優勝ナル形勢。可以備——詩人墨客ノ、高山ニ登リテ、其胸懷ヲ廣ムルニ資シ、轗軻不遇ノ離騷流ノ人、遠望シテ、悲觀、愁情ヲ慰藉スルニ足ルモノナドハ、其遊覽者ノ自ラ發見スルニ任セテ可ナリ。

リ、殊ニ此襄人ハ、君ノ政治ニ安ンジ、君ニ從ツテ遊ブコトヲ樂ム、故ニ此後軒ノ名ヲモ、君ノ官名ニ因テ光祿堂ト呼ビ、又其事ヲ石ニ刻シテ、彼二人ノ名ト同ジク無窮ニ傳ヘンコトヲ欲ス、君ニ取リテハ皆止ム能ハザルコトナリ。其爲人——君ノ人品ト、志望トヲ察知スベシ。

襲其遺迹ハ、羊枯ノ遊止セリト傳ヘラレタル亭ヲ襲グナリ。

襄人愛君云云、襄人ガ君ヲ愛シ、安樂ニシテ居ルヲ見テ、君ノ政治ヲ知リ得ベシ。

空曠トハ豁然廣キコト。

眞ハ州名、江蘇省ノ揚州府ニアリ。水會ハ河流湊合スル所ナリ。發運使ハ米粟運漕ヲ司ル官。侍御史、監察御史裏行ハ共ニ官名、糾察ヲ掌ル、裏行ハ御史ノ賤官。判官ハ發運使ノ屬官ナリ。相得之懽ハ三人親睦スル悦ヲ云フ。

望以拂雲云云、拂雲ノ亭ヨリ臺ヲ望ム、澄虛ノ閣ハ清池ニ臨ムヲ云フ、拂雲トハ高ク出ルナリ、澄虛ハ清閑ナリ。

敞ハ平ニ開クナリ。射賓之圃ハ來賓ノ弓射ル圃。

芙蕖ハ蓮ノ花、芰ハひし、荷ハはす。

的歷ハ花ノ鮮カニ映キ揃フコト。

白芷ハ和名よろひ草トイフ香草。

高甍巨栱ハ高キいらか

眞爲州。當東南之水會。故爲江淮兩浙荊湖發運使之治所。龍圖閣直學士施君正臣。侍御史許君子春之爲使也。得監察御史裏行馬君仲塗爲其判官。三人者。樂其相得之懽。而因其暇日。得州之監軍廢營。以作東園。而日往遊焉。』以上第一大段記二三人作園。揭一篇主意。

歲秋八月。子春以其職事走京師。圖其所謂東園者。來以示予。曰。園之廣百畝。而流水橫其前。清池浸其右。高臺起其北。臺吾望以拂雲之亭。池吾俯以澄虛之閣。水吾泛以畫舫之舟。敞其中。以爲清讌之堂。闢其後。以爲射賓之圃。」池臺閣梗概。芙蕖芰荷之的歷。幽蘭白芷之芬芳。與夫佳花美木。列植而交陰。此前日之蒼煙白露而荊棘也。高甍巨栱。水光日景。動搖而下上。其寬閑深靚。可以答遠響。而生清風。此前日之頹垣斷塹而荒墟

巨ナルたるき。
甃鼈ハいたち、むささび。
嘐音ハ喧シキ音ナリ。
吾於是云云、此ノ如ク開拓シタルニ付イテハ吾モ眞ニ與ツテ力アリタリ。
乃升於――今高キ所ニ登リテ、山壑遠近ノ風光ヲ眺メ、水流ヲ見テ心ヲ喜バセ、魚鳥優遊ノ快樂ヲ妨ゲズ、其現象ノ樣樣ナル趣味ト、山ニ登リ水ニ臨ムノ快樂トハ、遊觀者各、足蹈ミ目見テ、心ニ自得スルモノアラン。
眞天下――眞州ハ四通八達ノ區ニシテ、四方八方ノ賓客此處ニ來往スルモノ夥ク、吾此等ノ人士ト共ニ此園ニ遊ビ、俱ニ樂サレバ此園ハ豈獨リ吾等三人ノ者ノ爲ニアルモノナランヤ。
眷眷ハ慕ハシクシテ心ノ引カルルヲ云フ。

也。嘉時令節。州人士女。嘯歌而管絃。此前日之晦冥風雨。鼜鼓鳥獸之嘐音也。吾於是信有力焉」。景。○倒敍前時。妙。不然平平。凡圖之所載。蓋其一二之略也。若乃升於高以望江山之遠近。嬉於水而遂魚鳥之浮沈。其物象意趣。登臨之樂。覽者各自得焉。凡工之所不能畫者。吾亦不能言也。其爲我書其大概焉』。第三小段記圖畫言語所不及之景。○以上第二大段借子春口記園景。又曰。眞天下之衝也。四方之賓客往來者。吾與之共樂于此。豈獨私吾三人者哉。然而池臺日益以新。草樹日益以茂。四方之士。無日而不來。而吾三人者有時而皆去也。豈不眷眷於是哉。不爲之記。則後孰知其自吾三人者始也』。以上第三大段敍乞記之主意。○自吾三人者始。主意歸宿。

予以謂。三君子之材。賢足以相濟。而又協於其職。知所後先。使上下給足。而東南六路之人。無辛苦愁怨

之聲。然後休其餘閒。又與四方之賢士大夫。共樂於此。是皆可嘉也。乃爲之書』。以上第四大段嘉三子之樂。出于政事之餘。而又與衆同樂。故應求記之。是收拾。

## 王彦章畫像記

主意　言慕公忠節。修畫像。○忠字主。智勇字陪。

太師王公諱彦章。字子明。鄆州壽張人也。事梁爲宣義軍節度使。以身死國。葬於鄭州之管城。晉天福二年始贈太師」。第一小段略敍。公在梁。以智勇聞。梁晉之爭數百戰。其爲勇將多矣。而晉人獨畏彦章。自乾化後。常與晉戰。屢困莊宗於河上。及梁末年。小人趙巖等用事。梁之大臣老將。多以讒不見信。皆怒而有怠心。而梁亦盡失河北事勢已去。諸將多懷顧望。獨公奮然自必。不少

天福ハ後晉ノ高祖石敬瑭ノ年號。梁晉ノ晉ハ後ニ後唐ト稱ス、上文ノ晉ニ非ズ。

乾化ハ梁ノ太祖朱全忠ノ年號。莊宗ハ後唐ノ君、李存勗ノコト。及梁末——當時晉已ニ河北ノ地ヲ掩有シ、鐵鎖ヲ以テ德勝ノ關ヲ閉ヂ、黃河ノ南北ニ夾寨ト號スル兩城ヲ築キタ

屈懈。志雖不就。卒死以忠。公既死而梁亦亡矣。悲夫』。第二小段詳敍。○以上第一大段總敍大略。

五代終始纔五十年。而更十有三君。五易國而八姓。士之不幸而出乎其時。能不汙其身。得全其節者鮮矣」。第一小段客。

公本武人。不知書。其語質。平生嘗謂人曰。豹死留皮。人死留名。蓋其義勇忠信。出於天性。而然。予於五代書。竊有善善惡惡之志。至於公傳。未嘗不感憤歎息。惜乎舊史殘略。不能備公之事。』二小段主。○以上第二大段言公忠勇。出于天性。故能全節于五代大亂之世。是一篇主腦。

康定元年。予以節度判官來此。求於滑人。得公之孫審所錄家傳。頗多於舊史。其記德勝之戰尤詳。」之戰尤詳。伏後德勝一段。第一小段一異聞。○記德勝

又言。敬翔怒末帝不肯用公。欲自經於帝前。公因用笏畫山川。爲御史彈而見廢」。第二小段二異聞。

又言。公五子。其二同公死節。此皆舊史無之」。第三小段三異聞。

又云。公在滑以讒自

---

リ、而ルニ梁ノ末帝ハ昏忌ニシテ、小人趙巖等ノ言ヲ聞キ、大臣宿將ハ多ク讒セラレ、皆怒チ爲シテ怠ル心チ生ゼリ、彦章モ招討副使タリト雖モ、謀ハ用ヒラレズ、河北ノ地チ失ヒ、遂ニ亡國ノ端チナセリ。

懷願望ハ疑心チ懷キ願ミ伺フ、俗ニ云フ二ノ足チ踏ムコト。

十有三君ハ梁二君、唐四君、晉二君、漢二君、周三君チ合セテイフ。

汙ハ辱シムルナリ。

竊有善——歐陽修五代史チ著シ、竊ニ善嘉チ賞シ、惡凶チ筆誅スルノ志アリ、公ノ傳チ書スルニ至ツテ、未ダ嘗テ感激悲憤シテ、歎息セズンバアラズ、殊ニ舊五代史ハ、殘缺略說シテ、公ノ事チ盡ス能ハザルチ惜ム。

德勝ハ地名。

敬翔云云、敬翔自經ノ始末ハ、敬翔、繩チ靴中ニ隱シテ、末帝ニ見エ、泣イテ曰ク、陛下臣チ信任セズンバ死スルニ如カズト、乃チ繩チ出シテ、將ニ經レントス、

帝驚イテ之ヲ止メ、其意ヲ問フ、敬翔曰ク、現下ノ急ヲ救フ、彦章ニ非ズンハ不可也ト、帝乃チ彦章ヲ招討使トナシ、段凝ヲ副トス、段凝上書シテ彦章ヲ讒シ、趙巖等京ニ在ツテ之ヲ誣フ、帝之ヲ信ジ、彦章ヲ罷メントス、是ニ於テ彦章馳セテ京師ニ至リ帝ニ見エ、泣ヲ以テ地ニ畫キ、勝敗ノ迹ヲ陳セリ、サレド巖等有司ヲシテ彦章ノ不恭ヲ劾セシメシヲ以テ、遂ニ罷メラレタリ。

舊史ハ舊五代史。

贏兵ハ弱兵ナリ。

保鑾ハ近衛兵ナリ。

雖予亦云云、予トテモ、矢張疑ナク自説ヲ良策ナリト確信スルコト能ハザリシナリ。

奇在速——奇策ヲ施スハ別ニ方法アルニアラズ、唯神速ニ行フニアリ、又神速ニ事ヲ行フハ果斷ニアリ、此ノ如

歸於京師。而史云召之。是時梁兵盡屬段凝。京師贏兵不滿數千。公得保鑾五百人之鄆州。以力寡敗於中都。而史云將五千以往者。亦皆非也。第四小段四異聞。○以上第三大段記異聞。公之攻德勝也。初受命於帝前。期以三日破敵。梁之將相。聞者皆竊笑。及破南城。果三日。是時莊宗在魏。聞公復用。料公必速攻。自魏馳馬來救。已不及矣。莊宗之善料。公之善出奇。何其神哉。第一小段敍奇戰。今國家罷兵四十年。一旦元昊反。敗軍殺將。連四五年。而攻守之計。至今未決。予嘗獨持用奇取勝之議。而歎邊將屢失其機。時人聞予說者。或笑以爲狂。或忽若不聞。雖予亦惑不能自信。欲用奇。而不能。及讀公家傳。至於德勝之捷。乃知古之名將必出於奇。然後能勝。然非審於爲計者。不能出奇。奇在速。速在果。此天下偉男子之所

爲非拘牽常算之士可到也。每讀其傳未嘗不想見其人』。第三小段贊稱公奇戰起下段。○以上第四大段因異聞感想德勝之奇戰。○奇字此段字眼。後二年。予復來通判州事。歲之正月。過俗所謂鐵槍寺者。又得公畫象而拜焉。歲久磨滅。隱隱可見。亟命工完理之。而不敢有加焉。懼失其眞也。公尤善用槍。當時號王鐵槍。公死已百年。至今俗猶以名其寺。童兒牧豎。皆知王鐵槍之爲良將也。一槍之勇。同時豈無。而公獨不朽者。豈其忠義之節使然歟』。第一小段入本題結主意。○一槍之勇云云數句結忠節。是一篇主意歸宿處。畫已百餘年矣。完之復可百年。第一節揚。然公之不泯者。不繫乎畫之存不存也。而予尤區區如此者。蓋其希慕之至焉耳。第二節抑。讀其書。尚想乎其人。應前段況得拜其像識其面目。結畫像記。不忍見其壞也。畫既完。因書末句。予所得者于後。結異說一段。而歸其人使藏之』。第三節揚。○第二小段收拾全篇。○以上

キハ天下ノ非凡ナル偉男子ノナス所ニシテ、尋常ノ目算ニ拘泥スル人士ノ行屆クベキ所ニアラズ。

通判州事ハ慶歷二年歐陽公滑州ノ通判官トナルナイフ。

象ハ像ト同ジ。

隱隱ハ朱色剝落シテ鮮明ナラザルコト。

亟命工云云、早速職工ニ命ジテ之ヲ修覆シ、更ニ原圖ニ筆ヲ加ヘズ、是其眞實ヲ失ハン事ヲ虞レタレバ也。

一槍之勇——當時彥章以外ニ、槍術ニ巧ナル勇將尙ホ多カリシナラン、然ルニ公ノ名聲ノミ後世ニ赫赫タルモノハ、是レ忠義節操ノ然ラシムル所ニアラズヤ。

可百年ハ以後百年モ保存セラルベシト云フナリ。

區區如此云云、余ガコヽニセト畫ヲ保存センストシタルハ、公ノ名ノ泯滅セザラン爲ニアラズ、公ノ忠義ノ大節ヲ希ヒ慕フノ極ナルノミ。

所得者ハ家傳ヲサス。

# 樊侯廟災ノ記

主意　辨廟災非神怒。

鄭之盜。有入樊侯廟。刳神象之腹者。既而大風雨。壞近鄭之田。麥苗皆死。人咸駭曰。侯怒而爲之也。』以上第一大段前序。余謂。樊侯本以屠狗立軍功。佐沛公至成皇帝。位爲列侯。邑食舞陽。剖符傳封。與漢長久。禮所謂有功德於民。則祀之者歟。」祀。○有功德於民則祀之第一小段言侯功德宜廟伏案下段無罪之民。平民耳目云云。皆反應之。舞陽距鄭既不遠。又漢楚常苦戰滎陽京索之閒。亦侯平生提戈斬級。所立功處。故廟而食之。宜矣。」第二小段言鄭地宜廟。方侯之參乘沛公。事危鴻門。振目一顧。使羽失氣。其勇力足有

鄭之盜——鄭ノ盜、樊噲ノ神廟ニ入リ、其神像ノ腹ヲ刳キタル者アリ、既ニシテ風大ニ起リ雹ヲ雨ラス、之ガ爲ニ鄭ニ近キ田ニ生ズル麥苗、盡ク枯死セリ、民人之ヲ見、皆駭キテ曰フ、樊神怒リテコノ崇ヲ爲スト。

雹ハうト訓ズ。

符ハ割印ニテ、封土ヲ與フル時ノシルシ也、即チ其半ヲ彼ニ與ヘ、其半ヲ此ニ留メテ信トナスモノナリ。

禮所謂云云、禮記祭法ニ見ユ、即住民ニ功德アラバ、神祠ヲ建テテ之ヲ祭ルト。

滎陽京索ハ共ニ鄭ニ近

キ地名。斬級ハ首級ヲ斬ルナリ。廟而食之ハ廟ヲ建テ犧牲ヲ具ヘテ、之ヲ祭ルナリ。參乘ハ車ニ同乘シテ馬ヲ御スルナリ、一種ノ役目ナリ。事危鴻門云云、沛公項羽ト鴻門ニ會セシ時、項莊劍舞シテ、沛公ヲ擊タントス、樊噲事ノ急ナルヲ聞キ、入リテ項羽ヲ責メ、遂ニ沛公ヲ救フ。遺靈ハ神靈ノ死後ニ遺存スルナリ。然當盜——然ルニ盜ノ刃ヲ神像ノ腹ニ刺スニ當ツテ、自己ノ心腹腎腸ヲサヘ保護スルコト能ハザルニ、反ツテ無罪ノ民ニ其怒ヲ移シ、麥苗ヲ枯死セシメ、亂暴放肆ヲ振フハ如何、生時ニハ萬人ニ敵シ得レドモ、死シテハ一身ヲサヘ庇護スルニ堪ヘザルカ、又其神威ハ盜ノ腹ヲ刺スヲ防グニ足ラズシテ、反ツテ民ニ向ツテ神威ヲ振ヒ、人ノ耳目ヲ駭スカ。

過人者。故後世言雄武。稱樊將軍。宜其聰明正直有遺靈矣。』第三小段言侯靈聰明正直。○聰明正直有遺靈。伏下段正論。○以上第二大段論侯有功德于民。故百世廟食。然當盜之俑刃腹中。獨不能保其心腹腎腸哉。而反貽怒於無罪之民。以駭其恣睢何哉。』第一小段記神不能拒盜。而貽怒於民。豈生能萬人敵。而死不能庇一躬邪』。第二小段一疑。豈其靈不神於禦盜。而反神於平民。以駭其耳目邪』。第三小段二疑。風霆雨雹。天之所以震耀威罰有司者。而侯又得以濫用之邪』。四小段三疑。○以上第三大段疑惑。蓋聞陰陽之氣。怒則薄而爲風霆。其不和之甚者。凝結而爲雹。方今歲且久旱。伏陰不興。壯陽剛燥。疑有不和而凝結者。豈其適會民之自災也邪』。第一小段決疑結主意。○豈其一句主意歸宿。○不明決疑。而暗決之。妙。不然則喑嗚叱咤。使風馳霆擊。則侯之威靈暴矣哉。』第二小段反跌。○暴字反應正直。○

以上第四大段辨疑。

俾ハ刺ニ同ジ。
恣睢ハ亂暴放肆。
庇ハ保護スルナリ。
有司ハ役人。
威罰ハ威嚇刑罰。
暗嗚ハ怒リ叫ブナリ。

大姓ハ大家ナリ、豪家ナリ。

予爲兒童時ハ蓋シ眞宗ノ閒天僖年ニシテ、歐陽修十歲ノ頃ナラン。脫落トハ、紙舊クナリ、綴リ目ノ切レテヌケタルコト。

浩然ハ廣大ナリ。
楊劉ハ楊億ト劉筠ノコト、楊億ハ太宗眞宗ニ仕ヘテ、翰林學士トナリ、文ヲ以テ名アリ、劉筠ハ仁宗ニ事ヘ、翰林學士トナリ、楊億ト

# 記舊本韓文後

主意　言吾尊韓文者。知其文載道故。雖忽于近而必明于久也。

予少家漢東。漢東僻陋無學者。吾家又貧無藏書。州南有大姓李氏者。其子堯輔頗好學。予爲兒童時。多遊其家。見其敝篋貯故書在壁閒。發而視之。得唐昌黎先生文集六卷。脫落顚倒無次序。因乞李氏以歸。讀之。見其言深厚而雄博。一句既胚胎韓。然文載道之意。予猶少未能悉究其義。徒見其浩然無涯。若可愛。第一小段敍乞舊本。是時天下學者。楊劉之作。號爲時文。能者取科第。擅名聲。以誇榮當世。未嘗有道韓文者。予亦方舉進士。以禮部詩賦爲事。年十有七。試於州。爲有司所黜。因取所藏韓氏之文復閱之。則喟然歎

同ジク文名アリ。
科第ハ進士登第。
名聲ハ評判ヨキコト。
年十有七云云、歐陽修隨州ニ左氏ノ試驗ヲ受ケ、落第セシチ云フ。
學者當至云云、學者タル人ハ、進ンデ此處ニ到達シテ後止ムベシ、即此位置マデ進マザルベカラズトナリ。
不道ハ韓文ノ事ヲ口ニセザルヲ云フ。
後七年云云、天聖八年歐陽修禮部ノ試驗ニ第一ヲ占メ、又崇政殿ノ御試ニ合格シテ西京ノ留守推官トナリ、九年西京ニ至ルナイフ。
道固有——道德ハ遠キ後世ニ行ハルルトモ、反ツテ近キ當時ニ行ハレザルコトアリ、往時ニハ輕忽ニセラレテ今世ニハ貴バルルモノアリ、コレ唯世人ノ嗜好ニ適スルト否トニヨルニアラズシテ、自ラ然ル道理アルナリ。
惶惶ハ求メテ而カモ得ザルノ意。
所上下ハ人ノ好惡時ニ隨ツテ上下進退スルニアラズト云フナリ。

曰。學者當至于是而止耳。因怪時人之不道。而顧己亦未暇學。徒時時獨念于予心。以謂方從進士干祿。以養親。苟得祿矣。當盡力於斯文。以償其素志」時文。然不忘韓文。後七年。舉進士及第。官於洛陽。而尹師魯之徒皆在。遂相與作爲古文。因出所藏昌黎集而補綴之。求人家所有舊本而校定之。其後天下學者亦漸趨於古。而韓文遂行於世。至於今。蓋三十餘年矣。學者非韓不學也。可謂盛矣』。第三小段敍韓文盛行。〇以上第一大段記。公久慕韓文。終使韓文盛行于天下。是實敍。嗚呼。道固有行於遠而止於近。有忽於往而貴於今者。非惟世俗好惡之使然。亦其理有當然者。昔孔孟惶惶於一時。而師法於千萬世。韓氏之文。沒而不見者二百年。而後大施於今。此又非特好惡之所上下。蓋其久而愈明。不可磨滅。雖蔽於暫。而終耀於無窮者。

蓋其久――蓋其久シキ年月ヲ經テ、愈〻明ニナリテ決シテ磨滅スベカラズ、又暫時ノ間、物ニ蔽ヒ隱サレ、世ニ現サザレドモ、終ニ無窮ノ久シキ後マデモ耀クモノハ、當然ノ理ナリ。時好ハ世俗ノ嗜好即流行ナリ。所以急云云、名利ヲ得ルニ急ニシテ、勢利ヲ求ムルノ用ニ供スル爲ニアラズ。其志先――其志ス所先ヅ確定シテ、毫モ名利榮辱ノタメニ惑ハサレズ、學ブ所ノ道德モ、宜シク然ルベキモノナリ。刻畫ハ文字彫刻ヲ云フ。

其最後――最後ノ一卷ハ缺本ニシテ不足ナレド、今更ニ之ヲ補ハザルハ、原本ヨリ增加スルコトヲ虞レタル也。嗚呼韓――嗚呼韓愈ノ文ト道トハ、萬世ノ人ノ共ニ尊ブ所ニシテ、天下ノ共ニ傳ヘテ所有スル所ナリ、予ハ此書ノ舊物タルヲ以テ、尤モ之ヲ愛惜シテ止マザルナリ。

其道當然也。」第一小段論。韓文久而明。予之始得於韓也。當其沈沒棄廢之時。予固知其不足以追時好。而取勢利。於是就而學之。則予之所爲者。豈所以急名利。而干勢利之用哉。亦志乎久而已矣。故予之仕。於進不爲喜。退不爲懼者。蓋其志先定。而所學者宜然也。』第二小段論己亦志于久。○以上第二大段言韓公載道之文。故久而明。歐公背時好學之。亦志于久而已。是虛論。集本出於蜀。文字刻畫頗精。於今世俗本。而脫繆猶多。此三十年閒聞人有善本者。必求而改正之。其最後卷缺不足。今不復補者。重增其故也。予家藏書萬卷。獨昌黎先生集。爲舊物也。」第一小段敍。嗚呼。韓氏之文之道。萬世所共尊。天下所共傳而有也。予於此本。特以其舊物而尤惜之。』第二小段論。○以上第三大段記舊本。遂收題目。

此文ハ王文正ノ眞宗ニ事ヘ、終始其德ヲ全ウシ、嚴正身ヲ奉ジ、克ク大事ニ當リ、權勢ヲ遠ケ、私請ヲ受ケズシテ、有德ノ元老タリシコトヲ敍スルナリ。至和ハ宋ノ仁宗ノ年號。

待罪ハ謙辭ニシテ職ヲ奉ズルコトナリ。餘烈ハ遺功ト同ジ。無似トハ猶不肖トイフ如シ。

假寵ハ人臣ガ、天子ヨリ寵榮ヲ受クルコト。終其位ハ其職ヲ全ウセシヲ云フ。

推誠保順云云、唐宋以來勳功アルモノニ賜ハル號ナリ。守太尉――守ハ位卑ク官高キトイヒ、太尉ハ三公ノ官ナレドモ職事

# 太尉文正王公神道碑銘

主意　言ㇾ公相ニ眞宗一。有ㇾ始有ㇾ終。可ㇾ稱ニ全德元老一。

至和二年七月乙未。樞密直學士。右諫議大夫王素。奏ニ事ヲ殿中一。已而泣且言曰。臣之先臣旦。相ニ眞宗皇帝一十有八年。今臣素又得ㇾ待ニ罪ヲ侍從之臣一。惟是先臣之訓。其遺業餘烈。臣實無似。不ㇾ能ニ顯ニ大ニ一而墓碑至ニ今ニ一無ニ辭ニ一以刻ニ一。惟陛下哀憐。不ㇾ忘ニ先帝之臣一。以ニ假ニ寵ヲ於王氏ニ一而勗ニ其子孫ニ一」。請ニ建碑一。第一小段　天子曰。嗚呼。惟汝父旦。事ニ我文考眞宗ニ一。叶ニ德ニ一ㇾ心。克ニ終其位ヲ一。有ㇾ始有ㇾ卒。其可ㇾ謂ニ全德ノ元老ト一矣。汝素以ㇾ是刻ニ於碑ニ一。素拜稽首泣而出。明日有ㇾ詔史館修撰歐陽修曰。王旦墓碑未ㇾ立。汝可ㇾ以ㇾ銘ス。」第二小段　命ㇾ銘。〇以上第一大段奉ㇾ勅作ㇾ銘。　臣修謹按。故推誠保順同德守正翊戴功臣。開府儀同三司。守太尉。充玉清昭

ナキモノナリ。
上柱國ハ勳勞アルモノノ官ナリ。
贈太師尚書令兼中書令ハ追贈セラレシ官ナリ。
累贈トハ漸漸ト昇進シテ此ニ至リシナリ。
漢周ハ五代ノ國名。
太祖太宗ハ共ニ宋ノ祖。
杜重威ハ晉ノ將ナリ、降ツテ契丹ニアリ、漢王劉知遠、之ヲ歸德ノ節度使ト爲ズ、重威應ゼズ、是ニ於テ漢兵ヲ發シテ之ヲ討ズ、重威遂ニ降レリ。
盧多遜趙普ハ俱ニ太宗ノ宰相。
以百口云云、責任ヲ明ニスル語ナリ、卽此事ニシテ誤リアラバ、百人ノ生命ヲ殺シテ、其罪ヲ謝セント云フ也。
三槐ハ三本ノふんじゆ

應宮使。上柱國。大原郡開國公。贈太師尚書令兼中書令。追封魏國公。謚曰文正王公。諱旦。字子明。大名莘人也。」第一小段。先敍王公。皇曾祖諱言。滑州黎陽令。追封許國公。皇祖諱徹。左拾遺。追封魯國公。皇考諱祐。尚書兵部侍郎。追封晉國公。皆累贈太師尚書令兼中書令。曾祖妣姚氏。魯國夫人。曾妣田氏。秦國夫人。妣任氏。徐國夫人。邊氏。秦國夫人。公之皇考。以文章自顯。漢周之際。逮事太祖太宗。爲名臣。」第二小段。敍先世。嘗諭杜重威。使無反漢。拒盧多遜害趙普之謀。以百口明符彥卿無罪。故世多稱王氏有陰德。公之皇考。亦自植三槐於庭。曰。吾之後世。必有爲三公者。此其所以志也。』第三小段。敍先世陰德。胎公相業。○以上第二大段。敍世系。公少好學有文。太平興國五年。進士及第。爲大理評事。知平江縣。監潭州銀場。再遷著作佐郎。與

編文苑英華。遷殿中丞。通判鄭濠二州。王禹偁薦其材。任轉運使。驛召至京師。辭不受。獻其所爲文章。得試直史館。遷右正言知制誥。知淳化三年禮部貢擧。遷虞部員外郎。同判吏部流內銓。知考課院。右諫議大夫趙昌言參知政事。公以堉避嫌。求解職。太宗嘉之。改禮部郎中集賢殿修撰。昌言罷。復知制誥。仍兼修撰。判院事。召賜金紫。久之遷兵部郎中。居職。眞宗卽位。拜中書舍人。數日召爲翰林學士。知審官院。通進銀臺封駁事。』以上大段敍相前履歷。第三公爲人嚴重。能任大事。避遠權勢。不可干以私。」第一小段綱領。由是眞宗益知其賢。錢若水名能知人。常稱公曰。眞宰相器也。若水爲樞密副使。罷召對苑中。問誰可大用者。若水言公可。眞宗曰。吾固已知之矣。」第二小段敍眞宗夙知公。咸平三年。又知禮部貢擧。居數

ノ木ナリ、之ヲ植エテ三公ニ擬ス、蓋シ古者外朝、三公ノ居ル所、庭ニ三槐ヲ植エシ也。
太平興國ハ太宗ノ年號。
銀場ハ銀鑛場ナリ。
文苑英華ハ、太宗ノ時學者ニ命ジテ編纂セル所ノ書、千卷アリ。
驛召ハ驛ニテ召サルルナリ。
辭不受ハ轉任ヲ辭シテ受ケザルナリ。
吏部流內銓ハ官名、流內ハ九品ノ內トイフ義、銓ハ官吏ヲ沙汰ストイフ意、九品ノコトハ隋以來之アリ、之ニ入ル者ヲ流內トイヒ、其他雜色官ニ補セラルルモノヲ流外トイフ。
考課院ハ官吏ノ勤惰ヲ調フル役所。
參知政事ハ宰相ノ副官ナリ。
金紫ハ金印紫綬ヲ佩ブルヲ云フ。
銀臺封駁事ハ銀臺司ニテ行フ、天下ノ奏狀ヲ收ムルコトヲ掌リ、門下省ノ封駁ノコトヲモ兼ヌルモノトス、封駁ハ詔勅ニ不便ナルコトアルトキ、天子ニ封還

スルナリ。

行在ハ時ニ澶州ニアリ。

門下平章事ハ宰相ノ職。集賢殿大學士ハ宰相ノ兼官。趙得明ハ趙元昊ノ父。

三世トハ太祖、太宗、及ビ眞宗。

其爲相云云、宰相トナルヤ、ツトメテ從來ノ故ヲ行フノミニシテ改正變更スルコトヲ謹ミ、才能アル者ヲ進メ、然ラザル者ヲ退クルニモ、反覆丁寧ニ詮考スルヲ以テ、賞罰必ズ其宜シキヲ得テ、不公平ナルコトナシ。

公於用——公ノ人ヲ採用スルヤ、其名譽ノ如何ヲ以テセズ、必ズ其

日。拜給事中。知樞密院事。明年以工部侍郎參知政事。再遷刑部侍郎。景德元年。契丹犯邊。眞宗幸澶州。雍王元份留守東京。得暴疾。命公馳自行在。代元份留守。二年遷尚書左丞。三年拜工部尚書同中書門下平章事。集賢殿大學士。監修國史」。第三小段敍累進宰相。是時契丹初請盟。趙得明亦納誓約。願守河西故地。二邊兵罷不用。眞宗遂欲以無事治天下。公以謂宋興三世。祖宗之法具在。故其爲相。務行故事。愼所改作。進退能否。賞罰必當。眞宗久而益信之。所言無不聽。雖他宰相大臣。有所請。必曰。王某以謂如何。事無大小。非公所言不決。公在相位十餘年。外無夷狄之虞。兵革不用。海內富實。羣工百司。各得其職。故天下至今。稱爲賢宰相』。第四小段敍公相業方針在守成。○賢宰相與段ノ首宰相器相應。○以上第四大段敍功業大綱。公於用人。不以

實力如何ヲ探求ス、故ニ苟モ賢ニシテ且材アラバ、必ズ之ヲ採リ、而シテ久シク其官ニアラシム、衆人以テ其職ニ適スト云ヒテ、後之ヲ轉任セシム、其推薦スル所アトリモ、決シテ他人ヲシテ知ラシメズ。私ハ内密ニ頼ミ込ムコト。

使相トハ節度使ニシテ平章事ヲ兼ヌルモノ。

將作監丞ハ工事監督。

太子中允ハ太子ノ侍從官。

所止ハ處ル所ナリ。

内出奏章ハ宮中ヨリ發セラレタル奏章。

公與人ト雜談笑語スルコト稀ナリ、言語ハ簡單ナレドモ、

名譽必求其實。苟賢且材矣。必久其官。衆以爲宜某職。然後遷。其所薦引人未嘗知。」第一小段敍用人不以名而以實是目中之綱。寇準爲樞密使。當罷使人私公。求爲使相。公大驚曰。將相之任。豈可求耶。且吾不受私請。準深恨之。已而制出。除準武勝軍節度使。同中書門下平章事。準入見。涕泣曰。非陛下知臣。何以如此。眞宗具道公所以薦準者。準始媿歎以爲不可及。」敍薦寇準。故參知政事李穆子行簡。有賢行。以將作監丞居於家。眞宗召見慰勞之。遷太子中允。初遣使者召。不知其所止。眞宗命至中書。問王某然後人知行簡公所薦也。」第三小段敍薦李行簡。公自知制誥至爲相薦士尤多。其後公薨。史官修眞宗實錄。得内出奏章。乃知朝廷之士多公所薦者。」第四小段敍薦多士。〇以上第五大段功業細目第一。公與人寡言笑。其語雖簡而能以理屈人。默

其道理明白ナレバ、人チ屈服セシムルコト多シ、常ニ默默トシテ云ハザルコト、終日ナリシカバ、人ヨク其心底チ窺ヒ知ルナシ、事チ奏スル毎ニ、羣議異同アリトモ、公ノ一言チ發スルニ因ツテ、事直ニ決定ス。

今上ハ仁宗。

諡德ハ官名。

止於是邪ハ、是ニ止ラズ尙ホ他ニ太子チ輔佐スベキ事アルチ言ヒ、諡德チ抑屈スルナリ。

德明新——德明ハ、新ニ誓チ立テガラ、其盟約ニ違背シタレバ、勅チ下シテ之レチ譴責アルベシ、帝之チ公ニ問フ、公上ニ請ヒ、有司ニ勅シテ、粟チ京師ニ具ヘ置キ、德明チシテ來リ取ラシム、德明コノ詔書チ得テ慚愧シ、且喜ビ拜シテ曰ク、朝廷ニ賢人物アリト、蓋シ公ノ德チ稱スルナリ。

大中祥符ハ四字ノ年號。

蝗ハ稻蟲。

待此以瞑目ハ、此節度使チ得テ後、安心シテ

然終日莫能窺其際。及奏事上前。羣臣異同。公徐一言以定。第一小段敍一言能屈人。是日中綱。

今上爲皇太子。太子諭德見公。稱太子學書有法。公曰。諭德之職。止於是邪。第二小段敍屈諭德。趙德明言民饑。求糧百萬斛。大臣皆曰。德明新納誓而敢違。請以詔書責之。眞宗以問公。公請勅有司。具粟百萬於京師。詔德明來取。眞宗大喜。德明得詔書。慚且拜曰。朝廷有人。第三小段敍屈趙德明。大中祥符中。天下大蝗。眞宗使人於野得死蝗。以示大臣。明日他宰相有袖死蝗以進者。曰蝗實死矣。請示於朝。率百官賀。公獨以爲不可。後數日方奏事。飛蝗蔽天。眞宗顧公曰。使百官方賀。而蝗如此。豈不爲天下笑邪。第四小段敍宦官劉承規以忠謹得幸。病且死。求爲節度使。眞宗以語公曰。承規待此以瞑目。公執以爲不可。曰他日將有求

死セント云フナリ。
内臣ハ宦官。
留後ハ節度使ノ代理。
公任事――公官ニ在リ、事ニ任ズルコト年久シ、若シ人アリテ、公ヲ上ニ謗ルモノアラバ、公常ニ責ヲ引キ、罪ヲ身ニ歸シ、未ダ一度モ、自ラ辯解セシコトナシ、若シ他人ノ過失アル時ハ、假令君主ガ、如何程憤怒スルトモ、辯解スベキモノハコレヲ辯解シ、理否道ヲ明ニセザレバ止マズ。

日者ハ時日ノ吉凶ヲ占フモノ。
坐誅籍其家ハ、罪ニ坐シテ誅罰セラレ、其家ヲ沒收セラルルナリ。
御史ハ警察官ナリ。
此人之――ト者ニ吉凶ヲ占ハシムルコトハ、世人ノ常情ナリ、且又其言語朝廷ノ事ニ及バザレバ、罪罰スルニ足ラザルベシ。
發ハ發覺ナリ。

爲樞密使者奈何。至今內臣官不過留後』。第五小段敍不從上命。○公任事久。人有謗公於上者。公輒引咎未嘗自辯。至人有過失。雖人主盛怒。可辯者辯之。必得而後已』。第一小段敍自引咎怒人過。是目中綱。榮王宮火。延前殿。有言非天災。請置獄劾火事。當坐死者百餘人。公獨請見曰。始失火時。陛下以罪已詔天下。而臣等皆上章待罪。今反歸咎於人。何以示信。且火雖有迹。寧知非天譴邪。由是當坐者皆免』。第二小段敍怨失火之罪。日者上書言宮禁事。坐誅籍其家。得朝士所與往還。占問吉凶之說。眞宗怒欲付御史問狀。公曰。此人之常情。且語不及朝廷。不足罪。眞宗怒不解。公因自取常所占問之書。曰臣少賤時。不免爲此。必以爲罪。願幷臣付獄。眞宗曰。此事已發。何可免。公曰。臣爲宰相執國法。豈可自爲之。幸於不發而以

臣少賤——臣モ年若ク貧賤ナルトキニハ、嘗テ吉凶ヲ占セシコトアリ、是非トモ處罰セント云フ思召ナラバ、願クハ私ヲモ共ニ獄ニ投ゼラルベシ。

臣爲宰——臣不肖宰相ノ位ヲ辱ウシテ國法ヲ執ルノ身ナレバ、豈己ノナシタルコトノ、發露セザルヲ僥倖シ、人ノミヲ罪罰ス可ケンヤ。

陛下事ハ天下ヲ治ムルコト。

五日一——五日目ニ一度宛朝ニ登ツテ事務ヲ視察セシメ、若シ軍國ノ大事件アルトキハ、何時ニテモ朝廷ニ出デ其評議ニ參與セシム。

存問ハ訪問。

眞宗臨——眞宗臨幸シテ、其死ヲ哭シ、又遠慮ノ爲廢朝スルコト三日、卽宮中喪ヲモ行ハル、其子弟門人故吏等ハ皆恩澤ヲ蒙リテ各官位ヲ授ケラレタリ。

罪人。眞宗意解。公至中書。悉焚所得書。既而眞宗悔復馳取之。公曰。臣已焚之矣。由是獲免者衆。』○以上第七大段目第三。公累官至太保。以病求罷。入見滋福殿。眞宗曰。朕方以大事託卿。而卿病如此。因命皇太子拜公。公言。皇太子盛德。必任陛下事。因薦可爲大臣者十餘人。其後不至宰相者。李及凌策二人而已。然亦皆爲名臣。」第一小段敍謝病罷官猶薦人。公屢以病請。眞宗不得已。拜公太尉兼侍中。五日一朝視事。遇軍國大事。不以時入參決。公益惶恐。因臥不起。以疾懇辭。册拜太尉玉清昭應宮使。自公病。使者存問日常三四。眞宗手自和藥賜之。疾亟。遽幸其第。賜以白金五千兩。辭不受。以天禧元年九月癸酉薨於家。享年六十有一。眞宗臨哭。輟視朝三日。發哀於苑中。其子弟門人故吏。皆被恩澤。卽

以其年十一月庚申葬公於開封府開封縣新里鄉大邊村』。第小段敍薨葬。○以上第八大段敍退官後。公娶趙氏。封榮國夫人。後公五年卒。子男三人。長曰司封郎中雍。次曰贊善大夫冲。次曰素。女四人。長適太子太傅韓億。次適兵部員外郎直集賢院蘇耆。次適右正言范令孫。次適龍圖閣直學士兵部郎中呂公弼。諸孫十四人』。以上第九大段敍妻子。公事寡嫂謹。與其弟旭。友悌尤篤。任以家事。一無所問。而務以儉約率勵子弟。使在富貴不知爲驕侈。兄子睦欲舉進士。公曰。吾常以太盛爲懼。其可與寒士爭進。至其薨也。子素猶未官。遺表不求恩澤』。第一小段敍家政。有文集二十卷。第二小段敍著述』。乾興元年。詔配享眞宗廟庭』。第三小段敍配享。○以上第十大段拾敍家政著述配享。臣修曰。景德祥符之際盛矣。觀公之所以相而先帝之所以用公者。可謂至哉。是以君明臣

司封郎中ハ吏部ノ屬官。贊善大夫ハ太子ノ侍從官。

寡嫂――寡婦ニナリタル兄ノ妻。友悌ハ兄弟相親シムコト。

吾常以――吾常ニ大ニ隆盛ニナルコトヲ懼レタリ、盈ツルハ虧クル習ナレバナリ、然ルヲ何ゾ吾困窮ノ士ト共ニ世ニ出デ、其立身榮達ヲ爭ハンヤ。

乾興元年ハ眞宗崩御ノ年。

配享トハ合祭。

景德祥符ハ共ニ眞宗ノ年號。

烝民江漢ハ共ニ詩大雅ノ篇名、烝民ハ周ノ宣王ノ宰相樊吉甫ガ仲山甫ヲ送ルトコロノ詩ナリ、江漢ハ同時ノ詩人將軍召穆公ノ淮夷ヲ平ゲル功勞ヲ讃美シタル詩ナリ。
山甫穆公ハ仲山甫、召穆公。
烝民江——詩ニ載スル所ノ烝民及江漢ノ詩ハ臣下ノ事ヲ推大ニス、是ハ明君ガ克ク賢人ニ任ジ、能者ヲ使フコトヲ見ス所以ナリ、其詩ハ彼ノ中山甫及ビ召穆公ノ事ニ係ルト云フトモ、其實ハ宣王ノ德ヲ歌フナリ。
烈烈ハ功業盛大ノ貌。
眞廟ハ眞宗ノ廟、翼翼ハ廟殿ノ莊嚴ナル貌。
配食ハ眞宗ニ配合シテ祭食ヲ受クルナリ。
蓍龜ハめどきト龜ノ甲トヲ云フ、是ヲ以テ大事ヲ決行ス。
夷狄ハ契丹、西夏等。
百工ハ百官ナリ。
以職ハ皆其職ニ適スルナリ。

賢德顯名尊。生而俱享其榮。歿而長配於廟。可謂有始有卒。如明詔所褒」。第一小段敍公有始有卒。昔者烝民江漢。推大臣下之事。所以見任賢使能之功。雖曰山甫穆公之詩。實歌宣王之德也」。第二小段引詩起後段。臣謹考國史實錄。至於搢紳故老之傳。得公終始之節。而錄其可紀者。輒爲銘詩。以彰先帝之明。以稱聖恩。褒顯王氏。流澤子孫。與宋無極之意。銘曰。第三小段言作銘詩述公終始之節。○以上第十一大段總括。

烈烈魏公。相我眞宗」。第一解。眞廟翼翼。魏公配食」。第二解。公相眞宗。不言以躬」。第三解。時有大事。事有大疑。匪卜匪筮。公爲蓍龜」。第四解。公在相位。終日如默。問其夷狄。包裹兵革。問其鄉士。百工以職。問其庶民。耕織衣食」。第五解。相有賞罰。功當罪明。相有黜升。惟否惟能。執其權衡。萬物之平」。第六解。孰不事君。胡能必信」。第七解。孰不

包裹兵革ハ攻戰ナドノ事ナキヲ云フ。
機衡ハはかりノ分銅ト棹ニテ、物ノ平均ヲトルトコロノモノナレバ、以テ政治ノ公平ヲ得ルニ喩フ。
崇ハ高官ナリ。
思ハ助辭。
清廟ハ清肅ナル宗廟。
聖考ハ眞宗。
時ハ是。
惟時元老ハ王公ヲ指スナリ、時ノ天子ガ、清廟ニ來リ、祭祀ヲナス時、聖考眞宗ニ酒饌ヲ侑ムルト共ニ、此元老ニモ侑ムト云フ意也。
萬祀ハ萬年。
諗ハ告グルナリ。
工ハ樂工ナリ。
觀文殿大學士ハ仁宗ノ時、特ニ設ケタル官ニシテ、嘗テ宰相ニ任ゼシモノニアラズンバ、除スルコトヲ得ズ。
行ハ位高クシテ、官ノ卑キモノ。
閒ハ病ノ少シク治マルヲ云フ。
舊學之臣トハ仁宗太子タル時、晏殊ニ學ビシコトアリ、故ニ云フ。
太醫ハ侍醫ノ職。

爲相。其誰有終。公薨於位。太尉之崇。第八解。天子孝思。來薦清廟。侑我聖考。惟時元老。第九解。天子念公。報公之隆。春秋從享。萬祀無窮。作爲歌詩。以諗廟工。第十解。

觀文殿大學士。行兵部尚書。西京留守。贈司空
兼侍中。晏公神道碑銘。

主意　言公以天子東宮舊學卒登相位。有舊有功。

至和元年六月。觀文殿大學士。行兵部尚書。西京留守臨淄公。以疾歸於京師。八月疾少閒。入見。天子曰。噫予舊學之臣也。乃留侍講邇英閣。詔五日一朝前殿。明年正月疾作。不能朝。勅太醫。朝夕往視。有司除道。將幸其家。公歎曰。吾無狀。乃以疾病憂

行愈ハ幾バクモナクシテ愈エント云フ意ナリ。

天子震悼云云、天子甚ダ哀悼セラレ、急ニ公ノ邸ニ幸シ、喪ニ臨ミ、其生存中ニ見ザルヲ以テ恨事トセラレタリ。

墓隧ハ墓穴ノ道。

碑首ハ篆額ノコトナリ。

史臣ハ當時歐陽修史官修撰タルヲ以テイフ。

推讓功德ハ天子其功德ヲ他ニ推シ讓リテ、其ノ美名ヲ專ニセザルヲ云フ。

擁列圜視云云、宦官又ハ警衛ノ官吏圓形ニ整列シテ監視ス、公ハ此中ニ在リテ、毫モ臆スル色ナク、筆ヲ操リ文章ヲ作リ、立ロニ成ル。

吾君卽馳奏曰、臣疾少閒、行愈矣。乃止。其月丁亥以公薨聞。天子震悼。亟臨其喪。以不卽見公爲恨。贈公司空兼侍中。謚曰元獻。有司請輟視朝一日。詔特輟二日。以其年三月癸酉葬公於許州陽翟縣麥秀鄉之北原。既葬賜其墓隧之碑首曰舊學之碑。既又敕史臣修。考次公事。具書於碑下。』以上第一大段敍天子賜額命銘之由、而篆額舊學二字。一篇綱領。臣修伏讀國史。見眞宗皇帝時。天下無事。天子方推讓功德。祠祀天地山川。講禮樂。以文頌聲。而儒學文章。儁賢偉異之人出。」第一小段敍眞宗時天下無事。公世家江西之臨川。年始十四。一日起田里。進見天子。時方親閱天下貢士。會廷中者千餘人。與夫宮臣衞官。擁列圜視。公不動聲氣。操筆爲文辭。立成以獻。天子嘉賞。賜同進士出身。遂登館閣。掌書命。以文章爲天下所宗。」第二小段敍公以文章登

同進士出身ハ四等五等ノ及等ナリ、宋ノ時、選擧凡ソ五等ニ分チ、一等二等ヲ進士及第ト云ヒ、三等ヲ進士出身ト云ヒ、四等五等ヲ同進士出身ト云フ。

館閣ハ太宗ノ端拱中始メテ照文館、史館、集賢院三館ニ在ルノ書萬餘卷ヲ分ケテ、別ニ祕閣トシテ、三館ト同ジク祕書省ニ屬セシモノヲ云フ。

貢士ハ進士。

王官宮臣ハ王府ノ屬官、東宮ノ臣。

宿舊有勞ハ、舊學ニシテ功勞モアルナリ。

先帝ハ眞宗。

甘盤ハ殷ノ高宗ノ臣、高宗ガ擧ヲ受ケシ師、尚書ニ出ヅ、今公ヲ以テ之ニ擬スルナリ。

晦顯徙遷、或ハ隱レ或ハ顯ハレ、或ハ各地ニ移轉シテ定マラザルヲ云フ。

咸通ハ唐ノ懿宗ノ年號。

著籍ハ籍ヲ其地ニオク。

追封トハ、死後ニ封ズルナイフ。

累贈トハ、累ニ爵ヲ昇

館閣。隸陛下養德東宮。先帝選用臣屬。卽以公遺陛下。由王官宮臣。卒登宰相。凡所以輔道聖德。憂勤國家。有舊有勞。自始至卒。五十餘年。公既薨。而先帝之名臣。與陛下東宮之舊人。皆無在者。宜其褒寵優異。比公甘盤。臣修幸得執筆史官。奉明詔。謹昧死上臨淄公事。第三小段敍自東宮官屬登宰相。有舊有勞。○以上第二大段總敍公一生大略。曰。公諱殊。字同叔。姓晏氏。其世次晦顯。徙遷不常。自其高祖諱塘。唐咸通中擧進士。卒官江西。始著籍於高安。其後三世不顯。曾祖諱延昌。又徙其籍於臨川。祖諱郢。追封英國公。考諱固。追封秦國公。自曾祖已下。皆用公貴。累贈開府儀同三司。太師中書令。兼尚書令。曾祖妣張氏。陳國太夫人。祖妣傅氏。許國太夫人。妣吳氏。唐國太夫人。』以上第三大段敍世系。公生七歲。知學問。爲文章。鄉里號爲神童。故丞相

進セラルルナリ。
神童トハ奇才ノアル童子。
以聞トハ君ニ奏上スルコト。
出身ハ同進士出身ニシテ前ニ出ヅ。

太常寺奉禮郎ハ朝會祭祀等ノコトヲ掌ル官。
推恩ハ特別ノ恩典ヲ得ルナリ。

著作佐郎ハ祕書省ニ屬シ、國史編輯ヲ掌ル。
丁父憂トハ父ノ喪ニ居ルヲイフ。
太清宮ハ老子ヲ祭レル宮。
卽其家起復ハ、私宅ニ使者ヲ遣シ、喪服ヲ免除シテ出勤セシメタルヲイフ。
銀魚ハ銀ニテ魚形ノ袋ヲ飾リ、帶ニ垂ル、公服ニ用フルモノナリ。
記室參軍ハ文籍書檄ヲ掌ル。
金紫ハ金印紫綬。

張文節公。安撫江西。得公以聞。眞宗召見。既賜出身。後二日。又召試詩賦論。公徐啓曰。臣嘗私習此賦。不敢隱。眞宗益嗟異之。因試以他題。以爲祕書省正字。置之祕閣。使得悉讀祕書。命故僕射陳文僖公。視其學。明年獻其所爲文。召試中書。遷太常寺奉禮郎。封祀太山。推恩。遷光祿寺丞。數月充集賢校理。明年遷著作佐郎。丁父憂去官。已而眞宗思之。卽其家起復。命淮南發運使。具舟送至京師。從祀太清宮。賜緋衣銀魚。同判太常禮院。又丁母憂。求去官服喪。不許。今天子始封昇王。公以選爲府記室參軍。再遷左正言直史館。今天子爲皇太子。以戶部員外郎。充太子舍人。賜金紫。知制誥。判集賢院。遷翰林學士。充景靈宮判官。太子左庶子。兼判太常寺。知禮儀院』柄用以前履歷。公既以

道德文章佐佑東宮。眞宗有所諮訪多以方寸小紙細書問之。由是參與機密。有所對必以其藁進。示不洩。其後悉閱眞宗閣中遺書。得公所進藁。類爲八十卷。藏之禁中。人莫之見也』。以上第五大段敍晏暗輔眞宗。

初眞宗遺詔章獻明肅太后權聽軍國事。宰相丁謂。樞密使曹利用。各欲獨見奏事。無敢決其議者。公建言。羣臣奏事太后者。垂簾聽之。皆毋得見。議遂定。乾興元年。拜右諫議大夫。兼侍讀學士。遷給事中。景靈宮副使。判吏部流內銓。以易侍講。崇政殿。遷禮部侍郎。知審官院。爲樞密副使。遷刑部侍郎。上疏論張耆不可爲樞密使。由是忤太后旨。坐以笏擊其僕。誤折其齒罷留守南京。大興學校。以教諸生。自五代以來。天下學廢。興自公始。召拜御史中丞。改兵部侍郎。兼祕書監。資政殿學士。翰

方寸小紙ハ一寸四方位ノ紙片ナリ。
參與機密ハ朝廷ノ重要ナル政務ニ關係スルコト。
以其藁——草稿ノママ上リ、外ニ洩ラサザルコトヲ示ス。
類ハ分類。
章獻明肅太后ハ眞宗ノ后劉氏。
獨見ハ獨リ帝ニ見ユルナイフ。
公健言云云、公建言スラク、凡ソ羣臣ノ事ヲ太后ニ奏スル者、獨リ見ユルコトアルベカラズ、奏スル者アル時ハ、太后ハ簾ヲ垂レテ之ヲ聽キ、臣下ヲシテ見ルヲ得シムル勿レト。
知審官院ハ吏部ノ職。
論張耆云云、劉太后、微ナリシトキ、其家ニ寓セシコトアルヲ以テ、之ヲ德トシ、樞密使トナセリ。
以笏擊僕云云、公玉清照應宮ノ行幸ニ從ヒシトキ、從者笏ヲ持シテ後レテ至ル、公怒リテ笏ヲ以テ之レヲ擊チ誤ツテ其齒ヲ折リ、御史ノ爲ニ論セラレタルナイフ。

御史ハ刑典ヲ以テ百官ヲ糾正スルヲ掌ル、長官ヲ大夫ト云ヒ中丞ハ次官ナレドモ、當時之ヲ置カザレバ、中丞之ガ長タリ。

資政殿ハ觀文殿ニ次ギ、同ジク殿閣學士ノ職タリ。

三司使ハ、鹽、鐵、戶部、度支ノ長官ナリ。

袁冕ハ天子ノ服裝。周官后服ハ周禮ニアル皇后ノ服制ヲ云フ。

請罷監軍云云、此時陝西ノ監軍トシテ、朝廷ノ內侍宦官ヲ用ヒタレバ、其弊害甚ダ少カラズ、因ツテ之ヲ罷メンコトヲ請ヒシナリ、又軍陣ノ圖ヲ作リ、之ヲ諸將ニ授ケ、臨機應變ノ攻守ヲ爲サシム。

還王號トハ是ヨリ先キ、元昊ニ策命シテ、夏國王トス、今之ヲ臣

林侍讀學士。知天聖八年禮部貢擧。明年爲三司使。復爲樞密副使。未拜。改參知政事。遷尚書左丞。太后謁太廟。有請服袞冕者。太后以問公。公以周官后服對。第一小段敍事太后。太后崩。大臣執政者皆罷。以公爲禮部尚書。知亳州。徙知陳州。遷刑部尚書。復召爲御史中丞。又爲三司使。知樞密院事。拜樞密使。再加檢校太尉。同中書門下平章事。慶歷三年三月。遂以刑部尚書居相位。充集賢殿大學士。兼樞密使』。第二小段敍登相位。○以上第六大段敍事太后不苟合。自公復召用。而趙元昊反。師出陝西。天下弊於兵。公數建利害。請罷監軍。兼以陳圖授諸將。使得應敵爲攻守。及制財用出入之要。皆有法。天子悉爲施行。自宮禁先。以率天下。而財賦之職。悉歸有司。卒能以謀臣元昊使聽約束。乃還其王號。』以上第七大段敍相業。公爲人剛簡。遇

トシ、中國ノ約束ヲ聽カシメタル故ニ、其王號ヲ還セシナリ。
剛簡ハ剛直ニシテ而カモ儉約ナルナリ。
雖處富——身富貴ナリトモ、敢テ傲然タル態ナクシテ、一寒士ノ如ク、樽酒ヲ置キテ相對酌シテ歡ブ、他人ノ善行ヲ聞クトキハ、己自ラ之ヲ行フカ如ク、之ヲ稱揚ス、當世知名ノ士、范、孔等ノ如キ、皆公ノ門下士タリキ、相タルニ及ビ、賢材ノ人ヲ登用スルコトヲ務メヌ、故ニ公ノ相タリシ時、范、韓、富等ノ如キ、皆進用セラレ、臺閣ニハ多ク一時ノ賢材ヲ網羅スルニ至レリ。
臺閣ハ御史臺ト、館閣。西兵トハ元昊ノコト。
幹材トハ韓、范等ヲ指ス。
條トハ個條書キニスルナイフ。
一路都部署安撫使ハ一路ノ兵民ヲ治ムル監督官ナリ。
實封ハ其食ム所ノ租稅ノ高ナリ。

人必以誠雖處富貴如寒士。罇酒相對歡如也。得一善稱之如
己出。當世知名之士。如范仲淹孔道輔等。皆出其門。及爲相。益
務進賢材。當公居相府時。范仲淹。韓琦。富弼皆進用。至於臺閣
多一時之賢。天子既厭西兵。憫天下之困弊。奮然有意。遂欲因
羣材以更始。數詔大臣。條天下事。方施行。而小人權倖皆不便。明
年秋。會公以事罷。而仲淹等相次亦皆去。事遂已。』以上第八大段敍進賢。公最大節。
公既罷。以工部尚書知潁州。徙知陳州。又徙許州。三遷戶部尚
書。拜觀文殿大學士。知永興軍。充一路都部署安撫使。徙知河
南府。兼西京留守。累進階至開府儀同三司。勳上柱國。爵臨淄
公。食邑萬二千戶。實封三千七百戶』。以上第九大段敍罷相後履歷。公享年六十
有五。自少篤學。至其病亟。猶手不釋卷。有文集二百四十卷。嘗

公爲政——公ノ爲政ハ機敏ニシテ能ク勉メ、民ノ事ヲ處スル、務メテ簡便ヲ以テセリ、其家ニ在ルヤ、嚴正ニシテ子弟ノ見ユルニモ、時間ヲ定メタリ、寡トナリタル姉ニ事フルコト、至ツテ孝順ナリ、又己ノ子弟眷族等ノ爲ニ、朝廷ニ對シテ、特別ノ恩澤ヲ願ハズ、官位ナドヲ求メシコトナシ。

上問宰——主上宰相ニ問フ、晏某ハ常ニ外ニアリテ、未ダ嘗テ何事モ志願セシコトアラズ、何カ志願スルコトハナキカト、宰相之ヲ以テ公ニ告グ、公自ラ謝恩ノ書ヲ奏上シ、以テ御機嫌ヲ奉伺セシノミニテ、他ニ何事モ志望スルコトアラザリキ。

屯田員外郎ハ屯田、營田、學田等ノコトヲ掌ル。

贊善大夫ハ東宮ノ侍從官ナリ。

太常寺太祝ハ祭祀ヲ掌ル官。

奉勅修上訓及眞宗實錄。又集類古今文章爲集選二百卷。』以上第十大段敍享年著述。

公爲政敏而務以簡便其民。其於家嚴。子弟之見有時事寡姊孝順。未嘗爲子弟求恩澤。其在陳州。上問宰相曰。晏某居外。未嘗有所請。其亦有所欲耶。宰相以告。公自爲表問起居而已。故其薨也。天子尤哀悼之。賜予加等。以其子承裕爲崇文院檢討。孫及甥之未官者九人。皆命以官。』以上第十一大段敍素行。

公初娶李氏。工部侍郎虛已之女。次孟氏。屯田員外郎虛舟之女。封鉅鹿郡夫人。次王氏。太師尚書令超之女。封榮國夫人。子八人。長曰居厚。大理評事。早卒。次承裕。尚書屯田員外郎。宣禮贊善大夫。崇讓著作佐郎。明遠。祇德。皆大理評事。幾道。傅正。皆太常寺太祝。女六人。長適戶部侍郎同中書門下平章事富弼。次適

公既樂云云、公ハ善良ナル行爲ヲ樂ミ、マタ人ヲ知ルノ明アリトノ名アリ、士君子ノ朝廷ニ顯ハル者ハ、多ク公ノ薦擧セシ所也。二人者ハ富弼ト楊察。

姜ハ齊ノ姓。晏顯諸侯ハ史記晏嬰傳ニ出ヅ。桓子名ハ弱、晏嬰ノ父、左傳襄十七年ニ見ユ。嬰稱於邱ハ論語公冶長篇ニ出ヅ、邱ハ丘ニシテ孔子ノ名。煒ハ明盛ノ貌。聲ハ聲譽。有姜之——有姜氏ノ後裔ニシテ、齊國ニ晏氏ト云フ者アリ、齊ハ古春秋ノ時ニ在リテ、晏氏ノ名諸侯中ニ顯ル、故ニ左傳ニ晏桓子ヲ載ス、其子晏嬰、亦賢ナルヲ以テ孔子ニ稱揚セラレタリ、其後隱レテ聞ユルナク、僅ニ亡滅セズシテ存スルノミ、盛名ノ起リシハ、公ニ始リ、其名聲振ヘリ、公ノ名ヲ揚ゲシハ實ニ天子ニ相タルニ因ル。

禮部侍郎三司使楊察。其四尚幼。孫十有三人」。第一小段敍二妻子一。公既樂善。而稱爲知人。士之顯於朝者。多公所薦達。至擇其女之所從。又得二一人者一如此。可謂賢也已』。第二小段因レ嫁レ女再稱二進賢一。結二一篇一。○以上第十二大段敍二妻子一。遂及二其進レ賢。銘曰。

有姜之裔。齊爲二晏氏一」。解。齊在二春秋一。晏顯諸侯。傳載二桓子一。嬰稱二於邱一」。第二解。其後無レ聞。不亡僅存。有煒自レ公。厥聲以振」。第三解。公之顯聲。實相二天子一。天子曰噫。」第四解。予考二眞宗一。唯多二名臣一。以臻二盛隆一。汝初事レ我。王官東宮。以贊相レ予。始卒一躬。輔レ我以德。有レ勞於邦。」第五解。公疾在レ外。來歸自レ洛。天子曰嘻。汝予舊學」。第六解。○銘中點二出舊學一。首尾照應。凡今在レ庭。莫如二汝舊一。孰以畀レ予。惟予聖考。今既亡矣。孰爲二我老一」。第七解。何以贈レ之。司空侍中。禮則有レ加。予思何窮」。第八解。有篆其文。在

聖考ハ眞宗。始卒一躬ハ始終一躬ヲ以テナリ。習汝予舊學云云、凡ツテ京師ニアレ、汝ハ予ガ舊學ナリ、凡今ノ廷臣中、汝ノ如キ舊知ノモノナシ、孰カ汝ヲ予ニ與ヘシゾ、惟レ予ガ聖考眞宗帝ナリ、聖考ハ今ヤ在サズ、今ヨリ予ト共ニ老イ、吾元老トナルベキ者ハ誰ゾ、汝ヲ措キテ他ニ求ムベカラズ。有纂其——碑首ニ篆文アリ、是レ天子ヨリ賜ハリタル褒辭ナリ、史臣歐陽修ニ詔アリ、銘ヲ作リ之ヲ述ベ、以テ永ク昭ニ後世ニ示ス。從錢俶トハ、吳越ノ主錢俶ニ從ツテ、京師ニ來朝スルナリ、此時錢氏國除ス。母夫人云云、母ノ夫人ハ家貧困ニシテ、身ヲ寄スルニ所ナケレバ、長山ナル朱氏ノ家ニ再嫁セリ。世家トハ世世祿秩アル家。

# 資政殿學士戶部侍郎文正范公神道碑銘

主意　言公論說本於仁義以天下自任。

皇祐四年五月甲子。資政殿學士尚書戶部侍郎。汝南文正公。薨於徐州。以其年十有二月壬申。葬於河南尹樊里之萬安山下。『以上第一大段敍』薨葬。起一篇碑文。公諱仲淹。字希文。五代之際。世家蘇州。事吳越。太宗皇帝時。吳越獻其地。公之皇考。從錢俶朝京師。後爲武寧軍掌書記。以卒。公生二歲而孤。母夫人貧無依。再適長山朱氏。既長。知其世家。感泣。去之南都。入學舍。掃一室。晝夜講誦。其起居飲食。人所不堪。而公自刻益苦。居五年。大通六經之旨。爲文

祥符ハ眞宗ノ年號。
遂爲乙科トハ、天子親ラ試ミラルル殿試ノ時ニ、乙科トナルナリ。
廣德軍ハ一方ヲ鎭スル師團。
司理參軍ハ廣德軍ノ屬官ニシテ、刑事ヲ掌ル。
志於天下ハ天下ヲ平治スル志ナリ。
士當先云云、士タル者ハ當ニ天下ノ憂未ダ、現ハレザルニ先ツテ憂ヘ、天下ノ快樂已ニ成ル後ニ於テ、始メテ心ヲ安ンズベシ。
其所有——何事ニテモ爲ス所ノ事アレバ、必ズ其方法ヲ究メ盡シテ、曰フ、此事ヲ爲ス、我ヨリ始ムルモノ、當ニ斯クスベシ、其道ヲ究メ、其力ヲ盡シタル上ニテ、事ノ成ルト成ラザルトハ、固ヨリ我ニアラズト。
天聖ハ仁宗ノ年號。
晏丞相ハ晏殊ノコト。
祕閣ハ祕書省ニ屬ス、其下ニ校理ノ職アリ。
至日ハ冬至。

章論說必本於仁義。祥符八年。擧進士。禮部選第一。遂中乙科。爲廣德軍司理參軍。始歸迎其母以養。及公既貴。天子贈公曾祖蘇州糧料判官諱夢齡爲太保。祖祕書監諱贊時爲太傅。考諱墉爲太師。妣謝氏爲吳國夫人。『以上第二大段敍姓字家世梗概。』公少有大節。於富貴貧賤。毀譽歡戚。不一動其心。而慨然有志於天下。常自稱曰。士當先天下之憂而憂。後天下之樂而樂也。其事上遇人。一以自信。不擇利害爲趨舍。其所有爲。必盡其方。曰爲之自我者當如是。其成與否。有不在我者。雖聖賢不能必。吾豈苟哉。』以上第三大段敍以天下自任。是公之本志。又此篇之主意。天聖中。晏丞相薦公文學。以大理寺丞爲祕閣校理。以言事忤章獻太后旨。通判河中府。久之。上記其忠。召拜右司諫。當太后臨朝聽政時。以至日大會前殿。上將率百官

天子無——天子ニハ古來北面スルノ禮儀ナシ、然ルニ今太后ニ朝セバ、後來人主ノ權威チ弱メテ、母后ノ勢力チ强大ニスルノ弊害チ開クニ至ラントス。

聖躬トハ天子ノ御身。

宜掩其——宜シク小ナル過失チバ、過眼默許シテ、大ナル德器チ成就セシムベシ。

楊太妃ハ先帝ノ妃ニシテ、太后ト共ニ仁宗チ保佐セシ人ナリ。

不能得、郭皇后ノ廢セラルルチ止ムル能ハザルチ云フ。

天章閣待制ハ其職學士ニ次グ。

治有聲、公ノ政治大ニ名聲アリ。

簡ハ簡便ナリ。

百官圖ハ蓋シ百官進級ノ模樣チ圖ニ作レルモ

爲壽。有司已具。公上疏言。天子無北面。且開後世弱人主以强母后之漸。其事遂已。」第一小段敍事。太后不苟合。又上書。請還政天子。不報。及太后崩。言事者希旨。多求太后時事。欲深治之。公獨以謂。太后受託先帝。保佑聖躬。始終十年。未見過失。宜掩其小故。以全大德。」第二小段敍太后崩後掩護其過失。初太后有遺命。立楊太妃。代爲太后。公諫曰。太后母號也。自古無代立者。由是罷其册命。」第三小段敍諫太后代立。是歲大旱蝗。奉使安撫東南。使還。會郭皇后廢。率諫官御史伏閣爭。不能得。貶知睦州。又徙蘇州。」第四小段敍爭郭后廢貶事。歲餘。卽拜禮部員外郎天章閣待制。召還。益論時政闕失。而大臣權倖多忌惡之。居數月。以公知開封府。開封素號難治。公治有聲。事日益簡。」第五小段敍遭權倖忌惡出外。暇則益取古今治亂安危。爲上開說。又爲百官圖以獻。曰任人

各以其材而百職修。堯舜之治不過此也。因指其遷進遲速之次序曰。如此而可以爲公。可以爲私。亦不可以不察。由是呂丞相怒。至交論上前。公求對辨。語切。坐落職。知饒州。明年。呂公亦罷。

第六小段敍獻百官圖觸呂相怒。

公徙潤州。又徙越州。而趙元昊反河西。上復召相呂公。乃以公爲陝西經略安撫副使。遷龍圖閣直學士。

第七小段敍轉任陝西。○以上第四大段敍相將以前履歷。

是時新失大將。延州危。公請自守鄜延。捍賊。乃知延州。元昊遣人。遺書以求和。公以謂。無事請和。難信。且書有僭號。不可以聞。乃自爲書。告以逆順成敗之說。甚辨。坐擅復書。奪一官。知耀州。未逾月。徙知慶州。既而四路置帥。以公爲環慶路經略安撫招討使。兵馬都部署。累遷諫議大夫。樞密直學士。」

第一小段敍爲將帥防元昊。

公爲將。務持重。不急近功小利。於延州。築青澗城。墾

求對辨ハ是非ヲ對辨センコトヲ求ムルナリ、而シテ其言語餘リニ激烈ニ渡ルヲ以テ罪セラレテ饒州ニ知タリ。

呂丞相ハ夷簡ノコト。

新失大將ハ趙元昊延州ニ寇セシトキ、副總官劉平石元孫等戰死ス。

無事請和云云、角立チタル事柄ナクシテ、和チ請フハ、信ズル能ハズ、且ツ其書中、趙自ラ稱シテ王ト云フ、此僭號アリ、帝ニ奏聞スベカラズト。

逆順成敗ハ歸順スレバ其事成リ、叛逆スレバ事皆敗ブルノ意。

奪一官ハ此時戶部員外郎ニ遷サルルコト。

四路ハ秦鳳、涇原、環慶、鄜延ノ四ナリ。

近功小利ハ眼前ノ微功利小ヲ云フ。

營田ハ民ヲ募リ、室ヲ築キテ之ニ居ラシメ、以テ新田ヲ開墾セシムルナリ。
熟羌ハ羌ノ常ニ中國ニ接近往來シテ、其風俗ニ慣レタルモノ。
細腰胡蘆ハ共ニ地名、環州ニアリ。
明珠滅臧ハ環州ノ二羌族。
柔遠ハ慶州ノ地名。
版築ハ築城ノ具。
公待將——公ノ大將官吏ヲ御スルヤ、法律ヲ畏レテ各〻其身ヲ自重セシム、上ヨリノ賜物ハ皆上ノ意ナリトテ、諸將ニ分與シ、彼等ヲシテ各〻謝奏セシム。
諸蕃質子云云、諸蕃ヨ

營田。復承平永平廢寨。熟羌歸業者數萬戶。於慶州。城大順。以據要害。奪賊地而耕之。又城細腰胡蘆。於是明珠滅臧等大族。皆去賊爲中國用。自邊制久隳。至兵與將常不相識。公始分延州兵爲六將。訓練齊整。諸路皆用以爲法。公之所在。賊不敢犯。人或疑。公見敵應變爲如何。至其城大順也。一旦引兵出。諸將不知所向。軍至柔遠。始號令告其地處。使往築城。至於版築之用。大小畢具。而軍中始不知。賊以騎二萬來爭。公戒諸將。戰而賊走。追勿過河。已而賊果走。追者不渡。而河外果有伏。賊失計。乃引去。於是諸將皆服公爲不可及」持重不急近功。公待將吏。必使畏法而愛己。所得賜賚。皆以上意分賜諸將。使自爲謝。諸蕃質子。縱其出入。無一人逃者。蕃酋來見。召之臥內屏人徹衛。與

語不疑。公居三歲。士勇邊實。恩信大洽。乃決策謀取橫山。復靈武。而元昊數遣使稱臣請和。上亦召公歸矣。始西人籍其鄉兵者十數萬。既而黥以爲軍。惟公所部。但刺其手。公去兵罷。獨得復爲民。其於兩路。既得熟羌爲用。使以守邊。因徙屯兵就食內地。而紓西人饋輓之勞。其所設施。去而人德之。與守其法不敢變者。至今尤多』。第三小段敍公待將吏使畏法愛己。○以上第五大段敍將略。自公坐呂公貶。羣士大夫各持二公之曲直。呂公患之。凡直公者。皆指爲黨。或坐竄逐。及呂公復相。公亦再起被用。於是二公驩然相約。戮力平賊。天下之士。皆以此多二公。然朋黨之論遂起而不能止。上既賢公可大用。故卒置羣議而用之」。第一小段敍呂公與公捨怨戮力平賊。慶歷三年春。召爲樞密副使。五讓不許。乃就道。既至數月。以爲參知政事。每進見必

リ人質トシテ送リシ子弟ハ、其出入ヲ自由ニセリ、而シテ一人ノ逃レ去ルモノナシ。蕃酋ハ蕃族ノ酋長ナリ。

臥内ハ寢閒。屏人徹衞ハ侍者ヲ退ケ衞兵ヲ去ルナド云フ。籍ハ兵籍ニ記入スルコト。

黥ハ入レ墨。

兩路ハ秦鳳及環慶。

紓西人饋輓之勞トハ、陝西人ノ兵糧ヲ運漕スル勞ヲ緩クスルコト。

公坐呂ハ、仲淹夷簡ニ逆ヒシ爲罪トナリテ貶セラレタルヲイフ。

二公驩——二公ハ大ニ喜ビ、協同一致シテ、國賊ヲ除去スルコトヲ相約セリ、天下ノ人士ハ、皆二公ヲ以テ得難キノ君子トス、然レドモ政黨ノ論ハ漸ク激烈ヲ極メ、殆ド停止スル所ヲ知ラズ。

五讓不許ハ五度官ヲ辭スレドモ聽カレザルナリ。

然事有云云、然レドモ事ヲ爲スニハ、先後順序アリ、弊政ヲ革メ、久シク安逸ニ慣レタル害ヲ除去センハ、一朝一夕ニシテ克クスベキニアラズ。

使疏於前ハ上ノ前ニ於テ直ニ己ノ意見ヲ上書セシムルナリ。

條列ハ個條書ニ列ブルコト。

磨勘例遷ハ勞逸勤惰ヲ問ハズ、賢不肖ヲ論ゼズ、文官ハ三年ニ一度遷リ、武職ハ五年ニ一度遷ル例ヲ云フ、公之ヲ革メンコトヲ乞フナリ。

任子ハ父官ニアリテ其子ヲ擧グルナイフ、任トハ保證ノ義。

考課ハ官吏ノ職務勤惰ノ優劣ヲ考フルコト。

會邊奏有警ハ慶歷四年契丹夏ヲ伐ツナイフ。

以危事中之ハ不正ノ事ヲ誣ヒテ公ヲ罪ニ陷レンントスルナリ。

以太平責之。公歎曰。上之用我者至矣。然事有先後。而革弊於久安。非朝夕可也。既而上再賜手詔。趣使條天下事。又開天章閣。召見賜坐。授以紙筆。使疏於前。公惶恐避席。始退而條列時所宜先者十數事上之。其詔天下興學。取士。先德行。不專文辭。革磨勘例遷。以別能否。減任子之數。而除濫官。用農桑。考課守宰等事。方施行。而磨勘任子之法。僥倖之人皆不便。因相與騰口。而嫉公者亦幸外有言。喜爲之佐佑。會邊奏有警。公即請行。乃以公爲河東陝西宣撫使。至則上書願復守邊。卽拜資政殿學士。知邠州。兼陝西四路安撫使」。第二小段敍公爲レ相條陳時事。爲權倖所ヲ嫉出外。其知政事纔一歲而罷。有司悉奏罷公前所施行而復其故。言者遂以危事中之。賴上察其忠。不聽。第三小段敍上不ヲ聽レ讒。○以上第六大段敍爲レ相本末。是時。夏人已稱

臣。公因以疾請鄧州。守鄧三歲。求知杭州。又徙青州。公益病。又求知潁州。肩舁至徐。遂不起。享年六十有四。方公之病。上賜藥存問。既薨。輟朝一日。以其遺表無所請。使就問其家所欲。贈以兵部尚書。所以哀恤之甚厚。『敍病後履歷。』公爲人。外和內剛。樂善汎愛。喪其母時尚貧。終身非賓客食不重肉。臨財好施。意豁如也。及退而視其私。妻子僅給衣食。其爲政所至。民多立祠畫像。其行已臨事。自山林處士。里閭田野之人。外至夷狄。莫不知其名字。而樂道其事者甚衆。』第一小段。敍素行。及其世次官爵。誌於墓。譜於家。藏於有司者。皆不論。著其繫天下家國之大者。亦公之志也歟。銘曰。第二小段。言歐陽公略其誌譜所敍。獨敍其關天下大事者。○以上第八大段。敍素行。遂結一篇主意。

范於吳越。世實陪臣。俶納山川。及其士民。」解。范始來北。中閒

終身非——一生ノ間賓客ヲ饗應スル時ノ外、肉類二種ヲ食セシコトナシ、財貨ヲ得レバ、只人ニ施與スルコトヲ好ミ、心打チ解ケテ憂モ吝惜スルコトナシ、然ルニ退イテ其內政ノ富ムヤ否如何ヲ見ルニ、妻子眷族ハ僅ニ衣食ヲ得ルノミニテ、更ニ餘裕ハアラザリキ。

里閭ハ鄉里。

田野ハ田舍ナリ。

世次ハ家代代ノ順次ヲイフ。

陪臣ハ范氏世世吳越ニ仕フ、故ニ宋ニ對シテハ陪臣ナリ。

俶ハ吳越ノ主錢俶ナリ、上ニ出デタリ。

肩舁ハ輿ニ乘ルナリ。

幾息ハ殆ド衰ヘテ顯レザルヲ云フ。事有罪功云云、公ノ行ヒシ事ノ中ニハ、誤ラレテ罪ヲ蒙リシ事モアリ、又功ヲ賞セラレシ事モアリ、又其言ニモ、世俗ヨリ違反セラレシコトモ、亦從聽セラレシコトモアリ、是等ハ公ノ期セシ所ニアラズ、公ハ必シモ成功ヲ待期セザルナリ、唯天子ガ能ク公ヲ用フルノミ、サレバ公ハ幾多ノ艱難苦勞アリトモ、終始一ニシテ決シテ其節ヲ變ズルコトナシ。

夏童跳邊ハ西夏ノ趙元昊、邊州ニ據リテ反スルヲ云フ。

問彼驕——公彼ノ頑驕ノ罪ヲ責問スルニ、皆公ノ言ニ聽キ、歸順セザル者ナシ、若シ歸順セザル時ハ、其根據ヲ鋤キ平ゲ、公陝西ニ居ルコト三年、其間公ノ盡力ニ由リテ、怯者ハ勇士ト變ジ、隳レタル城塞ハ修覆シテ完全シ、士民ヲ小兒ノ如クニ擾ニ憐ミ、獸ノ如クニ擾ラセ、卒ニ我ガ臣下タラシメタリ。

幾息(ドス)」解。第二 公奮自躬(ソデミヅカラン)。與レ時偕(ニ)逢(フ)。事有(リ)二罪功一。言有(リ)二違從一。豈公必(ズ)能(クセンヤ)。事有レ罪。言有レ違。在レ人而不レ在レ我。公豈皆能レ之。天子用(フ)公(テ)。其艱其勞。一(ニス)二其初終一(テ)」解。第三 夏童跳(ル)邊(レ)。乘(ズノ)吏怠安(ニ)。帝命公往(シテ)。問(カシノフ)彼驕頑(ヲ)。有(レバ)不(ルコト)聽順(セ)。鋤(ス)二其穴根一(ヲ)。公居三年(ルコト)。怯(ハ)勇(ニ)壑(ハシ)。完兒憐獸擾(シテ)。卒俾(ム)來臣(セ)」。解。第四 夏人在(リ)二廷(ニ)。其事方議(ス)。帝趣(ウナガシ)公來(テリ)。以就(カシム)二予治一(ガ)」。解。第五 公拜稽首(スレ)。茲惟艱(レ)哉。初非二其難一(ニ)。在二其終(フルニヲ)之(レ)」。第六解。○公拜二句公言。初非二句歐公評語。羣言營營。卒壞(ル)於成(ルヲ)。匪(ズ)二惡(ムニ)其成一(ルヲ)。惟公是(テ)傾(レ)。不(ケレ)危(ルハ)。天子之明(ニ)」。解。第七 存(シテ)有二顯榮一(リ)。歿(シテ)有二贈謚一(リ)。藏(シテ)二其子孫一(ニ)。寵及(ブ)二後世一(ニ)。惟(レ)百有位(ノ)。可(シ)二勸(メテ)無(カル)怠(ルコト)一(シ)」。解。第八

# 唐宋八家文讀本卷十二終

苾惟難――公拜シテ云フニ、大政ニ就クハ甚ダ難キ事カナト、凡ソ事ハ始メ難キニアラズシテ、終チ全ウスルコト甚難シ、果シテ羣言囂囂、誹謗百出シ、遂ニ終ノ大成ヲ破レリ、是ハ衆人其大成チ惡ムニアラズ、公チ傾ケ倒サントセシナリ、然ルニ幸ニ明天子上ニ在リ、公ハ傾ケラレズ、又危カラズ、生キテハ顯榮ノ位地ニ登リ、死シテハ贈官賜謚ノ恩典アリ、史官之チ書シテ家ニ藏シ、以テ子孫ニ傳フ、朝廷ノ寵遇、斯ノ如ク後世ニ及ブ、サレバ凡百ノ有位ノ人モ、之チ學ンデ勤メテ怠ル無カルベシ。

# 唐宋八家文讀本卷十三

## 徂徠石先生墓誌銘

主意　言先生德望如徂徠山而不遇于世。

徂徠先生姓石氏。名介。字守道。兗州奉符人也。徂徠魯東山。而先生非隱者也。其仕嘗位於朝矣。魯之人不稱其官而稱其德。以爲徂徠魯之望。先生魯人之所尊。故因其所居山以配其有德之稱曰徂徠先生者。魯人之志也。』以上第一大段自名稱起。揭一篇主意。主意在先生道德。而不在功業。

先生貌厚而氣完。學篤而志大。雖在畎畝。不忘天下之憂。以爲時無不可爲。爲之無不至。不在其位。則行其言。吾言用。功利施於天下。不必出乎己。吾言不用。雖獲禍咎至

望ハ望祭ナリ、遙ニ山川ヲ祭ルノ名、舜典ニ山川ニ望ストアリ、徂徠山ハ魯人ノ毎ニ望祭スル所タリ。故因云云、所居山ハ徂徠ナリ、有德之稱ハ先生ナリ、石守道ヲ稱シテ徂徠先生トイフハ、魯人ノ志願スル所ナリ。

畎畝ハ田舍ナリ、畎ハ田間ノ溝、畝ハ畦ナリ。

死而不悔。其遇事發憤。作爲文章。極陳古今治亂成敗。以指切當世賢愚善惡。是是非非。無所諱忌。世俗頗駭其言。繇是謗議喧然。而小人尤嫉惡之。相與出力必擠之死。先生安然不惑不變曰。吾道固如是。吾勇過孟軻矣。不幸遇疾以卒。既卒。而姦人有欲以奇禍中傷大臣者。猶指先生以起事。謂其詐死而北走契丹矣。請發棺以驗。賴天子仁聖察其誕。得不發棺。而保全其妻子。』以上第二大段敍大節。

先生世爲農家。父諱丙。始以仕進。官至太常博士。先生年二十二。舉進士甲科。爲鄆州觀察推官。南京留守推官。御史臺辟主簿。未至。以上書論救。罷不召。秩滿遷某軍節度掌書記。代其父官於蜀。爲嘉州軍事判官。丁內外艱去官。垢面跣足。躬耕徂徠之下。葬其五世未

成敗ハ事ノ成就スルト失敗スルトナリ。

指切ハ指摘シテ切論スルナリ。

勇過於孟軻、揚子法言ニ、或人勇ヲ問ヒシニ答ヘテ曰ク、軻ヤ義ニ勇ニシテ、德ニ果ナリ、貧富貴賤死生ヲ以テ、其心ヲ動カサズ、勇ニ於テヤ、夫レ庶カランカト見ユ。

姦人ハ夏竦ヲ、大臣ハ富弼ヲ指ス、慶歷三年、石介太子中允タリ、杜衍富弼等執政タリ、歐陽修蔡襄等諫官タリ、而シテ夏竦樞密使ヲ罷メラレ、名士朝ニ列ス、介即チ慶歷聖德詩ヲ作ル、竦之ヲ怨ムルコト甚シ、竊ニ富弼等ヲ傾ケント欲シ、介ノ僞書ヲ作ツテ廢立ノ意思アリト誣ヒ、飛語ヲ放ツテ聖聽ニ入ル、介既ニ死ス、而カモ猶ホ詐死シテ契丹ニ走レリトナシ、棺ヲ發イテ驗セントイフニ至ル。

契丹ハ東胡、後ノ遼ナリ。

秩滿ハ任期滿ツルヲイフ。

丁內外艱ト、父母ノ喪ニ遭フコト、內艱ハ母ノ喪、外艱ハ父ノ喪ナリ。

國子監直講ハ太學ノ教授ナリ。

進退二三大臣トハ呂夷簡、夏竦ヲ罷メ、杜韓范富等ヲ用ヒタルナイフ。

褒貶大臣云云、確注ニ云、詩中云ヘルアリ、衆賢之進、如二茅斯拔一、大姦之去、如二距斯脫一ト、賢ハ蔡富韓杜諸公ヲ謂ヒ、姦ハ夏竦ヲ謂フナリト。

所斥也、所謂奇禍ヲ起シタルハ、果シテ詩中ニ排斥シタル奸人ヨリ發セリトナリ。

佛老時文トハ、佛者老子ノ說、及時俗ノ文ヲイフ。

非爲一世監也、名ハ乃チ唐鑑トイフト雖、只唐一代ノ鑑トナサント

葬者七十喪服除。召入國子監直講。』以上第三大段敍履歷。是時兵討元昊久無功。海內重困。天子奮然思欲振起威德。而進退二三大臣。增置諫官御史。所以求治之意甚銳。先生躍然喜曰。此盛事也。雅頌吾職。其可已乎。乃作慶歷聖德詩。以褒貶大臣。分別邪正。累數百言。詩出。太山孫明復曰。子禍始於此矣。明復先生之師友也。其後所謂奸人作奇禍者。乃詩之所斥也。』以上第四大段敍作詩招謗。先生自閒居徂徠。後官於南京。嘗以經術教授。及在太學。益以師道自居。門人弟子從之者甚衆。太學之興。自先生始。」段學術。第一小其所爲文章。曰某集者若干卷。曰某集者若干卷。其斥佛老時文。則有怪說中國論。曰去此三者。然後可以有爲。其戒姦臣宦女。則有唐鑑。曰吾非爲一世監也。其餘喜

セシニハ非ズ、以テ後世萬代ヲ戒ムル所以ナリトナリ。

至其違——先生其言行ノ當世ニ違ヒ、衆人ヲ驚カスモノアリテ、人或ハ之ヲ笑フアレバ則チ曰ク、我ハ狂癡者ニ非ラザルナリト、是チ以テ世ノ君子先生ノ言行ヲ信ジ、其心ヲ用フルノ篤キヲ思ウテ、其志ニ同情ヲ表ス。

杜祁公名ハ衍。丞相韓公名ハ琦。直ハ侍ナリ。

待次ハ敍位遷官ノ命ヲ待ツコト。

怒哀樂。必見於文。其辭博辨雄偉。而憂思深遠」。第二小段文章。其爲言曰。學者學爲仁義也。惟忠能忘其身。惟篤於自信者。乃可以力行也。以是行於己。亦以是教於人。所謂堯舜。禹湯。文武。周公。孔子。孟軻。揚雄。韓愈氏者。未嘗一日不誦於口。思與天下之士皆爲周孔之徒。以致其君爲堯舜之君。民爲堯舜之民。亦未嘗一日少忘於心。」第三小段言志。至其違世驚衆。人或笑之。則曰吾非狂癡者也。是以君子察其行而信其言。推其用心而哀其志。』及言志。是德望之基本。○先生無功業。故論其心志。先生直講歲餘。杜祁公薦之天子。拜太子中允。今丞相韓公又薦之。乃直集賢院。又歲餘。始去太學。通判濮州。方待次於徂徠。以慶歷五年七月某日卒於家。享年四十有一。友人廬陵歐陽修。哭之

待彼謗焰熄ハ、歐陽修之ヲ哭スル詩ニ云、待二彼謗焰熄一、放二此光芒一ト。
富公名ハ弼。

巖巖ハ徂徠山ノ高峻ナルヲイフ、詩ニ、節タル彼ノ南山、コレ石巖巖タリト見ユ。
湯湯(音シヤウ)ハ水ノ流ルル貌、詩ニ江漢湯湯タリト見ユ。
遑遑ハ一所ニ寧シゼザルコト。
屯ハ障害多クシテ進ミ難キナリ。
桓魋ハ司馬桓魋、孔子ヲ宋ニ殺サントセリ。
臧倉ハ魯平公ノ嬖臣、孟子ヲ沮ミテ公ト會見セシメザリキ。

以詩。以謂待彼謗焰熄然後先生之道明矣。』以上第六大段敍去太學至死履歷。先生既歿。妻子凍餒不自勝。今丞相韓公與河陽富公。分俸田以活之。後二十一年。其家始克葬先生於某所。將葬。其子師訥。與其門人姜潛。杜默。徐遁等。來告曰。謗焰熄矣。可以發先生之光矣。敢請銘。某曰。吾詩不云乎。子道自能久也。子道五字詩句、○敍徂徠詩禍。故引己詩結局。妙。何必吾銘。遁等曰。雖然魯人之欲也。』以上第七大段敍作銘緣由。結全篇。乃爲之銘曰。

徂徠之巖巖。與子之德兮。魯人之所瞻。」第一解。汶水之湯湯。與子之道兮。逾遠而彌長。道之難行兮。孔孟亦云遑遑。一世之屯兮。萬世之光。曰吾不有命兮。安在夫桓魋與臧倉。曰孔孟曰也。言吾有天命。不爲桓臧所左右。自古聖賢皆然兮。噫子雖毀其何傷。」第二解。

# 尹師魯墓誌銘

主意　惜師魯有忠節而窮死。

師魯河南人。姓尹氏。諱洙。然天下之士識與不識。皆稱之曰師魯。蓋其名重當世。而世之知師魯者。或推其文學。或高其議論。或多其材能。至其忠義之節。處窮達禍福。無愧於古之君子。則天下之稱師魯者。未必盡知之』。

知字。前後照應。○以上第一大段揭四綱。而第四綱最重。

師魯爲文章。簡而有法。博學强記。通知古今。長於春秋。其與人言。是是非非。務窮盡道理。乃已。不爲苟止而妄隨。而人亦罕能過也。遇事無難易。而勇於敢爲。其所以見稱於世者。亦所以取嫉於人。故其卒窮以死』。以上第二大段敍文學議論材能。

師魯少舉進士及第。爲絳州正平縣主簿。河南府戶曹參軍。邵武軍判官。舉

皆稱之曰師魯ハ、世人尹洙ヲ師魯トイヒテ、敢テ名言ハズ、其人ヲ尊ブ所以ナリ、師魯ハ字ナリ。

窮達ハ貧富ナリ。

强記ハ物覺エノヨキコト。

書判拔萃ハ、選擧ノ科目名、通鑑唐高宗紀ニ、唐ノ選法、人ヲ取ルニ身言書判ヲ以テス、注ニ、身ハ云云、言ハ云云、書ハ其楷法ノ遒美ヲ取リ、判ハ其文理ノ優長ヲ取ルトアリ、判ハ決斷ナリ、拔萃ハ秀チ拔クナリ。范公ハ范仲淹ナリ。

經略判官ハ經略使ノ判官ナリ。

敗於好水トハ、慶歷元年趙元昊反シテ渭州ヲ侵ス、陝西ノ經略使韓琦、管任福桑懌等ヲ遣シテ之ヲ擊ツ、伏ニ遭ヒ圍ニ落チ、福等戰死ス、士卒ヲ失フコト一萬三百人ニ至ル。

城水洛云云、水洛城ヲ築キタル時ノコトナリ、邊將劉滬節度ニ違フ、尹洙之ヲ殺サントス、然ルニ范仲淹ハ劉滬ヲ是トシテ尹洙ヲ非トス、韓琦ハ之ニ反對シテ大ニ仲淹ト爭フ、洙ハ物議ノ張本トシテ罪ニ坐シ、晉州ニ徙サル。西兵ハ趙元昊ナリ。

書判拔萃ニ遷サレ山南東道ノ掌書記ニ知タリ伊陽縣ニ王文康公薦ノ其才ヲ召シ試ミラレテ充ラレ館閣校勘ニ遷サル太子ノ中允ニ天章閣ノ待制范公貶セラルルトキ饒州ニ諫官御史不肯テ言ハ師魯上書シテ言フ仲淹ハ臣之師友ナリ願クハ得シト俱ニ貶セラルルテ貶セラレテ監郢州酒稅ニ又徙サル唐州ニ遭ヒ父ノ喪ニ服除シナシテ復タ得太子中允ヲ知タリ河南縣ノ趙元昊反シ陝西用フレ兵ヲ大將葛懷敏奏シ起シテ爲ス經略判官ト師魯雖用ヒラルト懷敏ノ辟ニ而尤モ爲リ經略使韓公ノ所深ク知ルル其後諸將敗レ於好水ニ韓公降ツテ知タリ秦州ニ師魯亦徙ツテ通判タリ濠州ニ久シウシテ之韓公奏シ得テ通判タルヲ秦州ニ遷ツテ知タリ涇州ニ又知タリ渭州ニ兼ネ涇原路ノ經略部署ヲ坐シ城下ニ水洛ニ與ト邊將異議スルニツテ徙ツテ知タリ晉州ニ又知タリ潞州ニ爲スニ政有リテ惠愛潞州ノ人至ツテ今ニ思フ之ヲ累遷シテ官至ル起居舍人直龍圖閣ニ』。以上第三大段履歷中主敍忠節。師魯當ツヅ天下無キ事時ニ獨リ喜ンデ論ジテ兵ヲ爲リ敍ス燕息戍ノ二篇ヲ行ハル於世ニ自リ西兵起ツヅ凡ソ五六

戍卒ハ派遣ノ守兵ナリ。

解嚴ハ戰時ノ戒嚴ヲ解除スルナリ。得罪ハ前ノ水洛城ノコトニ坐シテナリ。

公使錢ハ官用ノ錢ヲイフ、公金ナリ。

疾革ハ病氣危篤ニ陷ルナリ。

不及其私トハ、家事一身上ノ事ニ言ヒ至ラザルナリ。

歲。未嘗不在其閒。故其論議益精密。而於西事尤習其詳。其爲兵制之說。述戰守勝敗之要。盡當今之利害。又欲訓土兵代戍卒。以減邊用。爲禦戎長久之策。皆未及施爲。而元昊臣。西兵解嚴。師魯亦去而得罪矣。然則天下之稱師魯者。於其材能。亦未必盡知之也。』以上第四大段再敍人未知之材能。初師魯在渭州。將吏有違其節度者。欲按軍法斬之。而不果。其後吏至京師。上書訟師魯以公使錢貸部將。貶崇信軍節度副使。徙監均州酒稅。得疾。無醫藥。舁至南陽。求醫。疾革。憑几而坐。顧稚子在前。無甚憐之色。與賓客言。終不及其私。享年四十有六以卒。』以上第五大段再敍以忠節死。師魯娶張氏。某縣君。有兄源字子漸。亦以文學知名。前一歲卒。第一小段敍家族。師魯凡十年閒三貶官。喪其父。又喪其兄。有

餘貲ハ餘財ナリ。
客其喪云云、客ハ寄寓ノ義、屍ヲ他鄉ニ納ムルナリ、假葬ナリ。
故人ハ故舊ナリ。
涼邇ハ遠近ナリ。
賻ハ葬費ヲ助クルナリ。
歸河南ハ故鄉ノ河南ニ本葬スルナリ。
藏之深トハ石ニ銘シテ深ク地中ニ埋ムル故ニイフ。
莫如子宜ハ、猶ホ俗ニ貴公ニ限ルトイフガ如シ、子ハ歐陽修ヲ呼ビ

子四人。連喪其三。女一適人。亦卒。而其身終以貶死。窮以死。是人之所以不知其忠節。一子三歲。四女未嫁。家無餘貲。客其喪於南陽。不能歸。平生故人無遠邇。皆往賻之。然後妻子得以其柩歸河南。以某年某月某日葬於先塋之次。余與師魯兄弟交。嘗銘其父之墓矣。故不復次其世家焉。』六大段敍家族。幷總束全文。〇以上第一小段總束全文。

銘曰。

藏之深。固之密。石可朽。銘不滅。

## 張子野墓誌銘

主意　哀子野善人。而不遇早死。

吾友張子野。既亡之二年。其弟充以書來請。曰吾兄之喪。將以今年三月某日葬於開封。不可以不銘。銘之莫如子宜。」宜

字。生下二宜字一。〇第一小段敍請銘。嗚呼予雖レ不レ能レ銘。然樂下道天下之善上以傳焉。況若二吾子野一者。非二獨其善可レ銘。又有二平生之舊。朋友之恩一。與二其可レ哀者一。皆宜レ見二於予文一。宜其來請二於予一也』。第二小段敍二其可レ銘四項一。提二全篇一。〇以上第一大段敍二作レ銘緣由一。揭二大意一。〇大意四項中。可レ哀最重。初天聖九年。予爲二西京留守推官一。是時陳郡謝希深。南陽張堯夫。與二吾子野一尙皆無レ恙。於レ時一府之士。皆魁傑賢豪。日相往來。飮酒懽呼。上下角逐。爭相先後。以爲レ笑樂一而堯夫子野。退然其閒不レ動レ聲氣。衆皆指爲二長者一。予時尙少。心壯志得。以爲洛陽東西之衝。賢豪所レ聚者多。爲レ適然耳」。第一小段敍二平生之舊一。其後去レ洛來二京師一。南走二夷陵一。泝二江漢一。其行萬三四千里一。山砠水厓。窮居獨遊。思從二曩人一。邈不レ可レ得。然雖二洛人一至レ今皆以謂無レ如レ嚮時之盛一。然後知レ世之賢豪不レ常聚一。而交遊

テイフナリ。樂道云云ハ、天下ノ善事、人ノ善行等ヲ發表シテ、後世ニ傳フルコトヲ樂ムトナリ。平生之舊ハ故舊（ふるなじみ）ナリ。

上下角逐云云ハ、上下ナリ下トナリ、先トナリ後トナリ、貧ケズ劣ラズ懽樂シタルナイフ、角逐ハ競爭ナリ。退然ハ柔和ノ貌、禮記ニ退然トシテ衣ニ勝ヘザルガ如シト見ユ。長者ハ長老ノ義、重鎭ナリ。衝ハ交通ノ要路ナリ。阻ハ土山ノ石ヲ戴クモノ、厓ハ水涯ナリ、萬里ハ遠隔ノ地ニ遍歷シ、或ハ山ノ頂ニ、或ハ水ノホトリニ逍遙シテ、曩人ヲ離レテ窮居獨遊セルナイフ。曩人ハ希深、堯夫、子

野ノ徒ナイフ。
遯(音バク)ハ遁ナリ。

千野之世ノ世ハ家柄ナリ。

考ハ逝ケル父ナリ。

妣ハ逝ケル母ナリ。

后姻ハ祖妣宋氏ノ孝章皇后ノ妹ナリシ故ニイフ。
操履ハ操行ナリ、素行ナリ。
寒儒ハ窘窮セル儒者ナリ。
筆札ハ書簡ナリ。
天聖ハ仁宗ノ年號。
宋公名ハ庠。

之難レ得。爲可レ惜也」。第二小段敍二朋友之恩一。初在レ洛時。已哭尽レ哀而銘レ之。其後六年。又哭二希深一而銘レ之。今又哭二吾子野一而銘。於レ是又知レ非二徒相得之難一。而善人君子欲レ使二幸而久在一レ於レ世。亦不レ可レ得。嗚呼可レ哀也已』。第三小段敍二可レ哀。○以上第二大段前段條目。敍二平生之舊。朋友之恩及可哀。○曰長者。曰賢豪。曰善人君子。皆所二以稱一其善一。子野之世。曰二贈太子太師諱某一。曾祖也。宣徽北院使樞密副使累贈尚書令諱遜。皇祖也。尚書比部郎中諱敏。中皇考也。曾祖妣李氏。隴西郡夫人。祖妣宋氏。昭化郡夫人。孝章皇后之妹也。妣李氏。永安縣太君」。第一小段敍二先世一。子野家聯二后姻一。世久貴仕。而被服操履。甚於寒儒。好レ學自力。善筆札。四句及下段敍レ爲レ人處。皆子野爲二善人一之實。天聖二年舉進士。歷二漢陽軍司理參軍一。開封府咸平主簿。河南法曹參軍。王文康公。錢思公。謝希深。與レ今參知政事宋公。咸薦

其能。改著作佐郎。監鄭州酒稅。知閬州閬中縣。就拜祕書丞。秩滿知亳州鹿邑縣。寶元二年二月丁未。以疾卒於官。享年四十有八」。第二小段敍履歷。子伸。郊社掌生。次從。次幼未名。女五人。一適人矣。妻劉氏。長安縣君』。第三小段敍妻子。○以上第三大段敍世次履歷。妻子。是碑文本文。子野爲人。外雖愉怡中自刻苦。遇人渾渾不見圭角。而志守端直。臨事果決。平居酒半。脫冠垂頭。童然禿且白矣。予固已悲其早衰。而遂止於此。豈其中亦有不自得者邪』。以上第四大段敍其爲人。遂歸到其不祿可哀。結全篇。子野諱先。其上世博州高堂人。自曾祖已來家京師。而葬開封。今爲開封人也』。以上第五大段拾敍其諱鄉貫葬地。補缺。○第三大段。欲敍以后姻貴仕守清寒。筆路直往。不暇敍其諱鄉貫葬地。故補之結末。

銘曰。

嗟夫子野質厚材良。孰屯其亨。孰短其長。豈其中有不自得。

愉怡ハ和ケナリ。渾渾ハ圓滿ナル貌。圭角ノ圭ハ稜アル瑞玉ナリ、角ハ稜ナリ。童然ハ頭髮少キ貌。止於此ハ生キ延ビザルナリ、死ナリ。不自得ハ意ニ滿タザル所アルナリ。

秩滿ハ年限ヲ勤メ終ルコト。寶元ハ仁宗ノ年號。

屯其亨トハ開運(亨)スベキ天運ヲ障害(屯)スルコト。

短其長トハ長カルベキ命ヲ短クスルナリ。

藏ハ父祖ノ墳塋ナリ。

長史ハ丞相ノ屬僚、一丞相ニ二長史ヲ置ク、秩千石、漢以來アリ。

其父ハ杜衍。

號泣ハ泣キ付イテ乞フナリ。

屈於生云云、生前世ニ用ヒラレズ、手足ヲ伸ス能ハザリシヲイフ、故ニセメテハ死後ニ於テ、名聲ヲ千載ニ發揮セシメントナリ。

集次其文ハ蘇氏文集ナリ、其序本書卷十一ニ見ユ。

嘉祐ハ仁宗ノ年號。

不二自得一。卽不レ遇也。而外物有レ以戕二開封之原一。新里之鄉。三世於レ此。其歸レ藏。

## 湖州長史蘇君墓誌銘

主意　言二子美屈一于人間一。故作二銘伸一レ於地下一。

故湖州長史蘇君。有二賢妻杜氏一。自二君之喪一。布衣蔬食。居數歲。提二君之孤子一。斂二其平生文章一。走二南京一。號泣於其父一曰。吾夫屈於生一。猶可レ伸於死一。其父太子太師以告二於予一。予爲二集次其文一而序レ之。以著二君之大節一。與二其所一以屈伸得失一。以深誚世之君子一。當二爲國家一樂二育賢材一者一。且悲二君之不幸一」。第一小段乞集序。其妻卜以嘉祐元年十月某日。葬二君於潤州丹徒縣義里鄉檀山里石

門村。又號泣於其父曰。吾夫屈於人閒。猶可伸於地下。伏末一段。於是杜公及君之子泌。皆以書來乞銘。以葬。第二小段乞銘。〇以上第一大段敍作銘緣由。微露主意。君諱舜欽。字子美。其上世居蜀。後徙開封。爲開封人。自君之祖諱易簡。以文章有名。太宗時承旨翰林爲學士。參知政事。官至禮部侍郎。父諱耆。官至工部尚書。直集賢院。以上第二大段敍世次。君少以父蔭補太廟齋郎。調滎陽尉。非所好也。已而鎖其廳去。舉進士中第。改光祿寺主簿。知蒙城縣。丁父憂。服除知長垣縣。遷大理評事。監在京樓店務。以上第三大段敍履歷。君狀貌奇偉。慷慨有大志。少好古。工爲文章。所至皆有善政。官於京師。位雖卑。數上疏論朝廷大事。敢道人之所難言。范文正公薦君召。試得集賢校理。自元昊反。出兵無功。而天下殆於父安。

人閒ハ世ナリ、地下ト相對ス。

承旨ハ翰林學士中ノ長者ナリ。

父蔭ハ蔭補ナリ、父祖ノ功績ニヨリテ子孫ノ官ニ補セラルルナイフ、通鑑ノ注ニ、蔭ハ庇ナリ、今人世資ニヨリテ官ヲ得ル者ヲ謂ツテ蔭官トナス、蓋シ木ニ取リテ喩ト爲ス、言ハ其根本ヲ蔭庇スルナリト見ユ。

丁父憂ハ父ノ喪ニ遭フナリ。

元昊反云云ハ前ノ尹師魯墓銘ニ解アリ。

父安ハ泰平ナリ。

天子ハ仁宗ナリ。三四大臣ハ韓琦、范仲淹、富弼、杜衍等ナイフ。舒民ハ民ヲ緩和スルナリ。

撼動ハ攪亂シテ諸大臣ノ位置ヲ覆サントスルナリ。其根トハ讒誣ノ根據トスベキ口實ナリ。進奏院ハ詔勅及ビ宣旨受理ヲ掌ル官。祠神云云ハ、賽神會(毎秋行フ)ニ、故紙ヲ賣リタル錢ヲ以テ客ヲ會シタリノ誣言ニ坐スルナリ。故紙ハ反古紙ナリ。除名トハ官籍ヲ削除セラルルコト。

涵肆ハ蓄醬スルナリ、涵ハ涵養、肆ハ大ナリ。

醉墨ハ醉餘ノ揮毫ナリ。落筆ハ偶筆ナリ。揖其貌ハ蘇子美ノ容姿ニ接スルナリ、面會スルナリ。

尤困兵事。天子奮然用三四大臣。欲盡革衆弊。以紓民於是時。范文正公與今富丞相多所設施。而小人不便。顧人主方信用。思有以撼動。未得其根。以君文正公之所薦。而宰相杜公壻也。乃以事中君。坐監進奏院祠神奏用市故紙錢。蓋以市故紙錢。供祠神之奏用。故曰會客。爲自盜除名。君名重天下。所會客皆一時賢俊。悉坐貶逐。然後中君者喜曰。吾一擧網盡之矣。其後三四大臣悉罷去。天下事卒不復施爲。』一篇著意在此段。是屈于人間處。

君攜妻子居蘇州。買木石作滄浪亭。日益讀書。大涵肆於六經。而時發其憤懣於歌詩。至其所激。往往驚絶。又喜行草書。皆可愛。故其雖短章醉墨。落筆爭爲人所傳。天下之士。聞其名而慕。見其所傳而喜。往揖其貌而竦。聽其論而驚。以服。

久與之居。而不能舍以去也」。第一小段敍閑居狀。居數年。復得湖州長史。慶歷八年十二月某日。以疾卒於蘇州。享年四十有一」。第二小段敍病卒。君先娶鄭氏。後娶杜氏。三子。長曰泌。將作監主簿。次曰液。女二。長適前進士趙紘。次尚幼』。第三小段敍妻子。○以上第五大段敍得罪後履歷及妻子。初君得罪時。以奏用錢爲盜。無敢辨其冤者。自君卒後。天子感悟。凡所被逐之臣。復召用。皆顯列於朝。而至今無復爲君言者。宜其欲求伸於地下也。宜予述其得罪以死之詳。而使後世知其有以也」。生前。歐公欲伸之地下。第一小段敍子美不伸於既又長言以爲之辭。庶幾竝寫予之所以哀君者。第二小段敍所以作銘。○以上第六大段結主意。其辭曰

謂爲無力兮。孰擊而去之。謂爲有力兮。胡不反子之歸。無力有力指天。故下文荒杳皆指天。蓋設辭以歎善人多屈。豈彼能兮此不爲。彼謂擊去。此謂反子之歸。善百譽而不進

長言ハ永言ニ同ジ、言ヲ永クスルハ歌フナリ、長言以爲之辭トハ歌ヲ作ツテ君ヲ哀シムトノ意。

謂爲無——孰カ天ヲ目シテ力無シト爲ス、力無キモノ焉ンゾ君子ヲ擊ツテ之ヲ陷レンヤ、孰カ天ヲ目シテ力有リト爲ス、力有ラバ胡ンゾ

竦ハ謹聽ナリ。

慶歷ハ仁宗ノ年號。以ハ因ナリ、由來ナリ。

ゾ召シテ蘇子ノ歸ヲ反サザル、豈昭ルルコトハ之ヲ能クシ、反歸スルコトハ之ヲ爲シ能ハザルノ理アランヤ、悲シイ哉、百善ノ譽アレドモ身進ムコト能ハズ、一失ノ毀アレバ終世排斥セラル、人事荒茫、誰ニ向ツテ訴ヘン、天道杳（はるか）トシテ遂ニ知ルコト難シ、アア蘇子ノ心中、材能ヲ包メドモ施スニ由ナク、唯文章ノミ日月ト光輝ヲ爭フアルノミ、怨恨冥冥トシテ舒ブルナシト雖モ、名聲ハ昭昭トシテ永世ニ垂レン。

至和嘉祐ハ並ニ仁宗ノ年號。

高等ハ高第ナリ。一日ハ一朝ナリ。

兮。一毀終世所二顚擠一。荒孰問兮杳難レ知」。第一解。嗟子之中兮。有レ韞而無レ施。文章發耀兮。星日光輝。雖冥冥以掩レ恨兮。宜昭昭トシテ其永レ垂。」第二解。〇二句卽前序主意。

## 故霸州文安縣主簿蘇君墓誌銘

主意　言二老泉文晩成一而知レ之者。唯父與二歐公一。〇以レ歐銘二老蘇一。猶二以レ韓銘一レ柳。然比二之韓文一輸二一籌一。

有蜀君子曰二蘇君一。諱洵。字明允。眉州眉山人也。君之行義修二於家一。信二於鄉里一。聞二於蜀之人一。久矣。當レ至二和嘉祐之閒一。與二其二子軾轍一。偕至二京師一。翰林學士歐陽修。得二其所レ著書二十二篇一。獻二諸朝一。書既出。而公卿士大夫爭傳レ之。其二子擧進士。皆在二高等一。亦以二文學一稱二於時一。眉山在二西南數千里外一。一日父子隱

然名動京師而蘇氏文章遂擅天下。第一小段敍歐公始知之。然後三蘇文擅天下」君之文博辨宏偉。讀者悚然想見其人。既見而溫溫似不能言。及即之與居。愈久而愈可愛。閉而出其所有。愈叩而愈無窮。嗚呼可謂純明篤實之君子也。』第二小段單敍。○以上第一大段敍老蘇一生大概。曾祖諱祐。祖諱杲。父諱序。贈尚書職方員外郎。三世皆不顯。職方君三子。曰澹曰渙。皆以文學舉進士。而君少獨不喜學。年已壯。猶不知書。職方君縱而不問。鄉閭親族皆怪之。或問其故。職方君笑而不答。君亦自如也。」第一小段敍世次。年二十七。始大發憤。謝其素所往來少年。閉戸讀書。爲文辭。歲餘舉進士。再不中。又舉茂材異等。不中。退而歎曰。此不足爲吾學也。悉取所爲文數百篇焚之。益閉戸讀書。絶筆不爲文辭者五六年。乃大究六經

悚然ハ愼ム貌、其人ヲ見ル思ヒシテ自ラ襟ヲ正スコト。
溫溫ハ寛緩和柔ノ貌。
閒ハ隙ナリ、暫時ナリ。
所有ハ蘊蓄スル所、腹藏スル所ナリ、論說見識等ヲイフ。
叩ハ意見ヲ叩クナリ、問ヒ聽クナリ。
職方ハ官名ニシテ地圖ヲ掌ル。
自如ハ變ラザルナリ、自若ナリ。不中ハ及第セザルナリ。
茂材異等ハ人ヲ取ル科目ノ名、茂材ハ所謂秀オナリ、後漢光武帝ノ名秀ヲ諱ンデ茂ニ改ム。
六經ハ聖人ノ經書、即チ易、詩、書、春秋、禮、樂コレナリ。

百家ハ諸子ノ學說ナリ。
成敗ハ成就ト失敗ト。
窮達ハ貧窮ト榮達ト。
出處ハ出仕ト家居ト。
其稟也云云、天ヨリ稟クル所ノ材ナリ、所謂大器晚成ナリ、慤ハ誠實ナリ。
爲師法ハ文章ノ軌範手本トナルナリ。
太常ハ禮儀ヲ掌ル官。
建隆ハ太祖ノ年號。
治平ハ英宗ノ年號。

百家之說。以考質古今。治亂成敗。聖賢窮達出處之際。得其粹精。涵畜充溢。抑而不發。久之慨然曰。可矣。由是下筆。頃刻數千言。其縱橫上下。出入馳驅。必造於深微。而後止。蓋其稟也厚。故發之遲。志也慤。故得之精」。第二小段敍學文晚成。○老蘇一生得處在文。故敍文處。極意發揮。一篇妙處全在此段。自來京師。一時後生學者。皆尊其賢。學其文。以爲師法。』以其父子俱知名。故號老蘇。以別之』。第三小段收首段三蘇。○以上第二大段主敍學文晚成。世次是附敍。

初修爲上其書。召試紫微閣。辭不至。遂除試祕書省校書郎。會太常修纂建隆以來禮書。乃以爲霸州文安縣主簿。使食其祿。與陳州項城縣令姚闢同修禮書。爲太常因革禮一百卷。書成。方奏未報。而君以疾卒。實治平三年戊申四月也。享年五十有八。天子聞而哀之。特贈光祿寺丞。勅有司具舟。

載其喪歸於蜀。』以上第三大段敍出處及卒年。蓋履歷。君娶程氏。大理寺丞文應之女。生三子。曰景先。早卒。軾今爲殿中丞。直史館。轍權大名府推官。三女皆早卒。孫曰邁曰遲。有文集二十卷。論法三卷。』以上第四大段敍妻子著述。

君善與人交。急人之患難。死則鄒養其孤。鄉人多德之。』第一小段素行。

蓋晚而好易。曰易之道深矣。汩而不明者。諸儒以附會之說亂之也。去之則聖人之旨見矣。作易傳。未成而卒。」第二小段持論。

治平四年十月壬申。葬於彭山之安鎭鄉可龍里。」第三小段葬地。

君生於遠方。而學文晚成。常歎曰。知我者惟吾父與歐陽公也。然則非余誰宜銘。』第四小段學文晚成。〇以上第五大段敍其素行持論死葬。遂及其學文晚成。唯父與歐陽公知之。結全篇。

銘曰。

蘇顯當世。實欒城人。以宦蜀眉。蕃蕃子孫。自其高曾。鄉里稱

汩ハ古忽切、沈ムナリ、眞理深遠ニシテ明ナラザルナイフ。附會之說ハ附著合會シタル臆說。聖人之旨、易ハ四聖ノ手ニヨリテ成ルトイフ、伏羲始テ八卦ヲ畫シ、周ノ文王卦辭ヲ作リ、周公爻辭ヲ作リ、孔子十翼ヲ作ルトイフ。

欒城ハ河北ノ地名。蕃蕃ハ滋息ノ貌。

意氣ハ氣概アルナリ。

仁。偉歟明允。大發於文。亦既有文。而又有子」。第一解。○前句押韻。故末句不押韻。蓋變法。其存不朽。其嗣彌昌。嗚呼明允。可謂不亡。第二解。

## 黃夢升墓誌銘

主意　悲夢升有文章意氣。而不得志。故第一段揭尤以文章意氣自豪一句爲綱領。第二段。敍意氣。第三段。敍文章。第四段。敍不得志。第五段。是塡補。○此篇雖以文章意氣兩項爲主。就兩項中言之。文章重而意氣輕。故銘詩唯言有文章而不得志。○二段三段四段結句三志字相照應。二段三段五段。結句三悲字。與銘辭一悲字相照應。○此篇。插敍歐公自己之事。是陪客。

予友黃君夢升。其先婺州金華人。後徙洪州之分寧。其曾祖諱元吉。祖諱某。父諱中雅。皆不仕。黃氏世爲江南大族。自其祖父以來。素以家貲賑鄉里。多聚書以招延四方之士。夢升兄弟皆好學。尤以文章意氣自豪』以上第一大段自世次敍及兄弟文章意氣。此四字一篇綱領。予少家隨州。夢升從其兄茂宗官於隨。予爲童子。立諸兄側見夢

快快ハ鞅鞅ト同ジク、意滿足セザルナリ。

噓唏ハ歎息ナリ。
噱ハ大笑ナリ。

乾德ハ縣名ナリ。
鄧ハ鄧州、山南道ニ屬ス、今ノ河南省南陽府。
鄧閒ノ閒ヲ一ニ下句ニ附ケテ讀ミ、このごろト訓ズ。
究達有命、人ノ運不運ハ皆天ノ命ズル所ナリ、人力ノ如何トモスベキニ非ズトノ義。

升。年十七八。眉目明秀。善飲酒談笑。予雖幼。心已獨奇夢升。後七年。予與夢升皆舉進士於京師。夢升得丙科。初任興國軍永興主簿。快快不得志。以疾去。久之復調江陵府公安主簿。時予謫夷陵令。遇之於江陵。夢升顏色憔悴。初不可識。久而握手。噓唏相飲以酒。夜醉起舞。歌呼大噱。予益悲夢升志雖衰。而少時意氣尚在也。』○以上第二大段敍不得志而意氣猶在。以下三段。敍兩人交際。挿夢升履歷。後二年。予徙乾德令。夢升復調南陽主簿。又遇之於鄧閒。嘗問其平生所爲文章幾何。夢升慨然歎曰。吾已諱之矣。窮達有命。非世之人不知我。我羞道於世人也。求之不肯出。遂飲之酒。復大醉。起舞歌呼。因笑曰。子知我者。乃肯出其文。讀之博辨雄偉。意氣奔放。若不可禦。予又益悲夢升志雖困。而文章未衰

夢升素——夢升元來剛情ニシテ、苟モ己ガ意志ヲ枉ゲテ世人ニ投合スルヲ欲セズ、又有スル所ノ才知學藝ヲ恃ミテ敢テ下ラズ、故ニ世ニ容レラレズ、常ニ快快トシテ施設スル所ナシ。

寶元ハ仁宗ノ年號。

先塋ハ先祖ノ墓。

子之文章ハ兄ノ子庠ノ文ヲ指ス、夢升ノ哭詞ナリ。

也。』以上第三大段敍不レ得レ志而文章未レ衰。是時謝希深出守二鄧州一。尤喜レ稱二道天下士一。予因手書二夢升文一通一。欲レ以示二希深一。未レ及而希深卒。予亦去レ鄧。後之守レ鄧者皆俗吏。不二復知一夢升一。夢升素剛不レ苟レ合。負二其所レ有一。常快快無レ所レ施。卒以不レ得レ志死二於南陽一。』以上第四大段敍不レ得レ志而死。夢升諱注。以二寶元二年四月二十五日一卒。享年四十有二。』諱及卒年。第一小段其平生所レ爲文。曰二破碎集一。公安集。南陽集一。凡三十卷。』第二小段娶二潘氏一。生二四男二女一。』段妻子。第三小將レ以二慶歷四年某月某日一。葬二於董坊之先塋一。其弟涓泣而來告曰。吾兄患レ世之莫二吾知一。孰可レ爲二其銘一。予素悲二夢升一者。』第四小段葬地及弟語。○以上第五大段拾敍諱卒年著述妻子葬地。遂及其弟來告之語。世莫知。結二全篇不レ得レ志之意一。因爲二之銘一曰。

予嘗讀二夢升之文一。至於哭二其兄子庠一之詞。曰。子之文章。電激

雷震。雨雹忽止。闃然滅泯。未嘗不諷誦歎息而不已」。第一解。嗟夫夢升曾不及庠。不震不驚。鬱塞埋藏」。第二解。孰予其有。不使之施。言天與其才德而不使之施。吾不知所歸咎。徒爲夢升而悲」。第三解。

雹ハ雨ノ凍リタルモノ、あられナリ。
闃然ハ人無クシテ靜ナル貌。
嗟夫夢——序ノ文ハ電雷雨雹ノ如ク、人チ驚駭セシムトイフ、夢升ノ文ハ震セズ驚セズ、鬱塞埋藏ス、然ラバ卽チ夢升曾テ庠ニ及バザルカ、否、時ノ不可ナルニ依ルノミ、アア夢升ニ文オチ賦與シタル者ハ誰ゾ、而シテ其オチ施ス所無カラシメタル者ハ誰ゾ、コレ皆天ノナス所、我其咎チ歸スル所チ知ラズ。

太夫人ハ母チ尊稱シテイフ、歐陽修ノ母鄭氏ナリ。

## 尚書都官員外郎歐陽公墓誌銘

主意　紀可傳者。報叔父教育之恩。

公諱曄字日華。於檢校工部尚書諱託。彭城縣君劉氏之室。爲曾孫。武昌縣令諱彬。蘭陵夫人蕭氏之室。爲孫。贈太僕少卿諱偃。追封潘原縣太君李氏之室。爲第三子。於修爲叔父」。第一小段敍世次。修不幸幼孤。依於叔父而長焉。嘗奉太夫人之教曰爾欲識爾父乎。視爾叔父。其狀貌起居言笑。皆爾父也。修雖

僞唐ハ南唐ナリ、始祖ヲ李昇トイヒ、自ラ唐憲宗ノ子ト稱ス。

咸平ハ眞宗ノ年號。

慶歷ハ、仁宗ノ年號。

幼已能知二太夫人ノ言ヲ爲レ悲。而叔父之爲レ親也』。第二小段敍二叔父之恩一。○以上第一大段自二世次一敍起。及二己受一叔父之恩一。伏二第三大段紀一可レ傳者一。歐陽氏世居二江南一。僞唐李氏時爲二廬陵一大族。李氏亡。先君昆弟同時而仕者四人。獨先君早世。其後三人。皆登二於朝一以歿。第一小段敍二先世盛衰一起レ下。公咸平三年舉進士甲科。歷二南雄州一判官。隨二閩二州一推官。江陵府掌書記。拜二太子一中允。太常丞博士。尚書屯田都官二員外郎一。享年七十有九。最後終二於家一。以二慶歷四年三月十日一葬二於安州應城縣高風鄉彭樂村一。』第二小段敍二履歷一。○以上第二大段略敍履歷。於二其葬一也。其素所レ養兄之子修。泣而書曰。嗚呼叔父之亡。吾先君之昆弟無二復在一者矣。其長養教育之恩既不レ可レ報。而至二於狀貌起居言笑之可一レ思慕一者一。皆不レ得而見一焉矣。惟勉而紀二吾叔父之可一レ傳二於世一者一。庶以盡二修之志一焉』。以上

以太子中允云云ハ、官名太子中允ニシテ執務ハ興國軍ノ鹽酒稅ナルコト、官名ト事務ト異ナルナリ、太常丞云云亦同シ。

坐擧人云云、擧人ハ州縣ヨリ人ヲ朝ニ進ムルナリ、擧人ニ其人ヲ得ザリシ罪、卽選擧不正ナリトノ罪ニ坐シテ免官セラレタルナリ。

布衣ハ無官ノ士。

人之遺ハ贈物ナリ、義理ニ合ハザル贈物ヲ受ケザルナリ。

不造其門ハ富貴ニ阿附セザルナリ、其潔廉チイフ。

積物ハ財穀寶物ノ蓄積セルモノ。

籍ハ租籍ナリ、强制シテ官ニ取上グルコト。

第三大段言紀可レ傳者。報叔父之恩。下二段。卽可レ傳者。

公以二太子ノ中允一監二興國軍ノ鹽酒稅一。太常丞。知二漢州雒縣一。博士知二端州桂陽監一。屯田員外郎知二黃州一。遷二都官一。知二永州一。皆有二能政一。含二畜下段一。坐擧二人奪レ官。復以二屯田一通判欽州。以二本官一分司西京。託二家於隨一。復遷二都官於家一。遂致仕。景祐四年四月九日卒。』以上第四大段敍實務中事迹可レ傳者。

公爲レ人嚴明方質。尤以二潔廉一自持。自爲二布衣一。非二其義一不レ輒受二人之遺一。少而所レ與親舊。後或甚貴。終身不レ造二其門一。」第一小段潔廉。

其涖レ官臨レ事。長於決斷。初爲二隨州推官一。治二獄之難レ決者三十六一。大洪山奇峰寺。聚レ僧數百人。轉運使疑二其積物多一。而僧爲二姦利一。命レ公往籍レ之。僧以二白金千兩一餽レ公。公笑曰。吾安用レ此。然汝能聽二我言一乎。今歲大凶。汝有二積穀六七萬石一。能盡以輸レ官而賑レ民。則吾不レ籍レ汝。僧喜曰。

陳堯咨――節度使陳堯咨豪貴ヲ以テ自ラ驕リ、官屬其威ニ恐レテ敢テ仰ギ視ル者ナシ、其江陵ニ在ルヤ、官用ト詐リ、私錢ヲ以テ官市ノ黃金ヲ買收セントシ、吏府ヲシテ帖簿ヲ持シテ各官僚ノ閧ヲ巡リ、強ヒテ署名セシム、吏歐公ノ所ニ至ル、公吏ヲ叱シテ曰ク、官市ノ金ヲ買入ルニハ、官ノ印ヲ捺セル筈ナリ、此帖簿ハ公文ト認ムル能ハズト、署名スルコトヲ肯ンゼス、堯咨乃チ憚ツテ之ヲ中止ス。

號難治トハ、人民無教育ニシテ治メ難シトノ風評アルナリ。

庭中ハ法廷ナリ。

桎梏ハ足械手械。

惶顧ハ恐レテ振向クナリ。

ヒハ匙ナリ。

肋ハあばらナリ。

諾。饑民賴以全活」。第二小段善斷。陳堯咨以豪貴自驕。官屬莫敢仰視。在江陵用私錢。詐爲官市黃金。府吏持帖。强僚佐署。公呵吏曰。官市金當有文符。獨不肯署。堯咨雖憚而止。然諷轉運使出公。不使居府中。」正不阿權貴。鄂州榮陽素號難治。乃徙公治之。至則決滯獄百餘事。縣民王明。與其同母兄李通爭產。累歲。明不能自理。至貧爲人賃舂。公折之一言。通則具伏。盡取其產鉅萬歸於明。通退而無怨言。桂陽民有爭舟。而相毆致死者。獄久不決。公自臨其獄。出囚坐庭中。去其桎梏。而飲食之。食訖。悉勞而還於獄。獨留一人於庭。留者色動惶顧。公曰。殺人者汝也。囚不知所以然。公曰。吾視食者。皆以右手持匕。而汝獨以左。今死者傷在右肋。此汝殺之明也。言以我左手傷人右肋。肋胸骨

累他人ハ他人ニ迷惑ヲ懸クルナリ。

慶歷ハ仁宗ノ年號。
內ハ妻ナリ、妻ノ死ヲ哭スルナリ。
丐ハ乞フナリ。

也。囚卽涕泣曰。我殺也。不敢以累他人。公之臨事明辯。有古良吏決獄之術。多如此。所居人皆愛思之。』第四小段。決滯獄。○以上第五大段敍潔廉善斷數事。公娶范氏。封福昌縣君。子男四人。長曰宗顏。次曰宗閔。其二早亡。女一人。適張氏。亦早亡。銘曰。以上第六大段敍妻子。

公之明足以決於事。愛足以思於人。仁足以施其族。淸足以潔其身。而銘之以此。足以遺其子孫。

## 南陽縣君謝氏墓誌銘

主意　悲謝氏知道理。故安貧而死。

慶歷四年秋。予友宛陵梅聖俞。來自吳興。出其哭內之詩而悲曰。吾妻謝氏亡矣。丐我以銘而葬焉。第一小段悲亡。予諾之未暇作。

太子賓客ハ官名。

聞人ハ名聞アル人。盛族ハ門閥。

卒之夕云云、遺骸ニ衣スベキ衣服無キヲ以テ、嫁入ノ時ノ衣裳ヲ著セテ斂メタリトナリ。

怡然ハ喜ブ貌。

精以旨ハ器皿ノ精良清潔ニシテ、盛リタル食物ノ旨キヲ感ズルナリ。

無故新ハ舊キト新シキトヲ問ハザルナリ。

滌濯縫紉ハ汚レタルヲ洗濯シ、綻ビタルヲ縫フナリ。

肅以嚴ハ端然トシテ亂レザルナリ、俗ニ几帳面トイフガ如シ。

從容ハ落付キテ悠然タルナリ。

士大夫ハ人士ナリ、士ハ賢士、男子ノ佳稱、大夫ハ學官ノ稱ナリ。戶屏ハ障子襖ノ類。

商搉ハ商量シテ批評スルナリ。

居一歲中。書七八至。未嘗不以謝氏銘爲言。』第二小段乞銘。○以上第一大段敍悲而乞銘。

且曰。吾妻故太子賓客諱濤之女。希深之妹也。希深父子。爲時聞人。而世顯榮。謝氏生於盛族。年二十以歸吾。凡十七年而卒。卒之夕。斂以嫁時之衣。甚矣吾貧可知也。」第一小段貧甚。然謝氏怡然處之。治其家有常法。其飲食器皿雖不及豐侈。而必精以旨。其衣無故新。而滌濯縫紉。必潔以完。所至官舍雖卑陋。而庭宇灑掃。而肅以嚴。其平居語言容止。必從容以和。吾窮於世久矣。其出而幸與賢士大夫遊而樂。入則見吾妻之怡怡而忘其憂。使吾不以富貴貧賤累其心者。抑吾妻之助也。』第二小段治家。○以上第二大段敍居貧能治家。

吾嘗與士大夫語。謝氏多從戶屏窺聽之。閒則盡能商搉其人才能賢否。及時事之得失。皆有條

得失ハ是非善惡ナリ。條理ハすぢみちナリ。

儻ハ俊ニ同ジ。

以道德ハ、道德ノ士ト交際スルニ在ルノミノ義。

合者ハ意氣相投ズル者ナリ。

是歲ハ慶歷四年ナリ。

飛蝗ハ稻ヲ害スル蟲ナリ、いなむし。

西兵未解トハ、趙元昊未ダ平ガザルナイフ。

江淮ハ揚子江ト淮河トナリ。

我爲婦人云云、盜賊迫リ、國家大亂スルニ至ラバ、我ハ婦人、恐ラク君ニ從フ能ハザラン、我死ストモ君我ヲ葬ムル暇モ無カルベシトナリ、飛蝗ヨリ推シテ之ヲ五六月ノ事ト見バ、僅ニ月餘ヲ經タル七月七日ニ於テ此人逝ク、情悲シム可シ。

無以厚ハ貧ニシテ厚ク葬ムル能ハザルナリ。

夫恩トハ、夫ガ官ニ在ルノ故ヲ以テ、死シタル妻ニ縣君ノ爵ヲ特賜セラレタルナリ。

理。」第一小段明識。吾官吳興。或自外醉而歸。必問曰。今日孰與飲而樂乎。聞其賢者也則悅。否則歎曰。君所交皆一時賢儁。豈其屈己下之邪。惟以道德焉。故合者尤寡。今與是人飲而歡邪。」第二小段知交道。是歲南方旱。仰見飛蝗而歎曰。今西兵未解。天下重困。盜賊暴起於江淮。而天旱且蝗如此。我爲婦人。死而得君葬我幸矣。其所以能安居貧而不困者。一句收第二大段。其性識明而知道理。多此類。』第三小段安貧。○以上第二大段敍識明知道理。故能安貧。嗚呼。其生也迫吾之貧。而沒也又無以厚焉。謂惟文字可以著其不朽。且其生平。尤知文章爲可貴。歿而得此。庶幾以慰其魂。且塞予悲。此我所以請銘於子之勤也。若此予忍不銘』。以上第四大段總括悲意。夫人享年三十七。用夫恩。封南陽縣君。二男一女。以其年七月七日卒於

不能歸ハ故郷ニ改葬スル能ハザルナイフ。

京口ハ地名、卽チ潤州ナリ。

高郵ニ梅氏世葬ヲ宛陵ニ以テ貧ヲ不レ能ハ歸スル也。銘意已胎此一句。某年某月某日。葬ルニ於潤州之某縣某原ニ銘ニ曰。以上第五大段拾紘享年男女死葬。

高崖斷谷兮。京口之原。山蒼ク水深ク兮。土厚ウシテ而堅シ。居ラバ之ニ可シ樂ム兮。一樂字反ニ應序文多少悲字。卜者曰然リ。第一解。骨肉歸シ土ニ兮。魂氣升ル天ニ。何必ズシモ故郷ニシテ兮。然ル後ニ爲サン安シト。第二解。○有レ既安レ貧、況不レ安ニ客葬之意。○慰ニ其客死ニ是銘主意。

唐宋八家文讀本卷十三終

# 唐宋八家文讀本卷十四

## 胡先生墓表

主意　言先生師道高一世。

先生諱瑗。字翼之。姓胡氏。其上世爲陵州人。後爲泰州如皐人。」第一小段　姓名鄉貫。先生爲人師。言行而身化之。使誠明者達。昏愚者勵。而頑傲者革。故其爲法嚴而信。爲道久而遵。」第二小段　師道。師道廢久矣。自景祐明道以來。學者有師。惟先生暨泰山孫明復。石守道三人。而先生之徒最盛。』第三小段　言世廢師道。而先生獨擧之。○以上第一大段　虛敍師道。是一篇大意。其在湖州之學。弟子去來常數百人。各以其經轉相傳授。其教學之法最備。行之數年。東南之士。莫不以仁義禮樂

此文ハ胡先生ノ師道ノ厳正ニシテ、而カモ後學ノ其高徳ヲ仰景スルヲ述ブ。

先生爲――先生ノ人ノ師トナリテ子弟ヲ教育スルノ法ハ、言行ヲ一致シ、躬行シテ以テ人ヲ化シ、其誠明ナルモノハ、コレヲ誘引シテ益〻通達セシメ、ソノ昏愚ナルモノハ、之ヲ鞭撻奨勵シテ善ニ向ハシメ、頑固傲慢ナルモノハ、之ヲ曉喩シテ、ソノ過失ヲ改メシム、故ニ其教育ノ法ハ、至ツテ厳格ナレドモ、教ヲ受クルモノハ、中心ヨリ心服シ、ソノ道ニ於テハ、教ヲ受クルコト、愈〻久シクシテ、愈〻遵

奉ス。
景祐明道ハ共ニ仁宗ノ年號。
轉相傳授ハ、胡先生ノ教學ヲ先輩ヨリ後進ヘ傳ヘ授クルナリ。
於是建――是ニ於テ太學ヲ京師ニ建テ、役人ハ奏請ニ由リ、湖州ニ出張シテ先生ノ學校ノ規則儀式ヲ取調ベ、之ヲ以テ太學ノ法式トシタリ、是ヨリ其法ヲ基礎トシ、學校ノ法令ト爲シテ今日ニ至ル。
貢擧ハ進士ノ試驗ナリ。
顯仕ハ顯著ナル官職。
循循ハ徐舒トシテ次第アルナリ。
雅飭ハ雅正謹飭ナリ。
其言談――其言語動作ノ謹嚴ヲ見バ、必ズ先生ノ門人弟子タルコトヲ知ル、又學者間ノ談話ニ、單ニ只先生ト云フハ、問ハズシテ胡公ナルヲ知ルナリ。
白衣ハ身分ナキ無位無官ノ平民ヲ云フ。
湖學ハ湖州ノ學校ノコト。

爲學」。第一小段在湖學能修師道。慶歷四年。天子開天章閣。與大臣講天下之事。始慨然詔州縣皆立學。於是建太學於京師。而有司請下湖州。取先生之法。以爲太學法。至今爲著令。」先生法爲太學法。後十餘年。先生始來居太學。學者自遠而至。太學不能容。取旁官署以爲學舍。禮部貢擧。歲所得士。先生弟子。十常居四五。其高第者。知名當時。或取甲科。居顯仕。其餘散在四方。隨其人賢愚。皆循循雅飭。其言談擧止。不問可知爲先生弟子。其學者相語稱先生。不問可知爲胡公一也。』第三小段先生入太學師道益盛行。○以上第二大段實敍師道。

先生初以白衣見天子。論樂。拜祕書省校書郎。辟丹州軍事推官。改密州觀察推官。丁父憂去職。服除。爲保寧軍節度推官。遂居湖學。召爲諸王宮教授。以疾免。已而以太子中

太子中舍ハ東宮ノ屬官。
遷殿云云、致仕シテ家ニ在リナガラ此官ニ轉セシナリ。
皇祐ハ仁宗ノ年號。
驛召ハ宿次ニテ召シ出スナリ。
議樂ハ音樂ノ取調ヲ命ゼラルルナリ。

東歸之——職ヲ辭シテ東方ニ歸ルヤ、太學ノ諸生ハ、朝廷ノ賢士大夫ト共ニ、之ヲ都ノ東門マデ送リテ、皆弟子ノ禮ヲ以テス、道路ノ見ルモノ皆嗟歎シテ榮譽ノコトナリト稱賛セリ。
世次ハ家ノ系譜。
幽堂ハ墓穴ナリ、卽チ石ニ刻シテ墓中ニ埋ムルナリ。
先生之——先生ノ德望ハ、既ニ世人各〻是ヲ記憶シテ、其胸中ニ存在セリ、必ズシモ我ガ記スル墓表ヲ待チテ、

舍ヲ致仕シ遷サル殿中丞ニ於家ニ。皇祐中、驛召シテ至リ京師ニ、議セシム樂ヲ。復以テ爲ル大理評事ニ。兼太常寺主簿ト。又以テ疾辭ス。歲餘シテ爲ニ光祿寺丞ニ。國子監直講ニ。迺チ居リ太學ニ。遷サレ大理寺丞ニ。賜フ緋衣銀魚ヲ。嘉祐元年、遷サレ太子中允ニ。充テラレ天章閣ノ侍講ニ。仍ホ居ル太學ニ。已シテ而病ミ不レ能ハ朝スルコト。天子數〻遣シテ使者ヲ存問ス。又以テ太常博士ヲ致仕ス。東歸之日、太學之諸生、與ニ朝廷賢士大夫ニ送リ之ヲ東門ニ。執ル弟子ノ禮ヲ。路人嗟歎シテ以テ爲スレ榮ト」。第一小段履歷。以四年六月六日ヲ、卒ス於杭州ニ。享年六十有七。以テ明年十月五日ヲ、葬ル於烏程何山之原ニ。其世次官邑ト、與ニ其行事ヲ、蕭陽ノ蔡君謨ノ具ニ誌ス於幽堂ニ。』第二小段死葬墓誌。○以上第三大段略履歷。嗚呼先生之德在リ乎人ニ。不レ待タ表シテ而見ス於後世ニ。然レドモ非レバ此ニ無シ以テ慰ムル學者之思ヲ。乃チ揭ス於其墓之原ニ。六年八月三日、廬陵ノ歐陽修述ブ。』以上第四大段敍ニ學者追慕ニ結ニ一篇ニ。

始テ後世ニ見ハルルモノニアラズ、然レドモ斯クセズンバ學者ノ鬱シタル思ヲ慰安スルニ足ラザルナリ。

幽州入於契丹トハ、後晉ノ石敬瑭、雁門以北十六州ヲ割キテ契丹ニ與シタイフ、皆幽州節度管内ノ地ナリ。

間走ハ間道ニ投ジテ走ルナリ。

幽燕ハ古ノ燕趙ノ地、其俗剛武ナリ、退之送董邵序ヲ見ヨ。

以氣自豪ハ、氣概アリテ、豪傑ヲ以テ自ラ任ズルナリ。

不治章句ハ、僅カ一章一句ノ間ノ事ヲ治メザルナリ。

屑屑ハ輕視スルナリ。

奇節偉行トハ、世ニ珍シキ行狀ヲイフ。

落落ハ蓋シ寡落ナリ。

康定ハ仁宗ノ年號。

## 石曼卿墓表

主意　言ヲ曼卿意氣有レ節。不レ屈二于世一。故不二盡用一乙其才一

曼卿諱ハ延年。姓ハ石氏。其上世爲レリ二幽州ノ人一。幽州入レ於二契丹一ニ。其祖自成。始テ以キテ二其族一ヲ。閒シテ走ニ南ニ歸ス。天子嘉シ二其來一ヲ。將ニ祿ニ之ヲ。不レ可カ。乃家ス二於宋州之宋城一ニ。父諱ハ補之。官至レル二太常博士一ニ。』以上第一大段敘二世次一。起二下段以氣自豪一。

俗勁武。而曼卿少シテ亦以テレ氣ヲ自豪シ。讀テ書ヲ不レ治メ二章句一ヲ。獨慕ヒ二古人ノ奇節偉行一。非常之功ヲ。視レ二世俗ノ屑屑トシテ無足スニレ動二其意一ヲ者一。自顧フニ不レ合ハ二於時一ニ。乃チ一ニ混ズ二於酒一ニ。然シテ好ミ二劇飲一ヲ。大ニ醉テ。頹然トシテ自放ス。繇ツテ是ニ益ス與レ時不レ合ハ。因レ不レ合二於時一飲レ酒。然因レ飲レ酒益不レ合二於時一。而シテ人之從ツテ二其遊一ブ者。皆知ツテ愛スルヲ二曼卿一ヲ。落落トシテ可キヲレ奇トス。而不レ知ラ二其才一ヲ之有テ以テ用フベキヲ一也」。敘二意氣一。第一小段

年四十八。康定二年二月四

推恩ハ眞宗太郊紀ノ禮ヲ行ヒ、廣ク恩ヲ臣下ニ及ボシ時ニ、曼卿モ亦召サレシナリ。

母老云云、母老年ナルニ、尙ホ俸祿ノ多少ヲ擇アカトナリ。

矍然ハ驚キ視ル貌。

縣有治聲トハ、縣知トナリテヨリ、治リタル評判アルナリ。

范諷以言云云、范諷曾テ太后ノ事ヲ言フヲ以テ幸セラル、因ツテ前ニ太后ノ事ヲ言ヒシ者ヲ引キ用ヒテ、顯官タラシメントス、中ニ曼卿ヲ勸メ、同ジク顯官タラシメントスレドモ、聽カズシテ固ク之ヲ止メタル故ニ、遂ニ已ム。

契丹ノ中國ニ通ゼシハ、眞宗ノ景德元年ニシテ、德明ノ臣屬セシハ同二年ナリ。

日。以太子中允祕閣校理。卒於京師。』第二小段敍其死。○以上第二大段撮敍意氣不屈于世。故不盡其才氣。是一篇大意。

曼卿初不肯就張文節公素奇之。謂曰。母老。乃擇祿邪。曼卿矍然起就之。遷殿直。」爲母就官。第一小段久之改太常寺太祝。知濟州金鄉縣。歡曰。此亦可以爲政也。縣有治聲。通判乾寧軍。丁母永安縣君李氏憂。服除。通判永靜軍。皆有能名。充館閣校勘。累遷太理寺丞。通判海州。還爲校理。莊獻明肅太后臨朝。曼卿上書請還政天子。其後太后崩。范諷以言見幸。引嘗言太后事者。遽得顯官。欲引曼卿。曼卿固止之。乃已。』第二小段爲倖臣所薦。辭不就。○以上第三大段敍履歷。表取捨有節。取捨有節。皆自氣節來。

自契丹通中國。德明盡有河南而臣屬。務休兵養息。天下晏然。內外弛武三十餘年。曼卿上書言十事。

元昊ハ德明ノ子ナリ。
鄉兵ハ各地ノ農ヲ訓練シテ兵トナシタルモノ、卽チ農兵ナリ。

此得吾粗トハ、コレ我意ノ大略ヲ得タリトナリ。

蔑ハ輕視ノ貌。其視世——斯ノ如ク世事ヲ視ルヤ、人ヲ輕蔑シテ、用ヒ爲スニ足ラザル者ノ如クニスト雖モ、然レドモ、其設計施行ノ方法ヲ聽クトキハ、精思シ深慮スル者ト雖モ、企テ及ブ所ニアラズ。
趣舍ハ出處進退ノコト。
當其意ハ其意ニ適當スルナリ。

不報。已而元昊反。西方用兵。始思其言。召見稍用其說。籍河北河東陝西之民。得鄉兵數十萬。曼卿奉使。籍兵河東。還稱旨。賜緋衣銀魚。天子方思盡其才。而且病矣」。第一小段請籍鄉兵。將用之。而罹病。既而聞邊將有欲以鄉兵捍賊者。笑曰。此得吾粗也。夫不教之兵。勇怯相雜。若怯者見敵而動。則勇者亦率而潰矣。今或不暇教。不若募其敢行者。則人人皆勝兵也。其視世。蔑若不足爲。及聽其設施之方。雖精思深慮。不能過也』。第二小段用鄉兵。設施精深。○以上第四大段敍其才可用。

狀貌偉然。喜酒自豪。若不可繩以法度。退而質其平生。趣舍大節。無一悖於理者。遇人無賢愚。皆盡忻懽。及可否天下之是非善惡。當其意者無幾人。其爲文章。勁健稱其意氣。』

以上第五大段敍素行。結意氣。

有子濟滋。天子聞其喪。官其一子。使祿其家。既卒

先塋ハ先代ノ墓所ナリ。

自混ハ上文ニアル酒ニ混ズルナリ、卽チ酒徒ニ混同スルナリ。

士之所——人士ガ世ニ出デ、濟民ノ責任ヲ負フコト愈〻大ナレバ、己ノ身ヲ顧ミルコトモ亦愈〻重クレバ、其世俗ニ合フコトモ亦愈〻難カルベシ、然レドモ天下ノ大事ヲ引キ受ケ、非常ノ功業ヲ立テント欲セバ、世俗ニ合ヒ難キ自重ノ士ニアラズンバ爲ス能ハズ。魁雄トハスグレタル大人物ヲ云フナリ。

未始不——世ノ大人物ハ、世俗ト伍セズシテ、世ニ高ブル大志ヲ抱カズンバアラズ、サレバ自己ノ身ヲ敗リ、又ハ其行ヲ汚シテ、卒ニ一生世ニ知ラレザルニ了リテ困ムトモ、或ハ老イテ將ニ死ナントスルニ及ンデ、幸ニ一度時ニ遇ヒ、世ニ用ヒラルレバ、尙ホ克ク少シク其能ヲ施スコトヲ得。

之三十七日。葬於太淸之先塋。』以上第六大段附敍後嗣葬地。其友歐陽修表其墓曰。嗚呼曼卿。寧自混以爲高。不少屈以合世。可謂自重之士矣。」第一小段論自重。士之所負者愈大。則其自顧也愈重。自顧愈重。則其合愈難。」第二小段論合。然欲與共大事。立奇功。非得難合自重之士。不可爲也。」第三小段論非自重難合之士難共大事。古之魁雄之人。未始不負高世之志。故寧或毀身汚迹。卒困於無聞。或老且死而幸一遇。猶克少施於世。」重之士得時或合。若曼卿者。非徒與世難合而不克所施。亦其不幸不得至乎中壽。其命也夫。其可哀也夫。』第五小段惜曼卿中壽不得時。

以上第七大段論其大節似銘。

此文ハ張堯夫ノ生前積[redacted]ノ餘慶ニテ、良嗣ヲ改葬セラレシコト敘ス。

明道ハ仁宗ノ年號。

北邙山ハ河南ニアリ、唐宋ノ名賢ノ墳墓多シト云フ。

金谷ハ河南ニアリ、晉ノ時石崇ガ別業ノアリシ處ナリ。

甎ハ瓦ナリ。

壙中ハ墓穴中ナリ。

伊闕ハ河南ニアリ。

窆ハ穴ヘ棺ヲ下ス也。

封ハ土ヲ以テ墓塚ヲ築クコト。

今年ハ嘉祐二年。

# 河南府司錄張君墓表

主意　言ヒ爲レ善者有レ後。○以二改葬一爲二起結一。蓋改葬由二其有一レ後也。

故大理寺丞河南府司錄張君。諱汝士。字堯夫。開封襄邑人也。明道二年八月壬寅。以レ疾卒二於官一。享年三十有七。卒之七日。葬二洛陽北邙山下一。其友人河南尹師魯志二其墓一。而廬陵歐陽修爲レ之銘。以二其葬之速一也。不レ能レ刻レ石。乃得二金谷古甎一。命二太原王顧一。以レ丹爲二篆書一。納二於壙中一。嘉祐二年某月某日。其子吉甫山甫。改二葬君於伊闕之敎忠卿積慶里一。」改葬二字。起二一篇一。○君之始葬二北邙一也。吉甫纔數歲。而山甫始生。余及送者。相與臨二其穴一。視二窆且封一。哭而去。今年春。予主二試天下貢士一。而山甫以進二士試禮部一。乃來告以將レ改二葬其先君一。因出二銘以示一レ余。蓋君之　第一小段敘二改葬一。

錢文僖公名ハ惟演、文僖ト諡ス。王家子トハ、吳越ノ主錢氏ノ後ナレバナリ。幕府ハ河南留守ノ役所チイフ。

文僖公——文僖公ハヨク士ヲ待遇シ、未ダ嘗テ屬吏ヲ責ムルニ、職務ノ懈怠ヲ以テスルコトナシ、而シテ河南ニハ又名高キ山水、竹林、茂リタル樹木、珍シキ花卉、奇怪ナル岩石ナド多ク、平ナル臺觀、清カナル池沼ナドガ、荒レ果テタル空地ヤ草原ノ間ニ散在シテ、或ハ高ク或ハ低ク見エ、風景最モ面白シ。

河南人——河南ノ人モ多クコレヲ信賴シ、留守ノ尹モ屢〻其才能ヲ朝廷ニ推薦セリ、君モ亦書ヲ能クシ、好ンデ詩ヲ作リ、閑暇アレバ、則我ト同遊セルコト多シ、其言語ハ甚ダ簡單ナレドモ、其意義ハ深シ、終日酒ヲ飲ムトモ卒。距レ今二十有五年矣。』第二小段叙二作レ表緣由一。○以上第一大段主叙二改葬一。卽作レ表緣由。

初天聖明道之間。錢文僖公守二河南一。公王家子。特以二文學一仕至二貴顯一。所レ至多招二集文字一。文字字。一本作レ士。可レ從。而河南ノ吏屬。適皆當時ノ賢材知名ノ士。故其幕府號爲二天下之盛一。君其一人也。文僖公善待レ士。未レ嘗責以二吏職一。而河南又多二名山水一。竹林。茂樹。奇花。惟石。其平臺清池。上下荒墟草莽之間。余得日從二先生長者一。賦レ詩飲レ酒。以爲レ樂。」第一小段言二錢公幕府多名士一。而君爲レ人。靜默修潔。常坐レ府治レ事。省二文書一。尤盡レ心於獄訟一。初以レ辟爲二其府推官一。既罷。又辟司錄一。河南人多賴レ之。而守尹屢薦二其材一。君亦工レ書。喜爲レ詩。閑則從レ予遊。其語言簡而有レ意。飲酒終日不レ亂。雖レ醉未レ嘗頹墮。與レ之居者。莫レ不レ服二其德一。故師魯志レ之曰。飭レ身臨レ事。余嘗嫗堯夫一。堯夫不

決シテ亂レズ、又醉フト雖モ、前後不覺ニ陷ルコトナシ、之ト居ル者皆其德ニ屈服セザルコトナシ、故ニ師曾モ其墓ニ記シテ曰ク、己ノ身ヲ飭ヘテ、事ニ當ルコトニ於テハ、余ハ堯夫ニ媿ヂタリ、堯夫ハ決シテ余ニ媿ヅル行爲ナシト。頹墮トハ醉態ノシダラナキコト。樹立ハ自己ノ身ヲ立ツルコト。如吉トハ、卜筮ニ依リテ葬地ヲ選定ス、故ニ云フナリ。盛衰生——人ノ盛衰生死ノ際ハ、古ヨリ斯ノ如クナラザルナシ、是レ皆自然ノ數ニシテ、今更言フニ及バズ、只善ヲナシ德ヲ積ミシモノハ、良嗣者アリテ、克ク其後ヲ奉ズ、而シテ又文章ニ顯ハスコトハ、永遠無窮ニ傳ハルベシ。俾碣於墓ハ、碣ニ書シテ墓前ニ建テシムルナリ。

余媿也』。第二小段言張君平生爲善。○以上第二大段敘君以文字吏才爲文僖公所用。卽君之爲善處。

始君之葬。皆以其地不善。又葬速。其禮不備。君夫人崔氏有賢行。能敎其子。而二子孝謹。克自樹立。卒能改葬君。如吉卜。君其可謂有後矣。』以上第三大段敘君有後。自君卒後。文僖公得罪貶死。漢東。吏屬亦各引去。今師魯死且十餘年。王顧者死亦六七年矣。其送君而臨穴者。及與君同府而遊者。十蓋八九死矣。其幸而在者。不老則病且衰。如余是也』。第一小段收拾前文。嗚呼。盛衰生死之際。未始不如是。是豈足道哉。惟爲善者能有後。而託於文字者可以無窮。故於其改葬也。書以遺其子。俾碣於墓。且以寫余之思焉』。第二小段感慨結主意。○以上第四大段收上文文僖公及師魯王顧等。發盛衰感慨。遂結主意。結法絕佳。

吉甫今爲大理寺丞。知縣氏縣。山甫始以進士賜出身云』。以上第五大段附敘二子。

此文ハ三朝ヨリ官爵ヲ追贈ラセレタル恩榮ヲ表記シ、往者崇公ヲ葬リシ時ニハ、其儀式等十分ナラズ、今始テ本葬ス、是ハ緩急ニ爲シタルニ非ズ、待ツアツテナリ、而シテ待ツアリトハ則崇公ノ仁愛ニシテ、積善成德ノ報ニ依リ、此三朝ノ恩典アリシヲ待チシ也、今ニシテ克ク阡ニ表スルヲ得、又併セテ皇考ト太夫人トノ德ヲ戴セテ、子孫ノ隆盛ナル所以ハ、由ツテ來ル所アルヲ知ラシメンコトヲ敍スルナリ。

皇考ハ父ヲ祭ルトキニイフ、父ノ名ハ觀、字ハ仲賓。

卜吉ハ葬ムルコト、前篇ヲ見ヨ。

阡ハ墓道ナリ。

有待ハ今日アルヲ待ツナリ。

# 瀧岡阡表

主意　以二有待一字一首尾對照爲二結構一。然所レ待者。己之顯榮。而己之顯榮。自二崇公大節之天報一。則表二章崇公一。是一篇主腦。

嗚呼。惟我皇考崇公。卜吉於瀧岡之六十年。其子修始克表於其阡。非敢緩也。蓋有レ待也。』此處有待。歐公待二己之顯榮一也。與二下文二處。先夫人有レ待二于歐公顯榮一。意少異。然有レ待二于顯榮一則一也。○以上第一大段揭レ有レ待起二全篇一。

修不幸。生四歲而孤。太夫人守レ節自誓。居貧自力。於衣食。以長以教。俾至於成人。太夫人告レ之曰。汝父爲レ吏廉。而好施與。喜賓客。其俸祿雖レ薄。常不レ使レ有レ餘。曰毋以是爲我累。故其亡也。無一瓦之覆。一壠之植。以庇而爲生。吾何恃而能自守耶。吾於汝父知二其一二一以有レ待二於汝一也。」第一小段

太夫人――母ナル太夫人鄭氏ハ、固ク節操ヲ守リテ、自ラ天ニ誓ツテ再嫁セズ、貧困ニ居リテ、自ラ衣食ノ道ヲ講ジ、遺孤ヲ養育シ、教訓シテ遂ニ成人セシメラレタリ。

汝父爲――汝ガ父上觀ハ、吏トナリシガ、生來廉潔ニシテ、而モ人ニ施與スルヲ好ミ、賓客ヲ喜ベリ、故ニ得ル所ノ月俸ハ、沸シトモ、決シテ餘分ノ貯アラシメズ、常ニ曰フ、金錢出納ノ爲ニ、我ガ身ノ累ヲ爲シ、心配ヲ爲ス勿レト、此故ニ其死亡セラルルヤ、一瓦ノ滿足ノ覆ヒタル家、一草ノ植エタル墳園モナク、雨露ヲ凌ギテ生活スルハ、甚ダ困難ナリキ、故ニ吾ハ何ヲ恃ミテ自ラ節ヲ守リシヤ、コレハ汝ノ父上ノ行事ノ一二ヲ知リタル故ニ再嫁セズ、汝ノ成人ヲスル待チシナリ。

一瓦之覆ハ家屋ヲイフ。

一壠之植トハ田園ヲイフ。

自吾爲汝家婦。不及事吾姑。然知汝父之能養也。汝孤而幼。吾不能知汝之必有立。然知汝父之必將有後也。」第二小段釋前段一二。爲後段綱領。吾之始歸也。汝父免於母喪。方逾年。歲時祭祀。則必涕泣曰。祭而豐。不如養之薄也。聞御酒食。則又涕泣曰。昔常不足而今有餘。其何及也。吾始一二見之。以爲新免於喪。適然耳。既而其後常然。至其終身。未嘗不然。吾雖不及事姑。而以此知汝父之能養也。」第三小段能養條目。卽孝。汝父爲吏。嘗夜燭治官書。屢廢而歎。吾問之則曰。此死獄也。我求其生不得爾。吾曰。生可求乎。曰求其生而不得。則死者與我皆無恨也。矧求而有得邪。以其有得。則知不求而死者有恨也。夫常求其生。猶失之死。而世常求其死也。回顧乳者抱汝而立於旁。因言居貧守節者。以有待於汝也。

能養ハ能ク姑即母太人チ孝養セシチ云フナリ。

吾不能云云、吾ハ汝ガ後來必ズ立身スルコトヲ知ル能ハザリシガ、汝ガ父ノ能ク養フコトアリシ人ナル故、必ズ立派ナル子孫アルコトヲバ確ニ知レリ。

歸ハ嫁ナリ。

祭而豐云云、後豐富ナル祭祀センヨリモ、生存ノ時ノ卑薄ナル孝養ニ如カズ、今母ハ亡セリ、豐ニ祭ルトモ我ガ心ヲ盡スニ足ラズ。

御ハ自ラ飲食スルチイフ。

昔常不——昔親ノ生存中ハ、常ニ不足ナリシガ、此頃ハ稍ヤ餘裕アレドモ、今ヤ及バザルコトナリ。

燭ハ燭ヲ照スチイフ、燭チ照ラシテ官文書ヲ調ベシナリ。

此死獄——此ハ死罪ニ行ハルベキ裁判事件ナリ、余ハ其者ノ無罪ニシテ生ヲ得シコトヲ求ムトモ、如何ニモ其道チ搜シ得ズト曰ハレシ故ニ、吾生クベキ道ハ

指而歎曰。術者謂。我歲行在戌。將死。使其言然。吾不及見兒之立也。後當以我語告之。其平居教他子弟。常用此語。吾耳熟焉。故能詳也。其施於外事。吾不能知。其居於家。無所矜飾。而所爲如此。是眞發於中者邪。嗚呼。其心厚於仁者邪。此吾知汝父之必將有後也。汝其勉之」。第四小段有後條目。卽仁。夫養不必豐。要於孝。利雖不得博於物。要其心之厚於仁。吾不能教汝。此汝父之志也。修泣而志之不敢忘。』第五小段結前二小段。〇以上第二大段假太夫人言。敍崇公大節。

先公少孤。力學。咸平三年進士及第。爲道州判官。泗綿二州推官。又爲泰州判官。享年五十有九。葬沙溪之瀧岡。」第一小段先公官銜。享年。葬。

太夫人姓鄭氏。考諱德儀。世爲江南名族。太夫人恭儉仁愛而有禮。初封福昌縣太君。進封樂安。安康。彭城三郡太君。

自其家少微時。治其家以儉約。其後常不使過之。曰吾兒不能苟合於世。儉薄所以居患難也。其後修貶夷陵。太夫人言笑自若曰。汝家故貧賤也。吾處之有素矣。汝能安之。吾亦安矣。』第二小段先母賢節。○以上第三大段敍先公官銜。附敍先母賢節。

而養。又十有二年列官於朝。始得贈封其親。又十年。修爲龍圖閣直學士尚書吏部郎中。留守南京。太夫人以疾終於官舍。享年七十有二。又八年。修以非才入副樞密。遂參政事。又七年而罷。自登二府。天子推恩。褒其三世。」第一小段敍己顯榮。蓋自嘉祐以來。逢國大慶。必加寵錫。皇曾祖府君。累贈金紫光祿大夫太師中書令。曾祖妣。累封楚國太夫人。皇祖府君。累贈金紫光祿大夫太師中書令。兼尚書令。祖妣。累封吳國太夫人。

求ムベキヤ否ヤト問ヒシニ、其道ヲ求メテ得ザルコト故ニ、死スル本人ト、之ヲ治ムル余ト、共ニ殘ル恨ハナシ、況ンヤ生ケル道ヲ求メテ、幸ニ之ヲ得ルコトアレバ仕合ナリ、求ムレバ、生ヲ得ル道ノアリナガラ、之ヲ求メズシテ、無辜ニ死スルアル者ハ、必ズ恨ノ殘ルコトアルベキヲ知ル、夫レ生ヲ求ムトモ、猶之ヲ得ズシテ死ニ行フコトアリ、然ルニ世常ニ其死ヲ求ムルアルハ、不仁至極ナラズヤ。術者ハ方術ヲ行フ者、巫者ノ類。歲星ノメグリ行クコト、俗ニ云フ年マハリナリ、年マハリヨリ推ス時ハ、戊年ニ死ナント云フナリ。立ハ成立ナリ。其平居云云、平生他ノ子弟ヲ教フルニモ、常ニ此語ヲ用ヒラレシ故ニ、吾ハヨク熟知シテ之ヲ詳細ニ語リ得ルナリ、サリナガラ、其門外ニテ行ハレシ事ハ、吾女ノ身分ナレバ知ル

能ハザルナリ。矜飾ハトリツクロフコト、莊以テ自ラ特スルヲ矜ト云フ。發於中ハ眞心ヨリ發スルヲ云フ。

夫養不——親ヲ養フニハ必ズシモ豐ナルニ及バズ、但眞心ノ孝ヲ以テ必要トス、世ヲ利益スルハ博ク物ニ及ハズトモ、其眞心ノ仁ニ厚キヲ以テ必要トス、吾ハ汝ニ教フルコト能ハザレドモ、是レ汝ノ父ノ志ス所ナリト、鄭氏ガ云ハレシ故ニ、修ハ之ニ感泣シ、之ヲ記憶シテ、決シテ忘レズ。志ハ記憶ナリ。

咸平ハ眞宗ノ年號。吾兒不云云、吾兒ハ苟モ世俗ニ投合スルコト能ハザル氣性ナレバ、困窮スルハ當然ナルベシ、サレバ常ニ儉約ヲ守リ、艱難ニ居ル用意トスルナリ。

修貶夷陵トハ、范仲淹ヲ救ヒ、司諫高若納ヲ責ムルニ坐シテナリ。

汝家故——汝ガ家ハ固ヨリ赤貧ナリ、吾ハ此貧困ニ慣レタルコトナ

皇考崇公。累贈金紫光祿大夫太師中書令。兼尚書令。皇妣。累封越國太夫人。今上初郊。皇考賜爵爲崇國公。太夫人進號魏國。』第二小段敍三世褒贈。○以上第四大段敍己能顯榮。得於是小子修泣而言曰。嗚呼。爲善無不報。而遲速有時。此理之常也。惟我祖考。積善成德。四字結第二大段。宜享其隆。雖不克有於其躬。而賜爵受封。顯榮褒大。四字結第四大段。實有三朝之錫命。是足以表見於後世。而庇賴其子孫矣。」第一小段收全篇。乃列其世譜。具刻於碑。既又載我皇考崇公之遺訓。太夫人之所以教。而有待於修者。並揭於阡。」第二小段結有待。俾知夫小子修之德薄能鮮。遭時窴位。而幸全大節。不辱其先者。其來有自』。點其來有自四字于段末。歸重於崇公。筆力萬鈞。○第三小段更歸重於崇公。是一篇主腦結穴。○以上第五大段總括全文。歸到有待。

熙寧三年。歲次庚戌。四月。辛

レバ、汝モコレニ滿足スベシ、吾モ亦之ニテ滿足セン。非才ハ其任ニ非ザルノ才ナリ、不才ト云フガ如シ。

登二府ト一ハ、樞密ト參知政事ト二官ニ登ルヲ云フ。

累贈ハ度度贈位贈官アリタルヲイフ。

今上ハ神宗ヲイフ。

郊ハ天ヲ祭ル禮式。

爲善無――善ヲ爲スモノハ其報酬トシテ幸福ヲ得ザルハナシ、サレド其幸福ヲ受クルニ遲速アリ、此レ天然自然ノ道理ナリトス、吾先祖ノ善ヲ積ンデ德ナシシニヨリ、其子孫ハ宜シク幸福ヲ享ケ、隆盛ヲ來スベキナリ、祖考存在ノ時ニ於テ、幸福ヲ受クルコト能ハザレドモ、死後爵ヲ賜ハリ封ヲ受ケ、顯榮通達シテ、實ニ仁宗英宗神宗三朝ノ賜アリタルハ、偶然ニアラズ、此レ以テ後世子孫ニ發表シテ、其恩澤ニ浴セシムルニ足ル。

既又載――既ニシテ又

酉朔。十有五日。乙亥。男推誠保德崇仁翊戴功臣。觀文殿學士。特進行兵部尚書知青州軍州事。兼管內勸農使。充京東東路安撫使。上柱國樂安郡開國公。食邑四千三百戶。實封一千二百戶修表。』以上第六大段備二書歐公官銜一顯二父母之碑一。不レ可レ缺レ之。

## 禮樂志論

主意　言『三代之治。出二于禮樂之一一。而後世之治。出下于俗政與二禮樂之二一。故禮樂無用二政治一。全爲二虛名一。

由三代一而上。治出二於一一。而禮樂達二於天下一。由三代一而下。治出二於二一。而禮樂爲二虛名一。』以上第一大段綱領。古者宮室車輿以爲レ居。衣裳冕弁以爲レ服。尊爵俎豆以爲レ器。金石絲竹以爲レ樂。以適二郊廟一。以臨二朝廷一。以事レ神而治レ民。其歲時聚會。以爲二朝覲聘問一。歡欣

皇考崇公ノ遺訓ト、妣鄭夫人ノ曾テ教訓セラレテ、修ニ期待セラレシコトトヲ以テ阡ニ揭ゲ、小子修ノ如キ、德器薄ク才能少ナキ者モ時ニ會ヒ、位ヲ得テ官ニ仕ヘ、節操ヲ全ウシテ、祖先ノ餘威ヲ辱メザルヲ得タルハ、其由來スル所アルヲ知ラシム。熙寧ハ神宗ノ年號。男ハ爵ナリ。

禮樂志論、禮樂ノ政治ニ用ヒラレザルニ至リタル爲、徒ニ虛名トナリシコトヲ述ブ。

三代ハ夏殷周。

冕弁辨ハ冠ノ名。

尊爵ハ並ニ酒器、樽ト杯トナリ。

俎豆ハまないたとたかつきトナリ。

郊ハ天ヲ祭ル所、廟ハ祖先ヲ祭ルトコロ。

朝覲トハ、諸侯ガ春秋二季ニ朝スルコト、又諸侯互ニ相朝スルコトヲモ云フ。

聘問ハ諸侯ガ使ヲ遣ハシテ相訪問スルコト。

射鄕ノ射ハ弓ヲ射テ慰ムルコト、鄕ハ鄕飲酒

交接。以爲射鄕食饗。合衆興事。以爲師田學校。下至里閭田畝吉凶哀樂。凡民之事。莫不一出於禮。」禮字含レ樂。○第一小段由言禮樂之器。卽末也。

之以教其民。爲孝慈。友悌。忠信。仁義者。常不出於居處。動作。衣服。飲食之閒。蓋其朝夕從事者。無非乎此也。此所謂治出於一。而禮樂達天下。使天下安習而行之。不知所以遷善遠罪而成俗也。』第二小段言禮樂之意。卽本也。○以上第二大段言三代以上。治出于一。是一條目。及三代已亡。遭秦變古。後之有天下者。自天子百官。名號位序。國家制度。宮車服器。一切用秦舊。其閒雖有欲治之主。思所改作。不能超然遠復三代之上。而牽其時俗。稍卽以損益。大抵安於苟簡而已。其朝夕從事。則以簿書。獄訟。兵食爲急。曰此爲政也。所以治民。至於三代禮樂。具其民物。而藏於有司。時出而用之

ノ禮ニテ、鄉中ノ老弱會飲スルコト、共ニ其禮アリ。
師田ハ大師大田ノ禮ニテ、練兵及田獵ノ禮式。
簿書ハ帳簿、獄訟ハ訴訟。
兵禽トハ兵備農政ナイフ。

具其民物云云、禮樂ノ事ニ至ツテハ、徒ニ其器物中名數ヲ具ヘテ、平素之ヲ有司ノ所ニ藏シ入用ノ時ニ、出シテ郊廟及ビ朝廷ニ用ヒテ、ヨク、此ガ禮樂ナリ、是ガ民ヲ教フル所以ナリト、是レ卽政治ガ二途ニ出デテ、禮樂ガ虛名トナルナリ。
有司トハ太常寺ナドノ官ナリ。
降登ハ階ヲ上下スルコト。
揖讓ハ人ニ會釋スルコト。
拜俛ハ拜伏ノ禮。
伏興ハ伏シ或ハ立ツコト。
禮之末節ハ禮ノ末ノ小サキ目ナリ。
搢紳大夫ハ歷歷ノ紳士。

郊廟朝廷ニ曰此爲レ禮也。所以教レ民。此所謂治出於二而禮樂爲レ虛名一」第一小段三代以下總論。唐亦包在レ內。故自レ漢以來。史官所レ記事物。名數。降登。揖讓。拜俛。伏興之節。皆有司之事爾。所謂禮之末節也。」第二小段論レ漢。夫然。用レ之郊廟朝廷。自二搢紳大夫一。從レ事其閒一者。皆莫レ能二曉習一而天下之人至於老死。未レ嘗見也。況欲レ識二禮樂之盛一。曉然諭二其意一而被二其教化一。以成二俗乎。嗚呼。習二其器一而不レ知二其意一。忘二其本一而存二其末一。又不レ能二備具一所謂朝覲。聘問。射鄉。食饗。師田。學校。冠昏。喪葬之禮。在レ者幾何』。第三小段論治出於二之弊。以上第一大段言漢以後治出於二。是二條目。自レ梁以來。始以二其當時所一レ行。傳於周官五禮之名一。各立二一家之學一。唐初卽用二隋禮一。至二太宗時一。中書令房元齡。祕書監魏徵。與二禮官學士等一。因二隋之禮一。增以二天子上陵。朝廟。養老。大射。講武。

未嘗見ハ未ダ禮樂ヲ見ザルナリ。習其器云云、禮樂ノ器物ハ習ヒ知レドモ、之ヲ用フルノ意ヲ知ラズ、禮ノ大本ヲ忘卻シテ、其末節ノミヲ存ス、トテモ完備スルコトハ不可能ノ事ナリ、謂ハユル朝觀聘問乃至喪葬ノ禮ハ今ニ存在スル者、幾何カアル、殆ンド有ルナシ、是レ蓋シ禮ノ末節ニ拘泥シ、而カモ是又備ハラザルニ由ルナリ。

五禮ハ吉凶軍賓嘉ノ五禮ナリ。

天子上陵ハ天子墓參ノ禮。

朝廟ハ廟參ノ禮。

養老ハ天子自ラ老人ヲ養フ禮。

大射ハ射禮。

講武ハ今ノ觀兵式ノコト。

納皇后ハ皇后御入內ノ禮。

太常行陵ハ、太常ノ禮儀官ガ御陵ヲ巡視スル禮。

合朔ハ月朔ノ禮、月ノ朔ハ日月相合シタル日ナルヲ以テ合朔ト云フ

讀時令。納皇后。皇太子入學。太常行陵。合朔。陳兵。大社等。爲ニ吉禮六十一篇。賓禮四篇。軍禮二十篇。嘉禮四十二篇。凶禮十一篇。是爲ニ貞觀禮ト。」第一小段言ヒ梁及貞觀禮ニ。高宗又詔シテ太尉長孫無忌。中書令杜正倫。李義府。中書侍郎李友益。黃門侍郎劉祥道。許圉師。太子賓客許敬宗。太常卿韋琨等。增レ之爲ニ一百三十卷ト。是爲ス顯慶禮ト。其文雜以ニ式令ヲ。而義府敬宗方ニ得レ幸。多ク希レ旨傅會シ。事既ニ施行ス。議者皆以テ爲ス非ト。上元三年。詔復用ニ貞觀禮ヲ。由レ是ニ終ニ高宗ノ世ヲ。貞觀顯慶二禮兼行。而有司臨レ事ニ遠ク引ニ古義ヲ。與ニ二禮ニ參考シ增損シ之ヲ。無ニ復定制ヲ。武氏中宗繼以ニ亂敗ス。無ニ可レ言者ヲ。博士掌レ禮ヲ。備レ官而已」。第二小段言ヒ顯慶後至ニ中宗ニ禮無ニ一定ヲ。元宗開元十年。以ニ國子司業韋紹ヲ爲ニ禮儀使ト。以掌ニ五禮ヲ。十四年。通事舍人王晏。上疏請

ナリ。
陳兵ハ練兵ノ禮。
大社ハ三月社日ノ祭ヲ云フ。
貞觀顯慶ハ共ニ當時ノ年號。
式令ノ式ハ百官ノ官廳ニテ行フ作法、令ハ天下ヘ發スル令ナリ。
希旨傅會ハ上ノ御旨ヲ窺ヒ迎ヘテ、强ヒテ附ケ合スルナリ。
武氏中——則天武后中宗ノ時ハ亂敗相繼ギテ云フベキ程ノコトハナシ、博士ノ禮儀ヲ司ル者モ、徒ニ官吏ノ員ニ備ハルマデノ事ナリ。
元宗ハ玄宗ナリ、諱ヲ避ケテ玄ヲ元ニ書キ改メタルナリ。
不刊之書ハ刊リ去ルベカラザル書ノ義。
加折衷トハ兩者ノ中間ヲトルナイフ。
儀注ハ儀式ノ注釋。
貞元ハ德宗ノ年號。
郊廟沿革ハ郊廟ノ禮式沿革ヲ云フ。
歌祝號ハ樂人ノ歌、祝人ノ神ニ上ツル尊稱。
修撰ハ修撰官ナリ。
元和ハ憲宗ノ年號。

刪去禮記舊文而益以今事。詔付集賢院議。學士張說以爲禮記不刊之書。去聖久遠。不可改易。而唐貞觀顯慶禮。儀注前後不同。宜加折衷。以爲唐禮。乃詔集賢院學士右散騎常侍徐堅。左拾遺李銳。及太常博士施敬本撰述。歷年未就。而銳卒。蕭嵩代銳爲學士。奏起居舍人王仲邱撰定。爲一百五十卷。是爲大唐開元禮。由是唐之五禮之文始備。而後世用之。雖時小有損益。不能過也」。第三小段言開元禮。

貞元中。太常禮院修撰王涇。考次歷代郊廟沿革之制。及其工歌祝號。而圖其壇屋陟降之序。爲郊祀錄十卷」。第四小段言郊祀錄成。元和十一年。祕書郎修撰韋公肅。又錄開元已後禮文損益。爲禮閣新儀三十卷」。第五小段言禮閣新儀成。

十三年。太常博士王彥威。爲曲臺新禮三十卷。又

考其文云云、其書ノ文ヲ考フルニ、完備スルモノト云フベシ、之ヲ貞觀開元ノ間ニ施行スルハ、亦盛事ナリト云フベシ。

不能至云云、上古三代ノ隆盛ナル禮儀ニ及バザルハ、徒ニ其文ヲ具ヘタレドモ、其禮儀ヲ行フ本意ニ至ツテハ、更ニ在ルコトナシ、是レ卽チ禮樂ノ虛名ト爲レル所以ナリ。

此文ハ唐ノ天寶以後、國用不足ヲ生ジタルヲ以テ、種種ノ徵稅法ヲ設ケテ聚斂セシ結果、遂ニ國家ヲ失フニ至リシ弊ヲ論ズルナリ。

經常簡易之法ハ經濟ノ常法ニテ、久シキニ亙リテ、手數ノ掛ラヌ良法也、卽チ下ノ口分世業田租庸調ノ法ナリ。

三者ハ力ヲ量リテ田ヲ授クルト、產ヲ量リテ

採元和以來。三公士民婚祭喪葬之禮。爲續曲臺禮三十卷。』第六小段言曲臺新續禮成。○以上第四大段言梁以後至唐。亦治出于二。是爲入題。嗚呼。考其文記。可謂備矣。以之施於貞觀開元之間。亦可謂盛矣」。第一小段贊。而不能至三代之隆者。具其文而意不在焉。此所謂禮樂爲虛名也』。第二小段譏。○卽治出于二也。○以上第五大段總括。

## 食貨志論

主意　言唐理財常法至天寶後而弊。○經常二字一篇眼目。

古之善治其國。而愛養斯民者。必立經常簡易之法。使上愛物以養其下。下勉力以事其上。上足而下不困。故量人之力而授之田。量地之產而取以給公上。量其入而出之。以爲用

取ルト、人ヲ量リテ用ヲ爲ストノ三ナイフ。佚欲トハ安逸ニシテ私欲ナルヂイフ。苟且之吏云ハ、一時ノ間ニ合セ仕事ヲスル小吏ガ、之ニ因ツテ舊制ヲ變ジ、時ノ勢ニ合セテ、上ノ寵恩ヲ取ルナリ、サレバ上ノ用フル費用ハ節度ナク、下ヨリ取上グルモノハ限ナシ、己ノ力ヲ十分ニ盡ストモ、上ノ用ニ供スル能ハズ、故ニ上ハ愈〻不足シ、下亦愈〻困ムナリ。聚斂之臣ハ、人民ノ租稅ヲ重クトリテ上ヲ益スル臣ヲ云フ。記ト云ハ禮記大學ノ篇ヲ謂フ、聚斂ノ臣アランヨリ、寧ロ盜臣アレト見ユ。口分世業田ノ世業ハ、一ニ永業ト云フ、凡ソ田ヲ分チテ二等トナシ、一ヲ世業ト云ヒ、一ヲ口分ト云フ、家アレバ世業卽チ家ニ附ケテ渡サル田アリ、口アレバ卽チ口分アリ、一人別ニ割渡サル、丁中

度之數。是三者。常相須以濟。而不可失。失其一。則不能守其二。」三者卽經常之法。○第一小段言古代。○正。及暴君庸主。縱其佚欲。而苟且之吏。從之變制。合時。以取寵於其上。故用於上者無節。而取於下者無限。民竭其力。而不能供。由是上愈不足。而下愈困。則財利之說興。而聚斂之臣用。記曰。寧畜盜臣。盜臣誠可惡。然一人之害爾。聚斂之臣用。則經常之法壞。而下不勝其弊焉。』第二小段言後世。○反。○以上第一大段客。唐之始。授人以口分世業田。而取之以租庸調之法。其用之也有節。蓋其畜兵以府衞之制。故兵雖多。而無所損。設官有常員之數。故官不濫。而易祿。雖不及三代之盛時。然亦可以爲經常之法也。」第一小段言唐有經常。○正。及其弊也。兵冗官濫。爲之大蠹。自天寶以來。大盜屢起。方鎭數叛。兵革之興。

ノ民、田一頃ヲ受ク、十ノ二ヲ世業トシ、八ヲ口分トナスヲ云フ。
租庸調ハ田地ヨリ出ス税ヲ租ト云ヒ、人身ヨリ出スヲ庸ト云ヒ、即チ夫役ナリ、家ヨリ出ス税ヲ調ト云フ。
府衛ノ府ハ、唐太宗ノ時天下ヲ十道ニ分チ、六百三十四箇所ノ府ヲ置ク、今ノ師團ノ如シ、衛ハ天子ノ親軍ニシテ六衛アリ、今ノ近衛兵ノ如シ。
大盡ハ大毒害ナリ。
大盜屢起トハ、安祿山史思明以來、藩鎭ノ叛亂止マザルヲイフ。
方鎭ハ節度使ノコト。
兩稅ハ唐ノ德宗ノ時、宰相楊炎ノ作ル所、秋夏兩期ニ徵收シテ、他ノ稅ハ悉ク省ク。
鹽鐵トハ、食鹽鐵器ヲ官營專賣スルコト。
轉運ハ財米ノ運輸ナリ、官ニテ扱ヒシナリ。
和糴ノ糴ハ米穀ヲ買ヒ入ルルコト、雙方合議ノ上賣買スルコト。
括苗トハ、青田ノ時ニ既ニ收穫ヲ豫想シテアルコト。

累世不息而用度之數不能節矣加以驕君昏主姦利邪臣取濟一時屢更其制而經常之法蕩然盡矣由是財利之說興聚斂之臣進蓋口分世業之田壞而爲兼幷租庸調之法壞而爲兩稅至於鹽鐵轉運屯田和糴鑄錢括苗權利借商進奉獻助無所不爲矣蓋愈煩而愈弊以至於亡爲』言唐弊。○第二小段反。○以上第二大段主。

## 藝文志論

主意　贊唐藏書盛而聖道益明。

自六經焚於秦而復出於漢其師傳之道中絕而簡編脫亂訛缺學者莫得其本眞於是諸儒章句之學興焉其後傳注。

箋解。義疏之流。轉相講述。而聖道粗明。然其爲說。固已不勝其繁矣。」第一小段經。至於上古三王五帝以來。世次。國家興滅。終始。僭竊僞亂。史官備矣。而傳記小說。外暨方言。地理。職官。氏族。皆出於史官之流也。」第二小段史。自孔子在時。方修明聖經。以繩繆異。而老子著書。論道德。接乎周衰。戰國遊談放蕩之士。田駢愼到列莊之徒。各極其辯。而孟軻荀卿。始專修孔氏。以折異端。然諸子之論。各成一家。自前世皆存而不絕也。」第三小段。夫王迹熄而詩亡。離騷作而文辭之士興。歷代盛衰。文章與時高下。然其變態百出。不可窮極。何其多也。」第四小段集。自漢以來。史官列其名氏篇第。以爲六藝九種七略。至唐始分爲四類。曰經史子集。而藏書之盛。莫盛於開元。其著錄者。五萬

權利ハ人民ノ賣買ヲ障ヘテ、官ニ於テ利益ヲ收ムルナイフ。
借商トハ、德宗ノ時、兩河兵ヲ用ヒシ爲、府庫ニ藏ムル所ノ錢穀ダケニテハ支フルコト能ハズ、是ニ於テ富豪ノ錢ヲ括借セシナイフ。
進奉獻助ハ德宗以來、臣下ヨリ通常ノ賦稅ノ外ニ、臨時ニ錢穀ヲ進獻スルヲ云フ。
師傳之道ハ師ヨリ門人ニ直接ニ傳フル道。
章句之學トハ王肅、鄭玄ノ輩古經ノ章句ヲ修正セシヲ云フ。
傳注箋解義疏トハ何レモ注釋ト云フコト。
小說ハ歷史ノ一種ニシテ小事ヲ記スルモノ。方言ハ地方ノ言語ヲ記スルモノ。
地理ハ風土記。
職官ハ職原ノ書。
氏族ハ姓氏錄。
田駢ハ齊ノ人、談論ヲ好ム。
愼到ハ韓ノ大夫、刑名ヲ能クス。
列莊ハ莊子ト列子ト。
折異端ハ聖人ノ道ト異

リタル老子以下ノ邪說ヲ折破スルナリ。
王迹熄云云、孟子離婁下篇ニ見ユ、王者ノ迹熄ンデ詩亡ブ、蓋シ周ノ平王、都ヲ東ノ方洛邑ニ遷シシヨリ、周室衰ヘ、其德民ニ及バズ、故ニ頌雅ノ詩興ラザルナリ。
離騷ハ楚ノ屈原ノ作リシモノ。
史官ハ劉歆班固ノ徒。
六藝ハ六經。
九種ハ易、詩、書、禮、樂、春秋、論語、孝經、小學。
七略ハ輯略、六藝略、諸子略、詩賦略、兵書略、術數略、方書略ニシテ、成帝ノ時、劉歆天下ノ書ヲ七略ニ分類セリ。
天人ハ天道人道ナリ。
實之聖人云云、餘ノ史子類ノ作者ノ說ヲ聖人ノ道ニ較ベ實ヌトキハ、或者ハ離レ背キ、又或者ハ合フ。
俚言俗說ハ上ニイヘル傳記小說ノ類、著於篇ハ、今此新唐書ノ藝文志ニ揭ゲ著ハスヲ云フ。

三千九百一十五卷。而唐之學者自爲之書。又二萬八千四百六十九卷。嗚呼可謂盛矣』。第五小段括敍經史子集。〇以上第一大段列敍經史子集。遂贊唐之盛。六經之道。簡嚴易直。而天人備。故其愈久而益明」。第一小段揚。其餘作者衆矣。質之聖人。或離或合」。第二小段抑。然其精深閎博。各盡其術。而怪奇偉麗。往往震發於其閒。此所以使好奇博愛者。不能忘也」。第三小段揚。然凋零磨滅。亦不可勝數。豈其華文少實。不足以行遠歟」。第四小段抑。而俚言俗說。猥有存者。亦其有幸不幸者歟。今著於篇。有其名而無其書者。十蓋五六也。可不惜哉』。第五小段揚。〇以上第二大段混論經史子集。歸重于經。〇一段五折。何等婉筆。史遷傳神。

## 伶官傳敍論

此文ハ歐陽氏ノ五代史中、伶官傳ノ敍論也。

嗚呼盛――嗚呼事物ノ盛大ニナリ、或ハ衰微スルノ道理ヲ考フルニ天然自然ニ出ヅルモノアリテ、人力ノ及バザル所アルガ如クナレドモ、亦人ノ自ラ招ク所ニアラズトハイフヲ得ザルナリ、其故如何トナレバ莊宗ノ天下ヲ得タル理由ト、莊宗ノ國家ヲ失ヒタル事由トヲ研究セバ、其理一目瞭然タルモノアラン。

晉王ハ莊宗ノ父李克用。

梁ハ梁ノ太祖朱全忠。

三矢ハ梁、燕、契丹ヲ討ツニ象ルナリ。

燕王ハ劉守光ヲイフ、初メ晉王李克用ハ、守光ノ父守恭ヲ唐ニ薦メテ、盧龍ノ節度使トス、後守恭晉ニ叛キ、子ノ守光燕ニ帝ト稱セリ。

凱旋ハ凱歌ヲ奏シテ軍ヲ旋スナリ。

契丹ハ本北狄ノ名、後國ヲ遼ト號ス。

一夫夜呼云云、趙破敗ノ亂ヲイフ、是時李嗣源晉王ノ命ヲ奉ジテ趙

主意　盛衰之理因二人事一。○盛衰二字眼目。

嗚呼。盛衰之理。雖レ曰二天命一。豈非二人事一哉。」第一小段虛。原二莊宗之所一レ以得二天下一。與二其所一レ以失レ之者一。可レ以知レ之矣。』第二小段實。○以上世言。晉王之將終也。以二三矢一賜二莊宗一。而告レ之曰。梁吾仇也。燕王吾所レ立。契丹與レ吾約爲二兄弟一。而皆背レ晉以歸レ梁。此三者吾遺恨也。與二爾三矢一。爾其無レ忘二乃父之志一。」敍二遺言一。第一小段莊宗受而藏之於廟。其後用レ兵。則遣二從事一。以二一少牢一告レ廟。請二其矢一。盛以二錦囊一。負而前驅。及二凱旋一而納レ之。方二其繫一燕父子一。以レ俎。函二梁君臣之首一。入二於太廟一。還レ矢先王一。而告以二成功一。其意氣之盛。可レ謂レ壯哉。』第二小段敍實行遺言。○三恨遺二契丹一。及仇讐已滅。天下已定。一夫夜呼。亂者四應。倉皇東出。未レ及レ見レ賊。而士卒離散。君臣相顧。不

在禮ナ鄴ニ討ズ、一夜從馬直ノ軍士趙破敗ト云フ者亂ナナシ、嗣源チ擁シテ城ニ入ル、在禮迎ヘテ嗣源ヲ奉ジテ將トス、是ニ於テ軍ヲ率キテ京師ヲ犯ス。倉皇ハ忽遽ノ貌。豈得之難云云、豈天下ヲ得ルコトハ難ク、之ヲ失フコトハ易キ所以カ、抑、其成敗ノ迹ヲ尋ヌルニ、是レ皆人爲ニ由ルモノカ。書曰云云、大禹謨ニ見ユ、滿ハ其後直ニ損チ招キ來タシ、謙德アルモノハ利益ヲ受ク。憂勞云云、故ニ憂勞スル時ハ、國家チ興スベク、安逸ナル時ハ、身チ亡スベキハ自然ノ理法ナリ。禍患積於忽微云云、俗ニ所謂油斷大敵トイフコトニテ、禍ハ些細ナル所ヨリ起リ、又智勇アル者モ、大抵己ノ耽溺スル所ノモノノ爲ニ困ム。

此文ハ前篇ト同ジク、五代史宦官傳ノ敍論ナリ。

レ知ラ所レ歸スル。至ニ於誓ヒ天ニ斷チ髮ヲ。泣キ下シ沾スニ襟ヲ。何ゾレ其レ衰フル也ヤ。』以上第三大段敍レ衰。○主。豈得ル之ヲ難シ。而失フ之ヲ易シ歟。抑モタヅヌルニ本ヲ其ノ成敗之迹ヲ。而皆自ニ於人ニ歟」。第一小段疑。書ニ曰ハク。滿ハ招キレ損チ。謙ハ受レ益チ。憂勞ハ可ニ以テ興スレ國ヲ。逸豫ハ可ニ以テ亡レ身ヲ。自然之理也。』第二小段決。○以上第四大段結盛衰之理因ニ人事ニ。故ニ方ソテヤ其盛ナルニ也。擧ゲテ天下之豪傑ヲ。莫ニ能ク與レ之ニ爭フコト。及ニ其フルニ衰ヘ也。數十ノ伶人メテ困レ之ヲ。而身シ死シ國ビ滅ス。爲ニ天下ノ笑ヒト。」第一小段人事之實。夫レ禍ハ患ミ積ム於ニ忽微ニ。而智勇ハ多ク困ム於ニ所レ溺ルル。豈獨リ伶人ノミナランヤ也哉。作ニ伶官傳チ。』第二小段更進一步。○以上第五大段再揭ニ盛衰之事。遂入ニ本題ニ。論ニ莊宗之人事ニ。在レ寵ニ伶人ニ。是一篇本主意。

## 宦官傳論

主意　言ニ宦官之禍ニ。深ニ于女禍ニ。○禍字眼目。

自レ古宦者亂ル人之國ニ。其源流深シ於ニ女禍ニ。女ハ色而已ノミ。宦者之害ハ

源流ハ本末ト云フガ如シ。

其用事――宦官ノ職ニ在ツテ事ヲ行フヤ、其身人主ニ接近シテ、ヨク諸事ニ熟練シ、其心ヲ用フルヤ、專一ニ注意シテ、而カモ克ク忍耐ス、故ニ能ク小善ヲ行ツテ人主ノ意氣ニ投合シ、小信ヲ爲シテ人主ノ歡心ヲ取リ、人主ヲシテ必ズ己ヲ信用シテ且親マシメ、其信用ヲ得ルヲ待チテ、後ニ人主ヲ嚇シニ禍福ヲ以テス、人主ガ禍福ニ惑ヒ懼ルルニ乘ジテ、人主ヲ抱キ込ム、故ニ忠臣傑士ノ朝廷ニ列スルアリトモ、人主タル者ハ、己ノ身ニ疎遠ナル忠臣ニ賴ランヨリ、日夜前後ニ接近セル宦官ノ、親シク且恃ムベキニ如カズトナス。

安危云云、人主ノ安危ハ宦官ノ喜怒ニ因リ、國家ノ禍患ハ禁中ニ伏在ス、實ニ危險ナリト云フベシ。

帷闥ハ禁中ヲ云フ。

挾人主ハ君ノ寵ヲ恃ムナリ。

非一端也』以上第一大段論宦者之禍。深于女禍。宦者蓋其用事也。近而習。其爲心也。專而忍。能以小善中人之意。小信固人之心。使人主必信而親之。待其已信。然後懼以禍福而把持之。雖有忠臣碩士列於朝廷。而人主以爲去己疎遠。不若起居飲食。前後左右之親。爲可恃也。故前後左右者日益親。則忠臣碩士日益疎。而人主之勢日益孤。勢孤。則懼禍之心日益切。而把持者日益牢。」第一小段禍源。安危出其喜怒。禍患伏於帷闥。則嚮之所謂可恃者。乃所以爲患也。患已深而覺之。欲與疎遠之臣。圖左右之親近。緩之。則養禍而益深。急之。則挾人主以爲質。雖有聖智。不能與謀。謀之而不可爲。爲之而不可成。至其甚。則俱傷而兩敗。故其大者亡國。其次亡身。而使姦豪得借

姦豪ハ朱全忠ノ輩ナイフ。

至挟其云云、宦官ノ種類ヲ遍ク捜出シ、盡ク殺シテ、始テ天下ノ人心ヲ快カラシムルニ至リ、而シテ後ニ満足スルナリ。

夫女色云云、夫レ女色ノ禍ハ、不幸ニモ早ク悟ラズンバ、其禍遂ニ斯ノ如キニ至ラン、サレド一旦之ヲ悟ラバ、直ニ捽シテ除キ去ルベシ、宦官ノ禍ニ至ツテハ、悟ルト雖、決シテ去ルベカラズ、彼ノ唐ノ昭宗ノ事實ニ鑑ミテ明ナリ。

捽ハ頭髪ヲ持スルナリ。

唐昭宗之事トハ、昭宗ノ時宦官劉季述、諸王十一人ヲ殺シテ、帝ヲ少陽院ニ幽ス。

此文ハ周ノ世宗ノ克ク人ヲ用ヒシヲ敘ス、中ニ就キテ王朴ヲ引キ、晉漢ノ遺材ヲ適用セシコトヲ云フ。

以爲資而起。至挟其種類。盡殺以快天下之心。而後已。此前史所載。宦者之禍。常如此者。非一世也」。第二小段發禍。夫爲人主者。非欲養禍於内。而疎忠臣碩士於外。蓋其漸積而勢使之然也。』第三小段結二小段一。〇以上第二大段撇脱女禍。專詳論宦者之禍。夫女色之惑。不幸而不悟。則禍斯及矣。使其一悟。捽而去之可也」。第一小段客。宦者之爲禍。雖欲悔悟。而勢有不得而去也。唐昭宗之事是已。故曰深於女禍者。謂此也。可不戒哉』。第二小段主。〇以上第三大段論女禍易去。收起手主客。

## 周臣列傳贊

主意　言周世宗能用晉漢遺才王朴輩。〇用字置字遇字。其實一。而一篇字眼。〇此篇法度井然。少變化之妙。

治國譬——碁ヲ打ツト同樣ニテ其石ノ使用方ヲ知リ、石ヲオクニ適當ナル所ニ置ケバ勝チ、之ヲ知ラズシテ其石ヲ置ク所不適當ナラバ、負クルヲ免レズ、下手ノ者ハ終日目ヲ碁盤ニ注ギ、心ヲ勞ストモ、終ニ功ナシ、上手ノ者、之ヲ見バ、直ニ其石ヲ置キ易ヘテ、勝ツヲ得ルナリ、而シテ勝ツ者ノ用フル所ノ石ハ、前ニ敗者ノ用ヒシ碁石ナリ、之ト同ジク、勃興スル國ノ用フル臣モ、亦亡國ノ臣ニ外ナラズ、但用フル人ノ如何ニアルナリ。

奕ハ碁ナリ。

王朴ハ周ノ世宗擧ゲテ樞密使ト爲ス、峻才英氣ニシテ能ク謀ヲ施シ、又能ク斷ズ、是ヲ以テ世宗ニ重用セラル。

歷ハ曆ト通ズ。

禮樂之遺文、禮樂ノ古ヨリ遺リ傳リタル文。

豈皆云云、世宗ニ用ヒ



嗚呼。作レ器者。無二良材一而有二良匠一。治レ國者。無二能臣一而有二能君一。蓋材待レ匠而成。臣待レ君而用」。第一小段匠喩。故曰。治レ國譬之於奕。知其用而置得其處者勝。不レ知二其用一而置二非其處一者敗。二句揭二主意一。置得主。置非客。敗者臨レ碁。終日注レ目而勞レ心。使二善奕者一視焉。爲之易二置其處一則勝矣。勝者所レ用。敗者之棋也。興國所レ用。亡國之臣也。」語名實論。第二小段碁喩。○以上第一大段虛論。王朴之材。誠可レ謂レ能矣。不レ遇二世宗一。何所レ施哉。世宗之時。外事二征伐一。攻取戰勝。內修二制度一。議二刑法一。定二律歷一。講二求禮樂之遺文一。所レ用者五代之士也。豈皆愚二於晉漢一。而材智於二周一哉。惟知レ所レ用爾』。以上第二大段實論。○專入主。夫亂國之君。常置二愚不肖於上一。而彊二其不能一。以暴二其短惡一。置二賢智於下一。而泯二沒其材能一。使二君子小人皆失二其所一。而身陷危亡。」第一小段客。治國之君。能

ラレタル者共ハ、晉漢ニ仕ヘタル時ニ愚怯ニシテ、周ニ仕フルニ及ンデ、材智ノ現ハレタルニ非ズ、惟ダ人ヲ克ク用ヒシ結果ナリ。

治國之君云云、治國ノ明君ハ、賢人智者ヲ己ノ手近キ上位ニ置キ、其才能ヲ十分使用シ、愚昧不肖ノ者ヲ遠ク退ケテ、君子ト小人ト其能力ニ應ジテ、其用ニ適セシメ、斯クシテ己ノ身ハ安樂榮譽ヲ享ク。

自古治云云、古ヨリ治國ノ明君ハ少ク、亂君ハ多キ譯ナレバ、マシテ五代ノ時ノ如キ亂世ニ於テハ論ヲ俟タズ、故ニ當時賢智ノ士シテ、遇不遇アルハ歎ズ可キナリ。

此文ハ五代史一行傳ノ敍論ナリ。傳所謂云云ハ易ノ坤卦文言ノ語。當此之——コノ時ニ、臣ニシテ君ヲ弑シ、子トシテ父ヲ弑スルモノアリ、歷歷ノ紳士ハ、皆

置賢知於近而置愚不肖於遠使君子小人各適其分而身享安榮。治亂相去雖遠甚而其所以致之者不多也。反其所置而已』。一句主意歸宿。○第二小段主。○以上第三大段再揭第一大段意。詳論之。結主意。猶是虛論。嗚呼。自古治君少而亂君多。況於五代。士之遇不遇者。可勝歎哉』。以上第四大段就人臣慨歎。置餘韻。○此段餘波。與以上就君論者異。

## 一行傳敍論

主意　言古今必有人。唯因治亂爲隱顯耳。○此篇。文情嗚咽往復。比前篇更優。

嗚呼。五代之亂極矣。傳所謂天地閉。賢人隱之時與。第一小段揭傳起下。當此之時。臣弑其君。子弑其父。而搢紳之士。安其祿而立其朝。充然無復廉恥之色者。皆是也。吾以謂自古忠臣義士。

己ノ俸祿ニ安ンジ、徒ニ朝廷ニ列坐シテ、此等ノ事ニ對シテ、云爲スルモノナク、平然トシテ己ノ富貴ニ甘ンジテ、更ニ廉恥ノ樣子ナシ、ワレ思フニ、古ヨリ、忠臣義士ハ、亂世ニ出ヅト云ヘド、當時ニハカカル事ナク、又道フベキ者少キハ、怪ムベキコトニシテ、或ハ其人ナキカ、豈其人無カランヤト。

吾意必——吾思フ所ニヨレバ、必ズ人アリテ其身ヲ潔白ニシテ、自ラ其才德ヲ貢ミ、世ヲ憤リ、遠ク去リテ、再ビ世ニ出デザリシモノ多カラン。

韞ハ藏ナリ。

雖顏子——顏子ノ如キ篤行ノ君子ト雖モ、若シ孔子ニ遇ハザリセバ、亞聖赫赫タル名ハ、後世ニ現ハルヲ得ザリシナラン、況ンヤ五代ノ如キ、事變多ク、兵亂止ムナク、道德地ヲ拂ツテ、君子ノ道消滅セル時ニ於テヲヤ。

中道ハ中庸ノ道ナリ。

多出於亂世。而怪當時可道者何少也。豈果無其人哉。』豈上添然字看。此一句起下段。○第二小段疑案。○以上第一大段疑無人。雖曰干戈興。學校廢。而禮義衰。風俗壞。至於如此。然自古天下未嘗無人也。吾意。必有潔身自負之士。嫉世遠去。而不可見者。」第一小段斷案。發主意。自古材賢。有韞於中而不見於外。或窮居陋巷。委身草莽。雖顏子之行。不遇仲尼。而名不彰。況世變多故。而君子道消之時乎。吾又以謂。必有負材能。修節義。而沈淪於下。泯沒而無聞者。求之傳記。而亂世崩離。文字殘缺。不可復得。然僅得者四五人而已。』僅得字生下四得字。○第二小段詳論。起下段。○以上第二大段斷有人。處乎山林。而羣麋鹿。雖不足以爲中道。然與其食人之祿。俛首而包羞。孰若無愧於心。放身而自得。吾得二人焉。曰鄭遨。張薦明。」第一小段放身而自得者二人。勢利不屈其心。

去就不レ違二其義一。吾得二一人一焉。曰二石昂一。」第二小段去就不レ違レ義者一人。苟利於君。苟利於レ君。以レ忠獲レ罪。何必自明。有レ至レ死而不レ言者。此古之義士也。吾得二一人一焉。曰二程福贇一。」第三小段以レ忠獲レ罪。不二自明一者一人。五代之亂。君不レ君。臣不レ臣。父不レ父。子不レ子。至於兄弟夫婦人倫之際。無不レ大二壞一。而天理幾乎其滅矣。於此之時。能以孝悌自修於一鄉一。而風行於天下一者。猶或有レ之。然其事迹不レ著。而無レ可二紀次一。獨其名氏或因見二於書一者一。吾亦不レ敢レ沒。而其略可レ錄者。吾得二一人一焉。曰二李自倫一。」第四小段一行中孝悌最重。故特設二一議論一。應二上文一。自倫。妙。作二一行傳一。」第五小段總結。

○以上第三大段列二舉所レ得五人一。○四小段每段變二文法一。妙。

## 唐六臣傳後論

勃利不云云、權勢利慾ノ爲ニ其心ヲ動カサズ、一身ノ進退卽チ官ニ就クモ官ヲ去ルモ、毫モ義理ニ違フコトナシ。

苟利於——苟モ君ノ利益ヲ計リ、假令忠義ノ爲ニ罪ヲ得トモ、自ラ其責ヲ負ウテ毫モ辯明セズ、終身己ノ冤罪ヲ言ハザル者アリ、是レ古ノ謂ハユル義士ナリ。

君不君——君ニシテ君ノ道ヲ盡サズ、臣ニシテ臣ノ道ヲ盡サズ、父ニシテ父ノ道ヲ盡サズ、子ニシテ子ノ道ヲ盡サズ、其他兄弟夫婦、各人間彝倫ノ道悉ク頽廢セザルモノナク、天下ノ道理モ將ニ滅亡セントスル時ニ於テ、克ク孝悌ノ道ヲ修メ、一鄉ヲ化育シ、其風遂ニ天下ニ及ブ者アラン、然レドモ其事迹著レズシテ、紀スベキナシ、惟ダ其氏名ノ或書ニ載セタルアリ、故ニ吾ハ之ヲ沒セズシテ、大略ヲ錄ス。

主意　言奪國而與人者。必進朋黨之說。故朋黨二字。一篇眼目。○此篇雙雙並論漢唐。無主客之辨。恐非歐文之至者。

嗚呼。始爲朋黨之論者誰歟。甚乎作俑者也。眞可謂不仁之人哉。」第一小段大意。予嘗至繁城。讀魏受禪碑。見漢之羣臣。稱魏功德。而大書深刻。自列其姓名。以夸耀於世。又讀梁實錄。見文蔚等所爲如此。未嘗不爲之流涕也。」第二小段敍實。夫以國予人而自夸耀。乃遂相之。此非小人。孰能爲也。漢唐之末。擧其朝皆小人也。而其君子者何在哉。當漢之亡也。先以朋黨禁錮天下賢人君子。而立其朝者。皆小人也。然後漢從而亡。及唐之亡也。又先以朋黨盡殺朝廷之士。而其餘存者。皆庸懦不肖傾險之人也。然後唐從而亡。」第三小段解上段。夫欲空人之國。而去其君子者。必進朋黨之說。欲孤人主之勢。而蔽其耳目者。必

俑ハ死者墓中ニ從フ所ノ木偶人ノコトナリ、昔葬人形ヲ用ヒシヲ芻靈ト云フ、後世ニ及ンデ、木偶ヲ作リテ之ヲ用フ、孔子コレヲ歎ジテ、俑ヲ作ルハ不仁ナリ何トナレバ、人ニ像ルガ爲ナリト云ヒシ是ナリ、後世不善ノ端緒ヲ作ルモノヲ作俑ト云フ。

魏受禪碑ハ魏ノ曹丕漢ノ孝獻帝ノ禪ヲ受ケタル詔ヲ刻セル碑ナリ。夸耀ハホコリ耀カスナリ。

夫以國云云、夫レ自國ヲ他人ニ與ヘ、母國ノ絶滅ヲ省ミズ、又從ツテ其功德ヲ頌シ、遂ニ之ヲ相クルハ、是レ小人ニアラズンバ、爲シ能ハザル所ナリ。

禁錮ハ繫ギ固ムルコト、後漢ノ孝獻ノ時、天下ノ名士ヲ捕ヘ、之ヲ囚禁シ、目シテ黨人トナス。

庸懦ハ凡庸懦弱ノ小人ヲ云フ。傾險トハ心ノ曲リテサガシキ人ヲイフ。

交游執友ノ交游ハ、泛ク互ニ往來スル者ヲイヒ、執友ハ同志友人ヲイフ。宦學ノ宦ハ仕官、學ハ游學ナリ。

善善之——相互ニ善事ヲ行ヒテ相樂ムハ、同類相求メ、同水相照スノ理ニシテ自然ノ數ナリ、故ニ善者ノ事ヲ聞ケバ必ズ相稱譽ス、其相稱譽スルトキハ之ヲ朋黨ト誣フ、又善者互ニ推薦セバ、是亦朋黨ト誣フ、故ニ善ヲ聞イテモ稱譽スルヲ得ズ、隨ツテ人君ノ耳ニハ、

進二朋黨之說一。欲レ奪二國而與一レ人者。必進二朋黨之說一。』第四小段入二主意一。○提二三綱一。起二下段一。

夫爲二君子一者。固常寡レ過。小人欲レ加二之罪一。則有レ可レ誣者。有レ不レ可レ誣者。不レ能レ遍及一也。至欲レ擧二天下之善一。求二其類一。而盡去レ之。惟指以爲二朋黨一耳。故其親戚故舊。謂二之朋黨一。可也。交游執友。謂二之朋黨一。可也。宦學相同。謂二之朋黨一。可也。門生故吏。謂二之朋黨一。可也。是數者皆其類也。皆善人也。故曰欲レ空二人之國一。而去二其君子者一。惟以二朋黨一レ罪レ之。則無レ免者矣」。第一小段一條目。

夫善善之相樂。以二其類同一。此自然之理也。故聞二善者一。必相稱譽。稱譽則謂二之朋黨一。得二善者一。必相薦引。薦引則謂二之朋黨一。使レ人聞レ善不レ敢稱。則人主之耳。不レ聞レ有レ善於下一矣。見レ善不レ敢薦。則人主之目。不レ得レ見二善人一矣。

ド二善人アルヲ聞カズ、又善ヲ見テモ厭メザラシムルガ故ニ、人主ノ目ニハ善人ヲ見ルヲ得ズ、斯クシテ、善人ハ日日ニ遠ザカリ、小人ノミ日日ニ進ムヲ以テ、人主ハ偃然トシテ共ニ治安ノ大計ヲ圖ルモノナシ。

偃偃ハ日ノ見エヌ貌。君子存——僅ニ一君子居ルトキハ、羣小人多シト雖モ、必ズ君子ヲ憚リテ、決シテ不善ヲ爲サザルナリ、只全國中一ノ君子ナキニ至リテ後、始メテ小人跋扈シテ不善ヲ爲サザル所ナキニ至ルベシ、漢魏唐梁過度ノ際ハ是ナリ、羣竟、國ヲ奪ツテ人ニ與フベキハ、國中君子ナキニ由ル、國中君子ナキハ朋黨ノ說ヲ以テ之ヲ除キ去ルニ由ルナリ、故ニ人主タルモノハ、朋黨ノ說ヲ明察セザルベカラズ。傳曰云云、論語子路篇ニ見ユ。

善人日遠而小人日進。則爲人主者。偃偃然誰與之圖治安之計哉。故曰欲孤人主之勢。而蔽其耳目者。必用朋黨之說也」。第二小段二條目。

一君子存。羣小人雖衆。必有所忌。而有所不敢爲。惟空國而無君子。然後小人得肆志於無所不爲。則漢魏唐梁之際是也。故曰可奪國而予人者。由其國無君子。空國而無君子。由以朋黨而去之也」。結主意。○第三小段三條目。

鳴呼。朋黨之說。三惡皆由朋黨。故以朋黨二字結全篇。

人主可不察哉。傳曰一言可以喪邦者。其是之謂與。可不鑒哉。可不戒哉」。第四小段結全篇。○以上第二大段分說前段。○前段實。此段虛。

唐宋八家文讀本卷十四終

（漢文大系第三卷總紙數七百四拾八頁）

明治四十三年九月十九日印刷
明治四十三年九月二十三日發行

（漢文大系第三卷奥附）

正價金貳圓

評點者　三島毅

編輯者　東京市神田區裏神保町九番地
合資會社富山房編輯部

發行者　合資會社富山房社長
東京市京橋區南小田原町二丁目九番地
坂本嘉治馬

印刷者　東京市芝區愛宕町三丁目二番地
中野錠太郎

印刷所　東洋印刷株式會社

發兌元　東京神田裏神保町
合資會社富山房
電話本局一〇三六振替貯金東京五〇一